

【表紙】	
【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年6月19日
【事業年度】	自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日
【会社名】	新韓銀行 (Shinhan Bank)
【代表者の役職氏名】	銀行長兼最高経営責任者 趙 鏞炳) (Yong Byoung Cho, President and Chief Executive Officer)
【本店の所在の場所】	大韓民国ソウル特別市中区世宗大路9道20
【代理人の氏名又は名称】	弁護士 島崎文彰
【代理人の住所又は所在地】	東京都文京区後楽二丁目3番27号 テラル後楽ビル2階 島崎法律事務所
【電話番号】	(03) 5802-5860
【事務連絡者氏名】	弁護士 島崎文彰
【連絡場所】	東京都文京区後楽二丁目3番27号 テラル後楽ビル2階 島崎法律事務所
【電話番号】	(03) 5802-5860
【縦覧に供する場所】	該当事項なし

(注) 1. 本有価証券報告書（以下「本書」ということがある。）において別段の記載がある場合を除き、下記の語の意味はそれぞれ対置された内容を指すものとする。

「発行会社」または「当行」	文脈上別段に解釈すべき場合を除き、新韓銀行およびその子会社
「非連結財務書類」、「個別財務書類」 または「別途財務書類」	新韓銀行単体の財務書類
「韓国」	大韓民国
「政府」または「韓国政府」	大韓民国政府

2. 別段の記載がある場合を除き、本書に記載の「ウォン」は韓国ウォンをいい、「円」は日本の通貨をいう。2015年4月2日現在の東京の主要銀行の対顧客電信直物売買為替相場の仲値は、100ウォン＝10.90円であった。

3. 当行の事業年度は暦年である。

4. 本書において表中の数字が四捨五入されている場合、合計は計数の総和と必ずしも一致しない。

5. 将来予測に関する記述

本書に含まれる一定の記載は、発行会社の将来の業績および事業見通しについての期待および予測に関する記述を含む「将来予測に関する記載」を構成している。「信じている」、「期待している」、「予想している」、「見積もっている」、「予測している」、「～であろう」、「～つもりである」、「～となりそうである」、「引続き～であろう」、「意図している」、「計画している」、「企図している」、「求めている」、「将来」、「目的」、「目標」、「～するべきである」、「追求するであろう」といった用語ならびに類似の表現またはこれらの表現の変形は、将来予測に関する記載を示すものとして用いられている。さらに、本書に記載される歴史的事実についての記述を除くすべての記載（発行会社の商品およびサービスに関する開発計画および目標を含む発行会社の財政状態および業績、事業戦略、将来の事業に係る経営計画および目標を含むが、これらに限定されない。）は将来予測に関する記載である。かかる将来予測に関する記載および本書に記載されるその他の予測（発行会社によりなされたか第三者によるものかを問わない。）は、将来予測に関する記載により表明または示唆される将来の結果、業績または成果とは著しく異なる実際の結果、業績または成果をもたらす可能性のある既知および未知のリスク、不確実性ならびにその他の要因に関わっている。かかる将来予測に関する記載は、発行会社の現在および将来の事業戦略ならびに発行会社が将来行う事業環境に関する現在の確信、仮定、期待、見積りおよび予測に基づいている。これらの仮定の一部もしくは全部を阻害し、または将来予測に関する記述とは著しく異なる発行会社の実際の結果、業績もしくは成果をもたらす可能性のある重要な要因の中には、とりわけ、下記の事項が含まれている。

- ・韓国および世界の経済停滞による悪影響のリスク
- ・発行会社がその事業戦略を首尾よく実行しうる能力
- ・消費者の信認および支出の変化を含む韓国、アジアまたは世界の経済の状況および変化
- ・不良債権の将来の水準
- ・発行会社が事業戦略を首尾良く成し遂げられるかどうかを含む発行会社の成長および拡大
- ・金利の変動や政府規制ならびに韓国および発行会社が事業を行うその他の法域における発行会社の事業免許の変更
- ・金融サービス業界における競争

発行会社の実際の結果、業績または成果を著しく異なるものにさせることがありうる追加的な要因には、「第一部 第3-4 事業等のリスク」において記載されるものを含むが、これらに限られない。なお、本書に含まれる将来予測に関する記載は、本書提出日現在においてのみ有効なものとして述べられている。

6. 本書に記載されるすべての財務情報は、別段の記載がない限りまたは文脈上他の意味に解すべき場合を除き、韓国採択国際会計基準（以下「韓国IFRS」という。）に準拠した連結ベースで表示されている。個々の借り手、借り手のグループもしくは区分または産業別、地域別、規模その他による分類に関する本書の財務およびその他の情報（貸出金、信用、総エクスポージャー、引当金、担保価値、不良債権およびその他の事項についての情報を含む。）は、専ら当行の内部管理情報システムから得られている。

韓国の1950年銀行法（その後の改正を含む。）（以下「銀行法」という。）に基づき、韓国の銀行が信託を受けた資産は当該銀行勘定のその他の資産と分別されなければならない。したがって、当行を含め、銀行業および信託業に従事する銀行は、そのそれぞれの銀行業および信託業の詳細を示す、銀行勘定および信託勘定の2つ別個の勘定および2つの独立した会計記録を維持しなければならない。別段の記載のない限り、当行に関する本書に記載されるすべての財務情報は当行の銀行勘定のみに関して表示されている。

7. 別段の記載のない限り、本書記載の財務書類または添付の監査報告書の解釈に相違が生じた場合は、監督官庁への報告のために用いられる韓国語版が優先する。

第一部【企業情報】

第1【本国における法制等の概要】

1【会社制度等の概要】

(1)【提出会社の属する国・州等における会社制度】

当行を規律する法制度は、韓国の商法（以下「商法」という。）である。以下は、商法の規定に基づいて設立された株式会社（当行を含む。）に適用される商法の主要な規定の概略である。

(a) 設立

株式会社の設立については、次のような基本的な要件がある。

- (i) 1人以上の発起人が必要である。自然人だけでなく法人も発起人になることができる。各発起人は、1株以上の株式を引受けて株式会社に出資しなければならない。
- (ii) 発起人は、定款を作成して全員が記名および捺印または署名しなければならない。
- (iii) 定款を作成し、株主を確定してから払込金が受領される。株式会社を設立する方法としては、発起設立と募集設立の2つの方法があるが、前者は、発起人だけが発行株式を全額引受ける方法であり、後者は、発起人と発起人でない者が共に株式を引受ける方法である。
- (iv) 株式会社は、設立登記によって成立する。株式会社設立の無効は、当該会社の株主、取締役または監査役による設立日から2年以内の訴訟によってのみこれを主張することができる。

商法に規定された定款の効力の必要条件として必要な記載事項が欠如したり、かかる事項について違法な規定が含まれるときは、定款は無効となる。定款の必要な記載事項は、(i) 目的、(ii) 商号、(iii) 株式会社が発行する株式の総数、(iv) 額面株式が発行される場合は1株の額面金額、(v) 株式会社の設立に際して発行する株式数、(vi) 本店の所在地、(vii) 公告の方法ならびに(viii) 発起人の氏名、住民登録番号および住所である。

(b) 株式

株式会社の資本は、これを株式に分割しなければならない、1株の額面金額は、100ウォン以上で均一にしなければならない。無額面株式の発行は定款でその旨を定める場合は商法上認められる。この場合、かかる会社は額面株式を発行することができない。商法の規定に基づき、株式会社は、定款の定めによって株式の譲渡に取締役会の承認を要求することができる。譲渡は株券の交付によって行われる。

(c) 株主および株主総会

株主の責任は、当該株主の有する株式の引受額を限度とする。株主は、法律や定款に別段の定めがない限り、当該株主の有する株式の数に応じて新株の割当を受ける権利がある。

株主総会は、法律および定款に定められた事項を決議する株式会社の最高意思決定機関である。株主総会は、定時株主総会と臨時株主総会からなる。定時株主総会は、毎年1回一定の時期に招集しなければならない。年2回以上の決算期を有する株式会社は、毎期に定時株主総会を招集しなければならない。臨時株主総会は、必要に応じて随時招集することができる。株主総会の招集は、原則として取締役会がこれを決定する。ただし、議決権のない株式および自己株式を除いた発行済株式総数の100分の3以上に当たる株式を有する株主は臨時株主総会の招集を取締役会に請求することができ、もしも取締役会がこれに応じないときは、裁判所の許可を得て総会を直接招集することができる。

株主は、直接株主総会に出席して議決権を行使したり、または代理人にその議決権を行使させることができる。議決権は、原則として1株につき1個が与えられる。ただし、株式会社が異なる種類の株式を発行する場合においては、利益の配当に関して優先的内容を有する優先株式については、定款の規定をもって議決権がないものとしてすることができる。また、株式会社が自己の株式を有する場合およびその他一定の例外的な場合は、株式には議決権がない。

(d) 取締役、取締役会および監査役

取締役は、株主総会で選任し、3人以上でなければならない（ただし、資本の額面金額の総額が1十億ウォン未満の株式会社については1名または2名の取締役で足りる。）。取締役会は、株式会社の業務執行に関する意思決定のために取締役全員で構成される株式会社の必要な機関である。取締役会の決議は、在任

取締役の過半数の出席と出席取締役の過半数の賛成により行わなければならないが、定款でこの比率を高めることができる。株式会社は、取締役会の決議により取締役の中から株式会社を代表する代表取締役を選任しなければならない。ただし、定款をもって株主総会でこれを選任する旨定めることができる。

株式会社の業務監査のために、監査役が設置される（ただし、資本の額面金額の総額が1十億ウォン未満の株式会社については監査役を設置しなくてもよい。）。監査役は株主総会で選任される。監査役の選任において、無議決権株式を除いた発行済株式総数の3%を超過する数の株式を有する株主は、その3%を超過する株式については、議決権を行使することができない。監査役は、取締役の業務執行を監査する。株式会社は、定款に従い監査役に代えて監査委員会を設置することができるが、この場合は監査役を置くことはできない。

(e) 財務情報の開示

商法に基づき、取締役は、毎決算期に貸借対照表、損益計算書、資本変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、利益剰余金処分計算書（または欠損金処理計算書）および財務書類注記ならびにそれらの附属明細書（これらを総称して、以下「財務諸表」という。）ならびに事業報告書を取締役会の承認を得るために作成しなければならない。取締役は、定時株主総会の会日の6週間前にこれらの書類を監査役に提出し、監査役は当該書類の受領後4週間以内に監査報告書を取締役に提出する必要がある。取締役は、定時株主総会の会日の1週間前からかかる書類および監査報告書を本店に5年間、支店に3年間備え置き、これらの備置書類を株主および会社の債権者の閲覧に供することが要求されている。財務諸表は定時株主総会に株主の承認を求めるために提出され、また事業報告書は当該総会に提出され、その内容が報告されなければならない。上記にかかわらず、一定の要件を満たす場合には、取締役は財務諸表のそれぞれを取締役に提出して承認を得なければならない。取締役会で承認された後、取締役は財務諸表の内容を定時株主総会で報告しなければならない。財務諸表が定時株主総会の承認を得られると、取締役は遅滞なく貸借対照表を公告しなければならない。

直前の会計年度末時点で資産合計額が12十億ウォン以上の法人または上場しているかもしくは当会計年度もしくは翌会計年度に上場予定の法人は、株式会社の外部監査に関する法律に基づいてその財務諸表について独立監査人の会計監査を受けなければならない。また、韓国の資本市場を規制するいくつかの法律（証券取引法を含む。）を統合した金融投資サービスおよび資本市場法（以下「FSCMA」といい、2009年2月4日付で施行された。一方、同日付で証券取引法は廃止された。）、同施行令および金融委員会（以下「FSC」という。）の規則に基づき、韓国証券取引所に株式または社債を上場している株式会社は、(i)年次報告書（監査済個別財務書類および監査済連結財務書類を含む。）を会計年度末から90日以内に（ただし、資産合計額が2兆ウォン以下でかつ株式会社の外部監査に関する法律に基づき国際会計基準を採用していない会社の場合、提出期限の延長が認められる。）、ならびに(ii)各会計年度の期初からそれぞれ3ヵ月間、6ヵ月間および9ヵ月間にかかる中間報告書を各期間末から45暦日以内に（ただし、例外として、連結財務書類を使用して中間報告書を作成することを採用してから1年目および2年目の事業年度に限り、各期間末から60日以内に中間報告書を提出することができる。）、FSCおよび韓国証券取引所に対して提出しなければならない。かかる報告書の写しは、FSCおよび韓国証券取引所において公衆の閲覧に供される。

(2) 【提出会社の定款等に規定する制度】

下記は、株式、機関および会計に関する当行の定款（以下「当行定款」という。）における一般規定の要約である。

(a) 株式

当行の授權株式の総数は20億株であり、額面金額は5,000ウォンである。当行は、普通株式および優先株式を記名式で発行することができる。新株の発行は株主総会の決議により決定される。優先株式は議決権を有さず、優先株式数は、発行済株式総数の25%を超過してはならない。

株主は、当行が発行する新株を、その持分に比例して引受ける新株引受権を有する。ただし、当行は、以下の場合に株主総会の決議により既存の株主以外の者に新株を割当てることができる。

- (i) FSCMAの規定に従って新株を募集するかまたは引受人に引受させる場合
- (ii) FSCMAの規定に従って従業員持株組合員に新株を優先的に配分する場合
- (iii) FSCMAの規定に従って預託証券の発行のために新株を発行する場合
- (iv) 政府または韓国預金保険公社（「KDIC」）の出資に係る新株を発行する場合
- (v) 先進金融技術の導入、当行の資金需要、当行の財務状況の改善または戦略的業務提携など経営上の必要により外国人投資者、国内外金融機関または提携会社などから資本を調達するために新株を発行する場合

上記 (iii) または (v) に基づいて発行される株式合計数は発行済株式総数の50%を超えることはできず、当該株式の種類、数および発行価格は株主総会の決議により決定されなければならない。

(b) 株主総会

当行の株主総会は、定時株主総会か臨時株主総会のいずれかである。定時株主総会は各会計年度末から3ヵ月以内に招集されるものとし、臨時株主総会は必要な時にこれを招集することができる。法令に別段の定めがある場合を除き、定時株主総会は、当行の取締役会（以下「当行取締役会」という。）の決議に従って、当行の銀行長（以下「当行銀行長」という。）により招集される。株主総会の招集に際しては、日時、場所および議題を記載する通知が、かかる総会の会日の少なくとも2週間前に郵便または電磁的方法により発せられなければならない。

各株主は、その所有する株式1株につき1個の議決権を有する。株主は、代理人により議決権を行使することができる。

株主総会の招集を決めるための取締役会の決議により書面決議をすることが定められる場合には、株主は総会に出席せずに書面によって議決権を行使することができる。

株主総会のすべての決議は、適用ある法令に別段の定めがない限り、出席株主の過半数の賛成票（ただし、発行済株式総数の4分の1以上に相当しなければならない。）により可決されるものとする。

(c) 取締役、取締役会、銀行長および監査委員会

当行は、5名以上11名以内の取締役を有する。社外取締役の数は3名以上で、取締役総数の50%超でなければならない。

取締役の任期は以下のとおりで、株主総会において決定され、再任されうる。下記の任期はその任期中の最終決算期に関する定時株主総会の終結時まで延長することができる。

- (i) 社外取締役: 2年以内とし、社外取締役が再任される場合、当該社外取締役の再任後の任期は1年以内に制限されるとともに、5年を超える在任期間となる社外取締役の継続的な再任は認められない。
- (ii) 当行監査委員会（以下に定義する。）の常任委員を兼任する取締役: 3年以内
- (iii) 上記(i)および(ii)に該当しないその他の取締役: 3年以内

取締役は株主総会で選任される。社外取締役は、社外取締役候補推薦委員会の推薦を得て株主総会で選任される。

当行取締役会は、取締役により構成され、四半期ごとに開催される定例取締役会および特別取締役会により当行のすべての重要事項を決定することができる。当行取締役会は当行取締役会内に、監査委員会（以下「当行監査委員会」という。）、リスク管理委員会、報酬委員会、監査委員会委員候補推薦委員会および社外取締役候補推薦委員会を設置する。各委員会の構成および運営に関する事項は当行取締役会の決議により定められる。

当行銀行長は株主総会の決議により選任される。当行銀行長は当行を代表し、当行取締役会で決定された事項を含む当行の一切の業務を執行する。

当行は、監査役を有する代わりに、3名以上の取締役からなり、1名の当行監査委員会常任委員を含む当行監査委員会を設置する。当行監査委員会の少なくとも3分の2は社外取締役でなければならない。さらに監査委員会の委員のうち少なくとも1名は関係法令に定められる会計または財務の専門家でなければならない。

当行監査委員会は、当行の会計および業務を検査する。当行監査委員会は株主総会に提出される議案および書類に記載される事項を調査し、法令または定款に違反する事項が存在するか否かに関して株主総会においてその意見を表明する。当行監査委員会は、その職務を遂行するに当たって当行取締役会に対し臨時株主総会の招集を請求すること、ならびに当行の子会社から事業報告書を徴求することができる。当行監査委員会は外部監査人の任命を承認する。

(d) 会計

当行の事業年度は、毎年1月1日に開始し、12月31日に終了する。

当行銀行長は、定時株主総会の会日の6週間前までに事業報告書ならびに連結および個別ベースの(i)財政状態計算書、(ii)包括利益計算書および(iii)当行の財政状態および経営成績を示す、関係法令により義務付けられるその他の書類、ならびにそれらの附属明細書からなる財務書類を当行監査委員会に提出する。当行監査委員会は、上記の書類を受領した日から4週間以内に監査報告書を当行銀行長に提出する。

(e) 利益処分および分配

株主総会の決議により別段の決定がなされる場合を除き、当行は毎事業年度の処分前利益余剰金を以下の通り処分する。(i)利益準備金（利益の10%以上）、(ii)株主への配当、(iii)配当平準化準備金、(iv)役員に対する賞与、(v)退職給付金、(vi)その他準備金および(vii)翌期への繰越し。

当行の配当は、毎会計年度末日現在の株主名簿に記載された株主または登録された質権者に分配される。当行は、商法に従い当行取締役会決議により一定の日を定めてその日の株主に対して中間配当を支払うことができる。ただし、中間配当は金銭により支払われる。

2【外国為替管理制度】

外国為替取引法および大統領令ならびにこれらに基づく規則（以下「外国為替取引法」と総称する。）は、非居住者による韓国の有価証券への投資および韓国の会社による韓国外での有価証券発行を規制している。外貨建有価証券の元本総額が50,000,000米ドルを上回り、かつその期間が1年を超える場合、当行は、かかる有価証券の非居住者に対する各発行について、韓国企画財政部（以下「企画財政部」という。）に報告書を提出し、その承認を得なければならない。また、法人投資家のリスクヘッジ比率（新規外貨建てデリバティブ取引額と既存の外貨建てデリバティブ取引額との合計を、かかる取引によりヘッジされたポジションの価値で除したもの）は100%以下でなければならない。

一定の制限がある場合を除き、企画財政部は外国為替取引法のもとで以下の措置をとる権限を有する。

- (i) 韓国政府が、戦争、武力衝突、自然災害または国内外の経済情勢の深刻かつ突発的で重大な変化またはその他これに準ずる事由または状況を理由に必要とみなした場合、企画財政部は、外国為替取引法が適用されるすべての外国為替取引に基づく手続の全部もしくは一部を一時的に停止し（外国為替の受払いの停止を含む。）または支払手段を韓国銀行、外国為替平衡基金またはその他一定の政府機関または金融会社等に預託し、その保護預りに付しまたは売却する義務を課することができる。
- (ii) 韓国政府が、国際収支および国際金融市場に深刻な混乱が生じているかまたは生ずる虞がある、または韓国と他の諸国との間の資本移動が通貨政策、為替政策またはその他のマクロ経済政策に悪影響を及ぼす可能性が高いと判断した場合、企画財政部は、資本取引を行おうとする者に対して許可を取得するよう要求し、または資本取引を行った者に対してかかる取引により取得した支払手段の全部または一部を韓国銀行、外国為替平衡基金またはその他の金融会社等に預託するよう要求する措置を講ずることができる。

さらに、企画財政部はその裁量により、当行に対し、外貨建社債の発行にかかる報告書を受理するにあたって為替相場の変動を回避するために必要な措置を講ずるよう指示することができる。

3【課税上の取扱い】

以下の概要は、本書の日付現在有効な韓国税法以外の法律について説明することを意図したものではない。以下の韓国の税務上の考慮事項の概要は、次のいずれにも該当しない場合、当行の社債の保有者に適用される。

- ・ 韓国の居住者
- ・ 韓国内に所在する登録本店もしくは主要事務所を有する法人または韓国で有効な管理が行われている法人
- ・ 関連所得がそれに帰せられるかまたは関連所得がそれに実質的な関連を有する恒久的施設または固定的施設（以下「恒久的施設」という。）を通じて韓国国内における取引または事業に従事している者

韓国の居住者ではない個人または外国法人（以下「非居住者」という。）に対する課税は、当該非居住者が、韓国国内に恒久的施設を有しているか否かにより異なる。韓国国内に恒久的施設を有しない非居住者に対する課税については、以下に記載される。韓国国内に恒久的施設を有する非居住者に対する課税には、別の規則が適用される。

韓国の租税特例制限法（以下「租税特例制限法」という。）では、当行が韓国外で発行し、非居住者が所有する外貨建社債に係る利息および一定の手数料に対する個人所得税および法人所得税は免除される。韓国の税当局は、韓国税法のもとでは、社債の償還に係る割増金は、一定の事実関係の下では利息収入とみなされるべきであるとの公式見解を発表した。2012年1月1日以降に発行された外貨建社債については、かかる社債が韓国外で発行された場合に限り、その利息は課税対象とならない。

韓国税法のもとでは、韓国国内に恒久的施設を有しない非居住者による別の非居住者に対する社債の譲渡（かかる非居住者の韓国国内の恒久的施設に対するものである場合を除く。）による所得は、韓国の課税対象とはならない。さらに、韓国国外で行われた社債の譲渡により非居住者が得た所得も、かかる社債の発行が租税特例制限法上の海外発行とみなされる場合には、租税特例制限法に基づき現在韓国の課税対象となっていない。

将来の法律の変更により、租税特例制限法に定める免税が廃止された場合は、上記の利息の支払いおよび譲渡所得には、韓国の源泉徴収税が課せられる可能性がある。韓国と日本の間の所得税の二重課税回避および脱税防止に関する条約（以下「日韓租税条約」という。）では、日本の居住者に対して当行が支払う利息および前述の追加的な支払い（利息収入とみなされる場合。）には、10%を上限とする税率（地方所得税を含む。）で源泉徴収税が課せられる。有価証券の譲渡所得に関する免税条件が満たされなかった場合には、韓国の所得税法または法人税法により、実現手取金総額の11%（地方所得税を含む。）または譲渡所得の22%（地方所得税を含む。）（取得費用および取引に係る一定の直接費用の満足のいく証拠の提出を要する。）のいずれか低い方に相当する金額に対して、個人所得税または法人所得税が課せられる。また、日韓租税条約によれば、社債の譲渡所得に係る租税は、譲渡人が居住する国においてのみ課せられる。

日韓租税条約に基づく免除を受けるためには、非居住者である譲渡人は、譲渡代金の受領前に譲渡人の居住国の管轄税当局により発行された居住に関する証明書を添付した免税申請書を提出しなければならない。かかる申請書は、譲渡代金の最初の支払日の翌月の9日までに管轄税務署に提出しなければならない。ただし、かかる証明は、上記の租税特例制限法を含む韓国税法に基づく免除には適用されない。

利息およびキャピタルゲインといった一定の韓国源泉所得に対し租税条約に基づく軽減税率の恩恵を受ける非居住者について、適用ある租税条約に基づき、韓国税法は、一定の例外が適用される場合を除き、かかる非居住者に対し、かかる韓国源泉所得を受領する前に、租税条約に基づく軽減税率適用申請書にかかる韓国源泉所得の支払者に提出することを義務付けている。韓国源泉所得が海外の投資ビークルを通じて非居住者に支払われる場合、かかる投資ビークルは、かかる投資ビークルの受益権所有者であるそれぞれの非居住者から租税条約に基づく軽減税率適用申請書を受領し、かかる韓国源泉所得の支払者に、海外投資ビークル報告書とともに提出しなければならない。海外投資ビークルとは、投資対象の取得、処分またはその他の方法により、投資勧誘を通じて集めた資金を運用し、かかる運用の成果を投資家に分配する韓国外に設立された組織を意味する。非居住者によって提出された租税条約に基づく軽減税率適用申請書はその提出日から3年間有効であるが、かかる申請書の記載事項に重要な変更が生じた場合は、かかる変更を反映した申請書を新たに提出しなければならない。租税条約に基づく軽減税率適用申請書の要件は2012年7月1日から韓国源泉の所得に対して適用されている。

相続税は、相続の発生時に被相続人が韓国の居住者であるか、または韓国に所在する資産を相続した場合に課せられる。贈与税は、一般的に贈与時に受贈者が韓国の居住者である場合、または贈与された資産が韓国に所在する場合に課せられる。相続税および贈与税は、相続財産または贈与財産の価値が一定の上限を超えている場合に課せられ、その税率は、当事者に応じて10%から50%と様々である。とりわけ、相続財産または贈与財産の価値および当事者に応じて決定される。

韓国の相続税および贈与税を決定する際に、韓国において設立された法人が発行した社債は、その実際の所在地または所有者にかかわらず、韓国国内に所在する財産とみなされる。

韓国において作成された一部の書類にかかる名目的な印紙税を除き、社債の発行に関し、韓国において社債所持人により支払われるべき印紙税、発行税または登録税はない。社債の譲渡については有価証券取引税は課されない。

4【法律意見】

当行の韓国における法律顧問である法務法人律村（Yulchon LLC）により、大要、次の趣旨の法律意見書が提出されている。

- (a) 当行は、韓国法のもとで適法に設立され、有効に存続している法人である。
- (b) 本書中の韓国法に関するすべての記述は、すべての重要な点で真実かつ正確である。

第2【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

韓国会計基準審議会は、2007年に韓国IFRSを採択することを決定した。

韓国のすべての上場企業ならびに非上場の金融機関および国有企業は、2011年1月1日以後に開始する事業年度から韓国IFRSに準拠して財務書類を作成することを義務づけられている。

かかる要件のもとで、当行は2011年、2012年、2013年および2014年12月31日終了年度にかかる財務書類（連結および個別）を、2010年1月1日を韓国IFRSへの移行日として韓国IFRSに準拠して作成している。

連結財務情報⁽¹⁾（韓国IFRSに基づく情報）

（単位：別段の表示がない限り、百万ウォン）

	12月31日現在／12月31日終了年度			
	2011年	2012年 (修正再表示)	2013年	2014年
営業利益	2,673,194	2,078,123	1,719,972	1,797,396
（百万円）	(291,378)	(226,515)	(187,477)	(195,916)
当期純利益	2,118,915	1,662,719	1,373,176	1,455,653
（百万円）	(230,962)	(181,236)	(149,676)	(158,666)
総包括利益	1,635,595	1,526,505	1,014,906	1,396,780
（百万円）	(178,280)	(166,389)	(110,625)	(152,249)
資本合計（純資産）	19,289,820	20,336,861	20,536,081	20,476,900
（百万円）	(2,102,590)	(2,216,718)	(2,238,433)	(2,231,982)
資産合計	228,832,098	237,395,785	238,045,694	255,646,329
（百万円）	(24,942,699)	(25,876,141)	(25,946,981)	(27,865,450)
1株当たり当期純利益（基本的）				
（単位：ウォン） ⁽²⁾	1,238	951	782	857
（円）	(135)	(104)	(85)	(93)
1株当たり当期純利益（希薄化後）				
（単位：ウォン） ⁽²⁾	1,238	951	782	857
（円）	(135)	(104)	(85)	(93)
自己資本比率（単位：%） ⁽³⁾	15.26	16.28	16.29	15.43
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,556,662	5,548,652	-2,974,990	-1,785,704
（百万円）	(278,676)	(604,803)	(-324,274)	(-194,642)
投資活動によるキャッシュ・フロー	-1,818,209	-1,065,855	5,651,164	1,299,514
（百万円）	(-198,185)	(-116,178)	(615,977)	(141,647)
財務活動によるキャッシュ・フロー	-811,868	-3,434,910	-1,893,538	28,926
（百万円）	(-88,494)	(-374,405)	(-206,396)	(3,153)
期末現在の現金および現金同等物	3,111,702	4,206,930	4,991,361	4,536,204
（百万円）	(339,176)	(458,555)	(544,058)	(494,446)
従業員数（単位：人）	12,558	14,432	14,751	14,580

連結財務情報⁽¹⁾ (韓国GAAPに基づく情報)

(単位：別段の表示がない限り、百万ウォン)

12月31日現在／12月31日終了年度

	2010年
営業収益	23,449,820
(百万円)	(2,556,030)
営業利益	2,288,605
(百万円)	(249,458)
当期純利益	1,649,153
(百万円)	(179,758)
資本(純資産)	15,010,901
(百万円)	(1,636,188)
資産合計	212,876,919
(百万円)	(23,203,584)
1株当たり当期純利益(基本的)	
(単位：ウォン) ⁽²⁾	1,040
(円)	(113)
1株当たり当期純利益(希薄化後)	
(単位：ウォン) ⁽²⁾	1,040
(円)	(113)
自己資本比率(単位：%) ⁽³⁾	15.94
営業活動によるキャッシュ・フロー	-4,367,267
(百万円)	(-476,032)
投資活動によるキャッシュ・フロー	-279,332
(百万円)	(-30,447)
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,176,180
(百万円)	(237,204)
期末現在の現金および現金同等物	10,179,348
(百万円)	(1,109,549)
従業員数(単位：人)	11,861

個別財務情報⁽¹⁾ (韓国IFRSに基づく情報)

(単位：別段の表示がない限り、百万ウォン)

12月31日現在／12月31日終了年度

	2011年	2012年 (修正再表示)	2013年	2014年
営業利益	2,550,197	2,032,259	1,710,061	1,734,077
(百万円)	(277,971)	(221,516)	(186,397)	(189,014)
当期純利益	2,004,881	1,654,077	1,341,431	1,433,310
(百万円)	(218,532)	(180,294)	(146,216)	(156,231)
総包括利益	1,468,777	1,595,801	1,031,669	1,355,956
(百万円)	(160,097)	(173,942)	(112,452)	(147,799)
普通株式資本金	7,928,078	7,928,078	7,928,078	7,928,078
(百万円)	(864,161)	(864,161)	(864,161)	(864,161)
発行済株式数 (単位：株)	1,585,615,506	1,585,615,506	1,585,615,506	1,585,615,506
資本合計 (純資産)	19,203,391	20,256,179	20,472,162	20,371,857
(百万円)	(2,093,170)	(2,207,924)	(2,231,466)	(2,220,532)
資産合計	221,974,519	226,773,162	225,735,681	242,075,869
(百万円)	(24,195,223)	(24,718,275)	(24,605,189)	(26,386,270)
1株当たり配当 (単位：ウォン) ⁽⁴⁾	466.70	283.80	227.04	283.80
(円)	(51)	(31)	(25)	(31)
1株当たり当期純利益 (基本的) (単位：ウォン) ⁽²⁾	1,167	946	762	843
(円)	(127)	(103)	(83)	(92)
1株当たり当期純利益 (希薄化後) (単位：ウォン) ⁽²⁾	1,167	946	762	843
(円)	(127)	(103)	(83)	(92)
配当性向 (単位：%) ⁽⁵⁾	36.91	27.21	26.84	31.40
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,414,679	4,388,867	-3,224,591	-1,517,992
(百万円)	(372,200)	(478,387)	(-351,480)	(-165,461)
投資活動によるキャッシュ・フロー	-1,796,908	-464,994	6,003,577	1,246,605
(百万円)	(-195,863)	(-50,684)	(654,390)	(135,880)
財務活動によるキャッシュ・フロー	-1,744,631	-3,106,840	-2,221,032	-73,485
(百万円)	(-190,165)	(-338,646)	(-242,092)	(-8,010)
期末現在の現金および現金同等物	2,462,331	3,279,910	3,845,354	3,501,472
(百万円)	(268,394)	(357,510)	(419,144)	(381,660)
従業員数 (単位：人) ⁽⁶⁾	11,151	12,990	13,837	13,879

非連結財務情報⁽¹⁾ (韓国GAAPに基づく情報)

(単位：別段の表示がない限り、百万ウォン)

12月31日現在／12月31日終了年度

	2010年
営業収益	22,969,678
(百万円)	(2,503,695)
営業利益	2,255,624
(百万円)	(245,863)
当期純利益	1,648,389
(百万円)	(179,674)
普通株式資本金	7,928,078
(百万円)	(864,161)
発行済株式数 (単位：株)	1,585,615,506
資本 (純資産)	15,006,193
(百万円)	(1,635,675)
資産合計	205,377,968
(百万円)	(22,386,199)
1株当たり配当 (単位：ウォン) ⁽⁴⁾	301.48
(円)	(33)
1株当たり当期純利益 (基本的) (単位：ウォン) ⁽²⁾	1,040
(円)	(113)
1株当たり当期純利益 (希薄化後) (単位：ウォン) ⁽²⁾	1,040
(円)	(113)
配当性向 (単位：%) ⁽⁵⁾	29.00
営業活動によるキャッシュ・フロー	-4,104,273
(百万円)	(-447,366)
投資活動によるキャッシュ・フロー	-508,516
(百万円)	(-55,428)
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,298,032
(百万円)	(250,485)
期末現在の現金および現金同等物	8,574,449
(百万円)	(934,615)
従業員数 (単位：人) ⁽⁶⁾	10,752

注記：

- (1) 数値は、該当する年度の連結財務書類、個別財務書類および非連結財務書類から抜粋している。
- (2) 純利益を年度中の加重平均発行済株式数で除したもの。
- (3) Tier I資本とTier II資本の合計のリスクアセットに対する比率を連結ベースで表示しており、FSCの自己資本ガイドラインにより実施されたバーゼルII (新BIS規制) に従い計算されている。
- (4) 支払配当を年度末現在の発行済株式数で除したもの。
- (5) 支払配当を純利益で除したもの。
- (6) DART(DATA Analysis, Retrieval, and Transfer System)を通じて公表された正規従業員の数である。
- (7) 当行の株式は上場していないため、株価収益率 (PER) は上記の表には記載されていない。

2【沿革】

朝興銀行（法律上の当行の前身であり、以下「朝興銀行」という。）は、商業銀行業務および信託業務を行うことを目的として、1897年2月19日に設立された漢城銀行と1906年8月8日に設立された東一銀行との新設合併により、韓国の一般銀行法に基づき1943年10月1日に設立された。

1956年6月3日、朝興銀行の株式は韓国証券取引所に上場された。同行は、1999年4月30日および1999年9月11日に、それぞれ忠北銀行および江原銀行と合併した。韓国の金融危機時における1999年に実施された減資および韓国預金保険公社による資本注入の結果、以下に記載される2003年8月19日の新韓フィナンシャル・グループ（下記に定義する。）による朝興銀行の買収時までに、韓国預金保険公社は朝興銀行の発行済株式の80.04%を保有していた。朝興銀行は2003年9月30日現在、468店舗の国内支店、91の預金受入事務所および6店舗の海外支店を通じて営業しており、資本金は3,395,592百万ウォンであった。

1982年7月7日、旧新韓銀行（以下に記載されるとおり、2006年4月1日に朝興銀行に吸収合併された。）は商業銀行業務および信託業務を行うことを目的として、韓国の一般銀行法に基づき設立された。旧新韓銀行は2003年9月30日現在、358支店および177箇所を設置された現金自動預払機を通じて営業しており、資本金は1,223,211百万ウォンであった。

2001年9月1日、新韓フィナンシャル・グループ・カンパニー・リミテッド（以下「新韓フィナンシャル・グループ」という。）は、企業、政府、政府機関および個人に広範な金融サービスを提供することを目的とした事業を提供するために銀行業ならびに様々な関連事業に従事するために、韓国金融持株会社法に従い、韓国で初めての民間保有の金融持株会社として設立された。新韓フィナンシャル・グループの設立により、旧新韓銀行は新韓フィナンシャル・グループの完全子会社のひとつとなった。

2003年8月19日、新韓フィナンシャル・グループは、韓国預金保険公社から朝興銀行の発行済株式の80.04%を取得し、続いて資本注入により朝興銀行の株式所有を81.15%に増加させ、2004年6月22日に、現金を対価とする公開買付けおよびその後の韓国法に基づく小規模の株式交換により残りの株式、すなわち18.85%を取得した。これにより、朝興銀行は新韓フィナンシャル・グループの完全子会社となり、2004年7月2日にその株式は韓国証券取引所から上場廃止となった。

2005年12月30日付の朝興銀行と旧新韓銀行との合併契約の条項に基づき、旧新韓銀行は、朝興銀行を存続会社として2006年4月1日に朝興銀行と合併し、合併後直ちに朝興銀行はその社名を「新韓銀行」に変更した。また朝興銀行と新韓カード・カンパニー・リミテッド（以下「新韓カード」という。）との間の2005年12月30日付の吸収分割契約の条項に従い、2006年4月1日に朝興銀行のクレジットカード事業は分割され、新韓カードに吸収された。

日本における業務

当行は、日本においてはその海外銀行子会社であるSBJ銀行を通じて一般商業銀行業務を行っている。本書提出日現在、SBJ銀行は日本において、東京都港区芝5丁目36番7号三田ベルジュビル4階（郵便番号108-0014）に所在する東京支店を含む10支店および4箇所の両替所を有している。

当行が日本に子会社を設立したのは2009年であるが、当行は1986年3月以来、その支店を通じて日本において銀行業務を提供している。

3【事業の内容】

概要

当行は、とりわけ資産合計、収入、収益性および自己資本の点で韓国の手商業銀行の一つである。同一の判定基準で韓国の手金融持株会社の一つである新韓フィナンシャル・グループの旗艦傘下会社である当行は、主に韓国において、また韓国における程度には及ばないものの選ばれた海外市場において、個人顧客および法人顧客向けに幅広い商業銀行業務およびその他の銀行業務を提供している。当行は、中小企業を対象とする韓国最大のレンダーの一つである。2014年12月31日現在、当行は900の国内支店、8の海外支店ならびに日本、中華人民共和国、香港、ベトナム、米国、カナダ、ドイツ、カンボジアおよびカザフスタンに所在する9の子会社を有していた。

旧新韓銀行は、韓国で初めての民間資本による商業銀行として1982年に設立された。朝興銀行は韓国最古の金融機関として1897年に設立された。旧新韓銀行と朝興銀行は2006年に合併し、新銀行の名称を「新韓銀行」とした。

2014年12月31日現在の当行の資産合計、正味貸出金（貸倒引当金控除後）および銀行口座預金は、それぞれ255,646十億ウォン、188,325十億ウォンおよび189,640十億ウォンであった。2013年12月31日現在の当行の資産合計、正味貸出金（貸倒引当金控除後）および銀行口座預金は、それぞれ238,046十億ウォン、174,689十億ウォンおよび175,021十億ウォンであった。2013年および2014年12月31日に終了した年度について、当行の純利益はそれぞれ1,373十億ウォンおよび1,456十億ウォンであった。

会社登記簿における当行の登録番号は110111-0012809である。当行の本店は、韓国ソウル特別市100-724中区世宗大路9道20に所在する。

金融持株会社の組織

2001年9月、旧新韓銀行は韓国金融持株会社法に従って金融持株会社である新韓フィナンシャル・グループを設立した。旧新韓銀行の株式は、新韓フィナンシャル・グループの株式と交換された。かかる株式交換の一環として、旧新韓銀行は新韓キャピタル・カンパニー・リミテッドに対するその持分を新韓フィナンシャル・グループに譲渡した。新組織のもとで、2002年7月1日現在、旧新韓銀行は新韓フィナンシャル・グループの完全子会社であった。金融持株会社の組織に関する詳細は、「第2－3－(4) 新韓フィナンシャル・グループ」を参照されたい。

(1) 事業

事業の概観

当行の主要業務

当行の主要業務は、個人顧客および法人顧客からの預金受入であり、これは様々な銀行サービスを提供するために必要な資金を当行に提供している。当行は、主に以下により構成される包括的な銀行サービスを提供している。

- ・ 個人向け銀行業務：個人顧客（富裕層の個人および家族を含む。）ならびにより少ない程度ではあるものの、病院、空港および学校などの非営利機関に対する貸出ならびに同顧客からの預金の受入に注力する業務。
- ・ 法人向けおよび投資銀行業務：中小企業を含む営利目的の法人に対する貸出およびかかる法人からの預金の受入に注力する業務。
- ・ 国際銀行業務：海外の子会社および支店の経営管理ならびにその他国際業務ならびに内部資産負債管理、有価証券およびデリバティブの売買、投資ポートフォリオ管理ならびにその他関連活動に注力する業務。
- ・ 主に銀行業務の管理に注力するその他業務。

当行の主要業務は、重要な季節的傾向によって左右されない。当行は数多くの海外支店および子会社を有しているが、当行の資産の大部分は韓国に所在し、その収益の大部分は韓国で生じている。

預金受入業務

当行は、異なる顧客セグメントをターゲットとした多くの預金商品を提供しており、これらは各セグメントの財務およびその他の特徴に合わせた機能を備えている。当行が提供する預金商品には主に以下のものが含まれる。

- ・ **要求払預金** 要求払預金は、無利息であるかまたは定期預金または貯蓄預金より低い利率の利息が生じ、顧客は随時資金の預け入れおよび引き出しができる。利息が付される場合には、要求払預金の金利は、預入期間および預金額に応じて固定金利または変動金利となる。2013年12月31日現在および2014年12月31日現在における要求払預金は、当行の総預金額のそれぞれ約33.4%および36.0%を占めていた。2013年度および2014年度における要求払預金の平均支払金利はそれぞれ0.62%および0.54%であった。
- ・ **定期預金および貯蓄預金** 定期預金は通常、顧客が所定の期間預金を維持することを求められ、その期間中かかる預金には、固定金利または資金調達コスト・インデックス（COFIX）を含む一定の金融指標に基づく変動金利が付される。所定期間終了前に預金引き出される場合には、顧客の受取金利は当初提示された金利よりも低くなる。定期預金の期間は通常1ヵ月から5年である。貯蓄預金は、顧客が随時資金の預け入れと引き出しを行うことを認め、通常、定期預金または積立預金の適用金利よりも低い調整可能な金利が付される。定期預金および貯蓄預金は、2013年および2014年12月31日現在における当行の預金合計額のそれぞれ約63.0%および60.2%を占め、2013年度および2014年度の平均支払金利はそれぞれ2.45%および2.08%であった。
- ・ **その他の預金** その他の預金は主に譲渡性預金からなる。譲渡性預金の満期は通常30日から2年である。譲渡性預金の金利は、預金の預入期間および実勢市場金利に基づいて決定される。譲渡性預金は、当該譲渡性預金に対する支払金利を反映して、額面価額から割引いて販売される。その他の預金は、2013年および2014年12月31日現在における当行の総預金額のそれぞれ約3.6%および3.7%を占め、2013年度および2014年度における平均支払金利はそれぞれ2.0%および1.28%であった。

当行はまた、住宅法に基づく住宅申込優先権を顧客に付与する預金および抵当ローンおよび住宅担保ローンに対する適格性を顧客に付与する預金も提供している。こうした商品には以下のものが含まれる。

住宅申込定期預金 これらの預金商品は特別目的の定期預金であり、住宅法および住宅供給規則（以下「住宅法」という。）に基づく新規民間住宅に申し込む優先的権利を顧客に付与するものである。同法は、住宅購入および建設会社によるかかる住宅の供給を支援する様々な措置を定めている。住宅購入予定者がこれらの預金商品に申し込み、住宅法に規定される一定期間かかる商品を保有すれば、新規民間住宅に優先的に申込みを行う権利を取得する。この優先的権利は公開市場で譲渡することも取引することもできない。かかる商品には、1年間は固定金利、その後は他の定期預金に沿った変動金利が付される。口座毎に必要な預金額は、住宅の広さおよび所在地によって2百万ウォンから15百万ウォンの範囲である。かかる預金商品は、高所得世帯および中間所得世帯を顧客としてターゲットにしている。

住宅申込積立貯蓄預金 これらの預金商品は毎月積み立ての貯蓄商品であり、住宅法に基づく新規民間住宅に申し込む優先権を顧客に付与するものである。かかる優先的権利は公開市場で譲渡することも取引することもできない。かかる預金は毎月50,000ウォンから500,000ウォンの積み立てを必要とし、満期は3年から5年の間であり、金利は他の積立貯蓄預金に沿って預金預入期間に応じた固定金利が付される。かかる預金商品は、低所得世帯および中間所得世帯を顧客としてターゲットにしている。当行が提供する主な預金商品の種類別の当行のウォン建て預金についての詳細は、「第2-3-(2)資産および負債の詳細—資金調達—預金」を参照されたい。

当行の預金商品に支払われる金利は、平均資金調達費用、利付資産の収益率、金融機関の実勢市場金利およびその他主要な金融指標に応じて著しく異なる場合がある。

当行はまた、韓国の裁判所の訴訟当事者に対して裁判所預託業務を提供しており、これには一定の種類の法的またはその他の手続に関与する訴訟当事者に対して効果的にエスクロー・サービスを提供することが含まれる。朝興銀行は、1958年以降かかるサービスの主な提供者であり、旧新韓銀行による朝興銀行の買収後は、当行がこれらのサービスにおいて引き続き優勢な市場シェアを有している。かかる預金は通常、市場金利（年率約0.5%）を下回る金利が付され、2013年および2014年12月31日現在の預金額はそれぞれ6,680十億ウォンおよび6,443十億ウォンであった。

韓国銀行の金融政策委員会は、商業銀行のウォン建て預金に対し、通常、満期までの期間および預金商品の種類に基づいて0%から7%の範囲の預金準備率を課している。「第2-3-(6)監督および規制—銀行に適用される主要な規制—流動性」を参照されたい。

預金者保護法は、韓国預金保険公社が適格な銀行預金の返済を同法に基づき預金者あたり1行合計50百万ウォンまでおよび確定拠出退職年金に基づき付保される50百万までを保証する預金保険制度を規定している。を保証する。「第2-3-(6)監督および規制—銀行に適用される主要な規制—預金保険制度」を参照されたい。

個人向け銀行業務

概観

個人向け銀行業務には、抵当貸出、住宅担保貸出および個人向け貸出ならびに要求払預金、定期預金および貯蓄預金の受け入れ、当座口座サービス、エレクトロニック・バンキングおよびATMサービス、料金自動引落しサービス、給与および小切手の支払業務、為替ならびに資金の電子送金が含まれる。当行は、近代的かつ効率的な個人向け銀行業務の提供は、当行の公共性を維持するためにも、また手数料ベースの収入源としても重要であると考えている。したがって、当行は、国内銀行部門が一段と発展してその複雑さが増すことから、個人向け銀行業務および商品が今後数年でますます重要になると考えている。

個人向け銀行業務はこれまで当行の中核事業の一つであり、今後もそうあり続けるであろう。個人向け銀行業務における当行の戦略は、自動化の拡大および顧客サービスの向上、ならびに販売に注力した支店網の合理化を通じて個人顧客に迅速かつ総合的なサービスを提供することである。個人部門は、富裕層の個人をターゲットとすることに注力している。2014年12月31日現在の当行の個人向け貸出金は、80,222十億ウォンであった。

個人向け貸出業務

当行は、様々な個人向け貸出商品を提供しているが、これは主に個人および家計向け貸出からなっている。当行の個人向け貸出商品は国民の様々なセグメントをターゲットとし、各顧客の職業、年齢、借入目的、担保要件および顧客と当行との取引期間を含む各セグメントの金融特性およびその他の特徴に合わせた機能を備えている。個人向け貸出は主に、以下から構成される。

- ・ **抵当ローンおよび住宅担保ローン** これは大部分が住宅購入の資金調達のために使用されるモーゲージ貸出からなっており、通常は購入する住宅によって担保される。
- ・ **その他の個人向け貸出** これは抵当ローンおよび住宅担保ローン以外を目的として行われる顧客への貸出であり、その条件は主に借り手の特性によって異なり、無担保であるか、または預金もしくは第三者による担保もしくは保証が付される。

2014年12月31日現在、当行の抵当ローンおよび住宅担保ローンならびにその他の個人向け貸出金は当行のウォン建て個人向け貸出金のそれぞれ63.1%および36.9%を占めていた。

抵当ローンおよび住宅担保ローンを含む有担保の貸出については、当行は、先順位担保権（少額の権利を除く。）があればこれを考慮して、当該担保の評価額の70%までを貸し付ける方針である。有担保貸出のローン資産価値比率は、最新の担保評価額を用いて毎月更新される。2014年12月31日現在、当行の抵当ローンおよび住宅担保ローンのローン資産価値比率は約51.8%であった。2014年12月31日現在、実質的にすべての当行の抵当ローンおよび住宅担保ローンは居住用不動産によって担保されていた。

銀行業務の監督に関する規則（2015年1月1日付で改正済）および金融監督院（以下「FSS」という。）の関連行政指導（2014年8月1日付）に基づき、当行は(i)住宅担保ローンを提供する場合には、住宅担保ローンの担保として提供される住宅の所在地によって70%のローン資産価値比率の上限に従い、(ii)新規集合住宅の購入に対する100百万ウォン以上の住宅担保ローンで、「投機性が高い地域」または（ソウル首都圏地域である場合）「投資が過剰な地域」として指定される地域に所在する時価評価額が600百万ウォンを超えるかかる集合住宅を担保とするものは60%という債務所得比率の上限を遵守することを義務付けられ、(iii)潜在的な所得が見込まれる場合はこれを考慮し、より柔軟性をもって債務所得比率を決定することが義務付けられ、(iv)既に住宅担保ローンを受けている借り手から投機性が高い地域に所在する集合住宅を担保として受け入れることが禁止され、(v)投機性が高い地域の集合住宅を担保とする貸出を2件以上受けている借り手の場合、かかる投機性が高い地域の集合住宅を担保とする貸出の件数を1件に減少させるために、かかる貸出の満期延長を制限することが義務付けられ、および、(v)未成年に対して住宅担保ローンを供与することが禁止され、(vi)やむを得ない場合を除き、投機性が高い地域に所在する集合住宅を、かかる集合住宅を取得するための担保として受け入れることを禁止している。上記の(i)、(ii)および(iii)の要件はFSSが行政指導の形で発出した1年間のみ有効な緩和措置である。しかし、FSSは最近、上記の行政指導をさらに1年間延長し、2016年7月31日まで有効とする計画である旨の事前通知を行った。

さらに、韓国の監督当局は韓国の銀行に対して随時行政指導を行うが、これには借り手による住宅ローンの使用を制限する効果があり、そのため、不動産物件に対する需要を抑制する効果がある。例えば、FSSは、一定の状況を除き、抵当ローンおよび住宅担保ローンを提供する前に、担保の種類もしくは価値または不動産の所在地にかかわらず、借り手の返済能力を所得証明に基づいて検証させる行政指導を金融機関に対し公表した。かかる行政指導は、証明できる所得のない借り手に対する新規の抵当ローンおよび住宅担保ローンの提供を事実上禁止する効果があった。

当行は、適用ある規則および関連監督官庁の行政指導を遵守して、抵当ローンおよび住宅担保ローンを提供している。

下表は、当行の個人向け貸出金の内訳を示している。

	12月31日現在	
	2013年	2014年
(単位：十億ウォン、%を除く。)		
個人向け貸出金 ⁽¹⁾		
抵当ローンおよび住宅担保ローン	41,008	43,427
その他個人向け貸出金 ⁽²⁾	32,023	36,795
総貸出金合計に対する個人向け貸出金の割合	41.5%	42.3%

注記：

(1) 貸倒引当金控除前。クレジットカード債権を除く。

(2) 韓国では、建設会社は通常、新たな住宅（集合住宅のユニットを含む。）の購入者に対し、名義書換えのかなり前に購入価格を分割払いで支払うことを求めている。当行を含む商業銀行は、その手取金の用途が住宅購入資金に制限される場合、個人借り手に対し、無担保ベースで貸出金を提供する。これらの貸出金の大部分は、第三者によって保証されており、その中には住宅建設が完了するまで分割払いを受取っている建設会社が含まれている場合がある。建設が完了し、その住宅の名義が借り手に移転する（数年かかる場合がある。）と、これらの貸出金はこれらの借り手によって購入された新しい住宅によって担保される。かかる貸出金の無担保性を認識し、当行はかかる貸出金をその他個人向け貸出金に分類している。

2014年12月31日現在の当行の抵当ローンおよび住宅担保ローンの貸出金残高合計額は、49,857十億ウォンで、このうち、元本分割返済型貸出金（その貸出元本が分割払いの一部により返済される貸出）は35,132十億ウォンで、元本分割返済を伴わない貸出金は14,725十億ウォンであった。さらに、2014年12月31日現在、当行はまた元本分割返済を伴わない貸出金の貸出金残高について515十億ウォンの与信限度額を有している。

価格設定

当行の個人向け貸出金に付される金利は、定期的に調整される変動金利（内部振替価格制度を用いて算出された3ヵ月、6ヵ月または12ヵ月間の期間について決定された基準金利に基づいており、貸出関連費用および関連貸出商品の利益率を考慮するために調整された、資金調達の世界市場コストを反映している。）か、または貸出関連費用および利益率を考慮するために調整された、資金調達の世界市場コストを反映した固定金利のいずれかである。固定金利の貸出金の満期は15年で、限定された場合および変動金利貸出金にプレミアムを付してのみ提供される。当行が変動金利または固定金利に基づき提供している無担保の貸出について、これらにかかる金利は、とりわけ貸出承認プロセスにおいて決定された借り手の信用スコアに基づく利益率が反映される。有担保貸出について、信用限度は担保の種類に基づき、担保およびローン資産価値比率が優先される。当行は、借り手による現在および／または将来予想される当行の収益に対する貢献を反映するために、これらの貸出の価格設定を調整することができる。当行の貸出商品にかかる金利は、貸出延長時に調整することができる。貸出が貸出日から3年以内に弁済される場合、借り手は当行に対して未返済の元本額の約1.5%として通常計算される期限前弁済手数料に加え、当該貸出の元本に対する発生済みだが未払いの金利に当該貸出の満期までの残存日数を分子とし、当該貸出の期間または3年間のいずれか長い方の日数を分母とする分数を乗じた金額を支払うことが義務付けられる。

2014年12月31日現在における当行の3ヵ月、6ヵ月および12ヵ月の基準金利はそれぞれ約2.13%、2.17%および2.18%であった。2014年12月31日現在、満期が3年、5年および7年の抵当ローンおよび住宅担保ローンに対する当行の固定金利は、それぞれ約3.80%、3.85%および4.50%であった。また、満期が1年のその他の個人向け貸出金に対する当行の固定金利は、顧客の信用スコアに応じて4.74%ないし14.00%の範囲であった。

2014年12月31日現在、当行の個人向け貸出金合計の73.14%は変動金利の貸出であり、26.86%は固定金利の貸出であった。同日現在、満期が1年超の当行の個人向け貸出金の65.43%は変動金利の貸出であり、34.57%が固定金利の貸出であった。

当行が顧客に課す金利は、韓国銀行連合会によって公表される「資金調達コスト・インデックス」(COFIX)にある程度に基づいている。COFIXは、韓国の大手銀行9行(当行、国民銀行、ウリ銀行、ハナ銀行、韓国外換銀行、農協銀行、中小企業銀行、CITIバンク・コリア・インクおよびスタンダード・チャータード・バンク・コリア・リミテッド)からなる。)の選定された資金調達商品(定期預金、住宅その他積立貯蓄預金、買戻条件付有価証券、割引手形および非転換型社債を含む。)の加重平均金利に基づいて計算されている。各銀行はその後、COFIXと自行の全般的な資金調達コスト、事務費用、顧客の信用スコア、貸出の満期およびかかる銀行との顧客関係に基づいた顧客に固有のプレミアムおよびディスカウントとの差に基づいて、COFIXに対するスプレッドを加算してそのそれぞれの顧客への適用金利を個別に決定している。これらの金利は通常、月ごとに調整される。

プライベート・バンキング

当行はこれまで富裕層顧客に注力してきた。当行の個人向け銀行業務には、複雑な財務上の問題について個人的な助言を求める富裕層顧客へのプライベート・バンキング業務の提供が含まれる。プライベート・バンキングにおける当行の目的は、当行の富裕層顧客に対して、とりわけポートフォリオおよび資金管理、税務コンサルティングならびに不動産管理業務を提供することで、かかる顧客の富の蓄積を強化し、その金融面での造詣を深めることである。2011年末以来、当行は、商業銀行業務と、新韓インベストメントによって提供される投資相談サービスとの相乗効果をより大きくすることにより、進化する顧客のニーズに先手を打って対応し、資産の成長を促進するために、当行の一部の支店と同じ場所にある新韓インベストメントの支店とを組み合わせたプライベート資産運用センターの営業を開始した。

2014年12月31日現在、当行は韓国全土(ソウルに18ヵ所、ソウル郊外に3ヵ所および韓国の他の地域における他の市に4ヵ所)において、25のプライベート・バンキング・センターを運営している。同日現在、当行は約6,055名のプライベート・バンキング顧客を有していた。プライベート・バンキング顧客は、通常、プライベート・バンキング・サービスの利用資格を得るためには当行に500百万ウォンの預金を有することを求められる。

法人向け銀行業務および投資銀行業務

概観

当行は、SOHO (Small Office, Home Office) として知られ、個人または世帯で営まれる企業を含む中小企業および、これより程度は低いものの財閥関連企業を含むより規模の大きい企業に対して法人銀行業務サービスを提供している。当行はまた、政府系企業に対しても貸出を行っている。

下表は、表示日現在における当行の法人向け貸出業務の各区分に帰属する当行の貸出金合計額の残高および割合を示している。

	12月31日現在			
	2013年		2014年	
	(単位：十億ウォン、%を除く)			
中小企業向け貸出 ⁽¹⁾	60,596	58.8%	66,258	60.6%
大企業向け貸出	42,416	41.2%	43,157	39.4%
法人向け貸出合計	103,012	100.0%	109,415	100.0%

注記：

(1) 小規模および中規模企業に関する基本法および関連する大統領令のもとで中小企業の定義を満たす企業に対して付与された貸出金の元本額を表す。

当行はまた、とりわけ財務業務(主に内部資産負債管理からなる。)、証券投資取引およびデリバティブ取引に従事している。

中小企業向け銀行業務

小規模および中規模企業に関する基本法（以下「中小企業基本法」という。）および関連する大統領令（2015年2月3日付で改正済）のもとで、中小企業として適格となるためには、(i)直前の会計年度末における当該企業の資産合計が500十億ウォン未満で、(ii)その年間売上高の平均および合計がその主たる事業の種類に適用される大統領令に定める基準を満たし、かつ(iii)当該企業は大統領令に定める所有からの経営の独立基準（独占規制および公正取引に関する法律において定義されるコングロマリットの構成企業でないことを含む。）を満たさなければならない。しかし、中小企業基本法の直近の改正以前に中小企業として定義されていたが、改正後にかかる定義を満たさなくなった企業は、2018年3月31日までは中小企業基本法の目的上の中小企業とみなされる。正規従業員数が300人未満であるかまたは売上高が30十億ウォン未満で、中小企業基本法および大統領令に規定される一定の要件を満たす非営利企業は、中小企業として適格とすることができる。さらに、2014年4月15日から、大統領令に規定される協同組合および協同組合連合会は中小企業とみなされる。2014年12月31日現在、当行は66,258十億ウォンの貸出を276,062社の中小企業に付与していた。

当行はこれまで中小企業向け貸出に注力してきており、当行は、そのマーケティング能力（当行に著しい顧客ロイヤリティを与えてきたと考えられる。）および与信承認に対する保守的な信用格付制度を含む慎重なリスク管理の実施に鑑みて、中小企業市場で成功するために好位置につけていると考えている。中小企業向け貸出の市場シェアを維持または増大させるために、当行は以下の取組みを行っている。

- ・ 顧客および商品について市場を主導する専門性および精通を蓄積してきた。当行は、当該市場セグメントに組み込まれた信用リスクならびに当該市場セグメントの需要に特に合わせた貸出およびその他の商品を開発することを徹底的に理解していると考えている。
- ・ 中小企業に対し個別仕様された顧客サービスを提供するための関係管理システム（リレーションシップ・マネジメント・システム）を運営している。当行は現在、185の銀行支店に関係管理チームを有しており、このうち2つは法人向け銀行業務支店であり、183は個人顧客および限定的な範囲での法人顧客の双方に対するサービス提供を目的としたハイブリッド銀行業務支店である。これらの関係管理チームは商品を販売し、信用リスクの低い少額貸出の検討および承認を行っている。
- ・ 他の商品とクロス・セルされる貸出商品に引き続き注力している。例えば、当行が中小企業向けに貸出を行う時は、かかる企業の従業員向けに、個人向け貸出もしくは預金商品をクロス・セルするかまたは投資顧問サービスを提供する機会も模索する。

大企業向けおよび投資銀行業務

大企業顧客は、主として財閥グループ企業および金融機関で構成されている。当行の大企業向け貸出は、2014年12月31日現在43,157十億ウォンであった。大企業顧客は中小企業顧客よりもより優れた信用プロフィールを持つ傾向にあるため、当行は、そのリスク管理政策の一環としてこれらの顧客に対する注力を拡大してきた。

当行は、事業拡大および成長へ向けて努力する法人顧客とパートナーを組むワンストップの金融ソリューションのプロバイダーとなることを目指している。当行は、かかる目的のために、投資銀行業務、不動産ファイナンス、海外不動産プロジェクト・ファイナンス、大規模開発のプロジェクト・ファイナンス、インフラ・ファイナンス、ストラクチャード・ファイナンス、持分投資／ベンチャー投資、M&Aコンサルティング、証券化およびデリバティブ・サービス（有価証券およびデリバティブ商品ならびに外国為替取引を含む。）を含む広範な法人向け銀行サービスを提供している。当行は、香港子会社である新韓アジュ金融有限公司を通じて、とりわけアジアにおいて海外事業を拡大している韓国企業向けに資金調達をアレンジし、コンサルティング・サービスを提供している。

法人向けエレクトロニック・バンキング

当行は、「新韓ビズバンク」として知られるウェブベースの総合的な資金管理サービスを法人顧客に提供している。新韓ビズバンクは、基本的な取引履歴の照会や資金振替から信用状開設、貿易金融、支払管理、回収管理、販売決済サービス、購入決済サービス、企業間決済サービス、企業内口座振替サービスに至るほぼすべての種類の銀行取引をサポートしている。さらに、当行はインターネット・バンキング、キャピタル・マネジメント・サービスおよび企業資源プランニングを組み合わせ、企業顧客によりよいサービスを行うことを企図した「インサイド・バンク」プログラムを通じて、顧客にその金融サービスへの統合された高度アクセスを提供している。インサイド・バンク・プログラムはまた、様々な業種のコングロマリットから小規模企業に至るターゲットとする企業顧客の包括的なニーズを満たすカスタマイズされた金融サービスを提供し、当行の法人顧客が当行の金融サービスにアクセスする際の利便性を高め、その資金の戦略的な運用を支援することを目標とするものである。

法人向け貸出業務

当行の法人顧客向けの主要貸出商品は、運転資金融資および設備融資である。運転資金融資には手形割引と貿易金融を含み、通常一般的な運転資金目的に使用される貸出である。設備融資は、設備の購入や製造工場の建設の資金調達のために提供される。2014年12月31日現在における当行の運転資金融資および設備融資はそれぞれ49,570十億ウォンおよび31,797十億ウォンであり、当行のウォン建て法人向け貸出合計のそれぞれ60.92%および39.08%を占めていた。運転資金融資は通常満期が1年であるが、無担保貸出の場合には合計3年まで、有担保貸出の場合には5年まで年ベースで延長することができる。設備融資は、最長満期は10年で、通常、年2回の分割払いにより返済されるが、初回の返済は貸出期間の3分の1を超えない猶予期間があり、期間が3年以下の設備融資は、満期日に全額返済することができる。

法人向け貸出は、無担保であるかまたは不動産、預金もしくは保証状による担保付きでなされる。2014年12月31日現在、有担保貸出および保証付き貸出（信用保証保険基金の発行する保証証書によって担保された貸出を含む。）は当行のウォン建て中小企業向け貸出のそれぞれ54.31%および10.98%を占めていた。2014年12月31日現在、法人向け貸出の約36.11%は不動産を担保としていた。

当行は、法人顧客に貸出を供与するか否かを評価する際に、当該顧客の信用度、信用スコア、担保があればその価値および／または第三者の保証を検討する。担保の価値は、担保評価額、先順位担保権または当該担保に対する他の権利ならびに不動産に関しては前年に裁判所監督の競売において売却された近隣物件の平均価額を含むいくつかの事項に基づく調整要因を考慮した算式を用いて計算される。当行は、有担保の貸出が更新されるかまたは当該貸出に関するトリガー事由が発生した場合に担保を再評価する。

価格設定

当行は、法人向け貸出商品の価格を、主にそれぞれの資金調達コストおよび借り手の信用リスクに基づく期待損失率に基づいて決定する。2014年12月31日現在、満期までの残存期間が1年以上である当行の法人向け貸出の63.94%は、適用ある市場金利によって決定される変動金利であった。

より具体的には、当行の法人向け貸出の金利は通常次のとおり決定される。

金利 = (当行の期間毎の市場変動金利または参照金利)に取引費用、信用スプレッドおよびリスクプレミアムを加算し、裁量的な調整を加減する。

当行は、市場情勢および借り手との合意に応じて、借り手に対する金利を決定するための基準金利として、期間毎の市場変動金利または参照レートを使用できる。2014年12月31日現在における当行の期間毎の市場変動金利（当行の市場金利システムを利用して算出される3ヶ月、6ヶ月、1年、2年、3年または5年の期間ごとに決定される基準金利に基づいている。）は、3ヶ月物が2.13%、6ヶ月物が2.17%、1年物が2.18%、2年物が2.03%、3年物が2.31%および5年物が2.49%であった。同日における当行の参照金利は6.75%であった。参照金利は、当行が使用する基準貸出金利をいい、とりわけ当行の資金調達コスト、費用効率および裁量的マージンに基づいて、当行のALM委員会が毎年決定する。

取引費用は、各貸出商品に割り当てられる標準的な取引費用およびその他の雑費用（信用保証基金への拠出金を含む。）ならびに教育税を反映している。信用保証基金は法的に設置された団体であり、商業銀行が行った貸出に対する信用保証を提供し、商業銀行が行うすべての貸出金の約0.2%の額に相当する商業銀行からの強制拠出金によって資金が賄われている。

信用スプレッドは、借り手の信用格付および担保または支払保証があればその価値に基づく期待損失を反映するために、期間毎の変動金利に加算される。また、当行は、特定の借り手に付与された信用格付による期待損失を超える可能性のある非期待損失の潜在性を考慮してリスクプレミアムを加算する。

裁量的な調整金利は、借り手の現在および／または将来における当行の収益性に対する貢献を反映するために加算されるかまたは差し引かれる。保証により追加的な信用が提供される場合には、かかる信用スプレッドの変更を反映するために調整金利が差し引かれる。また、競合銀行が類似の借り手に対して設定した価格およびその他の条件によって、当行は他行とより有効に競合するために当該金利を引き下げることがある。

財務

財務部門は当行のすべての事業運営に資金を提供し、当行の運営上の流動性を確保している。当行は、安定した長期資金を確保するために、固定金利および変動金利のノート、社債、ストラクチャード・ファイナンスおよびその他の先進的な資金調達法を使用している。海外での資金調達については、当行は、日本円およびユーロといった米ドル以外の通貨建てで資金調達を行う可能性を注意深くモニタリングしている。また、当行は短期金融市場においてコールローンの貸出およびコールマネーの借入を行っている。コールローンはウォン建てまたは外貨建てのいずれかによる銀行および金融機関間の短期貸出であり、最低取引額は100百万ウォン、満期は通常1日である。

証券投資およびトレーディング

当行は、適切な流動性資源を維持し、受取利息、受取配当およびキャピタル・ゲインを生み出すために、自己勘定で有価証券に投資し、取引を行っている。当行のトレーディングおよび投資ポートフォリオは、主に韓国の財務省証券および政府機関、地方自治体または一部の政府投資企業が発行した債券、金融機関債券および韓国取引所のKRX KOSPI市場およびKRX KOSDAQ市場の上場持分証券からなっている。当行の有価証券投資ポートフォリオの詳細は、「第2－3－(2)資産および負債の詳細－投資ポートフォリオ」を参照されたい。

デリバティブ取引

当行は、以下を含む一連のデリバティブ商品を当行の顧客に提供し、また限定的な範囲において当行の自己勘定でこれらの取引を行う。

- ・ウォン金利リスクとLIBORリスクに関連する金利スワップ、オプションおよび先物
- ・大部分が米ドル、円およびユーロに対するウォンのクロスカレンシー・スワップ
- ・株式および株式関連オプション
- ・外貨先渡、オプションおよびスワップ
- ・商品先渡、スワップおよびオプション
- ・クレジット・デリバティブ
- ・KOSPI200指数連動株式オプション

2013年および2014年における当行のデリバティブ取引高（想定元本）は、それぞれ122,842十億ウォンおよび106,498十億ウォンであった。かかるデリバティブ業務は通常、法人顧客がリスク・エクスポージャーをヘッジするためにデリバティブ契約を締結するニーズへの対処、およびかかる法人顧客との契約の結果生じた当行のリスク・エクスポージャーをヘッジするためのバック・トゥー・バックのデリバティブが中心となっている。

当行はまた、当行の資産および負債から生じる金利および外貨リスクのエクスポージャーをヘッジするためにデリバティブ契約を締結している。また、限定的な範囲であるが、当行はその定められたオープン・ポジションの範囲内において自己勘定でデリバティブ取引を行っている。「第2－3－(2) 資産および負債の詳細ーデリバティブ」を参照されたい。

国際業務

当行は、国際資本市場において財務および投資業務に従事している。これには主に、外貨建て有価証券取引、外国為替取引およびサービス、貿易関連の金融サービス、国際ファクタリング・サービスならびに海外支店および子会社を通じた外国人向けリテール銀行業務が含まれる。当行は、海外の現在および潜在的な顧客の様々な財務上のニーズに応えるために、アジアの主要銀行となり、また当行の海外ネットワークを一段と強化し、海外業務をローカライズし、とりわけ資産運用に関する商品提供の多様化によって国際事業を拡大することを目指している。

信託勘定管理サービス

概観

当行の信託勘定管理サービスには、主として金銭信託の形式による信託勘定の管理が含まれる。信託勘定顧客は通常個人であり、銀行口座への預金によって提供されるものより高い収益率を追求する。預金準備率は、銀行口座に保有される預金とは違って信託勘定に保有される預金には適用されず、また信託勘定について定める規制は銀行口座ほど厳しくない傾向があることから、当行は信託勘定商品について概ね銀行預金商品よりも高い収益率を提供することができる。しかしながら、近年では低金利環境が続くことから、当行は信託勘定商品について魅力ある収益率を提供できていない。

信託勘定商品は、通常、類似の銀行口座預金商品よりも所要最低預金額が高い。銀行預金商品とは異なり、信託勘定への預入れ金は、主として有価証券(主に債務証券および不動産金融に対する受益証券からなる。)に、またこれより程度は低いものの貸出金に対して投資される。これは、資金源が比較的不足していることから、信託勘定は流動資産への投資比率を高くする必要があるためである。

銀行法、FSCMAおよび信託法に基づき、信託勘定の資産は受託銀行の他の資産とは分離することが義務付けられ、受託銀行の預金者または他の債権者に対する債務の弁済に充当することはできない。したがって、元本(または元本および利息の双方)について保証のない信託勘定は銀行勘定とは分離して計上および報告される。「第2-3-(6) 監督および規制」を参照されたい。信託勘定は信託法およびFSCMAによって規制され、大部分の全国商業銀行は同種の信託勘定商品を提供している。当行は、信託勘定管理業務から収益を得ており、これは正味信託管理報酬として計上されている。

2013年および2014年12月31日現在、当行が保有する信託資産はそれぞれ合計26,342十億ウォンおよび30,986十億ウォンであり、その主な内訳は有価証券投資がそれぞれ5,195 十億ウォンおよび6,239十億ウォン、不動産投資がそれぞれ4,723十億ウォンおよび5,913十億ウォンならびに貸出金の元本総額がそれぞれ466十億ウォンおよび434十億ウォンであった。有価証券投資の内訳は、社債、政府関連債券およびその他の有価証券(主にコマーシャル・ペーパー)であった。2013年および2014年12月31日現在、当行の信託勘定合計額のうち、債務証券はそれぞれ18.3%および18.9%を、持分証券はそれぞれ1.4%および1.3%を占めていた。信託勘定からの貸出は、すべて韓国ウォン建てである点を除き、当行の銀行勘定からの貸出と同種のものである。2013年および2014年12月31日現在、信託勘定からの貸出金額のうち、それぞれ54.5%および57.9%が有担保または保証付きであった。各信託勘定の受入資金から投資を行う際には、各信託商品は、特に会社、業種および証券に特有の制限を記載した、各商品に適用ある投資ガイドラインを定めている。

信託商品

韓国では、信託商品は通常、金銭信託の形式を取る。金銭信託は、受託者が適用ある法律に従ってその投資裁量を有する一任信託であり(特定金銭信託の場合を除く。)、それぞれの種類の信託勘定について混蔵され、合同運用される。特定金銭信託は、自身の信託資産の投資方法に関して特定の指示を与える顧客のために設定される。

当行の信託勘定事業が管理する金銭信託は、2013年および2014年12月31日現在においてそれぞれ16,830十億ウォンおよび19,591十億ウォンであった。

当行は、個人向け支店網を通じて変動利率信託商品を提供している。2013年および2014年12月31日現在における当行の変動利率信託勘定はそれぞれ13,531十億ウォンおよび16,121十億ウォンであり、このうち元本保証された変動利率信託勘定はそれぞれ3,298十億ウォンおよび3,469十億ウォンであった。変動利率信託勘定は、その保有者に対して、信託勘定の預入金元本額に対する変動利率によるリターンを提供し、元本保証型変動利率信託勘定(元本の支払が保証される。)の限られた場合を除き、預入金の元本額に対するリターンの保証は提供しない。当行は、一括金またはかかる信託に保有される資産の固定割合を管理報酬として請求し、信託商品によって、顧客による早期解約の場合には追加手数料を受領する権利を有する。当行を含む韓国の銀行は、現在次の種類の変動利率信託勘定商品の元本を保証することを認められている。それは(i)既設の個人年金信託、(ii)新規の個人年金信託、(iii)既設の退職年金信託、(iv)新規の退職年金信託、(v)年金信託および(vi)従業員退職給付信託である。当行はまた、その保有者に固定利率によるリターンとともに元本返済保証を提供する、保証付固定金利信託商品をわずかな金額であるが(2013年および2014年12月31日現在でそれぞれ1.0十億ウォンおよび1.0十億ウォン)提供している。これらは過去に提供した商品が繰越されたもので、当行はもはや保証付固定金利信託商品を提供していない。

販売網

当行は、個人向けおよび法人向け銀行業務に特化し、セルフサービスの端末やエレクトロニック・バンキング（携帯電話バンキングを含む。）および海外サービス・ネットワークで補完される様々な販売網および販売チャネルを通じて、個人顧客および法人顧客に幅広い金融サービスを提供している。

韓国における支店網

2014年12月31日現在、韓国における当行の支店網は900のサービスセンターで構成され、これは705の個人向け銀行業務サービスセンター（25のプライベート資産運用サービス・センター、9の大企業顧客向けのバンキング・サービスセンターを含む。）、ならびに個人向け顧客および小規模の法人顧客向けのサービス提供を目的とする186のハイブリッド銀行業務支店からなっている。

下表は、2014年12月31日現在の当行の韓国における販売網の地理的分布を支店およびその他の販売チャネル別に表示したものである。

	個人向け	法人向け	合計
ソウル首都圏	304	72	376
京畿道	153	47	200
6大都市	128	38	166
仁川	42	12	54
釜山	30	9	39
光州	9	3	12
大邱	21	7	28
蔚山	9	4	13
大田	17	3	20
小計	585	157	742
その他	120	38	158
合計	705	195	900

当行の支店網は、支店の各対象顧客に合わせたワンストップの銀行業務サービスを提供することを目的としている。

個人向け銀行業務チャネル

韓国では、現金またはクレジットカードで多くの個人取引が実施され、従来の当座勘定は通常提供されないか、または米国など他の諸国におけるほど幅広く使用されていない。その結果、顧客は通常大部分の取引を銀行支店を介して行うことから、広範な個人向け支店網が韓国の銀行にとって重要な役割を果たしている。最近では、プライベート・バンキングを通じて富裕層の個人をターゲットとすることが当行の重要な取り組みの一つとなっている。当行のプライベート・バンキング業務は主として、ターゲットとする顧客グループの中で、顧客が個々の投資戦略を策定することを支援するプライベート・バンキング・リレーションシップ・マネジャーを通じて提供される。当行は、リレーションシップ・マネジャーが当行顧客との持続的な関係を醸成する一助となるものと確信している。プライベート・バンキング顧客はまた、当行の個人向け支店網および当行が個人向け銀行業務を通じて提供するその他の一般的な銀行商品を利用することができる。

法人向け銀行業務チャネル

当行は現在、大企業顧客へのサービス提供を目的としたコーポレート・バンキング・サービス・センターならびに個人および小企業顧客へのサービス提供を目的としたハイブリッド銀行業務支店を通じて法人向け銀行業務を提供している。中小企業顧客は伝統的に当行の法人顧客の中核であり、当行はこれらの顧客に対する強みを引き続き維持する計画である。

セルフサービス端末

当行の銀行業務支店網を補完するために、当行は幅広い自動窓口機のネットワークを維持し、これらは支店や無人店舗に設置されている。これらの自動窓口機は、ATM、現金支払機および記帳機からなっている。2014年12月31日現在、当行は33台の現金支払機および7,434台のATMを有していた。当行は、顧客に便利なサービスを提供し、支店レベルでのマーケティングおよび販売機能を最大化し、人件費を削減し、収益性を改善するために、これらの販売チャネルの使用を積極的に推進してきた。2014年において、自動窓口機の取引は、当行の処理件数およびこれらから生じた手数料収入について、当行の預金の預入れ取引のかなりの部分を占め、また引出し取引合計の過半数を占めた。

エレクトロニック・バンキング

当行のインターネット・バンキング・サービスは店舗カウンターで利用できるサービスと比較してより総合的であり、24時間の口座残高照会、リアルタイムの口座振替、海外送金および借入申込が含まれる。当行はまた、より迅速、便利かつ安全な銀行取引を顧客が携帯電話を用いて利用できるモバイル・バンキング・サービスを提供している。2014年12月31日現在、当行は約14,306,000のインターネット・バンキング・サービス利用顧客および約8,608,000のスマートフォン・バンキング・アプリケーション利用顧客を有している。当行のオンラインおよびモバイル・バンキングの利用者数は引き続き増加するであろう。当行は当初、収益を増やすよりもむしろコスト節減の観点からオンラインおよびモバイル・バンキングの提供を開始したが、オンラインおよびモバイル・バンキングは、時間や場所の制約を受けることなく、より容易でより便利な銀行サービスへのアクセスを顧客に提供し、かつ、顧客に適合したカスタマイズされたサービスを各顧客に提供するので、これらのサービスを通じて収益を増加させる可能性を生かす方法を現在探求している。

海外のサービス・ネットワーク

下表は、2014年12月31日現在における当行の海外銀行業務子会社および支店を示している。

事業部門	所在地	設立年または 取得年
子会社		
新韓アジュ金融有限公司	中国 香港特別行政区	1982年
ヨーロッパ新韓銀行	ドイツ	1994年
アメリカ新韓銀行	米国 ニューヨークおよびカリフォルニア	2003年
新韓銀行中国有限公司	中国 北京	2008年
新韓クメール銀行	カンボジア	2007年
新韓カザフスタン銀行	カザフスタン	2008年
カナダ新韓銀行	カナダ トロント	2009年
SBJ銀行 ⁽¹⁾	日本 東京	2009年
新韓バンク・ベトナム ⁽²⁾	ベトナム ホーチミン市	2011年
支店		
ニューヨーク	米国	1989年
シンガポール	シンガポール	1990年
ロンドン	英国	1991年
ムンバイ	インド	1996年
香港	中国	2006年
ニューデリー	インド	2006年
カーンチープラムル	インド	2014年
プネー	インド	2014年
代表事務所		
メキシコ	メキシコ、メキシコシティ	2008年
ウズベキスタン	ウズベキスタン、タシュケント	2009年
ミャンマー	ミャンマー、ヤンゴン	2013年

注記：

(1) 当行は2009年に同子会社を日本に設立したが、1986年から支店組織を通じて日本で銀行業務を提供してきた。

(2) 2011年に同子会社を設立する以前、当行は、1995年から支店組織を通じてベトナムで銀行業務を提供してきた。

現在、当行の海外子会社および支店は主に、海外市場において韓国企業や韓国人向けに貿易金融および現地通貨での資金調達を行っており、また、当行の本店とともに外国為替業務を提供している。限定的ではあるが、これらの海外支店および子会社は外国の発行体の有価証券への投資やこれらのトレーディングを行っている。将来においては、当行は「グローバル化」への取組みの一環として、個人向けおよび法人向け銀行業務において一段と幅広いサービスを提供することで、海外市場における現地顧客のカバレッジを拡大する計画であり、かかる目的のために当行のプレゼンスを高め、これらの市場においてより柔軟にサービス提供を行えるように、選別された市場（2011年には当行のベトナム銀行子会社2社の合併）において支店の代わりに子会社の設立を増加させている。

子会社

2014年12月31日現在、当行は（33の連結特別目的ビークルに加え、）9の連結子会社を所有しており、その詳細を下表に示す。

子会社 ⁽¹⁾	所在地	株式持分 (単位：%)	業務内容
新韓アジュ金融有限公司	香港	99.9	投資銀行業務、韓国企業向けの財務およびコンサルティング業務のアレンジ、ならびに中国および東南アジア諸国において投資銀行業務に従事。
アメリカ新韓銀行	ニューヨークおよびカリフォルニア	100.0	一般銀行業務。大部分が米国に居住する韓国人顧客対象。
カナダ新韓銀行	トロント	100.0	一般銀行業務。大部分がカナダに居住する韓国人顧客対象。
新韓銀行中国有限公司	北京	100.0	現地および韓国双方のコミュニティおよび企業に対する金融サービス。
ヨーロッパ新韓銀行	フランクフルト	100.0	海外貸出。大部分が韓国企業および／またはその関連会社対象。
新韓カザフスタン銀行	アルマティ	100.0	一般銀行業務。大部分がカザフスタンに居住する韓国人顧客対象。
SBJ銀行	東京	100.0	一般銀行業務。大部分が日本に居住する韓国人顧客対象。
新韓バンク・ベトナム	ホーチミン市	100.0	一般銀行業務。大部分がベトナムに居住する韓国人顧客対象。
新韓クメール銀行	プノンペン	90.0	一般銀行業務。大部分がカンボジアに居住する韓国人顧客対象。

注記：

(1) 当行はまた、韓国IFRSに基づき連結子会社とされる33の構造化企業を有している。

情報技術

当行は、業務運営を支援し、質の高い顧客サービスを提供することを目的として、高度な情報技術システムを維持するために相当程度の資源を注いでいる。当行の情報技術システムは、包括的なグループ規模の情報収集および処理に基づき、新韓フィナンシャル・グループにより運営されている。新韓フィナンシャル・グループはまた、顧客関係管理機能、リスク管理システムおよびデータ処理のために、「エンタープライズ・データ・ウェアハウス」という単一のグループ規模の企業情報技術システムを運営している。新韓フィナンシャル・グループは、そのリスク管理システムに事業環境の変化を反映するだけでなく、その競合企業との差別化を強調するそのクラスで最高の技術を適用するために、そのグループ規模の情報技術システムを継続的にアップグレードしている。

2013年、新韓フィナンシャル・グループは、グループ全体のすべての子会社に対する情報技術システムの包括的な管理を担う統合データ・センターの建設を完了した。同センターは、最低15年間にわたる中央情報処理設備の安定利用を確保し、さまざまなデータ・センターを組み合わせることにより、経営効率およびコスト効率を最大限にし、情報セキュリティを強化するために設計されている。当行は2014年にその情報管理機能をこのセンターに移転させた。

新韓フィナンシャル・グループは、その子会社によって提供される金融サービスのセキュリティならびに信頼性を強化するために、継続的にグループ全体の情報セキュリティ基準の強化およびその関連システムのアップグレードに努めている。2008年、新韓フィナンシャル・グループは、グループ全体の情報システムおよび方針を設定し、それ以来これを継続的にアップデートし、アップグレードしてきた。2014年、新韓フィナンシャル・グループは、さらにグループ全体の情報セキュリティ統制タワーをそのクラスで最高水準にアップグレードし、サイバー侵害を受けた際のセキュリティ防御能力を強化するために、その社内の情報セキュリティ担当スタッフの大半を優れた技能を有する外部専門家に置き換えた。

当行はまた、電子バンキングおよびモバイル・バンキング（スマートフォンによるものを含む。）、オンラインによるコンサルティング、拡張販売サービスならびにカスタマイズされた情報サービスを含め、顧客サービスの質を向上させることによりその競争力を高めるために、引き続き子会社の情報技術システムをアップグレードしている。さらに、当行は、最近、法人向けオンライン・バンキング・サービスの主要なアップグレードおよび携帯電話ベースの商品提供の拡大を通じて、その間接サービス・チャネルならびに携帯電話によって金融サービスにますますアクセスする顧客基盤の成長に照らした販売およびサービスのネットワークを強化した。さらに、当行はグローバルな顧客管理システムを通じてその海外子会社および支店の販売能力および経営能力を支援するだけでなく、各国で固有の金融サービスを提供するために、情報技術システムを拡大した。

当行の情報技術システムは現在、リアルタイム・ベースでバックアップされている。2014年、新韓フィナンシャル・グループは、新韓データ・センターが遮断された場合でも、継続的に途切れることなく顧客サービスを提供するために、既存のデータ・センターをバックアップ用の運営と災害復旧センターとしての運営に転換した。

(2) 資産および負債の詳細

別段の記載がない限り、下記の情報はすべて連結ベースで表示されている。別段の記載がない限り、当行の信託勘定の資産および負債については、「信託勘定」に記載されている。

貸出ポートフォリオ

当行は、その銀行勘定および信託勘定の双方から貸出を行っている。保証は、当該保証に関し当行が顧客に代わり支払いを行わない限り、および当行が支払いを行うまで、貸出には分類されない。

単一の借り手に対する当行のエクスポージャー合計ならびに独占規制および公正取引に関する法律に定義される同一の企業グループに属する単一の企業グループに対するエクスポージャー合計は、法律によりTier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の合計額のそれぞれ20%および25%に制限されている。新韓フィナンシャル・グループおよび当行を含むその子会社の単一の借り手に対するエクスポージャー合計ならびに独占規制および公正取引に関する法律に定義される同一の企業グループに属する単一の企業グループに対するエクスポージャー合計は、正味株式資本合計（金融持株会社法大統領令に定義される。）のそれぞれ20%および25%に制限されている。

当行の表示日現在の種類別貸出を下表に示す。別段の記載のある場合を除き、すべての貸出金額は貸倒引当金控除前である。貸出金合計は延滞金額を含み、当行の貸出ポートフォリオを反映している。

	12月31日現在	
	2013年	2014年
	(単位：十億ウォン)	
法人向け貸出	103,012	109,415
個人向け貸出	73,032	80,222
合計 ⁽¹⁾	176,044	189,637

注記：

(1) 2013年および2014年12月31日現在、当行の総貸出金合計のそれぞれ88.4%および87.3%はウォン建てであった。

借り手別のエクスポージャー上位10件

2014年12月31日現在において、貸出、有価証券ならびに保証および引受手形からなる当行のエクスポージャー上位10件の合計は個別ベースで24,591十億ウォンであり、当行のエクスポージャー合計の11.0%を占めていた。下表は、表示日現在における当行の借り手の上位10件に対するエクスポージャー合計を示している。

	ウォン建て 貸出	外貨建て 貸出	有価証券	保証および 引受手形	エクスポ ージャー合計
2014年12月31日現在	(単位：十億ウォン)				
企画財政部	-	-	7,085	-	7,085
韓国銀行	1,730	-	5,062	-	6,792
韓国預金保険公社	-	-	2,247	-	2,247
現代重工業	-	145	10	1,832	1,987
韓国産業銀行	12	-	1,472	-	1,484
中小企業銀行	522	-	731	-	1,253
三星重工業	270	-	-	942	1,212
韓国政策金融公社	-	-	1,058	-	1,058
現代製鉄	432	422	-	9	863
韓国土地住宅公社	-	-	610	-	610
合計	2,966	567	18,275	2,783	24,591

主な債務者グループに対するエクスポージャー

2014年12月31日現在、当行のエクスポージャー合計の個別ベースで9.6%はFSS院長の識別による主要債務者10グループに対するもので、その大部分は財閥であった。下表は、表示日現在における、当行が最大エクスポージャーを有する主要債務者10グループに対する当行のエクスポージャー合計を示している。

	ウォン建て 貸出	外貨建て 貸出	有価証券	保証および 手形引受	その他	エクスポ ージャー合計
2014年12月31日現在	(単位：十億ウォン)					
GS	240	302	51	248	-	841
LG	347	256	62	743	-	1,408
SK	194	688	133	1,176	-	2,191
斗山	155	89	-	80	-	324
ロッテ	330	428	244	228	-	1,230
三星	641	853	173	1,553	-	3,220
ポスコ	212	329	58	166	-	765
韓進	44	25	20	110	-	199
現代自動車	1,076	1,431	142	333	-	2,982
現代重工業	115	406	10	3,666	-	4,197
合計	3,354	4,807	893	8,303	-	17,357

業種別の貸出の集中

下表は、2014年12月31日現在における当行の貸出の残高合計を、業種別に示している。

業種	2014年12月31日現在	
	貸出残高合計	法人向け貸出残高合計 に対する割合
(単位：十億ウォン、%を除く)		
製造	35,642	18.80
不動産、リースおよびサービス	16,599	8.75
小売および卸売業	13,014	6.86
金融および保険	9,110	4.80
建設	2,930	1.55
ホテルおよびレジャー ⁽¹⁾	4,406	2.32
その他	107,936	56.92
合計	189,637	100.00%

注記：

(1) 主にホテル、モーテルおよびレストランからなる。

貸出規模別による貸出の集中

下表は、当行の貸出金の残高合計を2014年12月31日現在の貸出残高別に示している。

	貸出残高合計	貸出残高合計 に対する割合
	(単位：十億ウォン、%を除く)	
法人向け貸出		
10百万ウォン以下	687	0.63
10百万ウォン超50百万ウォン以下	5,672	5.18
50百万ウォン超100百万ウォン以下	5,424	4.96
100百万ウォン超500百万ウォン以下	23,282	21.28
500百万ウォン超1十億ウォン以下	12,161	11.11
1十億ウォン超5十億ウォン以下	26,916	24.60
5十億ウォン超10十億ウォン以下	9,820	8.98
10十億ウォン超50十億ウォン以下	16,663	15.23
50十億ウォン超100十億ウォン以下	4,377	4.00
100十億ウォン超	4,413	4.03
小計	109,415	100.00%
個人向け貸出		
10百万ウォン以下	3,506	4.37
10百万ウォン超50百万ウォン以下	18,770	23.39
50百万ウォン超100百万ウォン以下	17,735	22.11
100百万ウォン超500百万ウォン以下	35,913	44.76
500百万ウォン超1十億ウォン以下	2,983	3.72
1十億ウォン超5十億ウォン以下	1,104	1.38
5十億ウォン超10十億ウォン以下	134	0.17
10十億ウォン超50十億ウォン以下	77	0.10
50十億ウォン超100十億ウォン以下	-	-
100十億ウォン超	-	-
小計	80,222	100.00%
合計	189,637	100.00%

外国向け貸出残高

クロスボーダーの貸出残高は、ウォン建ておよび非ウォン建ての貸出金（未収利息を含む。）、手形引受、その他銀行への有利子預け金、その他有利子投資およびその他貨幣性資産として定義される。ウォン建ての貸出残高はクロスボーダーの貸出残高から控除されている。

下表は、2013年および2014年12月31日現在の、当行の韓国以外の外国向けのクロスボーダー貸出残高の合計が、当行の資産合計の0.75%を上回るものを示している。当行は、2012年12月31日現在、貸出残高が当行の資産合計の0.75%を上回るものはなかった。

2014年 12月31日現在	政府および 公的機関	銀行およびそ の他金融機関	商業および 工業	その他	合計	資産合計に 占める割合
(単位：十億ウォン、%を除く)						
中華人民共 和国	537	2,4344	769	(490)	3,250	1.27%

2013年 12月31日現在	政府および 公的機関	銀行およびそ の他金融機関	商業および 工業	その他	合計	資産合計に 占める割合
(単位：十億ウォン、%を除く)						
中華人民共 和国	40	1,708	1,086	14	2,848	1.20%

2013年および2014年12月31日現在、その債務返済能力に重大な影響を及ぼすと当行が考える債務再編および流動性問題に現在直面している国のうちに、当行の資産合計の0.75%を上回るクロスボーダーの貸出残高を有する国（韓国を除く。）はなかった。

満期分析

下表は、2014年12月31日現在における当行の貸出ポートフォリオの満期予定（満期までの残存期間ごとに表示）を示している。開示されている金額は、これに帰属する貸倒引当金控除前の額である。

2014年12月31日現在				
	1年以下	1年超5年以下	5年超	合計
(単位：十億ウォン)				
法人向け貸出	83,663	22,478	3,274	109,415
個人向け貸出	32,324	15,995	31,903	80,222
総貸出金合計	115,987	38,473	35,177	189,637

当行は、当行が貸出審査手順に従って標準的な貸出審査を行った後、法人向け貸出（主に運転資金融資および設備融資からなる。）および個人向け貸出（分割返済でない場合）について借り換えを認めることができる。当行の運転資金融資は、無担保の貸出については合計3年から5年まで、有担保の貸出については合計5年までの期間について、年ベースで延長することができる。設備融資は通常有担保であり、通常は当初貸出実行日から5年間を最大として、一回の延長が可能である。個人向け貸出は、有担保および無担保貸出の双方について、最大12ヵ月までの追加期間を延長して当初貸出実行日から合計10年間とすることができる。

金利感応度

下表は、2014年12月31日現在における当行の貸出の内訳を金利感応度別に示したものである。

	2014年12月31日現在		
	1 年以内	1 年超	合計
	(単位：十億ウォン)		
固定金利付貸出 ⁽¹⁾	36,453	26,766	63,219
変動金利付貸出 ⁽²⁾	76,926	49,492	126,418
総貸出金合計	113,379	76,258	189,637

注記：

(1) 固定金利付貸出は、全期間について金利が固定された貸出である。

(2) 変動金利または金利調整貸出は、全期間について金利が固定されていない貸出である。

当行の金利リスクの管理に関する情報の詳細は、「第2-3-(3) リスク管理ー市場リスク管理ートレーディング業務から生じる市場リスク・エクスポージャー」を参照されたい。

未収利息不計上の貸出および延滞貸出

買戻した貸出の場合を除き、当行は通常、未収利息不計上の貸出にかかる受取利息を、減損損失を測定するためのかかる貸出の将来キャッシュ・フローの割引に用いられた金利を用いて認識する。通常、当行は、金利および／または元本の支払が90日間延滞した場合、貸出にかかる未収利息の計上を停止する。貸出（買戻した貸出を除く。）は、金利および元本の支払が再開されるまで未収利息計上の貸出として再分類されない。

当行は通常、商業貸出の場合は1日から14日、個人向け貸出の場合は1日から30日にわたり金利の支払が延滞した貸出について、貸出元本残高および関連未収利息の全額を即座に返済するよう借り手に要請することはない。

既往の利息は、当行の会計簿上発生していない未収利息不計上貸出金にかかる支払期日到来利息である。2013年および2014年に、当行は未収利息不計上の貸出について、各年度またはその年の一部の間保有した貸出については実行から期末までの期間においてかかる貸出が当初契約条件のとおり収益計上されていたならそれぞれ69十億ウォンおよび58十億ウォンの総受取利息が計上されたであろう。2013年および2014年の当行の正味利息に含まれたこれらの貸出金にかかる受取利息はそれぞれ45十億ウォンおよび35十億ウォンであった。

下表は、表示された日における1日以上延滞した未収利息不計上貸出金および未収利息計上貸出金とされた貸出金額を示している。「未収利息計上だが1日延滞」には、まだ未収利息を計上しているが元本または利息の支払が契約上は1日以上延滞している貸出を含む。当行は引き続き、未収利息が現金預金により全額担保されている場合を含め、貸出金の全額が未払いである貸出金にかかる未収利息を計上する。

	12月31日現在	
	2013年	2014年
	(単位：十億ウォン)	
未収利息不計上貸出金 ⁽¹⁾		
法人向け	1,464	1,184
個人向け	195	206
小計	1,659	1,390
契約上1日以上延滞となっている未収利息計上貸出金		
法人向け	118	176
個人向け	375	337
小計	493	513
合計	2,152	1,903

注記：

(1) 韓国IFRSに基づき「不良債権再編」である貸出金または金利および／または元本の支払が90日以上（二重に数えることを避けるために開始日および終了日の両方をカバーする貸出金の重複調整後）延滞している貸出を表している。

不良債権の再編

「債務整理および再生手続中の会社に対する信用エクスポージャー」を参照されたい。

下表は、表示日現在における「不良債権の再編」とされる当行の貸出を示している。これらの貸出金は主として、債務整理および再生手続を通じて再編された法人向け貸出からなっている。「債務整理および再生手続中の会社に対する信用エクスポージャー」を参照されたい。これらの貸出金は、当初の契約条件よりも低い金利が付されるか、または再編に際しての条件の変更により、当初の契約上の満期の延長を伴う。

	12月31日現在	
	2013年	2014年
	(単位：十億ウォン)	
「不良債権の再編」に分類された貸出金（未収利息不計上貸出および延滞貸出を除く。）	59	162

「不良債権の再編」に分類された貸出金（未収利息
不計上貸出および延滞貸出を含む。）

701

599

下表は、表示期間における、再編済み貸出について、当初の再編済み貸出の契約条件に基づき当行の受取利息に計上されるべきであった金額と、かかる貸出の再編された契約条件に基づき、実際にかかる貸出について当行の受取利息として計上された金額を示している。

	12月31日現在	
	2013年	2014年
	(単位：十億ウォン)	
再編済み貸出の当初契約条件に基づく受取利息 ⁽¹⁾	61	21
再編済み貸出の再編された契約条件に基づく受取利息	14	10

注記：

(1) 未収利息不計上貸出金および延滞貸出金を含む。

下表は、当行の表示日現在における「不良債権の再編」に分類される法人向け貸出の貸出金残高および個別貸倒引当金（未収利息不計上貸出金および延滞貸出金を含む。）の内訳を、かかる貸出が対象となる再編の種類別に示している。

	12月31日現在			
	2013年		2014年	
	貸出金残高	引当金	貸出金残高	引当金
	(単位：十億ウォン)			
「不良債権の再編」に分類された法人向け貸出 ⁽¹⁾ ：				
債務整理	560	261	463	237
法定管理および和議	141	71	136	23
合計	701	332	599	260

注記：

(1) 未収利息不計上貸出金および延滞貸出金を含む。

下表は、表示日現在の個人債務者向けの「債務整理前プログラム」に基づく債務整理の対象である個人向け貸出（利息不計上貸出および延滞貸出を含む。）の貸出金残高および個別貸倒引当金の内訳を、かかる貸出が対象となる再編の種類別に示している（かかる貸出は前述の法人向け貸出には含まれないため、上記の表に含まれていない。）。「債務整理前プログラム」に関する詳細は、下記「債務整理および再生手続中の会社に対する信用エクスポージャー延滞している消費者および中小企業の借り手に対する信用再生プログラム」を参照されたい。

	12月31日現在			
	2013年		2014年	
	貸出金残高	引当金	貸出金残高	引当金
	(単位：十億ウォン)			
「債務整理前プログラム」に基づく債務整理の対象である個人向け貸出 ⁽¹⁾	23.7	19.3	24.0	17.4

注記：

(1) 未収利息不計上貸出金および延滞貸出金を含む。

下表は、表示日現在の法人向け貸出のうち、減損したとみなされ、下記に記載される当行の一般金利計上方針に基づき利息不計上に分類される再編済み貸出の金額を示している。同表はまた、表示期間の法人向け貸出について、再編済み貸出金の償却合計および再編の一環として持分証券に転換された貸出に関する再編済み貸出の償却金額を示している。

12月31日現在

	2013年	2014年
	(単位：十億ウォン)	
減損した未収利息不計上の再編済み貸出金 ⁽¹⁾	642	437
再編済み貸出金の償却合計 ⁽¹⁾	123	8
再編の一環として持分証券に転換された貸出金	46	32
に関連する再編済み貸出金の償却 ⁽¹⁾		

注記：

(1) 未収利息不計上貸出金および延滞貸出金を含む。

債務整理および再生手続中の会社に対する信用エクスポージャー

当行の再編に対する信用エクスポージャーは、法人債権回収部によって監視され、管理されている。2014年12月31日現在、当行の貸出金合計の0.3%（599十億ウォン）（うち437十億ウォンが未収利息不計上に分類され、162十億ウォンは未収利息計上に分類されている。）が再編中である。当行の信用エクスポージャーの再編が主にする法的形式は、債務整理および再生手続きである。

債務整理

企業再生促進法（一時的に効力を停止されたが、2011年5月19日に再施行され、現在は2015年12月31日まで効力を有する予定である。）に基づき、金融機関の借り手に対するすべての債権者は、債権者委員会への参加を義務付けられる。企業再生促進法は、商業銀行、保険会社、資産運用会社、証券会社、投資銀行、韓国預金保険公社および韓国資産管理公社を含む韓国の幅広い金融機関に対して強制適用される。同法のもとでは、借り手の再編計画（債務再編および追加資金の手当を含む。）には、当該借り手の債務残高合計の75%以上を保有する債権者金融機関の承認が必要であり、かかる計画は借り手のすべての債権者金融機関を拘束する。ただし、債権者委員会が承認した最終的な再編計画に同意しない債権者金融機関は、自身の債権を相互に合意した価格で買い取ることを債権者委員会に請求する権利を有する。債権者委員会と反対する債権者金融機関が合意に達しない場合には、7名の専門家からなる調停委員会が設置され、問題の解決にあたる。これらの手続によって、当行は同意しない計画への参加を要求されるか、または当行が適切ではないと考える価格で債権を売却するよう要求されるかもしれないリスクがある。主たる債権者銀行が、旧企業再生促進法がまだ効力を有していたときに債権者委員会を招集した債務整理に関しては、かかる債権者委員会および関連する債務整理は、当該債務整理が中止となるかまたは終結するまで引き続き旧企業再生促進法に従った手続が適用される。ただし、かかる債務整理は、たとえ当該債務整理が旧法の有効期間内に開始されたとしても、再施行された企業再生促進法の施行日付で、旧企業再生促進法ではなく、再施行された企業再生促進法に基づく手続に従うことになる。再施行された企業再生促進法に基づき、当行のいずれかの借り手が企業再編手続の対象となった場合には、当行は(i)借り手の債務残高合計の75%以上（および再編計画に既存の担保付債権の再編が含まれる場合には担保付債権の債務残高合計の75%以上）を保有する他の債権者金融機関が承認した再編計画に従って当行の債権を再編するか、または(ii)不利な条件でその債権を他の債権者に売却することを強制される可能性がある。

2014年12月31日現在債務整理手続中の当行の貸出金合計は463十億ウォンであった。

再生手続き

債務者再生および破産法のもとでは、法定管理に代えて再生手続が導入された。再生手続では、債務会社の経営が裁判所に任命された管財人に委ねられる法定管理手続とは異なり、債務会社の現最高経営責任者が債務会社の経営を継続することができる。ただし、(i)資産の不正な委譲または隠蔽が存在しないこと、(ii)債務会社の財政破綻が当該最高経営責任者の重過失によるものでないこと、および(iii)合理的な理由に基づき、当該最高経営責任者の交代を裁判所任命の管財人に要求することを目的とした債権者委員会が開催されていないことを条件とする。再生手続はいかなる支払不能債務者によっても開始することができる。また、国際基準を満たすために、国際破産手続が韓国で導入された。かかる手続に基づいて、外国の破産手続の管財人は係属中の外国破産手続について韓国の裁判所の承認を得て、韓国の破産手続を申請し、またはこれに参加することができる。同様に、国内の再生手続の管財人または破産管財人は、適用ある外国の法律により認められる範囲で、債務者の資産が所在する外国においてその職務を遂行することが認められている。

2006年4月1日（債務者再生および破産法の施行日）現在係属中の和議、会社更生、破産および再生手続で個人債務者に係るものはいずれも、引き続きそれぞれの適用法に従って手続を行う。

2014年12月31日現在、和議手続の対象となっていた貸出金合計は136十億ウォンであった。法定管理の対象となっていた貸出金はなかった。

債務整理および再生手続中の貸出金は、通常90日超延滞しておりかかる貸出金には利息が生じないことから、上記「未収の貸出および延滞貸出」に記載されるように当行の財政状態計算書（「第6－1 財務書類」に記載されている「財務状態表」と同じ意味である。以下、同様。）において利息不計上貸出金として計上されている。不良債権の再編の定義を満たす再編済み貸出金は、上述の「不良債権の再編」において記載される不良債権の再編として報告される。かかる再編済み貸出金は、再編の結果として受領する商品の種類に応じて、当行の財政状態計算書上貸出金または有価証券として報告されている。

延滞している消費者および中小企業の借り手に対する信用再生プログラム

韓国政府は、クレジットカードやその他の消費者信用における延滞が徐々に増加していることに鑑みて、延滞している消費者たる借り手の信用再生を支援することを目的としたいくつかの措置を実施している。こうした措置は、当行が延滞している消費者信用から回収する金額や時期に影響を及ぼす可能性がある。

債務者再生および破産法に基づき、債務残高合計が無担保債務500百万ウォンおよび／または担保付債務1十億ウォンの上限を超えない適格な個人債務者は、債権者に対して拘束力を有する裁判所監督に基づく債務再編を通じて自己の債務を再編することができる。

FSCによって設定されたコクミン・ハッピー・ファンドは、信用スコアの低い個人の借り手を支援するために、不良債権を債権者から買い取るか、より低い利率での借り換えができるよう保証を提供する。より詳しく説明すると、コクミン・ハッピー・ファンドは、(i)信用格付が6から10である借り手（「生活保護受給者」であるか、年間所得が30百万ウォン以下の個人についてはこの要件は免除される。）、(ii)年間所得が40百万ウォン以下の借り手（借り手が自営業者であるか、2人以上の扶養家族を有する場合は年間所得は45百万ウォン以下）、(iii)借り手の合計返済額が10百万ウォン超である場合は最低6ヵ月間、借り手の合計返済額が10百万ウォン以内である場合は最低3ヵ月間、期日通りの返済を行ってきた借り手に対し、信用保証を提供する。2014年、当行は合計0.5十億ウォンの債権をコクミン・ハッピー・ファンドに売却した。

FSSのガイドラインに基づき、当行を含む韓国の銀行は、中小企業への流動性支援を優先的に提供するための「ファスト・トラック」プログラムを運営している。当行が構築したファスト・トラック・プログラム（2015年末まで有効である。）に基づき、当行は、かかる支援を申請する中小企業の借り手に対して、優先的な信用審査および承認を行った後に、新規短期貸出または既存貸出に対する満期延長もしくは金利調整の形により流動性支援を提供した。

FSCはのガイドラインに基づき、当行を含む韓国の銀行はまた、短期の未返済債務を有する個人の借り手に対して「債務整理前プログラム」（信用カウンセリングおよび再生サービスを含む。）を運営している。当行の債務整理前プログラムは通常、(i)最低2金融機関からの無担保の借入額が合計500百万ウォン未満であり、(ii)支払いの遅延が30日超90日未満であり、(iii)債務整理前プログラムの申請前の6ヵ月間に行われた新規借入の合計が申請者の借入残高合計の30%を超えず、(iv)支払債務の元本および利息の年間合計金額が借り手の年間所得の30%以上であり、(v)保有資産合計が1十億ウォン未満（不動産の場合は国土交通部によって公表された土地公示価格に基づいて計算される。）であり、かつ(vi)債務整理委員会により、レイオフ、失業、事業閉鎖、災害または収入喪失による債務整理前取決めがなく、その返済能力において減損しているとみなされるという基準をすべて満たす個人の借り手に対し提供が可能である。これらの基準のいずれかに当てはまらないか、過去に債務整理前プログラムに参加したことがあるか、または過去の債務整理前プログラムへの参加中に資格を喪失した個人の借り手は、債務整理前プログラムに参加する資格を有しない。

借り手が債務整理前プログラムへの参加資格を有するとみなされると、当行はその損失を軽減するために、ただちにかかる借り手に対する有担保貸出の担保を売却し、かかる借り手に対する無担保貸出（その種類にかかわらず）を以下のように再編することができる。

- ・期間の延長：貸出の種類、貸出金額合計、返済金額および返済可能性についての検討に基づき、満期を10年まで延長することができる。
- ・金利の調整：貸出金利を当初金利の70%または年利5%のいずれか高い方に調整することができる。ただし、当初金利が年利5%未満の場合には調整は適用されない。調整後の金利は、債務整理前プログラムの一環であるいかなる調整後の元本に対し適用され、すでに発生した利息または支払手数料に対して利息は発生しない。
- ・債務免除：債務整理前プログラムに基づく債務免除は(i)債務整理前プログラム申請前に発生した遅延利息ならびに(ii)プログラム申請から承認までに発生した通常利息および遅延利息に限定される。
- ・繰延べ：レイオフ、失業、事業閉鎖、災害または収入喪失により適格な借り手に対する有意義な支援を提供するという観点から、上記の3つの手段が不十分であるとみなされる場合、貸出の返済を最長1年繰延べることができる。ただし、借り手の申請（1ヵ月ごとに申請できる。）があれば、債務整理前委員会はかかる繰延期間を延長することができる。繰延期間は返済期間として計算されず、繰延期間中の金利は年3%である。

2013年および2014年に当行の債務整理前プログラムに基づき修正された貸出金合計はそれぞれ35十億ウォンおよび24十億ウォンであった。かかる修正済み貸出金はすべて満期延長および金利引下げを適用されたが、かかる貸出のうちごくわずかにについては債務免除および繰延べが適用された。

再編中の貸出金に係る貸出条件改訂プログラム

当行は通常、再編済み貸出金について、金利の軽減、延滞利息の免除、元本の返済期日の延長、債務の株式への転換またはこれらを組み合わせた種類の条件緩和を与えている。かかる条件緩和の内容および程度は、とりわけ借り手の信用度、再編される貸出金の規模、当該貸出金の現行条件および関連する債権者委員会によって関連があるとみなされるその他の要因によって異なる。当行は通常、既存の貸出金を新たな複数の新規貸出金（例えば、債券A／債券Bの構成）に再編することはしない。

下表は、2013年および2014年12月31日現在、当行の貸出条件改訂プログラムによって再編中の貸出金総額の内訳を、貸出区分ならびに延滞／非延滞の状況別に示している。

2013年12月31日			
改訂プログラム	延滞	非延滞	合計
(単位：十億ウォン)			
元本および利息について支払期限の延長	2	81	83
利息の軽減	51	283	334
株式への転換	-	-	-
追加貸出 ⁽¹⁾	-	169	169
その他 ⁽²⁾	18	96	114
合計：	71	629	700
2014年12月31日			
改訂プログラム	延滞	非延滞	合計
(単位：十億ウォン)			
元本および利息について支払期限の延長	56	315	371
利息の軽減	-	29	29
株式への転換	-	-	-
追加貸出 ⁽¹⁾	-	118	118
その他 ⁽²⁾	40	41	81
合計：	96	503	599

注記：

- (1) 再編パッケージの一部として、より有利な条件で借り手に提供された追加貸出を示す。これには、なかでも支払期日の延長または利息の軽減が含まれることがある。
- (2) 主として、表示日現在再編条件が決定されていなかった再編済み貸出金からなる。貸出金は、再生手続の開始をもって、または関連する債権者委員会もしくは当行の貸出担当者が借り手は債務整理の対象となると判断した時に再編が開始されたものとみなされ、多くの場合、かかる貸出金についての再編の条件はかかる貸出金が再編の対象になるとみなされる時点においては決定されていない。

債務の株式化

当行は、改訂後の条件で回収可能とみなす貸出金と、いかなる条件の改訂を行っても回収不能とみなす貸出金を区別している。当行は、後者の貸出金に関しては、かかる貸出金の一部を借り手との交渉後に株式に転換し、以下に詳述するように当該貸出金の残存部分を償却する。そのように転換された株式は、入手可能であればかかる証券の時価に基づく公正価値で、時価を入手できない場合には外部評価人による当該証券の評価額で計上される。2014年に当行の株式への転換により再編された貸出金は59十億ウォンにのぼり、このうち32十億ウォンは後に償却として処理され、27十億ウォンは株式の新取得原価として処理された。

債務の株式化には、概して二つの主なメリットがある。一つは、債務の株式化によって借入額および関連する借り手の利息費用が減少し、その結果債務負担額が減少して流動性が増加し、借り手が再編から脱却して当行への債務を返済する可能性が高まる。二つ目は、借り手の再生が成功した場合には、当行は転換された株式の価値の値上がり益に対する権利を有する。しかしながら、これらのメリットにも拘らず、再編の一環として転換される貸出金は概ねいかなる条件の改訂を行っても回収不能とみなされることから、債務の株式化が当行の受取利息に与える影響は通常重大ではない。当行の資産分類に与える影響については、当行は概して、非再編済み貸出金および再編済み貸出金の双方に対して同じ資産分類基準を適用する。再編済み貸出金については、当行はまた、とりわけ適用可能な範囲で借り手のその事業計画に対する強い意志および自助手段の実行といった追加要因を考慮した。かかる基準を考慮し、当行は通常、債務整理の対象となる貸出金を「要注意」として分類している。当行の貸出分類の一般的な説明については、「一(6) 監督および規制—銀行に適用される主要な規制—自己資本比率」を参照のこと。

貸出条件改訂プログラムの評価

当行は、借り手が再編済み貸出金の改訂後の条件を遵守しているかどうかを個別ベースで監視しているものの、現在、個別の条件緩和の成果を種類別に体系的または定量的に評価（歴史的なものか、相互の関連性または韓国の他の金融機関との関係の点からなされるものかを問わない。）してはいない。これは主に以下の理由による。

一つには、再編の対象であるか対象となりそうな大企業（韓国で最も多くの再編事例を占める。）の場合、通常再編手続は当行ではなく、いくつかの大規模な債権者金融機関を含む債権者委員会によって主導され、大企業または大規模なビジネス・コングロマリットのグループ企業の場合には、再編が経済全般に波及効果をもつ可能性に鑑みて政府の指導が必要になることが多い。したがって、当行が借り手の信用情報やどのような種類の条件緩和を与えたかに基づいて個別の条件緩和の成果を評価するのに役立つデータを収集することは困難である。

第二には、韓国における再編事例は借り手が再編プログラムから比較的早期に脱却できる能力の点でみると大部分が成功しており、さらに失敗事例で特に重大なものはこれまでなかったとの当行の一般的な判断にも拘らず、これを体系的には分析できないことである。

その結果、今日まで当行は、提供された特定の条件緩和の成果を種類別に評価する目的で、体系的な分析を実施するための必要な時間と資源を費やすことが特に必要であるかまたは役立つとは考えていない。

しかしながら、当行は限られた方法で、つまり、主に借り手と債権者機関との間で合意された再編計画の契約条件を借り手がどの程度遵守しているかという点から条件緩和の成果を測定している。再編計画には通常、事業計画および借り手が実施する自力救済が含まれる。当行は、借り手による再編計画の遵守を定期的に監視し（再編計画の条件に従って年毎、半年毎および四半期毎）、(i)事業計画の実施の進展、(ii)自力救済措置の実施の進展、ならびに(iii)経済全般における主要な展開、規制環境、競争上の展望、上級役員の質および経営の透明化といったその他の数量的要素という、主に3つの属性に関して当該条件緩和の成果を評価している。当行はまた、借り手の現金の流入と流出を注意深く監視し、債権者委員会は通常、借り手による主な支出および借入関連の意思決定に参加する権利を有している。

再編済み貸出金に対する未収利息計上方針

当行は、未収利息計上方針の目的上、再編済みの貸出金を主に(i)企業再生促進法に基づく債務整理の対象である貸出金、および(ii)債務者再生および破産法（韓国における総合的な破産関連法）に基づく再生手続きの対象である貸出に分類している。上記「債務整理および再生手続中の会社に対する信用エクスポー

ジャー」を参照されたい。債務整理対象の貸出については、当行の一般的方針は、上記「未収の貸出および延滞貸出」に記載されるとおり、貸出にかかる元本または利息の支払が90日以上延滞した時に未収利息の計上を中止するというものである。これらの貸出金については、かかる貸出金が未収利息不計上に区分変更された日から利息は現金ベース（すなわち回収時）で認識され、かかる貸出金は延滞している元本および／または利息が全額返済されるまで、利息計上に区分変更されない。この全般的な方針は、かかる貸出金が再編済み貸出金であった場合においても、債務整理対象の貸出金にも適用される。再生手続きの対象である貸出金の場合には（例えかかる貸出金の支払がまだ遅延していない場合でも）、当行は、借り手の返済能力に関する懸念の高まりに鑑みて、借り手が再生手続きの対象となり次第、直ちに未収利息の計上を中止する。かかる貸出金に対する利息は現金ベースで認識され、かかる貸出金は、借り手が再生手続きから脱却するまでは未収利息計上に区分変更されない。したがって、当行の未収利息計上方針に基づき、未収利息不計上の再編済み貸出金に対する支払回数は、かかる貸出金を利息計上状況に戻すかを判断する際に関連する要素とはならない。

再編済み貸出金の履行の判断

当行は、借り手が既存の貸出条件に基づきその義務を満足に履行したかを判断する場合、主に借り手の支払履歴、すなわち当該借り手が当行の一般的な利息計上方針に基づく1日以上延滞をしたかを検討する。借り手が再編後の条件に従って引き続き契約履行能力を示しているかについては、当行は主に、再編後の条件に基づく借り手の弁済能力の見込みに関する貸出担当者（または多額の貸出金残高を有する大企業の借り手の場合には債権者委員会）による評価に基づいて判断し、かかる評価では問題となっている貸出金の規模、借り手の信用プロフィール、当該貸出金の当初条件および関連する貸出担当者が関連性があるとみなすその他の要因が考慮される。問題となっている貸出金の規模や借り手の信用プロフィールといった様々な要因によって、当行または関連する債権者委員会は、場合に応じて、上述の評価を補完すべく詳細なデュー・デリジェンスを実施するために外部のコンサルタント会社を雇用する場合がある。一部の場合には、借り手は再編に対する承認を促進するよう自力救済案も提出する。かかる救済策も、再編後の条件に基づいて借り手が引き続き契約を履行する将来の能力を判断する際に、当行の貸出担当者または関連する債権者委員会（場合による）によって検討される。

再編済み貸出金の償却

当行は、改訂後の条件に基づいて回収可能と考える貸出金に関しては、通常かかる貸出金を改訂後の条件（例えば、元本および／または利息の返済期日を延長するか、適用利率を下回る利率を実勢市場金利を下回る利率に軽減するか、またはこれらの組み合わせによる。）に基づいて再編し、かかる貸出金のいかなる部分も償却しない。

当行は、いかなる条件の改訂にも拘らず回収不能と考える貸出金に関しては、かかる貸出金の一部について、とりわけ(i)持分証券への転換が借り手の債務負担および流動性上の懸念をどの程度軽減するか、(ii)当該貸出金が持分証券に転換されなかった場合の回収可能性と比較して当該持分証券の価値から得られる当行の潜在的なメリット、ならびに(iii)かかる転換後の持株構成に関する借り手の懸念を考慮して、かかる貸出金の一部を借り手の持分証券（通常は普通株式）に転換することを交渉する。当行は次に、持分証券に転換されなかった貸出金の残存部分を償却する。そのように転換された持分証券は、入手可能であればかかる証券の市場価値に基づく公正価値により、市場価値が入手できない場合には外部評価人による当該証券の評価額により計上される。

当行は、債務整理対象貸出金については通常90日以上延滞がない限り未収利息を計上するが、再生手続きの対象貸出金については通常未収利息を計上しないことから、償却は当行が特定の再編済み貸出金の利息計上状況を判断する際に検討する関連要因とはならない。

当行は、すべての債務に対して契約上支払われるべき利息および元本の返済が合理的に保証されていると判断する場合には、再編済み貸出金について引き続き未収利息を計上する。かかる判断は、とりわけ、問題となっている貸出金の規模および借り手の信用の質といった様々な要素に関する当行貸出担当者または関連する債権者委員会による評価（場合により、外部のコンサルティング会社によるデュー・デリジェンスによって補われる。）に基づいて、当行が借り手の返済能力を注意深く検討した後にのみなされる。

潜在的不良債権

2012年、返済不能の著しい潜在性を有する貸出についてより体系的かつリアルタイムな監視を可能にするために、当行は「早期警告システム」をアップグレードした。このシステムにより、当行の経営陣は、それぞれの貸出金返済条件に従った借り手の返済能力について深刻な疑いがあると当行の経営陣が考える貸出金すべてを含めて潜在的不良債権を決定することができる。

当行は潜在的不良債権を「早期警告貸出」として指定される貸出として分類し、FSSに報告する。「早期警告貸出」としての指定は、(i)当行の早期警告システムにより、当該借り手の財務データ、信用情報および/または銀行との取引に基づき信用リスクの兆候を示していると特定され、かかる特定の後、(ii)当行の貸出担当者により、かかる借り手に起こりうる信用問題についての既知情報の評価に基づき潜在的不良債権として指定された借り手に対して適用される。かかる貸出は四半期ごとにFSSに報告することが義務付けられている。ある借り手のローンが上記のプロセスに従い「早期警告貸出」として指定され、当行のFSSへの四半期報告書に記載される場合、当行はこれを、かかる借り手に近い将来その返済条件に従った返済能力に深刻な疑いのある兆候とみなす。2014年12月31日現在、当行の潜在的不良債権は1,328十億ウォンであった。

その他の不良利付資産

当行は過去に、不良債務再編に関して一定のその他利付資産を受領した。これらが貸出金であれば、上記のとおり一部不良、延滞または潜在的不良債権として開示しなければならない。しかし、2013年および2014年12月31日現在、当行はかかる資産を有していない。

引当方針

当行は、信用リスクを特定し、貸倒引当金全般を設定するために、定期的かつ系統的に貸出ポートフォリオの詳細な検討を実施している。当行の経営陣は、貸倒引当金は各財政状態計算書日現在における予想貸倒損失額の最善の見積りを反映していると考えている。

当行はまず、減損の客観的な証拠が個別に重要な貸出金および債権について個別に存在するか、または個別には重要ではない金融資産について個別にもしくは集合的に存在するかを査定する。当行が個別に評価された金融資産について減損の客観的な証拠がないと判断する場合、これが重要であってもなくても、同程度の信用リスク特性を有する金融資産の集合体にかかる資産を含め、減損について集合的に評価する。個別に減損評価される資産で、減損損失が認識されるかまたは継続して認識される資産は集合的減損評価には含まれない。

貸出金または債権といった金融資産に減損損失が発生している客観的な証拠がある場合、減損損失の金額は、資産の帳簿価額と金融資産の当初実効金利（すなわち、当初認識において計算された実効金利）で割り引いた見積将来キャッシュ・フロー（予想信用損失を除く。）の差額として測定される。

問題の金融資産が変動金利の貸出金または債権である場合、減損損失を評価するために用いられる割引率は関連する取引契約において定義された現行実効金利である。担保付金融資産の見積将来キャッシュ・フローの現在価値は、かかる担保の実現可能性にかかわらず、担保を取得し売却する費用を控除した後の担保からのキャッシュ・フローを含めて計算される。

集合的な減損を評価する際、当行は、資産の種類、業種、所在地、担保の種類、延滞およびその他関連要因を考慮した信用リスク評価または信用格付評価プロセスに基づき金融資産を格付けし、分類する。

集合的減損評価に適用される金融資産の将来キャッシュ・フローは、債務不履行の可能性の実績における歴史的傾向、回収時期および発生した損失額についての統計的モデリングを用いて見積もられ、現在の経済および信用情勢のために歴史的モデリングで示唆される金額を減損損失が上回る可能性と下回る可能性とのどちらが高いかについての経営陣の判断により調整される。歴史的モデリングに基づき将来キャッシュ・フローを調整する場合、当行はかかる調整が観測可能データの変動および傾向に一致することを確保しなければならない。将来キャッシュ・フローを見積るために用いられる方法および仮定は、減損見積りと実際の損失との乖離を小さくするために定期的に見直される。「第3-7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析—重要な会計方針—金融資産の減損—貸出金および債権」を参照されたい。

法人向け貸出

当行は、正式な審査を通じ、法人向け貸出の減損の可能性について毎年見直している。さらに、当行の貸出担当役員は、減損事由が生じたことが示された場合には、当該債権の減損の有無を年度を通して検討する。

韓国IFRSの下では、資産の当初認識後に減損事由が生じたことが客観的な証拠により示された場合で、かつ、かかる減損事由が資産の見積り将来キャッシュ・フローにマイナスの影響を及ぼし、これが信頼性をもって見積られる場合に、貸出が減損する。当行はとりわけ、下記の貸出を減損していると考えている。

- ・元本または利息が90日間以上延滞している貸出
- ・債務不履行により償却、債務再編（再生手続および債務整理を含む）または破産の対象となる貸出
- ・過去の延滞、保証の履行または代位弁済の事実を示す信用履歴を有する顧客に対する貸出
- ・個人小切手、法人小切手または約束手形の決済停止命令により最終的に支払不能となった顧客に対する貸出

法人向け貸出の貸倒引当金は、特定の貸出が減損したか否かに基づき設定される。貸出残高の比較的少ない法人向け貸出は、集合的に管理されるため、減損評価も集合的に行われる。

－検討のために個別に特定され、減損とみなされた貸出金

行内信用リスク監視方針に従い、当行は貸出残高の比較的大きい減損貸出（通常30億ウォン超）について個別に減損評価する。これらの貸出金の貸倒引当金は通常、当行が受取ることが見込まれる見積り将来キャッシュ・フロー（元本および利息の双方）を貸出の実効金利で割り引くことにより設定される。当行は、見込まれる将来キャッシュ・フローの最善の見積りを決定するにあたり、起こりうるすべての可能性を考慮している。当行経営陣は個別の貸出担当者と密接に協議し、これらの見積りが有効であることを確保するために、用いられるキャッシュ・フロー想定を検討する。

当行は、貸出金の割引キャッシュ・フローがその帳簿価額よりも低い場合に法人向け貸出の減損引当金を設定する。引当金は、かかる貸出金の割引キャッシュ・フローの金額と帳簿価額との差額と同額である。

当行はまた、貸出金の観測可能な市場価格を参考に減損を測定することができるが、この情報は韓国においては一般に入手できない。

－集合的に減損評価される貸出金

当行はまた、貸出残高の比較的少ない法人向けの減損貸出（通常30億ウォン以下）について引当金を設定する。これらの貸出金を個別に分析することは現実的でないため、当行はこれらをポートフォリオに基づき管理しており、その減損を集合的に評価する。かかる貸出金の引当金は、ポートフォリオの過去の実績、貸倒損失履歴および償却情報を考慮した損失要素に基づき決定される。

当行は、割引キャッシュ・フロー（以下「DCF」という。）・モデルに基づき、検証期間が1年より長い統計ツールを使用して損失要因を特定している。比較的金額の少ない減損した法人向け貸出金については、当行は集合的DCFモデルを用いている。集合的DCFモデルに基づき、当該貸出金のキャッシュ・フロー予測は各借手について個別に計算されず、類似の特性（例えば、個人向けか法人向けか、有担保か無担保かなど）を共有する貸出金の集合として集合的に計算されるが、それ以外については、当行が予測キャッシュ・フローを現在価値で割り引く場合、当行は各借手の減損前の実効金利を適用する。

－減損として特別に特定されない貸出金

当行は、減損していない法人向け貸出について減損が特段まだ特定されていないポートフォリオ内で発生した損失を反映して集合的に引当金を設定している。当行は、バーゼルIIの枠組みに基づき、リスク格付によるデフォルト率およびデフォルト時損失率といった測定可能な長期リスクファクターに基づく移動分析にかかる歴史的損失率を計算するために、バーゼルIIに基づく先進内部格付手法として知られているデフォルト率（PD）/デフォルト時損失率（LGD）手法を使用している。

デフォルト率に基づく貸出のグループ分けでは、法人向け貸出は、関連する信用評価モデルにより付与された信用格付に基づき異なるリスク・クラスに分類され、個人向け貸出は、貸出の種別、満期構成および延滞期間に基づき異なるリスク・クラスに分類される。

デフォルト時損失率に基づく貸出のグループ分けでは、担保付貸出は、対象となる担保の種類、担保の所在地およびローン資産価値比率に基づき別々のリスク・クラスに分類され、無担保貸出は、貸出の種別に基づき異なるリスク・クラスに分類される。

個人向け貸出

当行は、下記の個人向け貸出を個別減損評価により減損していると考えている。

- ・元本または利息が90日間以上延滞している貸出
- ・債務不履行により、償却、債務再編（再生手続および債務整理を含む）または破産の対象となる貸出
- ・過去の延滞、保証の履行または代位弁済の事実を示す信用履歴を有する顧客に対する貸出
- ・個人小切手、法人小切手または約束手形の決済停止命令により最終的に支払不能となった顧客に対する貸出

すべての個人向け貸出のデフォルト率およびデフォルト時損失率を決定するために、個人向け貸出には異なるグループ分けが用いられること、および個人所得や資産といった個人情報を入力することは難しいため、その金額にかかわらず集合的に（個別にではなく）査定されることを除き、個人向け貸出の引当方針は法人向け貸出の引当方針と類似している。

個人向け貸出の貸倒について、当行はポートフォリオの過去の実績、過去の貸倒損失履歴および不動産により担保された貸出については過去9年間、無担保およびその他の有担保貸出については過去4年間にわたる償却情報を考慮した損失要素に基づき引当金を設定する。

当行はさらに、当行の履歴分析によって適切に把握できなかった損失認識に影響を与える可能性のある要素に基づき損失要素を調整する。これらの要素には下記が含まれる。

- ・失業率および住宅価格の水準といった経済状況ならびに事業状況の変化
- ・与信の集中を含むポートフォリオの特性および金額の変化
- ・規制上のまたは政府による要件といった外部要素

貸出金の経過期間表

下表は、表示日現在におけるすべての貸出に関する当行の貸出金の経過期間表（未収利息を除く。）を示している。

12月31日現在	非延滞		3ヵ月以下の延滞		3ヵ月-6ヵ月の延滞		6ヵ月超の延滞		合計
	金額	%	金額	%	金額	%	金額	%	金額
(単位：十億ウォン、%を除く)									
2012年	169,732	99.13	666	0.39	178	0.10%	648	0.38	171,224
2013年	174,815	99.30	759	0.43	118	0.07	352	0.20	176,044
2014年	188,483	99.39	603	0.32	144	0.08	407	0.21	189,637

不良債権

不良債権は、90日以上支払期限を経過した貸出金として定義される。下表は、表示日現在における当行の不良債権ポートフォリオ合計およびその貸出金合計に占める割合を示している。

	12月31日現在	
	2013年	2014年
	(単位：十億ウォン、%を除く。)	
不良債権合計額	470	551
貸出金合計額に占める割合	0.27%	0.29%

不良債権の分析

下表は、表示日現在における当行の不良債権合計を借り手の種類別に示している。

	12月31日現在					
	2013年			2014年		
	貸出金合計	不良債権 ⁽¹⁾	不良債権比率	貸出金合計	不良債権 ⁽¹⁾	不良債権比率
	(単位：十億ウォン、%を除く。)					
法人	103,012	338	0.33%	109,415	410	0.37%
個人	73,032	132	0.18	80,222	141	0.18
合計	176,044	470	0.27	189,637	551	0.29

注記：

(1) 6ヵ月を超えて延滞された無担保貸出を含む。

業種別不良債権

下表は2014年12月31日現在の当行の法人向け不良債権の業種別内訳を示している。

業種	法人向け不良債権 残高総額	法人向け不良債権 残高総額に占める割合
	(単位：十億ウォン)	(%)
不動産、リースおよびサービス	155	37.81%
建設	31	7.56
製造	144	35.12
小売および卸売	17	4.15
輸送、倉庫および通信	19	4.63
ホテルおよびレジャー	7	1.71
金融業および保険	-	-
その他のサービス ⁽¹⁾	18	4.39
その他 ⁽²⁾	19	4.63
合計	410	100.00%

注記：

(1) 出版、マスコミおよび教育といったその他サービスを含む。

(2) 農業、林業、鉱業、電気およびガスといったその他産業を含む。

不良債権上位20件

2014年12月31日現在における当行の不良債権上位20件は、当行の不良債権合計の52.27%を占めていた。下表は、表示日現在における、当行の不良債権の上位20件に関する一定の情報を示している。

2014年12月31日現在

業種			元本残高総額	貸倒引当金
			(単位：十億ウォン)	
1	借り手A	不動産、リースおよびサービス	90	-
2	借り手B	製造	29	3
3	借り手C	不動産、リースおよびサービス	23	1
4	借り手D	製造	22	-
5	借り手E	建設	18	6
6	借り手F	製造	18	-
7	借り手G	製造	13	-
8	借り手H	製造	9	9
9	借り手I	不動産、リースおよびサービス	9	-
10	借り手J	不動産、リースおよびサービス	9	-
11	借り手K	その他サービス	6	-
12	借り手L	輸送、倉庫および通信	6	-
13	借り手M	建設	5	-
14	借り手N	製造	5	2
15	借り手O	不動産、リースおよびサービス	5	1
16	借り手P	輸送、倉庫および通信	5	-
17	借り手Q	輸送、倉庫および通信	4	-
18	借り手R	建設	4	-
19	借り手S	不動産、リースおよびサービス	4	-
20	借り手T	製造	4	4
合計			288	26

不良債権対処戦略

当行の主な目的の一つは、当行の貸出金の不良債権化を防ぐことである。当行の貸出担当者が、借り手の信用格付に依拠して信用リスクの高い借り手に新規貸出金を付与することを防止するよう設計された当行の企業信用格付システムを通じて、当行は将来の不良債権に関連するリスクの軽減に努めている。また、当行の早期警告システムは、借り手の信用リスクの急激な上昇があれば貸出担当者に注意を喚起するよう設計されており、その後同担当者はかかる貸出金を注意深く監視する。

こうした予防的な仕組みにも拘らず貸出金が不良債権化した場合には、不良債権の監視に責任を負う支店レベルの担当者が当該借り手の資産に関するデュー・デリジェンスを開始し、支払要請通知または当行が法的措置を取るかもしくは法的措置の準備にかかる旨の通知を送付する。

これと同時に、当行は以下を含む不良債権管理プロセスにも着手する。

- ・ 売却予定の対象となる貸出金を、かかる不良債権の担保（もしあれば）の見積り回収価値に基づいて、当該売却による見積損失を評価することで特定する。
- ・ 不良債権の担保（もしあれば）の見積り回収価値および無担保貸出金の予想回収率に基づいて、償却対象となる貸出金を特定する。
- ・ 限定的な範囲で、借り手のキャッシュ・フローの状況に基づいて、正常化への取組みの対象となる商業貸出金を特定する。

不良債権の詳細が特定されると、当行は回収のために早期解決を図る。実際の不良債権回収への取組みは、とりわけかかる貸出金の内容および借り手に応じて関連部門が担当する。

担当部署および部門の担当者または代理人は、不良債権を解決するために以下を含む様々な手法を使用する。

- ・返済を要求するために借り手への電話や訪問を行うこと
- ・当行の借り手の資産を継続的に査定および評価すること
- ・必要に応じて、担保権の執行、差押えおよび訴訟といった法的措置に着手すること

担保権の執行および訴訟の対象となる貸出金の迅速な回収を促すために、これらの貸出金の担当支店は、当該貸出金を本社の関連部門に移管することができる。

当行は、約束手形の場合は支払不履行から1ヵ月以内に、その他の貸出金の場合は支払遅延から4ヵ月以内に法的手続を開始する方針である。支払不能であるかまたは破産した借り手に対する貸出金について、または通常の手続による回収が不可能であると当行が判断したときは、当行は猶予期間に拘らず迅速な法的措置を取る。

当行は、こうした不良債権の回収への取組みの他に、以下を含む不良債権の水準を低下させるための措置を講じている。

- ・韓国資産管理公社を含む第三者に不良債権を売却すること
- ・不良債権に関して資産証券化取引を実行すること
- ・代理契約に基づき新韓信用情報を通じて3ヵ月以上延滞している個人向け貸出を管理すること
- ・ソロモン信用情報といった信用情報会社を含む第三者の回収機関を利用すること

2014年、当行は不良債権24十億ウォンを第三者に売却し、13十億ウォンをバロ投資証券に譲渡した。「第3－4．事業等のリスク－法律、規則および政府政策に関するリスク－政府は、政策目的への取組みにおいて一定の部門に的を絞った貸出を奨励することがあり、当行はこの要因を考慮に入れることがある。」を参照されたい。第三者に譲渡された債権は通常真正売却の基準を充たしているため、認識中止される。

下表は当行の2014年における不良債権のロールフォワードを示している。

(単位：十億ウォン)

2013年12月31日現在の不良債権	470
延滞による不良債権の増加	251
売却された債権	(24)
償却された債権	(60)
貸出条件の改訂により非延滞となった債権	6
その他調整 ⁽¹⁾	(92)
2014年12月31日現在の不良債権	551

注記：

- (1) 返済された貸出金および貸出条件改訂によることなく非延滞に戻った貸付金を表している。当行は、売却された不良債権、償却された不良債権および貸出条件が改訂されたことにより非延滞となった不良債権を除く不良債権または売却可能投資ポートフォリオに振替えられた不良債権を個別に回収および分析していない。

貸倒引当金の配分

下表は、表示日現在における当行の貸倒引当金の配分を種類別に示している。

	12月31日現在			
	2013年		2014年	
	引当額	引当金合計に 対する割合	引当額	引当金合計に 対する割合
	(単位：十億ウォン、%を除く)			
法人向け	1,415	88.00%	1,370	86.71%
個人向け	193	12.00	210	13.29
貸倒引当金合計	1,608	100.00%	1,580	100.00%

当行の貸倒引当金合計は、2013年12月31日現在の1,608十億ウォンから28十億ウォン（1.74%）減少して2014年12月31日現在には1,580十億ウォンとなった。これは主に、個人向け貸出における延滞が減少したことにより、その他個人向け貸出における損失率が低下し、これに対応して質の高い貸出の比率が増加したことによるものである。

貸倒引当金の分析

下表は、各表示期間における当行の貸倒損失の実績の分析を示している。

	12月31日終了年度	
	2013年	2014年
	(単位：十億ウォン、%を除く)	
期首残高	1,760	1,608
引当金繰入額	663	442
償却総額：		
法人	(583)	(382)
個人	(182)	(141)
償却総額合計	(765)	(523)
回収額：		
法人	128	169
個人	25	16
回収額合計	153	185
正味償却額	(612)	(337)
譲渡貸出金関連引当金	(117)	(33)
その他	(86)	(99)
期末残高	1,608	1,580
正味償却額の平均貸出金残高に対する比率	0.36%	0.19%

貸出金の償却

当行の償却総額は、2013年度の765十億ウォンから2014年度には523十億ウォンへと31.6%減少したが、これは主に、2013年に造船業および建設業の会社に対する減損貸出の多くを償却したために減損資産が減少したためである。

2014年、再編された債権の償却額は67十億ウォンとなり、このうち59十億ウォンは再編の一環として持分証券に転換された債権に関するものであった。貸出条件の改訂にもかかわらず当行が回収不能とみなした債権については、当行は借り手との交渉を経てかかる債権の一部を持分証券に転換し、かかる債権の残りを上記「不良債権の再編－再編済み貸出金の償却」において記載したとおり償却する。転換された持分証券は、かかる有価証券の市場価格が入手可能であればこれに基づき、市場価格が入手不可能であれば外部鑑定士によるかかる有価証券の評価額に基づき、公正価値で計上される。

基本方針

当行は、貸出供与前の信用リスク分析に基づいた堅実な与信承認プロセスを実施し、貸出金残高を体系的に管理することによって貸出金の償却を最小限に留めるよう努めている。

償却対象の貸出金

貸出金は、以下の区分のいずれかに該当し、回収不能とみなされた場合には、償却される。

- ・支払不能もしくは破産、解散または債務者の事業の終了によって、その回収を予見することができない貸出金
- ・債務者の死亡または行方不明によりその回収を予見することができない貸出金
- ・回収費用が回収額を上回る貸出金
- ・法的手段またはその他の手段を通じて回収することができない貸出金
- ・6ヵ月を超えて延滞している無担保の個人向け貸出に対する未返済残高
- ・12ヵ月を超えて延滞しているリースに関して延滞している支払額
- ・「推定損失」に分類され、回収不能とみなされる貸出金の部分（担保からの回収額があればこれを除く。）

償却の承認手続

当行の貸出金を償却するための申請は、法人向け貸出および海外支店の場合には支店から法人信用回収部門へ、個人向け貸出の場合には個人信用回収部門へ提出される。償却の申請は通常、該当する貸出金が返済期限を180日経過した後直ちに提出される。審査担当のゼネラル・マネジャーが当該申請の評価を行う。監査・審査部門のゼネラル・マネジャーは、償却についての当行の内部手続が遵守されているかを検討し、かかる検討を経て、当行の銀行長による承認を申請する。

償却された貸出金の取扱い

貸出金が償却されると、これらは当行の財政状態計算書上での認識が中止される。当行は、韓国資産管理公社および新韓信用情報を含む第三者回収機関を通じて、引き続きこれらの貸出金の回収に努める。

担保の取扱い

当行が、不動産を担保とする貸出金を通常の回収チャネルを通じて回収することができないと判断した場合、当行は通常、債務不履行および支払不能が生じてから1ヵ月以内、支払遅延から4ヵ月以内に裁判所に担保権の実行を申し立て、裁判所監督による競売を通じて当該担保を売却する。ただし、かかる手続は、当該競売手続についての制限がある再編、再生、債務整理またはその他の裁判所手続中の会社には適用されない。かかる申し立てを裁判所に対して行くと、通常、債務者は延滞している貸出金の返済を促される。債務者が最終的に返済できず、裁判所が担保権実行を承認した場合、当行は当該担保を売却し、売却額（競売によって生じた費用控除後）を上限として元本および未払利息を回収する。韓国の法令に基づく担保権実行手続は、担保の内容によって、開始から回収まで通常7ヵ月から1年間を要する。

財務書類の表示

当行の財務書類は、6ヵ月を超えて延滞しているすべての個人向け無担保貸出金を償却として報告している。リースは12ヵ月を超えて延滞すると償却される。有担保貸出金については、当行は対象となる貸出金の簿価が、担保権執行手続きの一環としてその担保の売却により受領されたかまたは受領される金額を超過する金額を償却し、その売却価格はかかる手続きの一環として裁判所公報を通じて認識される。

信用の種類

下表は、表示日現在におけるFSS規則に基づいてFSSに報告された当行の個別ベースの信用ポートフォリオの主な内訳を示しており、これらは概ね、以下のものにより構成されている。

- ・ 割引現在価値控除後の、および一定の項目（主として銀行間預け金、コールローンおよび売戻条件付買入有価証券）を除く貸出金
- ・ 確認保証および引受手形（オフ・バランスシート項目）および当行の信託勘定からの貸出金で、当行がその元本および／または利息を保証するもの
- ・ 一定のその他の項目（主に投資銀行信用および未決済受取債権）

	12月31日現在	
	2013年	2014年
	(単位：十億ウォン)	
ウォン建て貸出金	146,365	159,321
外貨建て貸出金	7,728	9,030
外貨建て買入手形	4,281	4,988
私募債	591	369
投資銀行業務貸出金	490	224
信託勘定貸出金	466	483
ファクタリング債権	119	154
保証および引受手形に基づく前渡金	2	4
貸出金合計 ⁽¹⁾	160,042	174,573
その他の信用：		
保証および手形引受	10,708	11,390
与信としての未決済受取債権	3	4
信用合計	170,753	185,967

注記：

(1) FSCに報告する信用合計額を計算する目的上、貸出金合計額は割引現在価値控除後の値で示されており、一定の貸出金項目（銀行間預け金、コールローンおよび売戻契約付買入有価証券からなる。）は貸出金合計額から除外されている。

固定以下の債権

固定以下の与信はFSCの資産分類基準に基づき固定以下と分類される与信として定義される。上記「引当方針」を参照されたい。

下表は、表示日現在における、FSCに報告された固定以下の債権を含む当行の債権にかかる資産の質についての一定の詳細（割引現在価値控除後）を個別ベースで示している。

	12月31日現在	
	2013年	2014年
	(単位：十億ウォン、%を除く)	
債権 ⁽¹⁾ ：		
正常	167,398	182,864
要注意	1,384	1,181
固定	913	995
回収疑問	257	215
推定損失	815	712
債権合計	170,767	185,967
固定以下の債権合計	1,985	1,922
要注意および固定以下の債権	3,369	3,103
信用損失引当金 ⁽²⁾⁽³⁾	2,973	2,967
債権合計に対する固定以下の債権の割合	1.16%	1.03%
債権合計に対する要注意および固定以下の債権の割合	1.97%	1.67%
固定以下の債権に対する信用損失引当金の割合	149.77%	154.37%
債権合計に対する信用損失引当金の割合	1.74%	1.60%

注記：

- (1) 2013年および2014年12月31日現在における割引現在価値それぞれ37十億ウォンおよび47十億ウォンを除く。
- (2) 信用損失引当金は、貸倒引当金、未決済受取債権引当金、引受手形および保証引当金ならびに銀行業務の監督に関する規則第29-1条および第29-2条に従った規制上の貸倒損失準備金からなる。
- (3) 信用コミットメントについては、信用コミットメント引当金および規制上の貸倒損失準備金を除く。

信託勘定

韓国法のもとでは、当行が信託勘定に受け入れた資産は当行の他の資産とは分離され、預金者または当行のその他の債権者による債権を弁済するために使用することはできない。したがって、当行の信託資産および負債（元本（または元本および金利の双方）を保証されているものを除く。）は、当行の銀行勘定とは分離して計上および報告される。

下表は、表示日現在における当行の信託勘定の資産および負債を示している。

	12月31日現在	
	2013年	2014年
	(単位：十億ウォン)	
資産：		
貸出金	466	434
有価証券	5,195	6,239
銀行勘定貸出金	2,221	1,619
その他 ⁽¹⁾	18,461	22,695
受取債権評価引当金	(1)	(1)
資産合計	26,342	30,986
負債：		
金銭信託	16,830	19,591
財産信託	8,849	10,665
特別準備金	88	92
その他	575	638
負債合計	26,342	30,986

注記：

(1)主に財産信託に基づいて受託した不動産資産を含む。

当行は、信託勘定の資産および負債の限られた額について元本および／または利息に対して保証を付与している。2014年12月31日現在、当行が固定利率を保証する固定利率保証付信託勘定は、当行の信託勘定の金銭信託合計額の0.01%を占めていた。2014年12月31日現在、元本または利息について保証が付された金銭信託の合計額は、3,469十億ウォンであり、当行の金銭信託合計額の17.71%を占めていた。

当行が元本または元本および利息の双方に保証を付与している金銭信託は韓国IFRSに基づき連結されている。下表は、当行が元本または元本および利息の双方に保証を付与している金銭信託の資産および負債ならびにかかる資産の当行の信託資産合計に占める割合を示している。

	12月31日現在	
	2013年	2014年
	(単位：十億ウォン、%を除く)	
資産	3,707	3,925
負債	3,707	3,925
信託資産合計に占める比率	14.07%	12.67%

投資ポートフォリオ

当行は、以下を目的として、ウォン建て有価証券およびこれより程度は低いものの外貨建て有価証券への投資および売買を自己勘定で行っている。

- ・当行の資産の安定性および分散性を維持すること。
- ・当行の資金需要に見合った、適切なバックアップの流動性の資源を維持すること。
- ・当行の中核となる貸出業務からの収入を補完すること。

特定の有価証券についての投資決定を行う場合、当行はとりわけ、マクロ経済の動向、産業分析および信用評価を考慮する。

当行の有価証券投資業務は、銀行法のもとで定められた制限を含むいくつかの規制上のガイドラインに従う。これらの規制に基づき、当行は株式および満期までの期間が3年を超えるその他の有価証券（負債証券（韓国銀行が発行する金融安定化債券および国債を除く。）、デリバティブ組込み証券、受益証券、投資契約証券および証券預託証券）に対する投資を、当行のTier I資本およびTier II資本合計（資本項目控除後）の100.0%に制限しなければならない。通常、当行は他社が発行した議決権付株式の15.0%超を保有することも禁じられている（ただし、FSCにより決定された事業種別に該当する会社に対する投資の場合または会社再編を促進するための必要からFSCによる承認を取得している場合を除く。）。当行の投資活動を規定する規制環境に関する情報の詳細は、「(6) 監督および規制－銀行に適用される主要な規制－他企業の株式保有に関する規制」を参照されたい。

簿価および市場価値

下表は、表示日現在における当行の投資ポートフォリオにおける金融投資の簿価および市場価値を示している。

12月31日現在

2013年		2014年	
簿価	市場価値	簿価	市場価値

(単位：十億ウォン)

売却可能金融資産：

持分証券	2,860	2,860	2,330	2,330
債務証券：				
国債	2,828	2,828	2,844	2,844
金融機関債券	10,984	10,984	9,908	9,908
社債	7,421	7,421	7,252	7,252
その他	-	-	29	29
小計	21,233	21,233	20,033	20,033
合計-売却可能	24,093	24,093	22,363	22,363

満期保有目的金融資産：

債務証券：				
国債	4,260	4,447	5,150	5,393
金融機関債券	653	660	501	506
社債	2,521	2,561	2,361	2,418
合計-満期保有目的	7,434	7,668	8,012	8,317

売買目的資産：

持分証券	970	970	1,012	1,012
債務証券：				
国債	256	256	337	337
金融機関債券	1,595	1,595	1,429	1,429
社債	1,040	1,040	1,213	1,213
買入れ手形	2,539	2,539	2,893	2,893
CMA	1,044	1,044	1,197	1,197
その他	-	-	10	10
小計	7,444	7,444	8,091	8,091
金預け金	76	76	225	225
合計-売買資産	7,520	7,520	8,316	8,316
有価証券合計	39,047	39,281	38,691	38,996

満期分析

下表は、2014年12月31日現在における当行の有価証券を満期別に分類したものである。

2014年12月31日現在										
1 年 以下			1 年超 5 年以下		5 年超 10 年以下		10 年超		合計	
加重平均 簿価 利回り ⁽¹⁾			加重平均 簿価 利回り ⁽¹⁾			加重平均 簿価 利回り ⁽¹⁾			加重平均 簿価 利回り ⁽¹⁾	
(単位：十億ウォン、%を除く)										
売買目的資産：										
国債	45	0.00%	266	0.00%	26	0.00%	-	0.00%	337	0.00%
金融機関債券	721	0.00	708	0.00	-	0.00	-	0.00	1,429	0.00
社債	597	1.94	616	0.00	-	0.00	-	0.00	1,213	0.00
買入手形	2,893	2.19	-	0.00	-	0.00	-	0.00	2,893	2.19
CMA	1,197	2.29	-	0.00	-	0.00	-	0.00	1,197	2.29
その他	10	0.00	-	0.00	-	0.00	-	0.00	10	0.00
合計	5,463	1.66%	1,590	0.00%	26	0.00%	-	0.00%	7,079	1.28%
売却可能金融資産：										
国債	291	3.39%	2,117	3.44%	357	3.14%	79	3.87%	2,844	3.41%
金融機関債券	4,558	2.64	5,322	2.67	28	5.06	-	0.00	9,908	2.66
社債	1,809	3.47	5,200	2.96	243	3.50	-	0.00	7,252	3.10
その他	29	0.00	-	0.00	-	0.00	-	0.00	29	0.00
合計	6,687	2.89%	12,639	2.91%	628	3.37%	79	3.87%	20,033	2.92%
満期保有目的金融資産：										
国債	447	4.80%	3,934	3.85%	744	3.00%	25	3.70%	5,150	3.81%
金融機関債券	358	2.74	143	3.75	-	0.00	-	0.00	501	3.03
社債	853	3.99	1,244	2.98	254	3.33	10	3.27	2,361	3.38
合計	1,658	3.94%	5,321	3.65%	998	3.08%	35	3.58%	8,012	3.64%
負債証券合計	13,808	2.53%	19,550	2.88%	1,652	3.14%	114	3.78%	35,124	2.76%

注記：

(1) ポートフォリオの加重平均利回りは、それぞれの有価証券の満期までの償却原価を用いた加重平均利回りである。

リスクの集中

下表は、2014年12月31日現在の当行が保有する簿価合計額が同日現在における当行の資本の10%を上回る有価証券を示しており、その額は12,147十億ウォンであった。

発行体名：	2014年12月31日現在	
	簿価	市場価値
	(単位：十億ウォン)	
韓国政府	7,085	7,319
韓国銀行	5,062	5,063
合計	12,147	12,382

上記の事業体（政府を除く。）はすべて政府機関または政府が支配する事業体である。

与信関連の約定および保証

当行は、その通常の業務の過程において、顧客の資金調達およびその他の事業上の需要を満たすために様々な約定および保証を行っている。約定および保証は通常、とりわけ信用供与の約定、商業信用状、スタンドバイ信用状および履行保証の形式をとる。これらの金融商品の契約上の金額は、相手方が当該約定の実行を請求し、または当行が保証に基づくその義務を履行すべきときに相手方が契約に基づく履行を行わない場合に最大予想損失額を示す。

下表は、表示日現在における当行の信用関連の約定および保証を示している。

	12月31日現在	
	2013年	2014年
	(単位：十億ウォン)	
信用供与約定：		
法人向け	62,313	60,849
個人向け	10,669	11,542
特別目的事業体に対する流動性ファシリティ	1,416	1,986
商業信用状 ⁽¹⁾	3,622	3,599
スタンドバイ信用状、その他の金融および履行保証	11,930	11,511
合計	89,950	89,487

注記：

(1) これらは通常短期であり、関連する商品の裏付となる船荷によって担保される。

当行は、財政状態計算書に反映されない信用関連の約定を有しており、これは主に信用供与の約定および商業信用状からなっている。与信限度額を含む信用供与の約定は、貸出金の形による与信の承認の未実行部分を示す。これらの約定は所定の日に失効し、顧客は事前に定められた条件に従って約定に基づく資金を引き出すことを要求される。

商業信用状は、顧客に代わって、特定の契約条件に基づいて所定の金額を上限として資金を引き出すことを第三者に承認する約束である。これらは通常短期であり、関連する商品の裏付となる船荷によって担保されている。

当行はまた、当行の財政状態計算書に開始時の公正価値で計上され、保証の期間にわたり償却される保証を有している。かかる保証は通常、スタンドバイ信用状、その他の財務および履行保証ならびに特別目的事業体に対する流動性ファシリティを含む。

スタンドバイ信用状は、当行の顧客が貸出金または債務商品を返済しなかった場合に、第三者の受益者に対する支払いを行う取消不能の義務であり、通常外貨建てである。これらのスタンドバイ信用状の大部分は、取引関連文書を含む担保物件によって担保されている。

その他の財務および履行保証は、顧客が一部の契約に基づく履行をしなかった場合に、当行が受益者に支払いを行うという取消不能の保証である。特別目的事業体に対する流動性ファシリティは、資金不足などのきっかけとなる事由が生じた場合に、当行の顧客が設定した緊急時流動性・与信枠を提供するという取消不能の約定である。

当該約定および保証は、未使用のまま期間が終了することが多いため、必ずしも当行のエクスポージャーを表わすものではない。

デリバティブ

上記「(1) 事業一事業の概観—当行の主要業務—法人向け銀行業務および投資銀行業務—デリバティブ取引」に記載される通り、当行は、顧客がリスクをヘッジできるよう、主に顧客の代理としてデリバティブ取引業務を行っており、また、かかる取引から生じるリスク・エクスポージャーをヘッジするために他の金融機関とバック・トゥー・バックのデリバティブも締結している。当行はさらに、自身の資産および負債に起因するリスク・エクスポージャーをヘッジするためにデリバティブ取引を行っている。このうちのいくつかは、ヘッジ会計の適用要件を満たさない非売買デリバティブである。

下表は、2013年および2014年12月31日現在において当行が(i)売買目的および(ii)ヘッジ会計に適格であり非売買目的で保有または発行していたデリバティブの想定元本総額または契約金額を示している。

12月31日現在

2013年			2014年		
原想定 元本 ⁽¹⁾	見積公正 価値資産	見積公正 価値負債	原想定 元本 ⁽¹⁾	見積公正 価値資産	見積公正 価値負債

(単位：十億ウォン)

売買：

外国為替デリバティブ：

先物および先渡し契

約	27,785	411	494	30,801	440	480
スワップ	14,294	428	352	14,267	248	271
オプション	120	2	2	738	4	5
小計	42,199	841	848	45,806	692	756

金利デリバティブ：

先物および先渡し契

約	204	-	-	-	-	-
スワップ	67,212	441	357	49,680	481	423
オプション	3,146	13	17	1,846	10	16
小計	70,562	454	374	51,526	491	439

株式デリバティブ：

スワップ	204	-	-	6	-	-
オプション	1,106	11	11	719	7	8
先物契約	12	-	-	6	-	-
小計	1,118	11	11	731	7	8

商品デリバティブ：

スワップおよび先渡し契約	400	-	10	167	2	2
オプション	6	-	-	-	-	-
小計	406	-	10	167	2	2
合計	114,285	1,306	1,243	98,230	1,192	1,205

非売買：

金利デリバティブ：

スワップ	8,451	152	235	8,047	117	48

外国為替デリバティブ：

先物および先渡し契

約	106	-	-	220	-	3
合計	8,557	152	235	8,267	117	51

注記：

(1)外貨建ての想定元本は、2013年および2014年12月31日現在の実勢為替レートにてウォンに換算されている。

資金調達

当行は、その銀行業務のために、国内外の様々な原資から資金を調達している。当行の主な資金調達源は、銀行業務から得る顧客預金である。また、当行はコールマネー、中央銀行借入金、その他の短期借入金、社債およびその他の長期債務（債務証券および持分証券の発行を含む。）、資産担保証券ならびにレポ取引を通じて、顧客預金を通じた資金調達を補うために、または必要に応じてこれに代えるために資金を取得している。「第3-7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析—流動性および資金源」を参照されたい。

預金

当行の銀行預金の大半は短期のものであるが、当行の預金者の大半はこれまで満期時に預金を預け替え、当行の銀行業務に安定的な資金源を供給してきた。

下表は、表示日現在における、当行の預金残高および当行の預金について支払われた平均金利を示している。

	12月31日に終了した年度			
	2013年		2014年	
	平均残高 ⁽¹⁾	平均金利	平均残高 ⁽¹⁾	平均金利
	(単位：十億ウォン、%を除く)			
有利子預金：				
要求払預金	18,434	0.62%	20,744	0.54%
定期および貯蓄預金	149,592	2.45	155,302	2.08
その他の預金	1,637	1.95	2,113	1.28
有利子預金合計	169,663	2.25%	178,159	1.89%

注記：

(1) 平均日次残高に基づく。

個人向け預金商品の内訳は、「(1)事業—事業の概観—当行の主要業務—預金受入業務」を参照されたい。その他、売却された手形は短期借入金に計上されており、買戻し契約に基づき売却された有価証券は担保付借入金として計上されている。

譲渡性預金証書およびその他の定期預金

下表は、2014年12月31日現在の譲渡性預金証書の残高および満期までの期間ならびに100百万ウォン以上の期日の定まっているその他定期預金を示している。

	2014年12月31日現在		
	譲渡性預金証書	その他定期預金	合計
	(単位：十億ウォン)		
3ヵ月以内	1,248	31,234	32,482
3ヵ月超6ヵ月以内	284	21,725	22,009
6ヵ月超12ヵ月以内	434	24,051	24,485
12ヵ月超	96	5,436	5,532
	2,062	82,446	84,508

当行の海外支店で発行された譲渡性預金証書およびその他の定期預金の大半の金額は100,000米ドル以上である。

短期借入金

下表は、表示期間における、当行の短期借入金（当初満期が1年以内のもの）に関する情報を示している。

2013年

	残高	平均残高 ⁽¹⁾	月末における最高残高	加重平均金利 ⁽²⁾	年度末金利
(単位：十億ウォン、%を除く)					
韓国銀行からの借入金 (3)	1,364	1,349	1,511	0.96%	0.10-1.00%
コールマネー	318	1,378	2,652	3.92	0.10-5.08
その他短期借入金 ⁽⁴⁾	4,640	4,377	5,404	1.33	0.00-2.93
	6,322	7,104	9,567	1.76%	

2014年

	残高	平均残高 ⁽¹⁾	月末における最高残高	加重平均金利 ⁽²⁾	年度末金利
(単位：十億ウォン、%を除く)					
韓国銀行からの借入金 (3)	1,443	1,226	1,443	0.82%	0.10-1.00%
コールマネー	1,783	1,852	2,671	2.92	0.10-9.00
その他短期借入金 ⁽⁴⁾	5,172	5,502	5,608	1.05	0.00-8.91
	8,398	8,580	9,722	1.42%	

注記：

- (1) 平均残高は(a)当行の毎日の残高および(b)当行の関連会社の四半期ごとの残高に基づいている。
(2) 加重平均金利は、支払利息合計を平均借入金額で除して算出されている。
(3) 韓国銀行からの借入金は通常、ウォン建て借入金は満期が1ヵ月以内で、外貨建て借入金は満期が6ヵ月以内である。
(4) その他短期借入金には、信託勘定からの借入金、買入手形ならびにウォン建ておよび外貨建て借入金を含む。

当行の短期借入金は、韓国銀行からの借入金（通常、当行が保有する売却可能有価証券または満期保有有価証券によって担保されている。）を除いて通常無担保で満期は1年未満である。

(3) リスク管理

概観

当行は、許容範囲内で当行のリスクを管理し、資産の健全性を確保するために包括的なリスク管理システムを有している。当行は、効果的なリスク管理を通じて長期的収益性の安定化に努めている。

取締役会は、当行のリスク限度額等、当行のリスク管理および統制に関する基本ガイドラインを定めた。取締役会の監督の下、リスク管理委員会は、各事業グループの資本配分およびリスク限度額を決定し、全銀行業務の基本管理ガイドラインの策定において経営陣を補助する。

基本方針およびガイドラインに従い、ともに上級役員およびグループ長からなるリスク方針委員会およびALM委員会（以下「ALM委員会」という。）は、信用リスク、市場リスクおよびオペレーショナル・リスクを監督する。全事業体から独立したリスク管理部門は、当行のすべてのリスクを特定、評価および管理し、リスク管理委員会を補助する。

信用リスク管理

借り手、その他債務者または当行が契約を締結した取引についてのその他の相手方の債務不履行により生じる損失にかかるリスクである信用リスクは当行が直面する最大のリスクである。当行の信用リスク管理は、貸借対照表に記録される取引だけでなく、保証、貸出コミットメントおよびデリバティブ取引といったオフバランスシート取引を含む潜在的な経済損失をもたらす可能性のあるあらゆる信用の分野を網羅している。当行の信用リスク管理は、以下の原則に基づいている。

- ・関係するリスクの水準に見合った利益水準を達成すること。
- ・資産の質を改善し、最適な資産構成のポートフォリオを達成すること。
- ・特定の借り手または部門における過剰な貸出の集中を避けること。
- ・借り手の債務返済能力を厳密に監視すること。
- ・選別された顧客の成長を推進するために、財務支援を提供すること。

当行の全体的なリスク管理計画および信用方針ガイドラインを含む当行の信用リスク管理のための主な方針は、信用リスク管理に関する最高意思決定機関である当行のリスク方針委員会が決定する。リスク方針委員会は、最高リスク担当者が代表を務め、最高信用担当者および各事業ユニットの長からなっている。当行は、貸出承認機能を信用方針の意思決定から分離するために信用審査委員会を設けており、同委員会が行われた貸出による資産の質および収益性の改善に注力して信用審査を評価し、リスク方針委員会とは別に運営される。リスク方針委員会と信用審査委員会はともに、それぞれの委員会の出席委員数の三分の二以上（それぞれの定足数を満たすためには、各委員会の委員数の少なくとも三分の二の出席が必要である。）の投票により決定を行う。

当行は、内部ガイドラインに基づいて信用リスク管理手順を遵守し、これらのガイドラインおよび規則を継続的に監視および改善している。当行の信用リスク管理手順には以下が含まれる。

- ・信用評価および承認
- ・信用審査および監視
- ・信用リスク評価および管理

信用評価および承認

貸出申請者および保証人はすべて、貸出の承認を得る前に信用評価を受けなければならない。貸出申請者の信用評価は、貸出承認の特任上級役員によって実施される。貸出申請者および保証人の信用格付が、貸出金利、必要な内部承認の水準、信用エクスポージャーの限度、潜在的損失計算および資本の見積コストに影響を与えるため、当該事業部門により客観的かつ独立的に決定される。貸出評価は、客観的かつ慎重なプロセスを通じて個人による審査ではなくグループにより実施される。当行は、個人向けローンについては信用評価システムを、法人向けローンについては信用リスク格付システムを用いている。

当行の借り手のそれぞれに、さまざまな基準を考慮した包括的内部信用評価システムに基づく信用格付けが付与されている。個人の借り手の信用格付けは、とりわけ借り手の経歴の詳細、当行との過去の取引および外部信用格付け情報を考慮する。法人の借り手の信用格付けは、とりわけ、財務指標ならびに産業リスク、オペレーショナル・リスクおよびマネジメント・リスクといった非財務指標を考慮する。信用格付けが付与されると、それは当行の信用リスク管理のための基本的手段として機能し、与信承認、与信限度管理、貸出の金利設定および貸倒引当金の計算を含む広範な信用リスク管理プロセスに適用される。当行は、個人顧客、SOHO顧客および法人顧客については別の信用評価システムを有しており、それはさらに細分化され、バーゼルIIの要件を満たすよう改善されている。「第3－7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析－重要な会計方針－金融資産の減損」を参照されたい。

個人向けローン

個人向けローンの貸出申請は、当行の信用評価システムおよび当行のリテール・バンキング部門が維持・運用している担保付貸出および無担保貸出に関する客観的な統計モデルに従い審査されている。当行の信用評価システムは、貸出申請の評価に用いられる自動与信承認システムであり、貸出の適切な金額を決定し、借り手の個人情報、当行およびその他の金融機関との取引履歴ならびに関連する信用情報等の要素を考慮する。申請者に対しては、(i)申請者の貸出を承認するか否か、(ii)貸出額、および(iii)貸出に係る利息を決定するために用いられるスコアがつけられる。申請者のスコアに応じて申請者が与信を認められるか、条件付で認められるか、追加審査を必要とするか、与信を認められないかが決定される。申請者が追加審査の対象となる場合には、支店レベルまたは本店レベルの適切な裁量権を有する機関が、信用履歴、職業および過去の当行との関係等の質的要素ならびに量的要素に基づいて再評価を行う。

抵当ローンおよび住宅担保ローンならびに不動産担保ローンについては、当行は、ローンの担保として供される不動産の価値を、韓国全土の不動産価格に関する情報を含む専用データベースを利用して評価する。また、当行は、韓国の不動産市場および物価について第三者により提供された最新の情報も利用する。当行は、不動産担保の額を処理センターの行内職員に評価させるが、処理センターで当初定められたとおり、評価額が5十億ウォンを超える貸出については、当該評価額を審査し、連帯保証する公認鑑定士を雇用する。当行はまた、少なくとも毎年、担保の評価額を概要ベースで内部で再評価する。

有価証券、預金または不動産以外のその他の資産を担保とする貸出については、当行は、借り手に対して、担保付債務について特定の担保率を遵守することを要求する。

法人向け貸出

当行は、すべての法人の借り手を、内部で開発された複数の信用評価システムを用いて格付する。これらの信用評価システムは、与信決定を標準化するための様々な基準（量的、質的、財務および財務以外のもの）を考慮し、貸出金額よりも借り手の質に重点を置いている。量的検討には、借り手の財務およびその他のデータが含まれ、量的検討は、借り手の返済能力に関する当行の信用審査担当者の判断に基づいている。財務の検討には、総資産利益率およびキャッシュ・フローの債務合計に対する比率等、当行の顧客の財務書類に基づく財務変数や諸比率が含まれ、財務以外の検討には、とりわけ借り手の属する業界、業界における借り手の競争上の立場、稼働力および資金力、経営陣および支配株主の質（部分的に役員および従業員との面接に基づく。）、技術力ならびに労使関係が含まれる。

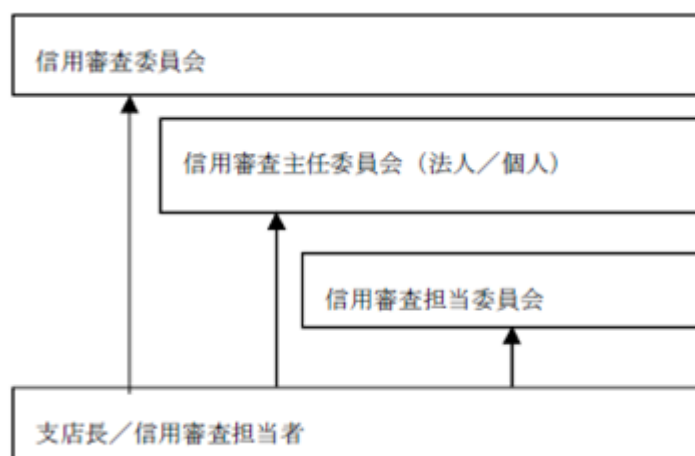
当行はまた、その内部信用審査の正確性を高めるために、Nice情報サービス（Nice Information Service）および韓国企業データ（Korea Enterprise Data）等外部の信用格付機関が作成した報告書を検討し、実際の債務不履行の記録を継続的に更新しているデータベースを用いて信用リスク格付システムの有効性を監視および改善している。

上記の評価基準および債務不履行の可能性を考慮して信用格付システムに基づき計算されたスコアに応じて、当行は借り手を20段階（最高AAAから最低Dまで）に分類する。AAからBは、さらに「+」、「0」または「-」に細分される。AAAからB-は正常、CCCは要注意、CCからDは不履行懸念に分類される。信用リスク格付モデルはさらに、法人の借り手の規模および信用枠の種類に応じて分類される。

貸出承認プロセス

貸出は通常、支店レベルのリレーションシップ・マネジャーおよび当行の該当する事業ユニットの委員会による評価および承認を得た後に承認される。個人向け貸出の承認限度額は、当行の自動信用格付システムに基づいて設定される。大規模な法人の場合には、承認限度額は本店レベルの信用審査担当者による審査および承認も経る。貸出の規模および重要度に応じて、承認プロセスはさらに信用審査担当委員会または信用審査主任委員会の審査を経る。貸出が重大であるとみなされるか、または、金額が信用審査主任委員会の裁量権の範囲を超える場合には、信用承認に関する当行の最高意思決定機関である信用審査委員会によって追加的な評価が実施される。貸出限度についての信用審査委員会の評価および承認は、当行の内部信用格付システムが定める借り手の信用格付によって異なる。例えば、信用格付けがB-の借り手に対して、信用審査委員会は、無担保貸出については10十億ウォン、担保付貸出については15十億ウォンを超える額の貸出の評価および承認を行う。一方、信用格付けがAAAの借り手に対して同委員会は、無担保貸出については40十億ウォン、担保付貸出については90十億ウォンを超える額の貸出の評価を行う。また、信用審査委員会は、元本額が信用審査委員会の定める所定水準を超える多額の貸出申請の承認を行うために少なくとも1週間に2回の会議を行う。

下記の図は当行の信用承認プロセスの概要を示している。信用審査主任および事業部長は貸出承認について個別の決定を下さず、グループ・レベルでの意思決定プロセスの一部となる。



審査プロセスの各レベルでの信用審査担当者は、その裁量により、かかるレベルに割り当てられた貸出毎の最大額までの貸出を承認することができる。貸出承認プロセスの各レベルにおける裁量的な貸出承認限度額は、当該借り手に対する総貸出額、信用審査、担保の有無およびその価値に基づく申込者の信用レベル、ならびに信用格付システムにより設定された信用リスクのレベルが考慮される。裁量的な貸出承認限度額は、信用格付けがB-の無担保の個人向け貸出に対する30百万ウォン（個人向け支店マネジャーの承認を受けなければならない。）から、信用格付けがAAAの担保付貸出に対する90十億ウォン（信用審査主任委員会の承認を受けなければならない。）の範囲である。裁量的な貸出承認限度額を超える貸出はいずれも、信用審査委員会による承認を受けなければならない。

信用審査および監視

当行は、主に借り手に関する既存の信用リスクを継続的に審査および監視している。特に、当行の自動早期警告システムが192を超える財務要素および非財務要素を用いて借り手を毎日審査しており、リレーションシップ・マネジャーおよび信用審査担当者は、定期的に貸出審査を行い、独立した貸出審査チームに報告しなければならない。同チームは、その結果を詳細に分析し、これに応じて信用格付を調整している。これらの審査に基づき、当行は借り手の信用格付、信用限度額、適用利率および信用方針を調整している。さらに、借り手グループのグループ信用格付がある場合には、FSS院長が未払いの信用エクスポージャーに基づき指定する主な債務者グループ（大部分が財閥からなる。2014年12月31日現在54グループが指定された。）の定期審査後に調整される。当行は、指定された格付の適切性を確保するために、借り手の事業についての業界固有の状況ならびに国内外の資産基盤および事業等その他の要素も継続的に審査する。信用審査部門は、引受けとは独立して、信用審査報告書を最高リスク管理責任者に毎月提出する。

早期警告システムは、当行が1十億ウォンを超えるエクスポージャー合計（借り手に対する貸出残高合計から、差入れ担保、定期積立金、保証および輸入保証金を控除した金額を示す。）または500百万ウォンを超える正味信用エクスポージャー（有効な担保を控除したエクスポージャー合計金額を示す。）を有する借り手について毎日自動的な調査を行っている。早期警告システムが警告を検出した場合、かかる警告および監視によるその他の結果は、当行の借り手に対するエクスポージャーが2十億ウォンを超える場合は信用審査課によって審査され、かかるエクスポージャーが2十億ウォン以下の場合はリレーションシップ・マネジャーおよび信用審査担当者によって審査される。また、当行は経済環境の変動に基づく信用リスク要因の変動に従い各借り手に対し予防的な審査を実施する。当該予防的な審査の結果は、継続的に当行の最高リスク管理責任者に報告される。

早期警告システムが検出した警告の性質に応じて、借り手が「信用悪化」と分類され評価の対象となって格付が引き下げられる場合、または当初から「早期警告兆候を示す借り手」に分類されるか、もしくは「正常借り手」に復活する場合がある。「早期警告兆候を示す借り手」に分類された借り手について、リレーションシップ・マネジャーは情報を集め、信用悪化と分類すべきか否かまたは経営改善警告を行うかもしくは共同債権者の管理を実施するかを決定するために借り手の審査を行う。借り手が債務不履行状態に陥った場合には、当行の回収部門は、回収率を最大化するために直接借り手の勘定を管理し、必要に応じて競売、裁判所手続、資産売却または企業再編を実施する。

上記の信用審査および監視手続きに従い、かつ、貸出の質の悪化を速やかに防ぐために、当行は潜在的に問題のある借り手を(i)早期警告兆候を示す借り手、(ii)警戒を要する借り手、(iii)監視を要する借り手および(iv)正常借り手に分類し、それに従い別々に取り扱っている。

当行の法人顧客の返済の延滞を抑制するために、当行は主に(i)多額の残高を有する借り手に対し体系的な監視を行い、(ii)信用履歴の良くない借り手および／または問題のある業種に属する借り手の監視を強化し、(iii)特定の業種が全般的な事業周期に特に敏感であるかどうか、および／または所定の時期に問題があるかどうかについて調整した上で、業種別に貸出上限額を割当てるといった手段を講じている。

多額の貸出残高を有する借り手に対する体系的監視

当行は現在、貸出残高（保証付貸出ならびに当行への預金または信用状といった特定の種類の担保により担保された貸出を除く。）が合計1十億ウォン以上かつ正味貸出残高（貸出残高からかかる貸出の担保（上記以外のもの）の公正価値を差引いた金額）が合計500百万ウォン以上である法人顧客に対し強化監視するシステムを適用している。この監視システムに基づき、各借り手には下記の格付けが付与される。

- ・「正常借り手」：債務不履行リスクが低いとみなされるBマイナス以上の信用格付けの借り手。
- ・「監視を要する借り手」：潜在的な債務不履行リスクを一定程度有し、かかるリスクの上昇の検出を定期的に監視する必要がある借り手。
- ・「警戒を要する借り手」：債務不履行リスクが上昇しており、かかる借り手の信用の質の詳細な再査定および追加融資に警戒を要する借り手。
- ・「早期警告兆候を示す借り手」：高レベルの債務不履行リスクを有する借り手。
- ・「問題があるかまたは再編の対象の借り手」：現在債務不履行となっており、債務整理もしくは再編の対象となっているか回復の兆候のない借り手。

当行は、借り手の信用格付けに応じた間隔（例えば、格付けがAAAからAまでの「正常」借り手については12ヵ月ごと、格付けがAからBBB+の「正常」借り手については9ヵ月ごと、格付けがBBBからB-の借り手については6ヵ月ごと、CCC以下の格付けの借り手および「正常」とみなされない格付けの借り手については3ヵ月ごと）で上記の借り手に対して体系的な監視を行っている。さらに、貸出審査担当者は、借り手に信用の質の悪化の兆候がある場合、より頻繁な監視を要請することができる。2十億ウォン以上の貸出残高を有する借り手については、当行はまたかかる借り手の収入および所得を四半期ごとに四半期終了後10週間以内に監視する。

信用履歴に問題のある借り手および／または問題のある業種に属する借り手に対する監視の強化

上記の体系的な監視に加え、当行はまた、とりわけ、(i)上記の「監視を要する借り手」もしくは「警戒を要する借り手」もしくは「早期警告兆候を示す借り手」とみなされた借り手、(ii)過去に延滞もしくは再編を経験している借り手、または(iii)固定以下に分類された借入を有する借り手に対して追加的な監視を行っている。これらの借り手に対する強化された監視に基づき、当行は、とりわけ、特定の業種の全体的な資産の質が事業サイクルの各局面でいかに変化するか、かかる借り手に対するエクスポージャーをいかに制限し、縮小するか、当行のグループ全体の延滞率および不履行率をいかに変えるかといったことについて緊急対策計画を調整する。

業種固有の貸出上限額の割当

当行は現在、業種ごとに企業借り手に対する貸出を分類し、とりわけ各業種の見通し、業界別の不履行率といった要因に応じ、各業種に貸出総額の上限額を定めている。このようにして、当行はリスクの高い業種への貸出の集中を避け、リスクの高い業種への貸出を強化された監視およびリスク管理の対象としようとしている。

当行は現在、相対的にリスクの高いプロフィールを有する業種である、不動産供給、リースおよびサービス、レストラン、宿泊、建設、造船、船舶、非鉄金属およびゴルフ場経営を、厳しく監視し、管理するために、「管理強化」の監視対象リストに載せている。これらの業種のそれぞれについて、当行はかかる業種に対する貸出総額について保守的な上限額を設定し、かかる上限を上回った場合、それを担当した事業部門は業績評価においてペナルティを与えられ、その事業部門に属する従業員の給与および昇進はマイナスの影響を受ける場合がある。

信用リスク評価および管理

当行は、体系的に信用リスクを評価するために、延滞率、不良債権率、予想損失額および加重平均リスク格付を含む選択された各種統計の監視に基づき信用リスクを数量化するように設計されたシステムを開発およびアップグレードした。

当行は、ポートフォリオレベルおよび個別貸出勘定レベルの2段階で貸出を監視および管理することで貸出の集中を管理している。ポートフォリオレベルの信用リスクを適切な水準に維持するために、当行は銀行全体およびその各事業単位にバリュー・アット・リスク（以下「VaR」という。）による限度額を用いてその貸出を管理している。特定の借り手または借り手の種別によりリスクが集中することを防止するため、当行はまた借り手、業種、国およびその他の詳細な分類ごとに信用リスクを管理している。

当行は、信用リスクを内部で蓄積した情報を用いて計測している。当行は、総資産について毎月期待損失および非期待損失を計測し、事業グループのリスク限度額の設定および事業グループへの資本の分配に際して参照している。期待損失は、デフォルト確率、デフォルト時損失率、デフォルト時エクスポージャーならびに過去の破産率および回収率に基づき計算され、これに応じて当行は貸倒引当金を計上する。当行はFSS要件または当行の内部計算のいずれか高い方の水準で引当を実施する。非期待損失については、当行にとっての信用リスク限度額の合計および当行内の関連部門にとっての信用リスク限度額に合致しているかを判断するために使用されるVaRに基づき予測される。当行は、口座ごとのレベルでのVaRの計算およびリスク調整済業績測定に、銀行監督についてのバーゼル委員会（以下「バーゼル委員会」という。）により提案された先進内部格付手法（AIRB）を使用している。

市場リスク管理

市場リスクとは、金利、為替レート、株価などの市場価格の変動により生じる損失リスクをいう。当行がさらされる主な市場リスクは金利リスクであり、より程度は低いものの、為替リスクおよび株価リスクにもさらされている。これらのリスクは、貸出、預金、有価証券、金融デリバティブなどの金融商品に関連する当行のトレーディング業務および非トレーディング業務から生じる。当行は、市場リスクをトレーディング業務から発生するリスクと非トレーディング業務から発生するリスクに分けている。

当行のリスク管理委員会は、トレーディング業務と非トレーディング業務の両方について包括的な市場リスク管理方針を定めている。かかる方針に基づき、当行のリスク方針委員会は、市場リスクおよび資産に関し、リスク管理方針およびリスク制限を設定し、当行のトレーディング業務および非トレーディング業務から発生する市場リスクを管理することについて最高意思決定機関として行為している。リスク方針委員会は、当行の7つの事業グループをそれぞれ担当する副銀行長、最高リスク担当者および最高財務担当者で構成される。リスク方針委員会は、少なくとも月に一度の頻度で、報告書の検討と承認を行っている。かかる報告書はとりわけ、当行のトレーディング業務に係るポジションおよびVaRと、当行の非トレーディング業務に係るポジション、VaR、デュレーション・ギャップおよび時価分析ならびに正味受取利息シミュレーションに関連している。さらに、当行のリスク管理部は、当行の業務部門から独立して包括的に市場リスクを管理し、当行のミドル・オフィスとして機能している。当行は、FSCが制定した規則に従って、銀行勘定および信託勘定のすべての資産および負債に関する市場リスクを計測している。

トレーディング業務から生じる市場リスク・エクスポージャー

当行のトレーディング業務は、主に以下のもので構成されている。

- ・ 市況および顧客需要の変化について当行の短期的な見通しに基づく持分証券・負債証券市場および外国為替市場における売買から短期的な売買益を実現するため、自己勘定および顧客の信託勘定で行われるトレーディング業務
- ・ 主に、スワップ、先渡取引、先物取引、オプションなどのデリバティブに関わる裁定取引によって利益を実現するためのトレーディング業務、ならびにより小規模ではあるものの、当行の顧客に対してデリバティブを販売するトレーディング業務およびかかるトレーディング業務に付随する市場リスクを補完するトレーディング業務

これらのトレーディング業務により、当行は主として、金利リスク、為替リスクおよび株価リスクにさらされている。

金利リスク

当行がさらされている金利リスクは、主として直接または受益証券を介して間接的に保有するウォン建て債券および、より小規模ではあるが、金利デリバティブから生じる。外貨建ての売買目的債券から生じる金利リスクに対する当行のエクスポージャーは、かかる債券におけるネット・ポジションが小さいため、軽微である。当行のトレーディング勘定は日々値洗いされるため、当行は、トレーディング勘定に係る金利リスクを、時価に基づいたツールであるVaRを用いて管理している。

為替リスク

当行の外国為替リスクに対するエクスポージャーは、主に当行のウォン以外の通貨建ての資産および負債（外貨先渡および先物、通貨スワップなどのデリバティブを含む。）に関するものである。当行は、トレーディング勘定と非トレーディング勘定両方のすべての為替直物ポジションおよび先物ポジションを対象として、その外国支店が直面する関連リスクを含む外国為替リスクを連結ベースで管理している。

当行の外貨の正味オープン・ポジションは、外貨建て資産および負債を為替先物ポジションと相殺した差額であり、当行の外国為替リスクに対する主要なエクスポージャーとなる。リスク方針委員会は、トレーディング業務および非トレーディング業務の両方について、外貨の正味オープン・ポジションの限度額、ストップ・ロス限度額およびVaR限度額を設定することにより、当行の外国為替エクスポージャーを監視している。当行は、FXおよびデリバティブ部門を通じて外国為替ポジションを集中的に監視し、管理している。FXおよびデリバティブ部門のディーラーは、現物取引、先渡契約、通貨オプション、先物取引、スワップおよび為替スワップを通じて、当行の連結されたポジションを事前に設定された限度内で管理する。当行は、通貨ごとに正味オープン・ポジションの限度額を設定している。米ドル、日本円、ユーロおよび中国元以外の通貨の限度額は、かかる通貨における為替取引を最小限に抑えるために保守的な方法で設定されている。

下表は、2013年および2014年12月31日現在の当行の外貨の正味オープン・ポジションを示している。プラスの数値は買い持ち、マイナスの数値は売り持ちを表している。

通貨	12月31日現在	
	2013年	2014年
(単位：百万米ドル)		
米ドル	53.1	101.6
日本円	(54.7)	(72.4)
ユーロ	1.8	(1.5)
その他	698.3	614.8
合計	698.5	642.6

株価リスク

当行のトレーディング業務に係る株価リスクは、主に韓国企業の株式トレーディング・ポートフォリオならびに韓国株価指数先物およびオプションの取引に関するものである。株式トレーディング・ポートフォリオは、韓国証券取引所のKRX KOSPI市場またはKRX KOSDAQ市場に上場される株式ならびに厳格な分散化制限およびポジション限度額が定められた期近または翌限月の先物で構成される。当行は、韓国株式市場の不安定性に照らして、これらの業務の厳格な監視を維持しており、損切りおよびその監視についても厳密な監視を行っている。当行がそのトレーディング勘定に保有する持分証券は、債券と比較するとかなり少ないが、持分証券の価値の変動性が高いことから、トレーディング勘定の株価リスクのVaRは、通常トレーディング勘定の金利リスクのVaRよりも高い。2013年および2014年12月31日現在、当行のトレーディング勘定（信託勘定を含む。）における持分証券は、それぞれ64.6十億ウォンおよび60.7十億ウォンであった。

トレーディング業務から生じる市場リスクの管理

下記の表は、2014年12月31日現在および同日に終了した事業年度における当行のトレーディング業務から生じるVaRで計測された市場リスクの概要を示している。市場リスク管理上、当行は、VaR合計の計算に、銀行勘定のトレーディング・ポートフォリオと信託勘定の資産を含めており、当行はそれぞれについてFSCの規則に従い元本または固定金利を保証している。

2014年12月31日に終了した年度の
トレーディング・ポートフォリオVaR⁽¹⁾

	平均値	最低値	最高値	2014年 12月31日現在
	(単位：十億ウォン)			
金利リスク	17.3	8.7	25.9	13.4
為替リスク ⁽²⁾	43.9	34.9	54.4	49.4
株価リスク	4.3	2.5	7.4	3.4
オプション・ボラティリティ ⁽³⁾	0.2	0.1	0.3	0.1
控除：ポートフォリオの分散 ⁽⁴⁾	(18.7)	(5.2)	(32.3)	(13.3)
VaR合計 ⁽⁵⁾	47.0	41.0	55.5	53.0

注記：

(1) 信頼水準99.9%の10日VaR

(2) 当行が全ポジションに基づき為替リスクを管理するため、トレーディング勘定と非トレーディング勘定の両方を含む。

(3) ブラック・ショールズ・モデルまたは類似のモデルを使用したオプション評価による予想変動率

(4) ポートフォリオの分散効果の計算は、異なるリスク要素について異なる日のシナリオで行われる。VaR合計は、ポートフォリオ分散により相殺されているため、VaRのリスク要素の単純な合計を下回っている。

(5) 当行が元本または固定金利を保証する銀行勘定のトレーディング・ポートフォリオおよび信託勘定の資産を含む。

当行は通常、ポートフォリオのトレーディング業務から生じる市場リスクを総額を基準に管理する。当行は、トレーディング・ポートフォリオの市場リスクを管理するために、ポジション限度額、VaR限度額、ストップ・ロス限度額、Greek限度額およびストレス損失限度額を使用している。また、当行は投資有価証券について別の限度額を設定している。当行は、FSCが公表した規則およびガイドラインに基づいて、デリバティブ取引のためのリスク管理指針を維持し、トレーディング業務を行う事業部門およびチームのリスクを監視および管理するためにトレーディング業務から生じる市場リスクを測定している。当行は、そのトレーディング・ポジションの市場リスク測定システムへの自動インターフェイスに基づきVaR測定を管理し、日ごとに制限している。さらに、当行はトレーディング部門およびデスクに対し、損失限度、感応度限度、投資限度およびストレス限度をあらかじめ設定し、かかる限度を毎日監視している。

バリュー・アット・リスクの分析 当行は、市場リスクを測定するために、10日VaRおよび1日VaRを使用している。当行は、保有期間を10日とする過去12ヵ月間のデータに基づき、日々10日VaRを計算し、保有期間を1日とする過去12ヵ月間のデータに基づき、日々1日VaRを計算している。10日VaRおよび1日VaRは、通常の市場環境において10日間および1日間にそれぞれ起こり得る統計的に推計された予想最大損失額である。VaRが99%の信頼水準で測定された場合、実際の損失額は平均して100営業日中1日だけ予想VaRを上回る可能性があり、一方、99.9%の信頼水準を用いてVaRを測定した場合、平均して1,000営業日中1日だけ実際の損失額がVaRを上回る可能性がある。

当行は現在、FSSへの報告に用いられる規制資本の計算のために99%信頼水準の10日VaRおよびストレスVaRを用いている。ストレスVaRは、過去12ヵ月間の危機シミュレーションから得たシナリオに基づく現在のトレーディング・ポートフォリオにおける潜在的な重要損失を反映している。当行はまた、内部管理目的の当行の「経済上の」資本の計算に、より保守的な99.9%信頼水準の10日VaRを用いているが、これは市場リスクに照らして当行の必要資本の金額を決定する際に用いられた概念である。さらに当行は、営業部門の各デスクまたはチームごとに個別のリスク限度を設定し、運用するために、またバックテスト目的で、補足的に99%信頼水準の1日VaRを用いている。当行の実際の損失額が99%信頼水準の1日VaRを上回ったことが2013年には2回あり、2013年4月11日に23%、2013年7月1日に73%上回り、2014年には1回で、2014年12月16日に58%上回った。

バリュー・アット・リスクは通常使用される市場リスク管理法である。ただし、VaRモデルには以下の欠点がある。

- ・ VaRは、過去の市場動向のデータを使用し、特定の信頼水準において一定の期間に渡って生じ得る予想損失額を推計する。しかし、過去の市場動向は、特に将来起こり得る事象の性質が極端である場合には必ずしも信頼性のある指標とはならない。
- ・ VaRは、市場動向が極端になる可能性を過小評価する可能性がある。
- ・ 当行のVaRモデルは、通常、1日から10日の保有期間があれば原ポジションを解消するのに充分であると想定しているが、保有期間の長さに関するかかる想定が実際には不適切であることが判明する場合がある。
- ・ 99.9%の信頼水準は、この信頼水準を超えて生じるかもしれない損失については考慮しておらず、かかる損失を示唆するものでもない。
- ・ VaRは、ポジションおよびポートフォリオの価値に関する様々なリスク要因についての複雑な影響をすべて捉えているわけではなく、損失の可能性を過小評価する可能性がある。

当行は現在、実際の業績に対するVaRの結果のバックテストを日々行っている。

当行は、ウォン建ておよび外貨建て勘定を管理する総合的な市場リスク管理システムを運用している。このシステムは、ヒストリカル・シミュレーション法を用いて、株式や債券などの商品から生じる線形リスクとオプションを含む他の商品から生じる非線形リスクを計測する。当行は、このシステムによって、複雑かつ一貫性のあるVaR情報を創出し、モデルの妥当性を確認するための感応度分析およびバックテストを日々行うことができると考えている。

ストレステスト VaRのほか、当行は市場リスクを測定するためにストレステストを実施している。VaRは通常の市場環境を前提とするため、当行は起こりそうもない異常な市場変動に対する市場リスク・エクスポージャーを、ストレステストによって評価している。ストレステストは、VaRを補完するために重要である。なぜなら、VaRは当行の通常の予測を超える市場変動が生じた場合の潜在的な損失をカバーしていないからである。ストレステストは、ストレス事象の発生期間中、ポートフォリオのリスク特性を変更するための措置が取られていないことを前提に、一定のシナリオのもとで、保有するポジションについて予想される価値の変動を予測する。

当行は、外国為替レート、株価ならびにウォン建て金利および外貨建て金利の4つの市場リスク要素を考慮することにより、比較的単純ではあるが基本的な7つのストレステストのシナリオを使用する。最悪のシナリオでは、4つの市場リスク要素が瞬時かつ同時に変動することを想定している。かかる変動とは、ウォンが20%上昇し、韓国証券取引所の総合株価指数が30%下落し、かつウォン建て金利および米ドル建て金利

がそれぞれ200ベースポイント上昇するという状況である。この最悪のケースのシナリオに基づき、当行のトレーディング・ポートフォリオの市場価値は2014年12月31日現在で317十億ウォン減少した。当行は、日々ストレステストを実施し、その結果をリスク方針委員会に毎月報告し、四半期ごとにリスク管理委員会に報告する。

当行は、業務全体についてのストレステストの上限を設定している。市場変動やその他の異常による潜在的な影響が大きい場合には、各業務の最高リスク担当役員はポートフォリオの再構築またはその他の適正な措置を要求することができる。

ヘッジ取引およびデリバティブ市場リスク

当行のグループ全体のヘッジ戦略の主な目的は、その市場リスクを設定された範囲内で管理することである。当行は、市場リスクをヘッジするため、および事前に設定されたリスクの範囲内でデリバティブ商品を売買することによって収益を上げるため、デリバティブ商品を利用する。当行のデリバティブ取引には、金利スワップ、クロスカレンシー・スワップ、為替先物予約、通貨先物、株価指数先物、金利先物、株価指数オプションおよび通貨オプションが含まれる。

当行はヘッジ目的でデリバティブを使用するが、当行は利益を上げるためにトレーディング・ポジションを取ることから、デリバティブ取引はその性質上市場リスクを伴う。これらの業務は主に以下からなっている。

- ・スポット市場とデリバティブ市場間、またはデリバティブ市場内における短期的な不一致から利益を得るための裁定取引
- ・当行の法人顧客の様々な需要を満たす個別仕様のデリバティブ商品の販売、およびこれらの販売から生じるエクスポージャーを低減させるための関連取引
- ・当行が市場予測に基づいて短期売買による利益を予測する限定的な場合において、ポジションをとること
- ・上述のとおり、当行の金利および外貨リスクのエクスポージャーをヘッジするために取引を行うこと

当行のIAS第39号「金融商品：認識と測定」の採用に関し、当行は、公正価値を適切に測定し、特に公正価値モデルが内部で発展することを確実にするために、重要な製品の価格付けに利用される場合、いくつかの重要な支配を含む内部プロセスを実施した。

当行は、かかる製品の発売前に内部モデルから得られた新製品の公正な市場価値の妥当性を査定する。査定プロセスには下記が含まれる。

- ・内部ディーリング・システム市場価値の計算（ディーリング・システムから得られた市場価値を計算するために用いられた公式およびモデルの妥当性の量的分析チームによる査定に基づく。）
- ・外部信用評価会社から得られた市場価値の計算
- ・内部ディーリング・システム市場価値と外部信用評価会社から得られた市場価値とを比較した後、部門間のコンセンサスに基づく内部開発モデルを利用するかどうかについての決定

上記の査定プロセスを経て当行により公式に利用されるディーリング・システム市場価値は、個別取引の検討に基づく価値を確認するサンプリング・プロセスを経ておらず、ディーラー・ポートフォリオ感応度に基づくディーリング・システムによる利益に対するかかる価値を比較する追加的な査定手続きの対象となる。「第3-7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析—重要な会計方針」および「第6-1 財務書類」に記載される当行の連結財務書類に対する注記2を参照されたい。

当行のデリバティブのトレーディング業務は、主に裁定取引および極めて限定的なオープン・ポジションを有する顧客相手の取引から発生するため、デリバティブから生じる市場リスクはあまり重大なものではない。

非トレーディング業務のための市場リスク管理

金利リスク

金利リスクは当行の非トレーディング業務から生じる主な市場リスクである。金利リスクは、当行の財政状態および経営成績に悪影響を及ぼす金利の変動により生じる損失リスクである。当行の金利リスクは、主として利付資産と有利子負債に係る金利変更の時期が異なることに関連している。

金利リスクは、当行の収益および純資産の経済的価値に以下の影響を及ぼす。

- ・収益金利の変動は、金利感応度の高い営業利益および費用に影響し、これにより当行の正味受取利息に影響を及ぼす。

・純資産の経済的価値金利の変動は、資産、負債および当行のその他の取引からのキャッシュ・フローの現在価値に影響し、これにより当行の正味資産に影響を及ぼす。

そのため、当行はその利益および純資産価値の双方に対する金利変動の影響を考慮した上で、非トレーディング業務における金利リスクを測定し、管理している。当行は、その銀行勘定（主にヘッジ目的で締結される金利スワップであるウォン建てのデリバティブを含む。）および信託勘定におけるすべての利付資産および有利子負債について、毎日および毎月のベースで金利リスクを計測し、管理している。ただし、これ以外については当行はVaRを月次ベースで計測している。当行の利付資産および有利子負債の多くはウォン建てである。

金利リスク管理

当行の金利リスク管理の主な目的は、安定した正味受取利息を生み出し、その純資産価値を金利変動のリスクから保護することである。その資産および負債管理システムを通じて、当行は金利ギャップ、デュレーション・ギャップならびに正味現在価値および受取利息シミュレーションといったさまざまな分析手法に基づき金利リスクを監視し、管理し、毎月、金利VaR限度、金利アーニングス・アット・リスク（EaR）限度および金利ギャップ比率限度を監視する。当行は、金利履歴のさまざまなシナリオ分析に基づき1年間において純資産価値および正味受取利息が最大に減少した場合をシミュレーションした予測に基づき金利VaRおよびEaRを測定する。リスク方針委員会は少なくとも年に一度、当行のウォン建てならびに外貨建ての非トレーディング勘定および信託勘定についての金利リスクの限度額を設定し、リスク管理委員会は当行全体の金利リスクの限度額を設定する。そしてリスク管理部は、当行によるかかる限度額の遵守状況を監視し、その監視結果を月に一度リスク方針委員会に報告し、四半期ごとにリスク管理委員会に報告する。当行は、その金利エクスポージャーの限度額を管理するために金利スワップを利用する。

金利がマイナスに変動した場合金利VaRは、正味現在価値計算（利付資産の現在価値から有利子負債の現在価値を差引くことにより計算される。）における最大予想損失を表しており、金利EaRはその直後の1年間についての正味利益計算（受取利息から支払利息を差引くことにより計算される。）における最大予想損失を表している。そのため、金利VaRは金利EaRに比べてより広範な概念であり、前者はすべての利付資産および有利子負債をカバーするのに対し、後者は1年の間に金利ボラティリティーにさらされる利付資産および有利子負債のみをカバーする。

そのため、金利VaRにとって、デュレーション・ギャップ（つまり、すべての利付資産の加重平均デュレーションからすべての有利子負債の加重平均デュレーションを差引いたもの。）は、金利VaRへの影響において該当する資産および負債の相対的な規模より重要な要因となる場合がある。対照的に、金利EaRにとって、「1年未満の金利」の形態における該当する資産および負債の相対的な規模の差（つまり、満期まで1年未満の利付資産の金額から満期まで1年未満の有利子負債の金額を差し引いたもの）は、金利EaRへの影響において最も重要な要因である。

金利VaR限度は、(i) 1年超の期間の利付資産の比率としての毎月の非トレーディング金利VaRの平均と、(ii) 99%信頼水準の標準偏差（つまり、利付資産に対する比率としての月ごとの非トレーディング金利VaRの標準偏差の2.33倍。）の合計として設定される。

金利EaR限度は、正味受取利息の最大の減少に際し、(i) 見積金利ギャップが運用可能な（耐えうる）状況における最大水準に拡大したと仮定して、(ii) 金利ショック・シナリオを過去10年間の市場金利を用いた金利の年間ボラティリティーに適用することにより定められる。

当行は月ごとに金利VaRおよび金利EaRの非トレーディング・ポジションが上記のそれぞれの限度を上回るか否かを監視している。

トレーディング・リスクの運用に際し、主に(i)裏付資産が異なるため（つまり、市場リスクVaRの場合のトレーディング資産と比較した、金利VaRの場合の非トレーディング利付資産および有利子負債）、ならびに(ii)金利VaRは金利変動のみに敏感であるが、市場リスクVaRは金利変動だけでなく、為替レート、株式の市場価格およびオプション・ボラティリティーといったその他の要素に対しても敏感であることから、金利VaRは10日間における99%信頼水準のVaR（「市場リスクVaR」）と意味のある比較をすることはできない。

仮に金利VaRと市場リスクVaRの金利部分のみを比較したとしても、当行は、金利VaRは資産および負債の双方（相殺する影響を有する傾向にある。）の金利変動の影響を検証するが、市場リスクVaRの金利部分は資産のみの金利変動の影響を検証するため、かかる比較は意味を有さないと考えている。

当行は毎日および毎月のベースで様々な分析的方法を用いて非トレーディング業務における金利リスクを計測し、管理している。かかる方法には以下の分析が含まれる。

- ・金利ギャップ分析
- ・デュレーション・ギャップ分析
- ・時価分析
- ・正味受取利息シミュレーション分析

金利ギャップ分析

当行は、当行の利付資産と有利子負債が、見積みキャッシュ・フローと金利更改日に基づいて適切な期間に割り当てられる金利ギャップ表を作成することで、特定の期間についてのそれぞれの満期日と金利更改日における利付資産と有利子負債の金額の差を測定するために、金利ギャップ分析を行っている。当行は、その銀行勘定および信託勘定のウォン建ておよび外貨建ての資産および負債について、日々金利ギャップ分析を行う。当行のギャップ分析には、ウォン建てのデリバティブ（ヘッジの目的上通貨スワップ）および外貨建てのデリバティブ（ヘッジの目的上通貨スワップ）が含まれ、FXおよびデリバティブ部により集約的に管理されている。当行は、金利の感応度ギャップ、累積ギャップおよびギャップ比率を測定する金利分析を通じて、将来の金利リスクの変動に対するエクスポージャーを評価する。

当行は、金利ギャップ分析について、様々な種類の資産および負債に対して以下の満期を想定および使用している。

- ・当行は、資産の満期および金利更改日に関しては、プライムレートに連動する貸出の満期は固定金利貸出と同じと想定している。当行は、利付資産から持分証券を除外している。
- ・当行の負債の満期および金利更改日については、当行は、金融市場の預金口座およびFSCガイドラインのもとで「非中核」である要求払い預金は、ウォン建ておよび外貨建て勘定の双方について1ヵ月以下の満期を有するものと想定している。
- ・FSCガイドラインのもとで「中核」である要求払い預金については、当行は1ヵ月から5年間を範囲とする8つの異なる期間の満期を有するものと想定している。

下表は、2014年12月31日現在における、(i)ヘッジ目的で締結されたデリバティブを含むウォン建て非トレーディング銀行勘定および(ii)ヘッジ目的で締結されたデリバティブを含む外貨建て非トレーディング銀行勘定の当行の金利ギャップを示している。

ウォン建ての非トレーディング銀行勘定⁽¹⁾

2014年12月31日現在							
	0-3ヵ月	3-6ヵ月	6-12ヵ月	1-2年	2-3年	3年超	合計
(単位：十億ウォン、%を除く)							
利付資産	101,077	46,100	9,662	11,025	11,221	17,664	196,749
固定金利	22,076	3,908	7,262	9,239	6,217	7,874	56,576
変動金利	77,861	41,412	1,090	1,225	4,724	9,310	135,623
金利スワップ	1,140	780	1,310	560	280	480	4,550
有利子負債	86,329	30,414	42,006	13,136	8,103	14,608	194,595
固定負債	59,530	29,716	41,678	13,092	8,073	13,879	165,968
変動負債	22,248	698	328	43	30	729	24,077
金利スワップ	4,550	-	-	-	-	-	4,550
感応度ギャップ	14,749	15,686	(32,344)	(2,111)	3,118	3,055	2,154
累積ギャップ	14,749	30,435	(1,909)	(4,020)	(902)	2,154	2,154
総資産に対する割合	7.50%	15.47%	(0.97)%	(2.04)%	(0.46)%	1.09%	1.09%

外貨建ての非トレーディング銀行勘定⁽¹⁾

2014年12月31日現在						
	0-3ヵ月	3-6ヵ月	6-12ヵ月	1-3年	3年超	合計
(単位：百万米ドル、%を除く)						
利付資産	17,372	3,698	3,206	3,385	2,092	29,753
有利子負債	15,191	3,341	4,821	4,060	2,253	29,665
感応度ギャップ	2,181	357	(1,615)	(674)	(160)	88
累積ギャップ	2,181	2,538	923	249	88	88
総資産に対する割合	7.33%	8.53%	3.10%	0.84%	0.30%	0.30%

注記：

(1) マーチャント・バンキング勘定を含む。

デュレーション・ギャップおよび市場価値分析

当行は、当行の利付資産と有利子負債の保有期間（かかる保有期間は、適用あるイールド・カーブを用いてそれぞれの割引キャッシュ・フローに基づいて計算されたそれぞれの加重平均満期を示している。）の差を審査することにより、資産および負債の市場価値にかかる金利リスクの様々な影響を測定するために、デュレーション・ギャップ分析を行っている。これらの測定は毎日、業務部門、勘定、商品および通貨のそれぞれの、利付資産および有利子負債の保有期間について行われている。

下表は、2014年12月31日現在の非トレーディング勘定における当行のウォン建て利付資産および有利子負債の市場価値のデュレーション・ギャップならびに金利が1パーセント・ポイント上昇した際のこれらの市場価値の変動を示している。

2014年12月31日現在の保有期間（非トレーディングのウォン建て銀行勘定⁽¹⁾）

2014年12月31日現在

（単位：月）

利付資産	9.78
有利子負債	9.53
ギャップ	0.47

注記：

(1) マーチャント・バンキング勘定およびヘッジ目的のデリバティブを含む。

市場価値分析

当行は、当行の有利子負債の市場価値と比較した利付資産の市場価値の変化を測定するために、金利が平行にシフトすると仮定して、市場価値分析を行っている。これらの測定は毎日行われている。

2014年12月31日現在の市場価値（非トレーディングのウォン建て銀行勘定⁽¹⁾）

2014年12月31日現在

	実質	1パーセント・ポイント上昇時	変動
（単位：十億ウォン）			
利付資産	200,675	199,134	(1,541)
有利子負債	195,954	194,535	(1,419)
ギャップ	4,721	4,599	(122)

注記：

(1) マーチャント・バンキング勘定およびヘッジ目的のデリバティブを含む。

正味受取利息シミュレーション

当行は、当行の経営成績に対する金利変動の影響を測定するために正味受取利息シミュレーションを行う。かかるシミュレーションは、現在の満期構造に基づき、金利（平行にシフトすると仮定）および資金調達需要に関するさまざまなシナリオを用いて、当行の年次正味受取利息（受取利息から支払利息を控除したもの）の見積変動を測定するために、確定的的分析手法を用いている。金利変動に関するシミュレーションでは、当行は、資金調達需要に変動がないとの仮定に基づき、(1)変動なし、(2)金利が1パーセント・ポイント上昇、および(3)金利が1パーセント・ポイント減少、の場合の金利が平行にシフトする3つのシナリオを適用する。

下表は、当行の正味受取利息シミュレーション・モデルを用いて、(a)2014年12月31日現在の満期構造および資金調達需要、ならびに(b)2014年12月31日現在の金利と同じ金利および金利が1パーセント・ポイント上昇または減少した場合を仮定して、ウォン建て利付資産および有利子負債に関する2014年の当行の正味受取利息のシミュレーションした変動を一例として説明している。

シミュレーションした2014年の正味受取利息の
(ウォン建ての非トレーディング銀行勘定⁽¹⁾)

	仮定金利			正味受取利息変動		正味受取利息変動	
	変動なし	1パーセン ト・ポイン ト上昇	1パーセン ト・ポイン ト減少	金額 (1パーセン ト・ポイン ト上昇)	% 変動 (1パーセン ト・ポイン ト上昇)	金額 (1パーセン ト・ポイン ト減少)	% 変動 (1パーセン ト・ポイント 減少)
			(単位：10億ウォン、パーセントを除く)				
シミュレーションした受 取利息	7,074	8,210	5,938	1,136	16.05%	1,136	(16.05)%
シミュレーションした支 払利息	3,531	4,396	2,666	865	24.51	(865)	(24.51)
正味受取利息	3,543	3,814	3,273	270	7.63	(270)	(7.63)

注記：

(1) マーチャント・バンキング勘定およびヘッジ目的で締結されたデリバティブを含む。

当行の非トレーディング勘定におけるウォン建て利付資産の金利更改期間は、かかる勘定の有利子負債の当該期間より平均的に短いため、当行の非トレーディング勘定におけるウォン建て利付資産および有利子負債は、金利の上昇により恩恵を受ける満期構造を有している。これは主に、近年の韓国において低金利環境が続いているためであり、これにより当行の貸出金全体の一定部分を占める変動金利貸出金（固定金利貸出金よりも満期または金利更改期間が短い傾向にある。）に対する需要の著しい増加をもたらしたことにより、当行の貸出金全体の満期または金利更改期間が平均的に短くなった。その結果、当行の正味受取利息は、金利が低下すると減少する傾向にあり、金利が上昇すると総じてその反対となる傾向にある。

非トレーディング資産および負債に対する金利VaR

当行は、非トレーディング業務からの金利リスクに対するVaRを毎月測定している。下表は、2014年12月31日現在および同日に終了した年度についての、その他の資産および負債に対する金利ミスマッチにかかるリスクについてのVaRを示しており、これは、当行の非トレーディングの利付資産（売却可能投資有価証券を含む。）と有利子負債との間の金利更改日におけるミスマッチから生じる。FSC規則に基づき、当行はこれらの利付資産および有利子負債のVaRの計算を、当行の銀行勘定およびマーチャント・バンキング勘定に含めている。

2014年度についてのVaR⁽¹⁾

	平均	最小	最大	12月31日現在
(単位：十億ウォン)				
金利ミスマッチ				
－非トレーディング資産および負債	115	91	163	163

注記：

(1) 信頼水準99.9%による1年のVaR実績

株式リスク

当行の実質的にすべての株式リスクは、韓国企業の普通株式のポートフォリオに関連している。2014年12月31日現在、当行は未上場の外国会社の株式持分を総額126十億ウォン（非上場のプライベート・エクイティ・ファンドへの投資の99十億ウォンを含む。）有している。

当行の投資ポートフォリオにおいて保有されるウォン建ての持分証券は、韓国取引所のKRX KOSPI市場またはKRX KOSDAQ市場に上場される株式および一部の非上場株式で構成される。当行は、関連するリスクの管理のためにこれらの持分証券のほとんどについてエクスポージャーの限度を設定している。2014年12月31日現在、当行はその非トレーディング勘定において総額2,068十億ウォンの持分証券を有しており、このうち419十億ウォンはとりわけ経営支配目的および延滞した貸付があった貸出先の会社の再編手続の一環としての債務の株式化によるものであった。

2014年12月31日現在、当行は、非トレーディング勘定に総額46十億ウォンのウォン建て転換社債および総額2十億ウォンのウォン建てワラント付社債を有していた。当行は、転換社債またはワラント付社債に関する株式リスクを測定しておらず、これらの株式関連証券の金利リスクは他の債務証券と合わせて測定されている。したがって、当行はこれらの株式関連証券に対して株式リスクVaRではなく金利リスクVaRを測定している。

流動性リスク管理

流動性リスクとは、資金の流入と流出の乖離によって生じる支払不能、債務不履行または損失のリスクであり、これには利用可能な資金が不足しているために高い金利で資金を入手しなければならないか、または不利な価格で有価証券を売却しなければならないリスクが含まれる。当行は、流動性にボラティリティーを起こしうる資金の調達および運用に関連するリスク要因の早期検出により、また体系的管理を通じて適切な流動性水準を確実に維持することにより、流動性リスクを最小限に抑えようとしている。さらに、流動性リスクを先制的かつ包括的に管理するために、当行は「限度管理指数」、「早期警告指数」および「監視指数」を含むさまざまな指数を用いて流動性リスクを測定し、監視している。

当行は、流動性リスク管理に以下の基本原則を適用している。

- ・最適な時期に合理的な費用で充分な額の資金を調達すること
- ・流動性リスクを適切な水準に維持し、所定のリスクリミット・システムおよび早期警告検知システムを通じてこれらを予防的に管理すること
- ・満期の異なる多様な資金源に基づいて効果的なALMシステムを実施することで、安定した収益源を確保し、実際の損失を最低限に留めること
- ・通常の状態および危機的な状況の双方において、適時な返済および支払期限の到来した金融債務の決済のために、日々および日中の流動性ポジションおよびリスク・エクスポージャーを監督および管理すること
- ・流動性危機の可能性を想定して定期的に危機管理分析を行い、実際の危機に備えて緊急計画を策定し、これを実施すること
- ・商品およびサービスの価格設定、従業員の業績評価ならびに新商品およびサービスの発売承認を決定する際に、流動性関連の費用、便益およびリスクを検討すること

当行は、リスク限度ならびに社内および監督官庁のガイドラインに従い、流動性リスクを管理している。FSCによる銀行に適用される主要な規則に従い、当行は一定のウォン建て流動性カバレッジ比率および外貨建て流動性比率を維持することを義務付けている。当行は、上記の比率を一定の最低水準以上に維持することを義務付けている。

当行は、FSC規則に従って、ウォン建て勘定および外貨建て勘定について設定された限度額の範囲内で流動性リスクを管理している。FSCは、少なくとも100.0%のウォン建て流動性カバレッジ比率および85.0%の外貨建て流動性比率を維持することを韓国の銀行に義務付けている。FSCは、外貨建て流動性比率を、外貨建て流動資産（市場性のある有価証券を含む。）を外貨建て流動債務で（いずれも3ヵ月以内に支払期限の到来するもの。）除したものと定義している。さらに、ウォン建て流動性カバレッジ比率については、FSCはこれを、簡単に現金に転換できる流動性の高い資産を、バーゼルIIIに基づく流動性カバレッジ比率要件を実施するために2014年12月26日付で改正された銀行業務の監督に関する規則に基づくウォン建て流動性カバレッジ比率に従って設定されたストレス水準の状況における翌1ヵ月間のキャッシュ・アウトフローの正味金額で除したものと定義している。

過去12ヵ月間の月次加重平均残高は下記の公式を用いて計算される。

$$\sum_{i=0}^{11} \text{月平均残高}_{t-i} \times \text{加重期間係数}_{t-i}$$

過去12ヵ月間の月次加重平均残高の標準偏差は下記の公式を用いて計算される。

$$\sqrt{\sum_{i=0}^{11} (\text{月平均残高}_{t-i} - \text{当期加重平均残高})^2 \times \text{加重期間係数}_{t-i}}$$

該当する月の加重期間係数は下記のとおりである。

該当月	加重期間係数
t-11月	1/78
t-10月	2/78
t-9月	3/78
t-8月	4/78
t-7月	5/78
t-6月	6/78
t-5月	7/78
t-4月	8/78
t-3月	9/78
t-2月	10/78
t-1月	11/78
t月	12/78
合計	1

満期が決まっていないウォン建て要求払預金については、かかる要求払預金残高の一部はいつでも引き出せると仮定して、当行はこれらを上記の定義のとおりコア預金と非コア預金に分類している。

下表は、2014年12月31日現在のウォン建て流動性資産および負債を、その内訳とともに示している。

ウォン建て勘定（デリバティブおよびマーチャント・バンキング勘定を含む。）

	2014年12月31日現在							
	0-1ヵ月	1-3ヵ月	3-6ヵ月	6-12ヵ月	1-3年	3年超	固定以下	合計
ウォン建て勘定								
	(単位：十億ウォン、%を除く)							
資産：	55,338	19,938	31,611	49,129	30,145	51,924	1,746	239,831
現金および預金	10,551	100	100	-	-	-	-	10,751
売却可能有価証券	26,217	-	-	-	-	3,722	84	30,023
貸出金	8,869	15,436	27,672	44,108	25,544	40,951	1,662	164,241
その他資産	3,607	-	-	-	-	5,673	-	9,280
デリバティブ資産	3,389	4,147	3,500	4,021	4,384	1,139	-	20,580
マーチャント・バンキング勘定資産	2,706	256	339	1,000	217	439	-	4,957
負債：	45,259	24,236	29,102	43,808	15,505	59,869	-	217,779
預金（譲渡性預金を含む）	28,531	19,273	23,927	36,531	5,965	49,477	-	163,703
借入金	3,050	290	88	142	608	1,913	-	6,090
負債証券	122	620	2,084	2,960	4,520	2,233	-	12,540
その他負債	6,289	-	-	-	-	3,955	-	10,244
デリバティブ負債	3,542	4,054	3,003	4,175	4,412	1,092	-	20,278
マーチャント・バンキング勘定負債	3,724	-	-	-	-	1,199	-	4,924
流動性ギャップ	10,080							
流動性比率	122.27%							
限度	100.00%							

「第6-1 財務書類」に記載される当行の連結財務書類に対する注記3-3に示される流動性リスク分析のための契約上の満期別金融商品の内訳は、当行の財政状態計算書に表示される勘定科目に基づき作成されている。それと比較して、上記の流動性ギャップ分析のための契約上の満期別金融商品の内訳はFSCの定める銀行規則に基づき作成されている。

要求払い預金に関する主要な例外を除き、その大部分について、これらの2つの項目の残存期間を決定するために使用される基準は同じである。韓国IFRSに基づき、すべての要求払い預金は満期までの残存期間が1ヵ月未満として分類されるが、銀行規則に基づき、要求払い預金は(x)非コア預金と(y)コア預金の15%の合計金額に等しい金額については満期までの残存期間が1ヵ月未満として分類される。2014年12月31日現在の当行の要求払い預金の残高は62,085十億ウォンで、このうち、55,866十億ウォンがコア預金に分類され、14,736十億ウォンがウォン建て流動性負債（つまり、銀行規則に従った公式に基づく残存期間が1ヵ月未満の負債。）に分類された。

財務部門は、当行のウォン建ておよび外貨建て資金に関する流動性リスク管理を担当している。財務部門は、当行の毎月の資金調達および資産管理計画を、マクロ経済指標、金利および外国為替の動向ならびに当行の資産および負債の満期構成を含む様々な要素の分析に基づいて、ALM委員会の承認を得るために同委員会に提出する。リスク管理部門は、当行の流動性比率と流動性ギャップ比率を日々測定し、これらが限度額を遵守しているかをリスク方針委員会（当行の流動性比率および流動性ギャップ比率を設定し、監視する。）に毎月報告する。

下表は、2014年12月31日現在のFSCの規則に従った当行のウォン建ておよび外貨建て勘定（デリバティブおよびマーチャント・バンキング勘定を含む。）の流動性状態および限度を示している。

ウォン建て勘定（デリバティブおよびマーチャント・バンキング勘定を含む。）

2014年12月31日現在

	0-1ヵ月	1-3ヵ月	3-6ヵ月	6-12ヵ月	1-3年	3年超	固定以下	合計
ウォン建て勘定	(単位：10億ウォン、%を除く)							
資産：	55,338	19,938	31,611	49,129	30,145	51,924	1,746	239,831
負債：	45,259	24,236	29,102	43,808	15,505	59,869	-	217,779
(1ヵ月以内)								
流動性ギャップ	10,080							
流動性比率	122.27%							
限度	100.00%							

外貨建て勘定（デリバティブおよびマーチャント・バンキング勘定を含む。）

2014年12月31日現在

	7日以内	1ヵ月以内	3ヵ月以内	6ヵ月以内	12ヵ月以内	固定以下を 除く合計 ⁽¹⁾	固定 以下	合計
外貨建て勘定	(単位：百万米ドル、%を除く)							
資産：	8,259	15,285	25,309	34,587	42,735	52,795	93	52,888
負債：	5,838	11,388	19,473	26,310	36,437	52,198	-	52,198
(3ヵ月以内)								
資産			25,309					
負債			19,473					
流動性比率			129.97%					
限度			85.00%					

注記：

(1) 1年超の勘定を含むが固定以下の勘定を含まない勘定の累積的合計である。

当行は、その資金調達需要を満たす柔軟性を促進するために、様々な流動性資源を維持している。当行は、主として個人および法人の預金者からの預金受入、コールローン市場（満期が1ヵ月未満の貸出に対する短期市場）へのアクセス、債券の発行ならびに韓国銀行からの借入によって業務資金を調達している。当行は、主として貸出の供与または有価証券の購入にかかる資金を使用している。通常、預金は貸出または投資よりも平均満期が短い。

当行は、通常の市況のもとでの流動性リスク管理に加えて、起り得る流動性危機に効果的に対処するために緊急時対応計画を有している。流動性危機は、数ある理由の中でも、当行の通常の資金源を利用できないか、または金融市場の崩壊や当行の信用の急激な悪化を含む様々な内外の要因により預金の引き出しが多発することによって、当行が通常の流動性管理手法では状況を効果的に管理できない場合に生じる。当行は、以下の流動性指標に基づいて、「注意段階」、「危機が差し迫った段階」および「危機段階」の異なる流動性リスクの段階に対応した緊急時対応計画を備えている。

- ・金利や株価等の市場動向を反映する指標
- ・マネー・マーケット・ファンドの規模を例とする金融市場感情を反映する指標
- ・当行内部の流動性状態を反映する指標

オペレーショナル・リスク管理

オペレーショナル・リスクは数量化が困難であり、様々な定義に従う。パーゼル委員会は、オペレーショナル・リスクを、内部プロセス、人およびシステムが不適切であるか機能しない場合、またはその他の外部事象によって生じる損失のリスクと定義している。同様に、当行はオペレーショナル・リスクを、信用リスク、市場リスク、金利リスクおよび流動性リスク以外の総合的な管理に関連するリスクと定義している。これらには、システムの不具合、人為的ミス、方針や手順の不遵守、不正、不適切な内部統制および内部手順または環境の変化によって生じるリスクで、結果として財務または財務以外の損失をもたらすリスクが含まれる。当行は、かかる損失を最小化するために、事務リスク、ITリスク（サイバー・セキュリティ・リスクを含む。）、管理リスクおよび法的リスクを含む、当行の事業運営に関連するオペレーショナル・リスクの監視および評価を行っている。

当行は、オペレーショナル・リスクの監視および管理を行うために、広範な方針に基づいたシステムを維持しており、組織全体に安定的かつよく管理された業務環境を提供することを目的とした管理の枠組みを構築している。現在、当行の銀行業務オペレーショナル・リスク手順の確実な遵守についての主な責任は、各事業部門および業務チームが担っている。また、当行の監査部、リスク管理部およびコンプライアンス部も、当行の内部統制環境の統一性の検討および維持にあたり重要な役割を果たしている。

当行のオペレーショナル・リスク管理システムは、リスク管理部のオペレーショナル・リスクチームが管理している。現行のシステムは主に、リスク管理の自己査定、主なリスク指標を用いたリスクの数量化、損失データの収集、シナリオ管理およびオペレーショナル・リスク資本管理からなっている。当行は、全従業員が本システムをよく理解することを目的とした、いくつかの教育および認識プログラムを運営している。当行はまた、本社のオペレーショナル・リスクチームとフロント・オフィスの従業員との調整役を担い、オペレーショナル・リスク管理システムを一段と向上させるための集中的なフィードバックの提供に努めるオペレーショナル・リスク・マネジャーを当行の各部門および支店に任命している。

2014年12月31日現在、当行は、当行の部門および国内外の支店についてリスク管理の自己評価を実施し、かかる評価からすべての支店に関する体系的なデータを回収し、かかる自己評価による調査結果に関連する部門または支店の手順およびプロセスの改善に役立てている。さらに、当行は2003年以降リスク関連のデータを蓄積し、業務損失を監視する手順を改善しており、現在はリスク・シミュレーション・モデルを策定している。また、当行は部門レベルで約196の主要リスク指標を選定し、これらを監視している。

当行の監査委員会は、3名の社外取締役で構成され、当行の内部統制ならびに定められた倫理上および法律上の原則の遵守を監督する独立した検査機関である。監査委員会は、数ある事項の中でも特に当行の管理全般および会計について内部監査を実施し、当行の監査委員会を支援する監査部を監督する。監査委員会はまた、当行の会計方針およびその変更、財務上および会計上の事項ならびに財務報告の公平性を検討し、これらを評価する。

当行の監査委員会および監査部門は、以下の監査を監督および実施する。

- ・業務全般について毎年実施される全面的な監査を含む通常監査、必要に応じて実施される選定された業務の部分的監査、ならびに定期および不定期のスポット監査。
- ・監査委員会または常任監査役が必要と認めるときに実施されるか、または最高経営責任者もしくはFSS等の監督機関の要請により実施される特別監査。
- ・当行の業務部部長または上級役員の承認を必要とする重要な取引または業務に対して、常任監査役によって実施される日々の監査。
- ・イレギュラーな取引を特定して必要な措置を講じるために、コンピュータ化された監査システムによって実施されるリアルタイムのモニタリング監査。
- ・当行の業務規則および方針を業務部門が確実に遵守するようにするための、各業務部門による自己チェックとしての自己監査（日次監査、月次監査および特別監査を含む）。

これらの監査およびコンプライアンス業務の他に、当行の監査部門は、オペレーショナル・リスク管理の枠組みと、取締役会、関連部門および事業部門の機能ならびに業務の適切性を監視し、オペレーショナル・リスクについて定期的な検査を実施し、その結果を報告するオペレーショナル・リスク管理の検査担当者を任命している。当行の監査部も、オペレーショナル・リスクを最小化するために、提案された銀行商品またはその他の業務もしくはサービスの計画を事前に審査する。

通常監査、特別監査、日次監査およびリアルタイムのモニタリング監視は、当行の検査担当者によって実施され、自己監査は関連する業務部門の自己監査担当者によって実施される。

内部監査および検査の他に、FSSは当行業務の通常の年次監査を行う。FSSはまた、リスク管理、信用モニタリングおよび流動性など、当行の業務の特定面について必要に応じて特別監査も実施する。これらの監査の通常の過程では、FSSは規制対象の金融機関またはその従業員が適用ある法律またはFSSの規則、規制およびガイドラインを遵守していないと判断する場合には、通常、警告通知を発行する。当行は過去にこうした

通知を受理しており、また今後も受理することが予想されるが、当行はかかる通知に対して適切に対処しており、今後も引き続き適切に対処していく。例えば2012年7月、FSSは東亜建設株式会社に関する横領事件について、信託勘定の資金の支払に不正があり、内部統制の管理が不十分であったとして、機関警告を発した。FSCは2012年の11月から12月まで当行の包括的監査を行い、当行が顧客口座を違法に監視し、一部の金融取引について守秘義務に違反し、当行の関連会社に対する1件の投資について開示し、FSCに報告する義務を怠ったことが発覚した後、2013年7月に当行に機関警告を発し、当行の従業員65名に対する懲戒処分および87.5百万ウォンの罰金を課した。さらに2013年3月、FSCは申立てのあった当行の金融コンピューター・ネットワークの故障に関し、当行に対し特別監査を行った。当行がその情報技術管理者のアカウントおよびワクチン・サーバーに関して適切なメンテナンスを行っていなかったことが発覚した後、2013年12月に当行に機関警告を発し、当行の従業員5名に懲戒処分を課した。2013年10月、FSCはまた、申立てのあった違法な顧客口座の監視に関し、当行に対し特別監査を行い、2014年2月、韓国の検察庁もまたこの件に関して当行の調査を開始した。本書の日付現在、FSCおよび検察庁のいずれも、かかる調査の結果を発表していない。

当行は、法的リスクをオペレーショナル・リスクの一部と捉えている。当行の顧客および取引相手方の義務の法的強制力（担保権の強制執行を含む。）の不確実性によって、法的リスクが生じる。法律および規則の変更も当行に悪影響を与える可能性がある。法的リスクは、法律が裁判所で検証されていないことがよくある新規の事業分野では高くなるが、当行の従来型の事業においても、韓国における法律および規制上の状況が変化しており、多くの新たな法律や規則が裁判所で検証されていない場合においては、法的リスクが増大する。当行は、厳格なリーガル・ドキュメンテーションを使用し、取引が適切に承認されるよう確実にすることを目的とした手順を採用し、法律顧問に相談することで、法的リスクの最小化に努めている。コンプライアンス部は、当行のコンプライアンス・システムを運用している。このシステムは、当行従業員のすべてによる関係法令の遵守を確実にすることを意図している。コンプライアンス・システムの主な機能は、関係法令遵守の改善度を監視し、内部統制を維持（各部門が適切な部内方針を確立し、かかる方針を確実に遵守するようにすることを含む。）し、法律の遵守について従業員を教育することである。コンプライアンス部はまた、自己監査の管理、実施および結果も監査する。

リスク管理システムのアップグレード

海外子会社のリスク管理を強化し、現地および国内の規則を有効に遵守するために、当行は海外子会社のリスク・データを記録する世界規模のリスク管理システム・ネットワークを構築する過程にある。当行は、このシステムの開発を海外進出のさらなる拡大と既存の海外子会社の安定的な成長のために活用しようとしている。当行はこれまでに中国、日本、ベトナム、米国およびインドの子会社について、かかるシステムの開発を完了し、その他の海外子会社についてこのシステムの適用を拡大する計画である。

当行はまた、2008年の世界金融危機のようなストレス・シミュレーションに備えるために、「バーゼルII」の基準に基づくストレスVaRを計算するシステムの開発を完了した。当行はかかるシステムについての認可をFSCから受け、2012年から実施している。

2012年、当行はまた、デフォルト時損失率（LGD）の高度データ処理を通じて不良資産の回収および回復を改善するシステムを開発した。2012年、当行は、外部監査法人による監査を義務付けられていない中小企業およびSOHOに対するリスク査定のための信用評価モデリングをアップグレードするための許可をFSSから取得した。このアップグレードは、かかる中小企業およびSOHOの長の信用プロフィールにおけるファクタリングに関するものである。2014年、当行はさらに、外部監査の対象となっている企業、外部監査の対象となっていない企業および企業の長についてのモデリングを完全に改造することにより、外部監査法人による監査を義務付けられていない中小企業のリスク査定の信用評価モデリングをアップグレードした。かかるアップグレードされたモデリングはFSSにより認可され、当行は、2014年からアップグレードされたシステムの実施を開始している。

さらに、2013年、当行は、当行の個人向けSOHOのエクスポージャーに関するバーゼルIIの内部評価モデルの利用についてFSSから承認を取得した。

当行はまた2012年に、バーゼルIII、IFRSおよびその他の規制要件を適時に遵守し、リスク関連データの質を改善するために、資産負債管理システムをアップグレードした。2014年、当行は、毎日の測定と効果的な管理を円滑に行うために、バーゼルIIIに基づき、流動性カバレッジ比率および正味安定資金調達比率システムをアップグレードした。

リスク管理のための先進的な測定アプローチのFSSによる認可を経て、当行はオペレーショナル・リスク管理能力をさらに強化するために、オペレーショナル・リスク管理システムを再設定した。

(4) 新韓フィナンシャル・グループ

概要

新韓フィナンシャル・グループは、とりわけ資産合計、収入、収益性および自己資本の点で韓国大手金融機関の一つである。新韓フィナンシャル・グループは、2001年9月1日に設立され、韓国で設立された初の民間金融持株会社となった。その設立以来、新韓フィナンシャル・グループは幅広い金融商品およびサービスを韓国で開発および導入しており、利便性の高いワン・ポータル・ネットワークを通じて総合的な金融ソリューションを顧客に提供することを目指している。FSSの報告によると、新韓フィナンシャル・グループは、2014年12月31日現在の資産合計で韓国最大の金融サービス・プロバイダーであり、韓国において第3位の銀行業務（2014年12月31日現在の連結ベースの総資産による）および最大のクレジットカード業務（2014年12月31日現在のクレジットカードでの購入額による）を営んでいた。

新韓フィナンシャル・グループは、数回の合併および買収を通じて大幅な成長を遂げた。中でも2003年の新韓フィナンシャル・グループによる朝興銀行の買収によって同グループは韓国で第3位の銀行業務を有することになった。さらに、2007年3月の新韓フィナンシャル・グループによるLGカード（当時の韓国最大のクレジットカード会社である。）の買収により、韓国で最大のクレジットカード業務を有することができ、これにより新韓フィナンシャル・グループの銀行業務以外の能力が著しく拡大し、バランスの取れた事業ポートフォリオを達成することができた。

新韓フィナンシャル・グループは、現在、直接子会社13社および間接子会社18社を有しており、商業銀行業務、コーポレート・バンキング、プライベート・バンキング、クレジットカード、資産管理、ブローカーおよび保険サービスを含む幅広い金融商品およびサービスを提供している。新韓フィナンシャル・グループは、こうした幅広いサービスが当行の現在の顧客および潜在顧客の多様なニーズを満たすのに役立つと考えている。新韓フィナンシャル・グループは、現在グループ全体で1,372を超える支店網において、約23,555名の従業員を通じて約29百万の稼働顧客（かかる顧客基盤は、韓国で最大であると同グループは考えている。）にサービスを提供している。新韓フィナンシャル・グループの収益の実質的にすべてがこれまで韓国から得られているが、同グループは米国、カナダ、英国、日本、中華人民共和国、ドイツ、インド、香港、ベトナム、カンボジア、カザフスタン、シンガポール、メキシコ、ウズベキスタン、ミャンマーおよびポーランドにおける76の事務所の世界的なネットワークを通じて当行の顧客のニーズに応えることを目指している。

沿革および組織

2001年9月1日、新韓フィナンシャル・グループは、新韓フィナンシャル・グループの普通株式と交換に以下の4企業の発行済み株式のすべてを当該企業の旧株主から取得した結果、金融持株会社法に基づく金融持株会社として設立された。4社とは、(i)韓国取引所に上場されていた全国的な商業銀行である当行、(ii)韓国取引所に上場されていた証券会社である新韓証券、(iii)韓国取引所コスダック市場（以下「KRX KOSDAQ」という。）に上場されていたリース会社である新韓キャピタルおよび(iv)非上場の投資信託委託会社である新韓金融投資信託運用である。2001年9月10日、新韓フィナンシャル・グループの持株会社の普通株式は、現在KRX KOSPI市場となっている市場に上場された。

新韓フィナンシャル・グループはその設立以来業務を拡大しており、その大部分は戦略的買収または合併事業の設立によってなされている。新韓フィナンシャル・グループの主な買収および合併事業の設立を以下に記載する。

取得日	会社名	主な業務	設立方法
2002年4月	済州銀行	地方銀行業務	韓国預金保険公社からの取得
2002年7月	新韓金融投資 ⁽¹⁾	証券投資業務	双竜グループからの取得
2002年8月	新韓BNPパリバ投資信託運用 ⁽²⁾	投資助言業務	BNPパリバとの50対50の合併事業
2003年8月	朝興銀行	商業銀行業務	債権者からの取得
2005年12月	新韓生命	生命保険サービス	株主からの取得
2007年3月	LGカード	クレジットカード・サービス	債権者からの取得
2012年1月	トマト相互貯蓄銀行 ⁽³⁾	貯蓄銀行	債権者からの資産および負債の購入ならびに承継
2013年1月	イエハンビョル貯蓄銀行 ⁽⁴⁾	貯蓄銀行	韓国預金保険公社からの取得

注記：

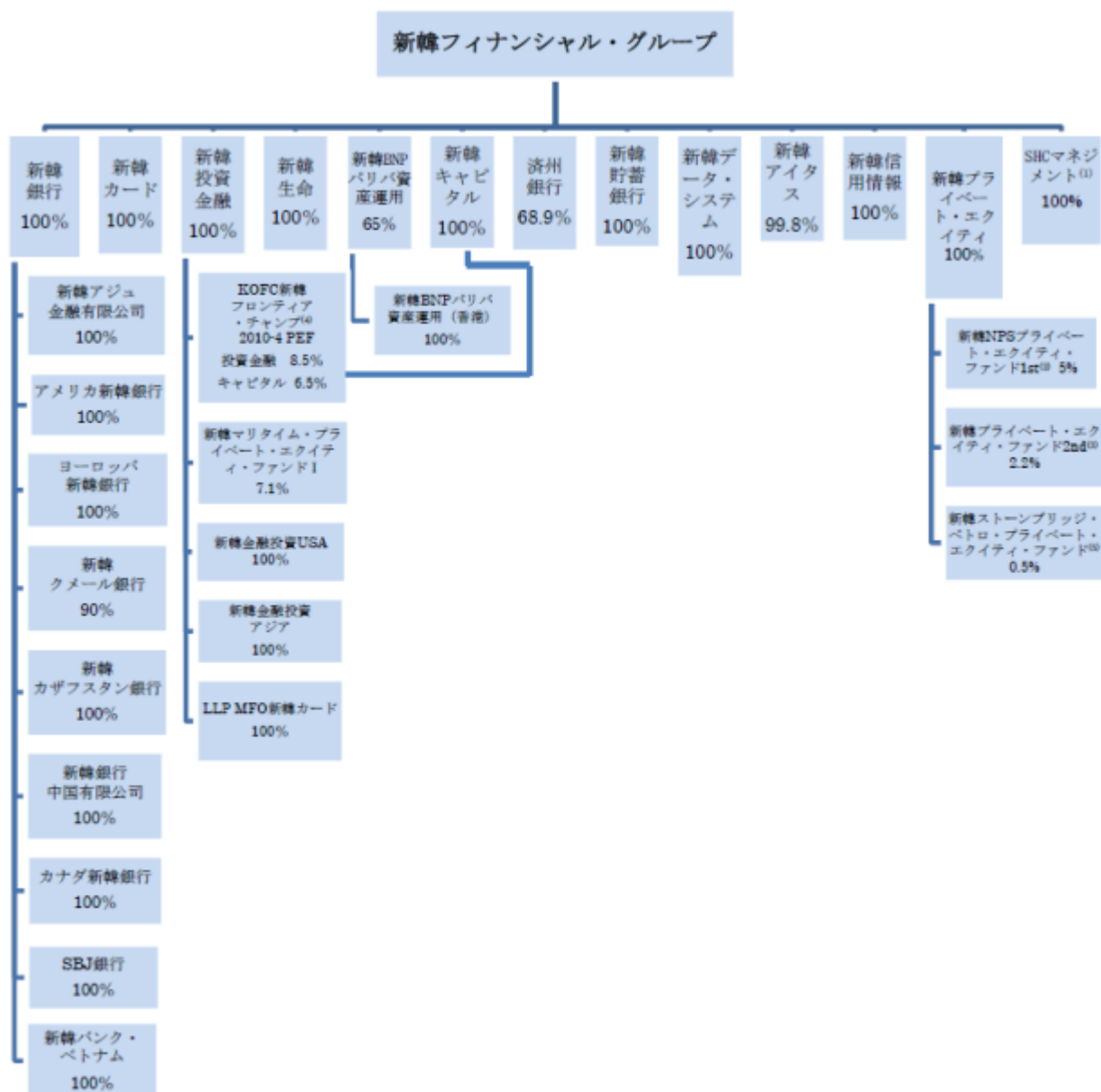
- (1) 2009年8月付でグッドモーニング新韓証券から新韓金融投資に社名変更。
- (2) 2009年1月、SH資産運用および新韓BNPパリバ投資信託運用は合併して新韓BNPパリバ資産運用となった。
- (3) トマト相互貯蓄銀行の一部の資産および負債を買入れ、かつ承継するために、2011年12月12日に新韓ホープ・カンパニー・リミテッドが設立された。2011年12月28日、新韓ホープ・カンパニー・リミテッドは、貯蓄銀行の免許を取得し、その社名を新韓貯蓄銀行と変更し、新韓フィナンシャル・グループの直接の子会社となった。
- (4) 2013年1月、新韓フィナンシャル・グループは韓国預金保険公社と、韓国に所在する貯蓄銀行であるイエハンビョル貯蓄銀行を45.3十億ウォンで取得する株式購入契約を締結し、イエハンビョル貯蓄銀行を新韓フィナンシャル・グループの既存の子会社である新韓貯蓄銀行と合併するための当局の許可を得た。2013年4月1日、新韓貯蓄銀行とイエハンビョル貯蓄銀行はイエハンビョル貯蓄銀行を存続会社として合併し、単一の事業体となり、新たな合併後の銀行はその名称を新韓貯蓄銀行とした。

新韓フィナンシャル・グループの子会社は、以下を除いてすべて韓国で設立されている。

- ・新韓アジュ金融有限公司（香港で設立）
- ・アメリカ新韓銀行（米国で設立）
- ・カナダ新韓銀行（カナダで設立）
- ・新韓銀行中国有限公司（中華人民共和国で設立）
- ・ヨーロッパ新韓銀行（ドイツで設立）
- ・新韓カザフスタン銀行（カザフスタンで設立）
- ・SBJ銀行（日本で設立）
- ・新韓クメール銀行（カンボジアで設立）
- ・新韓バンク・ベトナム（ベトナムで設立）
- ・LLP MFO新韓カード（カザフスタンで設立）
- ・新韓金融投資ヨーロッパ（英国で設立）
- ・新韓金融投資USA（米国で設立）
- ・新韓金融投資アジア（香港で設立）
- ・新韓 BNPパリバ資産運用（香港）（香港で設立）

2014年12月31日現在、新韓フィナンシャル・グループは13の直接および18の間接子会社を有している。

下図は、2014年12月31日現在における新韓フィナンシャル・グループの組織構成を示している。



注記：

- (1) 現在、清算手続中である。
- (2) 新韓フィナンシャル・グループおよびその子会社は現在、合計36.7%を保有している。
- (3) 新韓フィナンシャル・グループおよびその子会社は現在、合計32.6%を保有している。
- (4) 新韓フィナンシャル・グループおよびその子会社は現在、合計34.6%を保有している。
- (5) 新韓フィナンシャル・グループおよびその子会社は現在、合計1.8%を保有している。
- (6) 新韓フィナンシャル・グループおよびその子会社は現在、合計93.3%を保有している。

下表は、2014年12月31日現在（別段表示のない限り）における新韓フィナンシャル・グループの普通株式の受益所有権に関する一定の情報を記載したものである。

株主名	所有普通株式数	所有割合（％）
韓国国民年金サービス ⁽¹⁾	42,133,294	8.89
BNPパリバSA	25,356,276	5.35
サウジアラビア・マネタリー・エージェンシー	20,863,893	4.40
新韓フィナンシャル・グループ従業員持株組合	19,344,136	4.08
シティバンク・エヌ・エイ(ADR部)	12,478,312	2.63
シンガポール政府	10,053,958	2.12
ザ・ラザード・ファンド・インク	7,748,374	1.63
三星資産運用	6,073,694	1.28
みずほ銀行	5,955,000	1.26
中国人民銀行	4,762,564	1.00
その他	319,430,086	67.36
合計	474,199,587	100.00

注記：

(1) 2014年12月31日現在、国民年金サービスは新韓フィナンシャル・グループが2011年4月に発行した新韓フィナンシャル・グループ第12シリーズ償還可能優先株式2,000,000株（18.02％）を保有している。償還可能優先株式には議決権は付されていない。

上記の株主を除いて、他のいかなる株主も新韓フィナンシャル・グループの発行済み議決権付株式の1％以上を保有していない。新韓フィナンシャル・グループのいかなる株主も異なる議決権を有していない。

(5) 韓国の銀行業界

2014年9月30日現在、韓国の銀行業界は、専門銀行4行、全国規模の商業銀行7行、地方商業銀行6行および外国銀行の40支店により構成されている。

専門銀行は、特別法に基づいて設立されまたは設立が認可され、政策に従って韓国経済の特定部門において、資源の制約または収益性の欠如により商業銀行では満たすことのできない需要に応じることを目的としている。例えば、韓国産業銀行は韓国の主要産業に長期設備投資資金を提供し、一方、韓国輸出入銀行は輸出貨出および貿易金融を提供している。中小企業銀行は、中小企業部門に重点を置いており、一方、農協銀行および韓国漁業協同組合中央会（NFFC）はそれぞれの産業を支援している。韓国輸出入銀行を除き、これらすべての専門銀行はまた従来型の預金商品を提供している。

商業銀行は、一般個人向けおよび法人部門向けに業務を行うことを目的としている。全国規模の銀行は、当行、国民銀行、ウリィ銀行、ハナ銀行、韓国外換銀行、シティバンクおよびスタンダード・チャータード・バンク・コリアの7行である。中でも、当行、国民銀行およびハナ銀行は、韓国商法および金融持株会社法に基づいて設立されたそれぞれの金融持株会社の旗艦事業会社であり、伝統的銀行業務とノンバンク業務との間のクロスセリングの機会ならびに資源配分および資本効率の向上を促進することを目的としている。

各行のソウル支店の顧客を除き、地方銀行の主要な取引顧客はその対象地域の中小企業である。地方銀行は、釜山銀行、大邱銀行、光州銀行、全北銀行、慶南銀行および済州銀行である。済州銀行は新韓フィナンシャル・グループの子会社である。

多くの国と同様、韓国の商業銀行は広範囲にわたる事業に従事することができる。その中核業務には、預金の受入れ、資金貸出および手形割引、送金および取立ならびに外国為替が含まれる。商業銀行はまた、保証・手形引受ならびに自己勘定による有価証券投資等の業務も行う。信託およびクレジットカード業務といった非銀行業務の各分野に従事する場合は、個別の認可を得なければならない。さらに、商業銀行はまた、非金利事業だけでなく、バンカシュアランスおよびファンド販売といった手数料ビジネスにもその業務を拡大しつつある。

(6) 監督および規制

銀行に適用される主要な規制

韓国の銀行制度は、銀行法および1950年韓国銀行法（その後の改正を含む。以下「韓国銀行法」という。）による規制を受ける。また、韓国の銀行は、韓国銀行、韓国銀行の金融政策委員会、FSCおよびその執行機関であるFSSによる規制および監督を受ける。

韓国銀行法に基づき1950年6月に設立された韓国銀行は、中央銀行の通常の機能を果たす。韓国銀行は、効率的な通貨信用政策の策定および実施を通じて物価の安定を図ることにより、韓国経済の健全な発展に寄与することを目的としている。韓国銀行は、その最高政策決定機関である金融政策委員会の指示に基づき業務を営む。

韓国銀行法に基づき、金融政策委員会は、通貨政策および信用政策の策定ならびに韓国銀行の業務、管理および運営に関する決定を主要な任務としている。FSCは1998年4月1日に設置され、銀行法に従い、商業銀行の自己資本比率に関するガイドラインの策定を含む商業銀行に対する規制を行い、銀行の監督に関する規制を制定する。さらに、1999年5月24日の政府組織法および銀行法の改正に従い、FSCは現在、企画財政部に代わり、銀行業への市場参入規制も行っている。

FSSは、FSCの指示および指令に従い、商業銀行の監督および検査を行う。FSSはとりわけ、銀行の流動性の慎重な管理および自己資本比率に関する要件を定め、FSC規則により委任された権限に従い報告要件を設定し、銀行はこれに従って財務実績および株式保有に関する年次報告書、経営戦略、不良債権（償却を含む。）および問題企業の管理に関する定期報告書ならびに不良債権の処分計画を提出しなければならない。

銀行法の下では、商業銀行業務または長期金融業務を開始するにはFSCからの承認を取得しなければならない。商業銀行業務は、その大部分を預金の受入れから得た資金の貸出でその期間が1年を超えないもの、またはFSCの定める一定の制限に従い1年から3年の間のものと定義される。長期金融業務は、その大部分を払込資本金、準備金、その他の留保利益、満期まで1年以上の預金受入れまたは債券もしくはその他有価証券の発行から得た資金の貸出でその期間が1年超のものと定義される。信託業務といった商業銀行および長期金融業務以外の業務に参入することを希望する銀行は、FSCの承認を受けなければならない。他の金融機関との合併、解散、銀行業務の廃止または事業の全部もしくは一部の譲渡に対する認可もFSCから取得しなければならない。

政府が銀行の財政状態が不健全であるとみなす場合または銀行が韓国法に定める適用ある自己資本比率を満たすことができない場合、政府はとりわけ以下のとおり命令することができる。

- ・増資または減資
- ・担当役員の任務の遂行停止および保管会社の任命の停止
- ・株式の消却または併合
- ・事業の一部または全部の譲渡
- ・資産の売却および高リスク資産の取得禁止
- ・支店の閉鎖もしくは規模縮小または従業員の削減
- ・金融持株会社法に基づく金融持株会社との合併またはその子会社になること
- ・第三者による銀行の買収
- ・事業活動の一部または全部の停止
- ・金融取引に関する契約上の権利義務の譲渡

自己資本比率

銀行法は、全国規模の銀行の場合は最低100十億ウォン、地方銀行の場合は最低25十億ウォンの払込資本金を維持しなければならないと定めている。

最低資本要件の他に、韓国に所在する外国銀行の支店を含むすべての銀行は、所定の支払能力を維持しなければならない。銀行はまた、稼得した純利益にかかる配当の支払ごとに、税引後純利益の少なくとも10%の利益準備金を、かかる利益準備金が払込資本金と同額に達するまで積み立てなくてはならない。

銀行法の下で、銀行の資本はTier I資本およびTier II資本の2つのグループに分けられる。Tier I資本（通常「基本的自己資本」という。）は、(i)株式資本、資本剰余金および利益剰余金といった普通株式の発行により発生し、銀行が被った損失を吸収することができる資本（「普通株式資本金」と総称する。）、ならびに(ii)普通株式資本金を使い切った後に銀行の損失を吸収することができる資本で、FSSにより指定された要件を満たす持分証券の発行により発生する株式資本および資本剰余金（「その他の基本的自己資本」と総称する。）からなっている。Tier II資本（通常「補完的自己資本」という。）は、基本的自己資本に相当する資本であるが、基本的自己資本には含まれず、FSSにより指定された要件を満たす持分証券の発行により発生する株式資本および資本剰余金で、銀行が清算された後で損失を吸収することができる資本ならびに「正常」および「要注意」に分類された債権のための貸倒引当金を表している。

銀行業務の監督に関する細則に基づき、持分証券はとりわけ、その他の基本的自己資本として認識されるために下記の要件を満たさなければならない。

- (i) 持分証券は満期がないか、既存の要項を変更することなく銀行が満期を延長することができる条件に基づき満期までの期間が30年以上でなければならない。
- (ii) ステップアップ条項のような銀行に持分証券を償還することを奨励する条件がないこと。
- (iii) 持分証券は銀行の無担保かつ劣後債務を構成し、補完的自己資本の保有者の請求よりも下位に位置づけられること。
- (iv) 配当支払要件は発行日現在で決定されなければならない、銀行の信用格付による影響を受けてはならない。
- (v) 持分証券は発行日から5年以内に償還されてはならず、発行日から5年経過後であっても、かかる持分証券を償還するか否か銀行の単独の裁量により決定することができる。
- (vi) FSCが、かかる有価証券の償却もしくは普通株式への転換もしくは公的部門による資本注入もしくは同等の支援（これらをなくしては銀行が生き残れない。）が必要であると決定する場合、または銀行が韓国銀行業構造改革法もしくは適用ある場合には預金保護法に基づく「破綻金融機関」として指定される場合に、持分証券が、事象（「トリガー事象」）の発生後に償却されるか普通株式に転換されることを要求する条項を含まなければならない。

銀行業務の監督に関する細則に基づき、持分証券はとりわけ、その他の補完的自己資本として認識されるために下記の要件を満たさなければならない。

- (i) 持分証券は銀行の無担保かつ劣後債務を構成し、銀行のすべての預金およびその他のシニア債務よりも下位に位置づけられること。
- (ii) 持分証券の満期は発行日から5年以上とし、発行日から5年未満で償還されてはならないこと。
- (iii) 持分証券の保有者は、満期日前にかかる持分証券を償還することをその裁量で銀行に要求する権利を有してはならないこと。
- (iv) ステップアップ条項のような銀行に持分証券を償還することを奨励する条件がなく、かつ銀行はその単独の裁量により、かかる持分証券を満期日前に償還するかどうかを決定することができること。
- (v) 配当または利息の支払は、銀行の信用格付に関連して決定されてはならないこと。
- (vi) 持分証券は、トリガー事象が発生した場合には、償却されるか、普通株式に転換されることを要求する条項を有すること。

すべての銀行は、国際決済銀行（以下「BIS」という。）の基準に基づき策定されたFSCの要件に従い決定されたリスク加重資産に対するTier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の最低比率に関する基準を満たさなければならない。これらの基準は1996年に採用され、実施された。これらの規制に基づき、すべての国内銀行および外国銀行支店はリスク加重資産に対するTier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の比率を最低8%とすることが義務付けられた。さらに、韓国においてバーゼルIIIが採択され、2013年12月1日から段階的に実施されているため、韓国のすべての銀行は銀行業務の監督に関する規則に定められる普通株式資本金（資本項目控除後）および基本的自己資本（資本項目控除後）のリスク加重

資産に対する最低比率を充たさなければならない。普通株式資本（資本項目控除後）のリスク加重資産に対する最低比率要件は、2013年12月1日から2013年12月31日までは3.5%、2014年1月1日からは4.0%であり、2015年1月1日からは4.5%に引き上げられる。基本的自己資本（資本項目控除後）のリスク加重資産に対する最低比率要件は、2013年12月1日から2013年12月31日までは4.5%、2014年1月1日からは5.5%であり、2015年1月1日からは6.0%に引き上げられる。

さらに、追加的資本保全バッファ要件が2016年1月1日から2019年1月1日までに段階的に実施される。かかる要件に基づき、韓国の銀行は2016年1月1日から0.625%の資本保全バッファを維持することが義務付けられ、これは2017年1月1日に1.25%に、2018年1月1日に1.875%に、2019年1月1日に2.5%に、段階的に引き上げられる。

銀行業務の監督に関する規則および同規則に基づき公布された細則に基づき、韓国の銀行はその住宅抵当貸出に関して下記のリスク加重比率を適用している。

- (1) 信用リスク加重資産の測定について標準的手法を採用している銀行に対しては、35%のリスク加重比率、および
- (2) 信用リスク加重資産の測定について内部格付手法を採用している銀行に対しては、デフォルト確率、デフォルト時損失率およびデフォルト時エクスポージャー（それぞれ銀行業の監督に関する細則において定義される。）を参照して測定されるリスク加重比率。

銀行のリスク管理の改善および自己資本比率の向上を目的として2004年6月にバーゼル委員会によって取り決められた合意であるバーゼルIIは、韓国において2008年1月に実施された。バーゼルIIに従い、8%の自己資本比率を維持することに加え、不適切な手続、従業員による損失リスク、内部制度、予期せぬ事態の発生といったオペレーショナル・リスクならびに信用リスクおよび市場リスクが、リスク加重資産の測定の際に考慮される。バーゼルIIに基づき、信用リスクの資本要件は内部格付（IRB）手法または標準的手法により測定することができる。

標準的手法に基づき、居住用不動産に対する第1位抵当権により完全に担保される住宅抵当貸出のリスク加重は35%である。

銀行業務の監督に関する規則に基づき、銀行は一般に、その貸出残高およびその他の与信（確認保証・手形引受および信託勘定貸出を含む。）について下記を上回る合計金額の貸倒引当金を維持しなければならない。

- ・ 正常の与信については0.85%（または建設、小売および卸売販売、宿泊、外食、不動産およびリースを含む一定の業種に対する貸出からなる正常与信の場合は0.9%、個人および家計への貸出からなる正常与信の場合は1.0%、クレジットカード・ローンからなる正常の与信の場合は2.5%ならびにその他のクレジットカード債権からなる正常の与信の場合は1.1%）。
- ・ 要注意の与信については7%（または個人および家計への貸出からなる要注意与信の場合は10%ならびにクレジットカード・ローンからなる要注意の与信の場合は50%ならびにその他のクレジットカード債権からなる要注意の与信の場合は40%）
- ・ 固定の与信については20%（または韓国企業再生法または韓国債務者再生および破産法の第180条2項に従い当行が優先的に支払いを受ける権利を有する資産（以下「優先資産」という。）からなる固定の与信の場合は10%、クレジットカード・ローンからなる固定の与信の場合は65%ならびにその他のクレジットカード債権からなる固定の与信の場合は60%）
- ・ 回収疑問の与信については50%（または優先資産からなる回収疑問の与信の場合は25%、個人および家計への貸出からなる回収疑問の与信の場合は55%ならびにクレジットカード・ローンおよびその他クレジットカード債権からなる回収疑問の与信の場合は75%）
- ・ 推定損失の与信については100%（または優先資産からなる推定損失の与信の場合は50%）

さらに、銀行業務の監督に関する規則に基づき、銀行はその確認保証（確認手形引受を含む。）および未使用のクレジット・ライン残高に関する貸倒損失に対し、上記の貸出残高ならびにその他与信の正常、要注意、固定、回収疑問および推定損失の与信に適用されるのと同じ割合で計算した合計金額の引当金を維持しなければならない。

流動性

すべての銀行は、十分な流動性を確保するために、銀行法に従ってその資産および負債の満期を一致させなくてはならない。銀行は、Tier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の合計額の60%を超える金額を、株式または満期まで3年超の期間を有するその他の証券に投資してはならない。しかし、この規制は、韓国国債、韓国銀行が発行した金融安定債には適用されない。

FSCは韓国の各銀行にウォン建て流動性カバレッジ比率（ウォン建ての流動性の高い資産（市場性のある有価証券を含む。）を1ヵ月以内に期限が到来するウォン建てのキャッシュ・アウトフローの正味金額で除したものと定義する。）を100%以上に維持し、FSSに月次報告を行うことを要求している。FSCはまた、韓国の

各銀行に、(1) 3ヵ月以内期限到来外貨建て流動性比率（3ヵ月以内に期限が到来する外貨建て流動資産を3ヵ月以内に期限が到来する外貨建て負債で除したものと定義する。）を85%以上に維持すること、(2) 7日以内期限到来外貨建て流動資産比率（7日以内に期限が到来する外貨建て流動資産から7日以内に期限が到来する外貨建て負債を差し引いて外貨建て資産の合計額で除したものと定義する。）をマイナス3%以上に維持すること、および(3) 1ヵ月以内期日到来外貨建て流動資産比率（1ヵ月以内に期限が到来する外貨建て流動資産から1ヵ月以内に期限が到来する外貨建て負債を差し引いて外貨建て資産の合計額で除したものと定義する。）をマイナス10%以上に維持することを要求している。FSCはまた、韓国の各銀行に対し、これらの比率の遵守に関する月次報告書を提出することを要求している。

金融政策委員会は、銀行が預金債務に対して維持しなければならない最低支払準備要件を設定し、これを変更する権限を付与されている。現行の最低支払準備率は、ウォン建ての要求払い預金の残高については平均残高の7.0%、ウォン建ての従業員資産形成貯蓄預金、従業員長期貯蓄預金、従業員住宅購入貯蓄預金、長期住宅購入貯蓄預金、家計長期貯蓄預金および従業員優先貯蓄預金の残高に対しては平均残高の0.0%、ならびにウォン建ての定期および貯蓄預金、相互積立、住宅積立および譲渡性預金証書の残高については平均残高の2.0%である。外貨建て預金債務に対する最低支払準備率は、貯蓄預金の残高に対しては2.0%、要求払い預金に対しては7.0%、オフショア口座、移民口座および外国為替銀行に開設された居住者口座に対しては1.0%である。

預貸率

2009年12月、FSSは、銀行が過去数年に渡って住宅に係る抵当権や中小企業への貸出金を付与することで過度に競って資産規模を拡大した結果、預貸率が継続的に上昇したことから、韓国の銀行の流動性が全般的に不安定になったと判断し、銀行業務の監督に関する規則の改正により預貸率に関する新たな一連の規制を導入することを発表した。銀行業務の監督に関する規則（2010年8月18日付および2014年12月26日付で改正され、それぞれ2014年1月1日および2015年1月1日から効力が生じている。）は、保有するウォン建て貸出金の直前の四半期の最終月の価値が2兆ウォン以上の銀行に対して、ウォン建て貸出金（韓国産業銀行、韓国政府または韓国銀行連合会からの一定の種類の貸出を除く。）のウォン建て預金（譲渡性預金証書を除く。）およびカバード・ボンドの発行に関する法律に基づく満期が5年未満のカバード・ボンドの残高（カバード・ボンドの発行によるかかる調達資金がウォン建てで使用され、かつ、ウォン建て貸出の1%を超えない場合に限る。）に対する比率を1対1未満に維持することを義務付けている。2014年12月31日現在における当行の預貸率は98.0%であった。

単一顧客および大株主に対する金融エクスポージャー

銀行法に基づき、一定の例外を除き、銀行による重大な信用エクスポージャー、すなわちTier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の合計額の10%を超える単一の個人、法人またはかかる個人もしくは同一の企業集団（独占規制および公正取引に関する法に定義される。）に属する企業といった法人と信用リスクを共有する者に対する貸出の合計額は、当該銀行のTier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の合計額の5倍を超えてはならない。一定の例外を除き、いかなる銀行も、そのTier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の合計額の20%を超えて個人または法人に対する与信（貸出、保証、有価証券の購入（与信の性質を有する場合に限る。）および直接または間接に信用リスクを生むようなその他の取引を含む。）を行うことを認められておらず、また、いかなる銀行も、同一の企業集団（独占規制および公正取引に関する法律に定義される。）に属する個人、法人および会社に対して、そのTier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の合計額の25%を超える貸出を行うことはできない。

銀行法に従い、大株主に対する与信には一定の規制が適用される。「大株主」の定義は以下のとおりである。

- ・（銀行法に関する大統領令に定義される当該株主と特別な関係にある個人と併せて）銀行の発行済議決権付株式総数の10%（地方銀行の場合は15%）超を保有する株主、または
- ・ 銀行（地方銀行を除く。）の発行済議決権付流通株式総数の4%超（銀行法に関する大統領令に定めるとおり、当該株主と特別な関係にある個人と併せて）を保有する株主で、かかる株主が最大株主であるかまた当該銀行の主要事業を実質的に支配できる（例えば、最高経営責任者または経営陣の過半数の任命および解任を通じて）場合。

銀行法のもとで、銀行は、大株主（および銀行法に関する大統領令に定義される当該大株主と特別な関係にある個人と併せて）に対して、(1)当該銀行のTier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の合計額の25%と、(2)当該大株主の株式保有率に当該銀行のTier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の合計額を掛けた額のいずれか低い方を超える金額の与信を行うことを禁じられている。また、銀行のすべての大株主に供与された与信額の合計は、当該銀行のTier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の25%を超えてはならない。

銀行の信用リスクを管理する際、銀行による信用補完措置のうち、貸出契約、資産担保コマーシャル・ペーパー買受契約、劣後受益証券の取得および資産担保証券に基づく債務不履行に対する保証書の提供による債務引受が銀行に対して金融エクスポージャーを発生させる例である。

利率

韓国の銀行は、主要資金源として預金の受入れに引続き依存している。現在、韓国では、貸出事業法に基づく利息の上限金利の39%を除いては、貸出金利に関する法的規制はない。

中小企業向け貸出

商業銀行（当行を含む。）が、韓国銀行により「優先的借り手」として特別に指定された特定の新設企業、ベンチャー企業、革新的企業およびその他の戦略的な中小企業に対するウォン建て貸出を提供する場合、韓国銀行は一般に、韓国銀行により規定される月次調整限度額（現在5.9兆ウォン）に従い、優先的借り手に対する貸出金総額の50%を上限とする譲許的な金利で、これらの銀行にその原資となる資金を提供する。ただし、すべての商業銀行により優先的借り手に提供されたかかる貸出金がある月に規定の限度額を上回った場合、翌月の譲許的資金提供は、各商業銀行に、かかる銀行が優先的借り手に対しその配分に先立つ2ヵ月に提供した貸出金に比例して配分され、この影響として、ある特定の銀行が優先的借り手に対する貸出金提供において他の銀行より遅れた場合、かかる銀行が韓国銀行から譲許的な金利で受領できる資金の額は比例的に減額される。

管理運営実績の開示

一般公衆、とりわけ預金者および株主が銀行をより良く監視できるようにするために管理運営実績の強制開示を行うことを目的として、FSCは商業銀行にとりわけ以下の事項の一般開示を義務づけている。

- ・ 前月末現在における単一の企業グループに対する銀行のTier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の合計額の10%を超える金額の貸出で利益を生じないもの（かかる借り手に対する貸出エクスポージャーが銀行業務の監督に関する規則に基づき施行された細則に従い計算されている場合）。ただし、単一の企業グループに対する貸出エクスポージャーが4十億ウォン以下のものを除く。
- ・ 前月の末現在の銀行のTier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の合計額の1%を超える金額の横領、不正行為または資金の不正流用を伴う金融上の事由の発生。ただし、当該銀行がその結果損失したか損失が予想される金額が1十億ウォン以下であるか、またはFSS長官がかかる事由について公表済みである場合を除く。
- ・ 前月末現在における銀行のTier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の合計額の1%を超える金額の、裁判所の判決または民事手続における類似の決定に起因する損失。ただし、損失が1十億ウォン以下の場合を除く。

貸出に関する規制

銀行法に基づき、商業銀行は、以下のいずれの種類の貸出も行うことを禁じられている。

- ・ 自行株式を担保として直接または間接に行われる貸出
- ・ 自然人または法人による自行株式の購入を可能にするために直接または間接に行われる貸出
- ・ 銀行の役員または従業員に対して行われる貸出（ただし、(1)一般貸出の場合は20百万ウォン、(2)一般貸出に住宅ローンを加算する場合は50百万ウォンまたは(3)一般貸出、住宅ローンおよび金融取引上の従業員の不正行為に起因する損害賠償金を支払うための貸出の場合は合計60百万ウォンを上限とする少額貸出を除く。）

個人世帯向け貸出に関する最近の規制

FSCは近年、銀行が個人世帯向け貸出残高を評価し、報告する仕組みについていくつかの変更を実施し、さらに変更を行うことを提案している。住宅または他の形態の住居を担保とする貸出金の急増を受けて、FSCおよびFSSは、下記を含む住宅を担保とした新規貸出またはリファイナンスを抑制するために複数の規制を実施した。かかる規制には以下が含まれる。

- ・ 全国に所在する住居を担保として行われる貸出に関しては、ローン資産価値比率（担保評価額に対する当該担保により行われる貸出の元本総額）は60%を超えないものとする。
- ・ 投資が過剰と政府が指定する地域に所在する住居（集合住宅を含む。）または投機性が高いと政府が指定する地域に所在する住居（集合住宅を除く。）を担保として行われる貸出に関しては、それぞれの場合において（a）満期が3年以内の貸出のローン資産価値比率は50%を超えないものとし、（b）満期が3年超の貸出のローン資産価値比率は60%を超えないものとする。
- ・ 投機性が高いと政府が指定する地域に所在する集合住宅を担保とするローンに関しては、（i）満期が10年以下のローンのローン資産価値比率は40%を超えないものとし、（ii）満期が10年超のローンのローン資産価値比率は（a）当該集合住宅の価格が600百万ウォンを超える場合は40%を超えないものとし、（b）当該集合住宅の価格が600百万ウォン以下の場合は60%を超えないものとする。
- ・ （i）借り手の配偶者がすでに住宅により担保される貸出を受けているか、または(ii)借り手が独身かつ30歳未満の場合は、投機性が高い地域として政府が指定する地域に所在する集合住宅により担保される貸出に関する借り手の債務所得比率（（i）（x）当該集合住宅により担保される貸出の元金と（y）借り手のその他の債務の利息との年間支払総額を（ii）借り手の年収で除して算定される。）は40%を超えてはならない。
- ・ 投機性が高いと政府が指定する地域または投資が過剰と政府が指定する一定の大都市圏に所在する評価額600百万ウォン超の集合住宅により担保される貸出に関しては、借り手の債務所得比率は40%を超えないものとする。
- ・ 投機性が高いと政府が指定した地域に所在する集合住宅に関しては、借り手は当該集合住宅により担保された新規貸出を1度しか受けることができない。
- ・ 投機性が高いと政府が指定した地域に所在する集合住宅により担保された貸出を借り手が2件以上受けている場合、満期を延長する場合には、満期の最も早く到来する貸出がまず返済されなければならない、貸出件数は最終的に1件まで減らさなければならない。

上記にかかわらず、FSCは、（i）すべての地域（投機性が高い地域および投資が過剰な地域を除く。）においてローン資産価値比率は70%を超えてはならず、（ii）ソウル、仁川および京畿道（投機性が高い地域および投資が過剰な地域を除く。）における2014年8月1日以降のいかなる新規貸出については、債務所得比率は60%を超えてはならないとする行政指導を行ってきた。

不動産投資に関する規制

銀行は、事業を行うために必要な範囲に限り不動産を所有することができ、当該不動産の価値の総額は、Tier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の合計の60%を超えてはならない。銀行が(1)担保権者としての権利の行使により取得した不動産または(2)銀行法により取得が禁じられる不動産は、一定の例外を除き、1年以内に処分しなければならない。

他企業の株式保有に関する規制

銀行法に基づき、銀行は、他企業の発行済議決権付株式の15%超を保有してはならない。ただし、とりわけ下記の場合を除くものとする。

- ・かかる株式を発行する企業がFSCの定める範疇の金融業に該当する事業（プライベート・エクイティ・ファンドに対する株式持分を保有することをその事業目的とする会社を含む。）に従事している場合、または
- ・銀行による株式の取得がかかる企業の企業再編上必要であり、かつFSCの承認を受けている場合。

上記の場合、銀行は以下の要件のいずれかを満たさなければならない。

- ・発行済議決権付株式の15%超を保有する企業に対する銀行の投資総額が、Tier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の合計の15%を超えないこと、または
- ・買収がFSCの定める要件を満たしている場合に、銀行が議決権付株式の15%超を保有する会社に対する投資の合計が、Tier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の合計の30%を超えないこと。

銀行法により、銀行は自己の銀行勘定および信託勘定を利用してTier I資本およびTier II資本（資本控除項目を除く。）の合計の1%相当額を超えて、当該銀行の大株主が発行する株式を取得することを禁じられている。

銀行の所有に関する規制

銀行法の下で、一定の例外を除き、単一の株主およびかかる株主と特殊関係にある個人（銀行法に関する大統領令に定義される。）は、全国規模の銀行の発行済議決権付株式の10%および地方銀行の発行済議決権付株式の15%を上限として、実質的所有権を取得することができる。政府、韓国預金保険公社およびFHC法に基づき適格である金融持株会社は、かかる上限による制約を受けない。ただし、非金融グループ企業（すなわち、(1)グループに属するすべての非金融会社の純資産総額が、当該グループのすべての構成員の純資産総額の25%以上である同一の株主グループ、(2)グループに属するすべての非金融会社の資産総額が2兆ウォン以上である同一の株主グループ、(3)上記(1)または(2)に記載された同一の株主グループが発行済株式総数の4%超を所有する投資信託、(4) (i)かかるプライベート・エクイティ・ファンドの無限責任組員、(ii)かかるプライベート・エクイティ・ファンドにおける株式保有比率が10%以上である有限責任組員、または(iii)独占規制および公正取引に関する法律に定義される同一のコングロマリットに属する単一の企業集団のメンバー企業で、かかるプライベート・エクイティ・ファンドにおける合計株式保有比率が30%以上である有限責任組員であり、上記の(1)から(3)のいずれかに該当する、FSCMAに基づくプライベート・エクイティ・ファンド、または(5)プライベート・エクイティ・ファンドの特別目的会社で、上記(4)に記載されるプライベート・エクイティ・ファンドが特別目的会社の発行済株式の4%超を保有するもしくは特別目的会社の主要な経営事項に対して、例えば役員の任命および解任を通じて事実上の支配権を有する場合、全国規模の銀行の発行済議決権付株式の4%を超える実質所有権を取得することはできず、かかる取得を通じて全国規模の銀行の発行済議決権付株式の4%を超える実質所有権を取得する場合）は、非金融グループ会社がかかる銀行の最大株主になる場合、または役員の任命および解任といった銀行法施行令に定められる方法を通じて主要な経営事項に事実上の支配権を有する場合、FSCの承認を得なければならない。ただし、かかる非金融グループ会社は、下記の条件のもとで、実質所有権を取得することができる。

- ・かかる非金融グループ会社が4%を超える株式に関する議決権を行使しないという条件のもとに、FSCの承認を得ている場合には、全国規模の銀行の発行済議決権付株式の10%まで。
- ・外国人（外国人投資促進法に定義される。）が全国規模の銀行の発行済議決権付株式の9%超を保有する場合には、FSCの承認を得ずに当該銀行の発行済議決権付株式の10%までを、また当該銀行の発行済議決権付株式の10%、25%または33%超を保有する場合は、FSCの承認を得てかかる外国人が保有する株式数まで。

また、いずれの者（韓国国民であるか外国人であるかを問わない。）も、上記の非金融グループ企業を除き、全国規模の銀行の発行済議決権付株式総数の10%超を取得することができる。ただしこれは、保有総数が当該銀行の発行済議決権付株式総数の10%（地方銀行の場合は15%）、25%または33%を超える場合はFSCの承認を得ていることを条件とする。

預金保険制度

預金者保護法は、預金保険制度を通じて、韓国における銀行の一定の預金について保証を行うものである。預金者保護法の下で、当行を含む銀行法による規制を受けるすべての銀行は、四半期ベースで預金者保護法施行令の定める料率による保険料を韓国預金保険公社に支払わなければならないが、これは所与の年度における当該銀行の被保険預金の0.5%を超えないものとする。現在の銀行の保険料は、各四半期の被保険預金の0.02%である。韓国預金保険公社が保険金を支払う場合、韓国預金保険公社は当該支払額を限度に預金者の債権を取得する。現行の規則の下で、韓国預金保険公社は、預金の預入れ時期および規模にかかわらず、ひとりにつき、単一の金融機関における預金および利息の合計額の50百万ウォンまでのみを保護する。

信託業務

信託業務を開始しようとする銀行はFSCによる承認を得なければならない。銀行の信託業務活動は、FSCMAの適用を受ける。銀行業務および信託業務の両方に従事する銀行は、以下を含む一定の法律上および会計上の手続要件に従う。

- ・銀行法、FSCMAおよび信託法の下で、韓国の銀行が受託した信託財産は、当該銀行の勘定における他の資産と分別管理しなければならない。したがって、銀行業務および信託業務の双方に従事する銀行は、「銀行勘定」と「信託勘定」の2つの別個の勘定および銀行業務と信託業務それぞれの詳細を示す2つの別個の記録を管理しなければならない。
- ・信託勘定を構成する財産は、トラスティーが清算または解散する場合、かかる銀行の預金者またはその他の一般債権者への弁済に充てることに利用することはできない。

銀行がFSCMAに基づく資産管理会社、トラスティー、カストディアンまたは一般事務管理者として資格を有し、かつその業務を行う場合、銀行業務、資産運用業務、トラスティー業務またはカストディー業務および一般事務管理の間の潜在的な利益相反を防止するための関連管理運営制度を構築しなくてはならない。これらの措置には以下のものが含まれる。

- ・特定の業務に携わる役員、取締役および従業員が、他の業務に役員、取締役および従業員として関わることの禁止。ただし、役員または取締役が(1)FSCMAに関する大統領令に従って重要な利益相反のない複数の事業活動を担当している場合または(2)FSCMAに従って、信託業もしくはカストディー業を担当しており、同時に一般事務管理業も担当している場合を除く。
- ・コンピューター機器またはオフィス機器の共同使用または共有の禁止。
- ・異なる業務部門の役員、取締役および従業員による、またはそれらの間における情報共有の禁止。

資産運用会社としての資格を有し、資産運用会社として業務を行っている銀行は、かかる銀行が運用する投資信託の受益証券の販売に従事することができる。ただし、かかる銀行は以下の業務に従事することを禁止されている。

- ・かかる銀行により運用される投資信託のトラスティーとして行為すること。
- ・かかる銀行自身の資金を用いて、かかる銀行が運用する投資信託の受益証券を購入すること。
- ・かかる銀行が運用する投資信託の信託財産に関連するその他の集団投資証券の情報を、同行の販売活動において利用すること。
- ・かかる銀行が運用する投資信託の受益証券を、銀行法に基づき設立された金融機関を通じて販売すること。
- ・短期の金融間接投資ビークルを設立すること。
- ・投資信託を設定すること。

その他の事業活動を規制する法令

外国為替業務を開始するには、銀行は企画財政部に登録しなければならない。外国為替業務は外国為替取引法による規制を受ける。証券業を開始するには、銀行はFSCの認可を取得しなければならない。証券業は、FSCMAに基づく規則の適用を受ける。上記の法律に従い、銀行は、外国為替業務ならびに国債およびその他の公債の引受業務に従事することが認められている。

近年、監督官庁は消費者の金融上の費用負担を少なくするために、ATM利用料を引き下げることを奨励している。さらに、家計債務の増加に鑑み、監督官庁は固定金利の対象となる個人向け貸出の元本比率を、現在の元本の実効比率である10%から2012年までに15%、2016年までに30%へと徐々に引き上げることを奨励している。

(7) 一定の関係および関連当事者取引

新韓フィナンシャル・グループの子会社として、当行はその時々、新韓フィナンシャル・グループの他の子会社と通常の業務の過程で関わり合う（クロスセリング業務を含む。）。本書の「第6-1 財務書類」に記載される当行の連結財務書類に対する注記40を参照されたい。

4【関係会社の状況】

親会社

2014年12月31日現在、当行の親会社の情報は以下のとおりである。

名称	住所	資本金	主たる事業内容	議決権割合
新韓フィナンシャル・グループ	大韓民国100-724 ソウル特別市中区 世宗大路9道20	2,645,053百万ウォン	金融持株会社	100.0%

連結子会社および関連会社

2014年12月31日現在の当行の連結子会社は、以下のとおりである。

名称	所在地	資本金	主要事業内容	議決権割合
子会社				
新韓アジュ金融有限公司	香港	100百万米ドル	銀行業務	99.99%
ヨーロッパ新韓銀行	ドイツ、フランクフルト	23百万ユーロ	銀行業務	100.00%
アメリカ新韓銀行	米国、ニューヨーク州およびカリフォルニア州	123百万米ドル	銀行業務	100.00%
新韓銀行中国有限公司	中国、北京	2,000百万人民元	銀行業務	100.00%
新韓クメール銀行	カンボジア、プノンペン	20百万米ドル	銀行業務	90.00%
新韓カザフスタン銀行	カザフスタン、アルマティ	10,029百万カザフスタン・テンゲ	銀行業務	100.00%
カナダ新韓銀行	カナダ、トロント	50百万カナダ・ドル	銀行業務	100.00%
SBJ銀行	日本、東京	15,000百万円	銀行業務	100.00%
新韓バンク・ベトナム	ベトナム、ホーチミン	4,547,100百万ベトナム・ドン	銀行業務	100.00%

2014年12月31日現在、当行はまた韓国IFRSに従い連結子会社として処理されるストラクチャード・エンティティー（構造化企業）33社を有している。「第6－1 財務書類」に掲げる2014年および2013年12月31日に終了した年度の連結財務書類に対する注記1を参照されたい。

2014年12月31日現在の当行の持分法適用関連会社の一定の情報については、「第6－1 財務書類」に掲げる2014年および2013年12月31日に終了した年度の連結財務書類に対する注記13を参照されたい。

5【従業員の状況】

2014年12月31日現在、当行従業員は個別ベースで13,879人の正社員および658人の当行契約社員から成る。

2014年12月31日現在、9,919人の従業員は当行の労働組合に加盟している。当行は労働組合との間に良好な関係を維持しており、過去3年間において重大な労働争議を経験していない。

2014年12月31日現在、連結ベースで、当行の従業員は13,879人の正社員および701人の契約社員から成る。

2014年12月31日現在（個別ベース）

（金額：百万ウォン）

男性／ 女性	従業員数			勤務年数の平均	年俸合計	1人当たり の平均給与
	正社員	契約社員	合計			
男性	7,810	514	8,324	16年3ヵ月	855,403	103
女性	6,069	144	6,213	10年7ヵ月	365,497	59
合計	13,879	658	14,537	13年10ヵ月	1,220,900	84

第3【事業の状況】

1【業績等の概要】

「第3－7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」を参照されたい。

2【生産、受注及び販売の状況】

「第3－7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」を参照されたい。

3【対処すべき課題】

戦略

最近の世界的な金融危機の発生により、当行は主に改善されたリスク管理および顧客維持を強化するために考案されたプログラムを通じて、事業基盤を強化し、競争力ある持続可能性を確保することに注力した。当行は、こうした積極的な措置が金融危機により発生した短期的課題に首尾よく対処することに役立つと考えている。しかし、当行は金融危機の影響により、課題と機会の独特の組み合わせが生じたと考えている。

急速に波及した最近の世界的金融危機の影響がいくぶん収まったものの、世界経済、ひいては韓国経済は引き続き、事業の全般的な低成長および世界金融市場における継続的なボラティリティに特徴づけられる不確実な状況に直面している。当行は、世界中の主要な都市中心部での「ウォール街を占拠せよ。」運動および類似する動きならびに金融活動に関する規制上の監視および制限がより広範に求められていることに示されるように、概してこの状況が主要な金融サービス・プロバイダーに対する人々のマイナス感情を生み出していると考えている。さらに、モバイルおよびその他の技術における進歩が、金融サービス・プロバイダーに対し、既存のビジネス・モデルを絶え間なく再検討するという新たな課題を与えている。合わせて、これらの展開は当行に、顧客の信頼を育み、当行の社会資本を強化し、当行の事業環境の絶え間ない変化に素早く対応する機会を引き続き追求することを求めている。これに応じた全般的な戦略目標として、当行は、これらの課題に対処し、新たな事業環境により提示される機会を活用するために、新たな成長機会を選択的に見出し、リスク管理を強化し、資源を効率的に利用し、顧客一人一人により対応した接客を強化することにより、当行自身を再創造するべく努力している。

さらに具体的には、当行は、近年の世界的金融危機は、(i)金融規制の強化、(ii)金融商品のリスクに対する許容範囲の狭小化、(iii)負債水準の低下に対する需要、(iv)安定成長に基づくビジネス・モデルに対する市場の受容度の広がり（たとえ比較的低い収益水準をもたらす結果となる場合であっても）、(v)金融機関のより重大な社会的責任および説明責任に対する政治的要求、ならびに(vi)世界経済の新興市場（特にアジア）の重要性の高まりに対する幅広い認識、といった特徴を有する新たな事業機会を生み出していると考えている。

最近の世界的な金融危機により生じた不確実性の中で、最も有利な位置につき、今後の機会をとらえるために、当行は革新を通じて引き続き価値の高い成長性を強化し、当行の収益源を多様化させ、資産の質を改善し、リスク管理措置を強化し、新韓フィナンシャル・グループの子会社間でシナジーを最大限にし、顧客基盤を固め、拡大し、世界的に競争するための基盤を強化する予定である。

さらに具体的には、当行の戦略的優先事項には以下のものが含まれる。

革新を通じて価値ある成長性を強化すること。 当行は継続的に、当行の文化に根付いている価値ある成長性を強化することに焦点を当て、当行の商品およびサービスの革新ならびに創造性を促進することを最優先している。当行は、革新的な商品およびサービスが当行の顧客にとっての価値を創造し、ブランド価値を高めると考えている。当行は、こうした価値が長期的な成長率を維持し、安定的な収益基盤を確保するために寄与するものと考えている。当行が導入した最も革新的な商品の一つとして、「ゴールド・リッチ・ゴールド・インストールメント」があり、これは韓国で初めて、物理的に金を移動させることなく、顧客がより低い取引費用で金に投資することを可能としたものである。さらに、当行はその革新的なサービスについて広く認知されてきた。最近の例としては、2011年には当行は、スマート・バンキング部門で「2011年アジア・トゥデイ・フィナンシャル・アワード」の大賞を、新韓金利安全抵当貸出に対し「2011年新金融商品優秀賞」の大賞をFSSより受賞した。さらに、2012年には、当行は、中央日報および全国ブランド設定大統領評議会の共催による「2012年消費者による選定賞」において、「スマート・バンキング」部門の大賞を受賞した。2013年には、当行は朝鮮日報の「2013年世界韓国賞」の金融サービス部門において大賞を受賞し、また、当行の移動体アプリケーションのアクセスしやすさについて韓国障がい者人権フォーラムにより認定される韓国金融サービス部門において第一位となった。

新しい事業機会の選択を通じて収益源を多様化すること。 当行は、規制上の変更および新しい業界動向により創出された新しい事業機会を選択的に活かす予定である。特に、当行は(i)2011年に開始された韓国企業の退職年金の強制採用を踏まえて、退職年金市場において市場シェアを積極的に引き上げ、(ii)既存および潜在的な顧客ベースに対する総合的な世界的資産管理を戦略的に提供し、(iii)商業銀行業務および投資銀行業務をさらに統合させることで、投資銀行業における機会を活用し、また(iv)「グリーン」およびその他成長産業において新しい事業開発能力を強化する予定である。

資産の質をさらに向上させ、リスク管理対策を強化すること。 当行は、効果的な信用リスク管理を通じて、高い資産の質を確保することが、安定的な成長率および収益性を維持する上で重要であり、リスク管理は引き続き重要な重点領域の一つであると考えている。当行の最優先事項の一つは、資産の質を改善させ、貸出ポートフォリオにおいて固有の信用リスクを考慮に入れて、貸出商品の価格設定をより効果的に行うことである。この目的を達成するために、当行は、潜在的な不良債権の探知および事前阻止力を向上させ、グローバルベースでのリスク管理のための革新的なコンティンジェンシープランを評価し、発展させる新韓フィナンシャル・グループの高度かつ包括的なグループ全体のリスク管理制度を最大限に利用する計画である。さらに、当行は海外支店のために最適な成長を促進し、海外支店がリスク管理能力の一部の分野を改善するための努力を支援するために当行の信用リスク評価モデルおよびデータ基盤をアップグレードしている。

新韓フィナンシャル・グループの子会社間でのシナジーを最大化すること。 当行は、競争力を高めるために、以下により、新韓フィナンシャル・グループの金融持株構造を利用するつもりである。

- ・新韓フィナンシャル・グループの子会社の幅広い商品およびサービスを当行の顧客に提供することで、ワンストップ金融サービスの目的地となること。
- ・当行と新韓フィナンシャル・グループのその他の子会社（韓国最大のクレジットカード会社である新韓カードを含む。）との顧客情報の共有を可能にすること。これは、金融持株会社構造外では認められないため、当行のクロスセリングおよびリスク管理能力を高めることになる。
- ・バックオフィス処理および調達といった分野でのコスト削減の能力を高めること。

かかる戦略を支援するために、当行は新韓フィナンシャル・グループのもとで、グループ会社間で顧客情報の共有および様々な顧客ロイヤリティ・プログラムの統合を促進するためのグループ全体の総合顧客関係管理制度の強化を含め、特定のイニシアティブを実施している。

顧客基盤を固め、拡大すること。 更なる経済回復および韓国の主要商業銀行間での更なる統合の結果、韓国金融部門において顧客のための競争力を高めることを期待して、当行は既存の顧客間でのロイヤリティを高めるとともに、高品質かつ信用力のある顧客ベースを拡大するために積極的な対策を講じる計画である。特に、当行は(i)顧客志向型の文化を植え付け、あらゆる主要な事業分野において顧客管理プロセスを標準化し、改善し、(ii)各顧客セグメントに応じたマーケティングおよび事業戦略を通じて、稼動個人顧客を特定し、ターゲットとし、(iii)さらに顧客と交流を高めるため、直接および間接的にマーケティング経路を強化し、多様化し、(iv)強化された資産運用サービスを提供することにより富裕顧客に注力し、(v)より多角的範囲の資金投資商品を提供し、また(vi)新顧客としてさらに公共団体および政府事業体を呼び込むためのマーケティング努力を統合し、強化する予定である。

世界的に競争するために基盤を強化すること。当行を大手の世界的銀行として位置づけるべく基盤をさらに強化するために、当行は(i)収益性と生産性を改善するための方法を考案することにより、海外のプロフィットセンターを設置するために既存のグローバル・ネットワーク関係を構築し、さらに海外子会社への資本投資を行い、積極的に収益をもたらし、(ii)日本およびベトナムという核となる海外のターゲット市場において競争的な地位を強化し、さらに中国、米国、インド、カザフスタンおよびカンボジアといった当行が現在拠点を有するその他の市場でさらに差別化を図り、また(iii)組織再編、プロセス改善および核となる人材の採用を通じて、世界的なビジネス能力のための支援構造を高めることを計画している。

競争

韓国の金融サービス業界の競争は激しく、この状態はこれからも続くことが予想される。

当行は、主に韓国の他の全国規模の商業銀行と競合している一方、多くの他の金融機関（韓国で営業している外国銀行の支店および子会社、地方銀行、政府所有の開発銀行および韓国の専門銀行（例えば、韓国産業銀行、中小企業銀行および韓国農業漁業協同組合）に加え、貯蓄機関を含む、様々なその他金融サービスプロバイダー（例えば、相互貯蓄および金融会社、信用組合および信用金庫）、投資会社（例えば、証券会社、投資銀行および資産運用会社）および生命保険会社との競争に直面している。2014年12月31日現在、韓国には全国規模の7つの主要な国内商業銀行（いずれも世界的な金融機関により取得された国内商業銀行であるシティバンク・コリア・インクおよびスタンダード・チャータード・バンクを含む。）、6つの地方商業銀行、40の外国銀行の支店および子会社がある。その多くが当行よりも豊富な経験と財源を有している外国金融機関が引き続き韓国市場に参入し続け、かかる外国金融機関のみにより、または既存の韓国の金融機関との連携により、金融商品およびサービスを提供することにより当行と競合する可能性がある。

当行の伝統的な中核事業である中小企業および個人向け銀行分野では、競争がさらに激化することが予想される。近年、当行を含む韓国の銀行は、高い信用格付を有する法人の借り手、担保水準が高いSOHO顧客に対する貸出、規定の範囲内のローン資産価値比率および債務所得比率を有する抵当ローンおよび住宅担保ローンといった質の高い与信に基づく安定的な資産の拡大にますます焦点を当てている。リスクのより少ない資産に基づく安定的な成長へと各銀行が同様に焦点を移行すると、銀行が質の高い同じ与信のプールを求めて価格競争またはその他の方法により競争することになるため、競争が激化する可能性が高い。しかし、当行は、資産規模または市場占有率を高めるよりも、収益性を高めることに従来から焦点を当て、引き続き焦点を当てることにしており、実行可能な範囲で、貸出金利の引下げによる価格競争を避けてきた。さらに、特に低金利環境が相当長く続くことになれば、かかる競争は正味資金利鞘を縮小させ、全般的な収益性を低下させる可能性がある。したがって、競合する金融機関が貸出金利を下げることで市場占有率の拡大を試みた場合、特に、主に貸出金利に基づき貸し手を決定する顧客の間で、当行は顧客を喪失する可能性がある。これに対して、またはその他戦略的な理由により、当行は競争力を保つために、その後貸出金利を引き下げる可能性があり、これが正味資金利鞘の低下を招き、市場金利の全般的な上昇による正味資金利鞘に対するプラスの影響を上回る可能性がある。当行の顧客基盤もしくは正味資金利鞘の将来的な減少は、当行の経営成績および財政状態に悪影響を及ぼす可能性がある。

当行の競争相手である金融機関同士での統合はまた、当行およびその子会社が事業を行う市場における競争を激化させる可能性がある。2013年3月に政府は韓国産業銀行および中小企業銀行の民営化は行わないと発表したものの、韓国の銀行業界は、民営化を含め、自発的もしくは政府主導の戦略の一環のいずれかにより、一層統合を行う可能性がある。こうした情勢によりいくつかの金融機関は、規模および業務範囲の拡大ならびに経営の一層の効率化により、当行に一層厳しい競争をもたらす可能性がある。例えば、資産の点で韓国上位4社の商業銀行の一つに入るウリィ銀行の売却を一部進めていたウリィ・ファイナンス・ホールディングスは、2014年11月に消滅してウリィ銀行に吸収され、これまでのウリィ・ファイナンス・ホールディングスのすべての子会社が現在はウリィ銀行の子会社となっている。近年の政府によるウリィ銀行売却の取組みは成功しなかったものの、政府は主要な証券子会社であるウリィ投資証券を韓国農業協同組合に売却することができた。もし、主要な競合他社または外国金融機関のひとつがウリィ銀行もしくはその主要な事業子会社の1社を買収した場合、その連結事業体はより大きな経営規模（当行よりも大きな顧客基盤および財源）を有することとなり、これにより当行が有効に競争する能力が損なわれる可能性がある。さらに、2012年2月のハナ・フィナンシャル・グループによる韓国外換銀行の買収を経て、韓国外換銀行は2013年4月にハナ・フィナンシャル・グループの傘下に入った。2014年10月、韓国外換銀行は韓国の主要な商業銀行の一つであるハナ銀行に吸収合併される旨の契約を締結した。こうした展開のいずれかは、当行を競争上不利な立場に置き、新しく再編された事業体のサービス水準に不満を持つ新規顧客を獲得するための機会または資金源を多様化するために幅広く銀行との関係を維持することを希望する法人顧客に対して信用枠を提供する機会といった当行にとっての潜在的利益を上回る不利益をもたらす可能性がある。

韓国経済がさらに発展し、新たな事業機会が生まれると、より多くの競争相手が金融サービス市場に参入する可能性がある。近年、新規顧客をめぐる銀行間の競争が始まり、銀行が経営するクレジットカード会社と独立カード会社との間の競争が著しく激化する可能性がある。例えば、上記の政府による民営化の取組みの一環として、ウリィ・カードが別の主要なクレジットカード会社に売却される可能性があり、売却された場合、資産規模および顧客基盤が当行のクレジットカード関連会社である新韓カードに相当するクレジットカード会社が新たに生まれる可能性がある。さらに、最近、ダウムカカオといった大規模な利用者ネットワークを有するオンライン・サービスのプロバイダーは、金融サービスと、一般に「fintech」（金融テクノロジー）と称する技術との成長しつつある集約に基づくシステムを通じた仮想振込サービスの提供に著しく参入しているため、オンライン顧客をめぐる競争は、商業銀行の間だけでなく、オンライン・サービスのプロバイダーも含めて激しくなっている。そのため、商業銀行は、物理的な銀行店舗で対面での利用を主とする従来の顧客に比較して、成長著しい顧客基盤であるオンライン利用者を惹きつけ、維持するためにそのサービス基盤をアップグレードすることへの高まる圧力に直面している。さらに、移動体通信会社といった大手非金融機関もまた、その韓国の人口の大半への一貫したサービス基盤に基づき、既存および将来の携帯電話ネットワークを集約することにより、韓国のクレジットカードおよび消費者金融事業への参入を拡大する可能性がある。そのため、クレジットカード・サービスに代わり、携帯電話による支払サービスが広く顧客に受け入れられることは、当行のクレジットカード子会社を含む既存のクレジットカード・サービスのプロバイダーに対する競争上の脅威となる可能性がある。

最近、近年の金融危機の後、政府は韓国の金融機関に資産の質、自己資本比率、流動性ならびに住宅およびその他の貸出慣行といった分野においてより厳しい規制上の要件および指針を課し、このことは、競争を緩和する効果があった。FSCは最近、バーゼルIIIの資本要件を実施し、銀行業務の監督に関する規則（改訂済）および銀行業務の監督に関する細則に定められるガイドラインに基づき、その最低要件は2013年12月1日から段階的に実施され、2015年1月1日までに完全実施された。さらに、FSCは、現在、流動性カバレッジ比率に関するバーゼルIIIの要件を、2015年1月1日から段階的に実施しており、2019年1月1日までに完全実施する予定である。FSCはまた、反循環型資本バッファに関するバーゼルIIIの要件を2016年に実施することを発表した。しかし、これらの措置が引き続き競争を抑制すると保証することはできず、また政府がかかる措置を覆したり削減したりせず、その他の規制緩和措置を導入しないと保証することはできず、それにより韓国金融サービス業界における競争が一層激化する可能性がある。

当行が変化する事業および規制環境において有効に競争できなかった場合には、当行の利益幅および市場シェアは損なわれる可能性があり、またその将来の成長機会が制限される可能性があり、これにより当行の事業、経営成績および財政状態に悪影響を及ぼす可能性がある。「第3-4 事業等のリスク」当行の事業に関連するリスク「韓国の金融サービス業界における競争は熾烈であり、さらに競争が激化する可能性がある。」および「第2-3 事業の内容-(6)監督および規制」を参照されたい。

4【事業等のリスク】

以下には多数の将来予測に関する記述が含まれている。かかる将来予測に関する記述は、本書提出日現在における当行の判断に基づくものである。

当行の事業に関連するリスク

韓国および世界経済ならびに金融市場の困難な状況および乱高下が、当行の事業、資産の質、自己資本および利益に不利な影響を及ぼす可能性がある。

当行の資産の多くは韓国に所在しており、当行はその収益の多くを韓国で得ている。したがって、当行の利益および収益性は、当行の法人および個人顧客の財務上の健全性に影響を及ぼす金利、インフレ、輸出、個人支出および消費、失業、企業製品およびサービスに対する需要、家計および企業の債務返済負担、信用が一般的にどの程度利用可能であるか、不動産および有価証券の資産価値ならびにその他の要因を含む韓国全般の経済および社会状況に大きく依存している。

韓国経済は、世界経済に緊密に結びついており、その展開に重大な影響を受ける。ヨーロッパにおける経済の全般的な脆弱性および政治的混乱、中国経済の冷え込みの兆しならびに中東およびとりわけロシアを含む旧ソビエト連邦の共和国における継続的な政治的不安定に照らし、世界経済の見通しは全般的に今なお著しく不透明で、韓国経済に不利な影響を与えており、引き続き不利な影響を与える可能性がある。さらに、韓国経済は成熟しているため、「はさみ効果」、つまり、後進経済地域においては競争相手に買い取られるが先進経済地域では競争相手に完全に追いついてはいないリスクにますますさらされており、かかるリスクは韓国経済が輸出に大幅に依存しているという事実により増幅されている。韓国経済はまた、国内の消費および投資の不振、不動産市場の脆弱性、家計債務の増加、人口統計の高齢化による生産性の潜在的減少ならびに若年層の失業を含むその他の困難に引き続き直面している。世界および韓国経済の将来の悪化は、当行の事業、財政状態および経営成績に悪影響を及ぼす可能性がある。

特に、金融および経済状況の困難は、当行の資産の質を著しく悪化させ、また、ますます多くの当行の法人および個人顧客が破産または支払不能を申し立て、またはその債務弁済義務に応じることが一層困難になるため、貸倒損失および償却のための引当金をより多く引き当てることとなる。例えば、2008年から2009年の世界金融危機の中で、当行の延滞および不良債権は著しく増加したが、当行の事前防止措置および経済全般の回復を要因として、2009年には金融危機前の水準近くまで回復した。2011年および2012年に、不動産市場および造船事業において継続する停滞は、建設業、不動産賃貸業、造船業および船舶業の当行の法人借り手の間の延滞（当行が限定的なエクスポージャーを有するSTXグループの現在および以前の傘下企業および京南企業の例にみられるように、一定の場合においては、支払不能、法人再編および／または債権者との和議取決めさえもある。）の増加を招いた。不動産市場において持続する停滞はまた、当行の個人借り手の間の延滞を増加させ、特に新たに建設された集合住宅のユニットの事前販売に際しグループ貸出を受けている借り手の間の延滞を増加させた。従って、当行の延滞率（1ヵ月以上の延滞に基づく。）は2013年に0.39%に減少し、2014年に0.31%にさらに減少するまでは、2012年に0.61%であった。2013年に延滞率が減少した理由は主に、かかる困難に直面した業界に対するエクスポージャーおよびその他のリスクを有する借り手に対するエクスポージャーを早期リスク管理政策を通じて少なくしようとすると当行の積極的な取組みに加え、その資産の質を改善するための当行の戦略的イニシアチブの一環として質の高い信用プロフィールを有する借り手に対する貸出を増加させたことである。しかしながら、これらの業界の停滞の継続またはその他の理由により、これらの業界における借り手の資産の質はさらに悪化する可能性があり、当行がこれらの借り手によりさらなる貸倒損失を被らないと保証することはできない。

さらに、近年の金融危機の時と同様に、金融市場および経済全般の困難の性質次第では、当行は一部の中核的貸出事業およびその他の事業の規模を縮小し、高い調達コストで借り入れを行い、正味利息スプレッドの縮小に直面しなければならない可能性があり、これらはいずれも当行の利益および収益性に不利な影響を与える可能性がある。さらに、当行は現在、規制上の最低要件よりも高い自己資本比率を維持しているが、新たな経済危機が起こった場合、政府によりさらに高い資本要件が課されないと保証することはできない。また、世界的な金融システムおよび経済関係が高度に統合している特性に照らし、その他の予期せぬシステミック・リスクもしくは現在予測することのできないその他のリスクが存在する可能性がある。これらのリスクのいずれかが現実となった場合、当行の事業、流動性、財政状態および経営成績に重大な悪影響を与える可能性がある。

韓国の金融サービス業界における競争は熾烈であり、さらに競争が激化する可能性がある。

韓国の金融サービス業界における競争は、とりわけ低金利環境（貸出金利と資金調達金利の間のスプレッドに基づき利益を得る機会が狭まる。）の継続、経済全般の不振、業界全般のますますの成熟および飽和、新規市場参加者の参入ならびに規制緩和などにより厳しく、これからも厳しいと予想される。当行は主に韓国のその他の全国規模の商業銀行と競合するだけでなく、韓国で事業を行っている外国銀行の支店および子会社を含む多くの銀行業機関、地方銀行、韓国産業銀行、中小企業銀行および韓国農業漁業協同組合といっ

た政府が出資する開発銀行ならびに韓国の特殊銀行のみならず、貯蓄機関（相互貯蓄金融会社、信用金庫および信用組合など）、投資会社（証券会社、投資銀行会社および資産運用会社など）ならびに生命保険会社を含む様々なその他の金融サービス提供者との競争に直面している。2014年12月31日現在、韓国には7つの主要な全国規模の商業銀行（共に世界的金融機関により買収された国内商業銀行であるシティバンク・コリア・インクおよびスタンダード・チャータード・バンク・コリア・リミテッドを含む。）、6つの地方商業銀行ならびに40の外国銀行の支店および子会社がある。外国の金融機関はその多くが当行よりも幅広い経験およびより多くの財源を有しており、今後も韓国市場に参入し続け、それら自身によるかもしくは既存の韓国金融機関との提携による金融商品およびサービスの提供において競合する可能性がある。

当行の伝統的な中核事業である中小企業および個人向け銀行分野では、競争がさらに激化することが予想される。近年、当行を含む韓国の銀行は、高い信用格付を有する法人の借り手、担保水準が高いSOHO顧客に対する貸出、規定の範囲内のローン資産価値比率および債務所得比率を有する抵当ローンおよび住宅担保ローンといった質の高い与信に基づく安定的な資産の拡大にますます焦点を当てている。リスクのより少ない資産に基づく安定的な成長へと焦点を移行すると、銀行が質の高い同じ限られた与信のプールを求めて価格競争またはその他の方法により競争することになるため、競争が激化する可能性が高い。当行は、資産規模または市場占有率を高めるよりも、収益性を高めることに従来から焦点を当て、引き続き焦点を当てることにしており、実行可能な範囲で、貸出金利の引下げによる価格競争を避けてきた。さらに、特に低金利環境が相当長く続くことになれば、かかる競争は正味資金利鞘を縮小させ、全般的な収益性を低下させる可能性がある。したがって、競合する金融機関が貸出金利を下げることで市場占有率の拡大を試みた場合、特に、主に貸出金利に基づき貸し手を決定する顧客の間で、当行は顧客を喪失する可能性がある。これに対して、またはその他戦略的な理由により、当行は競争力を保つために、その後貸出金利を引き下げる可能性があり、これが正味資金利鞘の低下を招き、市場金利の全般的な上昇による正味資金利鞘に対するプラスの影響を上回る可能性がある。当行の顧客基盤もしくは正味資金利鞘の将来的な減少は、当行の財政状態および経営成績に悪影響を及ぼす可能性がある。

当行の競争相手である金融機関同士での統合はまた、当行が事業を行う市場における競争を激化させる可能性がある。2013年3月に政府は韓国産業銀行および中小企業銀行の民営化は行わないと発表したものの、韓国の銀行業界は、民営化を含め、自発的もしくは政府主導の戦略の一環のいずれかにより、一層統合を行う可能性がある。こうした情勢によりいくつかの金融機関は、規模および業務範囲の拡大ならびに経営の一層の効率化により、当行により厳しい競争をもたらす可能性がある。例えば、資産の点で韓国上位4社の商業銀行の一つに入るウリ銀行の売却を一部進めていたウリ・ファイナンス・ホールディングスは、2014年11月に消滅してウリ銀行に吸収され、これまでのウリ・ファイナンス・ホールディングスのすべての子会社が現在はウリ銀行の子会社となっている。近年の政府によるウリ銀行売却の取組みは成功しなかったものの、政府は主要な証券子会社であるウリ投資証券を韓国農業協同組合に売却することができた。もし、主要な競合他社または外国金融機関のひとつがウリ銀行もしくはその主要な事業子会社の1社を買収した場合、その連結事業体はより大きな経営規模（当行よりも大きな顧客基盤および財源）を有することとなり、これにより当行が有効に競争する能力が損なわれる可能性がある。さらに、2012年2月のハナ・フィナンシャル・グループによる韓国外換銀行の買収を経て、韓国外換銀行は2013年4月にハナ・フィナンシャル・グループの傘下に入った。2014年10月、韓国外換銀行は韓国の主要な商業銀行の一つであるハナ銀行に吸収合併される旨の契約を締結した。こうした展開のいずれかは、当行を競争上不利な立場に置き、新しく再編された事業体のサービス水準に不満を持つ新顧客を獲得するための機会または資金源を多様化するために幅広く銀行との関係を維持することを希望する法人顧客に対して信用枠を提供する機会といった当行にとっての潜在的利益を上回る不利益をもたらす可能性がある。

韓国経済がさらに発展し、新たな事業機会が生まれると、より多くの競争相手が金融サービス市場に参入する可能性がある。さらに、最近、ダウムカカオといった大規模な利用者ネットワークを有するオンライン・サービスのプロバイダーは、金融サービスと、一般に「fintech」（金融テクノロジー）と称する技術との成長しつつある集約に基づくシステムを通じた仮想振込サービスの提供に著しく参入しているため、オンライン顧客をめぐる競争は、商業銀行の間だけでなく、オンライン・サービスのプロバイダーも含めて激しくなっている。そのため、商業銀行は、物理的な銀行店舗で対面での利用を主とする従来の顧客に比較して、成長著しい顧客基盤であるオンライン利用者を惹きつけ、維持するためにそのサービス基盤をアップグレードすることへの高まる圧力に直面している。さらに、移動体通信会社といった大手非金融機関もまた、その韓国の人口の大半への一貫したサービス基盤に基づき、既存および将来の携帯電話ネットワークを集約することにより、韓国のクレジットカードおよび消費者金融事業への参入を拡大する可能性がある。そのため、クレジットカード・サービスに代わり、携帯電話による支払サービスが広く顧客に受け入れられたことは、当行のクレジットカード子会社を含む既存のクレジットカード・サービスのプロバイダーに対する競争上の脅威となる可能性がある。

最近、近年の金融危機の後、政府は韓国の金融機関に資産の質、自己資本比率、流動性ならびに住宅およびその他の貸出慣行といった分野においてより厳しい規制上の要件および指針を課し、このことは、競争を緩和する効果があった。FSCは最近、バーゼルIIIの資本要件を実施し、銀行業務の監督に関する規則（改訂済）および銀行業務の監督に関する細則に定められるガイドラインに基づき、その最低要件は2013年12月1日から段階的に実施され、2015年1月1日までに完全実施された。さらに、FSCは、現在、流動性カバレッジ比率に関するバーゼルIIIの要件を、2015年1月1日から段階的に実施しており、2019年1月1日までに完全実施する予定である。FSCはまた、反循環型資本バッファに関するバーゼルIIIの要件を2016年に実施することを発表した。しかし、これらの措置が引き続き競争を抑制すると保証することはできず、また政府がか

かる措置を覆したり削減したりせず、その他の規制緩和措置を導入しないと保証することはできず、それにより韓国金融サービス業界における競争が一層激化する可能性がある。

変化するマクロ経済環境に対応し、新たな規則を遵守するための当行の取組みにもかかわらず、当行が変化する事業および規制環境において有効に競争できなかった場合には、当行の利益幅および市場シェアは損なわれる可能性があり、またその将来の成長機会が制限される可能性があり、これにより当行の事業、財政状態および経営成績に悪影響を及ぼす可能性がある。

当行は中小企業への大きなエクスポージャーを有しており、かかる企業が財政困難となった場合、当行の資産の質が悪化する可能性がある。

当行の中核的銀行業のひとつは従来、そしてこれからも中小企業（「第2－3 事業の内容－(1) 事業－事業の概観－当行の主要業務－法人向け銀行業務－中小企業向け銀行業務」において定義される。）に対する貸出である。当行のかかる企業への貸出は、2013年12月31日現在で60,596十億ウォンおよび2014年12月31日現在で66,258十億ウォンであり、各日付現在の当行の貸出ポートフォリオ合計のそれぞれ34.4%および34.9%を占めていた。

より資本が充実し、景気低迷をより容易に乗り切れる傾向にある大企業に対する貸出または住宅を担保とする傾向があるために借り手が債務不履行を望まない個人および家計向け貸出に比べ、中小企業への貸出は、伝統的に比較的延滞率が高い。多くの中小企業は個人事業であったり、比較的限られた供給業者および顧客に依存する小規模事業であるため、大企業の借り手に比べてより広範囲に韓国および世界経済の変動による影響を受けがちである。さらに、中小企業はしばしば大企業の借り手に比べて財務記録が整っていない。そのため、一般に当行にとってこれらの企業への貸出に付随するリスク水準を判断することは大企業に比べてより困難である。加えて、多くの中小企業は、主に供給業者として韓国の大企業との事業関係に依存している。それらの大企業が直面している困難が、当行がエクスポージャーを有する中小企業を含め、関係する中小企業の流動性および財政状態を悪化させる可能性があり、そしてその結果、その貸出返済能力が損なわれる可能性がある。韓国の大企業のいくつかは、人件費およびその他の経費がより安価な中国やその他の国々に引き続き進出しており、生産プラントや設備を移転している。かかる展開は中小企業に重大な悪影響を及ぼす可能性がある。

とりわけ近年の韓国および世界の経済問題により中小企業が経験している財政上の難題に加え、この部門への貸出のための近年の銀行の積極的なマーケティングおよび厳しい競争は、当行の保守的な貸出方針により資産の質の悪化に立ち向かう取組みと相まって、当行のこの部門への貸出金の資産の質の変動を招いた。2013年および2014年12月31日現在の当行の中小企業に対する延滞貸出金はそれぞれ559十億ウォンおよび527十億ウォンで、延滞率(償却および債権売却控除後)はそれぞれ0.92%および0.80%であった。韓国または世界の経済の進行中の困難が継続するかもしれないもしくはさらに悪化した場合、当行の中小企業に対する貸出金の延滞率は著しく上昇する可能性がある。

中でも特に心配されるのは、不動産およびリースならびに建設業に属する企業に対し当行が有する重要なエクスポージャーである。2014年12月31日現在の当行の不動産およびリースならびに建設業（その多くは中小企業）に対する貸出残高はそれぞれ17,639十億ウォンおよび3,148十億ウォンで、同日現在の当行の貸出ポートフォリオ合計に対する比率はそれぞれ9.30%および1.66%であった。当行はまた、韓国経済のこれらの部門の借り手に対し、かかる企業のための保証の提供やかかる企業が発行した負債証券および持分証券の保有といったエクスポージャーも有している。さらに、当行は造船業および船舶業の借り手に対するエクスポージャーを有しており、これらの産業は今なお重要な方向転換ができていない。

韓国の不動産開発および建設業に属する企業は住宅市場に激しく集中しており、不動産需要の低迷および不動産価格の下落による長引く伸び悩みを引き続き経験している。この低迷は主に、近年の住宅の過剰供給、政府による住宅市場への投機抑制のための持続的努力、韓国および世界の経済停滞の継続ならびに韓国の人口構造の変化が組み合わさったことによる。また、当行は、不動産プロジェクト・ファイナンスに対するエクスポージャー、特にソウル首都地域圏外の地方に住宅を建設してきた建設会社による不動産プロジェクト・ファイナンスに対して限定的なエクスポージャーを有している。これらの会社では、その手取金が建設会社の主要な流動性およびキャッシュフローの重要な資源となっている事前販売の割合が比較的少なかった。

これらの展開のいずれかにより当行の資産の質が悪化する可能性がある。「第2－3 事業の内容－(2)資産および負債の詳細－債務整理および再編手続中の会社に対する信用エクスポージャー」を参照されたい。当行は、中小企業顧客の延滞を削減するために、貸出申請の検討過程を強化し、問題のある事業部門の借り手を厳密にモニターするといった方法を含め、積極的な措置を行ってきた。こうした努力にもかかわらず、特に、韓国経済がさらなる困難に直面し、その結果これらの借り手の流動性およびキャッシュフローが悪化した場合には、当行の中小企業の延滞率が将来上昇しないと保証することはできない。これらの借り手の延滞率が著しく上昇することにより、償却が増加し、引当金が増加し、金利および手数料収入が減少することになり、当行の事業、財政および経営成績が重大な悪影響を受ける可能性がある。

当行の信用エクスポージャーの限られた部分が、比較的小数の大企業の借り手に集中しており、これらの企業が将来財政困難に陥った場合、当行に重大な影響が及ぶ可能性がある。

2014年12月31日現在、当行の法人向けエクスポージャー上位10社のうち、3社がFSS院長により主要債務者グループに特定されていたかまたは特定されており、これらは主に財閥であった。同日現在、当行の主要債務者グループに対するエクスポージャーの総額は17,357十億ウォンであり、当行のエクスポージャー合計の9.6%を占めた。同日現在、個別ベースの当行の単一最大の主要債務者グループ（主に財閥からなる。）に対するエクスポージャー残高は4,197十億ウォンで、当行のエクスポージャー合計の2.32%を占めた。「第2－3 事業の内容－(2)資産および負債の詳細－貸出ポートフォリオ－主な債務者グループに対するエクスポージャー」を参照されたい。造船および建設産業の低迷継続の結果、韓国の主要なコングロマリットのひとつであるSTXグループの現在および過去の傘下企業が、その信用状況を改善するため、債権者（当行を含む。）と和議の取決めに締結した。また2013年10月、韓国の大手建設会社である京南企業は債務整理手続きに入った。2014年10月、東部製鉄もまた韓国産業銀行が主導する債権者と和議の取決めに締結したが、当行の同社に対するエクスポージャーは限定的であった。一部には造船および建設部門に対するエクスポージャーを削減するための積極的な過去の取り組みの結果、当行は現在、上記の問題のある会社に対して有しているエクスポージャーは限定的である。しかし、主要債務者グループに対するものを含め、当行の大企業に対するエクスポージャーの信用の質が低下した場合は、当行は貸出についてさらなる貸出損失引当金および有価証券に関する減損損失を計上することが必要となる可能性があり、これが当行の財務状態、経営成績および自己資本に悪影響を及ぼす可能性がある。当行は、特に経済減速が長引くか、または繰り返した場合、これらのエクスポージャーに対して設定された引当金がかかるエクスポージャーから将来発生するすべての損失をカバーするのに十分であることを保証することができない。

さらに、問題を抱えた会社に対するエクスポージャーに関し、企業再編促進法に従い行われた年次評価（50十億ウォン以上の信用エクスポージャーを有する大企業および50十億ウォンから50十億ウォンの信用エクスポージャーを有する中小企業のそれぞれを調査する。）によると、当行は2012年に4社のコングロマリットに対し合計142十億ウォンのエクスポージャー（これに対し当行は合計86十億ウォンの引当金を積み立てている。）および中小企業1社に対し合計19十億ウォンのエクスポージャー（これに対し当行は合計19十億ウォンの引当金を積み立てている。）を、2013年に2社のコングロマリットに対し合計28十億ウォンのエクスポージャー（これに対し当行は合計20十億ウォンの引当金を積み立てている。）および中小企業2社に対し合計21十億ウォンのエクスポージャー（これに対し当行は合計15十億ウォンの引当金を積み立てている。）を、ならびに2014年に1社のコングロマリットに対し合計177十億ウォンのエクスポージャー（これに対し当行は合計118十億ウォンの引当金を積み立てている。）および中小企業15社に対し合計234十億ウォンのエクスポージャー（これに対し当行は合計105十億ウォンの引当金を積み立てている。）を有している。

2014年12月31日現在、当行が信用エクスポージャーを有している6つの主要な債務者グループが引き続き再編プログラムの対象となっているかまたは対象となっていない場合はその財務状態の改善のために、グループ間貸出の獲得および資本構成の一層の改善のための契約の締結などの多大な努力をしている。当行の主要な法人顧客が将来再編の対象とならないと保証することはできず、かかる再生により債権全額の回収ができず、当行に著しい損失がもたらされないと保証することもできない。さらに、財閥グループを含む大企業の破産または財政困難は、かかる大企業に部品や労働力を供給している中小企業にも波及し、中小企業に対する当行の貸出の延滞および減損を引き起こすといった悪影響を及ぼす可能性がある。当行が財閥グループを含む大企業に対するエクスポージャーにより将来損失を受けた場合、当行の事業、財政状態および経営成績に重大な悪影響を受ける場合がある。「第2－3 事業の内容－(2)資産および負債の詳細－貸出ポートフォリオ－主な債務者グループに対するエクスポージャー」を参照されたい。

当行の今後の業績にとって、流動性、資金調達管理および信用格付は極めて重要である。

金融仲介機関として当行の事業を行うにあたり流動性は不可欠であり、また当行は近い将来、機会があれば流動性ニーズを充足し、規制上の要件を満たすため、資本の水準を高めたり、事業成長に資金を供給するために、追加の資金調達を行う可能性がある。

例えば、バーゼルIIIは、流動性リスクの測定、基準およびモニタリングのための国際的枠組みを含んでおり、これには、銀行が確実に、30暦日続く著しいストレス・シナリオに耐えるためにプライベートな市場で簡単かつ迅速に現金化でき、処分上の制約を受けない高品質な適格流動資産（HQLA）の十分なストックを有することを企図する流動性カバレッジ比率（LCR）として知られる新たな最低流動性基準が含まれる。LCRは（a）銀行機関のHQLAの価値を（b）ストレス・シナリオに基づく次の30暦日間の予想合計正味キャッシュアウトフローで除すことにより計算される。最低LCRは100%である。2013年1月、バーゼル委員会は、バーゼルIIIの一環として2010年12月に承認された2つの量的流動性測定のひとつであるLCRの修正公式を発表した。バーゼル委員会はLCRの完全段階的導入のスケジュールを延期し、2015年1月1日現在の最低LCRは60%となり、その後年10%ずつ引き上げて2019年1月1日現在にLCRを100%とするとした。2014年12月、FSCは、2015年1月1日現在の最低LCRを80%に引き上げ、その後年5%ずつ引き上げて2019年1月1日現在に韓国の商業銀行の最低LCRを100%とすることを含むバーゼルIIIの流動性要件を実施するための規則を公布した。

当行の流動性および資金需要の大部分は、短期顧客預金により手当てされており、かかる預金は通常、満期になると預け替えられている。当行の顧客の預金量はこれまで一般に安定的であったが、例えば、上げ相場時にはその他の高利回りの投資機会（すなわち、株式および投資信託）への人気が高まったことで当行の顧客預金が大幅に減少した。このような時期に当行は、高いコストを支払って代替資金調達を行うことが必要であった。将来、同じような展開が起こらないと保証することはできない。さらに近年、当行は預金商品に関して競合他社とのますます熾烈な価格競争に直面している。当行が預金顧客に対し競争力ある金利を提供し続けることができない場合、従来から当行の安定的かつ低コストの資金源であった預金顧客との取引を失う可能性がある。さらに、当行が競合他社による価格設定に合わせることもできたとしても、そのような価格設定を行うことは資金調達コストを上げる場合があり、当行の経営成績に悪影響を及ぼす可能性がある。

また当行は資本市場で資金調達を行い、その他金融機関から借入れを行うが、そのコストは市場金利や一般的な信用供与状況に左右され、また配当金を支払ったり、買収を行ったりすることが制限されるほか、その他の制限条項に服する場合がある。現在当行はいかなる重要な点においても流動性の問題に直面していないものの、理由の如何を問わず、長期間当行が商業上受け入れることが可能な条件で資金調達をできない場合、当行は財務上の継続性を確保し、規制要件を満たし、当行の戦略を実行し、効果的に競争することができなくなる可能性がある。

信用格付は当行が資金調達を可能とする費用とその他条件に影響を及ぼす。国内および国際格付機関は定期的に当行を評価し、これらの機関による当行の長期債務の格付は、様々な要因（財政力に加え、金融サービス業および韓国経済全般に影響を及ぼす条件を含む。）に基づいている。格付機関が当行の現在の信用格付および見通しを維持し、また一般的な韓国経済または当行特有の理由に関連して、当行の信用格付および見通しが引き下げられないと保証することはできない。当行の信用格付および見通しの引き下げにより、資金調達費用を引き上げ、資本市場へのアクセスおよびその他の借入を制限し、または、金融取引においてさらなる信用強化を提供することが要求される可能性が高く、また、当行がバーゼルIIIの流動性要件が実施された場合に保持することが要求される規制上の流動性の金額が増加される場合があり、これらが流動性、正味資金利鞘および収益性に悪影響を及ぼす可能性があり、その結果、当行の事業、財政状態および経営成績に悪影響を及ぼす可能性がある。

金利、外国為替相場、社債および株価ならびにその他の市場要素の変動は、当行の事業に影響を及ぼし、これらも影響を及ぼす。

当行が直面する最も重要な市場リスクは、金利、外国為替相場、社債および株価リスクである。金利の水準、イールドカーブおよびスプレッドの変動は、貸出金と借入金との間で実現した利息マージンに影響を及ぼす場合がある。特にウォンと米ドルとの間の外国為替相場の変動は、当行の外貨建て資産および負債、当行の非韓国子会社の報告利益および外国為替取引による収益に影響を及ぼし、為替相場の大幅かつ急速な変動により、当行にとってコマーシャルベースで受け入れ可能な条件で国際金融市場で外貨建ての資金調達を行うことが困難となる場合がある。金融市場のパフォーマンスは社債および株価に影響を及ぼす場合があるため、当行の投資およびトレーディング・ポートフォリオの価値変動が生じる場合がある。当行は、これらの市場リスクおよび当行が晒されているその他の市場リスクを緩和し、抑制するためにリスク管理システムを実行しているものの、経済または市況の変化を正確に予測し、かかる変化が当行の事業、財政状態および経営成績に及ぼす影響を予想することは困難である。

金利の変動が当行の資産負債構成のミスマッチその他の要因により当行の正味資金利鞘を悪化させる可能性があり、かかる悪化が当行の資産の質および収益性に重大な悪影響を及ぼす可能性がある。

2008年下半年に世界金融危機が発生して以来、韓国はその他の多くの国々と同様に、一部には政府による積極的な金利引下げ措置を通じて経済を刺激しようとする政策により、幾分のわずかな変動はあるものの低金利の状況が続いている。2011年1月1日以降、韓国銀行により設定される基準金利は1.75%から3.25%の範囲に留まっていた。2015年3月、基準金利は歴史的な低金利である1.75%となった。

金利の動向は、規模および時期ならびに当行の資産および負債に対するそれらの相対的な影響という点で、当行の正味資金利鞘および収益性、特にかかる金利動向に敏感な金融商品に関して著しい影響を及ぼす。例えば、当行の貸出（資産として計上される。）に適用される金利が、預金（負債として計上される。）に適用される金利よりも遅い速度もしくはより小幅に上昇したなら、正味資金利鞘は縮小し、収益性はマイナスの影響を受ける。さらに、変動金利の貸出および預金の相対的な規模および構成もまた（固定金利の貸出および預金に比較して）、正味資金利鞘に影響を及ぼす場合がある。さらに、当行の利付資産（主に貸出）と有利子負債（主に預金）を比べたときの平均期間の差が当行の正味資金利鞘に影響を与える場合がある。例えば、当行の預金の期間が平均して貸出の期間よりも長い傾向にあるため、当行の預金は、当行の預金および貸出の金利が連動する傾向にある基準金利の動向に対して平均して敏感ではなく、そのため、基準金利の引下げは、当行の正味資金利鞘を減少させる傾向にあり、一方、基準金利の引上げはその反対の効果を有する傾向にある。当行は継続的にその資産および負債の金利変動に対するエクスポージャーを最小限にするよう管理しているものの、当行によるかかる取組みが金利変動に対するエクスポージャーを適時にかつ効果的に緩和することができない場合があり、当行の正味資金利鞘、ひいては当行の財政状態および経営成績が著しく悪化する場合がある。

当行は、政府が将来、市場金利と深く関わっている基準金利をいつ、どの程度調整すると断言することはできない。基準金利の調整の決定には、とりわけ、経済全般のサイクル、インフレ水準、他国の金利および為替レートを含む多くの政治的配慮ならびに市場の要因の影響を受ける。一般に、金利の引下げは、当行の資産および負債は上記のとおり様々な満期構成であるため、当行の受取利息に悪影響を与える。反対に、金利が著しくまたは持続的に上昇したなら、すべての他の条件が同じであれば、かかる変動により取引されている負債証券の価格は下落し、当行の資金調達コストが引き上げられる一方で、特に個人顧客による借入需要が後退する。それゆえ、金利の上昇により、当行は資産負債管理の潜在的なミスマッチのリスクを最小限に抑え、収益性を維持するために、当行の資産および負債のリバランスが求められることになる。さらに、金利水準の上昇は、韓国経済および当行の個人および企業の借り主の財政状態に悪影響を及ぼす可能性があり、その結果、当行の信用ポートフォリオの資産の質を悪化させる可能性がある。当行の法人向けおよび個人向け貸出の大半は、一般的な市場相場に基づき適用金利が定期的に調整されているため、金利水準の継続的な上昇により、当行の借り手の資金調達費用を増加させ、借入残高に対する支払能力に悪影響を及ぼす可能性がある。

当行は最低所要水準を上回る自己資本比率を維持することが要求されており、維持できなかった場合には、当行の事業の一部または全部が停止することがある。

当行は韓国の他の商業銀行と同様、規定の自己資本比率を維持することが要求されている。例えば、2015年1月1日から、当行は現在、Tier I自己資本比率を最低6.0%に維持し、合計資本（BIS）比率を最低8.0%に維持することを要求されている。これらの比率は連結ベースによるそれぞれの規制上の自己資本のリスク加重資産に占める割合として測定し、FSCの指針に基づき決定される。2014年12月31日現在、当行のTier I自己資本比率および合計資本（BIS）比率は連結ベースでそれぞれ13.34%および15.43%であった。

現在、当行は要求される規制上の最低水準を上回って自己資本比率を維持しているものの、リスクのある資産および引当金費用の増加、不良債権の処分に関する代替費用、有価証券ポートフォリオの価額の減少、外国為替相場の悪化、自己資本比率要件、自己資本比率の算出に関する指針もしくはFSCの指針の基本となるバーゼル委員会により定められた枠組みの変更、または当行の資産の質もしくは株式資本に影響を及ぼすその他の悪変化を含むいくつもの理由により自己資本比率要件を継続的に満たすことができない可能性がある。

2010年12月、バーゼル委員会は(i)より回復力のある銀行および銀行制度のための世界的な規制枠組みおよび(ii)流動性リスク測定、基準および監視のための国際的な枠組みに関する最終規則を発行し、これらは、通常「バーゼルIII」と総称される。普通株等Tier I自己資本比率の最低水準を4.5%および追加的資本保全バッファを2.5%とする新たな最低資本要件が、2019年1月1日までに段階的に実施されている。追加的な反景気循環型の資本バッファ要件がまた2016年から段階的に実施される予定であるが、これはその国の監督官庁の裁量によりリスク加重資産の0%から2.5%の範囲とされる。バーゼルIIIは現在暫定的に3%と提案されている最低レバレッジ比率要件を導入した。バーゼル委員会は2014年1月にバーゼルIIIのレバレッジ比率の枠組みおよび開示要件の全文を公表した。2015年1月1日からレバレッジ比率の内容の公的開示が求められている。レバレッジ比率の定義のための最終的な数値およびさらなる調整は、現在2017年までに完了することが見込まれており、2018年1月1日から完全遵守が義務付けられる予定である。当行は現在、トレーディング勘定および複雑な証券化エクスポージャーについてバーゼル委員会の資本要件を遵守している。2011年1月13日、バーゼル委員会はさらに、銀行の実質的な破綻状態において納税者が損失に晒される前に、あらゆる種類の資本商品が完全に損失を吸収することを確保するための最低資本要件を発行した。2013年1月1日以降に発行された商品は、新基準が満たされている場合のみ、規制目的上の自己資本に含めることが可能である。かかる日付以前に発行された証券の自己資本規制上の取り扱い、2013年1月1日以降10年間に渡り、段階的に廃止される予定である。

韓国でバーゼルIIIの資本要件を実施するために銀行業務の監督に関する規則が改訂され、2013年12月1日に施行された。改訂された銀行業務の監督に関する規則に基づき、韓国の商業銀行は最低8.0%の総自己資本比率(BIS比率)、最低普通株式等自己資本比率4.5%および最低Tier I自己資本比率6.0%を維持しなければならないことになり、かかる最低要件は2013年12月1日から段階的に実施され、2015年1月1日からは韓国の商業銀行はかかる比率の遵守が義務付けられる。バーゼルIIIに基づく流動性カバレッジ比率要件を実施するため、2014年12月26日付で銀行業務の監督に関する規則が再度改訂された。改訂された銀行業務の監督に関する規則に基づき、韓国の商業銀行は流動性カバレッジ比率を最低100%に維持しなければならない、かかる最低要件は2015年1月1日から段階的に実施され、韓国の商業銀行は2019年1月1日からかかる比率を遵守しなければならない。2016年1月1日から資本保全バッファ要件が段階的に実施され、2019年1月1日には韓国の商業銀行は2.5%の資本保全バッファを維持しなければならない。

当行は現在、2013年12月1日以降実施されたバーゼルIIIを遵守している。バーゼルIIIに基づく新要件が将来、当行の信用リスクに対する自己資本要件の引き上げを要求する可能性があり、それにより当行は資産の質を改善するか、もしくは追加の資本金を調達するかいずれかを要求される場合がある。

当行がバーゼルIIIの要件を遵守し続けることができると保証することはできず、当行の自己資本比率が所要水準を下回った場合、FSCは警告から業務停止または事業免許取り消しまでの範囲の罰則を課す場合がある。所要水準を上回る自己資本比率を維持するために、当行はエクイティファイナンスを通じて追加的な資本を調達することが要求される場合があるが、コマーシャルベースで有利な条件でかかる調達を行えると保証することはできず、例え成功した場合においても、このような資金調達法が、当行の株主に対しその持分について希薄化効果を有する可能性がある。

当行の貸出を担保する担保物件の価値が下落するかまたは当行が担保価値の全額を実現できなければ、当行の信用ポートフォリオが悪影響を受ける可能性がある。

当行の抵当ローンおよび住宅担保ローンの大半は、借り手の住宅、その他不動産、その他証券および保証（主に政府およびその他金融機関により保証されたもの）により担保されており、当行のコーポレート・ローンの大部分は、不動産などにより担保されている。担保された当行のローンは、2014年12月31日現在、110,652十億ウォン（ローン総額の58.3%）である。当行は担保価値が将来著しく下落しないという保証はできない。当行の抵当ローンおよび住宅担保ローンの一般的な方針は、担保物件の鑑定評価額の40%から70%までを上限として貸出を行い、かかる担保を定期的に再評価することである。しかし、韓国の不動産市場が持続的に低迷していることを背景に、担保物件の価値が抵当貸出の残存元本額を下回る水準まで下落する可能性がある。かかる担保された抵当ローンの借り手は、かかる抵当ローンの全部もしくは一部の返済を迫られる場合があり、かかる返済により担保要件を満たすことができなければ、担保物件の売却を迫られる場合があり、かかる売却は、不動産全般の価格のさらなる低下を招く可能性があり、担保価値のさらなる低下によりその他の借り手の連鎖反応の引き金となる可能性がある。不動産価格が下落すれば、当行の抵当ローンおよび住宅担保ローンを担保する担保物件の価値の下落を招き、それにより担保価値が当行の有担保貸出にかかる回収不能額を補填するのに十分ではなくなる可能性がある。当行の貸出を担保する不動産またはその他の担保物件の価値が下落するか、またはこのような下落に際して追加の担保を入手できなければ、当行の資産の質の悪化を招き、当行は貸倒引当金をさらに積み増す必要に迫られる可能性がある。韓国では、担保権の実行には、一般に韓国の裁判所に書面で申立てを行うことが要求される。韓国での担保権実行手続は、通常、担保の性質にもよるが開始から回収まで7ヵ月から1年を要し、申請が行われた場合、遅延や行政上の要件による制約を受けることがあり、これによりかかる担保に関する実現価値が低下する可能性がある。数ある要因の中でも、担保権実行手続の遅れおよび担保権にかかる対抗要件の不備ならびに担保価値の全般的な下落により、当行が担保価値全額を実現できると保証することはできない。当行が予測される担保価値を回収できなければ、当行は著しい損失を被る可能性がある。

当行の不動産融資に関して受けた保証は、十分な補償を与えない可能性がある。

当行は、単独でまたはその他の金融機関と共に、不動産開発プロジェクトに対する融資を行っており、かかるプロジェクトは主に共同住宅建設に集中している。韓国のディベロッパーは、土地を取得し、関連プロジェクト開発費用を支払うために一般にプロジェクト・ファイナンスを用いる。市場慣行として、当行を含むプロジェクト・ファイナンスの貸し手は概して、ディベロッパーが小企業でレバレッジが高いことが多いため、総合建設請負業者からディベロッパーによるプロジェクトの完了について履行保証を、また建設発注を確保するためにディベロッパーにより設立された特別目的融資ビークルにより資金調達された借入金について支払保証を受ける。2014年12月31日現在、当行の不動産プロジェクト・ファイナンス関連エクスポージャーの残高合計は約1.8兆ウォンで、韓国の不動産市場の不振が続いていることから、当行はこの分野における新たなエクスポージャーを積極的に削減してきたため、この数年間で著しく減少した。しかし、当行の既存の不動産開発プロジェクトへの貸出について債務不履行が著しく増加し、総合建設請負業者が当行の融資額をカバーするのに必要な保証金額を支払わない場合、当行の事業、財政状態および経営成績に悪影響を及ぼす可能性がある。

当行の保証および手形引受に係る求償資産の質の悪化は、当行の財政状態および経営成績に重大な悪影響を及ぼす可能性がある。

当行は、通常の銀行業務において様々な約定を交わし、また保証および手形引受の形で一定の偶発債務を負担する。当行が保証の受益者に対して、保証を行った借り手が関連債務証書の条項に従い支払期日に支払を怠ったためにその受益者に生じた損失を補償するために特定の支払を行うべきことを定めた契約である金融保証は、当初その公正価値で計上され、かかる当初公正価値は金融保証の年数にわたって償却される。その他の保証は当行の財務書類に対する注記においてオフバランスシート項目として記録され、当行が支払いを確認した保証は手形引受となり、財政状態計算書に計上される。2014年12月31日現在、当行は15,109.8十億ウォンの保証および手形引受を有しており、損失引当金107.0十億ウォンを引当てた。

かかる保証および手形引受には、当行から造船会社へ付与された前受金返還保証が含まれ、これは当該造船会社が期限内に船舶を引き渡すことができなかった場合、または造船契約上の義務に違反した場合、買い主から造船会社が受領した頭金（通常、船舶発注契約金額の25%）の返金を保証する。中小の造船会社は世界経済の低迷およびその結果による船舶の発注件数の減少を受けて一層の財政難に引き続き直面しており、これにより造船契約の債務不履行リスクが高まっており、当行は前払金返還保証に基づいて支払いをしなければならないことがある。当行から中小の造船会社へ付与された前払金返還保証は、2014年12月31日現在、約83十億ウォンであった。当行の保証および手形引受の裏付資産の質が著しく悪化した場合には、当行の引当金はこれらの負債により生じる実際の損失を補填するためには十分ではなく、関係する保証および手形引受について当行が負担する損失は原貸出金の残存元本額を上回る可能性がある。

当行は市場変動により、投資またはそれよりも程度は少ないもののトレーディング業務により、著しい損失を被る場合がある。

当行は、「第2－3 事業の内容－(1)事業－事業の概観－法人向け銀行業務および投資銀行業務」の「財務」および「証券投資およびトレーディング」に記載するとおり、主に当行の資金運用および投資業務を通じて、確定利付商品において大きな投資ポジションを有し、また、これを維持する。また当行は、銀行業務の一環として、株式および株式連動型証券およびデリバティブ金融商品を含む小型株のトレーディング・ポジションを維持している。これらのポジションを取ることで、金融市場の動向およびトレンドについての評価が必要となる。当行がこれらのポジションおよび関連取引の多くから得る収入および利益は、市場価格に依存しているため、当行の支配が及ぶものではない。当行が債務証券または持分証券といった資産を保有しているときに、例えば市場金利もしくは株式相場指数の変動に伴い時価が下落した場合、それにより当行はトレーディング損失および評価損失を被る場合がある。市場価格が当行が予想していない方向に動いた場合、損失を被る場合がある。さらに、市場が変わりやすく、価格が急激な変動を伴う場合、実際の市場価格は当行の評価とは逆の動きをする場合があるため、収入または利益が予想を下回る可能性があり、関連取引およびポジションに関しては損失を伴うことさえある。

当行の手数料ビジネスから損失が生じる場合がある。

当行は、手数料ビジネスの提供を行い、またこれを提供する範囲を拡大しようとしている。株式市場の低迷は、主として当行がその顧客のために実行する取引額の減少につながり、その結果、非金利収益の減少をもたらす。さらに、当行が顧客ポートフォリオを管理するための報酬は多くの場合、資産運用額に基づくため、株式市場の低迷が顧客ポートフォリオの価値を引き下げる影響や、解約金額の増加により、当行が信託勘定管理およびその他勘定管理サービスから受取る報酬を一般に引き下げるることとなる。市場が低迷しない場合でも、当行の様々な勘定サービスの実績が株価実績を下回った場合には、解約の増加およびキャッシュ・インフローの減少をもたらす可能性があり、その結果、これらのサービスから当行が受領する収益額が減少する可能性がある。さらに、長引く資産価格の下落により、当行が保有する資産の流動性が低下する可能性があり、時宜を得たやり方もしくはコマーシャルベースで合理的な価格で悪化しているポジションを処分または売却できない場合には、重大な損失を被ることになる。

当行はカウンターパーティー・エクスポージャーに伴う損失を被る場合がある。

当行は、契約相手が当行に対する契約義務を履行できないというリスクに直面している。これらの当事者は、破産、流動性不足、経営上の失敗またはその他の理由により、当行に対する義務を履行しない可能性がある。このリスクは例えば、契約相手が当行に対し支払義務を有するスワップまたはその他のデリバティブ契約や、契約相手によるノンデリバリーまたは決済代理人、取引所、手形交換所もしくはその他金融仲介業者によるシステム障害により、要求される時期に決済できない通貨またはその他取引を実行する際に生じる可能性がある。カウンターパーティー・リスクが現実となった場合、当行の事業、経営および財政状態に悪影響を及ぼす可能性がある。

当行のリスク管理政策および手続は、常に十分な効果が現われない場合がある。

通常の当行の事業において、信用リスク、市場リスクおよびオペレーショナル・リスクといった数々のリスクを管理しなければならない。当行はリスク管理政策および手続を発展させ、改善するために重要な資源を注ぎ込み、今後も引き続きそのようにする予定であるが、当行のリスク管理慣行は、あらゆる市場環境におけるリスク・エクスポージャーまたはあらゆる種類のリスク（未確認または予期せぬリスクを含む。）を常に除去または緩和する上で十分に効果的でない場合がある。例えば、当行の限られた人数の従業員は、時として、当行のリスク管理制度により発見されるまでに、長期間かなりの額を着服していたことがあった。こうした出来事に対応して、当行はとりわけ、リアルタイムでの監視制度を実施することで内部統制手続を強化してきたが、このような措置が将来、従業員による類似の不正行為を防止する上で十分であると保証することはできない。信用リスク、市場リスクおよびオペレーショナル・リスクの管理には、とりわけ多数の取引および事象を適切に記録し、検証するための方針と手続が必要とされるため、当行はこういった方針および手続により当行が直面するあらゆるリスクに対して常に十分な有効性を有することを保証することはできない。

当行の事業運営において法的請求および規制上のリスクが発生する。

当行の通常の営業過程において、当行は規制制度および潜在的な法的・行政的責任のリスクの対象となっている。また、当行は、韓国およびその事業を行っているその他の法域において、その他様々な請求、紛争、法的手続ならびに政府調査の対象となっている。これらの種類の手続により、当行は相当な額の損害賠償金および法的防御費用、差止請求、刑事上および民事上の罰則ならびに当行の事業に対する規制制限に晒されている。これらの事柄の結果は予想することはできず、当行の将来の事業に悪影響を及ぼす可能性がある。

当行は現在、韓国の多くの他の商業銀行と同様に、「KIKOs」として知られる投資商品に関連する訴訟の対象となっている。「ノックイン・ノックアウト」を意味するKIKOsは、韓国ウォンが値上がりして一定水準を上回った場合、売り手が買い手に対して一定金額を支払わなければならない、韓国ウォンが下落して一定水準を下回った場合、買い手が売り手に対して一定金額を支払わなければならないという条件に基づく外貨建デリバティブ商品である。この商品は、ヘッジ商品となることを意図しており、そのほとんどが2008年の世界金融危機の発生前に小規模企業に販売されたが、世界金融危機の間に韓国ウォンが著しくかつ急激に下落したため、投資家は、当行を含む銀行に莫大な金額を支払わなければならないようになった。その結果、商品を販売した銀行の側が、その商品に付随するリスクを十分に開示しなかったと主張して、その不完全な販売に基づく契約を無効とする訴訟を起こした。2014年12月31日現在、裁判所はKIKOs関連の訴訟54件のうち45件について当行に有利な判決を下したが、残りの9件については少なくとも部分的には当行に不利な判決を下した。2014年12月31日現在、KIKOs関連の訴訟のうち6件が係争中で、かかる訴訟における請求額合計は43.4十億ウォンであり、当行はかかる請求に関して6.2十億ウォンを引当金として設定している。当行に対する訴訟のそれぞれの結果を予想することは難しいものの、それは最終的にはかかる訴訟の固有の事実および状況次第であるため、裁判所が当行に不利な判決を下した場合は、当行の事業、財政状態および経営成績に重大な悪影響を及ぼす可能性がある。

当行は上記の訴訟において徹底的に防禦する予定であるが、訴訟の最終結果を予想することは困難である。合計請求金額は訴訟中に増額される場合もあり、類似の申立てにより、当行に対して他の訴訟も起こされる可能性がある。したがって、これらの訴訟は、もし裁判所が当行に対して不利な判決を最終的に下した場合、当行の事業、財政状態および経営成績に対して重大な悪影響を及ぼす可能性がある。さらに、過去または現在の請求に対応し、または将来の法的請求を避けるために当行が適切な開示を提供し、不公正な勧誘を防ぎ、すべての関係法令を遵守するために広範な従業員研修ならびにその他の業務手続きを実施したが、当行は、適切な研修およびその他の予防措置にもかかわらず、かかる販売に従事する当行のすべての従業員が開示要件に違反せず、不公正な勧誘を行わず、または同様の行為を行わず、将来にも行わないことを保証することはできず、その結果、当行が将来さらなる請求または訴訟に直面する可能性があり、このことが当行の事業、評判、財政状態および経営成績に重大な悪影響を及ぼす可能性がある。

労働不安が当行の事業に悪影響を及ぼす可能性がある。

2014年12月31日現在、9,919名の従業員が労働組合の組合員であり、現在まで当行は合併に関して、労働組合との関係において、重要な困難な状況を経験していない。しかし、韓国金融業界または韓国経済のその他部門における著しい労働不安が、当行の事業活動ならびに当行の多くの顧客の事業活動およびその借入の返済能力に悪影響を及ぼす可能性があり、また韓国企業一般の財政状態、韓国証券取引所に上場されている有価証券の価格、非上場有価証券の価値およびウォン以外の通貨に対するウォンの価値に影響を及ぼす可能性がある。こうした状況が、当行の事業、財政状態、経営成績および自己資本比率に悪影響を及ぼす可能性がある。

当行は当行の情報技術システムに関する混乱、遅延およびその他の困難に遭遇する可能性がある。

当行は、広範な金融サービスならびに当行の日常業務（請求、オンラインおよびオフラインによる金融取引の決済ならびに記録保管を含む。）を継ぎ目なく提供するために情報技術システムに依存している。また当行は、特に技術の進歩によるサイバー・セキュリティ・リスクの高まりに照らして、顧客データの共有関連およびその他の顧客関係管理システムを含む当行のグループ全体の情報技術システムを継続的にアップグレードし、かつアップグレードのために莫大な支出を行っている。しかし、当行の最高の取組みにもかかわらず、当行は、当行の情報技術システムに関する混乱、遅延、サイバーもしくはその他のセキュリティ侵害またはその他の困難に直面する可能性があり、現在計画した通りに当行のシステムを時宜更新することができない場合がある。特に当行の顧客が、当行が最高のセキュリティ・システムを提供しておらず、当行の情報技術システムの障害を適時にかつ完全に修正できないと認識している場合、これらの展開のいずれかが、当行の事業に悪影響を及ぼす可能性がある。

当行の事業活動はサイバー・セキュリティ・リスクにさらされている。

当行の事業活動は、増加するサイバー攻撃のリスクにさらされており、今後も引き続きさらされる。またその性質は引き続き進化している。サイバー・セキュリティ・リスクは、システム全体の「ハッキング」ま

たはその他の手段を通じた、パスワードや口座情報を含む社外秘のセンシティブな顧客情報への権限のないアクセスおよびその不正な利用を含んでいる。様々な種類の金融取引をインターネットや携帯電話による銀行サービスに依存する顧客の数がますます増加し、公衆がその個人情報秘匿することの重要性について高い認識を持ち、金融規制当局が金融サービス提供者による個人情報保護により重点を置くようになり、一般にサイバー・セキュリティ・リスクはますます高まっている。当行は暗号およびその他のセキュリティ・プログラムにより顧客データを油断なく保護しているが、かかるデータが将来のセキュリティ侵害を受けないと保証することはできない。当行は技術の進歩によりますます精巧なものとなるサイバー攻撃によるますますの脅威に立ち向かうためのシステムの構築およびアップグレードならびに防御策に多額の投資を行ってきた。

当行はサイバー・セキュリティおよび消費者保護措置を最高水準に維持し、これらを継続的にアップグレードすることに全力を尽くしている。当行はISO 27001の認証を受けたセキュリティ管理システムは業界で最高の種類であると考えている。当行のセキュリティ管理システムは潜在的なサイバー攻撃の兆候を継続的に監視し、当行が素早く対処できるよう早期警告を提供するように設計されている。当行はまたサイバー・セキュリティについての集中的な従業員研修を情報技術担当者およびその他の従業員に対して行い、強制ウェブサイト認証およびキーボードによるセキュリティ機能といったオンライン金融サービスの先進的なセキュリティ・インフラ（非常に優れた情報セキュリティの専門家チームの雇用を含む。）を採用している。さらに、適用ある規則を遵守し、当行は最近、最高20億ウォンのサイバー・セキュリティ侵害を対象とする保険に加入した。さらに、金融サービスへのアクセスにスマートフォンおよびその他のモバイル機器の利用が拡大していることを鑑み、当行は、安全なモバイル・バンキング・サービスの提供に加え、顧客データの不法な漏えいおよび共有を防止し、顧客のプライバシー保護を強化するためのセキュリティ措置を実施している。

例えば、2013年12月、韓国のスタンダード・チャータード・バンクおよびシティバンクの約130,000件の個人情報漏えいと報道され、かかる漏えいは、スタンダード・チャータード・バンクでは第三者の委託業者によるもので、シティバンクでは従業員によるものであった。さらに2014年1月韓国のNHカード、ロッテ・カードおよびKBカードの約100百万の顧客の個人情報漏えいと報道され、かかる漏えいはこれらのクレジットカード会社3社の情報技術プログラムの開発中に、第三者の信用情報会社の従業員によるかかる情報への不正なアクセスにより発生した。2013年3月、韓国の主要な放送ネットワークおよび金融機関のセキュリティ・システムに対する大規模なサイバー攻撃により、当行のオンラインによる金融サービスの提供に一時的な障害が発生した。かかる攻撃の発信源はまだ判明していない。当行のオンラインによる金融サービスにおける障害は約90分間続いた後にさらなる異常はなく再開した。FSSはこの事件について調査を行い、当行がその情報技術管理アカウントおよびワクチン・サーバーのメンテナンスを適切に行っていなかったことが判明した。その結果、2013年12月に、FSSは当行に対し機関警告（機関勧告の繰り返しとは異なり、重大な制裁に引上げられることはない。）を通知し、当行従業員の5名に対し、懲戒処分を課した。当行は、かかる事件が顧客情報もしくはその他のセンシティブな情報の重大な損失もしくは漏えいをもたらしたとは考えていない。

上記の最近のサイバー・セキュリティ攻撃を除き、当行はこれまで重大なセキュリティ侵害を経験していない。さらに、当行は、実際の金融詐欺および潜在的な金融詐欺に関して規制当局により推奨され、または義務付けられる防御その他の措置の実施を積極的に行っている。しかし、当行を含む韓国の大手金融機関はこれまでサイバー・セキュリティ攻撃の被害にあったことがあり、技術の進歩およびその他の理由により、サイバー・セキュリティの脅威の性質は予測不可能に、かつ継続的に進歩しているため、当行が最高のサイバー・セキュリティ・システムを最善の努力をもって維持しているにもかかわらず、当行が将来重大なサイバー・セキュリティ攻撃を受けないと保証することはできない。さらに、内部の従業員、外部コンサルタントもしくはハッカーその他による不正行為により、当行が将来顧客情報の漏えいまたはその他のセキュリティ侵害を経験しないと保証することはできない。

当行に関し、サイバーまたはその他のセキュリティ侵害が発生した場合、その被害を受けた顧客もしくは第三者による訴訟（集団訴訟を含む。）、サイバー・セキュリティ攻撃の被害者が被った損失の補償、風評悪化、顧客喪失、規制当局による検査および制裁の強化、現在および将来の規制上の制限の遵守ならびに情報セキュリティ・システムの損害抑制、修復および強化に関するその他費用が発生する可能性があり、これらのいずれかが、当行の事業、財政状態および経営成績に重大な悪影響を及ぼす可能性がある。

法律、規則および政府政策に関するリスク

当行は厳しく規制されている事業体であり、変更されることがある法的・規制環境の中で営業しているため、これに違反した場合には罰則およびその他規制措置が課される可能性がある。

金融サービス・プロバイダーとして、当行は、経済的およびその他義務を遵守し、リスク・エクスポージャーを制限することを確保するために、韓国の金融制度の安全性および健全性を維持するために考案された数々の規制に服している。これらの規制は当行の業務を制限する可能性があり、これらの規則の変更によって営業費用が増加する場合がある。規制当局は、当行の事業に関する規制を頻繁に見直し、新しい規制措置（随時、当行に適用される貸倒引当金の最低水準または自己資本比率の引上げを含む。）を実行する。当行は、当行が事業を行っている規制環境は引き続き変化すると予想している。当行および当行の事業に適用される規則の変更またはかかる規則の実施もしくは解釈の変更が予想しえない方法で当行に影響を及ぼす可能性があり、当行の事業、経営成績および財政状態に悪影響を及ぼす可能性がある。

提案されている金融消費者保護法が施行されれば（国会における議決が現在中断している。）、金融サービスの顧客は、強制的損害賠償、契約解除権、集団訴訟適格性および法令違反の場合の二倍損害賠償といった不適切な開示または不公正な勧誘に基づく金融商品の「不完全販売」の場合の追加的救済策を含む手厚い投資家保護策を受ける権利を有するようになる。当行はまた、とりわけその要件の国際的な採択の速度および範囲を考慮しつつ、韓国において段階的に採択される予定のバーゼルIIIに基づくより厳密な流動性要件を含む将来の法令の変更の結果、当行事業に対するその他の規制の対象となる場合がある。これらの規制上の展開のいずれかが、事業を拡大し、当行のリスクおよび負債を適切に管理する当行の能力に重大な悪影響を及ぼす場合がある。

さらに、法律および規則の違反により、当行は著しい負債および制裁を課される可能性がある。例えば、FSCが当行に対する定期監査を行い、その時々には当行がFSCから機関警告を受けている。FSCがかかる監査の一環もしくはその他により当行の財政状態が健全ではないかもしくは当行がFSCの命令を含む適用法令に違反していると判断した場合、または場合により当行が韓国法で定められた適切な自己資本もしくは自己資本比率の要件を満たしていない場合、FSCはとりわけ、増資または減資、役員の職務履行の停止および証券保管会社としての任命停止、株式の償却または株式併合、事業譲渡、資産の売却、支店の閉鎖、他の金融機関との合併および／または当行の業務の一部もしくは全部の停止を命令することがある。財政状態が健全でないか、最低自己資本比率要件を遵守していないか、またはその他の理由により、当行がかかる措置のいずれかを課された場合、当行の事業、財政状態および経営成績は重大な悪影響を受けるであろう。

FSCは2012年の11月から12月まで当行の包括的監査を行い、当行が顧客口座を違法に監視し、一部の金融取引について守秘義務に違反し、当行の関連会社に対する1件の投資について開示し、FSCに報告する義務を怠ったことが発覚した後、2013年7月に当行に機関警告を発し、当行の従業員65名に対する懲戒処分および87.5百万ウォンの罰金を課した。さらに2013年3月、FSCは申立てのあった当行の金融コンピューター・ネットワークの故障に関し、当行に対し特別監査を行った。当行がその情報技術管理者のアカウントおよびワクチン・サーバーに関して適切なメンテナンスを行っていなかったことが発覚した後、2013年12月に当行に機関警告を発し、当行の従業員5名に懲戒処分を課した。2013年10月、FSCはまた、申立てのあった違法な顧客口座の監視に関し、当行に対し特別監査を行い、2014年2月、韓国の検察庁もまたこの件に関して当行の調査を開始した。本書の日付現在、FSCおよび検察庁のいずれも、かかる調査の結果を発表していない。

当行に適用ある主たる法律および規則の詳細については、「第2－3 事業の内容－(6) 監督および規制」を参照されたい。

政府は、政策目的の推進において一定の部門に的を絞った貸出を奨励することがあり、当行はこの要因を考慮に入れることがある。

政府は、政府の課題を推進するために一定の企業および個人への貸出をこれまで奨励してきており、また、将来において奨励する可能性がある。例えば、政府は随時、FSC等の規制機関を通じて、当行を含む韓国の銀行および金融機関が特定の業界、事業グループまたは顧客部門に対する貸出を行うことを促進するための貸付政策を発表しており、一部のケースにおいては、特定の顧客部門へのさらなる貸出を促進するために、韓国銀行による貸出を通じてより低いコストの融資を提供した。例えば、2000年代後半の韓国および世界経済の停滞により偏った影響を受け、今なお回復していない中小企業および低所得の個人を支援するために、政府は様々なイニシアチブをこれまで行っており、現在も行っている。

例えば、FSSは最近、経済の回復が遅れている中で中小企業の財政負担を軽減するために、韓国の銀行に中小企業に対する貸出を増加することを奨励しており、経済全般の低迷が続いていることからかかる企業の流動性の困難が高まることを予想して、政府の政策の結果の一環として、2015年2月に中小企業に対する貸出を2014年12月31日現在の522.4兆ウォンから2015年末までに合計38.4兆ウォン（主要な商業銀行による19.9兆ウォンのコミットメント、地方銀行による6.8兆ウォンのコミットメントおよび政府の支配を受ける政策銀行によるコミットメント11.7兆ウォンからなる。）増加させるコミットメントを発表した。金融規制当局はまた商業銀行の一定の貸出慣行（かかる慣行は、中小企業に対する貸出提供に対する不当な禁止効果として認識されている。）を向上させることを企図したいくつかの措置を採択した。さらに、有望な起業およびベンチャー企業を支援する政府のイニシアチブの支援の一環として、2015年2月、金融規制当局は、韓国の銀行に中小企業セグメントの技術会社に対する貸出を年20兆ウォンを目標として増加させ、技術関連の与信審査能力を強化することを奨励すると発表した。さらに2014年2月、FSCは、固定金利の住宅ローンおよび元金分割返済に基づく住宅ローンについて、商業銀行が提供する住宅ローン（従来、多くの場合変動金利で満期時に元金一括返済され、通常1年ごとに借り換えられる。）にしめるそれぞれの比率を増加する計画を発表した。この計画によると、固定金利の住宅ローンおよび元金分割返済に基づく住宅ローンの比率目標は2014年末までに20%、2015年末までに25%、2016年末までに30%ならびに2017年末までに40%とされている。さらに、満期が10年以上の貸出（この計画以前は満期が15年以上の貸出が対象であった。）に対して、金利返済の税額控除の増額が付与される。2015年1月のFSCによる2014年12月31日現在の韓国の銀行による再編された住宅ローンの評価によると、固定金利および元金分割返済に基づく住宅ローンはそれぞれ23.6%および26.5%で、2014年の比率目標を上回った。FSCは銀行が毎年この目標を達成するかどうかの検査を継続することを発表した。

貸出を行うか否かの最終決定権は当行にあり、政府の政策とは独立して当行の当行内与信承認手続およびリスク管理制度に基づき決定されるものの、当行は、貸出の実施を検討する際に、任意に、かかる政策および奨励の存在を織り込むことがある。さらに、中小企業および低所得の個人に追加貸出を提供することと並行して、当行はかかる取決めの結果リスク因子の高い企業および個人に不良貸付を行うことから生じる潜在的悪影響を低減するために、貸付審査および貸付後監視プロセスの強化といった積極的な措置を講じている。しかしながら、当行は、かかる取決めは、かかる課題がない場合に当行が純粋に商業上の判断のみに基づいて行っていたであろう場合と比較して、リスクと報酬の観点から最適ではない貸付ポートフォリオ配分となっていないかもしくは将来そうならないこと、または類似のもしくは他の政府主導の課題が将来そうならないと保証することはできない。政府は、将来、経済全般の活性化または的を絞った業種の成長を促すためにまたは国民の一部を救済するために、類似のまたは他の課題を実施する可能性がある。政府は、特に経済の停滞によって中小企業または低所得の世帯が総じて一段と厳しい財政難もしくは脆弱性に直面しており、そのため、政府が提案する金額および方法によって中小企業に貸出を行うことが一段と高リスクかつ商業上望ましくないものとなっている場合には、貸出関連の課題を実施するかまたは現行の課題をより強化して実施する可能性がある。従って、かかる政策主導の貸出が、これらの課題がなかった場合と比較して、当行にリスク管理上の一層の困難、資産の質の悪化および利益の減少をもたらす可能性があり、そのため、当行の事業、財政状態および経営成績に悪影響を及ぼす可能性がある。

政府はまた政策目的の促進のため、一部の機関に対する投資を奨励する可能性があり、当行は適時にまたは商業上合理的なその他の方法で、かかる投資を回収できない可能性がある。

的を絞った貸出に加え、政府は随時、その政策目的の促進のために、当行およびその子会社を含む韓国の金融機関に対し、一部の機関に対する投資もしくはその他の形態による金融支援の提供を奨励または要請する可能性がある。これに対して、当行は行内のリスク査定に基づき、当行のリスク管理制度および方針に従い、かかる奨励もしくは要請を遵守するか否か、どのように、どの程度遵守するかについての最終決定を行っており、引き続き行う所存である。同時に、韓国の金融サービス業界の主導的な一員として、かつ、責任ある法人として、当行はまた、例えかかる要請の遵守がさらなる短期的なコストおよび限られた範囲のリスクを伴う可能性があったとしても、特に、健全な金融システムを維持するための政策目的の推進により生じる長期的な利益に関して、政府からのかかる奨励または要請に対し十分に相当な配慮をする所存である。

例えば、不良資産（ほとんどが不動産関連プロジェクト・ファイナンスによるもので、多くの商業銀行（大半が下位のもの）および貯蓄銀行に大きな影響を与えている。）を削減するために、2011年6月に政府は、政府出資企業であり韓国最大の不良金融資産一般の買い手である連合資産管理会社（以下「UAMCO」という。）ならびに主要な政策銀行および商業銀行8行（すなわち、韓国産業銀行、ウリィ銀行、国民銀行、農協銀行、当行、ハナ銀行、韓国外換銀行）が出資母体となっている共同出資のプライベート・エクイティ・ファンドであるユナイテッドPF第一次リカバリー・プライベート・エクイティ・ファンド（以下「本件ファンド」という。）を設立した。当行は本件ファンドに対する10.65%の持分を保有するものの、他の6行と同様にリミテッド・パートナーであり、本件ファンドの業務執行または日常業務には一切関与しない。UAMCOは、本件ファンドに出資した6行を株主とする有限責任会社である。つまり、当行、国民銀行、ハナ銀行、農協銀行、中小企業銀行、ウリィ銀行が、本件ファンドの定款に明示的に定められるとおり、つまり、とりわけ資産負債管理、投資決定および本件ファンドの資産分配に関して、委任された権限の範囲内で行為する。

本件ファンドの規約によると、ゼネラル・パートナーの活動は、各リミテッド・パートナーの代表者（ゼネラル・パートナーではない可能性がある。）で構成される諮問委員会の監督を受け、諮問委員会はマネージング・パートナーの活動について拘束力のない意見を述べることができる。マネージング・パートナーが法律または本件ファンドの規約の重要な条項に違反した場合には、諮問委員会は本件ファンドの持分の3分の2以上を代表する構成員の同意をもって、本件ファンドの運用および管理に関連するかかる当該マネージング・パートナーの活動を停止させることができる。

本件ファンドは、上述の出資者9社からの2014年12月31日現在で総額1,828十億ウォンの資本拠出および借入（内訳は1,400十億ウォンの資本拠出および428十億ウォンの借入）によって資金を調達している。かかる額のうち、2014年12月31日現在で当行は149十億ウォン（普通持分の形態による本件ファンドに対する10.65%の株式持分を表す。）を上限とする資本拠出および19.4十億ウォンの貸付（出資者による貸付合計額の4.5%相当）を義務付けられている。当行は、他の出資者と共に、本件ファンドがプロジェクト・ファイナンスから不良債権を追加的に買い取る際に、その株式所有に応じた比例配分に基づき追加の資本拠出および貸付を行うよう要請される可能性があるが、2014年12月31日現在、当行は合計118.7十億ウォンの資本を拠出し、その資本出資義務を果たしている。当行が現在までに行った資本拠出については、主に減損貸出からなる本件ファンドの裏付資産が公正価値で購入されており、回収措置の強化または転売によるキャピタル・ゲインからの回収のいずれかの形式により後に利益が実現されていることから、これらは減損の対象外である。当行は現在、追加の資本を拠出する予定はない。金利および償還規定を含む貸付条件は、出資者間でさらに交渉される。

本件ファンドの目的は、プロジェクト・ファイナンス会社から不良資産を買い取り、かかる資産を専門的に管理し、後にかかる資産が正常化したら利益の出るように売却することである。こうすることで本件ファンドは、健全性に問題のあるプロジェクト・ファイナンスに対して多額のエクスポージャーを有する金融機関の資産の質を、かかるエクスポージャーの一部を当該金融機関から本件ファンドへと移転することによって強化すること、またプロジェクト・ファイナンス業界の正常化を支援することが期待される。本件ファンドにはいかなる政府保証も付されておらず、本件ファンドは出資者の相互合意に基づいて運営されている。本件ファンドの期間は5年間であり、出資者総会において延長される場合がある。本件ファンドが清算された場合には、各出資者は清算時における本ファンドの純資産に対する持分を本件ファンドに対するそれぞれの拠出額に応じて受領する権利を有する。

2011年6月に本件ファンドを設立して以来2014年12月31日まで、当行は不良化した総額179.1十億ウォンのプロジェクト・ファイナンス資産を本件ファンドに売却し、かかる売却により総額56.2十億ウォンの損失（かかる資産に対して配分された貸倒損失引当金繰入前）および総額7.7十億ウォンの利益（かかる資産に対して配分された貸倒損失引当金繰入後）を計上した。当行は、市場情勢に応じてプロジェクト・ファイナンス資産を追加的に本件ファンドに売却し、その売却手取金の全部または一部を将来の資本拠出または貸付所要額に用いる可能性がある。ただし、プロジェクト・ファイナンス資産の質が総じて低いことから、当行が保有するかかる資産を商業上妥当な条件で売却できるかまたは本件ファンドが買い入れたプロジェクト・ファイナンス資産を利益が出るように売却するという目的を達成できると保証することはできない。その場合、当行は本件ファンドに対する投資を全額回収することまたは本件ファンドに対する貸付の全額返済を受けることができないかまたはこれらが全くできない可能性がある。政府が、同様の、またはその他の政策目的の推進のために、当行を含む韓国の金融機関に対し、同様の、もしくはその他の投資もしくはその他の金融支援の提供を要請もしくはその他の方法で奨励する可能性がないと保証することはできない。かかる提供について、当行は十分に補償されないか、または通常であれば負うことのないさらなるリスクを負う可能性があり、そのために当行の事業、財政状態および経営成績に悪影響を及ぼす可能性がある。

当行の個人向け貸出業務（特に抵当貸出および住宅担保貸出）に対する政府の監督の度合いおよび範囲は、経済または政治情勢により変更される可能性がある。

韓国の非常に多くの世帯にとって不動産は最も重要な資産であり、住宅価格の変動は概して国内経済の方向に重大な影響を及ぼす。従って、住宅価格の規制は、住宅価格バブルが疑われる時には実際のもしくは予期される過剰投機を抑え込もうとする点で、また、不動産市場が停滞している時には租税補助金、貸出期間に対する指導もしくはその他の方法により不動産取引の価格および／または不動産取引の件数を刺激する点で、政府にとって重要な政策課題であった。

例えば、2000年台の初期から中期に、政府は、一般の不動産投資および選ばれた地域における投機の高まりを抑え込むために、いくつかの規制措置（個人向け銀行業に関連するものを含む。）を採択した。過去に実施された措置の一部には、とりわけ、投機性が高いとみなされる地域に所在する不動産向け抵当貸出に対してより厳格な債務所得比率およびローン資産価値比率を金融機関が課することを義務づけ、複数の住宅を所有する者に対して不動産取引にかかる財産税を引き上げ、新築住宅の販売価格に上限を設け、商業銀行が抵当貸出および住宅担保貸出のさらなる提供を控えることを商業銀行に勧告することが含まれていた。さらに、韓国において住宅市場の低迷が長引く中で、2013年4月、不動産包括対策を発表し、これはとりわけ、(i)キャピタルゲイン課税の引下げ、および(ii)初めての住宅取得者に対する住宅取得税の免除を提供している。さらに、2014年2月、FSCは、固定金利の住宅ローンおよび元金分割返済に基づく住宅ローンについて、商業銀行が提供する住宅ローン（従来、多くの場合変動金利で満期時に元金一括返済され、通常1年ごとに借り換えられる。）にしめるそれぞれの比率を増加する計画を発表した。この計画によると、固定金利の住宅ローンおよび元金分割返済に基づく住宅ローンの比率目標は2014年末までに20%、2015年末までに25%、2016年末までに30%ならびに2017年末までに40%とされている。さらに、この計画に基づき、かかる貸出に対する所得税免金額が15百万ウォンから18百万ウォンに引上げられた。さらに、2014年7月、政府は、ソウル広域首都地域における住宅資産に関して、すべての金融機関の住宅ローンに70%の最高ローン資産価値比率（これまで不動産の所在地および貸し手の種別により様々なローン資産価値比率が適用されていたことと比較して）および60%の最高債務所得比率を課した。さらに、2014年12月、国会はまた不動産市場を刺激するためのいくつかの法案を可決した。

不動産部門の成長を刺激するために企図された政府のこれらの措置により、少なくとも短期的には当行の個人向け貸出事業（特に抵当および住宅担保ローンに関するもの。）が成長し、その収益性が改善する可能性があるものの、かかる措置は、韓国の不動産市場に「バブル」とその後の市場崩壊をもたらす過剰投機を含む意図しない結果をもたらす場合がある。対照的に、政府がその刺激策の方向を変更した場合（例えば、不動産市場における実際の、または予想されるバブルを先手を打って取り除くための変更）、かかる政策変更が不動産市場の収縮を招き、不動産価格が下落し、その結果、当行の個人向けおよび／またはその他の貸出事業の成長率ならびに収益性が低下し、またはその他により、当行の事業、財政状態および経営成績または収益性に悪影響が及ぶ可能性がある。「当行の事業に関連するリスクー当行の貸出を担保する担保物件の価値が下落するかまたは当行が担保価値の全額を実現できなければ、当行の信用ポートフォリオが悪影響を受ける可能性がある。」を参照されたい。

当行は通常、韓国の会計、規制、コーポレート・ガバナンスおよび開示基準に服しており、これらはその他諸国の銀行に適用されるものとは異なっている。

当行を含む韓国の銀行は韓国の会計基準および開示要件に服しており、これらは米国を含む一部の国の銀行に適用されるものとは重要な点で異なっている。当行の財務書類は韓国IFRSに従い作成されており、これはその他諸国で適用されるIFRSとはいくつかの点で異なっている可能性がある。さらに、当行は韓国の銀行に適用されるコーポレート・ガバナンス基準の対象となっており、これはその他諸国で適用される基準と多くの点で異なっている。さらに、当行のような韓国の銀行に関して公式に入手できる情報は、その他諸国の公開または非公開企業について通常入手できるものに比べて少ない可能性がある。会計およびコーポレート・ガバナンス基準の相違ならびに入手可能な公的情報がより少ないことにより、コーポレート・ガバナンス慣行または投資家に対する開示が十分でない場合がある。

韓国に関連するリスク

韓国および世界における金融および経済の好ましくない情勢が、当行の資産の質、流動性および財務実績に重大な悪影響を及ぼす可能性がある。

当行は韓国で設立され、その資産の大半は韓国にあり、その収益の大半は韓国で生み出されている。そのため、当行は韓国固有の政治、経済、法律および規制上のリスクに晒されており、当行の事業、経営成績および財政状態は、韓国経済に関連する動向に実質的に依存している。韓国経済は、世界経済の健全性および方向性に依存しており、ある国の情勢に対する投資家の反応が他国の企業の有価証券の価格に悪影響を及ぼす可能性があるため、当行もまた世界経済および金融市場の変動により影響を被る。韓国または世界経済の景気循環を決定する要因は、その大部分が当行の支配の及ばないものであり、内在的に不確実なものである。本項の他の部分に記載された世界経済および市場の不確実性ならびに当行に関するリスクに関する最近の情勢に関する議論以外に、今後、韓国経済に打撃を与える可能性がある要素には、とりわけ以下のものが含まれる。

- ・欧州のいくつかの国における財政上の困難、政治的混乱およびソブリンの債務不履行リスクの高まりならびにその結果として生じる世界金融市場への悪影響。
- ・金利、インフレ水準、外貨準備高水準、商品価格（石油価格を含む。）、為替相場（米ドル、ユーロもしくは日本円の変動または人民元の価値上昇。）、株式相場指数ならびに外国資本の流入および流出を含むマクロ経済指標の悪化またはボラティリティの高まり。
- ・韓国の重要な輸出市場である経済国および地域（米国、中国および日本等）における不利な展開ならびに韓国とその主要な貿易相手国もしくは同盟国との間の経済関係または外交関係の悪化（貿易紛争もしくは国境紛争もしくは外交政策の不一致を含む）。
- ・韓国の不動産市場で継続する停滞。
- ・家計負債水準の継続的な上昇ならびに個人または中小企業の借り手による延滞および信用破綻の増加。
- ・失業率の上昇。または実質賃金の伸び悩み。
- ・高齢化する人口を支援するための社会支出の増加および人口統計上の変化による生産性の低下。
- ・社会・労働不安。
- ・消費者信認の低下ならびに消費者支出および企業投資の減少。
- ・税収の減少ならびに財政刺激策、失業手当およびその他の経済・社会保障にかかる歳出の大幅増による財政赤字の拡大。
- ・適時かつ効果的な政策決定を妨げ、混乱させる政府内または議会における政治上の膠着状態。
- ・求められる政策目的を達成することができず、予期せぬ悪い結果を招くかまたはその他により健全な経済活動を抑制もしくは歪める法律、規則またはその他の政府の行為（財政上、経済上またはその他の行為）。
- ・一部の財閥に関するものを含む企業会計の不正およびコーポレート・ガバナンス問題から生じる投資家信認の喪失。
- ・地政学上の緊張（クリミア半島、旧ソビエト連邦の共和国、中東および朝鮮半島など。）、戦争行為、テロ行為、疫病の発生または自然災害もしくは人工災害（数カ月間にわたり韓国の消費者感情を著しく損なった2014年4月の旅客船セウォル号の沈没）といった世界または韓国の経済に重大な悪影響を及ぼすその他の情勢。

今後、韓国経済が悪化すれば、当行の事業、財政状態および経営成績が悪影響を受ける可能性がある。

北朝鮮との間の緊張関係が当行に重大な悪影響を及ぼす可能性がある。

韓国と北朝鮮との関係は、韓国の近代史を通じて緊張関係が続いている。両国間の緊張の度合いはこれまで変動してきており、現在および将来の出来事如何で突発的に高まる可能性がある。特に、金正恩が2011年12月のその父の死後に権力を承継して以来、北朝鮮の政治的指導力の長期的な安定に関する不確実性が継続しており、このことが同地域の政治・経済の行方に関する懸念をもたらしてきた。

さらに、核兵器および長距離ミサイル計画に関する行為を含む北朝鮮の敵対的な軍事及び外交行動により、同地域の安全保障上の緊張の高まりが継続している。かかる行為の近年のいくつかの例には下記が含まれる。

- ・ 2014年12月、北朝鮮の指導者を批判的に描いた映画「ザ・インタビュー」の上映を妨げるために、北朝鮮はソニーのネットワークにハッキングを行ったとされ、これにより米国は即座に北朝鮮に対するさらなる経済的制裁の実施を検討することとなった。
- ・ 2013年4月、北朝鮮は国境付近の都市である開城の南北協力による工業団地への立ち入りを封じ、同工業団地から韓国の労働者を追い出した。しかし、2013年9月、韓国と北朝鮮は合意に達し、開城工業団地の操業を再開し、それ以来、とりわけ、無線自動識別データ転送システムの構築およびインターネット・サービスの開始を含む、工業団地の事業環境を改善するための取組みを行った。2014年2月、米国議会調査局は、開城工業団地の拡大および国際化に向けた韓国のアプローチは、北朝鮮に対する制裁を拡大しようとする米国の法的取組みと対立するものであると報告した。これにより、韓国政府がかかる緊張緩和の取組みを覆したりまたは縮小したりしないという保証はない。
- ・ 2013年3月、北朝鮮は韓国と「戦争状態」に入ったと発表し、1953年の休戦協定が無効であると宣言し、韓国と米国の共同軍事訓練ならびにミサイルおよび核実験についての北朝鮮に対する追加制裁に抗議するために、最高水準の戦闘準備をして大砲を配備した。
- ・ 北朝鮮は2003年1月の核拡散防止条約に基づく義務を放棄し、2006年10月から2013年2月までの間に3ラウンドの核実験を行い、これにより同地域の緊張が高まり、世界中で激しい反対が起きた。これに対応し、国際連合安全保障理事会は、最も最近では2013年3月に、北朝鮮の核実験を非難し、北朝鮮に対する制裁を拡大する決議を全会一致で可決した。
- ・ 2012年12月、北朝鮮に弾道ミサイル技術を利用した人工衛星の打ち上げを禁じる米国との合意および国際連合安全保障理事会の決議に違反するものであるとの国際社会の懸念にかかわらず、北朝鮮は長距離ロケットを用いて人工衛星を発射し、軌道に投入した。

北朝鮮の経済はまた、深刻なインフレおよび食糧不足を含む厳しい問題を抱えており、これらが北朝鮮の社会・政治的緊張を一層悪化させる可能性がある。さらに、将来、韓国と北朝鮮の再統一が突如なされる可能性があり、そのためには韓国による多大な経済上のコミットメントおよび支出が伴い、それは再統一によりもたらされる経済上の利益を上回る可能性がある。朝鮮半島において軍事的、政治的または経済的な安定に関連する緊張または不確実性がさらに高まれば（北朝鮮の核計画を巡る外交交渉の決裂、軍事的敵対行動の勃発、北朝鮮政治指導層の安定に対する懸念の高まりもしくは実際の崩壊、指導層の危機または高官レベル協定の決裂もしくは再統一の加速を含む。）、当行の事業、財政状態および経営成績に重大な悪影響を及ぼす可能性がある。

5【経営上の重要な契約等】

該当事項なし。

6【研究開発活動】

該当事項なし。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

以下の議論および分析は、連結財務書類および注記（「第6－1 財務書類」に記載されている。）と併せて、これら全体を参照して読まれるべきである。下記に記載されるすべての財務情報は、別段の記載がない限り連結ベースで表示されている。本項におけるかかる議論には、将来予測に関する記述が含まれており、将来の事象および財務実績に関する当行の本書提出日現在の見解が反映されている。実際の結果は、いくつかの要因（「第3－4 事業等のリスク」および本書のその他の箇所に記載された要因が含まれる。）により、かかる将来予測に関する記述の中で予想されたものと大きく異なる場合がある。

概観

当行は、とりわけ資産合計、収入、収益性および自己資本の点において韓国の大手商業銀行の一つである。とりわけ資産合計、収入、収益性および自己資本の点において韓国の大手金融持株会社の一つである新韓フィナンシャル・グループの旗艦傘下会社である当行は、主に韓国において、また韓国における程度には及ばないものの選ばれた海外市場において、個人および法人顧客向けに幅広い商業銀行業務およびその他銀行業務を提供している。当行は中小企業を対象とする韓国最大のレンダーの一つである。2014年12月31日現在、当行は国内支店900店舗、海外支店8店に加え、日本、中国、香港、ベトナム、米国、カナダ、ドイツ、カンボジアおよびカザフスタンに所在する子会社9社を有している。

当行の資産の大半は韓国に所在し、その収益の大半が韓国において発生している。したがって、当行の事業および収益性は、金利、インフレ、輸出、個人支出および消費、失業、企業商品およびサービスに対する需要、家計および企業の債務返済負担、信用能力全般、不動産および有価証券の資産価値ならびに当行の法人および個人顧客の財政状態に影響を与えるその他の要因を含む韓国の全般的な経済および社会情勢に大きく依存している。韓国経済は世界の経済および金融市場と密接に統合されており、世界の経済および金融市場における動向に著しい影響を受けている。近年、世界の経済および金融市場は苦境にあり、このことは韓国経済に、ひいては当行の事業および収益性に悪影響を与えた。「第3－4 事業等のリスク」当行の事業に関連するリスク韓国および世界経済ならびに金融市場の困難な状況および乱高下が、当行の事業、資産の質、自己資本および利益に不利な影響を及ぼす可能性がある。」を参照されたい。

特に、金融および経済状況の困難により、ますます多くの当行の法人および個人顧客が破産または支払不能を申立て、またはその債務弁済義務に応じることが一層困難になるため、当行の資産の質が著しく悪化し、貸倒損失および償却のための引当金をより多く引き当てることとなった。さらに、不動産市場ならびに造船および船舶事業において継続する停滞は、建設業、不動産賃貸業、造船業および船舶業の当行の法人借り手の間の延滞（当行が限定的なエクスポージャーを有するSTXグループの現在および以前の傘下企業および京南企業の例にみられるように、一部には、支払不能、法人再編および／または債権者との和議取決めもある。）の増加を招いた。当行は、かかる困難に直面した業界に対するエクスポージャーを先制的なリスク管理政策を通じて積極的に少なくしようとしたが、これらの業界の停滞の継続またはその他の理由により、これらの業界の借り手の資産の質はさらに悪化する可能性があり、当行がこれらの借り手によりさらなる貸倒損失を被らないと保証することはできない。当行の延滞率（1ヵ月以上の延滞に基づく。）は2013年に0.39%に減少し、2014年に0.31%にさらに減少するまでは、2010年の0.48%から2011年に0.60%に増加し、2012年に0.61%であった。2013年に延滞率が減少した理由は主に、かかる困難に直面した業界に対するエクスポージャーおよびその他のリスクを有する借り手に対するエクスポージャーを先制的なリスク管理政策を通じて少なくしようとする当行の積極的な取組みに加え、その資産の質を改善するための当行の戦略的イニシアチブの一環として質の高い信用プロフィールを有する借り手に対する貸出を増加させたことである。当行の法人向け銀行業務に比較して、当行の個人向け銀行業務に対する経済低迷の影響はそれほど深刻ではなかった。その主な要因は、当行の個人向け貸出の大半は抵当貸出および住宅担保貸出であり、住宅資産により担保されていること、そして個人および家計では伝統的に抵当貸出および住宅担保貸出について債務不履行となることが少ない傾向にあるためである。当行の個人向け貸出の延滞率は、2012年12月31日現在の0.53%から2013年12月31日現在の0.24%に減少した。これは主に、世界および韓国経済の回復の度合いが増したことに加え、当行の資産の質を向上させるための戦略的イニシアチブの一環として質の高い信用プロフィールを有する借り手に対する貸出を増やすための当行の積極的な取組みによるものである。2014年12月31日現在の当行の個人向け部門の延滞率は引き続き安定して0.23%であった。

当行は、その収益の大半を法人向けおよび個人向け貸出から、資金調達費用（主に顧客預金に対する支払利息）控除後の利息から得ている。正味受取利息は、主に貸出金の平均残高および貸出金にかかる正味利息スプレッドに連動している。

2013年に、個人向け貸出の平均金額は2012年から5.8%増加した。この理由は主に、長期住宅賃貸価格の上昇に伴い長期賃貸住宅保証金ローンが増加したこと、ならびに警察官および政府職員といった良質な個人に対する貸出が増加したことで、かかる増加は、新規住宅市場の低迷が継続していることから新たな住宅購入向けの抵当ローンの減少を相殺して余りあった。2013年、法人向け貸出の平均金額は1.7%増加した。これは、韓国金融市場の流動性が豊富であり、かつ社債の金利が低いため、法人顧客がその主たる資金調達源として銀行借入れよりも資本市場を通じて社債発行を行う傾向が強まったためである。2014年、個人向け貸出の平均金額は2013年から5.7%増加した。これは主に、貸出金額を増加させる一方で、かかる貸出の利幅および資産の質を維持または改善するための戦略的な取組みの一環として、高い信用プロフィールを有する借り手や職業上の安全性が比較的高い政府職員（警察官および消防士など。）に対する貸出が継続して増加したこと、一部には韓国の不動産市場の停滞が継続しているために住宅を所有するよりも長期住宅賃貸を好む傾向が強まったことにより長期賃貸住宅保証金ローンの金額が増加したこと、ならびに2014年下半期に発表された様々な金融、財政および規制緩和措置を通じて経済全般および不動産市場を刺激するための政府による一連の計画により、2014年下半期に担保付住宅ローンの金額が大幅に増加したためである。2014年、主に中小企業向けの貸出の比較的安定した成長（主に社外取締役による監査を要しない良質な、より規模の小さな企業に注力したマーケティング強化による）ならびに大企業向け貸出（設備融資および買収資金融資に対する需要増による。）により法人向け貸出の平均金額は2013年から4.6%増加した。

2012年から2013年にかけて、利付資産の平均利回りおよび有利子負債の平均金利はともに減少したが（満期プロフィールの相対的な相違のため、利付資産の平均利回りの減少は有利子負債の平均金利の減少よりも大幅であった。）、利付資産および有利子負債の平均残高はともに増加した。主に利付資産の平均利回りの減少が有利子負債の平均金利の減少に比較して大きかったため、当行の正味受取利息は2012年の4,768十億ウォンから8.7%減少して2013年の4,351十億ウォンとなった。貸倒損失引当金計上後の正味受取利息は2012年および2013年にそれぞれ3,950十億ウォンおよび3,677十億ウォンであった。当行の営業利益は2012年の2,078十億ウォンから17.2%減少して2013年の1,720十億ウォンとなった。

2013年から2014年にかけて、2014年8月および10月に韓国銀行が基準金利を引下げたことを一因として、利付資産の平均利回りおよび有利子負債の平均金利はともに減少したが（満期プロフィールの相対的な相違のため、利付資産の平均利回りの減少は有利子負債の平均金利の減少よりも大幅であった。）、利付資産および有利子負債の平均残高はともに増加した。2014年の基準金利の引下げの影響により、金利スプレッドが大幅に小さくなったが、かかる影響は上記の平均残高の増加によりかなり相殺された。その結果、当行の正味受取利息は比較的安定して2013年の4,351十億ウォンから2014年には4,367十億ウォンとなった。

当行の全般的な資産の質の改善を反映して引当金の繰入額が減少したため、貸倒損失引当金計上後の正味受取利息は2013年の3,677十億ウォンから6.1%増加して2014年には3,903十億ウォンとなった。当行の営業利益は2013年の1,720十億ウォンから4.5%増加して2014年の1,797十億ウォンとなった。

韓国経済の最近の展開と見通し

2014年、世界経済は様々な形の成長を遂げた。米国経済は下半期に安定した力強い成長の兆しを見せ始め、一方、中国、日本および欧州といった世界のその他の国々では、わずかな成長または減速が見られた。一部にはかかる展開の結果として、米国政府は量的緩和プログラムを終了したが、中国、日本および欧州は、拡張的金融政策を強化しないならば継続するであろう。当行はかかる多様な成長は2015年にも継続すると見込んでいる。2014年の韓国経済に関しては、客船セウォル号の事件により消費者支出が冷え込み、上半期に一時的に景気後退したが、下半期の政府による刺激策を背景に限られた程度ではあるものの回復した。

2015年、当行は、韓国政府による拡張的金融政策が継続すると仮定すると韓国経済は限定的に成長し、特に米国向けの輸出が成長すると見込んでいる。しかし、米国政府によるマネーサプライの引締め規模および速度の形態、ユーロ圏における潜在的なデフレ、中国およびその他の新興市場経済国における減速ならびに中東およびロシア周辺における地政学的な懸念の高まり、ならびにこれらに伴う国際金融市場および世界経済のリスクを含め、依然として著しく不透明であり、これらのいずれかが韓国経済に重大な悪影響を及ぼす可能性がある。

金利の変動に関しては、2008年下半期に世界経済危機が発生して以来、韓国は、その他の多くの国々と同様に、わずかな変動はあったものの低金利環境であった。これは一部には政府による積極的な金利引下げ措置による経済刺激政策によるものであった。2011年1月1日以来、韓国銀行により設定される基準金利は1.75%から3.25%の範囲に留まっていた。2015年3月には基準金利は歴史的な低金利である1.75%となった。この後の2015年も金利が低水準で、韓国経済が安定した回復を示し、米国政府が有意義な金融引締めに着手すると仮定すると、市場金利が限定的な範囲で上昇すると当行は予想している。

2014年、韓国の主要な商業銀行は、主に個人および法人顧客からの貸出需要の回復により全般的にその資産と収益において緩やかに成長した。延滞率および不良債権比率双方の点で、資産の質もまた限定的な範囲

で改善した。しかし、商業銀行の正味資金利鞘は全般的に縮小した。これは主に韓国政府によって設定された基準金利が低下したことに加え、韓国の銀行間の競争が、特に一部の適格固定金利貸出および分割払い貸出に関して激化したためである。

2015年、当行は、韓国経済の全般において予想される成長に伴い、韓国の商業銀行の貸出も緩やかに成長する見込んでいます。当行はまた、近年の先制的な債務再編および保守的な引当金対策に照らし、韓国の商業銀行の資産の質は2015年においてもおおむね安定し続けると見込んでいます。しかし、現在予想される米国政府による金融引締めを一因として、急激に、または持続的に金利が上昇した場合、韓国における家計債務の水準が高いことに照らし、信用リスクが著しく増す可能性がある。

当行は現在、韓国の商業銀行業界に悪影響を及ぼす重大な規制上の展開について認識していない。しかし、長引く低金利環境は、商業銀行が預かり金と貸出金との金利差を利用して利益を得る機会を制限し、主要な商業銀行間の良質な顧客を求める熾烈な競争を煽ってきた。さらに、最近、ダウムカカオといった大規模な利用者ネットワークを有するオンライン・サービスのプロバイダーは、金融サービスと、一般に「fintech」（金融テクノロジー）と称する技術との成長しつつある集約に基づくシステムを通じた仮想振込サービスの提供に著しく参入しているため、オンライン顧客をめぐる競争は、商業銀行の間だけでなく、オンライン・サービスのプロバイダーも含めて激しくなっている。そのため、商業銀行は、物理的な銀行店舗で対面での利用を主とする従来の顧客に比較して、成長著しい顧客基盤であるオンライン利用者を惹きつけ、維持するためにそのサービス基盤をアップグレードすることへの高まる圧力に直面している。

金利

金利の変動は、その規模および時期ならびに当行の資産および負債に対する相対的な影響といった点で、当行の正味資金利鞘および収益性、特に金利変動に敏感な当行の金融商品に重大な影響を及ぼす。例えば、当行の貸出金（資産に計上されている。）に適用される金利が当行の預金（負債に計上されている。）に適用される金利に比較してより速いペースでもしくはより大きな幅で低下するか、またはより遅いペースでもしくはより小さい幅で上昇する場合、正味資金利鞘は縮小し、当行の収益性は悪影響を受ける。さらに、当行の変動金利の貸出金および預金の相対的規模および構成（固定金利の貸出金および預金に比較して）もまた、当行の正味資金利鞘に影響を与える場合がある。さらに、当行の利付資産（主に貸出金）と有利子負債（主に預金）の平均期間の相違もまた当行の正味資金利鞘に影響を与える場合がある。例えば、当行の預金の期間は現在は平均的に貸出金の期間よりも長期であるため、当行の預金は、当行の預金および貸出金が連動する傾向にある基準金利の変動に対して、平均的にそれほど敏感ではなく、そのため基準金利の上昇は当行の正味資金利鞘を上昇させる傾向にあり、一方、基準金利の低下はその反対の影響を有する傾向にある。当行は、金利のボラティリティに対するエクスポージャーを最小限に抑えるべく継続的にその資産および負債を管理しているものの、当行のかかる努力によっても金利ボラティリティを適時または効果的に緩和することができない可能性がある。

当行により顧客に課される金利は、一部には韓国銀行連合会によって公表される「資金調達コスト・インデックス」（COFIX）に基づいている。COFIXは、韓国の大手銀行9行（当行、国民銀行、ウリ銀行、ハナ銀行、韓国外換銀行、農協銀行、中小企業銀行、シティバンク・コリアおよびスタンダード・チャータード・バンク・コリアからなる。）の選ばれた資金調達商品（定期預金、住宅その他積立貯蓄預金、レボ、割引手形および非転換型シニア社債を含む。）の加重平均金利に基づいて計算されている。各銀行はその後、COFIXと自行の全般的な資金調達コスト、事務費用、顧客の信用スコア、貸出の満期およびかかる銀行との顧客関係に基づいたその他顧客に固有のプレミアムおよびディスカウントとの差に基づいて、COFIXにスプレッドを上乗せしてそれぞれの顧客への適用金利を個別に決定している。これらの金利は通常毎月調整される。

表示日現在の一定のウォン建て借入の基準金利を下表に示す。

	社債金利 ⁽¹⁾	国債金利 ⁽²⁾	譲渡性預金 証書金利 ⁽³⁾	COFIX 残高基準 ⁽⁴⁾	COFIX新規 借入基準 ⁽⁵⁾
			(%)		
2010年6月30日	4.77	3.86	2.46	3.95	2.89
2010年12月31日	4.27	3.38	2.80	3.72	3.10
2011年6月30日	4.49	3.76	3.57	3.88	3.66
2011年12月31日	4.21	3.34	3.55	3.95	3.69
2012年6月30日	3.87	3.30	3.54	3.91	3.63
2012年12月31日	3.29	2.82	2.89	3.57	3.01
2013年6月30日	3.31	2.88	2.69	3.17	2.66
2013年12月31日	3.29	2.86	2.66	2.91	2.60
2014年6月30日	3.10	2.68	2.65	2.79	2.59
2014年12月31日	2.43	2.10	2.13	2.58	2.10

出典：韓国証券業協会

注記：

- (1) AA-格付を有する3年物社債の利回りにより測定されている。
- (2) 3年物国債の利回りにより測定されている。
- (3) 91日満期の譲渡性預金証書の利回りにより測定されている。
- (4) COFIXの報告対象の商業銀行による資金調達商品の月末ごとの残高についての借入金利の加重平均に基づき測定されている。
- (5) COFIXの報告対象の商業銀行による新規資金調達商品の各月の残高についての借入金利の加重平均に基づき測定されている。

重要な会計方針

当行の財務書類の作成にあたり、経営陣は、一定の会計方針の適用において、本質的に不確実性の高い事項の影響について重要な見積りおよび仮定を伴う判断を行うことが要求されている。これらの見積りおよび仮定は、一部の資産、負債、収益および費用の報告金額に重大な影響を与える可能性があるが、財務書類の日付現在当行が入手可能な情報に基づいており、異なる見積りおよび仮定を用いることにより、時の経過によってかかる情報に変更がある場合には財務書類上の報告金額に重大な影響を与える可能性がある。一部の会計方針はその性質上、見積りおよび仮定の利用により大きく依拠しており、これにより、当初報告されたものと大きく異なる結果となることがある。

報告金額の基礎となる手法、見積りおよび仮定に対する財務書類数値の感応度に基づき、当行は重要な会計見積りに関わる以下の重要な会計方針を特定している。これらの方針は主観的または複雑な判断を要求しており、そのため、新たな情報が入手可能になることにより改定される場合がある。当行の重要な会計方針は、「第6 経理の状況」に記載される連結財務書類に対する注記2により詳しく述べられている。

連結の基礎

子会社

子会社とは当行によって支配される被投資事業体である。当行は、その被投資事業体との関与により収益の変動によるエクスポージャーにさらされるか、または収益の変動に対する権利を有し、かつかかる被投資事業体に対する支配力によりその収益に影響を及ぼす能力を有する場合に、その被投資事業体を支配している。子会社の財務書類は支配を開始した日から支配が停止した日まで連結財務書類に含まれる。当行グループを構成する企業が、類似する状況から発生した同一取引および事象に対して連結財務書類で採択した会計方針と異なる会計方針を使用した場合には、その財務書類を適切に修正して連結財務書類を作成する。

内部取引消去

内部取引により発生する残高、取引損益および未実現損益は連結財務書類の作成時に消去される。関連会社との取引により発生した未実現利益は当行の投資先に対する持分の範囲に限り消去される。内部取引で発生した未実現損失は未実現利益と同様に、減損の証拠が存在しない限り消去される。

非支配持分

子会社における非支配持分は、子会社における親会社の持分とは区別して表示される。純損益およびその他包括利益の各構成要素は、非支配持分が負（－）の残高となるとしても、親会社の保有者および非支配持分の所有者に帰属する。

測定的基础

連結財務書類は、下記の連結財政状態計算書における重要な項目を除き、歴史的原価に基づき作成されている。

- ・ 公正価値で測定されるデリバティブ
- ・ 公正価値で測定される当期損益認識金融商品
- ・ 公正価値で測定される売却可能金融商品
- ・ 公正価値で測定される株式基準報酬
- ・ 公正価値リスクヘッジ会計のリスクヘッジ対象項目に指定され、ヘッジ対象リスクによる公正価値の変動を当期損益として認識する金融負債
- ・ 確定給付債務の現在価値合計から社外積立資産の公正価値を減算した確定給付債務

金融資産の減損

当行は各報告期間末に、損益を通じて公正価値で測定される金融資産を除く金融資産または金融資産の集合体が減損している客観的な証拠があるか否かについて評価する。資産の当初認識後に発生し、損失事象が、信頼性をもって見積ることができる金融資産または金融資産の集合体の見積将来キャッシュフローに影響を与える一つ以上の事象により減損の客観的な証拠がある場合に限り、金融資産または金融資産の集合体が減損したものとし、減損損失が発生する。金融資産が減損した客観的な証拠には、借り手もしくは発行者の著しい財政上の困難、元利金支払の不履行もしくは延滞、当行がそれ以外の場合には検討しないような当行により付与された貸出金の再編もしくは条件緩和、借り手もしくは発行者が破産もしくはその他の財務再編に入る兆候、またはかかる資産の当初認識以降、支払の遅延回数の増加等の金融資産の集合体からの見積将来キャッシュフローに計測可能な減少があることを示す観測可能なデータが含まれる。

貸出金および債権 当行はまず、減損の客観的な証拠が個別に重要な貸出金および債権について個別に存在するか、または個別には重要ではない金融資産について個別にもしくは集合的に存在するかを査定する。当行が個別に評価された金融資産について減損の客観的な証拠がないと判断する場合、これが重要であってもなくても、同程度の信用リスク特性を有する金融資産の集合体にかかる資産を含め、減損について集合的に評価する。個別に減損評価される資産で、減損損失が認識されるかまたは継続して認識される資産は集合的減損評価には含まれない。貸出金および債権に減損損失が発生している客観的な証拠がある場合、損失の金額は、資産の帳簿価額と金融資産の当初実効金利（すなわち、当初認識において計算された実効金利）で割り引いた見積将来キャッシュフロー（まだ発生していない将来の信用損失を除く。）の差額として測定される。貸出金および債権の金利が変動金利である場合、減損損失を評価するために用いられる割引率は契約において定義された現行実効金利である。担保付金融資産の見積将来キャッシュフローの現在価値は、かかる担保の実現可能性にかかわらず、担保を取得し売却する費用を控除した後の担保からのキャッシュフローを含めて計算される。集合的な減損を評価する際、当行は、資産の種類、業種、所在地、担保の種類、延滞およびその他関連要因を考慮した信用リスク評価または信用格付評価プロセスに基づき金融資産を格付けし、分類する。集合的減損評価に適用される金融資産の将来キャッシュフローは、債務不履行の可能性の実績における傾向、回収時期および発生した損失額についての統計的モデリングを用いて見積もられ、現在の経済および信用情勢のために歴史的モデリングで示唆される金額を減損損失が上回る可能性と下回る可能性とのどちらが高いかについての経営陣の判断により調整される。歴史的モデリングにより将来キャッシュフローを調整する際、その結果は観測可能データ（例えば、集合的資産の減損損失および失業率、資産価格、商品価格、支払状態および減損損失の規模を表すその他変数）の動向および傾向に一致しなければならない。将来キャッシュフローを見積るために用いられる方法および仮定は、減損見積りと実際の損失との乖離を小さくするために定期的に見直される。減損損失は損益において認識され、貸出金および債権に対する引当金勘定に反映される。減損損失の金額を減少させるような後発事象が起り、かかる減少が減損認識後に発生した事象に客観的に関係している場合、減損損失の減少は当期の損益に戻入れられる。

売却可能金融資産 売却可能金融資産の減損損失は、その他包括利益において認識され、資本の公正価値準備金において表示された累積損失を損益に振替えることにより認識される。その他包括利益から除かれ、損益において認識される累積損失は、元本返済および償却後の取得原価と損益に従前認識された減損損失を控除した現在の公正価値との差額である。時間的価値に帰属する減損引当金の変動は利息収益の要素として反映される。その後の期間に、減損した売却可能負債証券の公正価値が増加し、かかる増加が損益において減損損失が認識された後に発生した事象に明白に関連している場合、減損損失は損益において認識された戻入れ金額とともに戻し入れられる。ただし、減損した売却可能持分証券の公正価値のその後の回復分については、その他包括利益において認識される。

満期保有金融資産 償却原価で測定された満期保有金融資産に関する減損損失は、帳簿価額と、資産の当初実効金利で割り引かれた見積将来キャッシュフローの現在価値との差額として計算され、損益において認識される。減損資産の利息は、割引のアンワインディングとして引き続き認識される。減損損失の金額を減少させる後発事象が発生した場合、かかる減損損失の減少は損益を通じて戻し入れられる。

金融保証契約

金融保証とは、特定の債務者が債務証券の要項に従った期日に返済を行わなかったために発生した損失を債権者に払い戻すために、当行が特定の支払を行うことが義務付けられている契約である。金融保証負債は当初は公正価値で認識され、当初公正価値は金融保証の存続期間にわたり償却される。金融保証負債はその後、保証に基づく支払の可能性が高くなった場合、かかる償却金額と、予想される支払の現在価値のいずれか高い方の金額で計上される。金融保証はその他負債に含められる。

確定給付制度

確定給付制度とは、確定拠出制度を除く退職後従業員給付制度である。確定給付制度における当行の正味負債は、従業員が当期およびそれ以前の期間の勤務の見返りとして稼得し、現在価値を決定するために割引かれた将来の給付金額を見積ることにより計算される。制度資産の公正価値は控除される。かかる計算は独立した保険数理士により予測単位積立方式を用いて毎年行われる。割引率は、当行の債務の期間と満期日が近似しており、給付が支払われる通貨と同じ通貨建ての質の高い社債の報告日付の利回りである。当行は正味確定給付負債（資産）にかかる勤務原価および正味利息を損益において認識し、正味確定給付債務（資産）の再測定要素をその他包括利益において認識している。

平均残高ならびに金額および金利分析

平均貸借対照表および関連金利

下表は、2013年および2014年12月31日終了年度の当行の平均残高および平均金利ならびに正味利息スプレッド、正味資金利鞘および資産負債比率を示している。

12月31日に終了した年度

	2013年			2014年		
	平均残高 ⁽¹⁾	受取利息／支払利息	利回り／金利(%)	平均残高 ⁽¹⁾	受取利息／支払利息	利回り／金利(%)
(単位：十億ウォン、%を除く)						
利付資産：						
他銀行への預け金	4,973	92	1.86%	6,858	125	1.82%
売買目的資産 ⁽²⁾	7,004	214	3.06	8,310	206	2.48
貸出金 ⁽³⁾ ：						
個人向け	71,261	3,236	4.54	75,308	3,074	4.08
法人向け	95,253	4,045	4.25	99,671	3,882	3.89
公的機関およびその他貸出	2,771	129	4.65	2,299	98	4.26
他銀行への貸出	4,771	121	2.54	4,244	104	2.45
貸出金合計	174,056	7,531	4.33%	181,522	7,158	3.94%
有価証券 ⁽²⁾						
売却可能金融資産	23,173	757	3.27%	19,892	597	3.00%
満期保有金融資産	8,250	380	4.61	7,854	333	4.24
有価証券合計	31,423	1,137	3.62%	27,746	930	3.35%
その他利付資産	-	113	-	-	94	-
利付資産合計	217,456	9,087	4.18%	224,436	8,513	3.79%
非利付資産：						
現金および預け金	7,189			7,324		
デリバティブ資産	1,497			1,383		
売却可能金融資産	2,938			2,217		
有形固定資産および無形資産	2,471			2,361		
その他非利付資産	7,901			7,960		
非利付資産合計	21,996			21,245		
資産合計	239,452	9,087		245,681	8,513	
有利子負債：						
預金：						
要求払預金	18,434	115	0.62%	20,744	113	0.54%
定期預金および貯蓄預金	149,591	3,670	2.45	155,302	3,229	2.08
その他預金	1,637	32	1.95	2,113	27	1.28
利付預金合計	169,662	3,817	2.25%	178,159	3,369	1.89%
借入金	12,493	206	1.66%	12,074	192	1.59%
債務証券	18,272	658	3.60	16,644	524	3.15

その他有利子負債	2,106	55	2.61	1,992	61	3.06
有利子負債合計	202,533	4,736	2.34%	208,869	4,146	1.98%

無利子負債：

無利子預金	2,654			2,868		
デリバティブ負債	1,283			1,308		
その他無利子負債	12,710			11,934		
無利子負債合計	16,647			16,110		
負債合計	219,180	4,736		224,979	4,146	
株主持分	20,272	-		20,691	-	
負債および資本合計	239,452	4,736		245,670	4,146	

正味利息スプレッド ⁽⁴⁾		1.84%		1.81%
正味資金利鞘 ⁽⁵⁾		2.00%		1.95%
平均資産負債比率 ⁽⁶⁾		107.37%		107.45%

注記：

- (1) 日次平均残高に基づいている。
- (2) 年換算で表示されている。
- (3) 減損貸出は、それぞれの平均貸出残高に含まれている。かかる減損貸出に係る受取利息は当初の実効金利を用いて認識される。実効金利は、貸倒損失の測定にも用いられる。
- (4) 利付資産から得た利息の平均金利と有利子負債に支払われた利息の平均金利との差。
- (5) 正味受取利息の利付資産の平均残高に対する比率。
- (6) 利付資産の平均残高の有利子負債の平均残高に対する比率。

正味受取利息の変動分析-金額および金利分析

下表は、当行の2013年と比較した2014年の金額および金利の変動による受取利息、支払利息および正味受取利息の変動の分析を示している。金額および金利の増減は、絶対金額および金利の変動に比例して、平均利付資産および平均有利子負債の平均残高の増減および金利の変動に基づき算出される。金額および金利双方の変動により生じた増減は、絶対金額および金利の変動に比例して割り当てられている。

**2013年から2014年
以下の変動による利息の増加（減少）**

	金額	金利	増減
	(単位：十億ウォン)		
受取利息の増加（減少）			
他銀行への預金	34	(1)	33
売買目的資産	32	(40)	(8)
貸出金：			
個人向け	165	(327)	(162)
法人向け	172	(335)	(163)
公的機関およびその他貸出	(20)	(11)	(31)
他銀行への貸出	(13)	(4)	(17)
貸出金合計	304	(677)	(373)
有価証券：			
売却可能金融資産	(98)	(62)	(160)
満期保有金融資産	(17)	(30)	(47)
有価証券合計	(115)	(92)	(207)
その他利付資産			(19)
受取利息合計	255	(810)	(574)
支払利息の増加（減少）			
預金：			
要求払預金	13	(15)	(2)
定期預金および貯蓄預金	119	(560)	(441)
その他預金	6	(11)	(5)
利付預金合計	138	(586)	(448)
借入金	(7)	(7)	(14)
債務証券	(51)	(83)	(134)
その他有利子負債	(3)	9	6
支払利息合計	77	(667)	(590)
正味受取利息の純増（減少）	178	(143)	16

経営成績

2014年と2013年との比較

正味受取利息

表示期間についての当行の正味受取利息の主要構成要素を下表に示す。

	12月31日に終了した年度		
	2013年	2014年	増減率(%)
(単位：十億ウォン、%を除く)			
受取利息：			
現金および銀行預け金	92	125	35.87%
売買目的資産	214	206	(3.74)
貸出金	7,531	7,158	(4.95)
売却可能金融資産	757	597	(21.14)
満期保有目的金融資産	380	333	(12.37)
その他受取利息	113	94	(15.93)
受取利息合計	9,087	8,513	(6.31)%
支払利息：			
預金	3,817	3,369	(11.74)%
借入金	207	192	(7.25)
債務証券	658	524	(20.36)
その他支払利息	55	61	10.91
支払利息合計	4,737	4,146	(12.48)%
正味受取利息	4,350	4,367	0.41%
正味資金利鞘 ⁽¹⁾	2.00%	1.95%	

注記：

- (1) 平均利付資産に対する正味受取利息の比率。上記「平均残高ならびに金額および金利分析-平均貸借対照表および関連金利」を参照されたい。

受取利息

受取利息は、2013年の9,087十億ウォンから6.31%減少して2014年に8,513十億ウォンとなった。これは主に、韓国銀行により設定される基準金利の減少に伴い、市場金利が低下したため、正味資金利鞘がより小さくなった結果、貸出金利息が2013年の7,531十億ウォンから4.95%減少して2014年に7,158十億ウォンとなったためであるが、これは貸出金の平均残高の増加により一部相殺された。当行の貸出に係る平均貸出金利は、主に法人向け貸出に対する平均貸出金利および個人向け貸出金利が低下したため、2013年の4.33%から2014年の3.94%に低下した。当行の貸出金の平均残高は、主に個人向け貸出および法人向け貸出の平均残高の増加のため、2013年の174,056十億ウォンから2014年の181,522十億ウォンに4.29%増加した。その詳細は下記に記載されている。

さらに具体的には、以下の理由により受取利息は減少した。

- 個人向け貸出に係る利息は、2013年の3,236十億ウォンから2014年の3,074十億ウォンに5.01%減少した。これは主に、個人向け貸出金利が2013年の4.54%から2014年の4.08%に低下したためであるが、これは、個人向け貸出の平均残高が、2013年の71,261十億ウォンから2014年に75,308十億ウォンに増加したことにより一部相殺された。個人向け貸出の平均貸出金利は、韓国銀行が基準金利を2013年の2.50%から2014年の2.0%へと引き下げたことによる市場金利の全体的な低下、良質な個人向け貸出をめぐる商業銀行間の金利競争の激化および当行がより低い貸出金利を提供する良質な個人向け貸出の比率の増加により低下した。韓国銀行が設定する基準金利は、譲渡性預金証書に対する市場金利を決定し、これにより主に当行の個人向け貸出の大半の貸出金利が決定される。個人向け貸出の平均残高が増加したのは主に、韓国の不動産市場の低迷が継続していることを一部の理由として、住宅を所有する代わりとして長期の住宅賃貸に対する選好が高まってきたことに伴い、賃貸住宅保証金ローンの金額が増加したこと、また2014年下半期の不動産市場を刺激するために企図された政府の一連の政策を受けて新規住宅購入のための住宅担保ローンが増加したことに加え、貸出の利幅および資産の質を維持または改善しつつ、貸出金額を増加しようとする当行の戦略的イニシアチブの一環として、信用プロフィールの高い借り手ならびに警察官や消防士といった比較的雇用の安定度が高い政府職員に対する貸出を増加させたためである。
- 法人向け貸出に係る利息は、2013年の4,045十億ウォンから2014年の3,882十億ウォンに4.03%減少した。これは主に法人向け貸出に係る貸出金利が2013年の4.25%から2014年の3.89%に低下したため、これは法人向け貸出の平均残高が2013年の95,253十億ウォンから2014年の99,671十億ウォンに4.64%増加したことにより一部相殺された。法人向け貸出の平均貸出金利の減少は主に、法人借り手に対する全体的な市場流動性が高まる中で商業銀行間の良質な法人向け貸出をめぐる競争激化によるものである。法人向け貸出の平均残高の増加は主に、良質なSOHOおよび中小企業に対する法人貸出を安定的に増加させたことに加え、SOHOおよび中小企業を支援する政府の政策に沿って、これらの企業全般向けに比較的良好な金利の新たな貸出商品を発売したことに加え、大企業の短期的な資金需要を充たすための運転資本貸出が増加したことによるものである。

支払利息

支払利息は、2013年には4,737十億ウォンから12.48%減少して4,146十億ウォンとなった。これは主に、預金に係る支払利息が、2013年の3,817十億ウォンから2014年の3,369十億ウォンに11.74%減少したことに加え、より程度は少ないものの、借入金に係る支払利息が2013年の207十億ウォンから2014年の192十億ウォンに7.25%減少し、債務証券に係る支払利息が2013年の658十億ウォンから2014年の524十億ウォンに20.36%減少したことによる。

預金に係る支払利息が減少したのは主に、預金に係る平均支払金利が2013年の2.25%から2014年の1.89%に36ベース・ポイント低下したことによるが、これは、預金の平均残高が2013年の169,662十億ウォンから2014年の178,159十億ウォンに5.01%増加したことにより一部相殺された。預金に係る平均支払金利が低下したのは主に、定期預金および当座預金に係る平均支払金利が2013年の2.45%から2014年の2.08%に低下し、その他預金の平均支払金利が2013年の1.95%から2014年の1.28%に低下したためである。定期預金および貯蓄預金に係る平均支払金利が低下したのは主に、韓国銀行により設定される基準金利の引下げに伴い市場金利が全般的に低下したことに加え、韓国金融市場における流動性が豊富であったためである。その他預金に係る平均支払金利もまた、主に2014年の市場金利の全体的な低下により低下した。預金の平均残高が増加したのは主に、定期預金および当座預金の平均残高が2013年の149,591十億ウォンから2014年の155,302十億ウォンに3.82%増加したためである。定期預金および貯蓄預金の平均残高の増加は主に、2014年に韓国において市場金利環境が比較的低かったことを鑑み、顧客基盤を拡大しようとする当行の取組みによるものである。

借入金に係る支払利息は、2013年の207十億ウォンから2014年の192十億ウォンに7.25%減少した。これは主に借入金に係る支払金利が2013年の1.66%から2014年の1.59%に低下し、借入金の平均残高が2013年の12,493十億ウォンから2014年の12,074十億ウォンに3.35%減少したためである。借入金に係る平均支払金利は主に、2013年に市場金利が全般的に低かったことに加え、比較的金利の高い借入金を返済することにより削減しようとする当行の取組みによるものである。借入金の平均残高は主に市場の流動性が豊富であったため、借入による資金調達に対する当行のニーズが少なかったことにより減少した。

債務証券に係る支払利息は、2013年の658十億ウォンから2014年の524十億ウォンに20.36%低下したが、これは主に債務証券に係る平均支払金利が2013年の3.60%から2014年の3.15%に低下し、債務証券の平均残高が2013年の18,272十億ウォンから2014年の16,644十億ウォンに8.91%減少したことによる。債務証券に係

る平均支払金利の低下は主に、2014年に韓国銀行が設定した基準金利が引き下げられたことによる市場金利の低下によるものである。債務証券の平均残高の減少は主に、市場における流動性が豊富であったためにより少ない費用で資金調達ができたことから、満期の到来した債務証券のうち一部を償還し、より多くを新規の社債発行ではなく銀行借入によりリファイナンスしたためである。

正味資金利鞘

正味資金利鞘とは、正味受取利息の利付資産の平均残高に対する比率を表す。当行の総体的な正味資金利鞘は、2013年の2.00%から2014年の1.95%に5ベーシスポイント減少した。これは、正味金利スプレッドが2013年の1.84%から2014年の1.81%に3ベーシスポイント減少したためで、利付資産の平均金額が2013年の217,456十億ウォンから2014年の224,436十億ウォンに3.21%増加したことにより相殺されて余りあった。正味金利スプレッドは、利付資産により得られる平均金利と有利子負債により支払われる平均金利の差を表している。2013年から2014年の正味金利スプレッドの減少は主に、韓国銀行により設定された基準金利の平均が2013年の2.50%から2014年の2.00%に低下したため、利付資産（主に当行が保有するウォン建の貸出金および証券からなる。）から得た平均金利が2013年の4.18%から2014年の3.79%に39ベーシスポイント減少したためで、これは上記のとおり2014年に基準金利が低下したことにより、ウォン建発行済債務証券およびその他のウォン建資金源による調達コストが低下し、有利子負債に支払われた平均金利が2013年の2.34%から2014年の1.98%に36ベーシスポイント低下したことにより相殺されて余りあった。利付資産の平均残高は、主に個人向け貸出金額、特に、貸出の利幅および資産の質を維持または改善しつつ、貸出金額を増加しようとする当行の戦略的イニシアチブの一環として、賃貸住宅保証金ローン、新規住宅購入のための住宅担保ローンおよび信用プロフィールの高い借り手に対する貸出金額が増加したことにより増加した。

正味手数料収益（費用）

表示期間における当行の正味手数料収益の内訳を下表に示す。

	12月31日に終了した年度		
	2013年	2014年	増減率(%)
(単位：十億ウォン、%を除く)			
受取手数料：			
与信取扱手数料	57	57	0.00%
電子金融手数料	131	134	2.29
仲介手数料	118	106	(10.17)
業務代行手数料	318	328	3.14
投資金融手数料	38	46	21.05
外国為替受取手数料	132	138	4.55
信託報酬手数料	42	50	19.05
受取保証料	56	55	(1.79)
その他	53	57	7.55
受取手数料合計	945	971	2.75%
支払手数料：			
与信関連手数料	30	29	(3.33)%
ブランド使用手数料	84	51	(39.29)
サービス関連手数料	15	14	(6.67)
売買および仲介関連手数料	5	4	(20.00)
外国為替支払手数料	20	21	5.00
その他	42	49	16.67
支払手数料合計	196	168	(14.29)
正味受取手数料	749	803	7.21%

正味受取利息は2013年の749十億ウォンから2014年の803十億ウォンに7.21%増加した。これは主に、業務代行手数料（主にバンカシュアランス商品の販売による受取手数料からなる。）が、2013年の318十億ウォンから2014年の328十億ウォンに3.14%増加したことによる。業務代行手数料が増加したのは主に、バンカシュアランス商品に対する税金の免除および控除に関する規則の変更に対応してバンカシュアランス商品の販売金額が引き続き増加したことによるものである。

正味非金利収益（費用）

表示期間における当行の正味非金利収益（費用）の内訳を下表に示す。

12月31日に終了した年度

	2013年	2014年	増減率(%)
(単位：十億ウォン、%を除く)			
受取配当金	66	93	40.91%
正味売買利益（損失）	(43)	(40)	(6.98)
正味外貨建利益（損失）	255	253	(0.78)
正味売却可能金融資産売却利益（損失）	486	428	(11.93)
正味金融商品減損損失	(877)	(684)	(22.01)
一般管理費	(2,693)	(2,918)	8.35
その他営業費用（純額）	(573)	(505)	(11.87)
正味非営業費用	(14)	27	N/M
関連会社投資における持分利益	22	12	(45.45)
正味非金利収益（費用）合計	(3,371)	(3,334)	(1.10)%

* N/M=重要ではない。

正味非金利費用は、2013年には3,371十億ウォンから1.10%減少して2014年に3,334十億ウォンとなった。これは主に、金融資産の正味減損損失が2013年の877十億ウォンから22.01%減少して2014年に684十億ウォンとなったため、かかる減少は、一般管理費が2013年の2,693十億ウォンから2014年の2,918十億ウォンに8.35%増加したことに大幅に相殺された。下記に詳述するとおり、個人向けおよび法人向け貸出の資産の質が全般的に改善した結果、金融資産の正味減損損失は大きく減少した。当行の支店ネットワークの合理化に関連した希望退職プログラムにより退職給付支払が増加したことに加え、業績報酬の増加により、一般管理費は増加した。

金融資産の減損損失

表示期間における減損損失を金融資産の種類別に下表に示す。

	12月31日に終了した年度		
	2013年	2014年	増減率(%)
	(単位：十億ウォン、%を除く)		
貸出金：			
個人向け	137	147	7.30%
法人向け	536	298	(44.40)
その他	(10)	(3)	(70.00)
小計	663	442	(33.33)
有価証券 ⁽¹⁾	204	220	7.84
その他	10	22	120.00
金融資産の減損損失合計	877	684	(22.01)%

注記：

(1) 売却可能金融資産および満期保有金融資産からなる。

金融資産の減損損失は、2013年の877十億ウォンから2014年の684十億ウォンに22.01%減少した。これは主に下記の理由により、貸出金にかかる減損損失が2013年の663十億ウォンから2014年の442十億ウォンに33.33%減少したためである。

- ・法人向け貸出に係る減損損失は2013年の536十億ウォンから2014年の298十億ウォンに44.40%減少した。これは主に、当行がリスク管理政策を強化し、法人向け貸出の全般的な資産の質を向上させるための取組みを続けていることにより、法人の借り手の間の延滞が減少した。かかる減少は下記により一部相殺された。
- ・個人向け貸出にかかる減損損失が2013年の137十億ウォンから2014年の147十億ウォンに7.30%増加した。かかる増加は主に、当行の全般的な資産の質を改善するためのリスク管理方針の一環として資産の質の悪化の兆しを示す債権を先制的に売却したためである。

貸出金の減損損失の減少は、主に当行が保有する株式（テハン電線株式を含む。）の市場価格が低下したため、有価証券の減損損失が2013年の204十億ウォンから2014年の220十億ウォンに7.84%増加したことにより一部相殺された。

法人税費用

法人税費用は、当行の課税所得の増加により、2013年の355十億ウォンから7.04%増加して2014年の380十億ウォンとなった。当行の実効税率は、2014年には20.71%、2013年には20.53%と比較的安定している。

当期純利益

上記により、当行の当期純利益は、2013年には1,373十億ウォンから6.01%増加して2014年には1,456十億ウォンとなった。

当期その他包括利益

	12月31日に終了した年度		
	2013年	2014年	増減率(%)
	(単位：十億ウォン、%を除く)		
海外事業の外貨換算差益	(62)	5	N/M
売却可能金融資産の公正価値の正味変動	(305)	64	N/M
関連会社のその他包括利益に対する持分	(4)	4	N/M
確定給付制度に関連する再測定利益（損失）	13	(132)	N/M
その他包括損失合計（税引後）	(358)	(59)	(83.52)%

* N/M=重要ではない。

その他包括損失は2013年の358十億ウォンから83.52%減少して2014年に59十億ウォンとなった。これは主に、売却可能金融資産の公正価値において2013年の305十億ウォンの損失から2014年の64十億ウォンの利益へとプラスの正味変動があったためで、これは2014年に132十億ウォンの確定給付制度に関連する再測定損失を計上した（2013年には13十億ウォンの利益であった。）ことにより、一部相殺された。売却可能金融資産の公正価値にプラスの正味変動があったのは主に、基準金利および市場金利の低下を反映して債務証券の平均利回りが低下したことにより債務証券の公正市場価値が増加したためである。確定給付制度に関連する再測定が利益から損失となったのは主に基準金利および全般的な市場金利の低下による割引率を含む金融上の仮定の変更によるものである。

事業セグメント

現在、当行の主な事業セグメントは以下のとおりである。

- ・個人向け銀行業：主に個人顧客および資産運用顧客ならびにより少ない程度ではあるが病院、空港および学校といった機関に貸出を行い、これらから預金を受け入れる業務
- ・法人向け銀行および資金運用業：中小企業を含む法人に貸出を行い、これらから預金を受け入れる業務ならびに行内の資産負債管理、有価証券およびデリバティブの取引、投資ポートフォリオ管理ならびにその他関連業務
- ・国際銀行業：主に海外子会社および海外支店の運営ならびにその他の海外業務
- ・その他銀行業：銀行運営に係る管理業務

下表は、2013年および2014年12月31日終了年度のセグメント別営業利益を示している。

	12月31日に終了した年度		
	2013年	2014年	増減率(%)
	(単位：%を除き十億ウォン)		
個人向け銀行業	435	550	26.44%
法人向け銀行および投資銀行業	988	1,411	42.81
国際銀行業	123	132	7.32
その他銀行サービス	229	(274)	N/M
連結調整 ⁽¹⁾	(55)	(22)	(61.82)
営業利益合計	1,720	1,797	4.53%

* N/M=重要ではない。

注記：

(1) 連結調整は、セグメント間取引の調整からなる。

個人向け銀行業

個人向け銀行業セグメントは主に、当行の個人向け銀行業支店が支店の顧客（主に個人および世帯からなる。）に提供する銀行およびその他サービスからなる。個人向け銀行業の商品は主に、抵当貸出および住宅担保貸出ならびにその他個人向け貸出、預金およびその他貯蓄商品、ならびに投資およびバンカシュアランス商品の販売により稼得した手数料からなる。

表示期間における個人向け銀行業セグメントの損益計算書データを下表に示す。

12月31日に終了した年度			
	2013年	2014年	増減率(%)
(単位：％を除き十億ウォン)			
正味受取利息（費用）	2,263	2,322	2.61%
正味受取手数料（費用）	548	560	2.19
正味その他利益（費用）	(2,376)	(2,332)	(1.85)
営業利益（費用）	435	550	26.44%

2014年と2013年との比較

個人向け銀行業の営業利益は、2013年の435十億ウォンから26.44%増加して2014年には550十億ウォンとなった。

個人向け銀行業の正味受取利息は、2013年の2,263十億ウォンから2.61%増加して2,322十億ウォンとなった。この増加は、個人向け貸出の平均金額が増加したためで、かかる増加は当行の正味資金利鞘が縮小したことにより一部相殺された。個人向け貸出金の平均金額が増加したのは主に、賃貸住宅向けの長期保証金貸出および新規住宅購入のための住宅担保ローンの増加に加え、上記の安定した職業と健全な信用プロフィールを有する良質な個人顧客に対する貸出が増加したためである。当行の正味資金利鞘が縮小したのは主に、2014年に韓国銀行により設定された基準金利の低下に沿って市場金利が低下したためである。

正味受取手数料は2013年の548十億ウォンから2.19%増加して2014年には560十億ウォンとなった。この増加は主に、バンカシュアランス商品の販売金額が増加したことに関連して受取手数料が増加したことによる。

正味その他費用は、2013年の2,376十億ウォンから1.85%減少して2014年には2,332十億ウォンとなった。これは主に、当行の販売ネットワークの合理化に向けた取組みに沿って当行の個人向け銀行サービスの支店ネットワークを統合したことにより賃貸費用が減少したためである。

法人向け銀行および投資銀行業

法人向け銀行業および投資銀行業セグメントは主に、当行の法人向け銀行業支店が支店の法人顧客（大半が中小企業および大企業（財閥の傘下会社を含む。））に提供する一般貸出ならびに貸越およびその他貸出ファシリティ等の銀行業ならびにその他サービスからなる。

表示期間における法人向け銀行および資金運用業セグメントの損益計算書データを下表に示す。

12月31日に終了した年度			
	2013年	2014年	増減率(%)
(単位：％を除き十億ウォン)			
正味受取利息	937	891	(4.86)%
正味受取手数料	233	259	11.04
正味その他費用	(182)	(261)	43.41
営業利益	988	1,411	42.86%

2014年と2013年との比較

法人向け銀行業および投資銀行業の営業利益は、2013年には988十億ウォンから42.86%増加して1,411十億ウォンとなった。

正味受取利息は、2013年には937十億ウォンから4.86%減少して2014年には891十億ウォンとなった。この減少は主に、当行の正味資金利鞘が縮小したため、法人向け貸出の平均残高が増加したことにより一部相殺された。当行の正味資金利鞘が縮小したのは主に、2014年に韓国銀行により設定された基準金利が低下したことに沿って市場金利が低下したことに加え、上記のとおり法人の借り手の全般的な市場流動性が増す中で、良質な法人顧客をめぐる商業銀行間の競争の高まりによるものである。法人向け貸出の平均残高の増加は主に、良質なSOHOおよび中小企業の借り手に対する貸出が安定的に増加したことに加え、上記のとおりかかる企業を支援し、サポートするための政府の政策上の取組みに沿って全般的に比較的手頃な金利を提供するSOHOおよび中小企業全般に対する新たな貸出商品の発売によるものである。

正味受取手数料は2013年に233十億ウォンから11.04%増加して2014年には259十億ウォンとなった。この増加は主に、韓国において合併および買収が増加したために投資銀行業手数料が増加したことに加え、不動産担保証券の売却に関連する手数料が増加したためである。

正味その他費用は2013年に182十億ウォンから43.41%増加して2014年には261十億ウォンとなった。この増加は主に米ドルに対してウォンが値下がりしたことによる外国為替評価損失によるものである。

国際銀行業

国際銀行業セグメントは主に、当行の海外子会社および支店の業績に加え、自己勘定での債務証券および、より程度は少ないものの持分証券の売買ならびに投資を含む当行の非預金資金調達事業、セグメント間の貸出および借入といった財務活動の取扱い、デリバティブ取引の締結ならびに投資銀行業務からなる。

表示期間における国際銀行業の損益計算書データを下表に示す。

12月31日に終了した年度

	2013年	2014年	増減率(%)
(単位：％を除き十億ウォン)			
正味受取（支払）利息	273	304	11.36%
正味受取（支払）手数料	50	55	10.00
正味その他利益（費用）	(200)	(227)	13.50
営業利益（費用）	123	132	7.32%

2014年と2013年との比較

国際銀行業の営業利益は、2013年には123十億ウォンから7.32%増加して2014年には132十億ウォンとなった。

正味受取利息は、2013年には273十億ウォンから11.36%増加して2014年には304十億ウォンとなった。この増加は主に、当行の海外支店（特に中国の子会社）によって提供された平均貸出残高の増加によるものである。

正味受取手数料は2013年には50十億ウォンから10.00%増加して2014年には55十億ウォンとなった。この増加は主にSBJ銀行による貸出金により受取手数料が増加したことによる。

正味その他費用は2013年には200十億ウォンから13.50%増加して2014年には227十億ウォンとなった。この増加は主に、最近の世界金融危機以前に中国で行われた投資銀行貸出で、2014年に債務整理が行われた貸出に伴う貸出費用の増加による評価損の増加に加え、当行の海外支店および事務所の増加による一般管理費の増加によるものである。

その他銀行サービス

同セグメントは主に、不良債権、再編貸出および当行内の連結調整の管理を含む当行のバックオフィス機能からなる。

表示期間におけるその他銀行業セグメントの営業費用の構成要素を下表に示す。

12月31日に終了した年度

	2013年	2014年	増減率(%)
(単位：％を除き十億ウォン)			
正味受取（支払）利息	878	849	(3.30)%
正味受取（支払）手数料	(82)	(70)	(14.63)
正味その他利益（費用）	(622)	(1,075)	72.83
営業利益（費用）	175	(296)	N/M

2014年と2013年との比較

その他銀行業セグメントの営業費用について当行は、2013年には175十億ウォンの営業利益を計上したのに対し、2014年には296十億ウォンの営業費用を計上した。

正味受取利息は、2013年には878十億ウォンから3.30%減少して2014年には849十億ウォンとなった。この減少は主に、当行のその他銀行業セグメントにより行われた貸出の多くが2014年に返済されたため、貸出の平均残高が減少したことによる。

正味支払手数料は2013年の82十億ウォンから14.63%減少して2014年には70十億ウォンとなった。これは主に関連会社間のウォン建保証の支払手数料に関する連結調整が増加したためである。

正味その他費用は、2013年の622十億ウォンから72.83%増加して2014年には1,075十億ウォンとなった。これは主に連結対象となっている特別目的会社の貸倒引当金が増加したことにより、貸倒引当金が増加したためである。

財政状態

資産

表示日現在の当行の資産の主要項目を下表に示す。

	12月31日現在		
	2013年	2014年	増減率(%)
	(単位：%を除き十億ウォン)		
現金預け金	12,430	15,860	27.59%
売買目的資産	7,520	8,316	10.59
デリバティブ資産	1,458	1,309	(10.22)
貸付債権	174,689	188,325	7.81
売却可能金融資産	24,093	22,364	(7.18)
満期保有金融資産	7,434	8,012	7.78
有形固定資産	2,201	2,036	(7.50)
無形資産	226	180	(20.35)
関係企業等に対する投資資産	222	211	(4.95)
投資不動産	597	739	23.79
当期税金資産	5	7	40.00
繰延税金資産	49	91	85.71
その他資産	7,108	8,191	15.24
売却目的保有資産	14	5	(64.29)
資産合計	238,046	255,646	7.39%

2014年12月31日現在と2013年12月31日現在との比較

当行の資産は、2013年12月31日現在の238,046十億ウォンから7.39%増加して2014年12月31日現在には255,646十億ウォンとなった。かかる増加は主に、貸付債権の増加ならびにより程度は少ないものの現金および預金の増加によるもので、これは売却可能金融資産の減少により一部相殺された。

当行の貸付債権は、2013年12月31日現在の174,689十億ウォンから7.81%増加して2014年12月31日現在には188,325十億ウォンとなった。かかる増加は主に、前述のとおり2014年下半期に発表された不動産市場を刺激するための政府による一連の計画を受けて住宅担保ローンおよび賃貸住宅長期保証金ローンが増加したこと、警察官および政府職員といった良質な個人向け貸出が増加したこと、ならびに良質なSOHOおよび中小企業顧客に対する法人向け貸出が増加したためである。

当行の現金および預金は、2013年12月31日現在の12,430十億ウォンから27.59%増加して2014年12月31日現在には15,860十億ウォンとなった。かかる増加は主に、毎日変動する韓国銀行に対する預け金の増加によるものである。

当行の売却可能金融資産は、2013年12月31日現在の24,093十億ウォンから7.18%減少して2014年12月31日現在には22,364十億ウォンとなった。かかる減少は主に、2014年に市場金利が上昇することを予想して、国債の市場価値の増加による利益を得るために、当行が2013年に国債を売却したためである。

負債および資本合計

表示日現在の当行の負債および資本合計の主要項目を下表に示す。

	12月31日現在		
	2013年	2014年	増減率(%)
	(単位：%を除き十億ウォン)		
当期損益認識指定金融負債	-	6	-%
預金	175,021	189,640	8.35
売買目的金融負債	399	429	7.52
デリバティブ負債	1,478	1,256	(15.02)
借入金	10,069	12,803	27.15
債務証券	17,740	16,581	(6.53)
確定給付債務	67	246	267.16
引当負債	364	299	(17.86)
当期税金負債	148	171	15.54
繰延税金負債	10	9	(10.00)
その他負債	12,214	13,729	12.40
負債合計	217,510	235,169	8.21%
資本合計	20,536	20,477	(0.29)%
資産合計	238,046	255,646	7.39%

2014年12月31日現在と2013年12月31日現在との比較

当行の負債合計は、2013年12月31日現在の217,510十億ウォンから8.21%増加して2014年12月31日現在には235,169十億ウォンとなった。かかる増加は主に、預金（主に顧客預金からなる。）の増加および、より程度は少ないものの借入金の増加によるものである。

当行の預金は、2013年12月31日現在の175,021十億ウォンから8.35%増加して2014年12月31日現在には189,640十億ウォンとなった。かかる増加は主に、クロス・セリングの預金商品（自動給与天引き預金商品、自動クレジットカード支払預金商品、チェックカード預金商品ならびに警察官および政府職員といった良質な個人顧客に提供されるその他の預金商品を含む。）の増加ならびに政府機関およびその関連機関からの預かり金の増加によるものである。

当行の借入金は、2013年12月31日現在の10,069十億ウォンから27.15%増加して2014年12月31日現在には12,803十億ウォンとなった。かかる増加は主に、短期債務商品で残高が毎日変動するコールマネーが増加したためである。

当行の資本合計は、2013年12月31日現在の20,536十億ウォンから0.29%減少して2014年12月31日現在には20,477十億ウォンとなった。かかる減少は主に、ハイブリッド証券の償還によるもので、かかる減少は当期利益による内部留保の増加により一部相殺された。

流動性および資金源

当行は、貸出、トレーディングおよび投資活動のための資金調達およびトレーディング・ポジションの管理から発生する流動性リスクにさらされている。流動性管理の目的は、苦境においても、すべての負債を期日通りに返済し、すべての投資機会に資金を投入することである。当行の流動性リスクの管理方法については、「第2－3 事業の内容－(3) リスク管理－市場リスク管理－非トレーディング業務のための市場リスク管理－流動性リスク管理」を参照されたい。当行は、運転資本が当行の現在の需要を満たすために十分であると考えている。

表示日現在の当行の資金源を下表に示す。

	12月31日現在	
	2013年	2014年
(単位：十億ウォン)		
預金	175,021	189,640
長期債務	21,487	20,986
コールマネー	318	1,783
韓国銀行からの借入金	1,364	1,443
その他短期借入金	4,640	5,172
資本合計 ⁽¹⁾	10,426	9,426
合計	213,256	228,450

注記：

(1) 株主払込資本のみを含む。

当行は、伝統的な商業銀行であったため、その主な資金源は、これまでも、また今後も、顧客預金である。2013年および2014年12月31日現在の預金は、それぞれ175,021十億ウォンおよび189,640十億ウォンであり、同日現在の当行の資金調達合計のそれぞれ82.1%および83.0%に相当した。2013年および2014年12月31日現在、当行の預金合計のそれぞれ93.4%および93.4%が、残存期間が1年以内であった。従来、限られた状況を除き、特に低金利環境および株式市場の変動性に鑑みて、主に韓国の個人および家計には代替投資機会がなかったため、かかる顧客預金のほとんどが満期時に預け替えられる結果となり、当行にとって安定した資金源となっていた。しかしながら、株式市場が堅調である中、顧客は魅力ある代替投資機会に直面して、銀行預金のかんりの金額をより収益の高い投資機会を検索して、その代替投資機会に移転する可能性があり、そのために当行にとって有利な商業上の条件で効率的な資金調達手段を見い出すことが一時的な困難となる可能性がある。

当行は現在、重要な点において流動性上の困難に直面していないものの、ウォン安その他の理由により長期間にわたり、当行にとって受入れ可能な商業上の条件で資金需要を満たすことができない場合、当行はその金融業者としての生命力を確保し、規制上の要件を満たし、その戦略を実行し、または効率的に競争することができない可能性がある。

2013年および2014年12月31日現在、それぞれ6,680十億ウォンおよび6,443十億ウォン（当行の預金合計のそれぞれ3.8%および3.4%）は、韓国の裁判所における訴訟に関連する訴訟当事者による預託金であった。裁判所預託金には、一般に市場金利より低い利息が付される。

さらに、当行は借入金ならびに社債および持分証券の発行によって資金調達を行う。当行の借入金は主に、金融機関、韓国政府および韓国政府関連ファンドからの借入からなる。ウォン建ておよび外貨建ての双方で利用可能なコールマネーは、1ヵ月未満の満期を有する貸出のための短期貸出市場である国内コールローン市場で得られる。また、当行はその時々、新韓フィナンシャル・グループからの資本拠出も受ける。例えば、2008年12月、当時深刻化していた国際信用危機に関する懸念のただ中で当行の自己資本比率を改善するため、当行は新韓フィナンシャル・グループから800十億ウォンの資本拠出を受けた。当行は、2008年12月以降は、新韓フィナンシャル・グループからの追加資本拠出は受けていない。

当行は、重要な資金源として、主に社債の形で長期債務に依存している。1999年以降、当行は、韓国の固定利付証券市場で1年超の満期を有する長期社債を積極的に発行しており、現在も引き続き発行している。当行は、1999年以降、韓国の固定利付証券市場で、最高の格付であるAAAを維持してきた。当行の長期債務証券の金利は概して預金金利よりも20ベースポイントから30ベースポイント高い。しかし、長期債務は預金保険および韓国銀行の準備金に支払われるプレミアムの対象となっていないため、長期債務証券による資金調達コストは、預金に係る当行の調達コストとほぼ同程度である。さらに、当行はまた、海外市場で外貨建長期社債を発行することもできる。2013年および2014年12月31日現在、当行の長期債務（1年以内期限到来分を控除後）は、それぞれ21,847十億ウォンおよび20,986十億ウォンであり、うち、それぞれ6,081十億ウォンおよび6,562十億ウォンは外貨（主に米ドル）建てであった。

信用格付は、当行が資金を調達できる費用およびその他の条件に影響する。国内外の格付機関は、当行を定期的に評価し、それらによる当行の長期債務の格付は、当行の財務の健全性および金融サービス業界一般に影響する状況を含むいくつかの要因に基づいている。

当行は、韓国の固定利付証券市場で比較的高い債務格付を有していることから、当行は、長期社債発行によって借り換えを行うことができると考えている。しかしながら、とりわけ、世界または韓国の経済が再び下方転換するか、当行のコーポレート・ガバナンスが変更されるか、または当行の事業が大幅に悪化した場合には、当行が現在の信用格付を維持すると保証することはできない。当行が現在の信用格付および見通しを維持できない場合には、資金調達費用が増大し、資本市場およびその他借入へのアクセスが制限され、金融取引に担保を追加的に差し入れる必要が生じる可能性があり、これらのいずれかによって当行の流動性、正味資金利鞘および収益性が悪影響を受ける可能性がある。

補完的な資金源には、コールマネー、韓国銀行からの借入金およびその他短期借入金が含まれ、これらは、2013年および2014年12月31日現在、それぞれ6,322十億ウォンおよび8,398十億ウォンであり、同日現在の当行の資金調達合計のそれぞれ3.0%および3.7%を占めた。

さらに、自己資本比率および流動性比率の要件を確実に遵守するために策定された当行のリスク管理政策に従い、新韓フィナンシャル・グループは、流動性支援の限度額をその複数の子会社に対してはその株主持分合計の70%、単一の子会社に対してはその株主持分合計の35%と定めてきた。

契約債務、約定および保証

当行は、通常の業務において、数年間にわたる一定の契約上の金銭債務を負担し、また、約定を行っている。当行は、上記「流動性および資金源」に記載されたように様々な資金源から流動性および資金を取得することができるため、かかる契約上の現金債務および約定が流動性または資金源に重大な影響を有することになるとは考えていない。

契約上の現金債務

2014年12月31日現在の当行の契約上の現金債務を下表に示す。

2014年12月31日現在の満期構成 ⁽¹⁾						
	1ヵ月未満	1-3ヵ月	3-6ヵ月	6-12ヵ月	1-5年	5年超
	(単位：十億ウォン)					
預金	88,942	21,508	26,262	40,402	10,024	2,502
借入金	4,317	1,833	1,708	1,482	2,934	529
社債	261	1,191	2,121	3,549	7,558	1,941
合計	93,520	24,532	30,091	45,433	20,516	4,972

注記：

- (1) 当行の有利子預金、借入金および発行済債務証券に係る見積契約利息支払額のすべてを反映しており、2014年12月31日現在において変動金利ベースであった借入金および債務証券に係る見積契約利息支払額は、最終適用日に使用された金利（例えば、かかる変動金利貸出については金利決定日の直前の利払日）が、その他の全期間に適用されたとみなして計算されている。

約定および保証

当行は、通常の銀行業務において、顧客の資金調達需要を満たすために様々な約定および保証を行っている。約定および保証は通常、とりわけ信用供与約定、商業信用状、スタンバイ信用状および履行保証の形による。かかる金融商品の契約上の金額は、相手方が約定の実行を求めるか、または当行が保証に基づく義務を履行しなければならず、かつ相手方が契約に基づき履行しなかった場合における最大期待損失額を示す。「第2－3 事業の内容－(2)資産および負債の詳細－与信関連の約定および保証」を参照されたい。

2014年12月31日現在の当行の連結ベースでの約定および保証を下表に示す。

	2014年12月31日現在の約定の満期構成			
	1年未満	1 - 5年	5年超	合計
(単位：十億ウォン)				
信用供与約定 ⁽¹⁾ ：				
法人向け	59,432	1,095	322	60,849
個人向け	11,069	460	13	11,542
SPE向け流動性ファシリティ ⁽²⁾	784	1,108	94	1,986
商業信用状 ⁽³⁾	3,567	31	1	3,599
金融スタンドバイ信用状 ⁽⁴⁾	833	105	7	945
その他の金融保証 ⁽⁵⁾	331	8	16	355
履行信用状および保証 ⁽⁶⁾	7,538	2,616	37	10,191
手形引受 ⁽⁷⁾	20	-	-	20
合計	83,574	5,423	490	89,487

注記：

- (1) 信用供与約定は、貸出の形で信用を供与することが承認されているもののうち、資金手当てされていない部分を表す。かかる約定は所定の日に終了し、顧客は、かかる約定に基づき資金を引き出すための事前に定められた条件に従わなければならない。
- (2) SPE向け流動性ファシリティは、当行が管理者として行為する特別目的事業体へのコマーシャル・ペーパー購入契約を含む緊急時与信枠を提供する取消不能の約定を表す。
- (3) 商業信用状は、顧客に代わって、特定の条件に基づいて所定の金額を上限として当行宛の手形を振り出すことを第三者に承認する約束である。これらは通常、短期であり、関連する船荷によって担保される。与信枠を含む信用供与約定は、通常、債務者に影響する重大な悪化があった場合にかかる約定を取り消すことを当行に認める規定を含む。
- (4) 金融スタンドバイ信用状は、当行の顧客が貸出または債務商品を返済しなかった場合に、第三受益者に対する支払いを行う取消不能の債務であり、通常は外貨建てである。かかるスタンドバイ信用状の大部分は、取引関連書類を含む裏付資産によって担保されている。
- (5) その他の金融保証は、当行の顧客の信用状態を強化するために様々な取引において用いられる。かかる保証は、一定の条件を充足することを条件として、当行の顧客が第三者に対する義務を履行しなかった場合に当行が支払いを行う取消不能の保証を提供する。かかる金融保証には、保証金の返還およびサービス手数料の支払いが含まれる。
- (6) 履行信用状および保証は、建設もしくは類似のプロジェクトへの顧客の入札を保証するため、または契約条件に従ったかかるプロジェクトの完成を保証するために発行される。また、製品、商品、保守またはその他サービスを第三者に提供する顧客の義務を補完するためにも発行される。
- (7) 手形引受は、顧客宛てに振り出された為替手形を支払う当行による保証を表す。当行は、大半の当行引受手形についてはその呈示がなされても、顧客は通常、直ちに償還すると予想している。

オフバランスシートアレンジメント

当行は、融資保証、社債、貿易金融にかかるアレンジメント、その他の資金調達保証、与信枠、信用状および信用約定を含む数種類のオフバランスシートアレンジメントを有している。当行は、通常の業務において、顧客の資金調達需要を満たすために様々な約定および保証を行っている。約定および保証は通常、とりわけ、信用供与約定、商業信用状、スタンドバイ信用状および履行保証の形による。かかる金融商品の契約上の金額は、相手方が約定の実行を求めるか、または当行が保証に基づく義務を履行しなければならず、かつ相手方が契約に基づき履行しなかった場合における最大期待損失額を示す。当行のオフバランスシートアレンジメントの詳細については、「第6－1 財務書類」に掲げる連結財務書類に対する注記38を参照されたい。

第4【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

該当事項なし。

2【主要な設備の状況】

資産

当行の登録事務所および本社は大韓民国100-724ソウル特別市中区世宗大路9道20に所在する。韓国にある当行資産の一部に関する情報は下表に示されている。

設備の種類	場所	面積 (平方メートル)	
		建物	敷地 (異なる場合)
登録事務所および本社	大韓民国100-724 ソウル特別市中区世宗大路9道20	59,519	5,418
新韓銀行廣橋別館	大韓民国100-757 ソウル特別市中区清溪川路54	3,652	6,783
新韓バックオフィス・サポート・センター	大韓民国410-837 京畿道高陽市一山東区中央路1311	24,496	5,856
新韓銀行バックオフィス・アンド・コールセンター	大韓民国135-514 ソウル特別市江南区驛三路251	23,374	7,964
新韓センテニアル・ビルディング	大韓民国100-200 ソウル特別市中区南大門路10道29	19,697	1,389
新韓銀行広橋支店	大韓民国100-200 ソウル特別市中区清溪川路54	16,727	6,783
新韓明洞支店	大韓民国100-021 ソウル特別市中区明洞路43	8,936	1,014
新韓永登浦支店	大韓民国150-034 ソウル特別市永登浦区永中路27	6,171	1,983
新韓銀行バックオフィス・アンド・ストレージセンター	大韓民国360-183 忠清北道清州市上党区291番道丹齋路3	6,019	5,376

当行の主要な施設は、韓国ソウルにあり、同ビルの延床面積は約59,519平方メートルである。当行は、直接または間接に、本店ビルの過半の権利を保有している。さらに、その支店のために様々な土地・建物を所有または賃借している。当行は、ソウル首都圏におけるITセンターに中央大型コンピューター・システムを備えている。

2014年12月31日現在、当行は全国規模ネットワークで900の支店を有している。これらの施設のうち約25.2%が当行が所有する建物にある一方で、残りの支店はリース物件に所在する。

2014年12月31日現在、当行により所有されるすべての資産の正味簿価は1,807十億ウォンであった。当行は、韓国国外に重要な資産を保有しない。

3【設備の新設、除却等の計画】

該当事項なし。

第5【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

(2014年12月31日現在)

授權株数	発行済株式総数	未発行株式数
2,000,000,000株	1,585,615,506株	414,384,494株

②【発行済株式】

(2014年12月31日現在)

記名・無記名の別および 額面・無額面の別	種類	発行数	上場金融商品取引 所名または 登録認可金融商 品取引業協会名	内容
記名式額面5,000ウォン	普通株式	1,585,615,506株	該当なし	1株当たり1個の 議決権

(2)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(3)【発行済株式総数及び資本金の推移】

年月日	発行済株式総数(株)		資本金(ウォン)		摘要
	増減数	残高	増減額	残高	
2009年12月31日現在		1,585,615,506		7,928,077,530,000 (864,160百万円)	
2010年12月31日現在		1,585,615,506		7,928,077,530,000 (864,160百万円)	
2011年12月31日現在		1,585,615,506		7,928,077,530,000 (864,160百万円)	
2012年12月31日現在		1,585,615,506		7,928,077,530,000 (864,160百万円)	
2013年12月31日現在		1,585,615,506		7,928,077,530,000 (864,160百万円)	
2014年12月31日現在		1,585,615,506		7,928,077,530,000 (864,160百万円)	

(4) 【所有者別状況】

(2014年12月31日現在)

区分	株主数	株主比率 (%)	保有株式数 (株)	保有比率 (%)
法人等	1	100.0	1,585,615,506	100.0
個人	0	0	0	0

(5) 【大株主の状況】

(2014年12月31日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
新韓フィナンシャル・グループ	大韓民国100-724ソウル特別市 中区世宗大路9道20	1,585,615,506	100.0

2 【配当政策】

株主に支払われる配当は、当行の個別財務書類において報告される分配可能な未処分利益剰余金（商法に定義される。）に基づく。

当行は、2014年および2013年に下記のとおり配当を支払った。

決議日	決議	配当金の総額 (百万ウォン)	一株当たりの配当金 (ウォン)
2014年3月25日	株主総会決議	360,000	227.04
2015年3月19日	株主総会決議	450,000	283.80

3 【株価の推移】

当行株式は、株式移転により新韓フィナンシャル・グループの完全保有子会社になった2001年9月1日に韓国証券取引所における上場を廃止して以来、いずれの証券取引所にも上場していない。

4【役員の状況】

経営陣

取締役会

当行の政策面および戦略面の最終的な責任は当行の取締役会（以下「当行取締役会」という。）にあり、当行取締役会は当行の経営管理およびいくつかの統治機関を通じて日常業務を監督している。当行取締役会の各取締役の住所は、大韓民国 100-724、ソウル特別市中区世宗大路9道20新韓銀行気付である。

当行取締役会は3名の業務執行取締役、1名の取締役兼常任監査役、1名の非常任取締役および6名の社外取締役から成っている。

業務執行取締役は、当行の株主総会による決定のとおり最長3年を任期として選任される（再任可能）。非常任取締役および社外取締役は、2年を任期として選任される（再任可能）。監査委員会（下記にて説明する。）の委員である取締役は3年を任期として選任される（再任可能）。当行取締役会は少なくとも四半期毎に1回開催され、当行取締役会会長の要請によりその他に臨時取締役会を招集することができる。

当行取締役会は当行取締役会の運営を下支えするための様々な任務を遂行するために4つの委員会(監査委員会、リスク管理委員会、監査委員会委員候補指名委員会および社外取締役候補指名委員会)を設置している。

監査委員会の目的は、(i)内部監査計画を策定し、かかる計画を実行し、結果を評価し、適切な事後措置を実施し、適切な改善を提案すること、(ii)内部統制にかかる包括的制度に関して適切な改善を評価し、提案すること、(iii)社外監査役の任命を承認すること、および(iv)上記と類似したその他様々な役割を果たすことにある。

リスク管理委員会の目的は、(i)当行のリスク、評価および限度方針を見直すこと、(ii)ALMならびに信用リスクおよび市場リスクの測定を見直すこと、(iii)資産の質、リスク・エクスポージャーおよび問題資産を統制することにある。

監査委員会委員候補指名委員会の目的は、監査委員会委員の任用候補者を指名し、当行取締役会に推薦することである。

社外取締役候補指名委員会の目的は、社外取締役の任用候補者を指名し、関連のある株主総会で推薦することである。

業務執行取締役

本書提出日現在、当行は3名の業務執行取締役を有している。この3名は、当行の常勤従業員であり、下記に示した役員の地位を有している。

氏名	生年月日	役職	取締役 就任年月日	任期終了日
趙 鏞炳	1957年6月30日	銀行長兼最高経営責任者	2015年3月18日	2017年の定時株主総会開催日
林 永鎮	1960年11月2日	業務執行取締役兼副銀行長（資産運用グループ長）	2013年5月27日	2015年12月31日
李 東煥	1959年9月18日	業務執行取締役兼副銀行長（法人および投資銀行業グループ長）	2013年1月1日	2015年12月31日

趙鏞炳氏は、2015年3月18日から当行の銀行長兼最高経営責任者兼業務執行取締役を務めている。趙氏はこれまで、新韓フィナンシャル・グループの社長代行および新韓BNPパリバの社長兼最高経営責任者兼業務執行取締役を歴任した。同氏は、高麗大学校にて法学の学士号を取得した。

林永鎮氏は、2013年5月27日から当行の業務執行取締役兼副銀行長を務めている。林氏はこれまで、当行の管理支援グループ長、京畿東部営業本部長、日本の大阪支店長および事業部長を歴任した。林氏は高麗大で経営学の学士号を取得している。

李東煥氏は、2013年1月1日から当行の業務執行取締役兼副銀行長を務めている。李氏はこれまで、当行の資本市場およびトレーディング部門の長ならびに新韓フィナンシャル・グループの投資家向け広報チーム長を歴任した。李氏は、延世大学で経営学の学士号およびデューク大学でMBAを取得している。

取締役兼常任監査役

氏名	生年月日	役職	法定監査役 就任年月日	任期終了日
李 石根	1958年7月3日	取締役兼常任監査役	2014年1月1日	2015年12月31日

李石根氏は、2014年1月1日から当行の取締役兼常任監査役を務めている。李氏はこれまで、デロイト・コンサルティングの常任顧問ならびにFSSの戦略企画本部長および総務局長を務めた。李氏は延世大学で経営学の学士号を取得している。

非常任取締役

氏名	生年月日	役職	取締役 就任年月日	任期終了日
金 滢鎮	1958年8月7日	新韓フィナンシャル・グループ副社長	2014年3月25日	2016年の定時株主総会開催日

金滢鎮氏は、2014年3月25日から当行の非常任取締役を務めている。金氏は現在、新韓フィナンシャル・グループの副社長である。金氏はこれまで、新韓データ・システムの最高経営責任者および当行の人事部長を含む当行の様々な役職を務めた。金氏は嶺南大学で経済学の学士号を取得している。

社外取締役

本書提出日現在、当行は当行の常勤従業員ではなく、当行に業務上の役職を有さず、かつ当行の関連会社においても役職を有さない6名の社外取締役を有している。

氏名	生年月日	役職	取締役 就任年月日	任期終了日
朴 世鎮	1950年4月5日	地球村学校校長	2011年3月22日	2016年の定時株主総会開催日
具 本一	1959年11月9日	延世大学校教授	2013年3月27日	2016年の定時株主総会開催日
曹 東徹	1961年3月23日	韓国開発研究院（KDI）チーフエコノミスト	2014年9月22日	2016年の定時株主総会開催日
黄 善泰	1948年10月11日	弁護士（ロゴス法律事務所）	2015年3月18日	2017年の定時株主総会開催日
黄 國在	1959年8月30日	西江大学校教授	2015年3月18日	2017年の定時株主総会開催日
福田博司	1949年6月4日	キョウワ・クリエイト・コーポレーション取締役	2015年3月18日	2017年の定時株主総会開催日

具本一氏は、2013年3月27日以降現在まで社外取締役を務めている。具氏は現在、延世大学校の教授を務めている。具氏は延世大学で経営学の学士号を取得し、コロンビア大学で金融管理学の博士号を取得している。

朴世鎮氏は、2011年3月22日以降現在まで社外取締役を務めている。朴氏は現在地球村学校校長であり、以前は檀国大学校法学部の客員教授、法制処次官および第8回韓国法制研究院の理事を務めた。同氏は、ソウル国立大学校で貿易学の学士号を取得し、フロリダ大学大学院を卒業した。

曹東徹氏は、2014年9月22日以降現在まで社外取締役を務めている。曹氏は現在、韓国研究開発院（KDI）のチーフ・エコノミストである。曹氏は、ソウル大学校で経済学の学士号および修士号を取得し、ウィスコンシン大学で経済学の博士号を取得している。

黄善泰氏は、2015年3月18日以降現在まで社外取締役を務めている。黄氏は現在、ロゴス法律事務所の弁護士である。黄氏はこれまで、韓国法律公団の第10代理事長およびソウル西部検察局の主任検事を務めた。黄氏はソウル大学校で法学の学士号を取得している。

黄國在氏は、2015年3月18日以降現在まで社外取締役を務めている。黄氏は現在西江大学校の教授を務めている。黄氏はこれまで公認会計士および研究員として三星経済研究所に勤務していた。黄氏はシラキューズ大学で経営管理学の博士号を取得している。

福田博司氏は、2015年3月18日以降現在まで社外取締役を務めている。福田氏は現在、キョウワ・クリエイト・コーポレーション、キョウワ・コーポレーションおよびニュージャパン・ツーリズム・コーポレーションの取締役を務めている。福田氏は日本大学経済学部で経済学の学士号を取得している。

実質的に、すべての社外取締役は、当行（主な役職は上記に明記されている。）以外の会社または機関でも役職に就いている。

経営陣

本書提出日現在、当行の経営陣は12名の非取締役業務執行役員から成る。

非取締役業務 執行役員	生年月日	部署	業務執行役員 就任年月日	任期終了日
林 永石	1959年 8 月 4 日	機関向け銀行業グループ	2013年 1 月 1 日	2014年12月31日
徐 現周	1960年 7 月 5 日	マーケティング・サービス・グループ	2013年 1 月 1 日	2014年12月31日
尹 勝郁	1959年 5 月 5 日	管理サポート・グループ	2013年 5 月 7 日	2015年 5 月26日
王 太郁	1960年 5 月23日	消費者ブランド・グループ	2014年 1 月 1 日	2015年12月31日
崔 宰烈	1960年11月30日	グローバル事業部	2014年 1 月 1 日	2015年12月31日
崔 炳化	1962年 5 月16日	法人向け銀行業務部	2014年 1 月 1 日	2015年12月31日
申 順澈	1960年10月 5 日	事業改善グループ	2014年 1 月 1 日	2015年12月31日
權 才重	1962年 9 月14日	リスク管理グループ	2014年 1 月 1 日	2015年12月31日
安 孝振	1961年 2 月 5 日	管理規格グループ	2014年 1 月 1 日	2015年12月31日
許 順錫	1960年 1 月15日	コンプライアンス部	2015年 1 月 1 日	2016年12月31日
李 基俊	1961年11月22日	信用分析および評価グループ	2015年 1 月 1 日	2016年12月31日
柳 東郁	1961年 6 月18日	マーケティング・サービス・グループ	2015年 1 月 1 日	2016年12月31日

林永石氏は、2013年 1 月 1 日以降現在まで当行の業務執行副銀行長兼非取締役業務執行役員を務めている。林氏はこれまで、当行の江南第二営業本部の長、当行の釜山／蔚山営業本部の長および当行の金浦空港支店の支店長を務めた。林氏はセンリン商業高校を卒業している。

徐現周氏は、2013年 1 月 1 日以降現在まで当行の業務執行副銀行長兼非取締役業務執行役員を務めている。徐氏はこれまで、当行のシナジー・サポート部門、個人顧客部のゼネラル・マネジャーおよび顧客サービス部のゼネラル・マネジャーを務めた。徐氏は釜山商業高校を卒業し、成均館大学でAMPを修了した。

尹勝郁氏は2013年 5 月 7 日以降現在まで当行の業務執行副銀行長兼非取締役業務執行役員を務めている。尹氏はこれまで、当行の江南第二地域営業本部長、忠北営業本部長および総務部のゼネラル・マネジャーを務めた。尹氏は清州大学校で経営学の学士号を取得している。

王太郁氏は2014年 1 月 1 日以降現在まで当行の業務執行副銀行長兼非取締役執行役員を務めている。王氏はこれまで、当行の江南第二地域営業本部長、当行の東ソウル地域営業本部長および当行広報部の部長を務めた。王氏は東亜大学校で経営学の学士号を取得している。

崔宰烈氏は2014年 1 月 1 日以降現在まで当行の業務執行副銀行長兼非取締役執行役員を務めている。崔氏はこれまで、当行の資本市場売買部の部長、ヨーロッパ新韓銀行の代表および当行の金融工学センターの部長を務めた。崔氏は成均館大学でドイツ語ドイツ文学の学士号を取得している。

崔炳化氏は2014年 1 月 1 日以降現在まで当行の業務執行副銀行長兼非取締役執行役員を務めている。崔氏はこれまで、当行の工業団地金融本部長および当行の法人向け銀行業務部長を務めた。崔氏は光云大学校で経営学の学士号を取得している。

申順澈氏は2014年 1 月 1 日以降現在まで当行の業務執行副銀行長兼非取締役執行役員を務めている。申女史はこれまで、当行の中部京畿道地域営業本部長および当行の個人向け銀行業務部長を務めた。申女史は韓国国立放送通信大学で経営管理学の学士号を取得している。

權才重氏は2014年 1 月 1 日以降現在まで当行の業務執行副銀行長兼非取締役執行役員を務めている。權氏はこれまで、当行の監査部長およびスタンダードチャータード・ホールディング・カンパニーの政策・戦略・企画担当副副社長を務めた。權氏はソウル国立大学校で経済学の学士号および米国のライス大学で経済学の博士号を取得している。

安孝振氏は2014年1月1日以降現在まで当行の業務執行副銀行長兼非取締役執行役員を務めている。安氏はこれまで、当行の戦略企画部長、江南スポワールド支店長およびアメリカ新韓銀行代表を務めた。安氏は延世大学校で英語英文学の学士号を取得している。

許順錫氏は2015年1月1日以降現在まで当行の業務執行副銀行長兼非取締役執行役員を務めている。許氏はこれまで当行の機関銀行部の部長、水原市支店の支店長および鶴洞支店の支店長を務めた。許氏はソウル大学校で法学の学士号を取得している。

李基俊氏は2015年1月1日以降現在まで当行の業務執行副銀行長兼非取締役執行役員を務めている。李氏はこれまで当行の中部事業本部の本部長、法人復興支援部門の部門長を務めた。李氏は高麗大学校で財政学の修士号を取得している。

柳東郁氏は2015年1月1日以降現在まで当行の業務執行副銀行長兼非取締役執行役員を務めている。柳氏はこれまで当行の投資商品サービス部門の部門長、当行の個人向け事業開発部の部長および盆唐区亭子洞支店の支店長を務めた。柳氏は高麗大学校で経営管理学の学士号を取得している。

5【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

委員会

監査委員会

当行は当行取締役会の下に監査委員会を置いている。監査委員会は、以下のとおり、(i)当行の会計および事業の監査を行うこと、(ii)定時株主総会に提出される議案および書類を調査し、定時株主総会において法令、規則または定款に違反がないか、もしくは著しい違法性がないかどうかについて意見を述べること、(iii)臨時株主総会の招集を要求すること、(iv)子会社の事業に関する報告書を要求し、必要であれば、子会社の事業または資産の状況を調査し、(v)社外監査役の任命を承認し、(vi)取締役会により委任されたその他の事項を処理することに権利および責任を有している。

本書提出日現在、当行監査委員会は以下の委員により構成されている。

氏名	生年月日	役職	監査委員会委員 就任年月日	任期終了日
具 本一	1959年11月9日	監査委員会委員、社外取締役	2013年3月27日	2016年の定時株主総会開催日
黄 善泰	1948年10月11日	監査委員会委員、社外取締役	2015年3月18日	2017年の定時株主総会開催日
李 石根	1958年7月3日	監査委員会委員、取締役兼常任監査役	2014年1月1日	2015年12月31日

リスク管理委員会

リスク管理委員会は現在、2名の社外取締役および1名の非常任取締役、つまり曹東徹氏、黄國在氏および金滢鎮氏から成っている。かかる委員会は、当行の包括的リスク管理機能に関するすべての問題について、監督し、決定を行う。当行の安定的な財政状態を確保し、そのリスク調整後の収益を最大化するために、委員会は当行の全般的なリスク・エクスポージャーを監視し、当行がリスク政策およびプロセスを遵守しているかを検討する。さらに、委員会はリスク抑制戦略および政策を検討し、修正し、各リスクが適切な水準であるか否かを評価し、またリスクに基づく資本配分を検討する。委員会は、四半期ごとに定例会を開催する。

監査委員会委員候補指名委員会

当行の監査委員会委員の役職および関連事項について、候補者を推薦したり、指名する必要がある場合かつその限りにおいて、本委員会委員は当行取締役会により任命される。本委員会は監査委員会委員の候補者を推薦し、出席委員の3分の2の賛成に基づき行為しなければならない。

社外取締役候補指名委員会

当行の社外取締役の役職および関連事項について、候補者を推薦したり、指名する必要がある場合かつその限りにおいて、本委員会委員は当行取締役会により任命される。本委員会の会議は、委員会の委員長により招集されるが、委員長は社外取締役でなければならない。

報酬

2014年12月31日現在、当行により当行取締役および業務執行役員に支払われた報酬および現物給付の合計金額は約2,859百万ウォンであった。

株式所有

当行の株式資本のすべては、新韓フィナンシャル・グループにより所有されている。

ストックオプション

2010年4月1日以前、新韓フィナンシャル・グループは、選ばれた上級経営陣に対してストックオプションを付与していた。2015年3月18日現在、付与されたすべてのストックオプションの行使期間が終了しており、現在は付与されているストックオプションはない。

(2)【監査報酬の内容等】**①【外国監査公認会計士等に対する報酬の内容】**

2014年および2013年についてケーピーエムジーサムジョン会計法人およびその外国関連法人に対する報酬の内訳を以下に掲げる。

(単位：百万ウォン)				
	2014年		2013年	
	監査その他証明業務 に基づく報酬	非監査業務に 基づく報酬	監査その他証明業務 に基づく報酬	非監査業務に 基づく報酬
当行	1,585	-	1,538	64
連結子会社	559	190	273	108
合計	2,144(*)	190	1,811	172

(*)2014年の監査その他証明業務に基づく報酬の内訳は以下のとおりである。

(単位：百万ウォン)	
項目	報酬
監査	1,946
その他保証業務	198
合計	2,144

②【その他重要な報酬の内容】

ケーピーエムジーサムジョン会計法人が2014年に当行に対して提供した非監査業務は以下のとおりである。

(単位：百万ウォン)	
項目	報酬
税務サービス	190
合計	190

③【外国監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

上記「②その他重要な報酬の内容」を参照のこと。

④【監査報酬の決定方針】

監査報酬は、監査委員会によって、監査報酬の適切性の検討後に承認される。

第6【経理の状況】

本書記載の当行の2014年および2013年12月31日に終了した事業年度に関する連結および個別財務書類は、韓国IFRSに準拠して作成された原文の財務書類の日本語訳である。当行の採用した会計処理の原則、手続および表示方法と、日本において一般に認められている会計処理の原則、手続および表示方法との間の主な相違点に関しては、下記「4 大韓民国と日本国の会計原則及び会計慣行の主な相違」に説明されている。

当該財務書類は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)第131条第1項の適用を受けている。

本書記載の2014年および2013年12月31日に終了した事業年度に関する財務書類は、韓国において当行の独立監査人であるKPMGサムジョン会計法人(ケーピーエムジーサムジョン会計法人)の監査を受けている。その監査報告書の原文および訳文が本書とともに提出されている。

当該財務書類は、「財務諸表等の監査証明に関する内閣府令」(昭和32年大蔵省令第12号)第1条の2の規定により、金融商品取引法第193条の2の規定に基づく日本国の公認会計士または監査法人による監査は受けていない。

原文の財務書類はウォンで表示されている。日本円で表示された金額は、東京の主要銀行が建値した2015年4月2日現在の対顧客電信直物売買為替相場の仲値である100ウォン=10.90円の換算レートで、ウォンから換算したものである。

上記の日本円で表示された換算金額および下記「2 主な資産・負債及び収支の内容」から「4 大韓民国と日本国の会計原則及び会計慣行の主な相違」までの記載は、当行の原文の財務書類には含まれておらず、上記の監査の対象にもなっていない。

1【財務書類】

2014年および2013年12月31日に終了した事業年度における監査済財務書類

(1) 連結財務書類

連結財務状態表

第183（当）期末 2014年12月31日現在

第182（前）期末 2013年12月31日現在

株式会社新韓銀行及びその従属企業

(単位：百万ウォン)

科目	注記	第183（当）期末		第182（前）期末	
資産					
1. 現金預け金	3,6,9,39,40	15,860,077		12,429,963	
2. 売買目的金融資産	3,7,40,42	8,316,341		7,519,765	
3. デリバティブ資産	3,8,40,42	1,309,094		1,457,994	
4. 貸付債権	3,9,16,40,42	188,325,465		174,689,344	
5. 売却可能金融資産	3,10,16,42	22,363,612		24,093,086	
6. 満期保有金融資産	3,10,16	8,012,117		7,433,620	
7. 有形資産	5,11,16	2,036,119		2,201,033	
8. 無形資産	5,12	180,267		225,845	
9. 関係企業に対する投資資産	13	211,272		222,340	
10. 投資不動産	5,14	738,614		596,954	
11. 当期法人税資産	36	7,033		5,224	
12. 繰延税金資産	36	90,575		49,335	
13. その他資産	3,9,15,40,43	8,190,271		7,107,495	
14. 売却予定資産		5,472		13,696	
資産合計			255,646,329		238,045,694
負債					
1. 当期損益認識指定金融負債	3,17	6,139		-	
2. 預金	3,18,40	189,639,872		175,020,432	
3. 売買目的金融負債	3,19	428,936		398,596	
4. デリバティブ負債	3,8,40,42	1,256,438		1,478,179	
5. 借入負債	3,20	12,802,821		10,069,339	
6. 社債	3,21	16,581,408		17,739,655	
7. 確定給付債務	22	245,975		67,438	
8. 引当負債	23,38,40	298,728		364,016	
9. 当期法人税負債	36,40	170,699		148,285	
10. 繰延税金負債	36	9,335		10,473	

11. その他負債	3,24,40,42,43	13,729,078		12,213,200	
負債合計			235,169,429		217,509,613
資本					
I. 支配企業所有持分			20,473,623		20,533,363
1. 資本金	25	7,928,078		7,928,078	
2. 新種資本証券	25	1,100,250		2,099,350	
3. 資本剰余金	25	403,164		403,164	
4. 資本調整	25	(842)		25	
5. その他包括損益累計額	25,36	237,399		296,402	
6. 利益剰余金	25,26	10,805,574		9,806,344	
（貸倒準備金積立額）		(1,718,248)		(1,718,315)	
（貸倒準備金繰入（戻入）必要額）		(25,844)		((67))	
（貸倒準備金繰入（戻入）予定額）		(25,844)		((67))	
II. 非支配持分	25		3,277		2,718
資本合計			20,476,900		20,536,081
負債及び資本合計			255,646,329		238,045,694

(単位：百万円)

科目	注記	第183（当）期末		第182（前）期末	
資産					
1. 現金預け金	3,6,9,39,40	1,728,748		1,354,866	
2. 売買目的金融資産	3,7,40,42	906,481		819,654	
3. デリバティブ資産	3,8,40,42	142,691		158,921	
4. 貸付債権	3,9,16,40,42	20,527,476		19,041,138	
5. 売却可能金融資産	3,10,16,42	2,437,634		2,626,146	
6. 満期保有金融資産	3,10,16	873,321		810,265	
7. 有形資産	5,11,16	221,937		239,913	
8. 無形資産	5,12	19,649		24,617	
9. 関係企業に対する投資資産	13	23,029		24,235	
10. 投資不動産	5,14	80,509		65,068	
11. 当期法人税資産	36	767		569	
12. 繰延税金資産	36	9,873		5,378	
13. その他資産	3,9,15,40,43	892,740		774,717	
14. 売却予定資産		595		1,494	
資産合計			27,865,450		25,946,981
負債					
1. 当期損益認識指定金融負債	3,17	669		-	
2. 預金	3,18,40	20,670,746		19,077,227	
3. 売買目的金融負債	3,19	46,754		43,447	
4. デリバティブ負債	3,8,40,42	136,952		161,122	
5. 借入負債	3,20	1,395,507		1,097,558	
6. 社債	3,21	1,807,373		1,933,622	
7. 確定給付債務	22	26,811		7,351	
8. 引当負債	23,38,40	32,561		39,678	
9. 当期法人税負債	36,40	18,606		16,163	
10. 繰延税金負債	36	1,018		1,142	
11. その他負債	3,24,40,42,43	1,496,471		1,331,238	
負債合計			25,633,468		23,708,548
資本					
I. 支配企業所有持分			2,231,625		2,238,137
1. 資本金	25	864,161		864,161	

2. 新種資本証券	25	119,927		228,829	
3. 資本剰余金	25	43,945		43,945	
4. 資本調整	25	(92)		3	
5. その他包括損益累計額	25,36	25,876		32,308	
6. 利益剰余金	25,26	1,177,808		1,068,891	
（貸倒準備金積立額）		(187,289)		(187,296)	
（貸倒準備金繰入（戻入）必要額）		(2,817)		((7))	
（貸倒準備金繰入（戻入）予定額）		(2,817)		((7))	
Ⅱ. 非支配持分	25		357		296
資本合計			2,231,982		2,238,433
負債及び資本合計			27,865,450		25,946,981

“ 添付の注記は本連結財務諸表の一部である ”

連結包括損益計算書

第183（当）期 自2014年1月1日 至2014年12月31日

第182（前）期 自2013年1月1日 至2013年12月31日

株式会社新韓銀行及びその従属企業

（単位：百万ウォン）

科目	注記	第183（当）期		第182（前）期	
I. 営業利益			1,797,396		1,719,972
(1) 純利息損益	3,5,27,40,42		4,367,133		4,350,548
1. 受取利息		8,513,316		9,087,373	
2. 支払利息		4,146,183		4,736,825	
(2) 純手数料損益	3,5,28,40,42		802,943		748,900
1. 受取手数料		971,484		945,103	
2. 支払手数料		168,541		196,203	
(3) 受取配当	29,42		93,478		65,642
(4) 売買目的金融商品関連損益	30		(39,804)		(43,242)
(5) 外国為替取引損益			252,759		255,444
(6) 当期損益認識指定金融商品関連損益	17		34		-
(7) 売却可能金融資産処分損益	10		427,992		485,833
(8) 金融商品資産減損損失	3,9,31,40		684,010		877,328
1. 貸倒償却費		463,724		673,744	
2. その他金融商品減損損失		220,286		203,584	
(9) 一般管理費	32,40		2,918,011		2,692,882
(10) その他営業損益	5,34,40		(505,118)		(572,943)
II. 営業外損益	5,35		26,592		(14,407)
III. 関係企業利益に対する持分	5,13		11,808		22,448
IV. 税引前継続事業利益	5		1,835,796		1,728,013
V. 法人税費用	5,36		380,143		354,837
VI. 当期純利益 （貸倒準備金反映後の調整利益 当期： 1,429,809百万ウォン 前期： 1,373,243百万ウォン）	5,26		1,455,653		1,373,176
VII. 当期その他包括損益	3,25,36		(58,873)		(358,270)
(1) 後続的に当期損益として再分類される項目			73,034		(371,467)
1. 海外事業損益		4,926		(62,354)	
2. 売却可能金融資産評価損益		63,811		(304,687)	
3. 関係企業のその他包括損益に対する持分		4,297		(4,426)	

(2) 後続的に当期損益として再分類されない項目			(131,907)		13,197
1.確定給付型制度の再測定要素		(131,907)		13,197	
VIII.当期総包括利益			1,396,780		1,014,906
(1) 当期純利益の帰属	5		1,455,653		1,373,176
1.支配企業所有持分		1,455,224		1,373,017	
2.非支配持分		429		159	
(2) 当期総包括利益の帰属			1,396,780		1,014,906
1.支払企業所有持分		1,396,221		1,014,816	
2.非支配持分		559		90	
IX.1株当たり利益	37				
(1) 基本的1株当たり純利益			857ウォン		782ウォン
(2) 希薄化後1株当たり純利益			857ウォン		782ウォン

(単位：百万円)

科目	注記	第183（当）期		第182（前）期	
I. 営業利益			195,916		187,477
(1) 純利息損益	3,5,27,40,42		476,017		474,210
1. 受取利息		927,951		990,524	
2. 支払利息		451,934		516,314	
(2) 純手数料損益	3,5,28,40,42		87,521		81,630
1. 受取手数料		105,892		103,016	
2. 支払手数料		18,371		21,386	
(3) 受取配当	29,42		10,189		7,155
(4) 売買目的金融商品関連損益	30		(4,339)		(4,713)
(5) 外国為替取引損益			27,551		27,843
(6) 当期損益認識指定金融商品関連損益	17		4		0
(7) 売却可能金融資産処分損益	10		46,651		52,956
(8) 金融商品資産減損損失	3,9,31,40		74,557		95,629
1. 貸倒償却費		50,546		73,438	
2. その他金融商品減損損失		24,011		22,191	
(9) 一般管理費	32,40		318,063		293,524
(10) その他営業損益	5,34,40		(55,058)		(62,451)
II. 営業外損益	5,35		2,899		(1,571)
III. 関係企業利益に対する持分	5,13		1,287		2,447
IV. 税引前継続事業利益	5		200,102		188,353
V. 法人税費用	5,36		41,436		38,677
VI. 当期純利益 (貸倒準備金反映後の調整利益 当期： 155,849百万円 前期： 149,683百万円)	5,26		158,666		149,676
VII. 当期その他包括損益	3,25,36		(6,417)		(39,051)
(1) 後続的に当期損益として再分類される項目			7,961		(40,490)
1. 海外事業損益		538		(6,797)	
2. 売却可能金融資産評価損益		6,955		(33,211)	
3. 関係企業のその他包括損益に対する持分		468		(482)	
(2) 後続的に当期損益として再分類されない項目			(14,378)		1,438
1. 確定給付型制度の再測定要素		(14,378)		1,438	

VIII. 当期総包括利益			152,249		110,625
(1) 当期純利益の帰属	5		158,666		149,676
1. 支配企業所有持分		158,619		149,659	
2. 非支配持分		47		17	
(2) 当期総包括利益の帰属			152,249		110,625
1. 支払企業所有持分		152,188		110,615	
2. 非支配持分		61		10	
IX. 1株当たり利益	37				
(1) 基本的1株当たり純利益			93円		85円
(2) 希薄化後1株当たり純利益			93円		85円

“ 添付の注記は本連結財務諸表の一部である ”

連結資本変動表

第183（当）期 自2014年1月1日 至2014年12月31日

第182（前）期 自2013年1月1日 至2013年12月31日

株式会社新韓銀行及びその従属企業

（単位：百万ウォン）

科目	資本金	新種 資本証券	資本剰余金	資本調整	その他包括 損益累計額	利益剰余金	非支配持分	合計
I.2013年1月1日（前期首）	7,928,078	2,329,760	403,164	2,011	654,603	9,016,617	2,628	20,336,861
総包括損益：	-	-	-	-	(358,201)	1,373,017	90	1,014,906
（1）当期純利益	-	-	-	-	-	1,373,017	159	1,373,176
（2）その他包括損益	-	-	-	-	(358,201)	-	(69)	(358,270)
1.海外事業損益	-	-	-	-	(62,285)	-	(69)	(62,354)
2.売却可能金融資産評価損益	-	-	-	-	(304,687)	-	-	(304,687)
3.関係企業のその他包括損益に対する 持分	-	-	-	-	(4,426)	-	-	(4,426)
4.確定給付型制度の再測定要素	-	-	-	-	13,197	-	-	13,197
所有者との取引等：	-	(230,410)	-	(1,986)	-	(583,290)	-	(815,686)
（1）年次配当	-	-	-	-	-	(450,000)	-	(450,000)
（2）新種資本証券の配当	-	-	-	-	-	(133,290)	-	(133,290)
（3）新種資本証券の発行	-	299,568	-	-	-	-	-	299,568
（4）新種資本証券の償還	-	(529,978)	-	-	-	-	-	(529,978)
（5）株式報酬費用	-	-	-	(1,986)	-	-	-	(1,986)
II.2013年12月31日（前期末）	7,928,078	2,099,350	403,164	25	296,402	9,806,344	2,718	20,536,081
III.2014年1月1日（当期首）	7,928,078	2,099,350	403,164	25	296,402	9,806,344	2,718	20,536,081
総包括損益：	-	-	-	-	(59,003)	1,455,224	559	1,396,780
（1）当期純利益	-	-	-	-	-	1,455,224	429	1,455,653
（2）その他包括損益	-	-	-	-	(59,003)	-	130	(58,873)
1.海外事業損益	-	-	-	-	4,796	-	130	4,926
2.売却可能金融資産評価損益	-	-	-	-	63,811	-	-	63,811
3.関係企業のその他包括損益に対する 持分	-	-	-	-	4,297	-	-	4,297
4.確定給付型制度の再測定要素	-	-	-	-	(131,907)	-	-	(131,907)
所有者との取引等：	-	(999,100)	-	(867)	-	(455,994)	-	(1,455,961)
（1）年次配当	-	-	-	-	-	(360,000)	-	(360,000)
（2）新種資本証券の配当	-	-	-	-	-	(96,293)	-	(96,293)
（3）新種資本証券の償還	-	(999,100)	-	(900)	-	-	-	(1,000,000)

(4) 株式報酬費用	-	-	-	33	-	-	-	33
(5) その他	-	-	-	-	-	299	-	299
IV.2014年12月31日（当期末）	7,928,078	1,100,250	403,164	(842)	237,399	10,805,574	3,277	20,476,900

(単位：百万円)

科目	資本金	新種 資本証券	資本剰余金	資本調整	その他包括 損益累計額	利益剰余金	非支配持分	合計
I.2013年1月1日（前期首）	864,161	253,944	43,945	219	71,352	982,811	286	2,216,718
総包括損益：	-	-	-	-	(39,044)	149,659	10	110,625
(1) 当期純利益	-	-	-	-	-	149,659	17	149,676
(2) その他包括損益	-	-	-	-	(39,044)	-	(7)	(39,051)
1.海外事業損益	-	-	-	-	(6,789)	-	(7)	(6,796)
2.売却可能金融資産評価損益	-	-	-	-	(33,211)	-	-	(33,211)
3.関係企業のその他包括損益に対する 持分	-	-	-	-	(482)	-	-	(482)
4.確定給付型制度の再測定要素	-	-	-	-	1,438	-	-	1,438
所有者との取引等：	-	(25,115)	-	(216)	-	(63,579)	-	(88,910)
(1) 年次配当	-	-	-	-	-	(49,050)	-	(49,050)
(2) 新種資本証券の配当	-	-	-	-	-	(14,529)	-	(14,529)
(3) 新種資本証券の発行	-	32,653	-	-	-	-	-	32,653
(4) 新種資本証券の償還	-	(57,768)	-	-	-	-	-	(57,768)
(5) 株式報酬費用	-	-	-	(216)	-	-	-	(216)
II.2013年12月31日（前期末）	864,161	228,829	43,945	3	32,308	1,068,891	296	2,238,433
III.2014年1月1日（当期首）	864,161	228,829	43,945	3	32,308	1,068,891	296	2,238,433
総包括損益：	-	-	-	-	(6,432)	158,619	61	152,248
(1) 当期純利益	-	-	-	-	-	158,619	47	158,666
(2) その他包括損益	-	-	-	-	(6,432)	-	14	(6,418)
1.海外事業損益	-	-	-	-	523	-	14	537
2.売却可能金融資産評価損益	-	-	-	-	6,955	-	-	6,955
3.関係企業のその他包括損益に対する 持分	-	-	-	-	468	-	-	468
4.確定給付型制度の再測定要素	-	-	-	-	(14,378)	-	-	(14,378)
所有者との取引等：	-	(108,902)	-	(95)	-	(49,702)	-	(158,699)
(1) 年次配当	-	-	-	-	-	(39,240)	-	(39,240)
(2) 新種資本証券の配当	-	-	-	-	-	(10,495)	-	(10,495)
(3) 新種資本証券の償還	-	(108,902)	-	(99)	-	-	-	(109,001)
(4) 株式報酬費用	-	-	-	4	-	-	-	4
(5) その他	-	-	-	-	-	33	-	33

IV.2014年12月31日（当期末）	864,161	119,927	43,945	(92)	25,876	1,177,808	357	2,231,982

“ 添付の注記は本連結財務諸表の一部である ”

連結キャッシュ・フロー計算書

第183（当）期 自2014年1月1日 至2014年12月31日

第182（前）期 自2013年1月1日 至2013年12月31日

株式会社新韓銀行及びその従属企業

（単位：百万ウォン）

科目	第183（当）期		第182（前）期	
I.営業活動によるキャッシュ・フロー		(1,785,704)		(2,974,990)
(1) 税引前継続事業利益	1,835,796		1,728,013	
(2) 損益調整項目	(4,460,611)		(4,416,190)	
1.受取利息	(8,513,316)		(9,087,373)	
2.支払利息	4,146,183		4,736,825	
3.受取配当	(93,478)		(65,642)	
(3) 現金の流出入のない損益項目	605,860		703,343	
1.当期損益認識指定金融商品関連損益	(34)		-	
2.売買目的金融商品関連損益	151,398		134,239	
3.外国為替取引損益	(81,300)		(154,469)	
4.売却可能金融資産処分損益	(427,992)		(485,833)	
5.貸倒償却費	463,724		673,744	
6.その他金融商品減損損失	220,286		203,584	
7.従業員給与	109,749		26,533	
8.減価償却費及びその他償却費	202,950		203,587	
9.その他営業損益	(31,542)		115,889	
10.関係企業利益に対する持分	(11,808)		(22,448)	
11.営業外損益	10,429		8,517	
(4) 資産・負債の増減	(3,943,818)		(5,212,587)	
1.預け金	(3,938,012)		(2,799,900)	
2.売買目的金融資産	(789,460)		385,659	
3.デリバティブ資産	1,307,983		1,240,303	
4.貸付債権	(14,294,992)		(6,779,357)	
5.その他資産	(1,102,280)		509,146	
6.当期損益認識指定金融負債	6,171		-	
7.預金	14,691,990		6,410,251	
8.売買目的金融負債	13,303		73,883	
9.デリバティブ負債	(1,363,576)		(1,347,950)	

10.確定給付債務	(97,292)		(93,894)	
11.引当負債	(68,123)		(25,758)	
12.その他負債	1,690,470		(2,784,970)	
(5) 法人税の納付	(384,490)		(384,841)	
(6) 利息の受取	8,583,274		9,180,011	
(7) 利息の支払	(4,151,427)		(4,640,230)	
(8) 配当金の受取	129,712		67,491	
II.投資活動によるキャッシュ・フロー		1,299,514		5,651,164
1.売却可能金融資産の減少	21,812,915		22,893,258	
2.売却可能金融資産の取得	(19,883,814)		(18,717,848)	
3.満期保有金融資産の減少	2,478,775		2,212,075	
4.満期保有金融資産の取得	(3,046,469)		(469,268)	
5.有形資産の処分	17,843		11,205	
6.有形資産の取得	(128,279)		(195,939)	
7.無形資産の処分	3,253		2,131	
8.無形資産の取得	(18,078)		(78,471)	
9.関係企業に対する投資資産の処分	-		93	
10.関係企業に対する投資資産の取得	-		(9,022)	
11.投資不動産の処分	-		1,685	
12.売却予定資産の処分	3,243		2,185	
13.その他資産の減少	433,103		161,164	
14.その他資産の増加	(372,978)		(162,084)	
III.財務活動によるキャッシュ・フロー		28,926		(1,893,538)
1.借入負債の増加	21,940,317		16,022,419	
2.借入負債の減少	(19,232,423)		(16,659,772)	
3.社債の発行	4,789,496		5,305,202	
4.社債の償還	(5,989,635)		(5,743,766)	
5.配当金の支払	(459,901)		(582,876)	
6.新種資本証券の発行	-		299,568	
7.新種資本証券の償還	(1,000,000)		(529,978)	
8.その他負債の増加	10,045		12,942	
9.その他負債の減少	(28,973)		(17,277)	
IV.外貨表示現金及び現金性資産に 対する為替レート変動効果		2,107		1,795

V.現金及び現金性資産の増加(減少)		(455,157)		784,431
VI.現金及び現金性資産の期首残高（注39）		4,991,361		4,206,930
VII.現金及び現金性資産の期末残高（注39）		4,536,204		4,991,361

(単位：百万円)

科目	第183（当）期		第182（前）期	
I.営業活動によるキャッシュ・フロー		(194,642)		(324,274)
(1) 税引前継続事業利益	200,102		188,353	
(2) 損益調整項目	(486,206)		(481,365)	
1.受取利息	(927,951)		(990,524)	
2.支払利息	451,934		516,314	
3.受取配当	(10,189)		(7,155)	
(3) 現金の流入のない損益項目	66,039		76,664	
1.当期損益認識指定金融商品関連損益	(4)		-	
2.売買目的金融商品関連損益	16,502		14,632	
3.外国為替取引損益	(8,862)		(16,837)	
4.売却可能金融資産処分損益	(46,651)		(52,956)	
5.貸倒償却費	50,546		73,438	
6.その他金融商品減損損失	24,011		22,191	
7.従業員給与	11,963		2,892	
8.減価償却費及びその他償却費	22,122		22,191	
9.その他営業損益	(3,438)		12,632	
10.関係企業利益に対する持分	(1,287)		(2,447)	
11.営業外損益	1,137		928	
(4) 資産・負債の増減	(429,876)		(568,172)	
1.預け金	(429,243)		(305,189)	
2.売買目的金融資産	(86,051)		42,037	
3.デリバティブ資産	142,570		135,193	
4.貸付債権	(1,558,154)		(738,950)	
5.その他資産	(120,149)		55,497	
6.当期損益認識指定金融負債	673		-	
7.預金	1,601,427		698,717	
8.売買目的金融負債	1,450		8,053	
9.デリバティブ負債	(148,630)		(146,927)	
10.確定給付債務	(10,605)		(10,234)	
11.引当負債	(7,425)		(2,808)	

12.その他負債	184,261		(303,561)	
(5) 法人税の納付	(41,909)		(41,948)	
(6) 利息の受取	935,577		1,000,621	
(7) 利息の支払	(452,506)		(505,785)	
(8) 配当金の受取	14,137		7,358	
II.投資活動によるキャッシュ・フロー		141,647		615,977
1.売却可能金融資産の減少	2,377,608		2,495,365	
2.売却可能金融資産の取得	(2,167,336)		(2,040,245)	
3.満期保有金融資産の減少	270,186		241,116	
4.満期保有金融資産の取得	(332,065)		(51,150)	
5.有形資産の処分	1,945		1,221	
6.有形資産の取得	(13,982)		(21,357)	
7.無形資産の処分	355		232	
8.無形資産の取得	(1,971)		(8,553)	
9.関係企業に対する投資資産の処分	-		10	
10.関係企業に対する投資資産の取得	-		(983)	
11.投資不動産の処分	-		184	
12.売却予定資産の処分	353		238	
13.その他資産の減少	47,208		17,567	
14.その他資産の増加	(40,654)		(17,668)	
III.財務活動によるキャッシュ・フロー		3,153		(206,396)
1.借入負債の増加	2,391,495		1,746,444	
2.借入負債の減少	(2,096,334)		(1,815,915)	
3.社債の発行	522,055		578,267	
4.社債の償還	(652,870)		(626,070)	
5.配当金の支払	(50,129)		(63,533)	
6.新種資本証券の発行	-		32,653	
7.新種資本証券の償還	(109,000)		(57,768)	
8.その他負債の増加	1,095		1,411	
9.その他負債の減少	(3,159)		(1,885)	
IV.外貨表示現金及び現金性資産に 対する為替レート変動効果		230		196
V.現金及び現金性資産の増加(減少)		(49,612)		85,503
VI.現金及び現金性資産の期首残高(注39)		544,058		458,555

VII.現金及び現金性資産の期末残高（注39）		494,446		544,058

“ 添付の注記は本連結財務諸表の一部である ”

注記

=====

2014年12月31日現在
2013年12月31日現在

株式会社新韓銀行及びその従属企業

1. 連結対象会社の概要

(1) 支配企業の概要

支配企業である株式会社新韓銀行（以下、“当行”）はソウル特別市中区世宗大路9道20（訳注：ソウル特別市中区太平路2街120と同じ。）に本店を有しています。2014年12月31日をもって終了する報告期間に対する連結財務諸表は当行及び当行の従属企業（以下、総称して“連結実体”）、連結実体の関係企業及び共同支配企業に対する持分で構成されています。

当行は金融業を主な目的として1897年2月19日に設立された漢城銀行と1906年8月8日に設立された東一銀行の新設合併（1943年10月1日、銀行名：株式会社朝興銀行）により設立されました。

当行は1999年に忠北銀行及び江原銀行を吸収合併し、2006年4月1日には旧新韓銀行を吸収合併して銀行の社名を株式会社新韓銀行に変更しました。当期末現在における当行の資本金は7,928,078百万ウォン、発行株式数は1,585,615,506株であり、当行の株式は新韓金融持株会社が100%保有しています。当期末現在、当行は国内支店797ヶ所、国内出張所103ヶ所、営業所24ヶ所、海外支店8ヶ所を運営しています。

(2) 連結対象従属企業（構造化企業を除く）

当期末及び前期末現在、構造化企業（Structured Entity）を除いた連結対象従属企業は以下の通りです。

従属企業名	所在地	決算月	業種	第183（当）期		第182（前）期	
				株式数	持分率	株式数	持分率
新韓アジュ金融有限公司	香港	12月	卸売金融	999,999	99.99%	999,999	99.99%
アメリカ新韓銀行	アメリカ	12月	銀行業	3,514,283	100.00%	3,514,283	100.00%
ヨーロッパ新韓銀行	ドイツ	12月	銀行業	有限会社	100.00%	有限会社	100.00%
新韓クメール銀行	カンボジア	12月	銀行業	18,000,000	90.00%	18,000,000	90.00%
新韓カザフスタン銀行	カザフスタン	12月	銀行業	1,002,872	100.00%	1,002,872	100.00%
カナダ新韓銀行	カナダ	12月	銀行業	50	100.00%	50	100.00%
新韓銀行中国有限公司	中国	12月	銀行業	有限会社	100.00%	有限会社	100.00%
SBJ銀行	日本	3月	銀行業	30,000百万	100.00%	30,000百万	100.00%
新韓バンク・ベトナム	ベトナム	12月	銀行業	有限会社	100.00%	有限会社	100.00%

1) 新韓アジュ金融有限公司（Shinhan Asia Ltd.）

総合金融業務を営業している香港現地法人で、当期末現在における資本金は100,000千米ドルです。

2) アメリカ新韓銀行（Shinhan Bank America）

ニューヨーク朝興銀行（Chohung Bank of New York）とカルフォニア朝興銀行（California Chohung Bank）の新設合併により設立されて金融サービス提供業務を営業しており、当期末現在における資本金は123,000千米ドルです。

3) ヨーロッパ新韓銀行（Shinhan Bank Europe GmbH）

銀行業営業等を目的として1994年に設立され、当期末現在における資本金は23,000千ユーロです。

4) 新韓クメール銀行（Shinhan Khmer Bank）

銀行業営業等を目的として2007年10月15日に設立され、当期末現在における資本金は20,000千米ドルです。

5) 新韓カザフスタン銀行 (Shinhan Kazakhstan Bank)

銀行業営業等を目的として2008年12月16日に設立され、当期末現在における資本金は10,029百万テンゲです。

6) カナダ新韓銀行 (Canada Shinhan Bank)

銀行業営業等を目的として2009年3月9日に設立され、当期末現在における資本金は50,000千カナダドルです。

7) 新韓銀行中国有限公司 (Shinhan Bank China Limited)

銀行業営業等を目的として2008年5月12日、当行の現地支店から転換されたもので、当期末現在における資本金は2,000百万人民元です。

8) SBJ銀行 (Shinhan Bank Japan)

銀行業営業等を目的として2009年9月14日、現地支店からの転換により設立され、当期末現在における資本金は15,000百万円です。

9) 新韓バンク・ベトナム (Shinhan Bank Vietnam)

銀行業営業等を目的として2009年11月16日、現地支店からの転換により設立され、2011年11月28日に新韓ビナ銀行を吸収合併しました。当期末現在における資本金は4,547,100百万ベトナムドンです。

(3) 連結対象構造化企業

当期末現在における連結対象の構造化企業は以下の通りです。

企業	所在地	決算月	業種
SH2007NPL投資 (有)	大韓民国	12月	その他金融支援サービス業
シンファチャイナインベストメント (有)	大韓民国	12月	その他金融支援サービス業
MPC栗村グリーン第一次	大韓民国	12月	金融業
ARプラス第二次	大韓民国	12月	資産流動化
MPC栗村2号機	大韓民国	9月	その他金融支援サービス業
ステイ第二次	大韓民国	3月	その他金融支援サービス業
エスドリーム第五次	大韓民国	12月	その他金融業
エイタスドライブ第一次	大韓民国	12月	その他金融業
ARプラス第三次	大韓民国	9月	その他金融業
MPC栗村1号機	大韓民国	12月	その他金融業
エスヌリ第一次	大韓民国	12月	その他金融業
エスヌリ第四次	大韓民国	2月	その他金融業
エスヌリ第九次	大韓民国	12月	その他金融業

ARプラス	大韓民国	10月	その他金融業
開発信託	大韓民国	12月	信託
不特定金銭信託	大韓民国	12月	信託
老後年金信託	大韓民国	12月	信託
新個人年金信託	大韓民国	12月	信託
個人年金信託	大韓民国	12月	信託
退職信託	大韓民国	12月	信託
新老後年金信託	大韓民国	12月	信託
年金信託	大韓民国	12月	信託
家計金銭信託	大韓民国	12月	信託
積立式目的信託	大韓民国	12月	信託
企業金銭信託	大韓民国	12月	信託
China Opportunity私募特別資産投資信託3号	大韓民国	12月	受益証券
新韓BNPP法人用私募証券投資信託第25号	大韓民国	1月	受益証券
新韓BNPP法人用私募証券投資信託第18号	大韓民国	1月	受益証券
LSベストパートナー私募投資信託	大韓民国	5月	受益証券
興国ムジゲ私募証券投資信託T-41号	大韓民国	8月	受益証券
東部ダガチ私募証券投資信託第9号	大韓民国	9月	受益証券
現代heritage私募証券投資信託SH-3号	大韓民国	9月	受益証券
三星パートナー私募証券投資信託第6号	大韓民国	9月	受益証券

連結実体は構造化企業の設立約定条件を考慮し、構造化企業の営業による変動利益にさらされており、このような変動利益に最も重要な影響を及ぼす可能性のある構造化企業の活動を指示できる能力を保有している場合、当該構造化企業を連結対象に含めています。構造化企業に対する所有持分は連結実体の負債として表示されるため、構造化企業に対する非支配持分はありません。

連結実体は上記で説明している構造化企業に対し、信用補強の目的で665,724百万ウォンのABCP買入約定を提供しています。

(4) 従属企業の変動状況

当期に新規で連結財務諸表に含まれた従属企業及び当期中に連結財務諸表の作成対象から除外された従属企業の状況は以下の通りです。

1) 当期中に新規で連結に含まれた従属企業及び構造化企業

従属企業名	事由
エスヌリ第四次	ABCP買入約定及び資産管理等
エスヌリ第九次	ABCP買入約定及び資産管理等
ARプラス	ABCP買入約定及び資産管理等
LSベストパートナー私募投資信託	100%持分保有受益証券
興国ムジゲ私募証券投資信託T-41号	100%持分保有受益証券
東部ダガチ私募証券投資信託第9号	100%持分保有受益証券
現代heritage私募証券投資信託SH-3号	100%持分保有受益証券
三星パートナー私募証券投資信託第6号	100%持分保有受益証券

2) 当期中に連結から除外された従属企業及び構造化企業

従属企業名	事由
アイクローバーL1	ABCP買入契約終了
エスドリーム第七次	ABCP買入契約終了
興国ムジゲ私募証券投資信託T-19号	当期中に受益証券を処分
東部ダガチ私募証券投資信託第5号	当期中に受益証券を処分
韓国投資私募ベーシック投資信託第4号	当期中に受益証券を処分
三星パートナー私募証券投資信託第2号	当期中に受益証券を処分
新韓モーゲージ第二次流動化専門（有）	支配力喪失

2. 重要な会計方針

連結実体が適用している重要な会計方針は以下の通りです。

(1) 財務諸表の作成基準

連結実体は株式会社の外部監査に関する法律第13条第1項第1号で規定している国際会計基準審議会の国際会計基準を採択して定めた会計処理基準である韓国採択国際会計基準に基づいて財務諸表を作成しました。

当期及び比較表示された前期の財務諸表は以下に記述される会計方針に従って作成しました。

(2) 測定基準

連結財務諸表は以下に挙げる財務状態表の主要項目を除いては、取得原価を基準に作成されています。

- 公正価値で測定されるデリバティブ
- 公正価値で測定される当期損益認識金融商品
- 公正価値で測定される売却可能金融商品
- 公正価値で測定される株式基準報酬
- 公正価値リスクヘッジ会計のリスクヘッジ対象項目に指定され、ヘッジ対象リスクによる公正価値の変動を当期損益として認識する金融資産及び金融負債
- 確定給付債務の現在価値から社外積立資産の公正価値を減算した確定給付債務

(3) 機能通貨及び表示通貨

連結実体は各企業実体の財務諸表に含まれる項目を各企業実体の営業活動が行われる主な経済環境の通貨（機能通貨）で表示しています。連結財務諸表の作成のために個別企業の経営成績と財務状態は当行の機能通貨であり連結財務諸表の作成のための表示通貨であるウォン貨で表示しています。機能通貨が銀行の表示通貨（ウォン貨）と異なる従属企業は以下の通りです。

機能通貨	従属企業
米ドル (USD)	新韓アジュ金融有限公司
	アメリカ新韓銀行
	新韓クメール銀行
ユーロ (EUR)	ヨーロッパ新韓銀行
カザフスタンテンゲ (KZT)	新韓カザフスタン銀行
カナダドル (CAD)	カナダ新韓銀行
人民元 (CNY)	新韓銀行中国有限公司
日本円 (JPY)	SBJ銀行
ベトナムドン (VND)	新韓バンク・ベトナム

(4) 見積と判断

韓国採択国際会計基準では財務諸表を作成するに当たって会計方針の適用や、報告期間末現在の資産、負債及び収益、費用の報告金額に影響を及ぼす事項に対し、経営陣の最善の判断に基づいた見積値及び仮定の使用を要求しています。

報告期間末現在における経営陣の最善の判断に基づいた見積値及び仮定が実際の環境とは異なる場合、実際の結果はこのような見積値とは異なることがあります。

見積値と見積に対する基本仮定は継続的に検討されており、会計見積の変更は見積が変更された期間と将来に影響を受ける期間にわたって認識されています。より複雑な判断が必要な部分または仮定と見積が連結財務諸表に重要な部分は注記4に開示されています。

(5) 会計方針の変更

以下で説明している2014年1月1日から初めて適用される制定・改正基準書の適用を除いて、連結実体は当期及び比較表示された前期の財務諸表に同一な会計方針を適用しています。

1) 企業会計基準書第1032号“金融商品：表示”改正

2014年1月1日以降に開始する会計年度から、連結実体は企業会計基準書第1032号“金融商品：表示”の改正事項を適用しています。同基準書は連結実体が認識した資産及び負債に対して法的に執行可能な相殺権利を現在保有しており、純額で決済するか、資産を実現すると同時に負債を決済する意図を持っている場合にのみ金融資産と金融負債を相殺して、財務状態表に純額で表示するように要求しています。同改正事項の適用により、当期財務諸表に及ぼす影響は重要ではありません。

2) 企業会計基準解釈書第2121号“負担金”制定

2014年1月1日以降に開始する会計年度から、連結実体は企業会計基準解釈書第2121号“負担金”の制定事項を適用しています。同基準書は負担金負債を認識するようにする義務発生事象を法規に明示された負担金納付を発生させる活動として定義しました。義務発生事象が一定期間にわたって発生すれば負担金負債を漸進的に認識し、最低限の閾値に達するものが義務発生事象である場合、対応する負債はそのような最低限の閾値に達した時に認識します。一方、負担金を前払いしたか、或いはその負担金を納付しなければならない現在義務がなければ資産を認識します。同解釈書の適用により当期連結財務諸表に及ぼす影響は重要ではありません。

(6) 財務諸表の発行承認日

当行の財務諸表は2015年2月3日の取締役会で承認されました。

(7) 連結

1) 従属企業

従属企業は連結実体により支配されている企業です。連結実体は被投資企業に対する関与により変動利益にさらされるか、或いは変動利益に対する権利があり、被投資企業に対して自身の力でそのような利益に影響を及ぼす能力がある時に被投資企業を支配します。従属企業の財務諸表は支配企業が従属企業に対する支配力を獲得する日から支配力を喪失する時点まで連結財務諸表に含まれます。

連結実体は多数の構造化企業を設立するか、投資しています。このような企業に対して直接・間接的に株式を保有していません。構造化企業が設立された約定条件を考慮すると、連結実体は構造化企業の営業による損益を実質的に全部得ることになり、このような損益に最も重要に影響を及ぼす可能性のある連結構造化企業の活動を指示する能力を保有していると判断される場合に連結対象に含めています。構造化企業に対する所有持分は連結実体の負債として表示されるため、構造化企業に対する非支配持分はありません。

2) 内部取引除去

連結実体内の取引、これに関連する残高、収益及び費用、未実現損益は連結財務諸表の作成時に全て除去しています。内部取引で発生した未実現損失に連結財務諸表で認識すべき資産減損の兆候がある場合は、当期損失として認識しています。

3) 非支配持分

従属企業の持分のうち支配企業に帰属しない非支配持分は、支配企業の所有者持分とは区分して表示しています。当期純利益及びその他包括損益の各構成要素は、支配企業の所有者及び非支配持分に帰属され、非支配持分が負（－）の残高となるとしても、総包括損益は支配企業の所有者及び非支配持分に帰属させています。

(8) 企業結合

1) 企業結合

企業結合は同一支配下の企業実体、事業に対する結合を除き、取得法を適用して会計処理しました。連結実体は、識別可能な取得資産、引受負債は以下の例外事項を除き、取得日の公正価値で測定して認識しています。

- リース契約：約定日の契約上条件及びその他要素に基づいて分類
- 偶発債務：現在、義務があり、信頼性をもって測定できる偶発債務を認識
- 繰延税金資産及び負債：企業会計基準書第1012号“法人税”により認識及び測定
- 従業員給与：企業会計基準書第1019号“従業員給与”により認識及び測定
- 補償資産：補償対象項目と一貫性のある基準により認識及び測定
- 再取得した権利：特別規定により測定
- 株式基準報酬：株式基準報酬に関連する負債または持分商品を企業会計基準書第1102号“株式基準報酬”により測定
- 売却予定資産：企業会計基準書第1105号“売却予定非流動資産及び中断事業”により純公正価値で測定

また、連結実体は取得日現在、被取得者に対する非支配持分を被取得者の識別可能な純資産のうち非支配持分の比例的持分で測定しています。

企業結合で移転対価は公正価値で測定し、同公正価値は連結実体が移転する資産、連結実体が被取得者の以前の所有者に対して負担する負債及び連結実体が発行した持分の取得日の公正価値の合計で算定します。但し、企業結合の移転対価に含まれた被取得者の従業員が保有している報酬と交換して取得者が付与した株式基準報酬は公正価値で測定せず、上記の方法で測定します。

なお、連結実体が企業結合の効果をあげるために発生させた取得に関連する費用には仲介手数料、即ち、助言、法律、会計、価値評価及びその他専門家またはコンサルティング手数料、内部の取得部署の維持のための費用を含めた一般管理費用、債務証券、持分証券を登録、発行する費用を含めます。このような取得に関連する費用は企業会計基準書第1032号、企業会計基準書第1039号により認識する債務証券、持分証券の発行費用を除外し、費用が発生し、役務の提供を受けた期間に費用として会計処理しています。

2) のれん

連結実体は取得日現在、移転対価、被取得者に対する非支配持分及び段階的企業結合の場合、連結実体が保有している被取得者に対する持分取得日の公正価値合計が取得する従属企業の識別可能な純資産を超過する金額をのれんとして認識しています。しかし、取得した識別可能な純資産が移転対価、被取得者に対する非支配持分及び段階的に行われる企業結合の場合、連結実体が保有していた被取得者に対する持分取得日の公正価値の合計を超過する場合、測定を再検討し、再検討後にも継続して残る超過分は直ちに当期損益として認識します。

非支配持分の追加取得は株主間取引として会計処理し、その結果、関連するのれん等は認識していません。

連結実体は2010年1月1日以降に発生した企業結合に対してのみ韓国採択国際会計基準を遡及適用して再表示しました。従って、2010年1月1日以前の企業結合に関連するのれんは連結実体の過去の会計基準により認識された金額で表示しました。

(9) 関係企業及び共同企業

関係企業は連結実体が財務政策及び営業政策に関する意思決定に参加できる重要な影響力を有する会社で、一般的に連結実体が被投資企業の議決権の20～50%を所有している場合、或いは15%を超過して銀行法上の子会社に分類される場合には重要な影響力があると判断しています。

共同企業は約定の共同支配力を保有する当事者がその約定の純資産に対する権利を保有する共同約定をいい、共同支配力は約定の支配力に対する契約上で合意された共有として、関連活動に対する決定に支配力を共有する当事者全体の同意が要求される時にのみ存在します。

関係企業及び共同企業の投資持分は当初に取得原価として認識し、取得後には持分法を使用して会計処理しています。即ち、取得日以降に発生した被投資者の当期純損益及び資本変動分のうち連結実体の持分に該当する

金額を帳簿価額に加減し、被投資者から受け取った分配額は投資持分の帳簿価額から減算しています。連結実体と関係企業間の内部取引で発生した未実現利益は連結実体持分だけ除去しています。未実現損失もまた取引が移転された資産に対する減損の証拠を提供しない限り除去しています。

関係企業または共同企業が類似する状況で発生した同一の取引及び事象に対して他の会計方針を使用した場合は、関係企業及び共同企業の財務諸表を適切に調整しています。

投資持分の帳簿価額がゼロ（0）に減少した後、追加損失分に対して法的義務またはみなし義務があるか、或いは被投資者に代わり支払うべき場合を除いては、損失を認識していません。

（10） 営業セグメント

連結実体はセグメントに配分される資源に対して意思決定し、セグメントの成果を評価するために最高営業意思決定者が定期的に検討する内部報告資料に基づいてセグメントを区分しています。最高営業意思決定者に報告されるセグメント情報はセグメントに直接帰属される項目と合理的に配分できる項目を含めます。配分されない項目は主に本社建物のような共通資産、本社関連費用及び法人税資産、負債です。連結実体は銀行長を最高営業意思決定者としています。

（11） 外貨換算

1) 外貨取引

個別企業の財務諸表の作成に当り、その企業の機能通貨以外の通貨（外貨）で行われた取引は取引日の為替レートを適用して記録しています。報告期間末毎に貨幣性外貨項目は報告期間末の為替レートの終値で換算しています。公正価値で測定する非貨幣性外貨項目は公正価値が決定された日の為替レートで換算し、歴史的原価で測定する非貨幣性項目は取引日の為替レートで換算しています。

海外事業損益とキャッシュ・フローリスクヘッジ及び純投資のリスクヘッジ手段として指定された金融負債で発生した換算差額を除いた貨幣性項目の換算により発生した為替差異及び貨幣性項目の決済時点に生じる為替差異は、全て当期損益として認識しています。非貨幣性項目で発生した損益をその他包括損益として認識する場合には、その損益に含まれた為替レート変動効果もその他包括損益として認識し、当期損益として認識する場合には為替レート変動効果も当期損益として認識しています。

2) 在外営業活動体

在外営業活動体の機能通貨が連結実体の表示通貨とは異なる場合には、経営成績と財務状態を以下の方法で表示通貨に換算しています。

在外営業活動体の機能通貨が超インフレーション経済の通貨ではない場合、財務状態表（比較表示する財務状態表を含む）の資産及び負債は当該報告期間末の為替レートの終値で換算し、包括損益計算書（比較表示する

包括損益計算書を含む)の収益と費用は当該取引日の為替レートで換算し、換算によって生じる為替差異はその他包括損益として認識します。

在外営業活動体の取得により生じるのれんと資産・負債の帳簿価額に対する公正価値調整額は在外営業活動体の資産・負債とみなして在外営業活動体の機能通貨で表示し、在外営業活動体の他の資産・負債と共に為替レートの終値を適用してウォン貨に換算しています。

在外営業活動体を処分する場合には、独立の資本項目としてその他包括損益において認識した在外営業活動体に関連する為替差異の累計額は在外営業活動体の処分損益を認識する時点で資本から当期損益に再分類します。在外営業活動体を含めた従属企業の一部の処分時、その他包括損益に認識された換算差額の累計額のうち、比例的な持分をその在外営業活動体の非支配持分に再帰属させ、その他の場合は在外営業活動体の一部処分した時にその他包括損益に認識された換算差額の累計額のうち、比例的な持分のみを当期損益に再分類します。

3) 在外営業活動体に対する純投資の換算

在外営業活動体から受け取るか、或いは在外営業活動体に支払う貨幣性項目のうち、予測できる将来に決済する計画がなく、決済される可能性が低い項目はその在外営業活動体に対する純投資の一部とみなして連結財務諸表で為替差異をその他包括損益として認識し、関連純投資の処分時点で当期損益に再分類します。

(12) 現金及び現金性資産

連結実体は保有現金と要求払預金、流動性が極めて高く、確定された金額の現金への転換が容易で、価値変動のリスクが軽微な短期投資資産を現金及び現金性資産に分類しています。持分商品は現金性資産から除外していますが、償還日が定められており、取得日から償還日までの期間が短い優先株のような実質的な現金性資産の場合には、現金性資産に含めています。但し、外貨他店借入は借入負債勘定に含めます。

(13) 非デリバティブ資産

金融資産は認識及び測定のために当期損益認識金融資産、満期保有金融資産、貸付金及び受取債権、売却可能金融資産の4つのカテゴリーに区分し、契約の当事者となる時点で財務状態表に認識しています。また、定型化された買入または売渡取引（即ち、関連市場の規定或いは慣行により一般的に設定された期間内に当該金融商品を引き渡す契約条件により金融資産を買い入れるか或いは売り渡す場合）の場合は売買日に認識しています。

金融資産は当初認識時点で公正価値で測定し、当期損益認識金融資産ではない場合、金融資産の取得と直接関連する取引原価は当初認識時点で公正価値に加算しています。

1) 当期損益認識金融資産

売買目的金融資産、または当初認識時点で当期損益認識金融資産に指定した金融資産を当期損益認識金融資産に分類しています。当期損益認識金融資産は当初認識後、公正価値で測定し、公正価値の変動は当期損益として認識しています。一方、当初認識時点で取得と関連して発生した取引費用は、発生時点で直ちに当期損益として認識しています。

2) 満期保有金融資産

満期が固定しており、支払金額が確定しているか、或いは決定可能な非デリバティブ資産として連結実体が満期まで保有する積極的な意図と能力がある場合、満期保有金融資産に分類しています。当初認識後には実効利率法を適用して償却後原価で測定しています。

3) 貸付金及び受取債権

支払金額が確定しているか、或いは決定可能で、活発な市場で取引価格が開示されていない非デリバティブ資産は貸付金及び受取債権に分類しています。当初認識後には実効利率法を適用して償却後原価で測定しています。

4) 売却可能金融資産

売却可能項目として指定されるか、或いは当期損益認識金融資産、満期保有金融資産、または貸付金及び受取債権に分類されない非デリバティブ資産は売却可能金融資産に分類しています。当初認識後には公正価値で測定し、公正価値の変動はその他包括損益として認識しています。但し、活発な市場で開示される市場価格がなく、公正価値を信頼性をもって測定できない持分商品及びこのような持分商品と連係しており、その持分商品の引渡によって決済されるべきデリバティブは原価で測定しています。

5) 金融資産の認識の中止

金融資産のキャッシュ・フローに対する契約上の権利が消滅するか、或いは金融資産のキャッシュ・フローに対する権利を譲渡して金融資産の所有によるリスクと経済価値の大部分を移転する場合、金融資産認識の中止しています。仮に金融資産の所有によるリスクと経済価値の大部分を保有しておらず、移転もしていない場合、連結実体が金融資産を統制していなければ金融資産認識の中止し、金融資産を継続して統制している場合は、その譲渡資産に対して引き続き関与する程度まで継続して認識し、関連負債を共に認識しています。

仮に金融資産のキャッシュ・フローに対する権利を譲渡したものの、金融資産の所有によるリスクと経済価値の大部分を連結実体が保有している場合には、当該金融資産を継続して認識し、受け取った売却金額は負債として認識しています。

6) 金融資産と負債の相殺

金融資産と負債は連結実体が資産と負債を相殺できる法的権利があり、純額で決済するか、或いは資産を実現すると同時に負債を決済する意図がある場合に限り相殺して財務状態表に純額で表示しています。

(14) 金融資産の減損

連結実体は当期損益認識金融資産を除外した金融資産の減損発生に対する客観的な証拠があるかどうかを報告期間末毎に評価しています。当初認識以降に発生した一つまたはそれ以上の事象の結果により金融資産の見積将来キャッシュ・フローに影響を受けた場合、金融資産が減損されたと判断します。しかし、将来事象の結果として予想される減損損失は認識しません。

減損発生の客観的な証拠がある場合、金融資産のカテゴリー別に以下のように減損損失を測定して当期損益として認識します。

1) 貸付債権

償却後原価で測定される貸付債権の減損損失は当該資産の帳簿価額と当初の実効利率で割り引いた見積将来キャッシュ・フロー（発生していない将来の貸倒は除外）の現在価値の差異で測定します。

そのために連結実体は、個別的に重要な金融資産に対して、優先的に減損発生の客観的な証拠があるかどうか個別的に検討します。

個別的に重要ではない金融資産の場合、個別的または集合的に検討します。個別的な検討結果、減損発生 of 客観的な証拠がなければ、その金融資産は類似する信用リスクの特性を有する金融資産の集合に含めて集合的に減損如何を検討します。

減損損失は貸倒引当金勘定を使用して減算し、同金融資産の回収が不可能であると判断される場合、当該金融資産と共に償却します。既に貸倒償却した貸付債権が後続的に回収された場合、貸倒引当金を増加させ、その変動は当期損益として認識します。

① 個別評価貸倒引当金

個別評価貸倒引当金は評価対象債権から回収されると期待されるキャッシュ・フローの現在価値に対する経営陣の最善の見積に基づきます。このようなキャッシュ・フローを見積る時、連結実体は関連する相手の営業キャッシュ・フロー等の財務的な状況、関連する担保物の正味実現可能価額等、利用可能な全ての情報を利用して判断します。

② 集合評価貸倒引当金

集合評価貸倒引当金はポートフォリオに内在された発生損失の測定のために過去の経験損失率に基づいた見積モデルを利用します。同モデルは商品及び借主の種類、信用格付、ポートフォリオの規模、減損発現期間、回収期間等、様々な要因を考慮して各資産（または資産集合）の発生デフォルト率（PD：Probability of Default）と担保及び与信科目別の名目回収率、デフォルト時の発生損失率（LGD：Loss Given Default）を適用します。また、内在された損失の測定をモデル化し、過去の経験及び現状に基づいた入力変数の決定のために一定の仮定を適用します。同モデルの方法論及び仮定は貸倒引当金見積値と実際の損失との差異を減少させるために定期的に検討されます。

2) 売却可能金融資産

公正価値減少額をその他包括損益として認識する売却可能金融資産は公正価値が取得原価に達しない金額から以前の期間に既に当期損益として認識した当該金融資産の減損損失を減算した金額をその他包括損益から当期損益に再分類します。

後続期間に売却可能金融資産の公正価値が増加し、その増加が減損損失認識後に発生した事象と客観的に関連する場合、売却可能債務商品は当期損益に戻し入れ、売却可能持分商品はその他包括損益として認識します。

3) 満期保有金融資産

償却後原価で測定される満期保有金融資産は帳簿価額と当初の実効利子率で割り引いた見積将来キャッシュ・フローの現在価値の差異で減損損失を測定し、帳簿価額から直接減算します。

後続期間中、減損損失の金額が減少し、その減少が減損の認識後に発生した事象と客観的に関連する場合には、既に認識した減損損失は回復後の帳簿価額が当初減損を認識していなければ回復日現在に認識したであろう償却後原価を超過しない限度内で当期損益に直接戻し入れます。

(15) デリバティブ

デリバティブは当初認識時に契約日の公正価値で見積り、後続的に報告期間末毎の公正価値で見積っています。デリバティブの公正価値の変動による評価損益はそれぞれ以下のように認識しています。

1) リスクヘッジ会計

連結実体は金利リスクと為替レートリスクをヘッジするために通貨先渡、金利スワップ、通貨スワップ等のデリバティブ契約を締結しています。ヘッジ対象リスクによる資産または負債、確定契約の公正価値の変動（公正価値リスクヘッジ）、発生可能性が極めて高い予想取引または確定取引の為替レート変動（キャッシュ・フローリスクヘッジ）、在外営業活動体純投資の為替レート変動リスク（純投資のリスクヘッジ）をヘッジするために一部のデリバティブ及び非デリバティブをリスクヘッジ手段として指定しています。

連結実体はリスクヘッジ関係の開始時点にリスクヘッジ関係、リスク管理目的及びリスクヘッジ戦略を公式的に指定して文書化を行っています。また、この文書にはリスクヘッジ手段、リスクヘッジ対象項目及びリスクヘッジ関係の開始時点及びその後続期間にヘッジ対象リスクによるリスクヘッジ対象項目の公正価値またはキャッシュ・フローの変動をリスクヘッジ手段が相殺する効果を評価する方法等を含んでいます。

① 公正価値リスクヘッジ

リスクヘッジ手段として指定され、公正価値リスクヘッジ会計の適用要件を満たすデリバティブの公正価値変動は当期損益として認識し、ヘッジ対象リスクによるリスクヘッジ対象項目の公正価値変動も当期損益として認識しています。リスクヘッジ手段の公正価値変動とヘッジ対象リスクによるリスクヘッジ対象項目の公正価値変動はリスクヘッジ対象項目に関連する包括損益計算書の同一項目に認識されます。公正価値リスクヘッジ会計は連結実体がこれ以上リスクヘッジ関係を指定しないか、リスクヘッジ手段が消滅、売却、清算または行使されるか公正価値リスクヘッジ会計の適用要件をこれ以上満たさなくなった場合に中断されます。ヘッジ対象リスクによるリスクヘッジ対象項目の帳簿価額調整額はリスクヘッジ会計が中断された日から償却して当期損益として認識しています。

② キャッシュ・フローリスクヘッジ

リスクヘッジ手段として指定され、キャッシュ・フローリスクヘッジ会計の適用要件を満たすデリバティブの公正価値変動分のうち、リスクヘッジに効果的な部分はその他包括損益として処理し、リスクヘッジに効果的でない部分は当期損益として認識しています。キャッシュ・フローリスクヘッジ会計は連結実体がこれ以上リスクヘッジ関係を指定しないかリスクヘッジ手段が消滅、売却、清算、行使されるか、キャッシュ・フローリスクヘッジ会計の適用要件をこれ以上満たさなくなった場合に中断されます。

③ 純投資リスクヘッジ

リスクヘッジ手段として指定され、在外営業活動体純投資のリスクヘッジ会計の適用要件を満たした金融商品の公正価値の変動のうち、リスクヘッジに効果的な部分はその他包括損益として認識し、効果的ではない部分は当期損益として認識しています。リスクヘッジに効果的であるため、その他包括損益として認識した部分は、今後その在外営業活動体を処分するか、或いはその在外営業活動体の一部を処分する時点で企業会計基準書第1021号“為替レート変動効果”による再分類調整により、その他包括損益から当期損益に再分類します。

2) 組込デリバティブ

組込デリバティブは主契約の経済的な特性及びリスクの程度と密接な関連性がなく、組込デリバティブと同一条件の別途の商品がデリバティブの定義を充足する場合、複合金融商品が当期損益認識項目として指定されていない時には組込デリバティブを主契約と分離して別途会計処理しています。主契約と分離した組込デリバティブの公正価値変動は当期損益として認識しています。

3) その他デリバティブ

リスクヘッジ手段として指定されていないデリバティブの公正価値変動は直ちに損益として認識しています。

(16) 有形資産

有形資産は当初に原価で測定して認識しています。有形資産の原価には経営陣の意図する方式で資産を稼動するに当たって必要な場所と状態とするために直接関連する原価及び資産の解体、除去や敷地を復旧するために所要されると見積もられる原価が含まれています。

有形資産は当初認識後に原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を減算した金額を帳簿価額としています。但し、有形資産のうち土地及び建物については企業会計基準書第1101号“韓国採択国際会計基準の当初採択”を適用して韓国採択国際会計基準転換日現在の公正価値で測定し、これをその時点のみなし原価として使用しました。公正価値の評価結果として発生した有形資産再評価利益は取締役会の決議によって配当が制限されます。

有形資産の一部を取り替える時に発生する原価は、当該資産から発生する将来の経済的便益が連結実体に流入する可能性が高く、その原価を信頼性をもって測定できる場合に、資産の帳簿価額に含めるか、或いは適切な場合は別途の資産として認識しています。この際、取り替えられた部分の帳簿価額は除去しています。それ以外の日常的な修繕・維持と関連して発生する原価は発生時点で当期損益として認識しています。

有形資産のうち、土地は減価償却をせず、それ以外の有形資産は資産の取得原価から残存価値を差し引いた金額に対して以下に提示する経済的耐用年数にわたって定額法で償却しています。当期及び前期の耐用年数は以下の通りです。

区分	耐用年数
建物	40年
その他有形資産	4年～5年

有形資産の除去により発生する損益は純売却価額と帳簿価額の差異で決定され、その差額は当期損益として認識しています。

連結実体は報告期間末毎に資産の残存価値、耐用年数及び減価償却方法を再検討し、その結果、見積値が従来のものと異なる場合は、その差異を会計見積の変更として処理しています。

(17) 無形資産

無形資産は当初認識する時に原価で測定し、当初認識後に原価から償却累計額と減損損失累計額を減算した金額を帳簿価額として認識しています。のれん及び会員権を除いた無形資産は使用可能な時点から残存価値をゼロ（0）として以下の耐用年数にわたり定額法で償却しています。関連する償却費は一般管理費として認識されます。

区分	耐用年数
ソフトウェア	5年
開発費	5年
その他無形資産	5年または契約期間

耐用年数を確定できる無形資産の償却期間と償却方法は会計年度末毎に再検討し、耐用年数を確定できない無形資産に対しては、その資産の耐用年数を確定できないという評価が引き続き正当であるかどうかを報告期間毎に再検討し、これを変更することが適切であると判断される場合は会計見積の変更として処理しています。

研究または内部プロジェクトの研究段階に対する支出は発生時点で費用として認識しています。開発段階の支出は資産を完成することができる技術的な実現可能性、資産を完成して使用するか、販売しようとする企業の意図、能力及び必要な資源の入手可能性、無形資産の将来の経済的便益を全て提示することができ、関連支出を信頼性をもって測定することができる場合に無形資産として認識しており、その他開発関連支出は発生時点で費用として認識しています。

(18) 投資不動産

賃貸収益、資本増価を獲得するために保有する不動産は投資不動産に分類しています。投資不動産は当初認識時点で取引費用を含めて原価で測定し、原価モデルを適用しています。当初認識後には、原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を減算した金額を帳簿価額として認識しており、当期及び前期の見積耐用年数及び減価償却方法は以下の通りです。

区分	耐用年数	減価償却方法
建物	40年	定額法

後続原価は、資産から発生する将来の経済的便益が流入する可能性が高く、その原価を信頼性をもって測定できる場合に限って資産の帳簿価額に含めるか、或いは適切な場合は別途の資産として認識しており、後続支出により振り替えられた部分の帳簿価額は認識を中止しています。一方、日常的な修繕・維持に関連して発生する費用は発生時点で当期損益として認識しています。

投資不動産の減価償却方法、残存価値及び耐用年数は報告期間末毎に再検討し、これを変更することが適切であると判断される場合は会計見積りの変更として会計処理しています。

(19) リース

連結実体はリース資産の所有によるリスクと経済価値の大部分がリース利用者に移転される場合にはファイナンスリースに分類し、リスクと経済価値の大部分を移転しないリースはオペレーティングリースに分類しています。

1) ファイナンスリース

連結実体はリース約定日に測定された最低リース料の現在価値とリース資産の公正価値のうち、いずれか低い金額をリース期間開始日にファイナンスリース資産とファイナンスリース負債としてそれぞれ認識しています。リース開設直接原価はファイナンスリース資産に含まれています。

最低リース料は金融費用とリース負債の償還額に分けて認識しており、金融費用は負債残額に対して一定の期間利子率が算出されるようリース期間の各報告期間にわたって配分しています。調整リース料は発生した期間に費用として処理しています。

ファイナンスリース資産の減価償却は連結実体が所有する他の減価償却対象資産と一貫した体系的な基準で償却しており、リース期間終了時点まで資産の所有権を獲得することが確実でない場合には、リース期間とリース資産の耐用年数のうち短い期間にわたって減価償却しています。また、連結実体はファイナンスリース資産に対して減損如何を検討しています。

2) オペレーティングリース

オペレーティングリースのリース料はリース期間にわたって定額法で費用を認識しています。

(20) 売却予定資産

資産または処分資産集団の帳簿価額が、継続使用ではなく売却取引を通じて主に回収されることが予想される場合は、売却予定資産に分類しています。このような条件は当該資産（または処分資産集団）が現在の状態で直ちに売却可能でなければならず、売却される可能性が非常に高い場合にのみ充足されたとみなしています。資産（または処分資産集団）を売却予定として当初に分類する直前に当該資産（または資産と負債）の帳簿価額と純公正価値のうち、いずれか低い金額で測定しています。資産の純公正価値が下落すると、減損損失を直ちに当期損益として認識し、純公正価値が増加すると、過去に認識していた減損損失累計額を限度として利益として認識しています。

資産が売却予定に分類されるか、売却予定に分類された処分資産集団の一部である場合は、その資産は償却しません。

(21) 非金融資産の減損

従業員給与で発生した資産、繰延税金資産及び売却予定に分類される資産を除いた全ての非金融資産に対しては、報告期間末毎に資産減損を示唆する兆候があるかどうかを検討し、仮にそうした兆候があれば、当該資産の回収可能価額を見積もっています。但し、企業結合により取得したのれん及び耐用年数を確定できない無形資産、まだ使用できない無形資産については、資産減損を示唆する兆候と関係なく、毎年回収可能価額と帳簿価額を比較して減損テストを行っています。

回収可能価額は個別資産別に、または個別資産の回収可能価額を見積もることができなければ、その資産が属する現金創出単位別に回収可能価額を見積もっています。回収可能価額は使用価値と純公正価値のうち大きい金額で決定しています。使用価値は資産や現金創出単位から創出されると期待される将来キャッシュ・フローを貨幣の時間価値及び将来キャッシュ・フローを見積もる際に調整されない資産の特有リスクに対する現行の市場評価を反映した適切な割引率で割り引いて見積もります。

資産や現金創出単位の回収可能価額が帳簿価額に満たない場合、資産の帳簿価額を減少させて直ちに当期損益として認識しています。

企業結合により取得したのれんは企業結合によるシナジー効果の恩恵を受けると期待される各現金創出単位に配分します。現金創出単位に対する減損損失はまず、現金創出単位に配分されたのれんの帳簿価額を減少させ、その後、現金創出単位に属する他の資産それぞれの帳簿価額に比例して資産の帳簿価額を減少させています。のれんに対して認識した減損損失は後続期間に戻し入れることができません。報告期間末毎にのれんを除いた資産に対して過去期間に認識した減損損失がこれ以上存在しないか減少したことを示唆する兆候があるかどうかを検討し、直前減損損失の認識時点以後に回収可能価額を決定するに当たって使用された見積値に変化がある場合にのみ戻し入れます。減損損失戻入により増加した帳簿価額は、過去に減損損失を認識する前の帳簿価額の減価償却または償却後残高を超過することはできません。

(22) 非デリバティブ負債

連結実体は契約上の内容の実質と金融負債の定義によって金融負債を当期損益認識金融負債とその他金融負債に分類し、契約の当事者となる時に財務状態表に認識しています。

1) 当期損益認識金融負債

当期損益認識金融負債は売買目的金融負債、或いは当初認識時点で当期損益認識金融負債に指定した金融負債を含めています。当期損益認識金融負債は当初認識後、公正価値で測定し、公正価値の変動は当期損益として認識しています。一方、当初認識時点に発行と関連して発生した取引費用は発生時点で直ちに当期損益として認識しています。

2) その他金融負債

当期損益認識金融負債に分類されていない非デリバティブ負債はその他金融負債に分類し、これには預金、借入負債、社債等が含まれます。その他金融負債は当初認識時の発行と直接関連する取引原価を減算した公正価値で測定しています。後続的にその他金融負債は実効利率法を使用して償却後原価で測定し、支払利息は実効利率法を使用して認識しています。

金融負債は消滅した場合、即ち、契約上の義務が履行、取消または満了した場合に限り、財務状態表から除去しています。

(23) 払込資本

1) 持分証券

普通株は資本に分類し、資本取引に直接関連して発生する追加費用は税金効果を反映した純額を資本から減算しています。

2) 新種資本証券

連結実体は商品の契約条件の実質によって資本証券を金融負債または持分商品に分類します。連結実体が契約上の義務を決済するための現金等金融資産の引渡を回避できる無条件的な権利を有している一部の新種資本証券の場合、持分商品に分類して資本の一部として表示しています。

3) 非支配持分

非支配持分は支配企業が直接または他の従属企業を通じて間接に所有しない持分に帰属される従属企業の当期純損益及び純資産の当該部分を意味し、企業会計基準書第1103号“企業結合”に基づいて計算した当初の企業結合時点の非支配持分純資産に該当する金額と企業結合以後の資本の変動分のうち非支配持分に該当する金額で構成されます。

(24) 従業員給与

1) 短期従業員給与

従業員が関連勤務役務を提供した報告期間末から12ヶ月以内に決済される短期従業員給与は勤務役務と交換して支給が予想される金額を、勤務役務が提供される際に当期損益として認識しています。短期従業員給与は割引しない金額で測定しています。

2) その他長期従業員給与

従業員が関連勤務役務を提供した報告期間の末日から12ヶ月以内に支給されないその他長期従業員給与（退職給与、解雇給与は除外）は当期及び過去期間に提供した勤務役務の対価として獲得した将来の給与額を現在価値に割り引いています。再測定による変動は発生した期間に当期損益として認識しています。

3) 退職給付制度：確定給付型制度

報告期間末現在、確定給付型制度に関連する退職給付に係る負債は確定給付債務の現在価値から社外積立資産の公正価値を減算して認識しています。確定給付債務は毎年独立した計理士による予測単位積立方式で計算されています。確定給付債務の現在価値は確定給付型制度で支給される将来キャッシュ・フローに関連退職給付費用の満期と類似する満期を有する退職金が支給される通貨で表示された優良社債の収益率を使用して見積将来キャッシュ・フローを割り引いた後、決定されています。確定給付の費用のうち、勤務費用及び純確定給付債務（資産）の純利子は当期損益として認識し、純確定給付債務（資産）の再測定要素はその他包括損益として認識しています。

4) 解雇給付費用

連結実体は解雇給与の提案をこれ以上撤回できなくなった時と解雇給与の支給を伴う構造調整に対する費用を認識する時のうち、いずれか早い日に解雇給与に対する費用を認識します。解雇給与は支給日が12ヶ月過ぎた後に到来する場合には、現在価値に割り引いています。

(25) 株式基準報酬

連結実体は提供を受ける財貨または役務の対価として従業員に株式またはストックオプションを付与する株式決済型株式報酬取引に対して、提供を受ける財貨や役務の公正価値、または提供を受ける財貨、或いは役務の公正価値を信頼性をもって測定することができない場合は付与した持分商品の公正価値に基づいて財貨や役務の公正価値を間接的に測定し、その金額を稼得期間にわたって従業員給付費用及び資本として認識しています。ストックオプションの稼得条件が役務提供条件または市場条件ではない稼得条件である場合は最終的に稼得されるストックオプションの実際の数量に基づいて決定されるように認識された従業員費用を調整しています。

提供を受ける財貨や役務の対価として現金を支払う現金決済型株式基準報酬取引の場合は提供を受ける財貨、役務とその対価で負担する負債を公正価値で測定し、稼得期間にわたって従業員給付費用及び負債として認識しています。また、負債が決済されるまで毎報告期間末と最終決済日に負債の公正価値を再測定し、公正価値の変動額は給与として認識しています。

連結実体の役員・職員には親会社である新韓金融持株会社の株式に基づいた株式基準報酬が付与されており、連結実体は新韓金融持株会社との償還支払約定により株式基準報酬取引の報酬原価を現金で負担することとなっています。連結実体は当該株式報酬費用を約定役務提供期間に按分し、期間費用及び未払費用としてそれぞれ計上しています。約定役務提供期間中に役員・職員等の死亡、退職または解雇等により契約義務を履行しないために付与された権利が行使されず消滅する場合には、既に認識した未払費用を報酬費用から減算します。一方、新韓金融持株会社との償還支払約定に関係なく、連結実体が株式基準報酬取引を決済する義務がない連結実体内の企業間の株式基準報酬取引は、株式決済型株式基準報酬取引で測定しています。

(26) 引当負債

過去事象の結果、現在の法的義務またはみなし義務が存在し、当該義務を履行するために経済的便益を有する資源が流出する可能性が高く、当該義務の履行に所要される金額を信頼性をもって見積もることができる場合に、引当負債を認識しています。

引当負債に認識する金額は、関連事象と状況に対する避けられないリスクと不確実性を考慮して現在義務を報告期間末に履行するために所要される支出に対する最善の見積値です。貨幣の時間価値効果が重要な場合、引当負債は義務の履行のために予想される支出額の現在価値で評価しています。

報告期間末毎に引当負債の残高を検討し、報告期間末現在の最善の見積値を反映して調整しています。義務履行のために経済的便益を有する資源が流出される可能性が高くない場合には、関連引当負債を戻し入れています。引当負債は当初認識に関連する支出にのみ使用しています。

(27) 金融保証契約

金融保証契約は債務商品の当初契約条件または変更された契約条件により支払期日に特定債務者が支払うことができないことから、保有者が受けた損失を補償するために、発行者が特定金額を支払わなければならない契約です。

金融保証契約は当初認識時に公正価値で測定して支払保証引当負債に含め、公正価値は当該金融保証契約の期間にわたって償却されます。

当初認識後には以下の金額のうち、いずれか高い金額で測定されます。

- 企業会計基準書第1037号“引当負債、偶発債務及び偶発資産”により決定された金額（当該金融保証契約から期待される支払金額の現在価値）
- 当初認識金額から企業会計基準書第1018号“収益”により認識した償却累計額を減算した金額

（28） 収益・費用の認識

1) 受取利息と支払利息

受取利息と支払利息は実効利子率法を適用して包括損益計算書に認識します。実効利子率法は金融資産、金融負債の償却後原価を計算し、関連する期間にわたって受取利息や支払利息を配分する方法です。

実効利子率の計算時、当該金融商品の全ての契約条件を考慮して将来キャッシュ・フローを見積るものの、将来の信用リスクによる損失は考慮しません。また、契約当事者間で支払うか、受け取る手数料、取引費用及びその他の割増額、割引額等を反映します。金融商品に対するキャッシュ・フローまたは期待存続期間を信頼性をもって見積ることができない例外的な場合には、全体契約期間にわたって契約上のキャッシュ・フローを使用して実効利子率を算定します。

金融資産、類似する金融資産の集合が減損損失により減額されると、その後の受取利息は減損損失を見積る目的で将来キャッシュ・フローを割り引くために使用した利子率を使用して認識します。

2) 受取手数料

連結実体は金融役務手数料をその手数料の賦課目的と関連金融商品の会計処理基準により以下のように区分して処理します。

① 金融商品の有効収益を構成する手数料

金融商品の実効利子率の一部を構成する手数料の場合、一般的に実効利子率に対する調整項目として処理します。このような手数料には借入者の財務状態、保証、担保、その他保障約定に関連する評価及び事務処理、関連書類の準備及び作成等の活動に対する補償、金融負債の発行時に受け取った開設手数料等が含まれます。しかし、金融商品が当期損益認識金融商品に該当する場合、手数料は商品の当初認識時点で収益として認識します。

② 役務の提供により稼得される手数料

資産管理手数料、業務受託手数料、保証役務手数料等、一定期間にわたって役務の提供対価として賦課される手数料はその役務の提供時に収益として認識します。また、特定の貸付約定が締結される可能性が低く、その貸付約定が企業会計基準書第1039号“金融商品：認識及び測定”の適用範囲に該当しない場合は、当該約定手数料は約定期間にわたって期間に比例して収益として認識します。

③ 重要な行為の遂行により稼得される手数料

株式またはその他証券売買、事業譲渡・譲受けの斡旋のように第三者のための取引の交渉または交渉参加の対価として受け取る手数料及び販売手数料等、重要な行為を遂行することにより稼得される手数料は重要な行為を完了した時点で収益として認識します。

3) 受取配当

受取配当は株主として配当を受ける権利が確定される時点で収益を認識しています。

(29) 法人税

法人税費用は当期法人税と繰延税金で構成されており、その他包括損益や資本に直接認識される取引や事象または企業結合から発生する税額を除いては、当期損益として認識しています。

連結実体の親会社である新韓金融持株会社は当行を含めた国内完全子会社を一つの納税単位とみなして所得金額を通算して法人税を申告・納付し、連結実体は新韓金融持株会社に連結法人税負担税額の個別帰属額を支払う義務のみが存在するため、当該金額を当期法人税負債に含まれる未払金として計上しました。資産・負債の帳簿価額と税務価額の差異である一時差異と繰越控除が可能な税務上欠損金及び税額控除等に対して将来負担する法人税負担額と将来軽減される法人税負担額のうち、連結実体に直接帰属される項目に対してそれぞれ繰延税金負債及び資産として認識しています。また、当行を除いた従属企業は各課税当局によって適用される税法により別途法人税を算出し、当該金額を当期法人税負債に含まれる未払法人税として計上しています。

従属企業、関係企業及び共同企業投資持分に関する将来加算一時差異に対しては連結実体が一時差異の消滅時点を統制でき、予測可能な将来に一時差異が消滅しない可能性が高い場合を除いては、全て繰延税金負債を認識しています。また、将来減算一時差異によって発生する繰延税金資産は一時差異が予測可能な将来に消滅する可能性が高く、一時差異が使用できる課税所得が発生する可能性が高い場合に認識しています。

繰延税金資産及び負債は報告期間末に制定されたか、或いは実質的に制定された税法に基づいて当該資産が実現されるか、或いは負債が支払われる報告期間に適用されると期待される税率を使用して測定しています。繰延税金資産と繰延税金負債を測定する時には、報告期間末現在、連結実体が関連資産と負債の帳簿価額を回収するか、或いは決済すると予想される方式に基づいて税効果を反映しました。

繰延税金資産の帳簿価額は毎報告期間末に検討し、繰延税金資産による恩恵が使用されるに十分な課税所得が発生する可能性が高くない場合、繰延税金資産の帳簿価額を減少させています。

繰延税金資産及び負債は同一の課税当局が賦課する法人税であり、連結実体が認識した金額を相殺できる法的権限を有しており、当期法人税負債及び資産を純額で決済する意図がある場合に限り相殺しています。

(30) 信託関連会計処理

連結実体は資本市場と金融投資業に関する法律第114条により信託財産を固有財産と区分して会計処理しています。これに関連して信託勘定に貸し付けた資金を信託勘定貸付金、信託勘定から借り入れた資金を信託勘定未払金として計上しており、金融投資業規定によって信託財産の運用、管理及び処分に関連して信託報酬を取得し、これを信託業務運用収益として計上しています。

(31) 1株当たり利益

連結実体は普通株の基本的1株当たり利益と希薄化後1株当たり利益を継続事業損益と当期純損益に対して計算し、包括損益計算書に表示しています。基本的1株当たり利益は普通株に帰属する当期純損益を報告期間に流通される普通株式数を加重平均した株式数で除して計算しています。希薄化後1株当たり利益は転換社債及び従業員に付与した株式基準報酬等、全ての希薄化効果のある潜在的普通株の影響を考慮して普通株に帰属する当期純損益及び加重平均流通普通株式数を調整して計算しています。

(32) 未適用制定・改正基準書

制定・公表されたものの、2014年1月1日以降に開始する会計年度に施行日が到来していない制定・改正基準書及び解釈書は以下の通りです。連結実体は連結財務諸表の作成時に、以下の制定・改正基準書及び解釈書を早期適用していません。

以下の制定・改正基準書及び解釈書の適用時、財務諸表に及ぼす影響は報告期間末現在、見積もることができません。

1) 企業会計基準書第1108号“営業部門”

経済的特性が類似する営業部門を統合して部門別情報を開示する場合、統合に関連する開示事項を追加しなければならず、統合された営業部門に対する説明、経済的特性が類似すると決定するために使用した経済的指標を開示しなければなりません。また、報告部門の資産合計において企業全体資産への調整は、このような情報が最高営業意思決定者に報告される場合にのみ要求されると明示しました。同基準書は2014年7月1日以降開始する会計年度から適用が義務付けられます。

2) 企業会計基準書第1102号“株式基準報酬”

株式基準報酬で規定する特定条件が成果条件を構成することができるかどうか、成果条件の達成期間が役務提供期間より長いかどうか等が明確ではなかったものを、改正基準では役務提供、成果条件に対する定義を明確にしました。同基準書は2014年7月1日以降開始する会計年度から適用が義務付けられます。

3) 企業会計基準書第1103号“企業結合”

改正基準では、条件付対価が金融商品である場合は企業会計基準書第1032号により負債または資本に分類し、資産や負債に分類される条件付対価は後続期間に公正価値で測定し、公正価値の変動は当期損益に反映するように規定しました。また、全ての形態の共同約定、即ち、共同企業及び共同営業の構成を企業会計基準書第1103号の適用範囲から除外するように改正しました。同基準書は2014年7月1日以降開始する会計年度から適用が義務付けられます。

4) 企業会計基準書第1113号“公正価値の測定”

明示された利率のない短期受取債権及び短期支払債務は割引効果が重要ではない場合は送状の元本金額で測定することができるようにしました。また、金融資産や金融負債の定義を充足しなくても企業会計基準書第1039号の適用範囲に含まれる場合はポートフォリオ例外条項を適用するようにしました。同基準書は2014年7月1日以降開始する会計年度から適用が義務付けられます。

5) 企業会計基準書第1024号“特殊関係者の開示”

直接または間接に主な経営人員役務を提供する企業（管理企業）を特殊関係者の定義に含めました。主な経営陣のサービスが企業に提供される場合、管理会社から提供を受ける役務に対して費用として認識した金額及び他の取引を開示しなければなりません。同基準書は2014年7月1日以降開始する会計年度から適用が義務付けられます。

6) 企業会計基準書第1019号“従業員給与”

決められた要件を充足する拠出金を従業員、或いは第三者が納付する場合、企業は関連する勤務役務が提供される期間の勤務原価から拠出金を減算する方法を会計方針として選択できます。勤務役務に連携している拠出金は純当期勤務原価及び確定給付債務の計算時に含めなければならず、同拠出金は制度の拠出金の算定時、または定額基準で勤務期間に配分しなければなりません。同基準書は2014年7月1日以降開始する会計年度から適用が義務付けられます。

7) 企業会計基準書第1111号“共同約定”

事業の定義を充足する共同営業の持分を取得する時に企業会計基準書第1103号による会計処理を適用します。また、共同営業者が共同営業の持分を追加で取得するか、或いは共同支配力を維持する場合、追加取得する持分は一般的に公正価値で測定されるものの、以前の保有持分は再測定しないように定めました。同基準書は2016年1月1日以降開始する会計年度から適用が義務付けられます。

3. 金融商品のリスク管理

3-1. 信用リスク

連結実体は一定水準の信用リスクにさらされています。これは取引相手の義務不履行により連結実体が財務的損失を被るリスクを意味します。信用リスクは会社の営業活動において最も重要に管理されなければならないリスクに分類され、経営陣は信用リスクエクスポージャーを注意深く管理しています。信用リスクへのエクスポージャーは主に預け金と貸付債権に関連する貸付過程及び債務証券に対する投資活動及びグループ資産ポートフォリオの為替手形等で発生し、貸付約定等の財務諸表のオフバランス勘定に関連する信用リスクが存在します。

(1) 信用リスク管理

連結実体の信用リスク管理に対する基本政策はリスク政策委員会で決定されます。リスク政策委員会はCRO（Chief Risk Officer）を委員長に、CCO（Chief Credit Officer）と事業グループ担当グループ長及びリスク総括部長により構成され、銀行全般の信用リスク管理案と与信政策の方向を意思決定しています。リスク政策委員会と別途で与信審議委員会を設置して巨額与信及び限度承認等の与信審査を分離しており、CCOを委員長に、CROと与信関連事業グループ担当副行長、与信企画部長及び選任審査役で構成され、与信の健全性を引き上げ、運用収益性を向上する方向で与信審査を行っています。

信用リスク対象資産を保有及び管理する全ての営業単位で1次的に当該資産に対するリスク管理を行い、リスク総括部及び与信企画部等の信用リスク管理部署では2次的に銀行全体の信用リスク管理を担当します。リスク総括部はリスク政策委員会で設定された信用リスク限度及び同一借主別、系列別、業種別、国家別の信用エクスポージャー限度を管理する等、信用ポートフォリオ管理を行っています。また、信用評価システム、担保管理システムの運用を通じたPD、LGD、EAD（Exposure At Default）等の信用リスク算出要素（Risk Component）を測定及び管理しています。与信意思決定の支援及び牽制組織として与信企画部は銀行全体の与信政策及び制度を管理しており、与信審査部では独立的な信用評価の遂行及び与信意思決定を行っています。また、与信監理部では巨額与信等に対する個別与信監理を行っています。

全ての与信顧客（個人及び企業）に対して信用格付が付与されて管理されますが、個人は身上情報、銀行内部実績情報、外部信用情報を合算して算出され、企業の場合は財務項目と産業リスク、営業リスク、経営リスク等の非財務項目等を総合的に考慮して信用評価システムで算出されます。算出された信用格付は与信承認、限度管理、価格決定、貸倒引当金の積立等に活用される等、信用リスク管理の基本となります。

当行の信用評価システムはBasel II要件を反映して個人評価システム（ACE：Automatic Credit Evaluation）、エクスポージャー額3億ウォン以下の小売SOHO信用評価システム、企業信用評価システム（AIRS：Advanced Internal Rating System）を運営しています。

企業与信に対する審査は集団意思決定体制を取ることによって客観的かつ慎重な意思決定を行っています。一般的な与信の場合は営業店のRM（リレーションシップ・マネジャー）と各セグメントの本部審査役の合意の下で与信承認が行われ、規模が大きいか或いは重要な与信の場合は審査協議体等で与信承認が行われます。特に、専決限度を超過する巨額与信等の重要な与信に対しては、与信最高意思決定機構である与信審議委員会で審査を行っています。個人与信は個人与信審査部で客観的な統計方法及び銀行の信用政策に基づく自動化された個人与信評価システム（CSS：Credit Scoring System）によって審査が行われています。

個別与信に対する常時管理のために常時モニタリングシステムを稼働しています。企業与信取引先のうち、不良予想企業を自動検索して審査役とRMによって貸付査定が行われるようにしており、事業グループと独立した与信管理部では貸付査定結果の適正性を判断し、必要に応じて当該企業の信用格付調整を要請します。このような手続に従って不良予想企業を早期警報企業、観察企業及び正常企業に分類した後、リスク段階別の管理指針によって差別管理することで与信の不良化を早期に遮断しています。専門信用評価機関と提携した財務分析支援システムは与信審査及び管理を支援しており、FSB研究所の産業情報チームで産業格付を算出・管理し、産業動向及び企業情報を分析・提供しています。

（2） リスク限度管理及びリスク軽減政策

信用リスクを適正水準に統制するために、以下のような限度管理体系を樹立・運用しています。

- 信用リスク限度は信用VaR及びエクスポージャーを基準として事業セグメント別、顧客別、商品別、業種別等、各セグメント別に設定して管理する。
- リスク総括部では信用VaR及びエクスポージャー基準の限度設定と管理業務を行い、与信企画部と与信審査部でも信用リスク管理のために設定されたエクスポージャー限度管理業務を行う。
- リスク総括部、リスク工学部は毎年1回以上、銀行全体の信用リスク限度運営計画を樹立してリスク政策委員会に付議する。
- 各セグメントはセグメント別に割り当てられた信用リスク限度をモニタリングして遵守する。
- 識別された信用リスクに対して個人顧客及び企業顧客、産業と国籍別限度を指定及び管理する。
- 個別借主または借主グループ、地理的産業別セグメントに対して受容できるリスクの限度を設定する。

- 当該リスクは年間基準もしくは必要であると判断される場合、期間内に再検討され、商品別、産業別、国家別リスクの限度は四半期別に取り締役会の承認を得る。
- 機関を含めた借主別エクスポージャーは財務諸表上の勘定とオフバランス勘定に対して個別設定された下位水準の限度により管理され、外貨先渡取引等の商品取引に関連する日別の取引に対してもリスクの限度を決定する。
- 限度対比の実際エクスポージャーは日別に管理する。
- 信用リスクエクスポージャーは借主に対する利子と元金償還能力を分析する過程でも管理され、必要な場合はこの過程で貸付限度を変更する。

その他のリスク管理案は以下の通りです。

1) 担保

連結実体は信用リスクを緩和するための政策と手続を導入しています。信用リスクに関しては一般的に担保が使用され、連結実体は特定種類の資産に対する質権設定に関する政策を導入しており、主な担保形態は以下の通りです。

- 住宅担保
- 不動産、棚卸資産及び売上債権等
- 債務証券及び持分証券等の金融商品

相対的に長期貸付債権は、通常、担保が設定されています。一方、リボルビング個人信用貸付は無担保である場合が一般的です。

また、信用リスクによる損失を最小化するために、連結実体は資産減損の兆候がある場合、取引相手に追加担保を設定しています。

貸付債権以外の金融資産に対する担保は商品の特性によって差異があります。

金融商品ポートフォリオ等の担保設定されたABS等の特殊な場合を除くと、債務証券では無担保が一般的です。

2) デリバティブ

連結実体は購入後から処分契約の間のデリバティブに対して金額と期間に関する限度を維持して管理しています。

3) 一括相殺約定

連結実体は相当な規模の取引を行うにあたって、取引相手と一括相殺約定を締結することにより信用損失に対するエクスポージャーを制限しています。

取引は通常、総額基準で設定されていることから、一括相殺約定は一般的に財務状態表上、資産と負債を相殺した結果としては表示されません。しかし、取引相手に対する全ての金額が純額基準で設定される時に損失が発生する場合は、利益の生じている契約に関連する信用リスクはその範囲内で一括相殺約定により減少します。

一括相殺約定に属している信用リスクに対するグループの全体的なエクスポージャーは約定に属する各取引に影響を受けるため、短期間内に実質的に変動することもあります。

4) 信用関連約定

保証と信用供与は与信のような信用リスクを有しています。

信用状（特定期間と状況の下で要求される金額に対し、連結実体で第三者に手形を発行して顧客に代わり信用を保証）はこれらに関連する基礎的な商品の船積により担保が設定されているため、与信よりも更に低いリスクが伴います。信用補強に対する約定は与信、保証或いは信用状の形態で信用を補強する限度の未使用比率を表します。信用を補強する約定に対する信用リスクに関連して、連結実体は総未使用約定と同一の金額に対して潜在的にさらされています。長期約定は一般的に短期約定よりも信用リスクの程度が大きいため、連結実体は信用約定の満期に対してモニタリングしています。

(3) 信用リスクエクスポージャー額

当期末及び前期末現在において保有している金融商品の信用リスクエクスポージャー額の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）期	第182（前）期
預け金及び 貸付債権 (注1,2)	銀行	9,330,401	10,319,637
	個人	住居用不動産担保貸付	43,071,985
		その他	44,568,901
		小計	87,640,886
	政府/公共機関/中央銀行		11,950,221
	企業	大企業	31,325,767
		中小企業	57,472,842
		特殊金融	3,967,248
		その他	1,075
		小計	92,766,932
	カード債権		25,999
	合計		201,714,439
			184,530,190
売買目的金融資産	債務証券		7,079,455
	金預け金		224,556
	合計		7,304,011
デリバティブ資産		1,309,094	1,457,994
売却可能金融資産	債務証券		20,033,298
満期保有金融資産	債務証券		8,012,117
その他金融資産（注1,3）		8,019,552	6,901,231
オフバランス勘定	金融保証		3,069,507
	貸付約定及びその他信用関連負債		73,608,486
	合計		76,677,993
合計		323,070,504	304,657,518

(注1) 預け金及び貸付債権、その他金融資産のエクスポージャー額は、未償却残高及び貸倒引当金を減算した純帳簿価額です。

(注2) 新BIS規制（BaseI III）の自己資本比率（BIS比率）の算出上、類似する信用リスク集団に分類しました。

(注3) 未収金、未収収益、預け保証金、未回収内国為替債権、仮払金等で構成されています。

(4) 預け金と貸付債権の減損情報

1) 当期末及び前期末現在における預け金と貸付債権の減損如何に関する内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

区分	銀行	個人		政府 公共機関 中央銀行	企業				カード 債権	合計
		住居用 不動産 担保貸付	その他		大企業	中小企業	特殊金融	その他		
延滞及び減損さ れて いない預け金及 び 貸付債権	9,362,122	42,792,312	44,503,104	11,958,001	31,380,015	57,460,913	3,853,319	1,101	25,979	201,336,866
延滞されたが減 損 されていない 貸付債権	-	218,945	146,075	-	81,079	131,823	12,290	-	352	590,564
減損された貸付 債権	-	80,012	172,270	-	535,858	422,613	179,596	10	16	1,390,375
小計	9,362,122	43,091,269	44,821,449	11,958,001	31,996,952	58,015,349	4,045,205	1,111	26,347	203,317,805
貸倒引当金	(31,721)	(19,284)	(252,548)	(7,780)	(671,185)	(542,507)	(77,957)	(36)	(348)	(1,603,366)
合計	9,330,401	43,071,985	44,568,901	11,950,221	31,325,767	57,472,842	3,967,248	1,075	25,999	201,714,439

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

区分	銀行	個人		政府 公共機関 中央銀行	企業				カード 債権	合計
		住居用 不動産 担保貸付	その他		大企業	中小企業	特殊金融	その他		
延滞及び減損さ れて いない預け金及 び 貸付債権	10,334,664	40,665,839	38,917,523	9,114,647	29,544,088	50,721,418	4,319,818	881	39,375	183,658,253

延滞されたが減損 されていない 貸付債権	-	258,895	144,520	-	80,070	339,159	1,252	-	146	824,042
減損された貸付 債権	-	62,971	176,362	-	714,780	469,447	243,998	-	10	1,667,568
小計	10,334,664	40,987,705	39,238,405	9,114,647	30,338,938	51,530,024	4,565,068	881	39,531	186,149,863
貸倒引当金	(15,027)	(17,405)	(223,852)	(5,095)	(686,827)	(537,916)	(133,266)	(32)	(253)	(1,619,673)
合計	10,319,637	40,970,300	39,014,553	9,109,552	29,652,111	50,992,108	4,431,802	849	39,278	184,530,190

2) 当期末及び前期末現在、延滞及び減損されていない預け金及び貸付債権の信用健全性別の構成内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

区分	銀行	個人		政府 公共機関 中央銀行	企業				カード 債権	合計
		住居用 不動産 担保貸付	その他		大企業	中小企業	特殊金融	その他		
レベル：1.優良	9,362,122	40,497,754	42,168,027	11,958,001	22,135,648	31,808,600	3,600,635	-	20,136	161,550,923
レベル：2.普通	-	2,294,558	2,335,077	-	9,244,367	25,652,313	252,684	1,101	5,843	39,785,943
小計	9,362,122	42,792,312	44,503,104	11,958,001	31,380,015	57,460,913	3,853,319	1,101	25,979	201,336,866
貸倒引当金	(31,721)	(11,893)	(133,248)	(7,780)	(382,705)	(384,513)	(25,740)	(28)	(348)	(977,976)
合計	9,330,401	42,780,419	44,369,856	11,950,221	30,997,310	57,076,400	3,827,579	1,073	25,631	200,358,890
担保による 信用リスク 軽減効果	134	41,928,107	17,785,420	-	8,184,415	39,179,137	550,662	-	38	107,627,913

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

区分	銀行	個人		政府 公共機関 中央銀行	企業				カード 債権	合計
		住居用 不動産 担保貸付	その他		大企業	中小企業	特殊金融	その他		
レベル：1.優良	10,334,664	38,465,095	36,659,627	9,114,647	20,878,177	26,088,780	4,002,785	-	34,972	145,578,747
レベル：2.普通	-	2,200,744	2,257,896	-	8,665,911	24,632,638	317,033	881	4,403	38,079,506
小計	10,334,664	40,665,839	38,917,523	9,114,647	29,544,088	50,721,418	4,319,818	881	39,375	183,658,253

貸倒引当金	(15,027)	(10,925)	(114,345)	(5,095)	(289,551)	(339,873)	(27,739)	(32)	(235)	(802,822)
合計	10,319,637	40,654,914	38,803,178	9,109,552	29,254,537	50,381,545	4,292,079	849	39,140	182,855,431
担保による 信用リスク 軽減効果	152	39,770,143	15,039,529	-	7,979,993	36,418,688	1,016,620	-	15	100,225,140

- 3) 当期末及び前期末現在、延滞されたものの減損されていない預け金及び貸付債権の延滞期間別の構成内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

区分	個人		企業				カード 債権	合計
	住居用 不動産 担保貸付	その他	大企業	中小企業	特殊金融	その他		
30日以内延滞	172,933	99,787	57,400	50,453	12,290	-	164	393,027
30日～60日延滞	32,448	26,848	507	21,290	-	-	38	81,131
60日～90日延滞	13,564	12,459	22,524	22,079	-	-	23	70,649
90日以上延滞	-	6,981	648	38,001	-	-	127	45,757
小計	218,945	146,075	81,079	131,823	12,290	-	352	590,564
貸倒引当金	(2,168)	(27,230)	(1,635)	(21,165)	(8,344)	-	-	(60,542)
合計	216,777	118,845	79,444	110,658	3,946	-	352	530,022
担保による 信用リスク軽減効果	215,073	69,137	3,615	78,114	-	-	-	365,939

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

区分	個人		企業				カード 債権	合計
	住居用 不動産 担保貸付	その他	大企業	中小企業	特殊金融	その他		
30日以内延滞	224,594	109,417	73,914	283,524	1,252	-	93	692,794
30日～60日延滞	21,752	18,847	3,208	28,466	-	-	20	72,293
60日～90日延滞	11,644	14,669	513	13,694	-	-	18	40,538
90日以上延滞	905	1,587	2,435	13,475	-	-	15	18,417
小計	258,895	144,520	80,070	339,159	1,252	-	146	824,042
貸倒引当金	(1,983)	(20,093)	(3,019)	(20,337)	(1)	-	(10)	(45,443)
合計	256,912	124,427	77,051	318,822	1,251	-	136	778,599
担保による 信用リスク軽減効果	252,771	68,084	12,986	253,368	-	-	-	587,209

- 4) 当期末及び前期末現在、減損された預け金及び貸付債権の種類別の担保による信用リスク軽減効果の内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

区分	個人		企業				カード 債権	合計
	住居用 不動産 担保貸付	その他	大企業	中小企業	特殊金融	その他		
減損された貸付債権	80,012	172,270	535,858	422,613	179,596	10	16	1,390,375
貸倒引当金	(5,223)	(92,070)	(286,845)	(136,829)	(43,873)	(8)	-	(564,848)
合計	74,789	80,200	249,013	285,784	135,723	2	16	825,527
担保による 信用リスク軽減効果	78,052	50,354	118,016	280,630	-	-	-	527,052

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

区分	個人		企業				カード 債権	合計
	住居用 不動産 担保貸付	その他	大企業	中小企業	特殊金融	その他		
減損された貸付債権	62,971	176,362	714,780	469,447	243,998	-	10	1,667,568
貸倒引当金	(4,497)	(89,414)	(394,257)	(177,706)	(105,526)	-	(8)	(771,408)
合計	58,474	86,948	320,523	291,741	138,472	-	2	896,160
担保による 信用リスク軽減効果	61,136	36,141	165,977	326,800	-	-	-	590,054

(5) 債務証券の信用格付別の構成内訳

1) 当期末及び前期末現在における債務証券の信用格付別構成内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

区分	売買目的金融資産	売却可能金融資産	満期保有金融資産	合計
AAA	1,539,833	12,978,467	7,025,246	21,543,546
AA-からAA+	1,662,905	2,634,819	753,221	5,050,945
A-からA+	2,866,086	2,247,214	131,292	5,244,592
BBB-からBBB+	569,706	1,095,902	-	1,665,608
BBB-未満	240,642	441,338	33,306	715,286
未格付	200,283	635,558	69,052	904,893
合計	7,079,455	20,033,298	8,012,117	35,124,870

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

区分	売買目的金融資産	売却可能金融資産	満期保有金融資産	合計
AAA	1,640,089	13,729,157	6,376,540	21,745,786
AA-からAA+	1,585,343	3,799,023	791,398	6,175,764
A-からA+	2,272,927	1,719,726	109,147	4,101,800
BBB-からBBB+	435,735	894,125	-	1,329,860
BBB-未満	264,861	418,568	23,305	706,734
未格付	275,038	672,154	133,230	1,080,422
合計	6,473,993	21,232,753	7,433,620	35,140,366

2) 外部評価機関の信用格付による有価証券の信用健全性基準は以下の通りです。

区分	韓国信用評価	韓国企業評価	S&P	Fitch	Moody's
AAA	-	-	AAA	AAA	Aaa
AA-からAA+	AAA	AAA	AA-からAA+	AA-からAA+	Aa3からAa1
A-からA+	AA-からAA+	AA-からAA+	A-からA+	A-からA+	A3からA1
BBB-からBBB+	BBB-からA	BBB-からA	BBB-からBBB+	BBB-からBBB+	Baa3からBaa1
BBB-未満	BBB-未満	BBB-未満	BBB-未満	BBB-未満	Baa3未満
未格付	未格付	未格付	未格付	未格付	未格付

3) 当期末及び前期末現在における債務証券の信用健全性の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
延滞及び減損されていない有価証券	35,124,870	35,140,366
減損された有価証券	-	-
合計	35,124,870	35,140,366

(6) 当期末及び前期末現在において、担保の実行により取得した資産は2,585百万ウォン及び6,074百万ウォンを売却予定資産として認識しています。

(7) 地域別の構成内訳

当期末及び前期末現在において保有している金融商品の地域別構成内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

区分	韓国	アメリカ	イギリス	日本	ドイツ	ベトナム	中国	その他	合計
<預け金>									
銀行	888,570	856,225	394,093	10,085	17,841	226,411	1,175,979	139,426	3,708,630
政府/公共機関/ 中央銀行	8,806,465	115,845	821	73,475	181	80,516	540,175	62,866	9,680,344
預け金小計	9,695,035	972,070	394,914	83,560	18,022	306,927	1,716,154	202,292	13,388,974
<貸付債権>									
銀行	2,157,123	49,992	-	357,608	180,925	119,370	1,413,477	1,343,276	5,621,771
個人	86,216,060	263,905	2,193	784,022	2,598	56,376	44,733	270,999	87,640,886
住居用不動産担保貸 付	43,059,621	9,034	-	640	33	-	448	2,209	43,071,985
その他	43,156,439	254,871	2,193	783,382	2,565	56,376	44,285	268,790	44,568,901
政府/公共機関/ 中央銀行	2,269,877	-	-	-	-	-	-	-	2,269,877
企業	83,114,294	1,328,807	91,917	1,480,465	143,842	1,292,578	2,664,495	2,650,534	92,766,932
大企業	27,785,912	693,324	91,493	752,566	111,400	469,767	681,840	739,465	31,325,767
中小企業	52,007,188	586,343	424	727,899	32,411	822,811	1,982,655	1,313,111	57,472,842
特殊金融	3,320,299	49,130	-	-	-	-	-	597,819	3,967,248
その他	895	10	-	-	31	-	-	139	1,075
カード債権	16,531	1,132	1	-	-	8,322	3	10	25,999

貸付債権小計	173,773,885	1,643,836	94,111	2,622,095	327,365	1,476,646	4,122,708	4,264,819	188,325,465
<売買目的金融資産>									
債務証券	7,069,987	-	-	-	-	-	9,468	-	7,079,455
金預け金	-	-	224,556	-	-	-	-	-	224,556
売買目的金融資産小計	7,069,987	-	224,556	-	-	-	9,468	-	7,304,011
<売却可能金融資産>									
債務証券	19,235,556	179,092	-	37,005	4,021	416,632	29,669	131,323	20,033,298
<満期保有金融資産>									
債務証券	7,878,556	22,257	-	23,137	-	22,031	54,860	11,276	8,012,117
合計	217,653,019	2,817,255	713,581	2,765,797	349,408	2,222,236	5,932,859	4,609,710	237,063,865

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

区分	韓国	アメリカ	イギリス	日本	ドイツ	ベトナム	中国	その他	合計
<預け金>									
銀行	771,804	961,614	486,494	25,133	33,743	94,928	1,489,701	261,482	4,124,899
政府/公共機関/ 中央銀行	5,243,859	222,567	2,568	141,928	426	39,176	936	64,487	5,715,947
預け金小計	6,015,663	1,184,181	489,062	167,061	34,169	134,104	1,490,637	325,969	9,840,846
<貸付債権>									
銀行	2,737,000	220,387	13,197	178,404	81,821	4,338	1,485,771	1,473,820	6,194,738
個人	79,247,913	230,170	1,567	226,804	2,672	30,824	23,551	221,352	79,984,853
住居用不動産担保貸 付	40,957,026	8,680	42	717	33	-	800	3,002	40,970,300
その他	38,290,887	221,490	1,525	226,087	2,639	30,824	22,751	218,350	39,014,553
政府/公共機関/ 中央銀行	3,393,605	-	-	-	-	-	-	-	3,393,605
企業	76,987,699	1,269,030	74,982	1,640,359	129,078	935,088	1,892,132	2,148,502	85,076,870
大企業	26,641,163	643,952	50,770	816,602	106,703	304,020	509,446	579,455	29,652,111
中小企業	46,579,918	590,764	24,212	823,757	22,363	593,436	1,382,686	974,972	50,992,108
特殊金融	3,765,809	34,312	-	-	-	37,632	-	594,049	4,431,802
その他	809	2	-	-	12	-	-	26	849
カード債権	35,724	1,276	1	4	-	2,268	-	5	39,278
貸付債権小計	162,401,941	1,720,863	89,747	2,045,571	213,571	972,518	3,401,454	3,843,679	174,689,344
<売買目的金融資産>									
債務証券	6,473,993	-	-	-	-	-	-	-	6,473,993

金預け金	-	-	76,337	-	-	-	-	-	76,337
売買目的金融資産小計	6,473,993	-	76,337	-	-	-	-	-	6,550,330
<売却可能金融資産>									
債務証券	20,417,269	299,227	-	-	13,375	373,060	5,106	124,716	21,232,753
<満期保有金融資産>									
債務証券	7,294,783	1,133	-	50,408	-	10,450	63,991	12,855	7,433,620
合計	202,603,649	3,205,404	655,146	2,263,040	261,115	1,490,132	4,961,188	4,307,219	219,746,893

(注) 地域別の構成内訳は貸倒引当金を減算した純帳簿価額です。

(8) 産業別の構成内訳

当期末及び前期末現在において保有している金融商品の産業別構成内訳は以下の通りです。

<第183(当)期>

(単位：百万ウォン)

区分	金融及び 保険業	製造業	卸売及び 小売業	不動産賃貸 及び事業 サービス業	建設業	宿泊及び 飲食店業	その他	個人顧客	合計
<預け金>									
銀行	2,839,368	-	-	-	-	-	869,262	-	3,708,630
政府/公共機関/ 中央銀行	8,928,599	-	-	-	-	-	751,745	-	9,680,344
預け金小計	11,767,967	-	-	-	-	-	1,621,007	-	13,388,974
<貸付債権>									
銀行	4,570,392	2,246	-	187,727	-	-	861,406	-	5,621,771
個人	-	-	-	-	-	-	-	87,640,886	87,640,886
住居用不動産担保 貸付	-	-	-	-	-	-	-	43,071,985	43,071,985
その他	-	-	-	-	-	-	-	44,568,901	44,568,901
政府/公共機関/ 中央銀行	2,269,877	-	-	-	-	-	-	-	2,269,877
企業	2,231,685	35,173,585	12,923,930	16,296,477	2,664,928	4,387,981	19,088,346	-	92,766,932
大企業	1,091,808	17,542,053	3,924,836	895,347	981,955	278,414	6,611,354	-	31,325,767
中小企業	533,255	17,620,508	8,992,678	14,344,971	1,298,174	4,068,366	10,614,890	-	57,472,842
特殊金融	606,621	10,460	6,346	1,056,148	384,799	41,199	1,861,675	-	3,967,248
その他	1	564	70	11	-	2	427	-	1,075
カード債権	-	-	-	-	-	-	-	25,999	25,999

貸付債権小計	9,071,954	35,175,831	12,923,930	16,484,204	2,664,928	4,387,981	19,949,752	87,666,885	188,325,465
<売買目的金融資産 >									
債務証券	3,811,135	421,339	410,638	644,759	70,690	19,871	1,701,023	-	7,079,455
金預け金	224,556	-	-	-	-	-	-	-	224,556
売買目的金融資産小 計	4,035,691	421,339	410,638	644,759	70,690	19,871	1,701,023	-	7,304,011
<売却可能金融資産 >									
債務証券	14,477,248	829,423	102,049	624,394	201,711	-	3,798,473	-	20,033,298
<満期保有金融資産 >									
債務証券	1,915,165	49,915	-	92,226	124,932	-	5,829,879	-	8,012,117
合計	41,268,025	36,476,508	13,436,617	17,845,583	3,062,261	4,407,852	32,900,134	87,666,885	237,063,865

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

区分	金融及び 保険業	製造業	卸売及び 小売業	不動産賃貸 及び事業 サービス業	建設業	宿泊及び 飲食店業	その他	個人顧客	合計
<預け金>									
銀行	2,762,750	-	-	-	-	-	1,362,149	-	4,124,899
政府/公共機関/ 中央銀行	5,533,916	-	-	-	-	-	182,031	-	5,715,947
預け金小計	8,296,666	-	-	-	-	-	1,544,180	-	9,840,846
<貸付債権>									
銀行	5,469,752	-	-	114,037	-	-	610,949	-	6,194,738
個人	-	-	-	-	-	-	-	79,984,853	79,984,853
住居用不動産担保 貸付	-	-	-	-	-	-	-	40,970,300	40,970,300
その他	-	-	-	-	-	-	-	39,014,553	39,014,553
政府/公共機関/ 中央銀行	3,376,216	-	-	-	-	-	17,389	-	3,393,605
企業	1,904,015	31,347,060	12,047,979	14,538,327	2,786,236	4,049,998	18,403,255	-	85,076,870
大企業	888,223	16,566,610	3,776,308	708,214	1,166,891	218,103	6,327,762	-	29,652,111
中小企業	566,503	14,771,078	8,271,507	12,556,464	1,257,208	3,804,531	9,764,817	-	50,992,108
特殊金融	449,289	9,034	-	1,273,615	362,137	27,361	2,310,366	-	4,431,802
その他	-	338	164	34	-	3	310	-	849
カード債権	-	-	-	-	-	-	-	39,278	39,278
貸付債権小計	10,749,983	31,347,060	12,047,979	14,652,364	2,786,236	4,049,998	19,031,593	80,024,131	174,689,344
<売買目的金融資産 >									
債務証券	3,535,676	603,954	228,176	536,200	103,967	9,662	1,456,358	-	6,473,993
金預け金	76,337	-	-	-	-	-	-	-	76,337
売買目的金融資産小 計	3,612,013	603,954	228,176	536,200	103,967	9,662	1,456,358	-	6,550,330
<売却可能金融資産 >									
債務証券	15,267,484	755,954	110,571	644,268	225,948	20,124	4,208,404	-	21,232,753
<満期保有金融資産 >									
債務証券	2,140,945	26,448	-	168,702	164,978	-	4,932,547	-	7,433,620

合計	40,067,091	32,733,416	12,386,726	16,001,534	3,281,129	4,079,784	31,173,082	80,024,131	219,746,893

(注) 産業別の構成内訳は未償却残高及び貸倒引当金を減算した純帳簿価額です。

3-2. 市場リスク

市場リスクは金利、株価、為替レート等のような市場価格の変動により発生する可能性のある損失リスクを意味します。連結実体は短期売買差益の獲得を目的として保有する有価証券、外国為替ポジション、デリバティブ等をトレーディングポジションとして管理し、与信、預け金及び短期売買差益の獲得目的を除いた債務証券等で構成された金利敏感資産及び受信、借入金、社債等で構成された金利敏感負債、金利リスクヘッジのためにリスクヘッジ手段として使用する金利敏感デリバティブを非トレーディングポジションとして管理しています。

連結実体はリスク政策委員会で市場リスク管理に関する政策樹立、限度設定等の意思決定機能を行い、リスク総括部は銀行全体の運用部署及びデスクに対する総合的な市場リスク管理を行い、リスク工学部は市場リスクシステム管理及びミドル・オフィス機能を果たしています。

市場リスク管理の基本は市場リスクによる最大損失可能額を一定水準以内に維持するための限度管理です。リスク政策委員会は運用部署及びデスク別VaR限度、損失限度、敏感度限度、投資限度及びポジション限度、ストレス損失限度等を設定して運営しており、リスク総括部及びリスク工学部は運用部署とは独立して運営状況をモニタリングし、リスク政策委員会及びリスク管理委員会に定期的に報告しています。また、公正価額評価協議会は各事業セグメントの新商品（または取引）が施行される以前に公正価額評価方法に対する検討及びリスク評価等を遂行し、デリバティブ及び仕組商品リスクレビュー協議会でリスク要因に対する点検、投資規模制限を検討する等、合理的な意思決定を支援して事前にリスク要因に対する客観的な分析、検討が行われるようにしています。

(1) トレーディングポジションの市場リスク管理

トレーディングポジション測定対象である外国為替、株式、債券、デリバティブ取引データは、フロントシステムに取引を入力して管理し、市場リスク管理システム（RiskWatch）により自動インターフェースを行って日別にリスク測定及び限度管理を実施しています。また、統計的方法によるリスク測定を補完し、経済環境の急激な変化による影響度及び損失規模の管理のために定期的にストレステストを並行して実施しており、これにより連結実体の危機状況時に損失規模が一定範囲以内で管理されるようにしています。

1) トレーディングポジションから発生する市場リスクの測定方法

連結実体はトレーディングポジションにさらされている金利、株価、為替レート等の各リスクに対し、歴史的なシミュレーションVaR (Value at Risk) 方法論を適用して99.9%信頼区間で市場リスクを算出します。VaRは反対の市場状況から現在のポジションに対する潜在的な損失の統計学的な評価に基づいています。これは99.9%の信頼レベルで連結実体にて発生可能な最大損失金額を表現しています。そのため、実際の損失がVaRの測定値より大きいという統計学的な可能性(0.1%)が存在します。

VaRモデルは、測定時点の日別ポジションが維持されると同時に各測定時点から過去10日間の市場の動向が今後とも継続するとの仮定に従って予想損失を測定しています。

過去の動向に対する連結実体の評価は過去5年間のデータに基づいており、現在ポジションで金利、株価、為替レート、オプション変動性の歴史的な変化を直接的に適用する歴史的シミュレーション方法を使用しています。また、VaR計算上で使用される仮定と媒介変数の有効性テストを定期的にモニタリングしており、同方法の適用は各パラメーターの想定を超える大規模な市場変動によるリスクを防ぐものではありません。

連結実体のVaR限度は毎年、リスク管理委員会により設定されており、この限度に対する実際のエクスポージャー額は毎日検討されています。また、VaRモデルの品質はVaR結果に対する事後検証により継続してモニタリングしており、全ての事後検証の結果を取締役会に報告します。

2) トレーディングポジションのVaR

連結実体が保有しているトレーディングポジションに対する報告期間中の最低、最大、平均VaR及び報告期間末のVaRの内訳は以下の通りです。

<第183(当)期>

(単位：百万ウォン)

区分	平均	最大	最低	期末
金利リスク	17,302	25,863	8,721	13,414
株価リスク	4,333	7,362	2,493	3,442
為替レートリスク(注)	43,872	54,355	34,928	49,372
オプション変動性リスク	161	259	66	66
分散効果	(18,668)	(32,344)	(5,246)	(13,268)
VaR合計	47,000	55,495	40,962	53,026

<第182(前)期>

(単位：百万ウォン)

区分	平均	最大	最低	前期末

金利リスク	21,604	28,670	14,413	25,136
株価リスク	5,677	13,250	2,737	7,341
為替レートリスク（注）	45,176	50,933	41,554	43,993
オプション変動性リスク	278	350	198	208
分散効果	(25,837)	(40,931)	(18,457)	(27,001)
VaR合計	46,898	52,272	40,445	49,677

（注） トレーディングポジション及び非トレーディングポジションを含む金額です。

（2） 非トレーディングポジションの市場リスク管理

非トレーディングポジションから発生する最も主要な市場リスクは金利リスクです。そのため、非トレーディングポジションの市場リスクは市場金利の変動により純資産価値及び純受取利息が変動するリスクで測定されます。

連結実体はリスク政策委員会で金利リスク管理に関する政策樹立、詳細限度設定等の意思決定機能を行い、同原則及び限度内で国外店舗を始めとした子会社及び資金部、信託部、総合金融市場部等、勘定別管理部署は1次的に金利リスクを認識して管理します。リスク総括部及びリスク工学部はリスク政策委員会の金利リスク関連意思決定を支援し、金利リスクの許容限度超過如何をモニタリングし、会社全体の金利リスクを評価して管理します。

連結実体はALMシステム（OFSA）を通じて金利ギャップ、デュレーションギャップ、シナリオ別NII（Net Interest Income）シミュレーション等、様々な分析方法を利用して金利リスクを測定及び管理しており、金利VaR、金利EaR、金利ギャップ比率に対しては限度を設定して月別にモニタリングしています。また、ストレステストを通じて様々な危機状況で金利リスクに及ぼす影響を評価しています。

1) 非トレーディングポジションから発生する市場リスクの測定方法

連結実体は歴史的な金利シナリオにより発生する純資産価値の変動分布を把握して今後1年間の最大損失予想額である金利VaR（Value at Risk）を確率論的に評価・管理します。また、資金量シナリオに基づいて過去の基準金利と年平均金利との変動性を活用した歴史的な金利シナリオにより発生する純利子利益の変動分布を把握して今後1年間の最大純利子利益の減少予想額である金利EaR（Earning at Risk）を確率論的に評価・管理します。

また、国際決済銀行（BIS）が提示した標準方法論により、満期区間別の標準修正デュレーション及び金利変動性を利用して金利VaRを算出し、満期区間別の金利変動による影響を受ける期間及び金利変動性を利用して金利EaRを算出しています。

2) 非トレーディングポジションの金利VaR及び金利EaR

当期末及び前期末現在においてBISが提示した標準方法論に従って算出された非トレーディングポジションに対する金利VaR及び金利EaRの内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
金利VaR	695,044	415,700
金利EaR	313,619	356,453

(3) 外国為替リスク

連結実体は海外現地法人及び構造化企業等の連結対象の現物、先物外国為替ポジションを全て含めた総合ポジションに基づいて為替リスクを管理しています。リスク政策委員会は市場リスク限度に基づいて部署別、デスク別の外国為替ポジション限度等を設定して各営業単位別にトレーディング及び非トレーディング活動での為替リスクを管理・監督しています。連結実体の金融工学センターで銀行全体の為替ポジションを集中して管理しています。同部署のデスク及びディーラーは設定された市場リスク及び外国為替ポジション限度内で現物為替と通貨デリバティブ取引を通じて総合ポジションを管理します。主に米ドル（USD）、日本円（JPY）、ユーロ（EUR）、人民元（CNY）で取引されており、その他の外国為替は制限的に運用します。

当期末及び前期末現在における外貨建資産・負債の通貨別構成内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

区分	米ドル	日本円	ユーロ	人民元	その他	合計
<資産>						
現金預け金	1,554,830	796,296	96,725	1,687,069	677,811	4,812,731
売買目的金融資産	-	-	-	-	224,556	224,556
デリバティブ資産	126,925	100	5,205	1,418	158	133,806
貸付債権	14,237,836	4,218,682	929,165	2,304,384	2,345,771	24,035,838
売却可能金融資産	879,538	41,160	4,143	-	536,891	1,461,732
満期保有金融資産	73	180,191	-	51,180	38,326	269,770
その他金融資産	1,796,229	213,903	33,864	279,412	116,841	2,440,249
資産合計	18,595,431	5,450,332	1,069,102	4,323,463	3,940,354	33,378,682
<負債>						
預金	7,314,969	4,548,496	344,351	3,004,043	2,322,394	17,534,253
売買目的金融負債	-	-	-	-	428,936	428,936
デリバティブ負債	68,522	72,628	366	916	77	142,509
借入負債	5,225,495	261,139	511,723	387,367	261,128	6,646,852
社債	3,069,650	585,209	-	-	389,648	4,044,507
その他金融負債	1,908,888	129,655	103,272	436,379	182,812	2,761,006
負債合計	17,587,524	5,597,127	959,712	3,828,705	3,584,995	31,558,063
相殺後外貨資産	1,007,907	(146,795)	109,390	494,758	355,359	1,820,619
オフバランス・ デリバティブ エクスポージャー 額	(418,456)	136,614	(41,958)	(117,920)	136,402	(305,318)
外貨純 エクスポージャー 額	589,451	(10,181)	67,432	376,838	491,761	1,515,301

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

区分	米ドル	日本円	ユーロ	人民元	その他	合計
<資産>						
現金預け金	2,188,833	1,233,478	85,314	1,460,395	436,166	5,404,186
売買目的金融資産	-	-	-	-	76,337	76,337
デリバティブ資産	188,330	34	7,864	397	1,871	198,496
貸付債権	11,393,740	4,075,431	1,088,485	1,777,469	2,045,999	20,381,124
売却可能金融資産	855,333	6,399	13,508	5,106	522,868	1,403,214
満期保有金融資産	1,133	294,027	-	63,991	28,251	387,402
その他金融資産	1,305,838	348,469	105,359	43,322	112,102	1,915,090
資産合計	15,933,207	5,957,838	1,300,530	3,350,680	3,223,594	29,765,849
<負債>						
預金	6,428,513	5,279,307	312,076	2,492,749	1,811,457	16,324,102
売買目的金融負債	-	-	-	-	398,596	398,596
デリバティブ負債	130,605	46,114	-	2,901	1,862	181,482
借入負債	4,072,632	420,004	505,242	228,988	221,460	5,448,326
社債	2,534,654	653,029	-	104,292	507,813	3,799,788
その他金融負債	1,108,073	309,024	374,696	170,065	318,366	2,280,224
負債合計	14,274,477	6,707,478	1,192,014	2,998,995	3,259,554	28,432,518
相殺後外貨資産	1,658,730	(749,640)	108,516	351,685	(35,960)	1,333,331
オフバランス・ デリバティブ エクスポージャー 額	(958,171)	756,302	(113,311)	52,451	301,954	39,225
外貨純 エクスポージャー 額	700,559	6,662	(4,795)	404,136	265,994	1,372,556

3-3. 流動性リスク

連結実体はリスク政策委員会で流動性リスク管理に関する政策樹立、詳細限度設定等の意思決定機能を行い、同原則及び限度内で国外店舗を始めとした子会社と資金部、信託部、総合金融市場部等、勘定別管理部署が1次的に流動性リスクを認識して管理します。リスク総括部及びリスク工学部はリスク政策委員会の流動性リスクに関連する意思決定を支援し、流動性リスク許容限度をモニタリングし、銀行全体の流動性リスクを評価して管理します。

連結実体は以下の基本原則に基づいて流動性リスクを管理しています。

- 1) 充分な量の資金を必要な時点で、適切な水準の調達費用で調達
- 2) 許容限度及び早期警報指標の管理を通じてリスクを適正水準に維持し、関連リスク要因を事前に管理
- 3) 資金の調達源泉と満期を効果的に分散させる資金調達戦略を樹立して損失を最小化し、安定的に収益確保
- 4) 正常な状況及び危機状況で適時に支払決済債務を履行することができるように毎日日中流動性ポジション及びリスクを管理
- 5) 流動性危機発生に備えて危機状況分析を定期的の実施し、危機発生時に措置できる非常調達計画を樹立
- 6) 流動性関連費用、便益及びリスクは商品価格決定、成果評価及び新商品の承認手続に反映

連結実体はALMシステムを通じて流動性ギャップ、流動性比率、預貸率、顧客行動モデルを反映した実質流動性ギャップ等、様々な分析方法を利用する一方、リスク限度、早期警報指標、モニタリング指標等、様々な管理指標を通じてウォン貨及び外貨流動性リスクを管理しています。資産及び負債の満期構造分析時、要求払預金の場合は顧客の支払要請時には常時引出が可能で最短期に分類することができますが、通常は一定比率の平均残高を維持する顧客の行動を勘案して非核心預金を最短期に区分して流動性リスクを管理します。

(1) 金融商品の残存期間

当期末及び前期末現在における金融商品資産及び金融商品負債の残存期間別の構成内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

区分	1ヶ月以内	1～3ヶ月	3～6ヶ月	6ヶ月～1年	1～5年	5年超過	合計
<資産>							
現金預け金	14,403,576	751,768	414,544	309,024	35,555	-	15,914,467
売買目的金融資産	8,316,341	-	-	-	-	-	8,316,341
デリバティブ資産	1,299,123	264,459	85,066	120,408	255,611	50,797	2,075,464
貸付債権	19,077,637	23,946,375	30,703,857	46,783,276	45,082,527	46,401,285	211,994,957
売却可能金融資産	21,518,374	-	-	-	-	845,238	22,363,612
満期保有金融資産	126,238	545,926	267,173	975,791	6,163,264	1,079,096	9,157,488
その他金融資産	4,791,485	-	-	-	3,345,138	-	8,136,623
資産合計	69,532,774	25,508,528	31,470,640	48,188,499	54,882,095	48,376,416	277,958,952
<負債>							
当期損益認識指定金融負債	-	-	-	-	6,478	-	6,478
預金	90,600,157	22,009,320	27,033,455	41,581,709	11,221,657	3,652,814	196,099,112
売買目的金融負債	428,936	-	-	-	-	-	428,936
デリバティブ負債	1,230,421	24,644	27,272	56,291	350,109	433,058	2,121,795
借入負債	4,322,011	1,842,747	1,717,968	1,497,262	3,102,363	548,389	13,030,740
社債	344,793	1,445,809	2,195,326	3,898,623	8,396,824	2,173,506	18,454,881
その他金融負債	13,523,535	-	-	-	120,006	-	13,643,541
負債合計	110,449,853	25,322,520	30,974,021	47,033,885	23,197,437	6,807,767	243,785,483

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

区分	1ヶ月以内	1～3ヶ月	3～6ヶ月	6ヶ月～1年	1～5年	5年超過	合計
<資産>							
現金預け金	11,042,109	588,946	489,874	323,294	20,361	-	12,464,584
売買目的金融資産	7,519,765	-	-	-	-	-	7,519,765
デリバティブ資産	1,423,032	308,026	60,241	123,365	666,459	736,877	3,318,000
貸付債権	19,695,885	22,601,117	27,932,644	42,576,196	43,359,022	42,459,631	198,624,495
売却可能金融資産	22,569,081	-	-	-	-	1,524,005	24,093,086
満期保有金融資産	152,963	840,028	185,153	1,650,112	5,406,412	258,459	8,493,127
その他金融資産	3,337,429	-	-	-	3,688,710	-	7,026,139
資産合計	65,740,264	24,338,117	28,667,912	44,672,967	53,140,964	44,978,972	261,539,196
<負債>							
預金	79,794,983	20,255,842	25,316,676	42,643,541	10,509,105	2,864,199	181,384,346
売買目的金融負債	398,596	-	-	-	-	-	398,596
デリバティブ負債	1,269,690	46,717	42,157	64,830	379,475	416,179	2,219,048
借入負債	2,683,168	1,418,140	1,675,192	1,349,509	2,696,970	496,252	10,319,231
社債	591,117	1,533,444	1,768,509	2,587,669	9,524,727	4,642,638	20,648,104
その他金融負債	11,935,298	-	-	-	138,934	-	12,074,232
負債合計	96,672,852	23,254,143	28,802,534	46,645,549	23,249,211	8,419,268	227,043,557

（注1） 表示された金額は金融商品資産及び金融商品負債の元金及び利息のキャッシュ・フローを全て含めています。

（注2） 割引されていないキャッシュ・フローに基づき連結実体の支払義務が発生する最も早い満期日に分類しました。また、直ちに処分可能な売買目的金融商品及び処分制限された資産を除いた売却可能金融資産は1ヶ月以内の最短期に分類しました。

（2） オフバランス項目の残存期間

連結実体が提供した社債発行、融資担保等、金融保証に該当する支払保証、貸付約定及びその他信用供与の場合、約定満期が存在するものの、取引相手が支払を要請する場合には直ちに支払を履行しなければなりません。

当期末及び前期末現在における関連オフバランス項目の構成内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
金融保証	3,069,507	2,392,517
貸付約定及びその他信用関連負債	73,608,486	74,158,883
合計	76,677,993	76,551,400

3-4. 金融商品の公正価値測定

活発な市場で取引される金融商品の公正価値は、報告期間終了日現在において告示される市場価格に基づき算定されます。連結実体が保有している金融資産の開示される市場価格は、売買仲介機関の開示価格に基づいています。

活発な市場で取引されない金融商品（例：店頭デリバティブ）の公正価値は、評価手法を使用して決定するか、或いは独立した外部専門評価機関の評価結果を利用します。

連結実体は多様な評価手法を活用しており、報告期間終了日現在における市場状況に基づき合理的な仮定を樹立しています。

連結実体が使用する公正価値の評価手法には、合理的な判断力及び取引意思がある独立した当事者の間の最近取引を使用する方法、実質的に同一な他の金融商品の現行公正価値を利用することができればこれを参照する方法、見積キャッシュ・フロー割引方法、オプション価格決定モデル等があります。例えば、金利スワップの公正価値は将来予想キャッシュ・フローの現在価値で計算され、外国為替先渡契約の公正価値は報告期間末の告示先渡為替レートを適用して算出されます。

連結実体は、金融商品の公正価値を以下の3つのレベルに分類して開示します。

- レベル1：活発な市場で開示される価格を公正価値として測定する金融商品の場合、同金融商品の公正価値はレベル1に分類しています。
- レベル2：評価手法を使用して金融商品の公正価値を測定する場合、重要な投入変数が市場で観測した情報に基づいていれば、同金融商品の公正価値はレベル2に分類しています。
- レベル3：評価手法を使用して金融商品の公正価値を測定する場合、重要な投入変数が市場で観測不可能な情報に基づいていれば、同金融商品の公正価値はレベル3に分類しています。

(1) 公正価値で測定する金融商品

- 1) 当期末及び前期末現在、財務状態表にて公正価値で測定する金融商品の公正価値序列体系のレベル別の内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

区分		レベル1	レベル2	レベル3	合計
売買目的金融資産	債務証券	428,351	6,651,104	-	7,079,455
	持分証券	61,281	951,049	-	1,012,330
	金預け金	224,556	-	-	224,556
	小計	714,188	7,602,153	-	8,316,341
デリバティブ資産	売買目的	-	1,174,220	17,673	1,191,893
	リスクヘッジ目的	-	55,930	61,271	117,201
	小計	-	1,230,150	78,944	1,309,094
売却可能金融資産	債務証券	6,789,894	13,243,404	-	20,033,298
	持分証券	1,083,754	166,579	1,079,981	2,330,314
	小計	7,873,648	13,409,983	1,079,981	22,363,612
資産合計		8,587,836	22,242,286	1,158,925	31,989,047
当期損益認識指定 金融負債	預金	-	-	6,139	6,139
売買目的金融負債	金預金	428,936	-	-	428,936
デリバティブ負債	売買目的	-	1,199,547	5,668	1,205,215
	リスクヘッジ目的	-	22,460	28,763	51,223
	小計	-	1,222,007	34,431	1,256,438
負債合計		428,936	1,222,007	40,570	1,691,513

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

区分		レベル1	レベル2	レベル3	合計
売買目的金融資産	債務証券	384,481	6,089,512	-	6,473,993
	持分証券	58,761	910,674	-	969,435
	金預け金	76,337	-	-	76,337
	小計	519,579	7,000,186	-	7,519,765
デリバティブ資産	売買目的	10	1,279,799	25,973	1,305,782
	リスクヘッジ目的	-	100,615	51,597	152,212
	小計	10	1,380,414	77,570	1,457,994
売却可能金融資産	債務証券	6,716,965	14,515,788	-	21,232,753
	持分証券	1,661,792	103,697	1,094,844	2,860,333
	小計	8,378,757	14,619,485	1,094,844	24,093,086
資産合計		8,898,346	23,000,085	1,172,414	33,070,845
売買目的金融負債	金預金	398,596	-	-	398,596
デリバティブ負債	売買目的	-	1,220,070	22,581	1,242,651
	リスクヘッジ目的	-	44,183	191,345	235,528
	小計	-	1,264,253	213,926	1,478,179
負債合計		398,596	1,264,253	213,926	1,876,775

- 2) 当期及び前期において公正価値で測定する金融商品のうちレベル1とレベル2の間の移動金額はありません。

3) 公正価値レベル3に分類された金融商品の内訳

当期及び前期において公正価値レベル3に該当する金融商品の増減内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

区分	売却可能 金融資産	デリバティブ資産 (負債)	当期損益認識 指定金融負債	合計
期首	1,094,844	(136,356)	-	958,488
総損益				
当期損益認識金額（注1）	(115,451)	166,918	32	51,499
その他包括損益認識金額	112,403	-	-	112,403
購入/発行	168,797	368	(6,623)	162,542
決済	(204,177)	13,635	452	(190,090)
レベル3への移動（注2）	27,022	-	-	27,022
レベル3からの移動（注2）	(3,457)	(52)	-	(3,509)
期末	1,079,981	44,513	(6,139)	1,118,355

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

区分	売却可能 金融資産	デリバティブ資産 (負債)	当期損益認識 指定金融負債	合計
期首	1,353,163	21,182	-	1,374,345
総損益				
当期損益認識金額（注1）	(65,150)	(153,246)	-	(218,396)
その他包括損益認識金額	67,072	-	-	67,072
購入/発行	115,563	(1,729)	-	113,834
決済	(215,177)	(2,563)	-	(217,740)
レベル3への移動（注2）	158,450	-	-	158,450
レベル3からの移動（注2）	(319,077)	-	-	(319,077)
期末	1,094,844	(136,356)	-	958,488

（注1） 当期及び前期に公正価値レベル3に分類された金融商品の増減内訳のうち、当期損益として認識された金額及び報告期間末現在、保有している金融商品に関連する当期損益認識額は包括損益計算書上、以下のような個別項目で表示されています。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期		第182（前）期	
	当期損益 認識金額	報告期間末保有 金融商品 に関連する 当期損益認識額	当期損益 認識金額	報告期間末保有 金融商品 に関連する 当期損益認識額
売買目的金融商品関連損益	11,712	11,712	1,916	1,916
当期損益認識指定金融商品関連損益	32	32	-	-
売却可能金融資産処分損益	24,625	-	45,868	-
金融商品資産減損損失	(140,076)	(140,003)	(111,018)	(109,998)
その他営業損益	155,206	155,206	(155,162)	(155,162)
合計	51,499	26,947	(218,396)	(263,244)

(注2) 当該金融商品に対する観測可能な市場資料の利用可能如何が変更されたことによりレベル間の移動が発生しました。連結実体はレベル間移動が発生させる事象や状況の変動が発生した報告期間末にレベルの変動を認識します。

4) 公正価値の評価手法及び投入変数

- ① 当期末及び前期末現在、公正価値レベル2に分類された金融商品の公正価値の測定時に使用された評価手法及び投入変数は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）期	第182（前）期	評価方法	投入変数
売買目的 金融資産	債務証券	6,651,104	6,089,512	キャッシュ・フロー 割引モデル	割引率
	持分証券	951,049	910,674	純資産価値評価	株式、債券等の 期首資産の価格
	小計	7,602,153	7,000,186		
デリバティブ 資産	売買目的	1,174,220	1,279,799	オプションモデル キャッシュ・フロー 割引モデル	割引率、為替レート、 変動性、株価及び 商品指数等
	リスクヘッジ目的	55,930	100,615		
	小計	1,230,150	1,380,414		
売却可能 金融資産	債務証券	13,243,404	14,515,788	キャッシュ・フロー 割引モデル	割引率
	持分証券	166,579	103,697	純資産価値評価	株式、債券等の 期首資産の価格
	小計	13,409,983	14,619,485		
資産合計		22,242,286	23,000,085		

デリバティブ 負債	売買目的	1,199,547	1,220,070	オプションモデル キャッシュ・フロー 割引モデル	割引率、為替レート、 変動性、株価及び 商品指数等
	リスクヘッジ目的	22,460	44,183		
	小計	1,222,007	1,264,253		
負債合計		1,222,007	1,264,253		

- ② 当期末及び前期末現在において公正価値レベル3に分類された金融商品の公正価値測定時に使用された評価手法及び重要であるが観測不可能な投入変数は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

金融商品 種類	価値評価手法	種類	帳簿価額	重要であるが、 観測できない 投入変数	範囲
デリバティブ 資産	オプションモデル (注)	株式及び 為替レート 関連	13,819	期首資産の変動性 相関係数	4.79%～32.73% (0.06%)
	オプションモデル (注)	利率関連	65,125	期首資産の変動性 回帰係数 相関係数	0.16%～0.64% 0.00%～3.02% 12.16%～41.70%
	小計		78,944		
売却可能 金融資産	割引された キャッシュ・フロー	持分証券	1,079,981	割引率 成長率	2.29～17.84% 0.00%～2.50%
資産合計			1,158,925		
当期損益認識 指定金融負債	オプションモデル (注)	株式関連	6,139	期首資産の変動性 相関係数	22.08%～28.19% 34.00%
デリバティブ 負債	オプションモデル (注)	株式及び 為替レート 関連	1,854	期首資産の変動性 相関係数	6.48%～35.57% (0.06%)～0.23%
	オプションモデル (注)	利率関連	32,577	期首資産の変動性 回帰係数 相関係数	0.16%～0.64% 0.00%～3.02% 12.16%～41.70%
	小計		34,431		
負債合計			40,570		

（注） デリバティブ公正価値を測定するために適用されたオプションモデルはブラックショールズモデル、ハルホワイトモデル等を含めており、商品類型によって一部商品に対してはモンテカルロシミュレーション（Monte Carlo simulation）等の方法を適用しています。

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

金融商品 種類	価値評価手法	種類	帳簿価額	重要であるが、 観測できない 投入変数	範囲
デリバティブ 資産	オプションモデル (注)	株式及び 為替レート 関連	9,495	期首資産の変動性 相関係数	5.63%～24.61% (34.85%)～(39.25%)
	オプションモデル (注)	利率関連	68,075	期首資産の変動性 回帰係数 相関係数	0.44%～0.45% 0.02%～2.05% 61.19%
	小計		77,570		
売却可能 金融資産	割引された キャッシュ・フロー	持分証券	1,094,844	割引率 成長率	2.86%～26.61% 0.00%
金融資産合計			1,172,414		
デリバティブ 負債	オプションモデル (注)	株式関連	802	期首資産の変動性 相関係数	5.63%～24.61% (34.85%)～(39.25%)
	オプションモデル (注)	利率関連	213,124	期首資産の変動性 回帰係数 相関係数	0.22%～0.51% 0.00%～5.12% 27.02%～94.6%
	小計		213,926		
金融負債合計			213,926		

(注) デリバティブ公正価値を測定するために適用されたオプションモデルはブラックショールズモデル、ハルホワイトモデル等を含めており、商品類型によって一部商品に対してはモンテカルロシミュレーション (Monte Carlo simulation) 等の方法を適用しています。

5) 観測不可能な投入変数の変更に対する敏感度

当期末及び前期末現在、レベル3に分類された金融商品の公正価値の測定時に観測不可能な投入変数を合理的に代替可能な他の投入変数に変更する場合、当期損益またはその他包括損益等として認識される変動の効果は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

金融商品の種類	当期損益		その他包括損益	
	有利な変動	不利な変動	有利な変動	不利な変動

デリバティブ資産 (注1)	株式及び 為替レート 関連	430	(329)	-	-
	利率関連	7,129	(12,929)	-	-
売却可能金融資産 (注 2)	持分証券	-	-	157,385	(37,118)
資産合計		7,559	(13,258)	157,385	(37,118)
当期損益認識指定 金融負債 (注1)	株式関連	5	(5)	-	-
デリバティブ負債 (注1)	株式及び 為替レート 関連	97	(113)	-	-
	利率関連	6,853	(6,275)	-	-
負債合計		6,955	(6,393)	-	-

<第182 (前) 期>

(単位：百万ウォン)

金融商品の種類		当期損益		その他包括損益	
		有利な変動	不利な変動	有利な変動	不利な変動
デリバティブ資産 (注1)	株式及び 為替レート 関連	165	(44)	-	-
	利率関連	1,721	(1,848)	-	-
売却可能金融資産 (注 2)	持分証券	-	-	125,037	(42,633)
資産合計		1,886	(1,892)	125,037	(42,633)
デリバティブ負債 (注1)	株式及び 為替レート 関連	44	(165)	-	-
	利率関連	15,062	(14,377)	-	-
負債合計		15,106	(14,542)	-	-

(注1) 主な観測不可能な投入変数の期首資産の変動性または相関係数等を10%増加または減少させることにより、公正価値の変動を算出しています。

(注2) 主な観測不可能な投入変数の成長率 (0%～1%) 及び割引率 (－1%～1%) を増加または減少させることにより、公正価値の変動を算出しています。

(2) 償却後原価で測定する金融商品

1) 償却後原価で測定する金融商品の公正価値算出方法は以下の通りです。

勘定科目	公正価値算出方法
現金預け金	現金は帳簿価額及び公正価値が同一で、預け金は変動利率預け金及び超短期性である翌日預け金がその大部分であるため、公正価値の代用値として帳簿価額を使用しました。
貸付債権	貸付債権の公正価値は受け取るものと予想される期待キャッシュ・フローを市場利子率及び借主の信用リスク等を考慮した割引率で割り引いて算出しました。
満期保有金融資産	韓国資産評価(株)、KIS債権評価(株)が提供する最近取引日の基準単価のうち、いずれか低い金額を公正価値として算出しました。
預金及び借入負債	要求払預金、手形管理口座受託金、コールマネーは超短期性負債として、帳簿価額を公正価値として評価しています。残りの預金及び借入負債は、契約上のキャッシュ・フローを市場利子率に残余リスクを考慮した割引率で割り引いた現在価値を公正価値として算出しました。
社債	活発な市場価格に基づいています。活発な市場価格が有効ではない場合は、契約上のキャッシュ・フローを市場利子率に残余リスクを考慮した割引率で割り引いた現在価値を公正価値として算出しました。

2) 当期末及び前期末現在、償却後原価で測定する金融商品の帳簿価額及び公正価値は以下の通りです。

<第183(当)期>

(単位：百万ウォン)

勘定科目		帳簿価額				公正価値
		残高	未償却残高	引当金	合計	
現金 預け金	現金	2,471,103	-	-	2,471,103	2,471,103
	預け金	13,412,669	-	(23,695)	13,388,974	13,388,974
	小計	15,883,772	-	(23,695)	15,860,077	15,860,077
貸付債権	家計貸付	80,221,735	235,085	(209,684)	80,247,136	81,035,996
	企業貸付	102,638,114	31,773	(1,347,043)	101,322,844	102,401,952
	公共及び その他資金貸付	2,092,730	1,361	(11,073)	2,083,018	2,095,248
	銀行間資金貸付	4,657,991	-	(11,524)	4,646,467	4,667,059
	カード債権	26,347	-	(347)	26,000	26,000
	小計	189,636,917	268,219	(1,579,671)	188,325,465	190,226,255

満期保有金 融資産	国公債	5,149,408	-	-	5,149,408	5,392,674
	金融債	501,452	-	-	501,452	506,475
	社債	2,361,257	-	-	2,361,257	2,417,634
	小計	8,012,117	-	-	8,012,117	8,316,783
その他金融資産		8,136,623	(54,894)	(62,177)	8,019,552	8,074,498
資産合計		221,669,429	213,325	(1,665,543)	220,217,211	222,477,613
預金	要求払預金	68,342,432	-	-	68,342,432	68,342,432
	期限付預金	114,192,938	-	-	114,192,938	114,517,158
	譲渡性預金証書	2,145,645	-	-	2,145,645	2,153,581
	発行手形預金	3,241,082	-	-	3,241,082	3,240,906
	手形管理口座受託金	1,682,610	-	-	1,682,610	1,682,610
	その他	35,165	-	-	35,165	35,173
	小計	189,639,872	-	-	189,639,872	189,971,860
借入負債	コールマネー	1,782,736	-	-	1,782,736	1,782,736
	売渡手形	31,059	-	-	31,059	30,934
	買戻条件付売渡債券	376,709	-	-	376,709	376,709
	借入負債	10,536,642	(1,504)	-	10,535,138	10,578,970
	外貨受託金	77,179	-	-	77,179	77,179
	小計	12,804,325	(1,504)	-	12,802,821	12,846,528
社債	ウォン貨社債	12,576,406	(26,825)	-	12,549,581	12,856,874
	外貨社債	4,044,507	(12,680)	-	4,031,827	4,140,691
	小計	16,620,913	(39,505)	-	16,581,408	16,997,565
その他金融負債		13,675,982	(2,296)	-	13,673,686	13,648,516
負債合計		232,741,092	(43,305)	-	232,697,787	233,464,469

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

勘定科目		帳簿価額				公正価値
		残高	未償却残高	引当金	合計	
現金 預け金	現金	2,589,117	-	-	2,589,117	2,589,117
	預け金	9,852,490	-	(11,644)	9,840,846	9,840,846
	小計	12,441,607	-	(11,644)	12,429,963	12,429,963
貸付債権	家計貸付	73,031,842	189,106	(193,242)	73,027,706	72,909,139
	企業貸付	94,415,522	62,406	(1,399,472)	93,078,456	94,132,989
	公共及び その他資金貸付	2,479,154	1,778	(10,304)	2,470,628	2,484,788
	銀行間資金貸付	6,078,034	-	(4,758)	6,073,276	6,081,699
	カード債権	39,531	-	(253)	39,278	39,531
	小計	176,044,083	253,290	(1,608,029)	174,689,344	175,648,146
満期保有金 融資産	国公債	4,259,467	-	-	4,259,467	4,447,334
	金融債	653,277	-	-	653,277	659,748
	社債	2,520,876	-	-	2,520,876	2,561,070
	小計	7,433,620	-	-	7,433,620	7,668,152
その他金融資産		7,025,813	(66,156)	(58,426)	6,901,231	6,950,939
資産合計		202,945,123	187,134	(1,678,099)	201,454,158	202,697,200
預金	要求払預金	58,506,868	-	-	58,506,868	58,506,868
	期限付預金	110,265,529	-	-	110,265,529	110,218,994
	譲渡性預金証書	1,781,684	-	-	1,781,684	1,805,452
	発行手形預金	3,132,185	-	-	3,132,185	3,131,971
	手形管理口座受託金	1,291,588	-	-	1,291,588	1,291,588
	その他	42,578	-	-	42,578	42,587
	小計	175,020,432	-	-	175,020,432	174,997,460
借入負債	コールマネー	318,360	-	-	318,360	318,360
	売渡手形	28,631	-	-	28,631	28,524
	買戻条件付売渡債券	344,632	-	-	344,632	344,632
	借入負債	9,285,395	(1,994)	-	9,283,401	9,291,803
	外貨受託金	94,315	-	-	94,315	94,315
	小計	10,071,333	(1,994)	-	10,069,339	10,077,634

社債	ウォン貸社債	13,992,700	(37,752)	-	13,954,948	14,072,870
	外貨社債	3,799,788	(15,081)	-	3,784,707	3,858,418
	小計	17,792,488	(52,833)	-	17,739,655	17,931,288
その他金融負債		12,100,640	(2,642)	-	12,097,998	12,068,342
負債合計		214,984,893	(57,469)	-	214,927,424	215,074,724

- 3) 当期末及び前期末現在において財務状態表で公正価値で測定されないが、公正価値で開示される金融資産
負債の評価レベル別の公正価値の内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

区分		レベル1	レベル2	レベル3	合計
現金 預け金	現金	2,471,103	-	-	2,471,103
	預け金	-	13,388,974	-	13,388,974
	小計	2,471,103	13,388,974	-	15,860,077
貸付債権	家計貸付	-	-	81,035,996	81,035,996
	企業貸付	-	-	102,401,952	102,401,952
	公共及び その他資金貸付	-	-	2,095,248	2,095,248
	銀行間資金貸付	-	2,959,108	1,707,951	4,667,059
	カード債権	-	-	26,000	26,000
	小計	-	2,959,108	187,267,147	190,226,255
満期保有 金融資産	国公債	2,329,136	3,063,538	-	5,392,674
	金融債	120,885	385,590	-	506,475
	社債	-	2,417,634	-	2,417,634
	小計	2,450,021	5,866,762	-	8,316,783
その他金融資産		-	5,841,425	2,233,073	8,074,498
資産合計		4,921,124	28,056,269	189,500,220	222,477,613

預金	要求払預金	-	68,342,432	-	68,342,432
	期限付預金	-	-	114,517,158	114,517,158
	譲渡性預金証書	-	-	2,153,581	2,153,581
	発行手形預金	-	-	3,240,906	3,240,906
	手形管理口座受託金	-	1,682,610	-	1,682,610
	その他	-	-	35,173	35,173
	小計	-	70,025,042	119,946,818	189,971,860
借入負債	コールマネー	-	1,782,736	-	1,782,736
	売渡手形	-	-	30,934	30,934
	買戻条件付売渡債券	-	-	376,709	376,709
	借入負債	-	-	10,578,970	10,578,970
	外貨受託金	-	-	77,179	77,179
	小計	-	1,782,736	11,063,792	12,846,528
社債	ウォン貨社債	-	10,186,912	2,669,962	12,856,874
	外貨社債	-	4,140,691	-	4,140,691
	小計	-	14,327,603	2,669,962	16,997,565
その他金融負債		-	5,189,080	8,459,436	13,648,516
負債合計		-	91,324,461	142,140,008	233,464,469

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

区分		レベル1	レベル2	レベル3	合計
現金 預け金	現金	2,589,117	-	-	2,589,117
	預け金	-	9,840,846	-	9,840,846
	小計	2,589,117	9,840,846	-	12,429,963
貸付債権	家計貸付	-	-	72,909,139	72,909,139
	企業貸付	-	-	94,132,989	94,132,989
	公共及び その他資金貸付	-	-	2,484,788	2,484,788
	銀行間資金貸付	-	4,843,106	1,238,593	6,081,699
	カード債権	-	-	39,531	39,531
	小計	-	4,843,106	170,805,040	175,648,146

満期保有 金融資産	国公債	2,382,547	2,064,787	-	4,447,334
	金融債	100,166	559,582	-	659,748
	社債	-	2,561,070	-	2,561,070
	小計	2,482,713	5,185,439	-	7,668,152
その他金融資産		-	4,571,823	2,379,116	6,950,939
資産合計		5,071,830	24,441,214	173,184,156	202,697,200
預金	要求払預金	-	58,506,868	-	58,506,868
	期限付預金	-	-	110,218,994	110,218,994
	譲渡性預金証書	-	-	1,805,452	1,805,452
	発行手形預金	-	-	3,131,971	3,131,971
	手形管理口座受託金	-	1,291,588	-	1,291,588
	その他	-	-	42,587	42,587
	小計	-	59,798,456	115,199,004	174,997,460
借入負債	コールマネー	-	318,360	-	318,360
	売渡手形	-	-	28,524	28,524
	買戻条件付売渡債券	-	-	344,632	344,632
	借入負債	-	-	9,291,803	9,291,803
	外貨受託金	-	-	94,315	94,315
	小計	-	318,360	9,759,274	10,077,634
社債	ウォン貸社債	-	12,144,888	1,927,982	14,072,870
	外貨社債	-	3,858,418	-	3,858,418
	小計	-	16,003,306	1,927,982	17,931,288
その他金融負債		-	3,159,821	8,908,521	12,068,342
負債合計		-	79,279,943	135,794,781	215,074,724

4) 当期末及び前期末現在、公正価値の開示のために使用された評価手法及び投入変数は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

公正価値レベル	区分	公正価値（注）	評価モデル	投入変数

レベル2	満期保有金融資産	5,866,762	キャッシュ・フロー 割引モデル	割引率
レベル3	貸付債権	187,267,147		割引率、 信用スプレッド、 早期償還率
	その他金融資産	2,233,073		割引率
資産合計		195,366,982		
レベル2	社債	14,327,603	キャッシュ・フロー 割引モデル	割引率
レベル3	預金（注）	119,395,308		割引率
	借入負債（注）	5,995,820		割引率
	社債	2,669,962		割引率、 回帰係数、 相関係数
	その他金融負債	8,459,436		割引率
負債合計		150,848,129		

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

公正価値レベル	区分	公正価値（注）	評価モデル	投入変数
レベル2	満期保有金融資産	5,185,439	キャッシュ・フロー 割引モデル	割引率
レベル3	貸付債権	170,805,040		割引率、 信用スプレッド、 早期償還率
	その他金融資産	2,379,116		割引率
資産合計		178,369,595		
レベル2	社債	16,003,306	キャッシュ・フロー 割引モデル	割引率
レベル3	預金（注）	114,674,453		割引率
	借入負債（注）	5,638,607		割引率
	社債	1,927,982		割引率、 回帰係数、 相関係数
	その他金融負債	8,908,521		割引率
負債合計		147,152,869		

（注） 帳簿価額を公正価値の合理的な近似値とみなして帳簿価額を公正価値として開示した項目に関連する評価手法及び投入変数は開示していません。

（3） 当期において公正価値で測定される金融商品の当初認識時に発生した取引当日（day1）損益の変動内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

期首	繰延	償却	期末
-	6	(5)	1

（注） 前期において認識を繰り延べた取引当日（day1）損益はありません。

（4） 金融商品のカテゴリー別分類

金融資産及び金融負債は公正価値または償却後原価で測定されます。金融商品のカテゴリー別帳簿価額の詳細な測定方法は注記2で説明しています。当期末及び前期末現在における各金融資産及び金融負債のカテゴリー別帳簿価額は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

金融資産	売買目的 金融資産	売却可能 金融資産	満期保有 金融資産	貸付金及び 受取債権	リスクヘッジ デリバティブ資産	合計
預け金	-	-	-	13,388,974	-	13,388,974
売買目的金融資産	8,316,341	-	-	-	-	8,316,341
デリバティブ資産	1,191,894	-	-	-	117,200	1,309,094
貸付債権	-	-	-	188,325,465	-	188,325,465
売却可能金融資産	-	22,363,612	-	-	-	22,363,612
満期保有金融資産	-	-	8,012,117	-	-	8,012,117
その他金融資産	-	-	-	8,019,552	-	8,019,552
合計	9,508,235	22,363,612	8,012,117	209,733,991	117,200	249,735,155

（単位：百万ウォン）

金融負債	当期損益認識金融負債		償却後原価 測定金融負債	リスクヘッジ デリバティブ負債	合計
	売買目的 金融負債	当期損益認識 指定金融負債			
預金	-	-	189,639,872	-	189,639,872
売買目的金融負債	428,936	-	-	-	428,936
当期損益認識指定金融 負債	-	6,139	-	-	6,139
デリバティブ負債	1,205,215	-	-	51,223	1,256,438
借入負債	-	-	12,802,821	-	12,802,821
社債	-	-	16,581,408	-	16,581,408
その他金融負債	-	-	13,673,686	-	13,673,686
合計	1,634,151	6,139	232,697,787	51,223	234,389,300

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

金融資産	売買目的 金融資産	売却可能 金融資産	満期保有 金融資産	貸付金及び 受取債権	リスクヘッジ デリバティブ資産	合計
預け金	-	-	-	9,840,846	-	9,840,846
売買目的金融資産	7,519,765	-	-	-	-	7,519,765
デリバティブ資産	1,305,782	-	-	-	152,212	1,457,994
貸付債権	-	-	-	174,689,344	-	174,689,344
売却可能金融資産	-	24,093,086	-	-	-	24,093,086
満期保有金融資産	-	-	7,433,620	-	-	7,433,620
その他金融資産	-	-	-	6,901,231	-	6,901,231
合計	8,825,547	24,093,086	7,433,620	191,431,421	152,212	231,935,886

(単位：百万ウォン)

金融負債	売買目的 金融負債	償却後原価 測定金融負債	リスクヘッジ デリバティブ負債	合計
預金	-	175,020,432	-	175,020,432
売買目的金融負債	398,596	-	-	398,596
デリバティブ負債	1,242,651	-	235,528	1,478,179
借入負債	-	10,069,339	-	10,069,339
社債	-	17,739,655	-	17,739,655
その他金融負債	-	12,097,998	-	12,097,998
合計	1,641,247	214,927,424	235,528	216,804,199

(5) 金融収益及び金融費用

当期及び前期における金融収益及び金融費用の詳細内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

区分	受取利息 (支払利息)	受取手数料 (支払手数料)	減損損失	その他	合計	その他 包括損益
売買目的金融資産	205,994	4,408	-	(33,618)	176,784	-
売却可能金融資産	596,681	-	(220,286)	510,834	887,229	84,183
満期保有金融資産	333,114	-	-	-	333,114	-
貸付金及び受取債権	7,377,527	143,279	(463,724)	26,356	7,083,438	-
売買目的金融負債	-	(10)	-	-	(10)	-
当期損益認識指定 金融負債	-	-	-	34	34	-
償却後原価測定 金融負債	(4,146,183)	(8)	-	(153,772)	(4,299,963)	20,754
純リスクヘッジ デリバティブ	-	-	-	166,812	166,812	(5,133)
合計	4,367,133	147,669	(684,010)	516,646	4,347,438	99,804

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

区分	受取利息 (支払利息)	受取手数料 (支払手数料)	減損損失	その他	合計	その他 包括損益
売買目的金融資産	214,490	5,799	-	(41,508)	178,781	-
売却可能金融資産	756,983	-	(203,584)	122,287	675,686	(401,960)
満期保有金融資産	380,286	-	-	-	380,286	-
貸付金及び受取債権	7,735,614	130,857	(673,744)	56,080	7,248,807	-
売買目的金融負債	-	(88)	-	-	(88)	-
償却後原価測定 金融負債	(4,736,825)	(5)	-	264,695	(4,472,135)	70,933
純リスクヘッジ デリバティブ	-	-	-	(263,206)	(263,206)	98
合計	4,350,548	136,563	(877,328)	138,348	3,748,131	(330,929)

3-5. 資本リスク管理

銀行に対する自己資本規制制度は、1980年代の金融規制緩和による金融機関のリスク増加により、銀行の健全性を確保し、預金者保護及び国際金融秩序の安定性を確保するために、BIS加盟国を中心に1988年に導入されました。当初のBasel規制の導入以降、規制自己資本の要求量が銀行の保有リスクをより効率的に反映できる方向に発展してきました。Basel委員会（BCBS）はグローバル金融危機以降、銀行システムの復元力強化のためにBasel III基準を設けて発表し、韓国は銀行業監督規定の改正を通じて2013年12月1日から従来よりも強化した資本規制であるBasel IIIを施行しています。同基準は連結実体を含めた国内銀行が普通株資本比率、基本資本比率、総自己資本比率に対して施行日から段階的にそれぞれ一定比率以上を維持することを義務付けており、連結実体は国内銀行の監督機構である金融監督院に銀行に関連する法規による自己資本比率の遵守如何を報告しています。

上記の監督法規により、連結実体が管理する規制資本は以下の2つに分類されます。

1) Tier 1 capital（基本資本：普通株資本＋その他基本資本）

- ① 普通株資本：銀行の損失を最も先に補填することができ、銀行清算時の最劣後で、清算時を除いては償還されない資本である。普通株、資本剰余金、利益剰余金（貸倒準備金を除く）、その他包括損益累計額、その他資本剰余金、資本調整、銀行の従属企業の非支配株主持分の一部金額等を含みます。
- ② その他基本資本：永久的な性格の認定要件を満たす資本証券及びこれに関連する資本剰余金、従属企業が発行したその他基本資本の外部投資家の保有金額のうち一部金額等を含みます。

2) Tier 2 capital（補完資本）

清算時に銀行の損失を補填することができる認定要件を満たす資本証券及びこれに関連する資本剰余金、従属企業が発行した補完資本の外部投資家の保有金額のうち一部金額等を含みます。

連結実体は、自己資本（上記の基本資本と補完資本の合計から控除項目を減算した金額）をリスク加重資産で除して自己資本比率を算出します。リスク加重資産（risk weighted assets）は、銀行の実質的なリスクを反映するために、リスクにさらされている程度が高いほどに、高い加重値を適用して算出し、信用リスク加重資産、運営リスク加重資産及び市場リスク加重資産の合計で構成されます。

連結実体は、別途の内部基準を通じて資本適正性を評価及び管理しています。資本適正性の評価は、経済的資本（エクスポージャー額別に内在されたリスクに備えるために銀行が保有すべき実質的な必要資本量として、銀行内部のリスク認識及び評価基準により算出されたリスク量）に比べて可用資本（銀行の実際の損失発生時に損失処理に引き当てられる資本）の水準が適切であるかどうかを銀行内部的に評価することを意味します。

連結実体はリスクの類型別（信用、市場、運営、金利、流動性、偏重リスク）に算出されたリスクの合算金額及び各類型別金額を管理します。

連結実体は、リスク加重資産に対する自己資本比率を連結財務諸表に基づいて算出、管理しており、当期末及び前期末における自己資本比率は以下の通りです。

（単位：百万ウォン）

区分			第183（当）期	第182（前）期
総自己資本	Tier 1	普通株資本	16,999,542	16,130,379
		その他基本資本	1,102,256	1,891,004
		基本資本	18,101,798	18,021,383
	Tier 2	補完資本	2,845,616	3,035,709
	合計		20,947,414	21,057,092
総リスク加重資産			135,714,810	129,276,682
自己資本比率	Tier 1	普通株資本比率	12.53%	12.48%
		基本資本比率	13.34%	13.94%
	Tier 2	補完資本比率	2.10%	2.35%
	合計		15.43%	16.29%

連結実体は上表のように、資本適正性基準（総自己資本比率8%以上、基本資本比率5.5%以上、普通株資本比率4.0%以上）を遵守しています。

3-6. 金融商品の譲渡取引

(1) 認識の中止条件が充足されていない金融商品

1) 買戻条件付売渡債券

当期末及び前期末現在において買戻条件付売渡債券のうち連結実体が保有有価証券を確定価格で再買入することを条件として売却し、認識の中止条件が充足されていない金融商品の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）期	第182（前）期
譲渡資産	売却可能金融資産	130,333	131,504
	満期保有金融資産	375,396	262,225
	合計	505,729	393,729
関連負債	買戻条件付売渡債券	376,709	331,511

2) 有価証券の貸借取引

連結実体が保有している有価証券を貸し付ける場合、有価証券の所有権は移転されるものの、貸付期間満了時に当該有価証券を返還しなければならないため、連結実体は当該有価証券のリスク及び経済価値の大部分を保有することによって貸付有価証券の全体を継続して認識しています。当期末及び前期末現在における貸付有価証券の帳簿価額は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期	貸付先
国公債	345,020	100,149	韓国証券金融、三井住友等
金融債	140,239	-	韓国証券金融
合計	485,259	100,149	

(2) 認識の中止条件を充足するが、継続的に関与する金融商品

当期末及び前期末現在において認識の中止条件を充足するものの、連結実体が継続的に関与する金融商品はありません。

3-7. 金融商品の相殺

当期末及び前期末現在において実行可能な一括相殺約定またはこれに類似する約定の適用を受ける金融商品の内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

金融資産	認識された 金融資産総額	相殺される 認識された 金融負債総額	財務状態表に表 示される 金融資産純額	財務状態表で 相殺されていない関連金額		純額
				金融商品	受け取った 現金担保	
デリバティブ資産（注1）	1,307,295	-	1,307,295	4,628,608	21,696	724,582
その他金融資産（注1）	4,067,591	-	4,067,591			
買戻条件付売渡担保 有価証券（注2）	505,729	-	505,729	376,709	-	129,020
売戻条件付買入 （貸付債権）（注2）	2,372,983	-	2,372,983	2,372,983	-	-
貸付有価証券（注2）	485,259	-	485,259	485,259	-	-
未回収内国為替債権（注3）	24,467,356	22,400,331	2,067,025	-	-	2,067,025
証券未収金等（注4）	4,649	316	4,333	4,333	-	-
合計	33,210,862	22,400,647	10,810,215	7,867,892	21,696	2,920,627

（単位：百万ウォン）

金融負債	認識された 金融負債 総額	相殺される 認識された 金融資産総額	財務状態表に表 示される 金融負債純額	財務状態表で 相殺されていない関連金額		純額
				金融商品	提供した 現金担保	
デリバティブ負債（注1）	1,174,494	-	1,174,494	4,597,194	-	310,620
その他金融負債（注1）	3,733,320	-	3,733,320			
買戻条件付売渡 （借入負債）（注2）	376,709	-	376,709	376,709	-	-
未払内国為替債務（注3）	23,830,425	22,400,331	1,430,094	1,430,094	-	-
証券未払金等（注4）	552	316	236	236	-	-
合計	29,115,500	22,400,647	6,714,853	6,404,233	-	310,620

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

金融資産	認識された 金融資産 総額	相殺される 認識された 金融負債総額	財務状態表に表 示される 金融資産純額	財務状態表で 相殺されていない関連金額		純額
				金融商品	受け取った 現金担保	
デリバティブ資産（注1）	1,456,041	-	1,456,041	2,961,044	22,425	943,369
その他金融資産（注1）	2,470,797	-	2,470,797			
買戻条件付売渡担保 有価証券（注2）	393,729	-	393,729	331,511	-	62,218
売戻条件付買入 （貸付債権）（注2）	2,729,539	-	2,729,539	2,729,539	-	-
貸付有価証券（注2）	100,149	-	100,149	100,149	-	-
未回収内国為替債権（注3）	23,272,502	20,939,147	2,333,355	-	-	2,333,355
証券未収金（注4）	164	164	-	-	-	-
合計	30,422,921	20,939,311	9,483,610	6,122,243	22,425	3,338,942

(単位：百万ウォン)

金融負債	認識された 金融負債 総額	相殺される 認識された 金融資産総額	財務状態表に表 示される 金融負債純額	財務状態表で 相殺されていない関連金額		純額
				金融商品	提供した 現金担保	
デリバティブ負債（注1）	1,410,753	-	1,410,753	2,974,169	-	567,026
その他金融負債（注1）	2,130,442	-	2,130,442			
買戻条件付売渡 （借入負債）（注2）	331,511	-	331,511	331,511	-	-
未払内国為替債務（注3）	21,811,694	20,939,147	872,547	872,547	-	-
証券未払金（注4）	9,161	164	8,997	-	-	8,997
合計	25,693,561	20,939,311	4,754,250	4,178,227	-	576,023

（注1） 当行及び各従属企業の店頭デリバティブの一部はISDA（International Derivatives Swaps and Dealers Association）一括相殺約定によって取引が行われています。同約定によると、取引相手の不渡のような信用事件発生時に当該取引相手との全てのデリバティブ取引が解約され、解約時点で取引当事者が各取引別に支払われるか、或いは支払われるべき金額を互いに相殺して単一金額を一方が他の取引相手に支払うこととなります。

（注2） 買戻（売戻）条件付売買取引及び有価証券貸借取引等もISDA一括相殺約定と類似する相殺約定の適用を受けています。

- (注3) 銀行間の内国為替取引による債権及び債務を処理する勘定で法的相殺権利を保有して純額で決済しているため、財務状態表に純額で表示しています。
- (注4) 市場内で取引される上場株式の決済による債権及び債務を処理する勘定で法的相殺権利を保有して純額で決済しているため、財務状態表に純額で表示しています。当期末の金額の場合には、中央清算所制度による店頭デリバティブの市場内決済による関連債権と債務の相殺金額が含まれています。

[次へ](#)

4. 重要な会計見積及び判断

連結実体は連結財務諸表を作成するにあたって将来に対する見積及び仮定に対する判断を行っています。このような見積及び判断は継続的に評価され、過去の経験及び現在の状況で合理的に予測可能な将来の事象のような他の要素を考慮して行われます。このように算出された会計見積値は実際の発生結果と一致しないこともあります。報告期間末現在、計上された資産及び負債の帳簿価額を重要に変動させる重要なリスクを含む会計見積及び仮定に対する判断は以下の通りです。

(1) 法人税

連結実体は複数の他国家法人税の適用を受けています。通常の営業過程で最終税金価額の決定を不確定とするいくつかの種類の取引及び計算方式が存在します。連結実体は報告期間末現在までの営業活動の結果として将来に負担すると予想される税効果を、最善の見積過程を経て当期法人税及び繰延税金として認識しました。しかし、実際の将来の最終法人税負担額は認識した関連資産・負債と一致しないこともあり、このような差異は最終の税効果が確定された時点の当期法人税及び繰延税金資産・負債に影響を与えることもあります。

(2) 金融商品の公正価値

活発な市場で取引されない金融商品（例：店頭デリバティブ）の公正価値は評価手法を使用して決定しています。連結実体は報告期間終了日現在に主要市場状況に基づいて様々な評価手法の選択及び仮定に対する判断を行っています。連結実体は正常取引市場で取引されない様々な金融商品の公正価値を決定するために評価モデルを利用する場合、一般的な価値評価モデルから発展させた独自の評価モデルまで様々な方法を使用しますが、この際、様々な投入変数及び仮定が適用されます。

(3) 貸倒引当金、支払保証引当負債及び未使用約定引当負債

連結実体は貸付債権に対して減損を評価して貸倒引当金を設定し、支払保証及び未使用約定限度に対しては引当負債を設定します。このような信用損失に対する引当金は、個別評価貸倒引当金の見積のための借主別期待キャッシュ・フローの見積、集合評価貸倒引当金及び支払保証、未使用約定引当負債の見積のために使用されたモデルの仮定及び変数により決定されます。

(4) 確定給付債務

確定給付債務の現在価値は保険数理的方式により決定される様々な要素によって異なることになります。年金の純費用（利益）を決定するにあたり使用される仮定は割引率を含んでおり、このような仮定の変動は確定給付債務の帳簿価額に影響を与えます。

連結実体は半期毎に適合する割引率を決定しています。このような割引率は確定給付債務の精算時に発生が予想される将来の見積現金流出額の現在価値を決定する際に使用されなければならない利子率を表します。連結実体は、年金が支給される通貨で表示され、関連確定給付債務の期間と類似する満期を有する優良社債の利子率を考慮して、適切な割引率を決定しています。

確定給付債務に関連する他の主な仮定は一部、現在の市場状況に基づいています。

(5) 売却可能持分証券の減損

売却可能持分証券の公正価値が取得原価以下に著しくまたは継続的に下落する場合は、減損が発生したという客観的な証拠に該当します。これに従い、連結実体は取得原価対比で30%以上の公正価値の下落を“著しい下落”、市場性のある持分証券の市場価格が取得原価以下に下落した状態が6ヶ月以上継続する場合を“継続的な下落”とみなしています。

5. 事業別セグメント情報

(1) 事業別セグメントに対する一般情報

連結実体は戦略的な営業単位である4つの報告部門を保有しています。このような部門は提供するサービスが互いに異なり、分離して管理しています。

事業別部門	一般情報
リテール部門	個人、機関、富裕層顧客に対する与信、受信、これに伴う業務
企業及び投資部門	大企業、中小企業、投資銀行に対する与信、受信、資金管理、有価証券投資及びこれに伴う業務
国際部門	海外営業及びこれに伴う業務
その他	その他業務と総合金融部門及び各種支援業務

(2) 当期及び前期における事業別セグメントの経営成果は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

区分	リテール部門	企業及び投資部門	国際部門	その他	連結調整	合計
純利息損益	2,322,133	891,375	303,760	844,375	5,490	4,367,133
純手数料損益	559,987	258,368	54,670	(58,202)	(11,880)	802,943
その他損益	(2,332,246)	261,178	(226,501)	(1,060,616)	(14,495)	(3,372,680)
営業利益	549,874	1,410,921	131,929	(274,443)	(20,885)	1,797,396
営業外損益	3,424	8,764	(1,529)	56,650	(40,717)	26,592
関係企業利益に対する持分	-	-	-	-	11,808	11,808
税引前純利益	553,298	1,419,685	130,400	(217,793)	(49,794)	1,835,796
法人税費用	(112,752)	(288,840)	(32,398)	40,660	13,187	(380,143)
当期純利益	440,546	1,130,845	98,002	(177,133)	(36,607)	1,455,653
支配企業所有持分	440,546	1,130,845	98,002	(177,133)	(37,036)	1,455,224
非支配持分	-	-	-	-	429	429

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

区分	リテール部門	企業及び 投資部門	国際部門	その他	連結調整	合計
純利息損益	2,263,135	936,884	272,513	865,486	12,530	4,350,548
純手数料損益	548,278	232,673	49,547	(83,585)	1,987	748,900
その他営業損益	(2,376,509)	(181,966)	(199,254)	(553,045)	(68,702)	(3,379,476)
営業利益	434,904	987,591	122,806	228,856	(54,185)	1,719,972
営業外損益	6,837	5,053	(3,266)	(17,913)	(5,118)	(14,407)
関係企業利益 に対する持分	-	-	-	-	22,448	22,448
税引前 継続事業利益	441,741	992,644	119,540	210,943	(36,855)	1,728,013
法人税費用	(97,740)	(198,408)	(23,893)	(42,163)	7,367	(354,837)
当期純利益	344,001	794,236	95,647	168,780	(29,488)	1,373,176
支配企業所有持分	344,001	794,236	95,647	168,780	(29,647)	1,373,017
非支配持分	-	-	-	-	159	159

- (3) 当期及び前期のうち、セグメント別外部顧客からの利息損益及びセグメント間の利息損益は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

区分	リテール 部門	企業及び 投資部門	国際部門	その他	連結調整	合計
外部顧客からの 利息損益	2,460,147	1,345,604	307,124	254,258	-	4,367,133
セグメント間 利息損益	(138,014)	(454,229)	(3,364)	590,117	5,490	-

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

区分	リテール 部門	企業及び 投資部門	国際部門	その他	連結調整	合計
外部顧客からの 利息損益	2,129,226	1,604,645	295,584	321,093	-	4,350,548
セグメント間 利息損益	133,909	(667,761)	(23,071)	544,393	12,530	-

(4) 地域別セグメントの財務情報

1) 当期及び前期における外部顧客からの収益の内訳は以下の通りです。

（単位：百万ウォン）

区分	営業収益		営業費用		営業利益	
	第183（当）期	第182（前）期	第183（当）期	第182（前）期	第183（当）期	第182（前）期
国内	13,160,486	14,701,712	11,529,609	13,101,685	1,630,877	1,600,027
海外	827,161	753,137	660,642	633,192	166,519	119,945
合計	13,987,647	15,454,849	12,190,251	13,734,877	1,797,396	1,719,972

2) 当期末及び前期末現在における非流動資産の内訳は以下の通りです。

（単位：百万ウォン）

区分	第183（当）期	第182（前）期
国内	2,900,648	2,964,970
海外	54,352	58,862
合計	2,955,000	3,023,832

（注） 非流動資産は有形資産、無形資産、投資不動産で構成されています。

6. 現金預け金

(1) 現金預け金の種類別の内訳

当期末及び前期末現在における現金預け金の種類別の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）期	第182（前）期
現金		2,471,103	2,589,117
ウォン貨預け金	支払準備預け金	5,668,726	3,161,035
	その他金融機関預け金	3,303,910	1,688,503
	小計	8,972,636	4,849,538
外貨預け金	外貨他店預け金	2,532,297	2,710,857
	外貨定期預け金	1,899,087	1,888,172
	外貨その他預け金	8,649	403,923
	小計	4,440,033	5,002,952
貸倒引当金		(23,695)	(11,644)
合計		15,860,077	12,429,963

(2) 使用制限預け金

当期末及び前期末現在において銀行法及びその他関係法令等により使用が制限されている預け金の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）期	第182（前）期	根拠法令等
ウォン貨 預け金	支払準備預け金	5,668,726	3,161,035	韓国銀行法第56条
	その他金融機関預け金	3,040,514	1,610,611	韓国銀行法第28条及び第70条
	小計	8,709,240	4,771,646	
外貨預け金	外貨他店預け金	476,512	745,730	韓国銀行法等
	外貨定期預け金	18,686	11,608	ニューヨーク州銀行法等
	外貨その他預け金	1,230	3,100	デリバティブ関連
	小計	496,428	760,438	
合計		9,205,668	5,532,084	

7. 売買目的金融資産

当期末及び前期末現在における売買目的金融資産の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）期	第182（前）期
債務証券	国公債	336,669	256,077
	金融債	1,429,183	1,595,176
	社債	1,212,945	1,040,152
	買入手形	2,893,390	2,539,322
	CMA資産	1,197,304	1,043,266
	その他	9,964	-
	小計	7,079,455	6,473,993
持分証券	株式	53,880	58,761
	受益証券	958,450	910,674
	小計	1,012,330	969,435
金預け金		224,556	76,337
合計		8,316,341	7,519,765

8. デリバティブ

(1) 未決済約定契約金額

当期末及び前期末現在に保有しているデリバティブの未決済約定契約金額の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分			第183（当）期	第182（前）期
外国為替 デリバティブ	店頭デリバティブ	通貨先渡	30,713,560	27,784,868
		通貨スワップ	14,267,372	14,293,641
		通貨オプション	737,258	120,281
		小計	45,718,190	42,198,790
	上場デリバティブ	通貨先物	87,936	-
	合計		45,806,126	42,198,790
金利デリバティブ	店頭デリバティブ	金利スワップ	46,015,652	67,212,192
		金利オプション	1,846,000	3,146,156
		小計	47,861,652	70,358,348
	上場デリバティブ	金利先物	-	203,906
		金利スワップ（注）	3,664,800	-
		小計	3,664,800	203,906
	合計		51,526,452	70,562,254
株式関連 デリバティブ	店頭デリバティブ	株式スワップ	6,338	-
		株式オプション	719,064	1,103,702
		小計	725,402	1,103,702
	上場デリバティブ	株式先物	6,466	11,821
		株式オプション	-	2,675
		小計	6,466	14,496
	合計		731,868	1,118,198
商品関連 デリバティブ	店頭デリバティブ	商品スワップ及び先渡	167,448	399,814
		商品オプション	-	6,054
	合計		167,448	405,868
リスクヘッジ デリバティブ	公正価値リスクヘッジ	金利スワップ	8,046,680	8,451,250
	純投資リスクヘッジ	通貨先渡	219,840	105,530
	合計		8,266,520	8,556,780
合計			106,498,414	122,841,890

(注) 中央清算取引所で決済されるデリバティブ未決済約定金額です。

(2) 公正価値

当期末及び前期末現在に保有しているデリバティブの公正価値は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分			第183（当）期		第182（前）期	
			資産	負債	資産	負債
外国為替 デリバティブ	店頭デリバティブ	通貨先渡	440,343	479,945	411,267	494,113
		通貨スワップ	248,298	270,522	428,257	351,547
		通貨オプション	3,819	5,048	1,721	1,504
	合計		692,460	755,515	841,245	847,164
金利 デリバティブ	店頭デリバティブ	金利スワップ	481,385	422,738	440,518	357,062
		金利オプション	9,395	16,615	12,824	16,932
	合計		490,780	439,353	453,342	373,994
株式関連 デリバティブ	店頭デリバティブ	株式スワップ	-	35	-	-
		株式オプション	6,787	8,212	11,185	11,113
	上場デリバティブ	株式オプション	-	-	10	-
	合計		6,787	8,247	11,195	11,113
商品関連 デリバティブ	店頭デリバティブ	商品スワップ 及び先渡	1,866	2,100	-	10,380
リスクヘッジ デリバティブ	公正価値リスクヘッジ	金利スワップ	116,854	47,616	152,212	235,387
	純投資リスクヘッジ	通貨先渡	347	3,607	-	141
	合計		117,201	51,223	152,212	235,528
合計			1,309,094	1,256,438	1,457,994	1,478,179

(3) デリバティブ評価損益

当期及び前期におけるデリバティブの評価損益は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分			第183（当）期		第182（前）期	
			評価益	評価損	評価益	評価損
外国為替 デリバティブ	店頭デリバティブ	通貨先渡	404,872	441,668	326,769	453,822
		通貨スワップ	213,101	280,395	233,965	248,272
		通貨オプション	3,821	3,259	1,357	855
	合計		621,794	725,322	562,091	702,949
金利 デリバティブ	店頭デリバティブ	金利スワップ	314,967	348,946	250,983	290,400
		金利オプション	5,368	6,788	6,856	3,313
	合計		320,335	355,734	257,839	293,713
株式関連 デリバティブ	店頭デリバティブ	株式スワップ	-	25	-	-
		株式オプション	4,129	5,308	8,222	13,557
	合計		4,129	5,333	8,222	13,557
商品関連 デリバティブ	店頭デリバティブ	商品スワップ 及び先渡	1,866	2,100	-	10,380
		商品オプション	-	-	103	90
	合計		1,866	2,100	103	10,470
リスクヘッジ デリバティブ	公正価値リスクヘッジ	金利スワップ	210,564	59,630	25,699	279,400
	純投資リスクヘッジ	通貨先渡	1,873	-	-	239
	合計		212,437	59,630	25,699	279,639
合計			1,160,561	1,148,119	853,954	1,300,328

(4) リスクヘッジ目的に関連する損益

当期及び前期における公正価値リスクヘッジ目的に関連する損益は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
リスクヘッジ対象	(158,222)	257,544
リスクヘッジ手段	166,812	(263,204)
合計	8,590	(5,660)

(5) 在外営業活動体のリスクヘッジ

在外営業活動体のうち、一部に対してリスクヘッジ会計を適用しており、当期及び前期中にリスクヘッジ手段別の海外事業損益に反映された金額は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
外貨借入負債	(2,066)	65,567
外貨社債	22,820	5,366
通貨先渡	(5,133)	98
合計	15,621	71,031

9. 貸付債権

(1) 当期末及び前期末現在、貸付金の顧客別の構成内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

科目	第183（当）期	第182（前）期
家計貸付	80,221,735	73,031,842
企業貸付	102,638,114	94,415,522
公共及びその他資金貸付	2,092,730	2,479,154
銀行間資金貸付	4,657,991	6,078,034
カード債権	26,347	39,531
貸付債権合計	189,636,917	176,044,083
繰延貸付付帯費用	268,219	253,290
引当金減算前貸付債権合計	189,905,136	176,297,373
引当金	(1,579,671)	(1,608,029)
引当金減算後貸付債権合計	188,325,465	174,689,344

(2) 貸倒引当金の増減内訳

当期及び前期における預け金と貸付債権及びその他資産に対する貸倒引当金の変動内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

科目	預け金	貸付債権			その他資産	合計
		家計貸付	企業貸付	その他		
期首	11,644	193,242	1,399,472	15,315	58,426	1,678,099

繰入（戻入）額	12,051	146,527	297,917	(2,924)	10,153	463,724
償却額	-	(141,364)	(381,759)	(206)	(6,476)	(529,805)
割引差金償却	-	-	(34,702)	-	-	(34,702)
貸付債権売却	-	(5,181)	(28,179)	(4)	-	(33,364)
償却債権回収	-	16,460	158,694	10,763	344	186,261
その他（注）	-	-	(64,400)	-	(270)	(64,670)
期末	23,695	209,684	1,347,043	22,944	62,177	1,665,543

（注） その他変動額は債権調整、デット・エクイティ・スワップ、為替レート変動等による金額です。

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

科目	預け金	貸付債権			その他資産	合計
		家計貸付	企業貸付	その他		
期首	4,455	267,176	1,468,188	25,168	61,944	1,826,931
繰入（戻入）額	7,189	136,515	536,185	(9,853)	3,708	673,744
償却額	-	(182,012)	(582,502)	-	(735)	(765,249)
割引差金償却	-	-	(45,023)	-	-	(45,023)
貸付債権売却	-	(53,731)	(63,255)	-	-	(116,986)
償却債権回収	-	25,294	127,668	-	132	153,094
その他（注）	-	-	(41,789)	-	(6,623)	(48,412)
期末	11,644	193,242	1,399,472	15,315	58,426	1,678,099

（注） その他変動額は債権調整、デット・エクイティ・スワップ、為替レート変動等による金額です。

(3) 繰延貸付付帯費用

当期及び前期における繰延貸付付帯費用の変動内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
期首	253,290	235,483
新規発生	201,114	180,698
償却額	(186,185)	(162,891)
期末	268,219	253,290

10. 売却可能金融資産及び満期保有金融資産

(1) 売却可能金融資産及び満期保有金融資産の状況

当期末及び前期末現在、売却可能金融資産及び満期保有金融資産の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）期	第182（前）期
売却可能金融資産			
債務証券	国公債	2,843,952	2,828,023
	金融債	9,907,702	10,983,739
	社債	7,251,975	7,420,991
	その他	29,669	-
	小計	20,033,298	21,232,753
持分証券（注）	株式	1,459,978	2,156,523
	出資金	396,677	385,708
	受益証券	385,344	192,767
	その他	88,315	125,335
	小計	2,330,314	2,860,333
売却可能金融資産合計		22,363,612	24,093,086
満期保有金融資産			
債務証券	国公債	5,149,408	4,259,467
	金融債	501,452	653,277
	社債	2,361,257	2,520,876
満期保有金融資産合計		8,012,117	7,433,620

(注) 活発な市場で開示される市場価格がなく、公正価値を信頼性をもって測定することができないため、原価で測定した持分証券の帳簿価額は当期末及び前期末現在、それぞれ28,281百万ウォン、27,606百万ウォンです。

(2) 売却可能金融資産の処分損益

当期及び前期における売却可能金融資産の処分による損益は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
売却可能金融資産処分益	447,496	551,362
売却可能金融資産処分損	19,504	65,529
合計	427,992	485,833

1 1. 有形資産

(1) 当期末及び前期末現在における有形資産の内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

区分	取得価額	減価償却累計額	減損損失累計額	帳簿価額
土地	1,155,856	-	-	1,155,856
建物	789,246	(137,775)	-	651,471
その他有形資産	1,358,267	(1,129,475)	-	228,792
合計	3,303,369	(1,267,250)	-	2,036,119

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

区分	取得価額	減価償却累計額	減損損失累計額	帳簿価額
土地	1,262,137	-	-	1,262,137
建物	806,523	(110,996)	-	695,527
その他有形資産	1,417,580	(1,174,126)	(85)	243,369
合計	3,486,240	(1,285,122)	(85)	2,201,033

(2) 当期及び前期における有形資産の科目別帳簿価額の変動内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

区分	土地	建物	その他有形資産	合計
期首	1,262,137	695,527	243,369	2,201,033
取得（注1,2）	57	26,605	109,568	136,230
処分（注1,3）	(48)	(2,553)	(21,493)	(24,094)
減価償却費	-	(30,605)	(102,000)	(132,605)
投資不動産への振替	(109,199)	(38,615)	-	(147,814)
売却予定非流動資産からの振替	2,890	306	-	3,196
為替レート調整	19	806	(652)	173
期末	1,155,856	651,471	228,792	2,036,119

（注1） 建設仮勘定から本勘定に振り替えられた金額4,054百万ウォンが含まれています。

（注2） 新規取得資産の復旧引当負債繰入額3,897百万ウォンが含まれています。

（注3） 除却損失1,520百万ウォンが発生しました。

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

区分	土地	建物	その他有形資産	合計
期首	1,267,928	646,712	300,408	2,215,048
取得（注1,2）	368	144,434	184,753	329,555
処分（注3,4）	(2,672)	(2,127)	(138,923)	(143,722)
減損	-	-	(85)	(85)
減価償却費	-	(30,047)	(106,883)	(136,930)
投資不動産（への）からの振替	456	(59,827)	-	(59,371)
売却予定非流動資産への振替	(3,752)	(2,526)	-	(6,278)
為替レート調整	(191)	(1,092)	4,099	2,816
期末	1,262,137	695,527	243,369	2,201,033

（注1） 建設仮勘定から本勘定に振り替えられた金額131,541百万ウォンが含まれています。

（注2） 新規取得資産の復旧引当負債繰入額2,075百万ウォンが含まれています。

（注3） 除却損失489百万ウォンが発生しました。

（注4） 建設仮勘定から本勘定及び無形資産に振り替えられて減少した金額132,758百万ウォンが含まれています。

（3） 保険加入内訳

当期末現在において現金、有形資産、投資不動産及び売却予定資産に対する保険加入内訳は以下の通りです。

（単位：百万ウォン）

保険種類	付保資産	付保金額	保険会社名
金融機関総合保険	現金	20,000	三星火災他7社
財産総合保険	業務用動産、不動産等	1,096,689	三星火災他5社
盗難保険	現金及び有価証券	55,000	三星火災他8社
役員賠償責任保険	-	50,000	三星火災他7社
ガス事故賠償責任保険	-	500	メリッツ火災他2社
合計		1,222,189	

(注) 上記保険以外に車両保険、役員・職員に対する医療保険、資産災害保険及び従業員災害保障保険等に加入しています。

12. 無形資産

当期及び前期における無形資産の増減内訳は以下の通りです。

<第183(当)期>

(単位：百万ウォン)

区分	ソフトウェア	開発費	会員権	その他無形資産	合計
期首	45,714	22,922	47,363	109,846	225,845
取得	12,185	1,430	3,936	9,977	27,528
処分	-	-	(2,861)	-	(2,861)
減損(注)	-	-	(547)	-	(547)
償却	(16,073)	(10,980)	-	(43,292)	(70,345)
為替レート変動	622	-	23	2	647
期末	42,448	13,372	47,914	76,533	180,267

(注) 会員権はゴルフ及びコンドミニアムの会員権で、全て耐用年数を特定期間に限定できない無形資産です。報告期間末現在、取引所の時価が帳簿価額より低い場合、減損損失を認識しました。

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

区分	ソフトウェア	開発費	会員権	その他無形資産	合計
期首	41,087	38,071	45,585	55,820	180,563
取得（注1）	21,164	222	4,875	89,687	115,948
処分及び除却（注2）	(600)	-	(1,417)	(8)	(2,025)
減損（注3）	-	-	(1,648)	-	(1,648)
償却	(15,629)	(15,371)	-	(35,657)	(66,657)
為替レート変動	(308)	-	(32)	4	(336)
期末	45,714	22,922	47,363	109,846	225,845

（注1） 建設仮勘定から本勘定に振り替えられた金額1,217百万ウォンが含まれています。

（注2） 除却損失2百万ウォンが含まれています。

（注3） 会員権はゴルフ及びコンドミニアムの会員権で、全て耐用年数を特定期間に限定できない無形資産です。報告期間末現在、取引所の時価が帳簿価額より低い場合、減損損失を認識しました。

1 3. 関係企業に対する投資資産

（1） 当期末及び前期末現在、関係企業に対する投資資産の現況は以下の通りです。

被投資会社	所在地	財務諸表 基準月	持分率（%）	
			第183（当）期	第182（前）期
アジュキャピタル（注1,2,5）	大韓民国	9月末	12.85	12.85
カーディフ生命（注1,3）	大韓民国	9月末	14.99	14.99
連合資産管理	大韓民国	12月末	17.50	17.50
浦項テクノパーク2PFV（注2）	大韓民国	12月末	14.90	14.90
デウォントス（注1,4）	大韓民国	9月末	36.33	36.33
インヒ（注1,4）	大韓民国	9月末	15.36	15.36
デギ電設（注1,4）	大韓民国	9月末	27.45	-
極東建設（注1,2,4）	大韓民国	9月末	14.30	-

（注1） 12月末の決算財務諸表を入手することができないため、2014年9月30日基準で作成した財務諸表を使用して持分法を適用し、関係企業の報告期間終了日と投資会社の報告期間終了日の間に発生した重要な取引、事象は適切に反映しました。

- (注2) アジュキャピタルと浦項テクノパーク2PFV及び極東建設の持分率は15%以下ですが、連結実体が被投資会社の財務政策、営業政策に関する意思決定に参加できる役員の選任に重要な影響力を行使することができるため、持分法を適用しました。
- (注3) カーディフ生命の持分率は15%以下ですが、重要な営業上の取引を通じて重要な影響力を行使することができるため関係企業に対する投資資産として計上しました。
- (注4) デウォントス及びインヒ、デギ電設及び極東建設は会社更生手続の過程でデット・エクイティ・スワップを通じて株式を取得しており、会社更生手続中には議決権を行使することができないため売却可能金融資産に分類して公正価値で評価しました。当期以前及び当期中に会社更生手続が終了したことにより正常な議決権の行使が可能であるため、売却可能金融資産から関係企業投資資産に再分類しました。
- (注5) 当期末現在、保有している市場性のある関係企業投資株式の市場価値は47,624百万ウォンです。これは韓国証券取引所の2014年12月30日付の終値6,440ウォン、総保有株式数7,395,000株を基準として算出しました。

- (2) 当期末及び前期末現在、関係企業に対する投資資産の内訳は以下の通りです。

<第183 (当) 期>

(単位：百万ウォン)

被投資会社	取得原価	期首	取得 (処分)	持分法 損益	持分法 資本変動 (減少)	配当	当期末
アジュキャピタル	36,971	28,228	-	3,438	(131)	(1,109)	30,426
カーディフ生命	35,279	51,634	-	953	4,394	(84)	56,897
連合資産管理	85,050	139,269	-	10,066	(56)	(35,041)	114,238
浦項テクノパーク2PFV	4,470	2,847	-	(870)	-	-	1,977
デウォントス	-	-	-	-	-	-	-
インヒ	-	362	-	170	-	-	532
デギ電設	-	-	-	41	3	-	44
極東建設	9,092	-	9,092	(1,990)	56	-	7,158
合計	170,862	222,340	9,092	11,808	4,266	(36,234)	211,272

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

被投資会社	取得原価	期首	取得 (処分)	持分法 損益	持分法 資本変動 (減少)	配当	前期末
アジュキャピタル	36,971	29,654	-	568	(149)	(1,845)	28,228
カーディフ生命	35,279	43,625	8,999	3,294	(4,284)	-	51,634
連合資産管理	85,050	120,915	-	18,373	(19)	-	139,269
新韓7号企業構造調整組合	-	13	(13)	-	-	-	-
浦項テクノパーク2PFV	4,470	2,895	-	(48)	-	-	2,847
デウォントス	-	122	-	(122)	-	-	-
インヒ	-	-	-	383	(21)	-	362
合計	161,770	197,224	8,986	22,448	(4,473)	(1,845)	222,340

(3) 当期末と前期末現在及び報告期間中の主な関係企業の要約財務情報は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

被投資会社	関係企業の要約財務情報					
	資産	負債	営業収益	当期純利益	その他包括損益	総包括損益
アジュキャピタル	6,428,736	5,714,874	781,957	26,756	(1,016)	25,740
カーディフ生命	3,890,674	3,510,712	483,911	5,852	29,293	35,145
連合資産管理	4,357,490	3,688,589	548,990	57,519	(319)	57,200
浦項テクノパーク2PFV	14,668	1,401	-	(5,839)	-	(5,839)
デウォントス	6,139	7,344	10,954	(2)	-	(2)
インヒ	16,284	12,826	5,041	1,105	-	1,105
デギ電設	1,278	1,119	286	148	-	148
極東建設	368,308	337,159	57,654	(13,917)	348	(13,569)
合計	15,083,577	13,274,024	1,888,793	71,622	28,306	99,928

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

被投資会社	関係企業の要約財務情報					
	資産	負債	営業収益	当期純利益	その他包括損益	総包括損益
アジュキャピタル	6,044,214	5,349,045	790,073	2,232	1,324	3,556
カーディフ生命	3,466,657	3,184,257	682,100	18,295	(28,557)	(10,262)
連合資産管理	4,365,097	3,567,972	708,035	105,013	(107)	104,906
浦項テクノパーク2PFV	20,783	1,676	-	(322)	-	(322)
デウォントス	6,536	7,740	17,313	(873)	-	(873)
インヒ	16,481	14,127	5,866	662	(18,156)	(17,494)
合計	13,919,768	12,124,817	2,203,387	125,007	(45,496)	79,511

- (4) 当期末及び前期末現在における関係企業の財務情報金額を関係企業に対する持分の帳簿価額に調整した内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

被投資会社	当期末の 純資産 (a)	連結実体の 持分率 (b)	純資産持分 金額 (a) × (b)	内部取引	その他	帳簿価額
アジュキャピタル (注1)	668,171	12.85%	85,860	-	(55,434)	30,426
カーディフ生命	379,962	14.99%	56,992	(95)	-	56,897
連合資産管理 (注2)	652,801	17.50%	114,238	-	-	114,238
浦項テクノパーク2PFV	13,267	14.90%	1,977	-	-	1,977
デウォントス (注3)	(1,205)	36.33%	(438)	-	438	-
インヒ	3,458	15.36%	532	-	-	532
デギ電設	159	27.45%	44	-	-	44
極東建設 (注4)	33,318	14.30%	4,763	-	2,395	7,158
合計	1,749,932		263,968	(95)	(52,601)	211,272

- (注1) 当期末の純資産は非支配持分を除いた残高であり、その他は前期末まで認識した減損損失累積及び不均等配当による効果を考慮した金額です。

- (注2) 当期末の純資産は非支配持分を除いた残高です。

- (注3) その他は当期欠損累積により投資勘定の残高が“0”となったため持分法認識を中止したことで認識できなかった累積損失金額です。

- (注4) その他は当期の取得時に発生したのれんの金額です。

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

被投資会社	前期末の 純資産 (a)	連結実体の 持分率 (b)	純資産持分 金額 (a) × (b)	内部取引	その他	帳簿価額
アジュキャピタル（注1）	651,747	12.85%	83,751	-	(55,523)	28,228
カーディフ生命（注2）	282,400	14.99%	42,332	(171)	9,473	51,634
連合資産管理（注3）	795,823	17.50%	139,269	-	-	139,269
浦項テクノパーク2PFV	19,107	14.90%	2,847	-	-	2,847
デウォントス（注4）	(1,204)	36.33%	(437)	-	437	-
インヒ	2,354	15.36%	362	-	-	362
合計	1,750,227		268,124	(171)	(45,613)	222,340

（注1） 前期末の純資産は非支配持分を除いた残高であり、その他は前期末まで認識した減損損失累積金額です。

（注2） その他は関係企業の報告期間終了日と投資会社の報告期間終了日の間に発生した有償増資による純資産増加効果を考慮した金額です。

（注3） 前期末の純資産は非支配持分を除いた残高です。

（注4） その他は前期欠損累積により投資勘定の残高が“0”となったため持分法認識を中止したことで認識できなかった累積損失金額です。

（5） 持分法適用の中止により認識できなかった当期及び前期の累積未反映持分法損失金額は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

被投資会社	未反映当期持分法利益	未反映累積持分法損失
デウォントス	(1)	(438)

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

被投資会社	未反映前期持分法損失	未反映累積持分法損失
デウォントス	(437)	(437)

14. 投資不動産

(1) 当期末及び前期末現在の投資不動産の内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

区分	取得価額	減価償却累計額	帳簿価額
土地	546,086	-	546,086
建物	224,836	(32,308)	192,528
合計	770,922	(32,308)	738,614

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

区分	取得価額	減価償却累計額	帳簿価額
土地	436,046	-	436,046
建物	181,884	(20,976)	160,908
合計	617,930	(20,976)	596,954

(2) 投資不動産の公正価値

当期末及び前期末現在における投資不動産の公正価値の内訳は以下の通りです。

（単位：百万ウォン）

区分	第183（当）期	第182（前）期
投資不動産	792,716	633,516

（注） 投資不動産の公正価値評価は独立した第三者との取引条件による最近の市場取引価格及び市場で観測不可能な重要な投入変数が反映されるため、公正価値序列体系においてレベル3に該当します。

(3) 当期及び前期における投資不動産の科目別の帳簿価額の増減内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

区分	土地	建物	合計
期首	436,046	160,908	596,954
減価償却費	-	(7,999)	(7,999)
有形資産からの振替	109,199	38,615	147,814
売却予定非流動資産からの振替	841	1,000	1,841
為替レート調整効果	-	4	4
期末	546,086	192,528	738,614

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

区分	土地	建物	合計
期首	437,301	108,131	545,432
処分	(799)	(638)	(1,437)
減価償却費	-	(6,416)	(6,416)
有形資産（への）からの振替	(456)	59,827	59,371
為替レート調整効果	-	4	4
期末	436,046	160,908	596,954

(4) 投資不動産から発生した損益

当期及び前期中に、投資不動産に関連して包括損益計算書に計上された関連損益の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
投資不動産から発生した賃貸収益	25,162	21,462
賃貸収益が発生した投資不動産に 直接関連する営業費用	5,989	5,957
投資不動産処分による利益	-	248

15. その他資産

当期末及び前期末現在のその他資産の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
未収金	3,987,769	2,413,770
未回収内国為替債権	2,067,025	2,361,995
預け保証金	1,177,578	1,220,377
未収収益	803,708	923,332
前払費用	95,545	74,614
仮払金	67,554	68,015
雑資産	107,818	169,739
その他	345	235
現在価値割引調整	(54,894)	(66,156)
貸倒引当金	(62,177)	(58,426)
合計	8,190,271	7,107,495

16. 担保提供資産及び担保として提供を受けた資産

(1) 当期末及び前期末現在、担保提供された資産の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）期	第182（前）期	担保提供事由
貸付債権		73,773	115,927	借入金
有価証券 （注1）	売却可能金融資産	574,334	1,178,428	借入金、韓国銀行決済履行担保、 借入有価証券等
	満期保有金融資産	5,216,661	4,858,521	借入金、韓国銀行決済履行担保、 対顧客リパーチェスアグリーメント等
	小計	5,790,995	6,036,949	
有形資産（注2）		4,762	6,488	根抵当権の設定等
合計		5,869,530	6,159,364	

(注1) 第三者が連結実体の債務不履行と関係なく売渡及び再担保の提供が可能な担保の帳簿価額は、当期末及び前期末現在、それぞれ493,104百万ウォン、483,371百万ウォンです。

(注2) 根抵当権の設定等、関連する債権最高額の基準です。

(2) 債務不履行と関係なく売渡及び再担保の提供が可能な担保保有物

当期末及び前期末現在、債務不履行と関係なく売渡及び再担保の提供が可能な担保の公正価値は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期		第182（前）期	
	担保物の公正価値	売渡すか、或いは担保として再度提供した担保物の公正価値	担保物の公正価値	売渡すか、或いは担保として再度提供した担保物の公正価値
有価証券	2,432,109	-	2,759,192	-

17. 当期損益認識指定金融負債

(1) 当期末及び前期末現在における当期損益認識指定金融負債の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分（注1）	第183（当）期	第182（前）期
預金（注2,3）	6,139	-

(注1) 当行は内在デリバティブが含まれた複合金融商品のうち、企業会計基準書第1039号“金融商品：認識及び測定”によって当期損益認識金融負債の指定が許容される複合契約を当期損益認識金融負債として指定しました。

(注2) 当期損益認識指定金融負債の帳簿価額は、当行が採択したオプション評価モデルに基づいて算定しました。

(注3) 当期において当行の信用リスク変動により損益として認識された金額はありません。

(2) 当期末現在、当期損益認識指定金融負債の契約条件に従う元金に対する満期償還金額及び帳簿価額は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

区分	契約上の満期償還金額	帳簿価額	差異金額
預金	6,171	6,139	32

(3) 当期中に当期損益認識指定金融負債の関連純損益（受取利息及び支払利息は除外）の内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

区分	評価損益	売買損益	合計
預金	32	2	34

18. 預金

当期末及び前期末現在における預金の種類別の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

科目		第183（当）期	第182（前）期
要求払預金	ウォン貨預金	62,007,754	52,499,442
	外貨預金	6,334,678	6,007,426
	小計	68,342,432	58,506,868
期限付預金	ウォン貨預金	104,749,605	101,137,384
	外貨預金	9,427,981	9,230,994
	公正価値リスクヘッジ利益	15,352	(102,849)
	小計	114,192,938	110,265,529
譲渡性預金証書		2,145,645	1,781,684
発行手形預金		3,241,082	3,132,185
手形管理口座受託金		1,682,610	1,291,588
その他		35,165	42,578
合計		189,639,872	175,020,432

19. 売買目的金融負債

当期末及び前期末現在における売買目的金融負債の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

科目	第183（当）期		第182（前）期	
	利率（％）	金額	利率（％）	金額
金預金	-	428,936	-	398,596

20. 借入負債

(1) 当期末及び前期末現在、借入負債の種類別の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

科目		第183（当）期			第182（前）期		
		利率（％）		金額	利率（％）		金額
		最高	最低		最高	最低	
コールマネー	ウォン貨	1.98	1.83	1,436,900	2.32	2.32	3,700
	外貨	9.00	0.10	345,836	5.08	0.10	314,660
	小計			1,782,736			318,360
売渡手形		2.50	1.40	31,059	2.93	1.50	28,631
買戻条件付 売渡債券	ウォン貨	1.62	1.62	7,921	2.55	2.27	13,121
	外貨	5.82	0.50	368,788	3.34	0.66	331,511
	小計			376,709			344,632
ウォン貨 借入負債	韓国銀行借入負債	1.00	0.50	1,366,192	1.00	0.50	1,269,610
	その他借入負債	5.05	0.00	3,315,403	5.05	0.00	3,307,945
	小計			4,681,595			4,577,555
外貨 借入負債	外貨他店借入	0.67	0.55	337,194	0.78	0.73	225,689
	銀行借入負債	8.85	0.28	2,783,837	1.83	0.05	2,640,072
	転貸借入負債	0.79	0.25	995,522	-	-	-
	その他借入負債	0.68	0.48	1,738,494	1.85	0.55	1,842,079
	小計			5,855,047			4,707,840
外貨受託金		0.10	0.10	77,179	0.10	0.10	94,315
繰延付帯費用				(1,504)			(1,994)
合計				12,802,821			10,069,339

2 1. 社債

当期末及び前期末現在、社債の種類別の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

科目		第183（当）期			第182（前）期		
		利率（％）		金額	利率（％）		金額
		最高	最低		最高	最低	
ウォン貨 社債	一般社債	8.91	0.00	9,640,890	8.36	0.00	8,956,923
	劣後社債	5.10	3.41	2,901,239	7.70	3.41	5,060,630
	公正価額リスクヘッジ利益			34,277			(24,853)
	割引発行差金			(26,825)			(37,752)
	小計			12,549,581			13,954,948
外貨 社債	一般社債	4.50	0.32	3,997,657	8.13	0.74	3,729,625
	公正価額リスクヘッジ損失			46,850			70,163
	割引発行差金			(12,680)			(15,081)
	小計			4,031,827			3,784,707
合計				16,581,408			17,739,655

2 2. 確定給付債務

連結実体は、従業員の役務提供期間に基づき、確定給付型年金制度を運営しています。また、連結実体は社外積立資産を信託会社、ファンド会社及びその他類似企業に信託しています。

(1) 確定給付型制度の資産及び負債

当期末及び前期末現在、確定給付型制度における資産及び負債の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
確定給付債務の現在価値	999,623	737,773
社外積立資産の公正価値	(753,648)	(670,335)
財務状態表計上負債	245,975	67,438

(2) 当期及び前期における確定給付債務の増減内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
期首	737,773	748,324
当期勤務費用	99,879	105,065
支払利息	35,250	31,998
再測定要素（注1）	158,265	(24,976)
過去勤務費用（注2）	-	(96,779)
為替レート差異	63	(92)
給与支給額	(33,979)	(27,942)
その他	2,372	2,175
期末	999,623	737,773

(注1) 当期末現在、再測定要素は人口統計的仮定の変動による保険数理的利益3,580百万ウォン及び財務的仮定の変動による保険数理的損失163,383百万ウォン、そして経験調整による利益1,538百万ウォンで構成されています。

(注2) 前期中に制度の縮小に該当する退職給付制度の変更がありました。その結果、連結実体の確定給付債務は96,779百万ウォン減少し、負の過去勤務費用が前期損益として認識されました。

(3) 当期及び前期における社外積立資産の増減内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
期首	670,335	583,657
受取利息	33,383	26,117
再測定要素	(15,755)	(7,566)
使用者の拠出金	93,000	90,000
給与支給額	(27,315)	(21,873)
期末	753,648	670,335

(4) 社外積立資産の構成内訳

当期末及び前期末現在、社外積立資産の構成内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
定期預金	713,045	646,711
その他	40,603	23,624
合計	753,648	670,335

(5) 保険数理的仮定

当期末及び前期末現在における主な保険数理的仮定の内訳は以下の通りです。

区分	第183（当）期	第182（前）期	備考
割引率（期待収益率）	4.02%	4.98%	AA0社債収益率
将来賃金上昇率	2.84%＋昇給率	2.44%＋昇給率	過去5ヶ年の平均

(注) 保険数理的仮定は国内支店の評価に限り適用されました。

(6) 敏感度分析

当期末及び前期末現在における主な仮定の変動による確定給付債務の現在価値は以下の通りです。

1) 割引率

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
適用された仮定による現在価値	999,623	737,773
1%ポイント増加	877,225	652,611
1%ポイント減少	1,146,496	839,290

2) 賃金上昇率

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
適用された仮定による現在価値	999,623	737,773
1%ポイント増加	1,146,869	840,998
1%ポイント減少	874,776	649,864

- (7) 当期末及び前期末の評価時に適用した確定給付債務の加重平均満期はそれぞれ16.33年及び16.11年です。

23. 引当負債

- (1) 当期及び前期における引当負債の増減内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

区分	復旧引当負債	訴訟	未使用信用枠	支払保証	その他	合計
期首	25,364	94,735	91,415	92,561	59,941	364,016
繰入（戻入）額	1,056	(26,178)	(7,023)	10,487	14,182	(7,476)
使用額	(1,221)	(46,766)	-	-	(20,136)	(68,123)
為替レート変動	-	439	1,299	11,604	772	14,114
その他（注）	3,897	-	-	(7,700)	-	(3,803)
期末	29,096	22,230	85,691	106,952	54,759	298,728

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

区分	復旧引当負債	訴訟	未使用信用枠	支払保証	その他	合計
期首	23,023	97,041	85,930	76,891	48,742	331,627
繰入（戻入）額	545	(2,149)	4,344	21,909	39,776	64,425
使用額	(189)	-	-	-	(25,569)	(25,758)
為替レート変動	-	(157)	1,141	2,240	(41)	3,183
その他（注）	1,985	-	-	(8,479)	(2,967)	(9,461)
期末	25,364	94,735	91,415	92,561	59,941	364,016

- (注) 最初公正価値で評価する金融保証契約の新規発生と満期到来による変動及び割引率変動による効果等です。

(2) 復旧引当負債

復旧引当負債は報告期間末現在、賃借店舗の将来予想復旧費用の最善の見積値を適切な割引率で割り引いた現在価値です。同復旧費用の支出は個別賃借店舗の賃借契約終了時点で発生する予定であり、これを合理的に見積るために過去10年間、賃借契約が終了した賃借店舗の平均存続期間を利用しました。また、予想復旧費用を見積るために、過去3年間復旧工事が発生した店舗の実際の復旧工事費用の平均値及び3年間の平均インフレーション率を使用しました。

24. その他負債

当期末及び前期末現在におけるその他負債の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

科目	第183（当）期	第182（前）期
未払金	3,907,195	2,360,850
信託勘定未払金	2,017,810	2,298,642
未払費用	2,616,317	2,714,427
未払内国為替債務	1,430,094	945,959
代理店	2,226,742	2,338,951
代行業務収入金	641,269	581,158
受取保証金	373,298	351,733
未払外国為替債務	226,079	206,341
仮受金	85,837	70,374
前受収益	73,250	75,613
諸税預り金	93,037	107,316
雑負債	25,509	145,933
未払配当金	14,937	18,545
現在価値割引調整	(2,296)	(2,642)
合計	13,729,078	12,213,200

25. 資本

(1) 当期末及び前期末現在における資本の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

科目		第183（当）期	第182（前）期
資本金	普通株資本金	7,928,078	7,928,078
新種資本証券		1,100,250	2,099,350
資本剰余金	株式発行超過金	398,080	398,080
	その他資本剰余金	5,084	5,084
	小計	403,164	403,164
資本調整	ストックオプション	(22)	25
	その他資本調整	(820)	-
	小計	(842)	25
その他包括損益累計額	売却可能金融資産評価損益	627,834	564,023
	関係企業のその他包括損益に 対する持分	7,738	3,441
	海外事業損益	(152,433)	(157,229)
	再測定要素	(245,740)	(113,833)
	小計	237,399	296,402
利益剰余金	法定積立金（注1）	1,232,400	1,098,257
	任意積立金（注2）	7,989,920	7,159,989
	その他準備金（注3）	62,496	51,400
	未処分利益剰余金（注4）	1,520,758	1,496,698
	小計	10,805,574	9,806,344
非支配持分		3,277	2,718
合計		20,476,900	20,536,081

(注1) 銀行法第40条の規定により資本金の総額に達するまで、決算純利益金の配当時毎にその純利益金の10%以上を決算期毎に積み立てた利益準備金で、欠損補填及び資本繰入の場合を除いてはこれを使用できません。

(注2) 当期末における1,695,516百万ウォンの個別財務諸表基準の貸倒準備金及び355,898百万ウォンの再評価積立金が含まれており、前期末1,693,225百万ウォンの個別財務諸表基準の貸倒準備金及び355,898百万ウォンの再評価積立金が含まれています。

(注3) 海外支店で現地の法規により積み立てた準備金で、現地所在支店の欠損補填に対してのみ使用することができます。

(注4) 当期末の個別財務諸表基準の貸倒準備金繰入予定額42,733百万ウォンと連結財務諸表基準貸倒準備金積立額の差異16,889百万ウォン及び貸倒準備金繰入予定額25,844百万ウォンが含まれています。

(2) 当期末及び前期末現在における資本金の内訳は以下の通りです。

科目	第183 (当) 期	第182 (前) 期
発行する株式総数	2,000,000,000株	2,000,000,000株
1株当り金額	5,000ウォン	5,000ウォン
発行済株式数	1,585,615,506株	1,585,615,506株

(3) 新種資本証券

当期末及び前期末現在、資本に分類された新種資本証券は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	発行日	満期日	金額		利率 (%)
			第183 (当) 期	第182 (前) 期	
外貨新種 資本証券	2005-03-02	2035-03-02	298,951	298,951	5.66
	2006-09-20	2036-09-20	94,761	94,761	6.82
	2006-09-20	2036-09-20	237,144	237,144	6.82
ウォン貨 新種資本証券	2008-03-21	2038-03-21	119,878	119,878	7.30
	2008-03-25	2038-03-25	49,948	49,948	7.30
	2009-06-05	2039-06-05	-	699,370	5.95
	2009-06-29	2039-06-29	-	299,730	5.95
	2013-06-07	2043-06-07	299,568	299,568	4.63
合計			1,100,250	2,099,350	
新種資本証券配当金			96,293	133,290	
加重平均利率 (%)			6.24	6.35	

上記の新種資本証券は、発行日以降5年または10年が経過した後、連結実体が早期償還することができ、満期日に同一の条件で満期を延長することができます。また、普通株に対する配当を支払わないことと決議した場合は、約定利息を支払いません。

(4) その他包括損益累計額

当期及び前期におけるその他包括損益累計額の再分類調整を含めた増減内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

区分	売却可能金融 資産評価損益	関係企業の その他包括損益 に対する持分	海外事業 損益	確定給付型制度 再測定要素	合計
期首	564,023	3,441	(157,229)	(113,833)	296,402
当期発生差益：					
公正価値評価による増減	396,065	-	-	-	396,065
持分法評価による増減	-	4,266	-	-	4,266
当期損益に含まれた差益の再分類調 整：					
資産減損による増減	(17,714)	-	-	-	(17,714)
処分による増減	(297,540)	-	-	-	(297,540)
リスクヘッジ会計適用効果	2,181	-	15,621	-	17,802
為替レート差異による効果	1,191	-	(6,502)	-	(5,311)
確定給付型制度の再測定	-	-	-	(174,020)	(174,020)
税効果	(20,372)	31	(4,323)	42,113	17,449
期末	627,834	7,738	(152,433)	(245,740)	237,399

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

区分	売却可能金融 資産評価損益	関係企業の その他包括損益 に対する持分	海外事業 損益	確定給付型制度 再測定要素	合計
期首	868,708	7,868	(94,943)	(127,030)	654,603
当期発生差益（差損）：					
公正価値評価による増減	56,366	-	-	-	56,366
持分法評価による増減	-	(4,473)	-	-	(4,473)
当期損益に含まれた差益の再分類調 整：					
資産減損による増減	10,832	-	-	-	10,832
処分による増減	(472,352)	-	-	-	(472,352)
リスクヘッジ会計適用効果	4,170	-	71,031	-	75,201
為替レート差異による効果	(976)	-	(122,512)	-	(123,488)
確定給付型制度の再測定	-	-	-	17,410	17,410
税効果	97,275	46	(10,805)	(4,213)	82,303
期末	564,023	3,441	(157,229)	(113,833)	296,402

(5) 利益剰余金処分計算書

当期及び前期における利益剰余金処分計算書は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

内容（注）	第183（当）期	第182（前）期
	処分予定日： 2015年3月18日	処分確定日： 2014年3月25日
I. 未処分利益剰余金	1,337,017	1,335,171
1. 前期繰越未処分利益剰余金	-	-
2. 会計方針変更効果	-	127,030
3. 新種資本証券利息	(96,293)	(133,290)
4. 当期純利益	1,433,310	1,341,431
II. 任意積立金等の取崩額	5,659,656	4,832,017
1. 任意積立金	5,659,656	4,832,017
合計	6,996,673	6,167,188
III. 利益剰余金処分額	6,996,673	6,167,188
1. 利益準備金	143,331	134,143
2. 貸倒準備金	42,733	2,291
3. その他準備金	12,720	11,098
4. 任意積立金	6,346,989	5,659,656
5. 新種資本証券償還損失	900	-
6. 配当金	450,000	360,000
：普通株現金配当 1株当たり：当期283.80ウォン（5.68%） 前期227.04ウォン（4.54%）		
IV. 次期繰越未処分利益剰余金	-	-

（注）上記の利益剰余金処分計算書は、支配企業の個別財務諸表に基づき作成されました。

(6) 配当金

当期及び前期における普通株の配当金計算内訳は以下の通りです。

(単位：株、ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
配当対象株式数	1,585,615,506	1,585,615,506
1株当り額面金額	5,000	5,000
額面配当率	5.68%	4.54%
1株当り配当金額	283.80	227.04

(7) 配当性向

当期及び前期の普通株に対する配当性向の計算内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
普通株配当金	450,000	360,000
当期純利益（注）	1,455,224	1,373,017
配当性向（当期純利益基準）	30.92%	26.22%
貸倒準備金反映後の調整利益（注）	1,429,380	1,373,084
配当性向（貸倒準備金反映後の調整利益基準）	31.48%	26.22%

（注） 当期純利益及び貸倒準備金反映後の調整利益は、支配企業所有持分基準の金額です。

26. 貸倒準備金

貸倒準備金は銀行業監督規定第29条第1項及び第2項により算出及び開示される事項です。

(1) 貸倒準備金の残高

当期末及び前期末現在における貸倒準備金の残高は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
貸倒準備金積立額	1,718,248	1,718,315
貸倒準備金積立（戻入）予定額	25,844	(67)
貸倒準備金残高	1,744,092	1,718,248

(2) 貸倒準備金繰入額及び貸倒準備金反映後の調整利益等

当期及び前期の貸倒準備金繰入額及び貸倒準備金反映後の調整利益等は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
貸倒準備金繰入（戻入）額	25,844	(67)
貸倒準備金反映後の調整利益	1,429,809	1,373,243
貸倒準備金反映後の1株当たり調整利益（ウォン）	841	782

27. 純受取利息

(1) 当期及び前期における受取利息の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
現金預け金利息	124,682	92,416
売買目的金融資産利息	205,994	214,490
売却可能金融資産利息	596,681	756,983
満期保有金融資産利息	333,114	380,286
貸付債権利息	7,158,168	7,530,975
その他利息	94,677	112,223
合計	8,513,316	9,087,373
減損された金融資産から発生した受取利息	34,702	45,023

(2) 当期及び前期における支払利息の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
預金利息	3,369,225	3,816,612
借入負債利息	191,762	207,298
社債利息	524,078	658,004
その他利息	61,118	54,911
合計	4,146,183	4,736,825

28. 純受取手数料

当期及び前期における手数料の受取・支払の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）期	第182（前）期
受取手数料	与信取扱手数料	56,853	56,620
	電子金融手数料	134,496	130,982
	仲介手数料	105,920	118,318
	業務代行手数料	328,266	318,223
	投資金融手数料	45,761	38,335
	外国為替受取手数料	137,516	132,422
	信託報酬手数料	49,741	42,241
	受取保証料	55,009	55,512
	その他手数料	57,922	52,450
	合計	971,484	945,103
支払手数料	与信関連手数料	28,776	29,781
	ブランド使用手数料	50,655	83,599
	サービス関連手数料	14,493	14,962
	売買及び仲介関連手数料	4,107	5,251
	外国為替支払手数料	21,285	20,046
	その他手数料	49,225	42,564
	合計	168,541	196,203

29. 受取配当

当期及び前期における受取配当の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
売買目的金融資産	6,186	1,733
売却可能金融資産	87,292	63,909
合計	93,478	65,642

30. 売買目的金融商品関連損益

当期及び前期における売買目的金融商品関連損益の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分			第183（当）期	第182（前）期
売買目的 金融商品	債務証券	評価利益	15,810	1,736
		処分利益	10,195	7,953
		評価損失	(4,248)	(17,262)
		処分損失	(4,971)	(12,085)
		小計	16,786	(19,658)
	持分証券	評価利益	3,897	9,396
		処分利益	29,033	32,868
		評価損失	(7,088)	(1,559)
		処分損失	(10,486)	(16,198)
		小計	15,356	24,507
	金関連	評価利益	-	157,548
		処分利益	1,499	2,941
		評価損失	(19,403)	(91,523)
		処分損失	(203)	(586)
		小計	(18,107)	68,380
	合計		14,035	73,229

売買目的 デリバティブ	外国為替関連	評価及び取引利益	1,917,601	2,267,773
		評価及び取引損失	(1,953,554)	(2,350,531)
		小計	(35,953)	(82,758)
	金利関連	評価及び取引利益	615,343	626,287
		評価及び取引損失	(631,345)	(630,083)
		小計	(16,002)	(3,796)
	株式関連	評価及び取引利益	15,327	21,454
		評価及び取引損失	(15,025)	(23,402)
		小計	302	(1,948)
	商品関連	評価及び取引利益	25,574	4,348
		評価及び取引損失	(27,760)	(32,317)
		小計	(2,186)	(27,969)
	合計		(53,839)	(116,471)
合計		(39,804)	(43,242)	

3 1. 金融商品資産減損損失

当期及び前期における金融商品資産の減損損失及び減損損失戻入の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）期	第182（前）期
金融商品 減損損失	貸付債権及びその他金融資産	463,724	673,744
	売却可能金融資産	220,286	203,584
合計		684,010	877,328

3 2. 一般管理費

当期及び前期における一般管理費の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）期	第182（前）期
従業員給与	長・短期従業員給与	1,526,950	1,438,523
	退職給付費用	101,746	14,167
	解雇給付費用	106,226	56,184
	小計	1,734,922	1,508,874
減価償却費及び その他償却費	減価償却費	132,605	136,930
	無形資産償却費	70,345	66,657
	小計	202,950	203,587
その他 一般管理費	福利厚生費	122,265	113,234
	賃借料	258,737	253,990
	役務費	224,462	243,294
	租税公課	82,229	83,193
	広告宣伝費	59,057	51,912
	電算運用費	63,441	62,739
	その他管理費	169,948	172,059
	小計	980,139	980,421
合計		2,918,011	2,692,882

3.3. 株式基準報酬

(1) 当期末現在における現金決済型で会計処理する株式基準報酬約定は以下の通りです。

区分	4次発行分	5次発行分	7次発行分
① 権利付与日	2005.3.30	2006.03.21	2008.03.19
② 行使価格	28,006ウォン	38,829ウォン	49,053ウォン
③ 付与数量	1,871,400株	2,143,800株	314,700株
④ 行使可能期間	権利付与日から 3年以降4年間（注1）	権利付与日から 3年以降4年間（注1）	権利付与日から 3年以降4年間
⑤ 数量増減内訳 （単位：株）			
期首	93,426	101,963	247,873
行使された数	-	-	(35,294)
当期末	93,426	101,963	212,579
当期末行使可能	93,426	101,963	212,579
⑥ 負債評価方法	公正価値	公正価値	公正価値
評価モデル	ブラックショールズモデル	ブラックショールズモデル	ブラックショールズモデル
株価	44,450ウォン	44,450ウォン	44,450ウォン
期待株価変動性	-	-	16.90%
満期（年）	-	-	0.11
期待配当率	-	-	1.58%
無リスク利率	-	-	2.05%
⑦ 公正価値	16,444ウォン	5,621ウォン	39ウォン

(注1) 当期末現在、4次及び5次付与分の一部数量は行使が保留されています。

(注2) 当期末現在においてストックオプションは全て稼得されており、残余数量407,968株の加重平均行使価格は41,678ウォンです。

(2) 株式決済型株式基準報酬約定

① 当期末現在における成果連動型株式基準報酬の内容は以下の通りです。

区分	内容
類型	株式決済型
付与期間（約定役務期間）	2013年までの付与分：2010年4月1日以降の選任及び昇進時 （付与日から3年間） 2014年からの付与分：2014年1月1日以降の選任及び昇進時 （付与日から1年間）
成果条件	2013年まで相対株価連動（33.4%）及び4年間の経営指標連動（66.6%）、 2014年から相対株価連動（20.0%）及び4年間の経営指標連動（80.0%）

② 付与数量及び付与時点の公正価値は以下の通りです。

付与日	付与数量	公正価値（注1）	見積数量（注2）
2010-04-01	306,400	45,150ウォン	15,747
2010-07-21	3,800	46,800ウォン	39
2010-08-30	12,400	46,500ウォン	1,023
2010-11-04	3,800	44,000ウォン	268
2010-12-30	42,800	52,900ウォン	4,712
2011-01-11	65,200	51,500ウォン	42,674
2011-01-28	49,500	50,700ウォン	43,096
2011-02-10	3,300	49,700ウォン	2,053
2011-04-18	15,400	46,800ウォン	11,946
2012-01-26	49,200	44,300ウォン	30,972
2012-02-08	30,900	46,650ウォン	19,474
2012-03-27	4,100	44,550ウォン	2,362
2012-08-24	10,800	36,150ウォン	4,830
2012-10-15	4,100	37,200ウォン	2,714
2013-01-01	183,100	40,050ウォン	101,261
2013-03-21	4,400	37,750ウォン	1,149
2013-05-27	14,500	40,250ウォン	7,736
2013-08-01	4,400	41,250ウォン	2,080

2014-01-01	109,800	47,300ウォン	101,016
2014-02-08	5,400	44,300ウォン	4,449
2014-04-01	4,800	47,000ウォン	3,324
2014-10-15	2,400	47,150ウォン	470
合計	930,500		403,395

(注1) 付与時点の新韓金融持株会社の株式終値を単位当り公正価値として算定しました。

(注2) 当初付与時点の付与数量に、約定役務期間中の在任日数に該当する基準数量に基づき相対株価上昇率による付与数量を調整し（2013年まで33.4%、2014年から20.0%）、経営成績達成率による付与数量を調整し（2013年まで66.6%、2014年から80.0%）、運営期間終了後に獲得数量を確定します。

(注3) 支払約定により連結実体が新韓金融持株会社に支払うべき金額を資本から直接減算して負債として認識しました。当期末現在、新韓金融持株会社が評価した公正価値は44,450ウォンです。

(3) 当期及び前期に発生した報酬費用の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
当期に認識した総報酬費用	6,127	7,946

(4) 当期末及び前期末現在、株式基準報酬に関連する未払費用及び残余報酬費用の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
当期以降に認識する残余報酬費用	5,417	7,704
未払費用	20,494	21,427

34. その他営業損益

当期及び前期におけるその他営業損益の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）期	第182（前）期
その他営業収益			
資産処分関連	貸付債権処分益	16,932	8,348
	償却債権処分益	9,572	76,713
	小計	26,504	85,061
その他 営業収益	リスクヘッジ対象関連利益	77,801	285,995
	リスクヘッジ手段関連利益	235,653	28,610
	支払保証引当金戻入額	5,403	-
	その他負債性引当金戻入額	35,792	-
	その他	25,282	17,481
	小計	379,931	332,086
その他営業収益合計		406,435	417,147
その他営業費用			
資産処分関連	貸付債権処分損	148	28,982
その他 営業費用	リスクヘッジ対象関連損失	236,023	28,451
	リスクヘッジ手段関連損失	68,841	291,814
	支払保証引当金繰入額	15,890	21,909
	その他負債性引当金繰入額	17,829	42,516
	基金出捐金	244,914	244,521
	預金保険料	240,513	239,257
	その他	87,395	92,640
	小計	911,405	961,108
その他営業費用合計		911,553	990,090
その他営業損益		(505,118)	(572,943)

35. 営業外損益

当期及び前期におけるその他営業外損益の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）期	第182（前）期
営業外収益			
資産処分関連	有形資産処分益	476	1,036
	無形資産処分益	460	179
	投資不動産処分益	-	248
	小計	936	1,463
関係企業に対する 投資資産関連	処分益	-	57
その他 営業外収益	投資不動産賃貸収益	25,162	21,462
	その他	53,729	43,739
	小計	78,891	65,201
営業外収益合計		79,827	66,721
営業外費用			
資産処分関連	有形資産処分損	1,153	306
	無形資産処分損	68	71
	小計	1,221	377
その他 営業外費用	投資不動産減価償却費	7,999	6,416
	寄付金	12,717	35,745
	有形資産減損損失	1	85
	無形資産減損損失	547	1,649
	その他	30,750	36,856
	小計	52,014	80,751
営業外費用合計		53,235	81,128
営業外損益		26,592	(14,407)

3 6. 法人税費用及び繰延税金

(1) 法人税費用の構成内訳

当期及び前期における法人税費用の算出内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183 (当) 期	第182 (前) 期
当期法人税負担額	405,064	390,972
一時差異による繰延税金変動額	(42,359)	(119,072)
資本に直接反映された繰延税金	17,438	82,937
法人税費用	380,143	354,837

(2) 法人税費用の差異内訳

当期及び前期における税引前純利益と法人税費用間の関係は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183 (当) 期	第182 (前) 期
税引前継続事業利益	1,835,796	1,728,013
適用税率	24.20%	24.20%
適用税率による法人税	443,801	417,717
非課税収益	(28,480)	(34,915)
非控除費用	3,776	8,947
連結納税	(33,880)	(30,333)
その他	(5,074)	(6,579)
法人税費用	380,143	354,837
実効税率	20.71%	20.53%

(3) 一時差異及び繰延税金

当期及び前期における一時差異及び繰延税金資産（負債）の増減内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

区分	期首残高	減少	増加	期末残高	繰延税金資産 （負債）（注1）
未収収益	(441,833)	(441,833)	(347,483)	(347,483)	(84,091)
未収金	(8,133)	(8,133)	(58,567)	(58,567)	(14,173)
売買目的金融資産	(67,935)	(118,756)	(135,567)	(84,746)	(20,509)
売却可能金融資産	1,730,484	919,944	361,189	1,171,729	283,558
関係企業に対する投資資産（注2）	(59,147)	(102,509)	-	43,362	10,494
繰延貸付付帯収益	(46,552)	(87,737)	(304,481)	(263,296)	(63,718)
有形資産評価及び償却等	(446,441)	6,473	3,100	(449,814)	(108,855)
デリバティブ資産（負債）	(970)	55,193	(15,607)	(71,770)	(17,368)
預金	106,159	119,482	134,019	120,696	29,208
未払費用	200,644	201,669	331,497	330,472	79,974
確定給付債務	602,286	27,316	293,053	868,023	210,062
社外積立資産	(602,286)	(27,315)	(178,677)	(753,648)	(182,383)
その他引当負債	299,765	299,765	191,776	191,776	46,410
支払保証引当負債	92,561	92,561	106,952	106,952	25,882
圧縮記帳引当負債	(180,945)	-	(86)	(181,031)	(43,810)
一時償却引当負債	(2,850)	(232)	-	(2,618)	(634)
みなし配当	5,513	-	-	5,513	1,334
売却可能金融資産評価損益	(744,094)	(744,094)	(828,276)	(828,276)	(200,443)
未払寄付金	50,306	50,306	49,300	49,300	11,931
貸倒引当金及び貸倒金	159,419	159,419	192,503	192,503	50,117
株式報酬費用関連調整額	3,299	3,221	2,118	2,196	531
みなし配当	3,966	57	-	3,909	946
その他	(518,441)	(718,795)	64,045	264,399	63,986
小計	134,775	(313,998)	(139,192)	309,581	78,449
<繰延税金資産及び負債として認識しなかった一時差異>					
関係企業に対する投資資産（注2）	(10,356)	(76,500)	(77,676)	(11,532)	(2,791)
合計	145,131	(237,498)	(61,516)	321,113	81,240

(注1) 為替レート変動効果により、海外従属会社の繰延税金資産19百万ウォンが増加しました。

(注2) 持分法評価による税効果は、関係企業被投資会社別に繰延税金の適用可能金額及び実現可能性を考慮して合理的に見積もっています。

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

区分	期首残高	減少	増加	期末残高	繰延税金資産 (負債) (注1)
未収収益	(508,335)	(508,335)	(441,833)	(441,833)	(106,923)
未収金	(53,882)	(80,536)	(34,787)	(8,133)	(1,968)
売買目的金融資産	(14,401)	(3,871)	(57,405)	(67,935)	(16,440)
売却可能金融資産	1,295,094	559,161	994,551	1,730,484	418,777
関係企業に対する投資資産（注2）	(42,909)	-	(16,238)	(59,147)	(14,313)
繰延貸付付帯収益	(33,263)	(44,110)	(57,399)	(46,552)	(11,266)
有形資産評価及び償却等	(438,627)	11,747	3,933	(446,441)	(108,039)
デリバティブ資産（負債）	(98,600)	(156,551)	(58,921)	(970)	(234)
預金	132,232	167,214	141,141	106,159	25,690
未払費用	182,339	183,063	201,368	200,644	48,556
確定給付債務	711,245	21,872	(87,087)	602,286	145,753
社外積立資産	(472,230)	(21,873)	(151,929)	(602,286)	(145,753)
その他引当負債	254,688	254,688	299,765	299,765	72,543
支払保証引当負債	76,891	76,891	92,561	92,561	22,400
圧縮記帳引当負債	(181,096)	(151)	-	(180,945)	(43,789)
一時償却引当負債	(3,082)	(232)	-	(2,850)	(690)
みなし配当	5,513	-	-	5,513	1,334
売却可能金融資産評価損益	(1,146,055)	(1,146,055)	(744,094)	(744,094)	(180,071)
未払寄付金	54,925	54,925	50,306	50,306	12,174
貸倒引当金及び貸倒金	152,851	152,851	159,419	159,419	42,321
株式報酬費用関連調整額	2,740	2,662	3,221	3,299	798
みなし配当	3,953	9	22	3,966	960
その他	(245,310)	294,195	21,064	(518,441)	(125,464)
小計	(365,319)	(182,436)	317,658	134,775	36,356
<繰延税金資産及び負債として認識しなかった一時差異>					

関係企業に対する投資資産（注2）	(11,346)	-	990	(10,356)	(2,506)
合計	(353,973)	(182,436)	316,668	145,131	38,862

（注1） 為替レート変動効果により、海外従属企業の繰延税金資産65百万ウォンが減少しました。

（注2） 持分法評価による税効果は、関係企業被投資会社別に繰延税金の適用可能金額及び実現可能性を考慮して合理的に見積もっています。

(4) 資本に直接加減する項目に関連する法人税

当期及び前期中に資本に直接付加されるか、或いは減算された法人税の内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

区分	期末		期首		税効果増減
	税前金額	税効果	税前金額	税効果	
売却可能金融資産評価損益	828,277	(200,443)	744,094	(180,071)	(20,372)
関係企業のその他包括損益に 対する持分	7,656	82	3,390	51	31
海外事業損益	(126,901)	(25,531)	(136,021)	(21,208)	(4,323)
再測定要素	(324,196)	78,456	(150,176)	36,343	42,113
その他資本調整	77	(19)	33	(8)	(11)
合計	384,913	(147,455)	461,320	(164,893)	17,438

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

区分	期末		期首		税効果増減
	税前金額	税効果	税前金額	税効果	
売却可能金融資産評価損益	744,094	(180,071)	1,146,054	(277,346)	97,275
関係企業のその他包括損益に 対する持分	3,390	51	7,863	5	46
海外事業損益	(136,021)	(21,208)	(84,540)	(10,403)	(10,805)
再測定要素	(150,176)	36,343	(167,586)	40,556	(4,213)
その他資本調整	33	(8)	2,653	(642)	634
合計	461,320	(164,893)	904,444	(247,830)	82,937

(5) 当期法人税資産及び負債

当期末及び前期末現在における当期法人税資産及び負債の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）期	第182（前）期
当期法人税資産	前払法人税	7,033	5,224
当期法人税負債	法人税未払金 (連結納税負担額)	168,652	134,344
	未払法人税	2,047	13,941
	合計	170,699	148,285

(6) 総額基準法人税内訳

当期末及び前期末現在、相殺前総額基準による繰延税金資産、繰延税金負債、当期法人税資産及び当期法人税負債の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
繰延税金資産	1,194,441	1,167,231
繰延税金負債	1,113,201	1,128,369
当期法人税資産	267,071	255,123
当期法人税負債	430,737	398,184

37. 1株当たり純利益

当期及び前期における1株当たり純利益の計算内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
支配企業純利益	1,455,224	1,373,017
新種資本証券配当	(96,293)	(133,290)
普通株に帰属される利益	1,358,931	1,239,727
加重平均流通普通株式数（株）	1,585,615,506	1,585,615,506
基本的及び希薄化後1株当たり純利益（ウォン）	857	782

連結実体は希薄化後潜在的普通株を保有しておらず、ストックオプションは希薄化効果がないため、当期及び前期の希薄化後1株当たり純利益は基本的1株当たり純利益と一致します。

38. 偶発及び約定事項

(1) 当期末及び前期末現在、支払保証及び約定の種類別の金額は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）期	第182（前）期
支払保証	確定支払保証	10,775,530	10,499,522
	未確定支払保証	4,334,310	5,052,394
	合計	15,109,840	15,551,916
約定	ウォン貸貸付約定	52,196,405	52,863,179
	外貨貸付約定	20,194,874	20,119,314
	ABS及びABCP買入約定	1,986,308	1,415,531
	その他	1,215,108	1,174,291
	合計	75,592,695	75,572,315
裏書手形	担保裏書手形	51,043	54,460
	無担保裏書手形	10,914,587	11,327,272
	合計	10,965,630	11,381,732
買戻権付貸付債権売却	ウォン貸	2,099	2,099

(2) 支払保証引当負債

当期末及び前期末現在、支払保証引当負債の設定対象及び支払保証引当負債の設定比率は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
確定支払保証	10,775,530	10,499,522
未確定支払保証	4,334,310	5,052,394
ABS及びABCP買入約定	1,986,308	1,415,531
担保裏書手形	51,043	54,460
設定対象支払保証総額	17,147,191	17,021,907
支払保証引当負債	106,952	92,561
引当負債設定比率（%）	0.62	0.54

(3) 係争中の訴訟事件

当期末現在、連結実体に関連して係争中の被訴事件は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

事件名	件数	訴価	事件内容	訴訟現況
物品代金支払 請求	1	43,761	偽造支払保証書に基づいて物品を納入し、物品代金を受領できなくなったことにより該当支払保証書に基づいて未回収物品代金に対して当行に支払保証責任の履行を請求した。	1審の一部敗訴金額に対して全額を支払っており、2審進行中である。
損害賠償	1	47,200	原告は当行がシンホ製紙株式の買収時、このような売却が企業構造調整組合員の意思に反して不法な株式売却を行うことを事前に把握していたにもかかわらず、これを引き受けて他の株主の経営権行使に影響を与え損害が発生したため、これに対して賠償を請求した。	1 審及び2審の一部の敗訴金額に対して全額支払っており、3審が進行中である。
根抵当権 設定費返還	1	218	原告は当行から担保貸付を受けることにより根抵当権設定費用を負担した顧客で、設定費負担に関する約定は不公正な約款に該当して無効であるため、これを返還しなければならないという不当利得金返還の訴を提起した。	1審進行中である。

契約無効確認及び 不当利得返還等	6	43,406	通貨オプション先物為替の無効、取消等を主張	2審及び3審が進行中であり、損失予想金額を引当負債として認識する。
その他	125	165,254	損害賠償等多数	
合計	134	299,839		

連結実体は当期末現在、1審で敗訴が決定された訴訟案件等に関して22,230百万ウォンを訴訟引当負債として計上しており、引当負債として計上された訴訟以外の残余訴訟結果は財務諸表に重大な影響を及ぼさないと予測されているものの、今後の訴訟結果により追加的な損失が発生する可能性もあります。

(4) 三星自動車に関連する約定金等の請求訴訟に対する債権団の勝訴による偶発資産

連結実体を含めた三星自動車(株)の債権団は1999年9月、三星自動車(株)の処理に関連して三星の系列会社と合意書を作成しました。同合意書によると、三星自動車(株)の会社整理申請に関連して三星自動車(株)の債権金融機関に拋出された三星生命保険(株)の株式350万株を2000年12月31日までに処分し、同処分価額が2兆4,500億ウォンに達しない場合、三星グループの系列会社が債権金融機関に資本出資或いは後順位債権買入方法等によりその不足額を負担するものの、履行しない場合は銀行の延滞利率による遅延利息相当額を支払うことになっています。上記の合意書に関連して2005年12月9日付で連結実体と三星自動車(株)の債権団は(株)健熙会長及び三星グループの系列会社を相手取り約定金等の請求訴訟を提起し、2015年1月29日、最高裁判所から勝訴判決を受けました。

(5) オペレーティングリースの満期構造

当期末及び前期末現在、解約不可能リース契約により支払わなければならない将来最低リース料約定金額は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

区分	1年以内	1年超過5年以内	5年超過	合計
最低リース料	118,988	168,214	5,309	292,511

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

区分	1年以内	1年超過5年以内	5年超過	合計
最低リース料	96,395	134,224	14,755	245,374

39. キャッシュ・フロー計算書に対する注記

(1) 当期末及び前期末現在、現金及び現金性資産の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
現金	2,471,103	2,589,117
支払準備預け金	5,668,726	3,161,035
その他預け金	7,720,248	6,679,811
財務状態表上の現金預け金	15,860,077	12,429,963
使用制限預け金	(9,181,973)	(5,520,439)
取得当時に満期日が 3ヶ月を超過した預け金	(2,141,900)	(1,918,163)
合計	4,536,204	4,991,361

(2) 当期及び前期中に、現金の流入及び流出を伴わない取引の主な内容は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
新種資本証券未払配当金	14,937	18,545
貸付債権出資転換	57,335	158,754
無形資産取得未払金	9,450	36,260

40. 特殊関係者取引

(1) 特殊関係者債権・債務

当期末及び前期末現在、特殊関係者間の重要な債権・債務の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

特殊関係者	勘定科目	第183（当）期	第182（前）期
1) 連結実体の支配企業			
新韓金融持株会社	預金	120,813	385
	当期法人税負債	168,652	134,344
	その他負債	34,213	34,997
2) 同一支配企業			
新韓カード	デリバティブ資産	12,269	2,820
	その他資産	1,793	1,575
	預金	97,333	21,081
	デリバティブ負債	60	1,849
	引当負債	19	19
	その他負債	19,027	32,500
新韓金融投資	現金預け金	-	8
	デリバティブ資産	5,898	2,001
	貸付債権	9,655	9,801
	貸倒引当金	(61)	(71)
	その他資産	17,760	18,771
	預金	193,038	56,429
	デリバティブ負債	4,411	3,540
	引当負債	54	39
	その他負債	29,448	34,543
新韓生命	デリバティブ資産	12,657	25
	その他資産	8	5
	預金	6,862	33,310
	デリバティブ負債	1,601	7,326
	引当負債	2	2
	その他負債	38,748	41,652

新韓キャピタル	その他資産	1	-
	預金	15,071	18,166
	引当負債	4	4
	その他負債	1,319	1,403
済州銀行	貸付債権	4,964	9,797
	貸倒引当金	(3)	(2)
	その他資産	27	56
	預金	1,567	1,368
	その他負債	1,140	1,140
新韓信用情報	預金	10,511	11,119
	その他負債	1,452	1,455
新韓 プライベートエクイティ	貸付債権	3,500	1,701
	貸倒引当金	(19)	(36)
	その他資産	-	3
	預金	168	36
	引当負債	5	9
	その他負債	-	1
新韓 BNPパリバ資産運用	預金	119,522	109,561
	その他負債	2,034	1,265
SHCマネージメント	預金	100	100
	その他負債	3	3
新韓データシステム	預金	2,481	843
	その他負債	4,458	4,114
新韓貯蓄銀行	その他負債	-	90
新韓アイタス	その他資産	6	-
	預金	10,255	10,171
	その他負債	100	183
KREDIT私募不動産 投資信託1号	預金	-	1,701
	その他負債	-	25
3) 関係企業及び同一支配企業の関係企業			

アジュキャピタル	売買目的金融資産	50,000	60,000
	貸付債権	200,000	50,000
	貸倒引当金	(614)	(275)
	預金	1,184	470
	引当負債	78	280
連合資産管理	預金	28,801	1,719
	引当負債	50	50
カーディフ生命	預金	194	262
	引当負債	1	1
浦項テクノパーク2PFV	預金	14,666	14,689
極東建設	預金	6,986	-
BNPパリバカーディフ損害保険	預金	7	-
ゴンビョンオフィス	預金	32,002	-
未来アセット ジョウン企業投資組合3号	預金	1,777	158
KDB大字ルビー 私募投資専門会社	預金	2,025	-
ドリームハイ投資組合3号	預金	301	-
メディチ2号投資組合	預金	-	62
KDB大字証券プラチナム 私募投資専門会社	預金	-	652
ファミリー食品	引当負債	-	5
4) 主な経営陣			
貸付債権		2,718	799
貸倒引当金		(1)	(1)

(2) 特殊関係者収益・費用

当期及び前期における特殊関係者間の重要な取引内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

特殊関係者	勘定科目	第183（当）期	第182（前）期
1) 連結実体の支配企業			
新韓金融持株会社	その他営業収益	1,941	1,967
	支払利息	(1,201)	(2,892)
	支払手数料	(46,050)	(76,000)

2) 同一支配企業			
新韓カード	受取利息	214	533
	受取手数料	174,433	168,824
	デリバティブ関連利益	15,430	3,262
	その他営業収益	1,217	1,087
	支払利息	(703)	(814)
	支払手数料	(431)	(513)
	デリバティブ関連損失	(892)	(3,630)
	その他営業費用	(41)	(40)
新韓金融投資	受取利息	1,082	1,018
	受取手数料	3,413	3,164
	デリバティブ関連利益	10,808	4,714
	その他営業収益	2,654	2,538
	支払利息	(1,531)	(2,925)
	貸倒償却費	10	13
	デリバティブ関連損失	(8,764)	(5,177)
	その他営業費用	(649)	(576)
新韓生命	受取利息	56	58
	受取手数料	15,769	13,151
	デリバティブ関連利益	15,725	388
	その他営業収益	1,761	2,180
	支払利息	(1,107)	(1,192)
	支払手数料	(50)	(60)
	デリバティブ関連損失	(2,905)	(7,684)
	その他営業費用	(707)	(681)
新韓キャピタル	受取利息	1	2
	その他営業収益	641	850
	支払利息	(368)	(346)
済州銀行	受取利息	84	125
	その他営業収益	218	42
	支払利息	(30)	(30)
	貸倒償却費	(1)	-
	その他営業費用	(2)	-

新韓信用情報	受取手数料	2	2
	その他営業収益	200	142
	支払利息	(298)	(331)
	支払手数料	(5,315)	(5,399)
	デリバティブ関連損失	(6)	-
新韓プライベートエクイティ	受取利息	45	43
	その他営業収益	4	1
	支払利息	-	(21)
	貸倒償却費	17	12,386
新韓BNPパリバ資産運用	受取利息	3	-
	受取手数料	43	30
	その他営業収益	27	19
	支払利息	(2,723)	(2,871)
	支払手数料	(1,991)	(1,881)
新韓データシステム	その他営業収益	288	303
	支払利息	(141)	(36)
	その他営業費用	(30,035)	(33,946)
SHCマネージメント	支払利息	(3)	(3)
新韓貯蓄銀行	その他営業収益	76	209
	支払利息	(1)	(277)
新韓アイタス	受取手数料	25	26
	その他営業収益	28	11
	支払利息	(287)	(324)
	支払手数料	-	(40)
3) 関係企業及び同一支配企業の関係企業			
アジュキャピタル	受取利息	5,638	2,185
	受取手数料	260	546
	その他営業収益	202	-
	支払利息	(1)	(24)
	貸倒償却費	(339)	(21)
連合資産管理	受取利息	40	115
	受取手数料	7	5
	支払利息	(1)	(1)

カーディフ生命	受取手数料	30	16
浦項テクノパーク2PFV	支払利息	(15)	(15)
インヒ	受取手数料	-	1
極東建設	受取手数料	15	-
	支払利息	(40)	-
	支払手数料	(4)	-
BNPパリバカーディフ損害保険	受取手数料	1	-
ゴンビョンオフィス	支払利息	(1,274)	-
未来アセットジョウン 企業投資組合3号	支払利息	(1)	(2)
ドリームハイ投資組合3号	支払利息	(6)	-
ファミリー食品	その他営業収益	5	-
主な経営陣			
受取利息		96	40

(3) 特殊関係者に対する給与

当期及び前期における特殊関係者に対する給与の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

勘定科目	第183（当）期	第182（前）期
長・短期従業員給与	8,413	9,034
退職給付	236	191
株式基準報酬	3,374	2,270
合計	12,023	11,495

(4) 特殊関係者の支払保証内訳

当期末及び前期末現在、特殊関係者間の主な支払保証及び未使用限度の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

提供者	提供を受けている者	保証金額		保証内訳
		第183（当）期	第182（前）期	

新韓銀行	新韓金融投資	9,893	9,498	履行保証（支払保証書方式）
		181,000	181,000	未使用貸付限度
	新韓カード	500,000	500,000	未使用貸付限度
	新韓生命	50,000	50,000	未使用貸付限度
	新韓キャピタル	-	4,982	外貨輸入物品先取保証
		-	295	輸入信用状発行
		60,000	60,000	未使用貸付限度
	新韓BNPパリバ資産運用	192,849	-	証券引受約定
	新韓プライベートエクイティ	4,248	8,214	未使用貸付限度
	SHCマネージメント	94	94	履行保証（支払保証書方式）
	KoFC新韓フロンティア チャンプ2010の4号 私募投資専門会社	26,834	26,995	証券引受約定
	カーディフ生命	10,000	10,000	未使用貸付限度
	アジュキャピタル	50,000	100,000	未使用貸付限度
		50,000	40,000	証券引受約定
	連合資産管理	112,200	112,200	未使用貸付限度
		179,900	179,900	証券引受約定
	ファミリー食品	-	3,000	未使用貸付限度
合計		1,427,018	1,286,178	

(5) 特殊関係者への担保提供内訳

1) 当期末及び前期末現在、特殊関係者に提供している担保は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

提供者	会社名	担保提供資産	第183（当）期		第182（前）期	
			帳簿価額	担保設定額	帳簿価額	担保設定額
同一支配企業	新韓金融投資	有価証券	155,303	34,041	171,345	42,372
	新韓生命		10,385	10,385	-	-
合計			165,688	44,426	171,345	42,372

2) 当期末及び前期末現在、特殊関係者から提供を受けている担保は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

提供者	会社名	担保提供資産	担保設定額	
			第183（当）期	第182（前）期
同一支配企業	新韓金融投資	預金	22,000	22,000
		不動産	91,974	91,974
	SHCマネージメント	預金	100	100
	新韓キャピタル	預金	11,200	16,032
		国債	-	1,928
	済州銀行	国債	20,000	20,000
	新韓生命	国債	7,446	6,894
関係企業	カーディフ生命	国公債	12,770	2,958
合計			165,490	161,886

4 1. 従属企業財務諸表の要約

- (1) 当期末と前期末現在、支配企業である新韓銀行（個別）及び連結対象従属企業の要約財務状態表は以下の通りです。

（単位：百万ウォン）

会社名	第183（当）期			第182（前）期		
	資産合計	負債合計	資本合計	資産合計	負債合計	資本合計
新韓銀行	242,075,869	221,704,012	20,371,857	225,735,681	205,263,519	20,472,162
新韓アジュ金融有限公司	309,478	126,229	183,249	244,278	80,275	164,003
アメリカ新韓銀行	1,057,143	906,062	151,081	1,037,819	898,449	139,370
ヨーロッパ新韓銀行	356,019	277,610	78,409	427,915	346,418	81,497
新韓クメール銀行	142,350	109,738	32,612	151,343	124,319	27,024
新韓カザフスタン銀行	172,109	102,687	69,422	119,531	42,962	76,569
カナダ新韓銀行	377,086	335,864	41,222	383,228	341,675	41,553
新韓銀行中国有限公司	3,977,209	3,599,289	377,920	3,251,418	2,897,126	354,292
SBJ銀行	4,828,433	4,542,653	285,780	5,569,999	5,272,990	297,009
新韓バンク・ベトナム	2,010,873	1,625,063	385,810	1,469,915	1,118,703	351,212
構造化企業	5,132,803	5,301,309	(168,506)	5,352,358	5,535,315	(182,957)

- (2) 当期及び前期における支配企業である新韓銀行（個別）及び連結対象従属企業の要約包括損益計算書は以下の通りです。

（単位：百万ウォン）

会社名	第183（当）期			第182（前）期		
	営業収益	当期純損益	総包括損益	営業収益	当期純損益	総包括損益
新韓銀行	13,295,328	1,433,310	1,355,956	14,882,357	1,341,431	1,031,669
新韓アジュ金融有限公司	9,021	3,582	19,246	11,623	4,172	1,401
アメリカ新韓銀行	47,024	4,511	11,711	50,123	40,881	33,612
ヨーロッパ新韓銀行	12,927	3,793	(3,088)	12,748	3,057	5,227
新韓クメール銀行	9,372	4,293	5,588	7,864	1,595	891
新韓カザフスタン銀行	9,392	2,519	(7,147)	7,408	3,542	1,640
カナダ新韓銀行	12,835	1,432	(332)	12,044	111	(3,541)
新韓銀行中国有限公司	159,623	16,888	23,628	125,810	(8,806)	(3,492)
SBJ銀行	216,354	14,176	(11,231)	193,614	12,755	(64,131)
新韓バンク・ベトナム	110,029	23,688	34,598	93,960	31,730	19,458

構造化企業	194,415	(15,933)	(15,091)	203,697	(30,024)	(29,018)

4 2. 非連結構造化企業に対する持分

(1) 非連結構造化企業に対する持分の性格及び範囲

連結実体は資産流動化証券、構造化金融、投資ファンド等の投資を通じて構造化企業に関与しています。同構造化企業の主な特性は以下の通りです。

区分	主な特性
資産流動化証券	資産流動化会社は資産保有者から資産を購入し、これに基づいて資産流動化証券を発行する当事者として、企業の資金調達を円滑にして財務構造の健全性を高めるために設立された有限会社です。連結実体は構造化企業が売上債権等を基礎資産として発行した流動化証券を購入するか、或いは同構造化企業に対して信用供与及び流動化証券購入約定等を提供しています。
構造化金融	構造化金融のための構造化企業は、企業吸収合併、民間投資方式の建設プロジェクト或いは船舶投資のためのプロジェクト金融等の目的のために設立され、調達した資金は同目的の実施のために使用されます。連結実体は構造化金融のための構造化企業に貸付、持分投資等の形態で資金を提供するか、或いは必要によって様々な形態の信用供与を提供しています。
投資ファンド	投資ファンドは投資者に収益（出資）証券等を発行して資金を調達し、株式または債券等に投資してその収益を投資者に配分する投資信託、私募投資専門会社及び組合等です。連結実体は投資ファンド持分に投資するか或いは集合投資会社、業務執行社員（組合員）等としてその他投資者に代わって資産を運用及び管理しています。

1) 当期末及び前期末現在における非連結構造化企業の規模は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

区分	資産流動化証券	構造化金融	投資ファンド	合計
資産合計	18,405,975	31,290,465	7,739,222	57,435,662

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

区分	資産流動化証券	構造化金融	投資ファンド	合計
資産合計	16,901,389	38,920,533	7,498,036	63,319,958

2) 当期及び前期中、非連結構造化企業から発生した損益は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

区分		資産流動化証券	構造化金融	投資ファンド	合計
利益	受取利息	16,573	126,391	-	142,964
	受取手数料	11,501	9,767	-	21,268
	受取配当	13	-	27,162	27,175
	その他	308	129	349	786
	小計	28,395	136,287	27,511	192,193
損失		818	-	30,436	31,254

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

区分		資産流動化証券	構造化金融	投資ファンド	合計
利益	受取利息	15,163	149,215	-	164,378
	受取手数料	7,597	6,857	-	14,454
	受取配当	-	7,075	3,827	10,902
	その他	967	92,069	6,701	99,737
	小計	23,727	255,216	10,528	289,471
損失		-	-	360	360

3) 当期及び前期中、連結実体が非連結構造化企業に移転した資産の帳簿価額は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

区分	第183（当）期
住宅金融公社MBS2014-17	67,800
合計	67,800

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

区分	第182（前）期
住宅金融公社MBS2013-05	210,300
住宅金融公社MBS2013-09	65,800
住宅金融公社MBS2013-15	42,900
住宅金融公社MBS2013-19	18,100
住宅金融公社MBS2013-29	268,000
国民幸福基金	250
合計	605,350

(2) 非連結構造化企業に対する持分に関連するリスクの性格

- 1) 当期末及び前期末現在における非連結構造化企業の持分に関して、連結実体が財務諸表に認識した資産及び負債の帳簿価額は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

区分	資産流動化証券	構造化金融	投資ファンド	合計
財務状態表上の資産				
貸付債権	368,112	2,497,972	3,589	2,869,673
売買目的金融資産	573,919	48,877	-	622,796
デリバティブ資産	42	-	-	42
売却可能金融資産	330,807	224,342	622,859	1,178,008
合計	1,272,880	2,771,191	626,448	4,670,519
財務状態表上の負債				
その他負債	1,200	-	-	1,200
合計	1,200	-	-	1,200

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

区分	資産流動化証券	構造化金融	投資ファンド	合計
財務状態表上の資産				
貸付債権	140,575	2,962,626	-	3,103,201
売買目的金融資産	230,729	-	-	230,729
デリバティブ資産	884	1,075	-	1,959
売却可能金融資産	719,755	84,291	538,623	1,342,669
合計	1,091,943	3,047,992	538,623	4,678,558

(注) 前期末現在、非連結構造化企業の持分に関して、連結実体が財務諸表に認識している負債はありません。

- 2) 当期末及び前期末現在における連結実体の非連結構造化企業に対する最大エクスポージャーは以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

区分	資産流動化証券	構造化金融	投資ファンド	合計
保有資産	1,272,880	2,771,191	626,448	4,670,519
仕入約定	325,195	30,000	103,702	458,897
未実行信用供与	1,631,113	110,224	-	1,741,337
支払保証	-	28,888	-	28,888
合計	3,229,188	2,940,303	730,150	6,899,641

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

区分	資産流動化証券	構造化金融	投資ファンド	合計
保有資産	1,091,943	3,047,992	538,623	4,678,558
仕入約定	157,000	-	18,913	175,913
未実行信用供与	1,258,531	168,520	-	1,427,051
支払保証	-	5,410	-	5,410
合計	2,507,474	3,221,922	557,536	6,286,932

4 3. 信託セグメント経営成績

- (1) 信託勘定の当期末及び前期末現在における資産合計、当期及び前期のうち、営業収益は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期		第182（前）期	
	資産合計	営業収益	資産合計	営業収益
連結対象	3,882,632	149,686	3,667,084	143,885
連結非対象	27,103,450	502,429	22,674,439	581,492
合計	30,986,082	652,115	26,341,523	725,377

- (2) 当期末及び前期末における信託セグメントの主な債権・債務の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
信託勘定未払金	2,017,811	2,298,642
信託報酬未収収益	16,227	15,206
未払利息	526	665

- (3) 当期及び前期における信託セグメントとの主な収益・費用の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
信託業務運用収益	49,741	42,241
信託勘定未払金支払利息	44,891	50,043

[次へ](#)

연 결 재 무 상 태 표

제183(당)기 기말 2014년 12월 31일 현재

제182(전)기 기말 2013년 12월 31일 현재

주식회사 신한은행 및 그 종속기업

(단위: 백만원)

과목	주선	제183(당)기 기말	제182(전)기 기말
자 산			
1. 현금및예치금	3,6,9,39,40	15,980,077	12,429,963
2. 단기대금용자산	3,7,40,42	8,316,341	7,519,765
3. 파생상품자산	3,8,40,42	1,309,094	1,457,994
4. 대출채권	3,9,16,40,42	188,325,465	174,689,344
5. 매도가능금융자산	3,10,16,42	22,363,612	24,093,086
6. 만기보유금융자산	3,10,16	8,012,117	7,433,620
7. 유형자산	5,11,16	2,036,119	2,201,033
8. 무형자산	5,12	180,267	225,845
9. 관계기업에대한투자자산	13	211,272	222,340
10. 투자부동산	5,14	738,614	596,954
11. 당기법인세자산	36	7,033	5,224
12. 이연법인세자산	36	90,575	49,335
13. 기타자산	3,9,15,40,43	8,190,271	7,107,495
14. 매각예정자산		5,472	13,696
자 산 총 계		255,646,329	238,045,694
부 채			
1. 당기손익인식지정부채	3,17	6,139	-
2. 예수부채	3,18,40	189,639,872	175,020,432
3. 단기대금용부채	3,19	428,936	398,596
4. 파생상품부채	3,8,40,42	1,256,438	1,478,179
5. 차입부채	3,20	12,802,821	10,069,339
6. 사채	3,21	16,581,408	17,739,655
7. 확정급여부채	22	245,975	67,438
8. 충당부채	23,38,40	298,728	364,016
9. 당기법인세부채	36,40	170,699	148,285
10. 이연법인세부채	36	9,335	10,473
11. 기타부채	3,24,40,42,43	13,729,078	12,213,200
부 채 총 계		235,169,429	217,509,613
자 본			
1. 지배기업 소유지분		20,473,623	20,533,363
1. 자본금	25	7,928,078	7,928,078
2. 산출자본증권	25	1,100,250	2,099,350
3. 자본잉여금	25	403,164	403,164
4. 자본조정	25	(842)	25
5. 기타포괄손익누계액	25,36	237,399	296,402
6. 이익잉여금	25,26	10,805,574	9,806,344

과목	주석	제183(당)기 기말		제182(전)기 기말	
(대손준비금 적립액)		(1,718,248)		(1,718,315)	
(대손준비금 전입(환입) 필요액)		(25,844)		((67))	
(대손준비금 전입(환입) 예정액)		(25,844)		((67))	
II. 비지배자분	25		3,277		2,718
자 본 총 계			20,476,900		20,536,081
부 채 와 자 본 총 계			255,646,329		238,045,694

"첨부된 주석은 본 연결재무제표의 일부입니다."

연 결 포 괄 손 익 계 산 서

제183(당)기 2014년 1월 1일부터 2014년 12월 31일까지

제182(전)기 2013년 1월 1일부터 2013년 12월 31일까지

주식회사 신한은행 및 그 종속기업

(단위: 백만원)

과목	주선	제183(당)기	제182(전)기
I. 영업이익		1,797,396	1,719,972
(1) 순이자손익	3,527,404	4,367,133	4,350,548
1. 이자수익		8,513,316	9,087,373
2. 이자비용		4,146,183	4,736,825
(2) 순수료손익	3,528,404	802,943	748,900
1. 순수료수익		971,484	945,103
2. 순수료비용		168,541	196,203
(3) 배당수익	29,42	93,478	65,642
(4) 단기매매금융상품관련손익	30	(39,804)	(43,242)
(5) 외환거래손익		252,759	255,444
(6) 당기손익인식지경금융상품관련손익	17	34	-
(7) 매도가능금융자산처분손익	10	427,992	485,833
(8) 금융상품자산손상차손	3,931,40	684,010	877,328
1. 대손상각비		463,724	673,744
2. 기타금융상품손상차손		220,286	203,584
(9) 일반관리비	32,40	2,918,011	2,692,882
(10) 기타영업손익	5,34,40	(505,118)	(572,943)
II. 영업외손익	5,35	26,592	(14,407)
III. 관계기업이익에대한지분	5,13	11,808	22,448
IV. 법인세차감전계속영업이익	5	1,835,796	1,728,013
V. 법인세비용	5,36	380,143	354,837
VI. 당기순이익 (대손준비금 반영후 조정이익 당기: 1,429,809백만원 전기: 1,373,243백만원)	5,26	1,455,653	1,373,176
VII. 기타포괄손익	3,25,36	(58,873)	(358,270)
(1) 후속적으로 당기손익으로 재분류되는 항목		73,034	(371,467)
1. 해외사업환산손익		4,926	(62,354)
2. 매도가능금융자산평가손익		63,811	(304,687)
3. 관계기업의기타포괄손익에대한지분		4,297	(4,426)
(2) 후속적으로 당기손익으로 재분류되지 않는 항목		(131,907)	13,197
1. 확정급여제도의 재측정요소		(131,907)	13,197
VIII. 총포괄이익		1,396,780	1,014,906
(1) 당기순이익의귀속	5	1,455,653	1,373,176
1. 지배기업소유지분		1,455,224	1,373,017
2. 비지배지분		429	159

과목	주요	제183(당)기		제182(전)기	
(2) 당기총포괄이익의귀속			1,396,780		1,014,906
1. 지배기업소유지분		1,396,221		1,014,816	
2. 비지배지분		559		90	
IX. 주당이익	37				
1. 기본주당순이익			857원		782원
2. 희석주당순이익			857원		782원

첨가된 주당순이익은 연결재무제표의 일부입니다.

연 결 자 본 변 동 표

제183(당)기 2014년 1월 1일부터 2014년 12월 31일까지

제182(전)기 2013년 1월 1일부터 2013년 12월 31일까지

주식회사 신한은행 및 그 종속기업

(단위: 백만원)

과 목	자본금	신용 자본증권	자본잉여금	자본조정	기타포괄 손익누계액	이익잉여금	비지배지분	합 계
I. 2013년 1월 1일 (전기초)	7,928,078	2,329,780	403,184	2,011	654,803	9,018,617	2,828	20,338,881
총포괄손익:	-	-	-	-	(358,201)	1,373,017	90	1,014,908
(1) 당기순이익	-	-	-	-	-	1,373,017	159	1,373,176
(2) 기타포괄손익	-	-	-	-	(358,201)	-	(89)	(358,270)
1. 해외사업환산손익	-	-	-	-	(82,285)	-	(89)	(82,354)
2. 매도가능금융자산평가손익	-	-	-	-	(304,887)	-	-	(304,887)
3. 관계기업의기타포괄손익에대한지분	-	-	-	-	(4,428)	-	-	(4,428)
4. 측정급여제도의 재측정요소	-	-	-	-	13,197	-	-	13,197
소유주와의 거래 등:	-	(230,410)	-	(1,988)	-	(583,290)	-	(815,888)
(1) 연차배당	-	-	-	-	-	(450,000)	-	(450,000)
(2) 신용자본증권배당	-	-	-	-	-	(133,290)	-	(133,290)
(3) 신용자본증권발행	-	299,588	-	-	-	-	-	299,588
(4) 신용자본증권상환	-	(529,978)	-	-	-	-	-	(529,978)
(5) 주식보상비용	-	-	-	(1,988)	-	-	-	(1,988)
II. 2013년 12월 31일 (전기말)	7,928,078	2,099,350	403,184	25	296,402	9,608,344	2,718	20,538,081
III. 2014년 1월 1일 (당기초)	7,928,078	2,099,350	403,184	25	296,402	9,608,344	2,718	20,538,081
총포괄손익:	-	-	-	-	(58,003)	1,455,224	559	1,398,780
(1) 당기순이익	-	-	-	-	-	1,455,224	429	1,455,653
(2) 기타포괄손익	-	-	-	-	(58,003)	-	130	(58,873)
1. 해외사업환산손익	-	-	-	-	4,798	-	130	4,928
2. 매도가능금융자산평가손익	-	-	-	-	83,811	-	-	83,811
3. 관계기업의기타포괄손익에대한지분	-	-	-	-	4,297	-	-	4,297
4. 측정급여제도의 재측정요소	-	-	-	-	(131,907)	-	-	(131,907)
소유주와의 거래 등:	-	(999,100)	-	(887)	-	(455,994)	-	(1,455,981)
(1) 연차배당	-	-	-	-	-	(380,000)	-	(380,000)
(2) 신용자본증권 배당	-	-	-	-	-	(98,293)	-	(98,293)
(3) 신용자본증권 상환	-	(999,100)	-	(900)	-	-	-	(1,000,000)
(4) 주식보상비용	-	-	-	33	-	-	-	33
(5) 기타	-	-	-	-	-	299	-	299
IV. 2014년 12월 31일 (당기말)	7,928,078	1,100,250	403,184	(842)	237,399	10,805,574	3,277	20,478,900

첨부분 주식은 본 연결재무제표의 일부입니다.

연 결 현금흐름표

제183(당)기 2014년 1월 1일부터 2014년 12월 31일까지

제182(전)기 2013년 1월 1일부터 2013년 12월 31일까지

주식회사 신한은행 및 그 종속기업

(단위: 백만원)

과목	제183(당)기	제182(전)기
I. 영업활동으로 인한 현금흐름	(1,785,704)	(2,974,990)
(1) 법인세차감전계속영업이익	1,835,796	1,728,013
(2) 손익조정사항	(4,460,611)	(4,416,190)
1. 이자수익	(8,513,316)	(9,087,373)
2. 이자비용	4,146,183	4,736,825
3. 배당수익	(93,478)	(65,642)
(3) 현금유출입이없는손익항목	605,860	703,343
1. 당기손익지정금융상품관련손익	(34)	-
2. 당기매매금융상품관련손익	151,398	134,239
3. 외환거래손익	(81,300)	(154,469)
4. 매도가능금융자산처분손익	(427,992)	(485,833)
5. 대손상각비	463,724	673,744
6. 기타금융상품손상차손	220,286	203,584
7. 종업원관련비용	109,749	26,533
8. 감가상각비 및 기타상각비	202,960	203,587
9. 기타영업손익	(31,542)	115,889
10. 관계기업이익에대한지분	(11,808)	(22,448)
11. 영업외손익	10,429	8,517
(4) 자산·부채의증감	(3,943,818)	(5,212,587)
1. 예치금	(3,938,012)	(2,799,900)
2. 당기매매금융자산	(789,460)	385,659
3. 파생상품자산	1,307,983	1,240,303
4. 대출채권	(14,294,992)	(6,779,357)
5. 기타자산	(1,102,280)	509,146
6. 당기손익지정금융부채	6,171	-
7. 예수부채	14,691,990	6,410,251
8. 당기매매금융부채	13,303	73,883
9. 파생상품부채	(1,363,576)	(1,347,660)
10. 확정급여부채	(97,292)	(93,894)
11. 총당부채	(68,123)	(25,758)
12. 기타부채	1,690,470	(2,784,970)
(5) 법인세의납부	(384,490)	(384,841)
(6) 이자의수취	8,583,274	9,180,011
(7) 이자의지급	(4,151,427)	(4,640,230)
(8) 배당금의수취	129,712	67,491
II. 투자활동으로 인한 현금흐름	1,299,514	5,651,164
1. 매도가능금융자산의감소	21,812,915	22,893,258

과목	제183(당)기	제182(전)기	
2. 매도가능금융자산의 취득	(19,883,814)	(18,717,848)	
3. 만기보유금융자산의 감소	2,478,775	2,212,075	
4. 만기보유금융자산의 취득	(3,046,489)	(489,268)	
5. 유형자산의 처분	17,843	11,205	
6. 유형자산의 취득	(128,279)	(195,939)	
7. 무형자산의 처분	3,253	2,131	
8. 무형자산의 취득	(18,078)	(78,471)	
9. 관계기업에대한투자자산의 처분	-	93	
10. 관계기업에대한투자자산의 취득	-	(9,022)	
11. 투자부동산의 처분	-	1,685	
12. 매각예정자산의 처분	3,243	2,185	
13. 기타자산의 감소	433,103	161,164	
14. 기타자산의 증가	(372,978)	(162,084)	
III. 재무활동으로 인한 현금흐름		28,926	(1,893,538)
1. 차입부채의 증가	21,940,317	16,022,419	
2. 차입부채의 감소	(19,232,423)	(16,659,772)	
3. 사채의 발행	4,789,496	5,305,202	
4. 사채의 상환	(5,989,635)	(5,743,786)	
5. 배당금의 지급	(459,901)	(582,876)	
6. 신종자본증권의 발행	-	299,568	
7. 신종자본증권의 상환	(1,000,000)	(529,978)	
8. 기타부채의 증가	10,045	12,942	
9. 기타부채의 감소	(28,973)	(17,277)	
IV. 외화표시 현금 및 현금성자산에 대한 환율변동효과		2,107	1,785
V. 현금 및 현금성자산의 증가(감소)		(455,157)	784,431
VI. 기초의 현금 및 현금성자산(주석 39)		4,991,361	4,206,930
VII. 기말의 현금 및 현금성자산(주석 39)		4,536,204	4,991,361

첨두된 주석은 본 연결재무제표의 일부입니다.

주식

2014년 12월 31일 현재

2013년 12월 31일 현재

주식회사 신한은행 및 그 종속기업

1. 연결대상회사의 개요

(1) 지배회사의 개요

지배회사인 주식회사 신한은행(이하 "당행"이라 함)은 서울특별시 중구 세종대로 9길 20에 본점을 두고 있습니다. 2014년 12월 31일로 종료하는 보고기간에 대한 연결재무제표는 당행과 당행의 종속기업(이하 통칭하여 '연결실체'), 연결실체의 관계기업 및 공동기업에 대한 지분으로 구성되어 있습니다.

당행은 금융업을 주목적사업으로 하여 1897년 2월 19일 설립된 한성은행과 1906년 8월 8일 설립된 동일은행의 신설합병(1943년 10월 1일, 은행명: 주식회사 조흥은행)으로 설립되었습니다.

당행은 1999년에 충북은행과 강원은행을 흡수합병하였고, 2006년 4월 1일에는 구 신한은행을 흡수합병하였으며, 은행의 사명을 주식회사 신한은행으로 변경하였습니다. 당기말 현재 당행의 자본금은 7,928,078백만원, 발행주식수는 1,585,615,506주이며, 당행의 주식은 신한금융지주회사가 100% 보유하고 있습니다. 당기말 현재 당행은 국내지점 797개, 국내출장소 103개, 영업장 24개, 해외지점 8개를 운영하고 있습니다.

(2) 연결대상 종속기업(구조화기업 제외)

당기말과 전기말 현재 구조화기업을 제외한 연결대상 종속기업 현황은 다음과 같습니다.

종속기업명	소재지	결산월	업종	제183(당)기		제182(전)기	
				주식수	지분율	주식수	지분율
신한아주금융유한공사	홍콩	12월	도매금융	999,999	99.99%	999,999	99.99%
아메리카신한은행	미국	12월	은행업	3,514,283	100.00%	3,514,283	100.00%
유럽신한은행	독일	12월	은행업	유한회사	100.00%	유한회사	100.00%
신한크메르은행	캄보디아	12월	은행업	18,000,000	90.00%	18,000,000	90.00%
신한카자흐스탄은행	카자흐스탄	12월	은행업	1,002,872	100.00%	1,002,872	100.00%
캐나다신한은행	캐나다	12월	은행업	50	100.00%	50	100.00%
신한은행중국유한공사	중국	12월	은행업	유한회사	100.00%	유한회사	100.00%
SBJ은행	일본	3월	은행업	30,000백만	100.00%	30,000백만	100.00%
신한베트남은행	베트남	12월	은행업	유한회사	100.00%	유한회사	100.00%

1) 신한아주금융유한공사(Shinhan Asia Ltd.)

종합금융업무를 영위하고 있는 홍콩현지법인으로 당기말 현재 자본금은 USD 100,000천입니다.

2) 아메리카신한은행(Shinhan Bank America)

뉴욕조흥은행(Chohung Bank of New York)과 캘리포니아조흥은행(California Chohung Bank)의 신설합병으로 설립되어 금융서비스 제공업무를 영위하고 있으며, 당기말 현재 자본금은 USD 123,000천입니다.

3) 유럽신한은행(Shinhan Bank Europe GmbH)

은행업 영위 등을 목적으로 1994년에 설립되었으며, 당기말 현재 자본금은 EUR 23,000천입니다.

4) 신한크메르은행(Shinhan Khmer Bank)

은행업 영위 등을 목적으로 2007년 10월 15일 설립되었으며, 당기말 현재 자본금은 USD 20,000천입니다.

5) 신한카자흐스탄은행(Shinhan Kazakhstan Bank)

은행업 영위 등을 목적으로 2008년 12월 16일 설립되었으며, 당기말 현재 자본금은 KZT 10,029백만입니다.

6) 캐나다신한은행(Canada Shinhan Bank)

은행업 영위 등을 목적으로 2009년 3월 9일 설립되었으며, 당기말 현재 자본금은 CAD 50,000천입니다.

7) 신한은행중국유한공사(Shinhan Bank China Limited)

은행업 영위 등을 목적으로 2008년 5월 12일 당행의 현지지점이 전환된 것으로 당기말 현재 자본금은 CNY 2,000백만입니다.

8) SBJ은행(Shinhan Bank Japan)

은행업 영위 등을 목적으로 2009년 9월 14일 현지지점이 전환되어 설립되었으며, 당기말 현재 자본금은 JPY 15,000백만입니다.

9) 신한베트남은행(Shinhan Bank Vietnam)

은행업 영위 등을 목적으로 2009년 11월 16일 현지지점이 전환되어 설립되었으며, 2011년 11월 28일 신한비나은행을 인수합병하였습니다. 당기말 현재 자본금은 VND 4,547,100백만입니다.

(3) 연결대상 구조화기업

당기말 현재 연결대상 구조화기업 현황은 다음과 같습니다.

구조화기업	소재지	결산월	업종
에스에이치이천원엔피엘투자(유)	대한민국	12월	기타금융지원서비스업
신화차이나인베스트먼트(유)	대한민국	12월	기타금융지원서비스업
엠피씨올론그린제일차	대한민국	12월	금융업
에이알플러스제이차	대한민국	12월	자산유통화
엠피씨올론2호기	대한민국	9월	기타금융지원서비스업
스테이제이차	대한민국	3월	기타금융지원서비스업
에스드림제오차	대한민국	12월	기타금융업
에이타스드라이브제일차	대한민국	12월	기타금융업
에이알플러스제삼차	대한민국	9월	기타금융업
엠피씨올론1호기	대한민국	12월	기타금융업
에스누리제일차	대한민국	12월	기타금융업
에스누리제삼차	대한민국	2월	기타금융업
에스누리제구차	대한민국	12월	기타금융업
에이알플러스	대한민국	10월	기타금융업
개발신탁	대한민국	12월	신탁
불특정공전신탁	대한민국	12월	신탁
노후연금신탁	대한민국	12월	신탁
신개인연금신탁	대한민국	12월	신탁
개인연금신탁	대한민국	12월	신탁
퇴직신탁	대한민국	12월	신탁
신노후연금신탁	대한민국	12월	신탁
연금신탁	대한민국	12월	신탁
가계공전신탁	대한민국	12월	신탁
직립신탁	대한민국	12월	신탁
기업공전신탁	대한민국	12월	신탁
China Opportunity 사모특별자산투자신탁3호	대한민국	12월	수익증권
신한BNPP법인용사모증권투자신탁 제25호	대한민국	1월	수익증권
신한BNPP법인용사모증권투자신탁 제18호	대한민국	1월	수익증권
LS 베스트파트너 사모투자신탁	대한민국	5월	수익증권
한국투자개사모증권투자신탁 T-41호	대한민국	8월	수익증권
동부다같이사모증권투자신탁 제8호	대한민국	9월	수익증권
현대해리티지사모증권투자신탁 SH-3호	대한민국	9월	수익증권
삼성파트너사모증권투자신탁 제6호	대한민국	9월	수익증권

연결실체는 구조화기업의 설립 약정 조건을 고려하여, 구조화기업의 영업에 따른 변동이익에 노출되어 있고 이러한 변동이익에 가장 유의적으로 영향을 미칠 수 있는 구조화기업의 활동을 지시할 수 있는 능력을 보유한 경우 해당 구조화기업을 연결대상으로 포함하고 있습니다. 구조화기업에 대한 소유지분은 연결실체의 부채로 표시되기 때문에 구조화기업에 대한 비지배지분은 없습니다.

연결실체는 상기에서 설명하고 있는 구조화기업에 대해 신용보강의 목적으로 665,724백만원의 ABCP매입약정을 제공하고 있습니다.

(4) 종속기업 변동 현황

당기에 신규로 연결재무제표에 포함된 종속기업과 당기 중 연결재무제표의 작성대상에서 제외된 종속기업의 현황은 다음과 같습니다.

1) 당기 중 신규로 연결에 포함된 종속기업 및 구조화기업

종속기업명	사유
에스누리제사차	ABCP 매입약정 및 자산관리 등
에스누리제구차	ABCP 매입약정 및 자산관리 등
에이알플러스	ABCP 매입약정 및 자산관리 등
LS 베스트파트너 사모투자신탁	100%지분보유 수익증권
흥국무지개사모증권투자신탁 T-41호	100%지분보유 수익증권
동부다같이사모증권투자신탁 제 9호	100%지분보유 수익증권
현대해리티사모증권투자신탁 SH-3호	100%지분보유 수익증권
삼성파트너사모증권투자신탁 제6호	100%지분보유 수익증권

2) 당기 중 연결에서 제외된 종속기업 및 구조화기업

종속기업명	사유
아이클로베1	ABCP 매입계약종료
에스드림제철차	ABCP 매입계약종료
흥국무지개사모증권투자신탁 T-18호	당기 중 수익증권 처분
동부다같이사모증권투자신탁 제5호	당기 중 수익증권 처분
한국투자사모배이직투자신탁 제4호	당기 중 수익증권 처분
삼성파트너사모증권투자신탁 제2호	당기 중 수익증권 처분
신한모기지제이차유동화전문(유)	지배력 상실

2. 유의적인 회계정책

연결실체가 채택하고 있는 유의적인 회계정책은 다음과 같습니다.

(1) 재무제표 작성기준

연결실체는 주식회사의 외부감사에 관한 법률 제13조 1항 1호에서 규정하고 있는 국제회계기준위원회의 국제회계기준을 채택하여 정한 회계처리기준인 한국채택국제회계기준에 따라 재무제표를 작성하였습니다.

당기 및 비교 표시된 전기의 재무제표는 아래에 기술되는 회계정책에 따라 작성되었습니다.

(2) 측정기준

연결재무제표는 아래에서 열거하고 있는 재무상태표의 주요항목을 제외하고는 역사적 원가를 기준으로 작성되었습니다.

- 공정가치로 측정되는 파생상품
- 공정가치로 측정되는 당기손익인식금융상품
- 공정가치로 측정되는 매도가능금융상품
- 공정가치로 측정되는 주식기준보상
- 공정가치위험회피회계 위험회피대상항목으로 지정되어 회피대상위험으로 인한 공정가치 변동을 당기손익으로 인식하는 금융부채
- 확정급여채무의 현재가치에서 사외적립자산의 공정가치를 차감한 확정급여부채

(3) 기능통화와 표시통화

연결실체는 각 기업실체의 재무제표에 포함되는 항목들을 각 기업실체의 영업활동이 이루어지는 주된 경제환경의 통화(기능통화)로 표시하고 있습니다. 연결재무제표 작성을 위해 개별기업들의 경영성과와 재무상태는 당행의 기능통화이면서 연결재무제표 작성을 위한 표시통화인 '원'으로 표시하고 있습니다. 기능통화가 당행의 표시통화(원화)와 다른 종속기업은 다음과 같습니다.

기능통화	종속기업
USD	신한아주금융유한공사
	아메리카신한은행
	신한크메르은행
EUR	유럽신한은행
KZT	신한카자흐스탄은행
CAD	캐나다신한은행
CNY	신한은행중국유한공사
JPY	SBJ은행
VND	신한베트남은행

(4) 추정과 판단

한국채택국제회계기준에서는 재무제표를 작성함에 있어서 회계정책의 적용이나, 보고기간 말 현재 자산, 부채 및 수익, 비용의 보고금액에 영향을 미치는 사항에 대하여 경영진의 최선의 판단을 기준으로한 추정치와 가정의 사용을 요구하고 있습니다.

보고기간 말 현재 경영진의 최선의 판단을 기준으로 한 추정치와 가정이 실제 환경과 다를 경우 이러한 추정치와 실제결과는 다를 수 있습니다.

추정치와 추정에 대한 기본 가정은 지속적으로 검토되고 있으며, 회계추정의 변경은 추정이 변경된 기간과 미래 영향을 받을 기간 동안 인식되고 있습니다. 보다 높은 정도의 판단과 복잡성이 필요한 부분 또는 가정과 추정이 연결재무제표에 유의적인 부분은 주석 4에 공시되어 있습니다.

(5) 회계정책의 변경

아래에서 설명하고 있는 2014년 1월 1일부터 최초로 적용되는 제·개정 기준서의 적용을 제외하고 연결실체는 당기 및 비교 표시된 전기 재무제표에 동일한 회계정책을 적용하고 있습니다.

1) 기업회계기준서 제1032호 '금융상품: 표시' 개정

2014년 1월 1일 이후 개시하는 회계연도부터 연결실체는 기업회계기준서 제1032호 '금융상품: 표시'의 개정사항을 적용하고 있습니다. 동 기준서는 연결실체가 인식한 자산과 부채에 대해 법적으로 집행가능한 상계권리를 현재 보유하고 있고, 순액으로 결제하거나 자산을 실현하는 동시에 부채를 결제할 의도를 가지고 있는 경우에만 금융자산과 금융부채를 상계하고 재무상태표에 순액으로 표시하도록 요구하고 있습니다. 동 개정사항 적용으로 인하여 당기재무제표에 미치는 영향은 유의적이지 않습니다.

2) 기업회계기준 해석서 제2121호 '부담금' 제정

2014년 1월 1일 이후 개시하는 회계연도부터 연결실체는 기업회계기준해석서 제2121호 '부담금'의 제정사항을 적용하고 있습니다. 동 기준서는 부담금부채를 인식하게 하는의무발생사건을 법규에 명시된 부담금납부를 유발하는 활동으로 정의하였습니다. 의무발생사건이 일정 기간에 걸쳐 발생한다면 부담금부채를 점진적으로 인식하고, 최소 활동 임계치에 이르는 것이 의무발생사건이라면 대응하는 부채는 그러한 최소 활동 임계치에 이르렀을 때 인식합니다. 한편, 부담금을 선납하였으나 그 부담금을 납부해야 하는 현재의무가 없다면 자산을 인식합니다. 동 해석서의 적용으로 인하여 당기재무제표에 미치는 영향은 유의적이지 않습니다.

(6) 재무제표의 발행승인일

당행의 재무제표는 2015년 2월 3일 이사회에서 승인되었습니다.

(7) 연결

1) 종속기업

종속기업은 연결실체에 의해 지배되는 기업입니다. 연결실체는 피투자기업에 대한 관여로 변동이익에 노출되거나 변동이익에 대한 권리가 있고 피투자기업에 대하여 자신의 힘으로 그러한 이익에 영향을 미치는 능력이 있을 때 피투자기업을 지배합니다. 종속기업의 재무제표는 지배기업이 종속기업에 대한 지배력을 획득하는 날부터 지배력을 상실할 때까지 연결재무제표에 포함됩니다.

연결실체는 다수의 구조화기업을 설립하거나 투자하고 있습니다. 이러한 기업에 대해 직·간접적으로 주식을 보유하고 있지 않습니다. 구조화기업이 설립된 약정의 조건을 고려할 때, 연결실체는 구조화기업의 영업에 따른 손익을 실질적으로 모두 얻게 되고 이러한 손익에 가장 유의적으로 영향을 미칠 수 있는 연결구조화기업의 활동을 지시할 수 있는 능력을 보유하고 있다고 판단되는 경우에는 연결대상에 포함하고 있습니다. 구조화기업에 대한 소유지분은 연결실체의 부채로 표시되기 때문에 구조화기업에 대한 비지배지분은 없습니다.

2) 내부거래제거

연결실체내의 거래, 이와 관련된 관액, 수익과 비용, 미실현손익은 연결재무제표 작성시 모두 제거하고 있습니다. 내부거래에서 발생한 미실현손실이 연결재무제표에서 인식해야 하는 자산손상의 징후일 경우 당기손실로 인식하고 있습니다.

3) 비지배지분

종속기업의 지분 중 지배기업에게 귀속되지 않는 비지배지분은 지배기업의 소유주 지분과는 구분하여 표시하고 있습니다. 당기순이익과 기타포괄손익의 각 구성요소는 지배기업의 소유주와 비지배지분에 귀속되며, 비지배지분이 부(-)의 관액이 되더라도 총포괄손익은 지배기업의 소유주와 비지배지분에 귀속시키고 있습니다.

(8) 사업결합

1) 사업결합

사업결합은 동일지배 하에 있는 기업실체나 사업에 대한 결합을 제외하고는 취득법을 적용하여 회계처리하였습니다. 연결실체는 식별가능한 취득 자산, 인수 부채는 다 음의 예외사항을 제외하고는 취득일의 공정가치로 측정하여 인식하고 있습니다.

- 리스계약: 약정일의 계약상 조건 및 기타 요소를 기초로 하여 분류
- 우발부채: 현재의무로 신뢰성 있게 측정될 수 있는 우발부채를 인식
- 이연법인세자산과 부채: 기업회계기준서 제1012호 '법인세'에 따라 인식 및 측정
- 종업원급여: 기업회계기준서 제1019호 '종업원급여'에 따라 인식 및 측정
- 보상자산: 보상대상항목과 일관성 있는 기준에 따라 인식 및 측정
- 재취득한 권리: 특별규정에 따라 측정
- 주식기준보상: 주식기준보상과 관련된 부채 또는 지분상품을 기업회계기준서 제1102호 '주식기준보상'에 따라 측정
- 매각예정비유동자산: 기업회계기준서 제1105호 '매각예정비유동자산과 중단영업'에 따라 순공정가치로 측정

또한, 연결실체는 취득일 현재 피취득자에 대한 비지배지분을 피취득자의 식별가능한 순자산 중 비지배지분의 비례적 지분으로 측정하고 있습니다.

사업결합에서 이전대가는 공정가치로 측정하며, 그 공정가치는 연결실체가 이전하는 자산, 연결실체가 피취득자의 이전 소유주에 대하여 부담하는 부채 및 연결실체가 발행한 지분의 취득일의 공정가치 합계로 산정합니다. 다만, 사업결합의 이전대가에 포함된 피취득자의 종업원이 보유하고 있는 보상과 교환하여 취득자가 부여한 주식기준보상은 공정가치로 측정하지 않고 상기에서 언급하고 있는 방법으로 측정합니다.

그리고, 연결실체가 사업결합의 효과를 거두기 위하여 발생시킨 취득관련원가에는 중개수수료 즉 자문, 법률, 회계, 가치평가 및 그 밖의 전문가 또는 컨설팅 수수료, 내부의 취득 부서를 유지하기 위한 원가를 포함한 일반관리원가, 채무증권과 지분증권을 등록하고 발행하는 원가를 포함합니다. 이러한 취득관련원가는 기업회계기준서 제1032호 '금융상품: 표시'와 기업회계기준서 제1039호 '금융상품: 인식과 측정'에 따라 인식하는 채무증권과 지분증권의 발행원가를 제외하고, 원가가 발생하고 용역을 제공받은 기간에 비용으로 회계처리하고 있습니다.

2) 영업권

연결실체는 취득일 현재 이전대가, 피취득자에 대한 비지배지분 및 단계적 사업결합의 경우 연결실체가 보유하고 있는 피취득자에 대한 지분의 취득일의 공정가치 합계가 취득하는 종속기업의 식별가능한 순자산을 초과하는 금액을 영업권으로 인식하고 있습니다. 그러나, 취득한 식별가능한 순자산이 이전대가, 피취득자에 대한 비지배지분 및 단계적으로 이루어지는 사업결합의 경우 연결실체가 보유하고 있던 피취득자에 대한 지분의 취득일의 공정가치의 합계를 초과하는 경우 측정을 재검토하고, 재검토 이후에도 계속해서 남은 초과분은 즉시 당기손익으로 인식합니다.

비지배지분의 추가취득은 주주간의 거래로 회계처리하고, 그 결과 관련 영업권 등은 인식하지 않고 있습니다.

연결실체는 2010년 1월 1일 이후 발생한 사업결합에 대해서만 한국채택국제회계기준을 소급적용하여 재작성하였습니다. 따라서, 2010년 1월 1일 이전의 사업결합과 관련한 영업권은 연결실체의 과거회계기준에 따라 인식된 금액으로 표시하였습니다.

(9) 관계기업과 공동기업

관계기업은 연결실체가 재무정책 및 영업정책에 관한 의사결정에 참여할 수 있는 유의적인 영향력을 가지고 있는 회사이며, 일반적으로 연결실체가 피투자기업 의결권의 20%에서 50%를 소유하고 있거나, 15%를 초과하며 은행법상 자회사로 분류되는 경우에는 유의적인 영향력이 있는 것으로 판단하고 있습니다.

공동기업은 약정의 공동지배력을 보유하는 당사자들이 그 약정의 순자산에 대한 권리를 보유하는 공동약정을 말하며, 공동지배력은 약정의 지배력에 대한 계약상 합의된 공유로서, 관련활동에 대한 결정에 지배력을 공유하는 당사자들 전체의 동의가 요구될 때에만 존재합니다.

관계기업과 공동기업 투자지분은 최초에 거래원가를 포함하여 원가로 인식하고, 취득후에는 지분법을 사용하여 회계처리하고 있습니다. 즉, 취득일 이후에 발생한 피투자자의 당기순이익 및 자본변동분 중 연결실체의 지분에 해당하는 금액을 장부금액에 가감하고, 피투자자에게 받은 분배액은 투자지분의 장부금액에서 차감하고 있습니다. 연결실체와 관계기업간의 내부거래에서 발생한 미실현이익은 연결실체지분만큼 제거하고 있습니다. 미실현손실 또한 거래가 이전된 자산에 대한 손상의 증거를 제공하지 않는 한 제거하고 있습니다.

관계기업 또는 공동기업이 유사한 상황에서 발생한 동일한 거래와 사건에 대하여 다른 회계정책을 사용한 경우에는 관계기업 및 공동기업의 재무제표를 적절히 조정하고 있습니다.

투자지분의 장부금액이 영(0)으로 감소된 이후 추가 손실분에 대하여 법적의무 또는 의제 의무가 있거나 피투자자를 대신하여 지불하여야 하는 경우를 제외하고는 손실을 인식하지 않고 있습니다.

(10) 영업부문

연결실체는 부문에 배분될 자원에 대한 의사결정을 하고 부문의 성과를 평가하기 위하여 최고경영의사결정자가 주기적으로 검토하는 내부보고 자료에 기초하여 부문을 구분하고 있습니다. 최고경영의사결정자에게 보고되는 부문정보는 부문에 직접 귀속되는 항목과 합리적으로 배분할 수 있는 항목을 포함합니다. 배분되지 않은 항목은 주로 본사 건물과 같은 공통자산, 본사 관련 비용 및 법인세 자산과 부채입니다. 연결실체는 은행장을 최고경영의사결정자로 보고 있습니다.

(11) 외화환산

1) 외화거래

연결실체를 구성하는 개별기업들의 재무제표 작성에 있어서 그 기업의 기능통화 외의 통화(외화)로 이루어진 거래는 거래일의 환율을 적용하여 기록하고 있습니다. 매 보고기간말에 화폐성 외화항목은 보고기간 말의 마감환율로 환산하고 있습니다. 공정가치로 측정하는 비화폐성 외화항목은 공정가치가 결정된 날의 환율로 환산하고, 역사적원가로 측정하는 비화폐성항목은 거래일의 환율로 환산하고 있습니다.

해외사업장순투자 환산차이와 현금흐름위험회피 및 순투자 위험회피 수단으로 지정된 금융부채에서 발생한 환산차이를 제외하고 화폐성항목의 환산으로 인해 발생한 외환차이와 화폐성항목의 결제시점에 생기는 외환차이는 모두 당기손익으로 인식하고 있습니다. 비화폐성항목에서 발생한 손익을 기타포괄손익으로 인식하는 경우에는 그 손익에 포함된 환율변동효과도 기타포괄손익으로 인식하고, 당기손익으로 인식하는 경우에는 환율변동효과도 당기손익으로 인식하고 있습니다.

2) 해외사업장

해외사업장의 기능통화가 연결실체의 표시통화와 다른 경우에는 경영성과와 재무상태를 다음의 방법으로 표시통화로 환산하고 있습니다.

해외사업장의 기능통화가 초인플레이션 경제의 통화가 아닌 경우 재무상태표(비교표시하는 재무상태표 포함)의 자산과 부채는 해당 보고기간 말의 마감환율로 환산하고, 포괄손익계산서(비교표시하는 포괄손익계산서 포함)의 수익과 비용은 해당 거래일의 환율로 환산하고, 환산에서 생기는 외환차이는 기타포괄손익으로 인식합니다.

해외사업장의 취득으로 생기는 영업권과 자산·부채의 장부금액에 대한 공정가치 조정액은 해외사업장의 자산·부채로 보아 해외사업장의 기능통화로 표시하고, 해외사업장의 다른 자산·부채와 함께 마감환율을 적용하여 원화로 환산하고 있습니다.

해외사업장을 처분하는 경우에는 기타포괄손익과 별도의 자본항목으로 인식한 해외사업장관련 외환차이의 누계액은 해외사업장의 처분손익을 인식하는 시점에 자본에서 당기손익으로 재분류합니다. 해외사업장을 포함한 종속기업을 일부 처분 시 기타포괄손익에 인식된 외환차이의 누계액 중 비례적 지분을 그 해외사업장의 비지배지분으로 재귀속시키며, 이 외의 경우에는 해외사업장을 일부 처분한 때에 기타포괄손익에 인식된 외환차이의 누계액 중 비례적 지분만을 당기손익으로 재분류하고 있습니다.

3) 해외사업장에 대한 순투자의 환산

해외사업장으로부터 수취하거나 해외사업장에 지급할 화폐성항목 중에서 예측할 수 있는 미래에 결제할 계획이 없고 결제될 가능성이 낮은 항목은 그 해외사업장에 대한 순투자의 일부로 보아 연결재무제표에서 외환차이를 기타포괄손익으로 인식하고 관련 순투자의 처분 시점에 당기손익으로 재분류하고 있습니다.

(12) 현금 및 현금성자산

연결실체는 보유현금과 요구불예금, 유동성이 매우 높고 확정된 금액의 현금으로 전환이 용이하고 가치변동의 위험이 경미한 단기 투자자산을 현금 및 현금성자산으로 분류하고 있습니다. 지분상품은 현금성자산에서 제외하고 있으나, 상환일이 정해져 있고 취득일로부터 상환일까지의 기간이 단기인 우선주와 같이 실질적인 현금성자산인 경우에는 현금성자산에 포함하고 있습니다. 단, 외화타점차는 차입부채 계정에 포함됩니다.

(13) 비파생금융자산

금융자산은 인식 및 측정을 위하여 당기손익인식금융자산, 만기보유금융자산, 대여금 및 수취채권, 매도가능금융자산의 네가지 범주로 구분하고 계약의 당사자가 되는 때에 재무상태표에 인식하고 있습니다. 또한, 정형화된 매입이나 매도거래(즉, 관련 시장의 규정이나 관행에 의하여 일반적으로 설정된 기간 내에 당해 금융상품을 인도하는 계약조건에 따라 금융자산을 매입하거나 매도하는 경우)의 경우에는 매매일에 인식하고 있습니다.

금융자산은 최초인식시점에 공정가치로 측정하며, 당기손익인식금융자산이 아닌 경우 금융자산의 취득과 직접 관련되는 거래원가는 최초 인식시점에 공정가치에 가산하고 있습니다.

1) 당기손익인식금융자산

단기매매금융자산이나 최초 인식시점에 당기손익인식금융자산으로 지정한 금융자산을 당기손익인식금융자산으로 분류하고 있습니다. 당기손익인식금융자산은 최초 인식 후 공정가치로 측정하며, 공정가치의 변동은 당기손익으로 인식하고 있습니다. 한편, 최초 인식시점에 취득과 관련하여 발생한 거래비용은 발생 즉시 당기손익으로 인식하고 있습니다.

2) 만기보유금융자산

만기가 고정되어 있고 지급금액이 확정되었거나 결정 가능한 비파생금융자산으로 연결실체가 만기까지 보유할 적극적인 의도와 능력이 있는 경우 만기보유금융자산으로 분류하고 있습니다. 최초 인식 후에는 유효이자율법을 적용하여 상각후원가로 측정하고 있습니다.

3) 대여금 및 수취채권

지급금액이 확정되었거나 결정 가능하고, 활성시장에서 거래가격이 공시되지 않는 비파생금융자산은 대여금 및 수취채권으로 분류하고 있습니다. 최초인식 후에는 유효이자율법을 적용하여 상각후원가로 측정하고 있습니다.

4) 매도가능금융자산

매도가능항목으로 지정되거나 당기손익인식금융자산, 만기보유금융자산, 또는 대여금 및 수취채권으로 분류되지 않은 비파생금융자산을 매도가능금융자산으로 분류하고 있습니다. 최초인식후에는 공정가치로 측정하며 공정가치의 변동은 기타포괄손익으로 인식하고 있습니다. 다만, 활성시장에서 공시되는 시장가격이 없고 공정가치를 신뢰성 있게 측정할 수 없는 지분상품과 이러한 지분상품과 연계되어 있으며 그 지분상품의 인도로 결제되어야 하는 파생상품은 원가로 측정하고 있습니다.

5) 금융자산의 제거

금융자산의 현금흐름에 대한 계약상 권리가 소멸하거나, 금융자산의 현금흐름에 대한 권리를 양도하고 금융자산의 소유에 따른 위험과 보상의 대부분을 이전할 때 금융자산을 제거하고 있습니다. 만약, 금융자산의 소유에 따른 위험과 보상의 대부분을 보유하지도 않고 이전하지도 아니한 경우, 연결실체가 금융자산을 통제하고 있지도 않다면 금융자산을 제거하고, 금융자산을 계속 통제하고 있다면 그 양도자산에 대하여 지속적으로 관여하는 정도까지 계속하여 인식하고, 판권부채를 함께 인식하고 있습니다.

만약, 금융자산의 현금흐름에 대한 권리를 양도하였으나 금융자산의 소유에 따른 위험과 보상의 대부분을 연결실체가 보유하고 있는 경우에는 당해 금융자산을 계속 인식하고, 수취한 매각금액은 부채로 인식하고 있습니다.

6) 금융자산과 부채의 상계

금융자산과 부채는 연결실체가 자산과 부채를 상계할 수 있는 법적인 권리가 있고 순액으로 결제하거나, 자산을 실현하는 동시에 부채를 결제할 의도가 있는 경우에만 상계하여 재무상태표에 순액으로 표시하고 있습니다.

(14) 금융자산의 손상

연결실체는 당기손익인식금융자산을 제외한 금융자산의 손상 발생에 대한 객관적인 증거가 있는지를 매 보고기간말에 평가하고 있습니다. 최초 인식 이후에 발생한 하나 또는 그 이상의 사건의 결과로 금융자산의 추정미래현금흐름이 영향을 받았을 경우 금융자산이 손상되었다고 판단합니다. 그러나, 미래 사건의 결과로 예상되는 손상차손은 인식하지 아니합니다.

손상발생의 객관적인 증거가 있는 경우 금융자산 범주별로 다음과 같이 손상차손을 측정하여 당기손익으로 인식합니다.

1) 대출채권

상각후원가로 측정되는 대출채권의 손상차손은 당해 자산의 장부금액과 최초의 유효이자율로 할인한 추정미래현금흐름(아직 발생하지 아니한 미래의 대손은 제외)의 현재가치의 차이로 측정합니다. 이를 위해 연결실체는 개별적으로 유의적인 금융자산에 대해 우선적으로 손상발생의 객관적인 증거가 있는지를 개별적으로 검토합니다.

개별적으로 유의적이지 않은 금융자산의 경우 개별적으로 또는 집합적으로 검토합니다. 개별적인 검토결과 손상발생의 객관적인 증거가 없다면, 그 금융자산은 유사한 신용위험의 특성을 가진 금융자산의 집합에 포함하여 집합적으로 손상여부를 검토합니다.

손상차손은 대손충당금계정을 사용하여 차감하고, 동 금융자산이 회수 불가능하다고 판단되는 경우 해당 금융자산과 같이 상각합니다. 기존에 대손상각하였던 대출채권이 후속적으로 회수된 경우 대손충당금을 증가시키며, 대손충당금의 변동은 당기손익으로 인식합니다.

① 개별평가 대손충당금

개별평가 대손충당금은 평가대상 채권으로부터 회수될 것으로 기대되는 현금흐름의 현재가치에 대한 경영진의 최선의 추정에 근거합니다. 이러한 현금흐름을 추정할 때, 연결실체는 관련 상대방의 영업현금흐름 등의 재무적인 상황과 관련 담보물의 순실현가능가치 등 모든 이용가능한 정보를 이용하여 판단합니다.

② 집합평가 대손충당금

집합평가 대손충당금은 포트폴리오에 내재된 발생손실을 측정하기 위하여 과거 경험 손실률에 근거한 추정모형을 이용합니다. 동 모형은 상품 및 차주의 유형, 신용등급, 포트폴리오 크기, 손상발현기간, 회수기간 등 다양한 요인을 고려하여 각 자산(또는 자산집합)의 발생부도율(PD: Probability of Default), 담보 및 여신과목별 명목회수율과 부도시 발생손실률(LGD: Loss Given Default)을 적용합니다. 또한, 내재된 손실의 측정을 모형화하고 과거의 경험과 현재의 상황에 기초한 입력변수를 결정하기 위해서 일정한 가정을 적용합니다. 동 모형의 방법론과 가정은 대손충당금 추정치와 실제 손실과의 차이를 감소시키기 위하여 정기적으로 검토됩니다.

2) 매도가능금융자산

공정가치 감소액을 기타포괄손익으로 인식하는 매도가능금융자산은 공정가치가 취득원가에 미달하는 금액에서 이전 기간에 이미 당기손익으로 인식한 당해 금융자산의 손상차손을 차감한 금액을 기타포괄손익에서 당기손익으로 재분류합니다.

후속기간에 매도가능금융자산의 공정가치가 증가하고 그 증가가 손상차손을 인식한 후에 발생한 사건과 객관적으로 관련된 경우, 매도가능채무상품은 당기손익으로 환입하고 매도가능지분상품은 기타포괄손익으로 인식합니다.

3) 만기보유금융자산

상각후원가로 측정되는 만기보유금융자산은 장부금액과 최초의 유효이자율로 할인한 추정미래현금흐름의 현재가치의 차이로 손상차손을 측정하며, 장부금액에서 직접 차감합니다.

후속기간 중 손상차손의 금액이 감소하고, 그 감소가 손상을 인식한 후에 발생한 사건과 객관적으로 관련된 경우에는 이미 인식한 손상차손은 회복 후 장부금액이 당초 손상을 인식하지 않았다면 회복일 현재 인식하였을 상각후 원가를 초과하지 않는 한도 내에서 당기손익으로 직접 환입합니다.

(15) 파생금융상품

파생상품은 최초 인식시 계약일의 공정가치로 측정하며, 후속적으로 매 보고기간 말의 공정가치로 측정하고 있습니다. 파생상품의 공정가치 변동으로 인한 평가손익은 각각 아래와 같이 인식하고 있습니다.

1) 위험회피회계

연결실체는 이자율위험과 환율위험을 회피하기 위하여 통화선도, 이자율스왑, 통화스왑 등의 파생금융상품계약을 체결하고 있습니다. 회피대상 위험으로 인한 자산 또는 부채, 확정계약의 공정가치의 변동(공정가치위험회피), 발생가능성이 매우 높은 예상거래 또는 확정거래의 환율변동(현금흐름위험회피), 해외사업장 순투자의 환율변동위험(순투자의 위험회피)을 회피하기 위하여 일부파생상품 및 비파생금융상품을 위험회피수단으로 지정하고 있습니다.

연결실체는 위험회피관계의 개시시점에 위험회피관계, 위험관리목적과 위험회피전략을 공식적으로 지정하고 문서화를 수행하고 있습니다. 또한 이 문서에는 위험회피수단, 위험회피대상항목 및 위험회피관계의 개시시점과 그 후속기간에 회피대상위험으로 인한 위험회피대상항목의 공정가치 또는 현금흐름의 변동을 위험회피수단이 상쇄하는 효과를 평가하는 방법 등을 포함하고 있습니다.

① 공정가치위험회피

위험회피수단으로 지정되고 공정가치위험회피회계의 적용요건을 충족한 파생상품의 공정가치 변동은 당기손익으로 인식하고 있으며, 회피대상위험으로 인한 위험회피대상항목의 공정가치변동도 당기손익으로 인식하고 있습니다. 위험회피수단의 공정가치변동과 회피대상위험으로 인한 위험회피대상항목의 공정가치변동은 위험회피대상항목과 관련된 포괄손익계산서의 같은 항목에 인식됩니다. 공정가치위험회피회계는 연결실체가 더 이상 위험회피관계를 지정하지 않거나 위험회피수단이 소멸, 매각, 청산 또는 행사되거나 공정가치 위험회피회계의 적용요건을 더 이상 충족하지 않을 경우 중단됩니다. 회피대상위험으로 인한 위험회피대상항목의 장부금액조정액은 위험회피회계가 중단된 날부터 상각하여 당기손익으로 인식하고 있습니다.

② 현금흐름위험회피

위험회피수단으로 지정되고 현금흐름위험회피회계의 적용요건을 충족한 파생상품의 공정가치변동분 중 위험회피에 효과적인 부분은 기타포괄손익으로 처리하며, 위험회피에 비효과적인 부분은 당기손익으로 인식하고 있습니다. 현금흐름위험회피회계는 연결실체가 더 이상 위험회피관계를 지정하지 않거나 위험회피수단이 소멸, 매각, 정산, 행사되거나, 현금흐름위험회피회계의 적용요건을 더 이상 충족하지 않을 경우 중단됩니다.

③ 순투자의 위험회피

위험회피수단으로 지정되고 해외사업장순투자의 위험회피회계의 적용요건을 충족한 금융상품의 공정가치 변동 중 위험회피에 효과적인 부분은 기타포괄손익으로 인식하며, 위험회피에 비효과적인 부분은 당기손익으로 인식하고 있습니다. 위험회피에 효과적이어서 기타포괄손익으로 인식한 부분은 향후 그 해외사업장을 처분하거나 그 해외사업장의 일부를 처분하는 시점에 기업회계기준서 제1021호 '환율변동효과'에 따라 재분류조정으로 기타포괄손익에서 당기손익으로 재분류합니다.

2) 내재파생상품

내재파생상품은 주계약의 경제적 특성 및 위험도와 밀접한 관련성이 없고 내재파생상품과 동일한 조건의 별도의 상품이 파생상품의 정의를 충족하는 경우, 복합금융상품이 당기손익인식항목으로 지정되지 않았다면 내재파생상품을 주계약과 분리하여 별도로 회계처리하고 있습니다. 주계약과 분리한 내재파생상품의 공정가치 변동은 당기손익으로 인식하고 있습니다.

3) 기타 파생상품

위험회피수단으로 지정되지 않은 파생상품의 공정가치 변동은 즉시 손익으로 인식하고 있습니다.

(16) 유형자산

유형자산은 최초에 원가로 측정하여 인식하고 있습니다. 유형자산의 원가에는 경영진이 의도하는 방식으로 자산을 가동하는데 필요한 장소와 상태에 이르게 하는데 직접 관련되는 원가 및 자산을 해체, 제거하거나 부지를 복구하는데 소요될 것으로 추정되는 원가가 포함됩니다.

유형자산은 최초 인식 후에 원가에서 감가상각누계액과 손상차손누계액을 차감한 금액을 장부금액으로 하고 있습니다. 다만, 유형자산 중 토지 및 건물에 대해서는 기업회계기준서 제1101호 '한국채택국제회계기준의 최초채택'을 적용하여 한국채택국제회계기준 전환일 현재의 공정가치로 측정하고 이를 그 시점의 간주원가로 사용하였습니다. 공정가치 평가결과 발생한 유형자산재평가이익은 이사회 결의에 따라 배당이 제한됩니다.

유형자산의 일부를 대체할 때 발생하는 원가는 해당 자산으로부터 발생하는 미래 경제적 효익이 연결실체에 유입될 가능성이 높으며 그 원가를 신뢰성 있게 측정할 수 있는 경우에 자산의 장부금액에 포함하거나 적절한 경우 별도의 자산으로 인식하고 있습니다. 이 때 대체된 부분의 장부금액은 제거하고 있습니다. 그 외의 일상적인 수선·유지와 관련하여 발생하는 원가는 발생시점에 당기손익으로 인식하고 있습니다.

유형자산 중 토지는 감가상각을 하지 않으며, 그 외 유형자산은 자산의 취득원가에서 잔존가치를 차감한 금액에 대하여 아래에 제시된 경제적 내용연수에 걸쳐 정액법으로 상각하고 있습니다. 당기와 전기의 추정 내용연수는 다음과 같습니다.

구 분	내용연수
건물	40년
기타의 유형자산	4년 ~ 5년

유형자산의 제거로 인하여 발생하는 손익은 순매각금액과 장부금액의 차이로 결정되고 그 차액은 당기손익으로 인식하고 있습니다.

연결실체는 매 보고기간말에 자산의 잔존가치와 내용연수 및 감가상각방법을 재검토하고 재검토 결과 추정치가 종전 추정치와 다르다면 그 차이는 회계추정의 변경으로 처리하고 있습니다.

(17) 무형자산

무형자산은 최초 인식할 때 원가로 측정하며, 최초 인식 후에는 원가에서 상각누계액과 손상차손누계액을 차감한 금액을 장부금액으로 인식하고 있습니다. 영업권과 회원권을 제외한 무형자산은 사용가능한 시점부터 잔존가치를 영(0)으로 하여 아래의 내용연수 동안 정액법으로 상각하고 있습니다. 관련 상각비는 일반관리비로 인식됩니다.

구 분	내용연수
소프트웨어	5년
개발비	5년
기타의 무형자산	5년 또는 계약기간

내용연수가 유한한 무형자산의 상각기간과 상각방법은 매 회계연도 말에 재검토하고 내용연수가 비한정인 무형자산에 대해서는 그 자산의 내용연수가 비한정이라는 평가가 계속하여 정당한 지를 매 보고기간에 재검토하며, 이를 변경하는 것이 적절하다고 판단되는 경우 회계추정의 변경으로 처리하고 있습니다.

연구 또는 내부프로젝트의 연구단계에 대한 지출은 발생시점에 비용으로 인식하고 있습니다. 개발단계의 지출은 자산을 완성할 수 있는 기술적 실현가능성, 자산을 완성하여 사용하거나 판매하려는 기업의 의도와 능력 및 필요한 자원의 입수가능성, 무형자산의 미래 경제적 효익을 모두 제시할 수 있고, 관련 지출을 신뢰성 있게 측정할 수 있는 경우에 무형자산으로 인식하고 있으며, 기타 개발관련 지출은 발생시점에 비용으로 인식하고 있습니다.

(18) 투자부동산

임대수익이나 시세차익을 얻기 위하여 보유하는 부동산은 투자부동산으로 분류하고 있습니다. 투자부동산은 최초 인식시점에 거래원가를 포함하여 원가로 측정하고, 원가모형을 적용하고 있습니다. 최초 인식 후에는 원가에서 감가상각누계액과 손상차손누계액을 차감한 금액을 장부금액으로 인식하고 있으며, 당기와 전기의 추정내용연수와 감가상각방법은 다음과 같습니다.

구 분	내용연수	감가상각방법
건 물	40년	정액법

후속원가는 자산으로부터 발생하는 미래 경제적 효익이 유입될 가능성이 높으며, 그 원가를 신뢰성 있게 측정할 수 있는 경우에 한하여 자산의 장부금액에 포함하거나 적절한 경우 별도의 자산으로 인식하고 있으며, 후속지출에 의해 대체된 부분의 장부금액은 제거하고 있습니다. 한편, 일상적인 수선·유지와 관련하여 발생하는 원가는 발생시점에 당기손익으로 인식하고 있습니다.

투자부동산의 감가상각방법, 잔존가치 및 내용연수는 매 보고기간말에 재검토하고 이를 변경하는 것이 적절하다고 판단되는 경우 회계추정의 변경으로 회계처리하고 있습니다.

(19) 리스

연결실체는 리스자산의 소유에 따른 위험과 보상의 대부분이 리스이용자에게 이전되는 경우에는 금융리스로 분류하고, 위험과 보상의 대부분을 이전하지 않는 리스는 운용리스로 분류하고 있습니다.

1) 금융리스

연결실체는 리스약정일에 측정된 최소리스료의 현재가치와 리스자산의 공정가치 중 작은 금액을 리스기간개시일에 금융리스자산과 금융리스부채로 각각 인식하고 있습니다. 리스개설직접원가는 금융리스자산에 포함하고 있습니다.

최소리스료는 금융원가와 리스부채의 상환액으로 나누어서 인식하고 있으며, 금융원가는 부채잔액에 대하여 일정한 기간이자율이 산출되도록 리스기간의 각 보고기간동안 배분하고 있습니다. 조정리스료는 발생한 기간에 비용으로 처리하고 있습니다.

금융리스자산의 감가상각은 연결실체가 소유한 다른 감가상각대상자산과 일관된 체계적인 기준으로 상각하고 있으며, 리스기간 종료시점까지 자산의 소유권을 획득할 것이 확실하지 않은 경우에는 리스기간과 리스자산의 내용연수 중 짧은 기간에 걸쳐 감가상각하고 있습니다. 또한, 연결실체는 금융리스자산에 대해서 손상여부를 검토하고 있습니다.

2) 운용리스

운용리스의 리스료는 리스기간에 걸쳐 정액기준으로 비용을 인식하고 있습니다.

(20) 매각예정비유동자산

자산 또는 처분자산집단의 장부금액이 계속 사용이 아닌 매각거래를 통하여 주로 회수될 것으로 예상된다면 이를 매각예정비유동자산으로 분류하고 있습니다. 이러한 조건은 당해 자산(또는 처분자산집단)이 현재의 상태로 즉시 매각가능하여야 하며 매각될 가능성이 매우 높을 때에만 충족된 것으로 간주하고 있습니다. 자산(또는 처분자산집단)을 매각예정으로 최초 분류하기 직전에 해당 자산(또는 자산과 부채)의 장부금액과 순공정가치 중 작은 금액으로 측정하고 있습니다. 자산의 순공정가치가 하락하면 손상차손을 즉시 당기손익으로 인식하고, 순공정가치가 증가하면 과거에 인식하였던 손상차손누계액을 한도로 하여 이익으로 인식하고 있습니다.

자산이 매각예정으로 분류되거나 매각예정으로 분류된 처분자산집단의 일부인 경우에는 그 자산은 상각하지 아니하고 있습니다.

(21) 비금융자산의 손상

종업원급여에서 발생한 자산, 이연법인세자산 및 매각예정으로 분류되는 자산을 제외한 모든 비금융자산에 대해서는 매 보고기간 말마다 자산손상을 시사하는 징후가 있는지를 검토하며, 만약 그러한 징후가 있다면 당해 자산의 회수가능액을 추정하고 있습니다. 단, 사업결합으로 취득한 영업권 및 내용연수가 비한정인 무형자산, 아직 사용할 수 없는 무형자산에 대해서는 자산손상을 시사하는 징후와 관계없이 매년 회수가능액과 장부금액을 비교하여 손상검사를 하고 있습니다.

회수가능액은 개별 자산별로, 또는 개별 자산의 회수가능액을 추정할 수 없다면 그 자산이 속하는 현금창출단위별로 회수가능액을 추정하고 있습니다. 회수가능액은 사용가치와 순공정가치 중 큰 금액으로 결정하고 있습니다. 사용가치는 자산이나 현금창출단위에서 창출될 것으로 기대되는 미래현금흐름을 화폐의 시간가치 및 미래현금흐름을 추정할 때 조정되지 아니한 자산의 특유위험에 대한 현행 시장의 평가를 반영한 적절한 할인율로 할인하여 추정합니다.

자산이나 현금창출단위의 회수가능액이 장부금액에 미달하는 경우 자산의 장부금액을 감소시키며 즉시 당기손익으로 인식하고 있습니다.

사업결합으로 취득한 영업권은 사업결합으로 인한 시너지효과의 혜택을 받게 될 것으로 기대되는 각 현금창출단위에 배분합니다. 현금창출단위에 대한 손상차손은 우선, 현금창출단위에 배분된 영업권의 장부금액을 감소시키고, 그 다음 현금창출단위에 속하는 다른 자산 각각의 장부금액에 비례하여 자산의 장부금액을 감소시키고 있습니다. 영업권에 대해 인식한 손상차손은 후속기간에 환입할 수 없습니다. 매 보고기간말에 영업권을 제외한 자산에 대해 과거기간에 인식한 손상차손이 더 이상 존재하지 않거나 감소된 것을 시사하는 징후가 있는지를 검토하고 직전 손상차손의 인식시점 이후 회수가능액을 결정하는 데 사용된 추정치에 변화가 있는 경우에만 환입합니다. 손상차손환입으로 증가된 장부금액은 과거에 손상차손을 인식하기 전 장부금액의 감가상각 또는 상각 후 잔액을 초과할 수 없습니다.

(22) 비파생금융부채

연결실체는 계약상 내용의 실질과 금융부채의 정의에 따라 금융부채를 당기손익인식 금융부채와 기타금융부채로 분류하고 계약의 당사자가 되는 때에 재무상태표에 인식하고 있습니다.

1) 당기손익인식금융부채

당기손익인식금융부채는 단기매매금융부채나 최초 인식시점에 당기손익인식금융부채로 지정한 금융부채를 포함하고 있습니다. 당기손익인식금융부채는 최초인식 후 공정가치로 측정하며, 공정가치의 변동은 당기손익으로 인식하고 있습니다. 한편, 최초 인식시점에 발행과 관련하여 발생한 거래비용은 발생 즉시 당기손익으로 인식하고 있습니다.

2) 기타금융부채

당기손익인식금융부채로 분류되지 않은 비파생금융부채는 기타금융부채로 분류하며, 기타금융부채는 예수부채, 차입부채, 사채 등을 포함합니다. 기타금융부채는 최초 인식시 발행과 직접 관련되는 거래원가를 차감한 공정가치로 측정하고 있습니다. 후속적으로 기타금융부채는 유효이자율법을 사용하여 상각후원가로 측정되며, 이자비용은 유효이자율법을 사용하여 인식합니다.

금융부채는 소멸한 경우 즉, 계약상 의무가 이행, 취소 또는 만료된 경우에만 재무상태표에서 제거하고 있습니다.

(23) 납입자본

1) 지분상품

보통주는 자본으로 분류하며 자본거래에 직접 관련되어 발생하는 증분원가는 세금효과를 반영한 순액을 자본에서 차감하고 있습니다.

2) 신종자본증권

연결실체는 상품의 계약조건의 실질에 따라 자본증권을 금융부채 또는 지분상품으로 분류합니다. 연결실체가 계약상 의무를 결제하기 위한 현금 등 금융자산의 인도를 회피할 수 있는 무조건적인 권리를 가지고 있는 일부 신종자본증권의 경우 지분상품으로 분류하여 자본의 일부로 표시하고 있습니다.

3) 비지배지분

비지배지분은 지배기업이 직접으로 또는 다른 종속기업을 통하여 간접으로 소유하지 않는 지분에 귀속되는 종속기업의 당기순이익 및 순자산의 해당 부분을 의미하며, 기업회계기준서 제1103호 '사업결합'에 따라 계산한 최초 사업결합시점의 비지배지분 순자산에 해당하는 금액과 사업결합이후 자본의 변동분 중 비지배지분에 해당하는 금액으로 구성됩니다.

(24) 종업원급여

1) 단기종업원급여

종업원이 관련 근무용역을 제공한 보고기간의 말부터 12개월 이내에 결제될 단기종업원급여는 근무용역과 교환하여 지급이 예상되는 금액을, 근무용역이 제공된 때에 당기손익으로 인식하고 있습니다. 단기종업원급여는 할인하지 않은 금액으로 측정하고 있습니다.

2) 기타장기종업원급여

종업원이 관련 근무용역을 제공한 보고기간의 말일부터 12개월 이내에 지급되지 않을 기타장기종업원급여(퇴직급여와 해고급여 제외)는 당기와 과거기간에 제공한 근무용역의 대가로 획득한 미래의 급여액을 현재가치로 할인하고 있습니다. 재측정에 따른 변동은 발생한 기간에 당기손익으로 인식하고 있습니다.

3) 퇴직급여: 확정급여제도

보고기간 말 현재 확정급여제도와 관련된 확정급여부채는 확정급여채무의 현재가치에서 사외적립자산의 공정가치를 차감하여 인식하고 있습니다. 확정급여부채는 매년 독립적인 계리사에 의해 예측단위적립방식으로 계산되고 있습니다. 확정급여채무의 현재가치는 확정급여제도에서 지급될 미래 현금흐름을 관련 퇴직급여의 만기와 유사한 만기를 가지는 퇴직금이 지급되는 통화로 표시된 우량회사채의 수익률을 사용하여 추정 미래 현금흐름을 할인한 후 결정되고 있습니다. 확정급여 원가 중 근무원가와 순확정급여부채(자산)의 순이자는 당기손익으로 인식하며, 순확정급여부채(자산)의 재측정요소는 기타포괄손익으로 인식하고 있습니다.

4) 해고급여

연결실체는 해고급여의 제안을 더 이상 철회할 수 없을 때와 해고급여의 지급을 수반하는 구조조정에 대한 원가를 인식할 때 중 이른 날에 해고급여에 대한 비용을 인식합니다. 해고급여는 지급일이 12개월이 지난 후에 도래하는 경우에는 현재가치로 할인하고 있습니다.

(25) 주식기준보상

연결실체는 제공받는 재화나 용역의 대가로 종업원에게 주식이나 주식선택권을 부여하는 주식결제형 주식보상거래에 대하여, 제공받는 재화나 용역의 공정가치 또는 제공받는 재화나 용역의 공정가치를 신뢰성 있게 측정할 수 없다면 부여한 지분상품의 공정가치에 기초하여 재화나 용역의 공정가치를 간접측정하고 그 금액을 가득기간 동안에 종업원급여비용과 자본으로 인식하고 있습니다. 주식선택권의 가득조건이 용역제공조건 또는 시장조건이 아닌 가득조건인 경우에는 궁극적으로 가득되는 주식선택권의 실제수량에 기초하여 결정되도록 인식된 종업원비용을 조정하고 있습니다.

제공받는 재화나 용역의 대가로 현금을 지급하는 현금결제형 주식기준보상거래의 경우에는 제공받는 재화나 용역과 그 대가로 부담하는 부채를 공정가치로 측정하고 가득기간동안 종업원급여비용과 부채로 인식하고 있습니다. 또한 부채가 결제될 때까지 매 보고기간 말과 최종결제일에 부채의 공정가치를 재측정하고, 공정가치의 변동액은 급여로 인식하고 있습니다.

연결실체의 임직원에게는 모회사인 신한금융지주회사의 주식에 근거한 주식기준보상이 부여되어 있으며, 연결실체는 신한금융지주회사와의 상환지급약정에 따라 주식기준보상거래의 보상원가를 현금으로 부담하게 되어 있습니다. 연결실체는 해당 주식보상비용을 약정용역제공기간에 안분하여 기간비용 및 미지급비용으로 각각 계상하고 있습니다. 약정용역제공기간동안 임직원 등의 사망, 퇴직 또는 해고 등으로 계약의무를 이행하지 못하여 부여된 권리가 행사되지 않고 소멸하는 경우에는 기 인식한 미지급비용을 보상비용에서 차감합니다. 한편, 신한금융지주회사와의 상환지급약정에 관계없이 연결실체가 주식기준보상거래를 결제할 의무가 없는 연결실체 내 기업간의 주식기준보상거래는 주식결제형 주식기준보상거래로 측정하고 있습니다.

(26) 충당부채

과거사건의 결과, 현재의 법적의무 또는 의제의무가 존재하고, 당해 의무를 이행하기 위하여 경제적효익을 갖는 자원이 유출될 가능성이 높으며, 당해 의무의 이행에 소요되는 금액을 신뢰성 있게 추정할 수 있는 경우에 충당부채를 인식하고 있습니다.

충당부채로 인식하는 금액은 관련된 사건과 상황에 대한 불가피한 위험과 불확실성을 고려하여 현재의무를 보고기간말에 이행하기 위하여 소요되는 지출에 대한 최선의 추정치입니다. 화폐의 시간가치 효과가 중요한 경우 충당부채는 의무를 이행하기 위하여 예상되는 지출액의 현재가치로 평가하고 있습니다.

매 보고기간 말마다 충당부채의 잔액을 검토하고, 보고기간 말 현재 최선의 추정치를 반영하여 조정하고 있습니다. 의무이행을 위하여 경제적 효익을 갖는 자원이 유출될 가능성이 더 이상 높지 않은 경우에는 관련 충당부채를 환입하고 있습니다. 충당부채는 최초 인식과 관련 있는 지출에만 사용하고 있습니다.

(27) 금융보증계약

금융보증계약은 채무상품의 최초 계약조건이나 변경된 계약조건에 따라 지급기일에 특정 채무자가 지급하지 못하여 보유자가 입은 손실을 보상하기 위해 발행자가 특정 금액을 지급하여야 하는 계약입니다.

금융보증계약은 최초 인식시 공정가치로 측정하여 지급보증충당부채에 포함되며, 공정가치는 당해 금융보증계약의 기간 동안 상각됩니다.

최초 인식 이후에는 다음 중 큰 금액으로 측정됩니다.

- 기업회계기준서 제1037호 '충당부채, 우발부채 및 우발자산'에 따라 결정된 금액 (당해 금융보증계약으로부터 기대되는 지급 금액의 현재가치)
- 최초인식금액에서 기업회계기준서 제1018호 '수익'에 따라 인식한 상각누계액을 차감한 금액

(28) 수익·비용의 인식

1) 이자수익과 이자비용

이자수익과 이자비용은 유효이자율법을 적용하여 포괄손익계산서에 인식합니다. 유효이자율법은 금융자산이나 금융부채의 상각후원가를 계산하고 관련 기간에 걸쳐 이자수익이나 이자비용을 배분하는 방법입니다.

유효이자율을 계산할 때 당해 금융상품의 모든 계약조건을 고려하여 미래현금흐름을 추정하나, 미래 신용위험에 따른 손실은 고려하지 않습니다. 또한, 계약 당사자 사이에서 지급하거나 수취하는 수수료, 거래원가 및 기타의 할증액과 할인액 등을 반영합니다. 금융상품에 대한 현금흐름 또는 기대존속기간을 신뢰성 있게 추정할 수 없는 예외적인 경우에는 전체 계약기간 동안 계약상 현금흐름을 사용하여 유효이자율을 구합니다.

금융자산이나 유사한 금융자산의 집합이 손상차손으로 감액되면, 그 후의 이자수익은 손상차손을 측정할 목적으로 미래현금흐름을 할인하는 데 사용한 이자율을 사용하여 인식합니다.

2) 수수료수익

연결실체는 금융용역수수료를 그 수수료의 부과목적과 관련 금융상품의 회계처리 기준에 따라 다음과 같이 구분하여 처리합니다.

① 금융상품의 유효수익을 구성하는 수수료

금융상품의 유효이자율의 일부를 구성하는 수수료의 경우 일반적으로 유효이자율에 대한 조정항목으로 처리합니다. 이러한 수수료에는 차입자의 재무상태, 보증, 담보와 기타 보장약정과 관련된 평가 및 사무처리, 관련 서류의 준비 및 작성 등의 활동에 대한 보상, 금융부채 발행시 수취된 개설수수료 등이 포함됩니다. 그러나, 금융상품이 당기손익인식금융상품에 해당하는 경우 수수료는 상품의 최초 인식시점에 수익으로 인식합니다.

② 용역을 제공함으로써 가득되는 수수료

자산관리수수료, 업무수탁수수료, 보증용역수수료 등 일정기간 동안 용역의 제공대가로 부과되는 수수료는 그 용역을 제공하는 때에 수익으로 인식합니다. 또한, 특정한 대출약정이 체결될 가능성이 낮고, 그 대출약정이 기업회계기준서 제1039호 '금융상품: 인식과 측정'의 적용범위에 해당하지 않는다면, 해당 약정수수료는 약정기간에 걸쳐 기간에 비례하여 수익으로 인식합니다.

③ 유의적인 행위를 수행함으로써 가득되는 수수료

주식 또는 기타증권 매매, 사업양수도의 주선과 같이 제3자를 위한 거래의 협상 또는 협상참여의 대가로 수취하는 수수료 및 판매수수료 등 유의적인 행위를 수행함으로써 가득되는 수수료는 유의적인 행위를 완료한 시점에 수익으로 인식합니다.

3) 배당수익

배당수익은 주주로서 배당을 받을 권리가 확정되는 시점에 수익을 인식하고 있습니다.

(29) 법인세

법인세비용은 당기법인세와 이연법인세로 구성되어 있으며, 기타포괄손익이나 자본에 직접 인식되는 거래나 사건 또는 사업결합에서 발생하는 세액을 제외하고는 당기손익으로 인식하고 있습니다.

연결실체의 모회사인 신한금융지주회사는 당행을 포함한 국내완전자회사를 하나의 납세단위로 보아 소득금액을 통산하여 법인세를 신고·납부하고, 연결실체는 신한금융지주회사에 연결법인세 부담세액 개별귀속액을 지급할 의무만 존재하므로, 해당 금액을 당기법인세부채에 포함된 미지급금으로 계상하였습니다. 자산·부채의 장부금액과 세무가액의 차이인 일시적차이와 이월공제가 가능한 세무상결손금과 세액공제 등에 대하여 미래에 부담하게될 법인세부담액과 미래에 경감될 법인세부담액 중 연결실체에 직접 귀속되는 항목에 대하여 각각 이연법인세부채 및 자산으로 인식하고 있습니다. 한편, 당행을 제외한 종속기업은 각 과세당국에 의해 적용되는 세법에 따라 별도로 법인세를 산출하며, 해당 금액을 당기법인세부채에 포함된 미지급법인세로 계상하고 있습니다.

종속기업, 관계기업 및 공동기업 투자지분에 관한 가산할 일시적차이에 대해서는 연결실체가 일시적차이의 소멸시점을 통제할 수 있으며, 예측가능한 미래에 일시적차이가 소멸하지 않을 가능성이 높은 경우를 제외하고는 모두 이연법인세부채를 인식하고 있습니다. 또한, 차감할 일시적차이로 인하여 발생하는 이연법인세자산은 일시적차이가 예측가능한 미래에 소멸 가능할 가능성이 높고, 일시적차이가 사용될 수 있는 과세소득이 발생할 가능성이 높은 경우에 인식하고 있습니다.

이연법인세자산과 부채는 보고기간말 제정되었거나 실질적으로 제정된 세법에 근거하여 당해 자산이 실현되거나 부채가 지급될 보고기간에 적용될 것으로 기대되는 세율을 사용하여 측정하고 있습니다. 이연법인세자산과 이연법인세부채를 측정할 때에는 보고기간말 현재 연결실체가 관련 자산과 부채의 장부금액을 회수하거나 결제할 것으로 예상되는 방식에 따라 법인세효과를 반영하였습니다.

이연법인세자산의 장부금액은 매 보고기간말에 검토하고, 이연법인세자산으로 인한 혜택이 사용되기에 충분한 과세소득이 발생할 가능성이 더 이상 높지 않은 경우 이연법인세자산의 장부금액을 감소시키고 있습니다.

이연법인세자산과 부채는 동일 과세당국이 부과하는 법인세이고, 연결실체가 인식된 금액을 상계할 수 있는 법적 권한을 가지고 있으며 당기 법인세부채와 자산을 순액으로 결제할 의도가 있는 경우에만 상계하고 있습니다.

(30) 신탁관련 회계처리

연결실체는 자본시장과 금융투자업에 관한 법률 제114조에 따라 신탁재산을 고유재산과 구분하여 회계처리하고 있습니다. 이와 관련하여 신탁계정에 대여한 자금을 신탁계정대여금, 신탁계정으로부터 차입한 자금을 신탁계정미지급금으로 계상하고 있으며 금융투자업규정에 따라 신탁재산의 운용, 관리 및 처분과 관련하여 신탁보수를 취득하고 이를 신탁업무운용수익으로 계상하고 있습니다.

(31) 주당이익

연결실체는 보통주 기본주당이익과 희석주당이익을 계속영업손익과 당기순손익에 대하여 계산하고 포괄손익계산서에 표시하고 있습니다. 기본주당이익은 보통주에 귀속되는 당기순손익을 보고기간 동안에 유통된 보통주식수를 가중평균한 주식수로 나

누어 계산하고 있습니다. 회식주당이익은 전환사채와 종업원에게 부여한 주식기준보상 등 모든 회식효과가 있는 잠재적 보통주의 영향을 고려하여 보통주에 귀속되는 당기순이익 및 가중평균유통보통주식수를 조정하여 계산하고 있습니다.

(32) 미적용 제·개정 기준서

제정·공표되었으나 2014년 1월 1일 이후 시작하는 회계연도에 시행일이 도래하지 아니한 제·개정 기준서 및 해석서는 다음과 같습니다. 연결실체는 연결재무제표 작성시 다음의 제·개정 기준서 및 해석서를 조기적용하지 아니하였습니다.

다음의 제·개정 기준서 및 해석서 적용시 재무제표에 미치는 영향은 보고기간말 현재로 추정할 수 없습니다.

1) 기업회계기준서 제1108호 '영업부문'

경제적 특성이 유사한 영업부문을 통합하여 부문별 정보를 공시하는 경우 통합과 관련된 공시사항을 추가해야 하며, 통합된 영업부문에 대한 설명, 경제적 특성이 유사하다는 것을 결정하기 위하여 사용한 경제적 지표를 공시해야 합니다. 또한, 보고부문의 자산 합계에서 기업전체 자산으로의 조정은 이러한 정보가 최고경영의사결정자에게 보고되는 경우에만 요구됨을 명시하였습니다. 동 기준서는 2014년 7월 1일 이후 개시하는 회계연도부터 의무적용됩니다.

2) 기업회계기준서 제1102호 '주식기준보상'

주식기준보상에서 규정하는 특정조건이 성과조건을 구성할 수 있는지 여부, 성과조건 달성 기간이 용역제공기간보다 길 수 있는지 여부 등이 명확치 않았으나, 개정기준에서는 용역제공, 성과조건에 대한 정의를 명확히 하였습니다. 동 기준서는 2014년 7월 1일 이후 개시하는 회계연도부터 의무적용됩니다.

3) 기업회계기준서 제1103호 '사업결합'

개정기준에서는 조건부대가가 금융상품이라면, 기업회계기준서 제1032호에 따라 부채 또는 자본으로 분류하고, 자산이나 부채로 분류되는 조건부대가는 후속기간에 공정가치로 측정하며, 공정가치 변동은 당기순이익으로 반영하도록 규정하였습니다. 또한, 모든 형태의 공동약정 즉, 공동기업과 공동영업의 구성을 기업회계기준서 제1103호의 적용범위에서 제외하도록 개정하였습니다. 동 기준서는 2014년 7월 1일 이후

개시하는 회계연도부터 의무적용됩니다.

4) 기업회계기준서 제1113호 '공정가치 측정'

명시된 이자율이 없는 단기수취채권과 단기지급채무는 할인효과가 중요하지 않다면 송장의 원본금액으로 측정할 수 있도록 하였습니다. 또한, 금융자산이나 금융부채의 정의를 충족하지 않더라도 기업회계기준서 제1039호의 적용범위에 포함된다면 포트폴리오 예외조항을 적용하도록 하였습니다. 동 기준서는 2014년 7월 1일 이후 개시하는 회계연도부터 의무적용됩니다.

5) 기업회계기준서 제1024호 '특수관계자 공시'

직접 또는 간접으로 주요경영인력용역을 제공하는 기업(관리기업)을 특수관계자의 정의에 포함하였습니다. 주요경영진서비스가 기업에 제공되는 경우, 관리회사로부터 제공받는 용역에 대하여 비용으로 인식한 금액 및 다른 거래들을 공시하여야 합니다. 동 기준서는 2014년 7월 1일 이후 개시하는 회계연도부터 의무적용됩니다.

6) 기업회계기준서 제1019호 '종업원급여'

정해진 요건을 충족하는 기여금을 종업원이나 제3자가 납부하는 경우, 기업은 관련된 근무용역이 제공되는 기간의 근무원가에서 기여금을 차감하는 방법을 회계정책으로 선택가능합니다. 근무용역에 연계되어 있는 기여금은 순당기근무원가와 확정급여채무의 계산 시 포함되어야 하며, 이 기여금은 제도의 기여금 산정시 또는 정액기준으로 근무기간에 배분해야 합니다. 동 기준서는 2014년 7월 1일 이후 개시하는 회계연도부터 의무적용됩니다.

7) 기업회계기준서 제1111호 '공동약정'

사업의 정의를 충족하는 공동영업의 지분을 취득할 때 기업회계기준서 제1103호에 따른 회계처리를 적용합니다. 또한, 공동영업자가 공동영업의 지분을 추가 취득하거나 공동지배력을 유지하는 경우, 추가 취득하는 지분은 일반적으로 공정가치로 측정되나 이전 보유지분은 재측정하지 않도록 하였습니다. 동 기준서는 2016년 1월 1일 이후 개시하는 회계연도부터 의무적용됩니다.

3. 금융상품 위험관리

3-1. 신용위험

연결실체는 일정 수준의 신용위험에 노출되어 있으며, 이는 거래상대방의 의무불이행으로 인해 연결실체가 재무적 손실을 입을 위험을 의미합니다. 신용위험은 회사의 영업활동에 있어 가장 중요하게 관리되어야 할 위험으로 분류되며, 경영진은 신용위험 최대노출액을 주의 깊게 관리하고 있습니다. 신용노출은 주로 예치금과 대출채권과 관련된 대출 과정 및 채무증권에 대한 투자활동과 그룹 자산 포트폴리오의 환어음 등에서 발생하며, 대출약정 등의 재무제표의 난외 계정과 관련한 신용위험이 존재합니다.

(1) 신용위험 관리

연결실체의 신용리스크 관리에 대한 기본 정책은 리스크정책위원회에서 결정됩니다. 리스크정책위원회는 CRO(Chief Risk Officer)를 위원장으로, CCO(Chief Credit Officer)와 사업그룹 담당 그룹장 및 리스크총괄부장으로 구성되어, 은행 전반의 신용위험관리 방안과 여신정책 방향을 의사결정하고 있습니다. 리스크정책위원회와 별도로 여신심의위원회를 설치하여 거액여신 및 한도승인 등의 여신 심사를 분리하고 있으며, CCO를 위원장으로, CRO와 여신관련 사업그룹 담당 부행장, 여신기획부장 및 선임심사역으로 구성되어 여신의 건전성을 제고하고 운용 수익성을 제고하는 방향으로 여신 심사를 하고 있습니다.

신용리스크 대상자산을 보유 및 관리하는 모든 영업단위에서 1차적으로 해당자산에 대한 리스크관리를 수행하고, 리스크총괄부 및 여신기획부 등 신용리스크 관리 부서에서는 2차적으로 은행 전체의 신용리스크 관리를 담당합니다. 리스크총괄부는 리스크정책위원회에서 설정된 신용리스크 한도 및 동일 차주별, 계열별, 업종별, 국가별 신용 최대노출액 한도를 관리하는 등 신용포트폴리오 관리를 수행하고 있습니다. 또한 신용평가시스템, 담보관리시스템 운용을 통한 PD, LGD, EAD(Exposure At Default) 등 신용리스크 산출요소(Risk Component)를 측정 및 관리하고 있습니다. 여신 의사결정 지원 및 견제 조직으로서 여신기획부는 은행 전체의 여신정책 및 제도를 관리하고 있으며, 여신심사부에서는 독립적인 신용평가 수행 및 여신 의사결정을 수행하고 있습니다. 또한 여신감리부에서는 거액 여신 등에 대한 개별 여신감리를 수행하고 있습니다.

모든 여신고객(개인 및 기업)에 대하여 신용등급이 부여되어 관리되는데, 개인은 신상정보, 은행내부실적정보, 외부신용정보를 합산하여 산출되고, 기업의 경우 재무항목과 산업위험, 영업위험, 경영위험 등의 비재무항목 등을 종합적으로 고려하여 신용평가시스템에서 산출됩니다. 산출된 신용등급은 여신승인, 한도관리, 가격결정, 대손충당금 적립 등에 활용되는 등 신용리스크 관리의 기본이 됩니다.

당행의 신용평가시스템은 Basel II 요건을 반영하여 개인평가시스템(ACE: Automatic Credit Evaluation), 최대노출액 3억이하 소매SOHO신용평가시스템, 기업신용평가시스템(AIRS: Advanced Internal Rating System)을 운영하고 있습니다.

기업여신에 대한 심사는 집단의사결정체제를 취함으로써 객관적이고 신중한 의사결정을 하고 있습니다. 일반적인 여신의 경우 영업점의 RM(Relationship Manager)과 각 사업부문 본부 심사역의 합의 하에 여신 승인이 이루어지며, 규모가 크거나 중요한 여신의 경우는 심사협의체 등에서 여신 승인이 이루어집니다. 특히, 전결한도를 초과하는 거액 여신 등 중요 여신에 대하여는 여신 최고의사결정기구인 여신심의위원회에서 심사를 하고 있습니다. 개인여신은 개인여신심사부에서 객관적인 통계방법과 은행의 신용정책에 기초한 자동화된 개인여신평가시스템(CSS: Credit Scoring System)에 의하여 심사가 이루어지고 있습니다.

개별 여신에 대한 상시 관리를 위하여 상시모니터링시스템을 가동하고 있습니다. 기업여신 거래처 중 부실예상기업을 자동 검색하여 심사역과 RM으로 하여금 Loan Review를 하도록 하고 있으며, 사업그룹과 독립된 여신감리부에서는 Loan Review 결과의 적정성을 판단하고 필요에 따라 해당 기업의 신용등급 조정을 요청합니다. 이러한 절차에 따라 부실예상기업을 조기경보기업, 관찰기업 및 정상기업으로 분류한 위험단계별 관리지침에 따라 차별 관리함으로써 여신의 부실화를 조기에 차단하고 있습니다. 전문 신용평가기관과 제휴한 재무분석지원시스템은 여신심사 및 관리를 지원하고 있으며, 여신기획부의 산업정보팀에서 산업등급을 산출·관리하고, 산업동향 및 기업정보를 분석·제공하고 있습니다.

(2) 위험한도관리 및 위험경감 정책

신용리스크를 적정 수준으로 통제하기 위하여 아래와 같은 한도관리 체계를 수립·운용하고 있습니다.

- 신용리스크 한도는 신용VaR 및 최대노출액 기준으로 사업부문별, 고객별, 상품별, 업종별 등 각 부문별로 설정하여 관리함
- 리스크총괄부에서는 신용VaR 및 최대노출액 기준의 한도 설정과 관리업무를 수행하고, 여신기획부와 여신심사부에서도 신용리스크 관리를 위해 설정된 최대노출액 한도관리 업무를 실행함
- 리스크총괄부, 리스크공학부는 매년 1회 이상 은행 전체의 신용리스크 한도 운영 계획을 수립하여 리스크정책위원회에 부의함
- 각 사업부문은 사업부문별로 할당된 신용리스크 한도를 모니터링하고 준수함
- 식별된 신용위험에 대해 개인고객 및 기업고객, 산업과 국적별 한도를 지정 및 관리함
- 개별 차주 혹은 차주 집단, 지리적 산업별 부문에 대해 수용할 수 있는 위험의 한도를 설정함
- 해당 위험은 연간 기준 혹은 필요하다고 판단되는 경우 기간 내에 재검토되며, 상품별, 산업별, 국가별 위험의 한도는 분기별로 이사회외 승인을 득함
- 기관을 포함한 차주별 최대노출액은 재무제표상의 계정과 난외계정에 대해 개별 설정된 하위 수준의 한도에 의해 관리되며, 외화선도 거래 등 상품 거래와 관련된 일별 거래에 대해서도 위험의 한도를 결정함
- 한도에 대비한 실제 최대노출액은 일별로 관리함
- 신용위험 최대노출액은 차주에 대한 이자와 원금 상환능력을 분석하는 과정에서도 관리되며, 필요한 경우 이 과정에서 대출한도를 변경함

기타 위험관리 방안은 다음과 같습니다.

1) 담보

당행은 신용위험을 완화하기 위한 정책과 절차들을 도입하고 있습니다. 신용위험과 관련하여 일반적으로 담보채가 사용되며, 당행은 특정 종류의 자산에 대한 질권설정에 대한 정책을 도입하고 있으며, 주요 담보 형태는 다음과 같습니다.

- 주택 담보
- 부동산, 재고자산 및 대출채권 등
- 채무증권 및 지분증권 등 금융상품

상대적으로 장기 대출채권은 일반적으로 담보가 설정되어 있습니다. 반면, 리볼빙 개인 신용대출은 무담보인 경우가 일반적입니다.

또한, 신용위험으로 인한 손실을 최소화하기 위해 연결실체는 자산 손상의 징후가 있는 경우 거래상대방에 추가 담보를 설정하고 있습니다.

대출채권 외의 금융자산에 대한 담보는 상품의 성격에 따라 차이가 있습니다.

금융상품 포트폴리오 등의 담보 설정된 ABS 등 특수한 경우를 제외하면, 채무증권의 경우 무담보가 일반적입니다.

2) 파생금융상품

연결실체는 대입 이후 처분 계약 사이에 있는 파생금융상품에 대해 금액과 기간에 대한 한도를 유지하여 관리하고 있습니다.

3) 일괄상계약정

연결실체는 상당한 규모의 거래를 수행하는 데 있어 거래상대방과 일괄상계약정을 체결함에 따라 신용 손실에 대한 최대노출액을 제한하고 있습니다.

거래는 보통 총액 기준으로 설정되어 있음에 따라 일괄상계약정은 일반적으로 재무상태표상 자산과 부채를 상계한 결과로 나타나지 않습니다. 하지만, 거래상대방에 대한 모든 금액이 순액 기준으로 설정될 때, 손실이 발생한다면 favourable 계약과 관련된 신용 위험은 범위 내에서 일괄상계약정에 의해 줄어듭니다.

일괄상계약정에 속해 있는 신용 위험에 대한 그룹의 전체적인 최대노출액은 약정에 속해 있는 각 거래에 영향을 받기 때문에 짧은 기간 내에 실질적으로 변동할 수 있습니다.

4) 신용 관련 약정

보증과 신용공여는 여신과 같은 신용 위험을 가지고 있습니다. 신용장(특정 기간과 상황 아래 요구된 금액에 대하여 당행에서 제3자에 어음을 발행하여 고객을 대신하여 신용을 보증)은 그들과 관련된 기초적인 상품의 선적에 의해 담보가 설정되어 있으므로 여신보다 더 적은 위험을 수반합니다. 신용 보강에 대한 약정들은 여신, 보증 혹은 신용장의 형태에서 신용을 보강시키는 한도의 미사용 비율을 나타냅니다. 신용을 보강하는 약정에 대한 신용위험과 관련하여, 당행은 총 미사용약정과 동일한 금액에 대하여 잠재적으로 노출되어 있습니다. 장기 약정은 일반적으로 단기 약정보다 신용위험의 정도가 크기 때문에 연결실체는 신용약정의 만기에 대하여 모니터링하고 있습니다.

(3) 신용위험에 대한 최대 노출액

당기말과 전기말 현재 보유 금융상품의 신용위험에 대한 최대노출액의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
구 분		제183(당)기	제182(전)기	
예치금 및 대출채권(주1,2)	은행		9,330,401	10,319,637
	개인	주거용부동산담보대출	43,071,985	40,970,300
		기타	44,568,901	39,014,553
		소 계	87,640,886	79,984,853
	정부/공공기관/중앙은행		11,950,221	9,109,552
	기업	대기업	31,325,767	29,652,111
		중소기업	57,472,842	50,992,108
		특수금융	3,967,248	4,431,802
		기타	1,075	849
		소 계	92,766,932	85,076,870
	카드채권		25,999	39,278
	합 계		201,714,439	184,530,190
채무증권		7,079,455	6,473,993	

(단위: 백만원)			
구 분		제183(당)기	제182(전)기
단기매매금융자산	금예치금	224,566	76,337
	합 계	7,304,011	6,550,330
파생상품자산		1,309,094	1,457,994
매도가능금융자산	채무증권	20,033,298	21,232,753
만기보유금융자산	채무증권	8,012,117	7,433,620
기타금융자산(주1,3)		8,019,552	6,901,231
난외계정	금융보증	3,069,507	2,302,517
	대출약정 및 기타 신용관련 부채	73,608,486	74,158,883
	합 계	76,677,993	76,551,400
총 계		323,070,504	304,657,518

(주1) 예치금 및 대출채권, 기타금융자산의 최대 노출액은 미상각잔액과 대손충당금을 차감한 순장부금액입니다.

(주2) 신BIS협약(Basel III)의 자기자본비율(BIS 비율) 산출상 유사한 신용위험집단으로 분류하였습니다.

(주3) 미수금, 미수수익, 예치보증금, 미회수내국환채권, 가자금금 등으로 구성되어 있습니다.

(4) 예치금과 대출채권의 손상정보

1) 당기말과 전기말 현재 예치금과 대출채권의 손상 여부에 대한 내역은 다음과 같습니다.

<제183(당기)>

(단위: 백만원)										
구 분	은행	개인		정부 공공기관 중앙은행	기업				카드채권	합 계
		주거용부동산 담보대출	기타		대기업	중소기업	특수금융	기타		
연체 및 손상되지 않은 예치금과 대출채권	9,362,122	42,792,312	44,503,104	11,958,001	31,380,015	57,460,913	3,853,319	1,101	25,979	201,336,888
연체되었으나 손상되지 않은 대출채권	-	218,945	148,075	-	81,079	131,823	12,290	-	352	590,584
손상된 대출채권	-	80,012	172,270	-	535,858	422,613	179,598	10	18	1,390,375
소 계	9,362,122	43,091,269	44,821,449	11,958,001	31,996,952	58,015,349	4,045,205	1,111	26,347	203,317,805
대손충당금	(31,721)	(19,284)	(252,548)	(7,780)	(871,185)	(542,507)	(77,957)	(38)	(348)	(1,803,368)
합 계	9,330,401	43,071,985	44,568,901	11,950,221	31,325,767	57,472,842	3,967,248	1,075	25,999	201,514,439

<제182(전기)>

(단위: 백만원)										
구 분	은행	개인		정부 공공기관 중앙은행	기업				카드채권	합 계
		주거용부동산 담보대출	기타		대기업	중소기업	특수금융	기타		
연체 및 손상되지 않은 예치금과 대출채권	10,334,684	40,665,639	38,917,523	9,114,647	29,544,088	50,721,418	4,319,618	881	39,375	183,658,253
연체되었으나 손상되지 않은 대출채권	-	258,895	144,520	-	80,070	339,159	1,252	-	146	824,042
손상된 대출채권	-	82,971	178,382	-	714,760	489,447	243,998	-	10	1,667,588
소 계	10,334,684	40,987,705	39,239,405	9,114,647	30,338,938	51,530,024	4,565,068	881	39,531	186,149,883
대손충당금	(15,027)	(17,405)	(223,852)	(5,095)	(688,827)	(537,916)	(133,268)	(32)	(253)	(1,619,673)
합 계	10,319,657	40,970,300	39,014,553	9,109,552	29,652,111	50,992,108	4,431,802	849	39,278	184,530,190

2) 당기말과 전기말 현재 연체 및 손상되지 않은 예치금과 대출채권의 신용건전성별 구성내역은 다음과 같습니다.

<제183(당기)>

(단위: 백만원)										
구분	은행	개인		정부 공공기관 중앙은행	기업				카드채권	합계
		주거용부동산 신용대출	기타		대기업	중소기업	특수금융	기타		
통급: 1. 우량	9,382,122	40,497,754	42,168,027	11,958,001	22,135,848	31,908,800	3,800,835	-	20,138	181,550,923
통급: 2. 보통	-	2,294,558	2,335,077	-	9,244,387	25,852,313	252,884	1,101	5,843	39,785,943
소계	9,382,122	42,792,312	44,503,104	11,958,001	31,380,235	57,761,113	3,853,719	1,101	25,979	201,336,866
다손충당금	(31,721)	(11,893)	(133,248)	(7,780)	(382,705)	(384,513)	(25,740)	(28)	(348)	(977,978)
합계	9,330,401	42,780,419	44,369,856	11,950,221	30,997,530	57,376,600	3,827,979	1,073	25,631	200,358,888
당보에 의한 신용위험 경감효과	134	41,928,107	17,785,420	-	8,184,415	39,179,137	550,682	-	38	107,627,913

<제182(전기)>

(단위: 백만원)										
구분	은행	개인		정부 공공기관 중앙은행	기업				카드채권	합계
		주거용부동산 신용대출	기타		대기업	중소기업	특수금융	기타		
통급: 1. 우량	10,334,884	38,485,095	38,859,827	9,114,647	20,878,177	28,088,780	4,002,785	-	34,972	145,578,747
통급: 2. 보통	-	2,200,744	2,257,898	-	8,885,911	24,832,638	317,033	881	4,403	38,079,508
소계	10,334,884	40,685,839	38,917,523	9,114,647	29,544,088	50,721,418	4,319,818	881	39,375	183,658,253
다손충당금	(15,027)	(10,925)	(114,345)	(5,095)	(289,551)	(339,873)	(27,738)	(32)	(235)	(802,822)
합계	10,319,837	40,654,914	38,803,178	9,109,552	29,254,537	50,381,545	4,292,079	849	39,140	182,855,431
당보에 의한 신용위험 경감효과	152	38,770,143	15,038,529	-	7,979,993	38,418,888	1,018,820	-	15	100,225,140

3) 당기말과 전기말 현재 연체되었으나 손상되지 않은 예치금과 대출채권의 연체기간별 구성내역은 다음과 같습니다.

<제183(당기)>

(단위: 백만원)								
구 분	개인		기업				카드차권	합 계
	주거용부동산 담보대출	기타	대기업	중소기업	특수금융	기타		
30일 이내 연체	172,933	99,787	57,400	50,453	12,290	-	184	393,027
30일~60일 연체	32,448	28,848	507	21,290	-	-	38	81,131
60일~90일 연체	13,584	12,459	22,524	22,079	-	-	23	70,649
90일 이상 연체	-	8,981	648	38,001	-	-	127	45,757
소 계	218,945	148,075	81,079	131,823	12,290	-	352	590,584
대손충당금	(2,168)	(27,230)	(1,835)	(21,165)	(8,344)	-	-	(60,542)
합 계	216,777	118,845	79,444	110,658	3,946	-	352	530,022
담보에 의한 신용위험 경감효과	215,073	69,137	3,615	78,114	-	-	-	365,939

<제182(전기)>

(단위: 백만원)								
구 분	개인		기업				카드차권	합 계
	주거용부동산 담보대출	기타	대기업	중소기업	특수금융	기타		
30일 이내 연체	224,594	109,417	73,914	293,524	1,252	-	93	692,794
30일~60일 연체	21,752	18,847	3,208	28,488	-	-	20	72,293
60일~90일 연체	11,844	14,689	513	13,694	-	-	18	40,538
90일 이상 연체	905	1,587	2,435	13,475	-	-	15	18,417
소 계	258,995	144,520	80,070	339,159	1,252	-	146	624,042
대손충당금	(1,963)	(20,093)	(3,019)	(20,337)	(1)	-	(10)	(45,443)
합 계	256,912	124,427	77,051	318,822	1,251	-	136	778,599
담보에 의한 신용위험 경감효과	252,771	68,084	12,988	253,388	-	-	-	587,209

4) 당기말과 전기말 현재 손상된 예치금과 대출채권 종류별 담보에 의한 신용위험경감효과의 내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)								
구 분	개인		기업				카드채권	합 계
	주거용부동산 담보대출	기타	대기업	중소기업	특수금융	기타		
손상된 대출채권	80,012	172,270	535,858	422,813	179,598	10	18	1,390,375
대손충당금	(5,223)	(92,070)	(298,845)	(138,829)	(43,873)	(8)	-	(584,845)
합 계	74,789	80,200	249,013	285,784	135,723	2	18	825,527
담보에 의한 신용위험 경감효과	78,052	50,354	118,018	280,830	-	-	-	527,052

<제182(전)기>

(단위: 백만원)								
구 분	개인		기업				카드채권	합 계
	주거용부동산 담보대출	기타	대기업	중소기업	특수금융	기타		
손상된 대출채권	82,971	178,382	714,780	489,447	243,998	-	10	1,687,588
대손충당금	(4,497)	(89,414)	(394,257)	(177,708)	(105,528)	-	(8)	(771,408)
합 계	58,474	88,968	320,523	291,741	138,472	-	2	916,180
담보에 의한 신용위험 경감효과	81,138	38,141	185,977	326,800	-	-	-	590,054

(5) 채무증권의 신용등급별 구성 내역

1) 당기말과 전기말 현재 채무증권의 신용등급별 구성내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)				
구 분	단기매매금융자산	매도가능금융자산	만기보유금융자산	합 계
AAA	1,539,833	12,978,467	7,025,246	21,543,546
AA- to AA+	1,662,905	2,634,819	753,221	5,050,945
A- to A+	2,866,086	2,247,214	131,292	5,244,592
BBB- to BBB+	569,706	1,065,902	-	1,665,608
Lower than BBB-	240,642	441,338	33,306	715,286
Unrated	200,283	635,558	69,052	904,893
합 계	7,079,455	20,033,298	8,012,117	35,124,870

<제182(전)기>

(단위: 백만원)				
구 분	단기매매금융자산	매도가능금융자산	만기보유금융자산	합 계
AAA	1,640,089	13,729,157	6,376,540	21,745,786
AA- to AA+	1,585,343	3,799,023	791,398	6,175,764
A- to A+	2,272,927	1,719,726	109,147	4,101,800
BBB- to BBB+	435,735	894,125	-	1,329,860
Lower than BBB-	264,861	418,568	23,305	706,734
Unrated	275,038	672,154	133,230	1,080,422
합 계	6,473,993	21,232,753	7,433,620	35,140,366

2) 외부평가기관 신용등급에 따른 유가증권의 신용건전성 기준은 다음과 같습니다.

구 분	한신평	한기평	S&P	Fitch	Moody's
AAA	-	-	AAA	AAA	Aaa
AA- to AA+	AAA	AAA	AA- to AA+	AA- to AA+	Aa3 to Aa1
A- to A+	AA- to AA+	AA- to AA+	A- to A+	A- to A+	A3 to A1
BBB- to BBB+	BBB- to A	BBB- to A	BBB- to BBB+	BBB- to BBB+	Baa3 to Baa1
Lower than BBB-	Lower than BBB-	Lower than BBB-	Lower than BBB-	Lower than BBB-	Lower than Baa3
Unrated	Unrated	Unrated	Unrated	Unrated	Unrated

3) 당기말과 전기말 현재 채무증권의 신용건전성 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
연체 및 손상되지 않은 유가증권	35,124,870	35,140,366
손상된 유가증권	-	-
합 계	35,124,870	35,140,366

(6) 당기말과 전기말 현재 담보 실행으로 취득한 자산의 취득가액 2,585백만원 및 6,074백만원을 매각예정비유동자산으로 분류하고 있습니다.

(7) 지역별 구성내역

당기말과 전기말 현재 보유 금융상품 지역별 구성내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)									
구분	한국	미국	영국	일본	독일	베트남	중국	기타	합계
<예치금>									
은행	888,570	858,225	394,093	10,085	17,841	228,411	1,175,979	139,428	3,708,630
정부/공공기관/중앙은행	8,608,485	115,845	821	73,475	181	80,518	540,175	82,888	9,660,344
예치금 소계	9,695,035	972,070	394,914	83,560	18,022	308,927	1,716,154	202,252	13,368,974
<대출차권>									
은행	2,157,123	49,992	-	357,808	180,925	119,370	1,413,477	1,343,278	5,621,771
개인	88,218,080	283,905	2,193	794,022	2,598	58,378	44,733	270,999	87,640,888
주거용부동산담보대출	43,059,621	9,034	-	840	33	-	448	2,209	43,071,985
기타	43,158,439	254,871	2,193	783,382	2,585	58,378	44,285	288,790	44,588,901
정부/공공기관/중앙은행	2,289,877	-	-	-	-	-	-	-	2,289,877
기업	83,114,294	1,328,807	91,917	1,480,485	143,842	1,292,578	2,684,495	2,650,534	92,788,932
대기업	27,785,912	893,324	91,483	752,588	111,400	489,787	681,840	739,485	31,325,787
중소기업	52,007,189	588,343	424	727,899	32,411	822,811	1,982,655	1,313,111	57,472,842
특수금융	3,320,299	49,130	-	-	-	-	-	597,819	3,967,248
기타	895	10	-	-	31	-	-	139	1,075
카드차권	18,531	1,132	1	-	-	8,322	3	10	25,999
대출차권 소계	173,773,885	1,843,838	94,111	2,822,095	327,385	1,478,848	4,122,708	4,284,819	188,325,485
<단기대매금융자산>									
채무증권	7,089,987	-	-	-	-	-	9,488	-	7,079,455
금융채권	-	-	224,558	-	-	-	-	-	224,558
단기대매금융자산 소계	7,089,987	-	224,558	-	-	-	9,488	-	7,304,011
<대도가능금융자산>									
채무증권	19,235,558	179,082	-	37,005	4,021	416,632	29,889	131,323	20,033,289
<만기보유금융자산>									
채무증권	7,878,558	22,257	-	23,137	-	22,031	54,880	11,278	8,012,117
합계	217,653,019	2,817,255	713,581	2,785,797	349,408	2,222,238	5,932,859	4,609,710	237,083,885

<제182(전)기>

(단위: 백만원)									
구분	한국	미국	영국	일본	독일	네트남	중국	기타	합계
<예치금>									
은행	771,804	981,814	488,494	25,133	33,743	94,928	1,489,701	281,482	4,124,899
정부/공공기관/중앙은행	5,243,889	222,587	2,568	141,928	428	39,178	938	84,487	5,715,947
예치금 소계	8,015,693	1,184,181	489,062	167,061	34,189	134,104	1,490,637	325,969	9,840,848
<대출차권>									
은행	2,737,000	220,387	13,197	178,404	81,821	4,338	1,485,771	1,473,820	6,194,738
개인	79,247,913	230,170	1,567	226,804	2,672	30,824	23,551	221,352	79,984,883
주거용부동산담보대출	40,957,028	8,680	42	717	33	-	800	3,002	40,970,300
기타	38,290,887	221,480	1,525	226,087	2,639	30,824	22,751	218,350	39,014,583
정부/공공기관/중앙은행	3,393,605	-	-	-	-	-	-	-	3,393,605
기업	78,987,899	1,289,030	74,962	1,840,359	129,078	935,088	1,892,132	2,148,502	85,078,870
대기업	28,641,183	643,952	50,770	816,602	108,703	304,020	509,448	579,455	29,652,111
중소기업	48,579,918	590,784	24,212	823,757	22,363	593,438	1,382,688	974,972	50,992,108
특수금융	3,785,809	34,312	-	-	-	37,632	-	594,049	4,431,802
기타	809	2	-	-	12	-	-	28	849
카드차권	35,724	1,278	1	4	-	2,288	-	5	39,278
대출차권 소계	162,401,941	1,720,883	89,747	2,045,571	213,571	972,518	3,401,454	3,843,879	174,889,344
<단기매매금융자산>									
채무증권	8,473,993	-	-	-	-	-	-	-	8,473,993
금융채권	-	-	78,337	-	-	-	-	-	78,337
단기매매금융자산 소계	8,473,993	-	78,337	-	-	-	-	-	8,550,330
<매도가능금융자산>									
채무증권	20,417,289	299,227	-	-	13,375	373,080	5,108	124,718	21,232,753
<만기보유금융자산>									
채무증권	7,294,783	1,133	-	50,408	-	10,450	63,991	12,855	7,433,620
합계	202,603,848	3,205,404	655,148	2,283,040	281,115	1,480,132	4,981,188	4,307,219	219,748,893

(주) 지역별 구성내역은 미상각잔액과 대손충당금을 차감한 순장부금액입니다.

(8) 산업별 구성내역

당기말과 전기말 현재 보유 금융상품의 산업별 구성내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)									
구 분	금융 및 보험업	제조업	도매 및 소매업	부동산임대 및 사업서비스 업	건설업	숙박 및 음식 점업	기타	개인고객	합 계
<예치금>									
은행	2,639,368	-	-	-	-	-	989,262	-	3,708,630
정부/공공기관/중앙은행	9,928,599	-	-	-	-	-	751,745	-	9,680,344
예치금 소계	11,787,967	-	-	-	-	-	1,621,007	-	13,368,974
<대출차권>									
은행	4,570,392	2,248	-	187,727	-	-	981,406	-	5,621,771
개인	-	-	-	-	-	-	-	87,640,888	87,640,888
주거용부동산 담보대출	-	-	-	-	-	-	-	43,071,985	43,071,985
기타	-	-	-	-	-	-	-	44,568,901	44,568,901
정부/공공기관/중앙은행	2,289,877	-	-	-	-	-	-	-	2,289,877
기업	2,231,885	35,173,585	12,923,930	16,298,477	2,664,928	4,387,981	19,088,348	-	92,768,932
대기업	1,091,808	17,542,053	3,924,838	895,347	981,955	278,414	6,611,354	-	31,325,787
중소기업	533,255	17,820,508	8,992,678	14,344,971	1,298,174	4,068,368	10,614,890	-	57,472,842
특수금융	608,621	10,460	6,348	1,058,148	384,799	41,199	1,881,875	-	3,987,248
기타	1	564	70	11	-	2	427	-	1,075
카드차권	-	-	-	-	-	-	-	25,999	25,999
대출차권 소계	9,071,954	35,175,831	12,923,930	16,484,204	2,664,928	4,387,981	19,949,752	87,668,885	189,325,465
<단기매매금융자산>									
채무증권	3,811,135	421,339	410,838	644,759	70,890	19,871	1,701,023	-	7,079,455
금융채권	224,558	-	-	-	-	-	-	-	224,558
단기매매금융자산 소계	4,035,691	421,339	410,838	644,759	70,890	19,871	1,701,023	-	7,304,011
<매도가능금융자산>									
채무증권	14,477,248	829,423	102,048	624,394	201,711	-	3,798,473	-	20,033,298
<만기보유금융자산>									
채무증권	1,915,185	49,915	-	92,228	124,932	-	5,829,879	-	8,012,117
합 계	41,283,025	38,478,508	13,438,817	17,845,583	3,062,261	4,407,852	32,900,134	87,668,885	237,083,865

<제182(전)기>

(단위: 백만원)									
구분	금융 및 보험업	제조업	도매 및 소매업	부동산임대 및 사업서비스업	건설업	숙박 및 음식 접접	기타	개인고객	합계
<예치금>									
은행	2,782,750	-	-	-	-	-	1,382,149	-	4,124,899
정부/공공기관/중앙은행	5,533,916	-	-	-	-	-	182,031	-	5,715,947
예치금 소계	8,298,666	-	-	-	-	-	1,544,180	-	9,840,846
<대출차권>									
은행	5,489,752	-	-	114,097	-	-	610,949	-	6,194,798
개인	-	-	-	-	-	-	-	79,964,853	79,964,853
주거용부동산 담보대출	-	-	-	-	-	-	-	40,970,300	40,970,300
기타	-	-	-	-	-	-	-	39,014,553	39,014,553
정부/공공기관/중앙은행	3,378,216	-	-	-	-	-	17,389	-	3,395,605
기업	1,904,015	31,347,060	12,047,979	14,538,327	2,788,238	4,049,998	18,403,255	-	85,078,870
대기업	888,223	18,588,810	3,778,308	708,214	1,168,891	218,103	8,327,782	-	29,652,111
중소기업	588,503	14,771,079	8,271,507	12,558,484	1,257,208	3,804,531	9,784,817	-	50,992,108
특수금융	448,289	9,034	-	1,273,615	382,137	27,381	2,310,368	-	4,431,802
기타	-	338	164	34	-	3	310	-	849
카드차권	-	-	-	-	-	-	-	39,278	39,278
대출차권 소계	10,748,963	31,347,060	12,047,979	14,852,384	2,788,238	4,049,998	19,031,593	80,024,131	174,889,344
<단기대매금융자산>									
채무증권	3,535,678	803,954	228,178	538,200	103,987	9,682	1,458,358	-	6,473,993
금융채권	78,337	-	-	-	-	-	-	-	78,337
단기대매금융자산 소계	3,612,013	803,954	228,178	538,200	103,987	9,682	1,458,358	-	6,550,330
<대도가능금융자산>									
채무증권	15,287,484	755,954	110,571	844,288	225,948	20,124	4,208,404	-	21,232,753
<만기보유금융자산>									
채무증권	2,140,945	28,448	-	188,702	164,978	-	4,932,547	-	7,433,620
합계	40,087,091	32,733,418	12,368,728	18,001,534	3,281,129	4,079,794	31,173,082	80,024,131	219,748,893

(주) 산업별 구성내역은 미상각잔액과 대손충당금을 차감한 순장부금액입니다.

3-2. 시장위험

시장위험은 금리, 주가, 환율 등과 같은 시장가격의 변동으로 인해 발생할 수 있는 손실 위험을 의미합니다. 연결실체는 단기매매차익 획득을 목적으로 보유하는 유가증권, 외환포지션, 파생금융상품 등을 트레이딩포지션으로 관리하고 여신, 예치금 및 단기매매차익 획득 목적을 제외한 채무증권 등으로 구성된 금리민감 자산과 수신, 차입금, 사채 등으로 구성된 금리민감 부채, 금리 위험을 회피하고자 위험회피수단으로 사용하는 금리민감 파생상품을 비트레이딩 포지션으로 관리하고 있습니다.

연결실체는 리스크정책위원회에서 시장위험 관리에 관한 정책수립과 한도설정 등 의사결정 기능을 수행하며, 리스크총괄부는 전행의 운용부서 및 데스크에 대한 종합적인 시장위험관리를 수행하고 리스크공학부는 시장리스크시스템관리 및 Middle Office 기능을 수행하고 있습니다.

시장위험 관리의 기본은 시장위험으로 인한 최대손실가능액을 일정수준 이내로 유지하기 위한 한도관리입니다. 리스크정책위원회는 운용부서 및 데스크별 VaR한도, 손실한도, 민감도한도, 투자한도 및 포지션한도, 스트레스손실한도 등을 설정하여 운영하고 있으며, 리스크총괄부 및 리스크공학부는 운용부서와는 독립적으로 운영상황을 모니터링하며, 리스크정책위원회 및 리스크관리위원회에 정기적으로 보고하고 있습니다. 또한 공정가액평가협의회는 각 사업부문의 신상품(또는 거래)이 시행되기 이전에 공정가액 평가방법에 대한 검토 및 리스크 평가 등을 수행하고, 파생상품 및 구조화상품 리스크리뷰협의회에서는 리스크요인에 대한 점검, 투자규모 제한을 검토하는 등 합리적 의사결정을 지원하여 사전에 리스크요인에 대한 객관적인 분석 및 검토가 이루어지도록 하고 있습니다.

(1) 트레이딩 포지션의 시장위험 관리

트레이딩 포지션의 시장위험 측정대상인 외환, 주식, 채권, 파생상품 거래데이터는 Front시스템에 거래를 입력하여 관리하고, 시장리스크관리시스템(RiskWatch)으로 자동 인터페이스하여 일별 리스크측정 및 한도관리를 수행하고 있습니다. 또한 통계적 방법에 의한 리스크 측정을 보완하고, 경제환경의 급격한 변화에서의 영향도 및 손실규모를 관리하기 위하여 정기적으로 Stress testing을 병행하여 실시하고 있으며, 이를 통해 연결실체의 위기상황시 손실규모가 일정범위 이내로 관리되도록 하고 있습니다.

1) 트레이딩 포지션에서 발생하는 시장위험의 측정방법

연결실체는 트레이딩 포지션에 노출된 금리, 주가, 환율 등의 각 위험에 대하여 역사적 시뮬레이션 VaR(Value at Risk) 방법론을 적용하여 99.9% 신뢰구간에서 시장위험을 산출합니다. VaR는 반대의 시장 상황으로부터 현재 포지션에 대한 잠재적인 손실의 통계적 평가를 기초로 하고 있습니다. 이는 99.9%의 확신의 수준에서 연결실체의 발생가능한 최대손실금액을 표현하고 있습니다. 그러므로 실제 손실이 VaR의 측정치보다 더 클 수 있는 통계적인 가능성(0.1%)이 존재합니다.

VaR 모델은 측정시점의 일별 포지션은 유지가 됨과 동시에 각 측정시점으로부터 과거 10일간의 시장 움직임이 향후에도 지속될 것이라는 가정에 따라 예상손실을 측정하고 있습니다.

과거 움직임에 대한 연결실체의 평가는 과거 5년간의 데이터를 기초로 하고 있고, 현재 포지션에서 금리, 주가, 환율, 옵션변동성의 역사적 변화를 직접적으로 적용하는 역사적인 시뮬레이션 방법을 사용하고 있습니다. 또한 VaR 계산상에서 사용되는 가정과 매개변수의 유효성을 테스트하는 것을 정기적으로 모니터링하고 있으며, 이 방법의 적용은 더 큰 시장 움직임에 대한 현상의 한계의 범위를 넘어서는 손실을 예방하지는 않습니다.

연결실체의 VaR 한도는 매년 리스크관리위원회에서 의해 설정하며, 이 한도에 대한 실제 노출은 매일 검토합니다. VaR 모델의 품질은 VaR 결과에 대한 사후 검증에 의하여 계속적으로 모니터링하고 있고, 모든 사후검증 결과를 이사회에 보고합니다.

2) 트레이딩 포지션의 VaR

연결실체가 보유중인 트레이딩 포지션에 대한 보고기간 중 최소, 최대, 평균 VaR 및 보고기간 말의 VaR의 내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)				
구 분	평균	최대	최소	기말
금리위험	17,302	25,863	8,721	13,414
주가위험	4,333	7,362	2,493	3,442
환율위험(주)	43,872	54,355	34,928	49,372
옵션변동성위험	161	259	66	66
분산효과	(18,668)	(32,344)	(5,246)	(13,268)
Total VaR	47,000	55,495	40,962	53,026

<제182(전)기>

(단위: 백만원)				
구 분	평균	최대	최소	전기말
금리위험	21,604	28,670	14,413	25,136
주가위험	5,677	13,250	2,737	7,341
환율위험(주)	45,176	50,933	41,554	43,993
옵션변동성위험	278	350	198	208
분산효과	(25,837)	(40,931)	(18,457)	(27,001)
Total VaR	46,898	52,272	40,445	49,677

(주) 트레이딩 포지션 및 비트레이딩 포지션을 포함한 금액입니다.

(2) 비트레이딩 포지션의 시장위험 관리

비트레이딩 포지션에서 발생하는 가장 주요한 시장위험은 금리위험입니다. 그러므로 비트레이딩 포지션의 시장위험은 시장금리의 변동으로 인해 순자산 가치 및 순이자 이익이 변동하는 위험으로 측정됩니다.

연결실체는 리스크정책위원회에서 금리위험관리에 관한 정책수립과 세부한도설정 등 의사결정기능을 수행하며, 동 원칙 및 한도내에서 국외점포를 비롯한 자회사 및 자금부, 신탁부, 중금시장부 등 계정별 관리부서는 1차적으로 금리위험을 인식하고 관리합니다. 리스크총괄부 및 리스크공학부는 리스크정책위원회의 금리위험관련 의사결정을 지원하고 금리위험 허용한도 초과여부를 모니터링하며 회사 전체의 금리위험을 평가하고 관리합니다.

연결실체는 ALM시스템(OFSA)을 통해 금리갭, 듀레이션갭, 시나리오별 NII(Net Interest Income)시뮬레이션 등 다양한 분석방법을 이용하여 금리리스크를 측정 및 관리하고 있으며, 금리VaR, 금리EaR, 금리갭비율에 대해서는 한도를 설정하여 월별로 모니터링하고 있습니다. 또한 Stress testing을 통하여 다양한 위기상황에서 금리리스크에 미치는 영향을 평가하고 있습니다.

1) 비드레이딩 포지션에서 발생하는 시장위험의 측정방법

연결실체는 역사적인 금리시나리오에 의하여 발생하는 순자산가치의 변동분포를 파악하여 향후 1년간의 최대손실 예상액인 금리 VaR(Value at Risk)를 확률론적으로 평가·관리합니다. 또한, 자금량 시나리오를 바탕으로 하여, 과거 기준금리와 연평균 금리와의 변동성을 활용한 역사적인 금리시나리오에 의해 발생하는 순이자이익의 변동분포를 파악하여 향후 1년간의 최대 순이자이익 감소 예상액인 금리 EaR(Earnings at Risk)을 확률론적으로 평가·관리합니다.

또한 국제결제은행(BIS)에서 제시한 표준방법론에 따라, 만기구간별 표준 수정듀레이션 및 금리변동성을 이용하여 금리 VaR를 산출하고, 만기구간별 충격기간 및 금리변동성을 이용하여 금리 EaR을 산출하고 있습니다.

2) 비드레이딩 포지션의 금리VaR 및 금리EaR

당기말과 전기말 현재 BIS에서 제시한 표준방법론에 따라 산출된 비드레이딩 포지션에 대한 금리VaR 및 금리EaR 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
금리VaR	695,044	415,700
금리EaR	313,619	356,453

(3) 외환위험

연결실체는 해외현지법인 및 구조화기업 등 연결대상의 현물, 선물 외환포지션을 모두 포함한 종합포지션에 기반하여 환위험을 관리하고 있습니다. 리스크정책위원회는 시장리스크 한도를 기반으로 부서별, 데스크별 외환포지션한도 등을 설정하여, 각 영업단위별로 트레이딩 및 비트레이딩 활동에서의 환위험을 관리 및 감독하고 있습니다. 연결실체의 금융공학센터에서 전행의 환포지션을 집중하여 관리하고 있습니다. 동 부서의 데스크 및 딜러들은 설정된 시장리스크 및 외환포지션 한도내에서 현물환과 통화파생상품 거래를 통하여 종합포지션을 관리합니다. 주로 미국 달러(USD), 일본 엔화(JPY), 유로화(EUR), 중국 위안화(CNY) 위주로 거래되고 있으며, 기타 외환은 제한적으로 운용합니다.

당기말과 전기말 현재 외화자산·부채의 통화별 구성내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)						
구분	USD	JPY	EUR	CNY	기타	합계
<자 산>						
현금및예치금	1,554,830	796,296	96,725	1,687,069	677,811	4,812,731
단기대금융자산	-	-	-	-	224,556	224,556
파생상품자산	126,925	100	5,205	1,418	158	133,806
대출채권	14,237,836	4,218,682	929,165	2,304,384	2,345,771	24,035,838
매도가능금융자산	879,538	41,160	4,143	-	536,891	1,461,732
만기보유금융자산	73	180,191	-	51,180	38,326	269,770
기타금융자산	1,796,229	213,903	33,864	279,412	116,841	2,440,249
자산 합계	18,565,431	5,450,332	1,069,102	4,323,463	3,940,354	33,378,682
<부 채>						
예수부채	7,314,969	4,548,496	344,351	3,004,043	2,322,394	17,534,253
단기대금융부채	-	-	-	-	428,936	428,936
파생상품부채	68,522	72,628	366	916	77	142,509
차입부채	5,225,496	261,139	511,723	387,367	261,129	6,646,852
사채	3,069,650	585,209	-	-	389,648	4,044,507
기타금융부채	1,908,888	129,655	103,272	436,379	182,812	2,761,006
부채 합계	17,587,524	5,597,127	969,712	3,828,705	3,584,986	31,568,063
순자산계정	1,007,907	(146,795)	109,390	494,758	355,359	1,820,619
난외 파생상품 노출액	(418,456)	136,614	(41,968)	(117,920)	136,402	(305,318)
외화 순 노출액	589,451	(10,181)	67,432	376,838	491,761	1,515,301

<제182(전)기>

(단위: 백만원)						
구 분	USD	JPY	EUR	CNY	기타	합 계
<자 산>						
현금및예치금	2,188,833	1,233,478	85,314	1,460,395	436,166	5,404,186
단기대매금융자산	-	-	-	-	76,337	76,337
파생상품자산	188,330	34	7,864	397	1,871	198,496
대출채권	11,393,740	4,075,431	1,088,485	1,777,469	2,045,999	20,381,124
매도가능금융자산	855,333	6,399	13,508	5,106	522,868	1,403,214
만기보유금융자산	1,133	294,027	-	63,991	28,251	387,402
기타금융자산	1,305,838	348,469	105,359	43,322	112,102	1,915,090
자산 합계	15,933,207	5,957,838	1,300,530	3,350,680	3,223,594	29,765,849
<부 채>						
예수부채	6,428,513	5,279,307	312,076	2,492,749	1,811,457	16,324,102
단기대매금융부채	-	-	-	-	398,596	398,596
파생상품부채	130,605	46,114	-	2,901	1,862	181,482
차입부채	4,072,632	420,004	505,242	228,988	221,460	5,448,326
사채	2,534,654	653,029	-	104,292	507,813	3,799,788
기타금융부채	1,108,073	309,024	374,696	170,065	318,366	2,280,224
부채 합계	14,274,477	6,707,478	1,192,014	2,998,995	3,259,554	28,432,518
순자산계정	1,658,730	(749,640)	108,516	351,685	(35,960)	1,333,331
내외 파생상품 노출액	(968,171)	756,302	(113,311)	52,451	301,954	39,225
외화 순 노출액	700,559	6,662	(4,795)	404,136	265,994	1,372,556

3-3. 유동성위험

연결실체는 리스크정책위원회에서 유동성위험관리에 관한 정책수립과 세부한도설정 등 의사결정 기능을 수행하며, 동 원칙과 한도 내에서 국외점포를 비롯한 자회사, 자금부, 신탁부, 중금시장부 등 계정별 관리부서가 1차적으로 유동성위험을 인식하고 관리합니다. 리스크총괄부와 리스크공학부는 리스크정책위원회의 유동성위험 관련 의사결정을 지원하고 유동성위험 허용한도를 모니터링하며 은행전체 유동성위험을 평가·관리합니다.

연결실체는 다음의 기본 원칙에 따라 유동성위험을 관리하고 있습니다.

- 1) 충분한 양의 자금을 필요한 시점에, 적절한 수준의 조달비용으로 조달
- 2) 허용한도 및 조기경보지표 관리를 통하여 위험을 적정수준으로 유지하고, 관련 위험 요인을 사전에 관리
- 3) 자금의 조달원천과 만기를 효과적으로 분산시킬 수 있는 자금조달전략을 수립하여 손실을 최소화하고 안정적으로 수익확보
- 4) 정상적인 상황 및 위기상황 하에서 적시에 지급결제 채무를 이행할 수 있도록 매일 일중 유동성 포지션 및 위험 관리
- 5) 유동성위기 발생에 대비하여 위기상황분석을 정기적으로 실시하고, 위기발생시 조치할 수 있는 비상조달계획을 수립
- 6) 유동성 관련 비용, 편익 및 위험은 상품가격결정, 성과평가 및 신상품 승인절차에 반영

연결실체는 ALM시스템을 통해 유동성갭, 유동성비율, 예대율, 고객행동모형을 반영한 실질유동성갭 등 다양한 분석방법을 이용하는 한편, 리스크한도, 조기경보지표, 모니터링지표 등 다양한 관리지표를 통하여 원화 및 외화 유동성리스크를 관리하고 있습니다. 자산과 부채의 만기구조 분석시 요구불예금의 경우는 고객의 지급요청시 언제든지 인출이 가능하여 최단기로 분류할 수 있으나, 평상시에는 일정비율의 평잔을 유지하는 고객의 행동을 감안하여 비핵심예금을 최단기로 구분하여 유동성위험을 관리합니다.

(1) 금융상품의 잔존기간

당기말과 전기말 현재 금융상품자산과 금융상품부채의 잔존기간별 구성내역은 다음과 같습니다.

<제183(당기)>

(단위: 백만원)							
구 분	1월이하	1월~3월	3월~6월	6월~1년	1년~5년	5년초과	합 계
<자산>							
현금및예치금	14,403,578	751,788	414,544	309,024	35,555	-	15,914,487
단기대매금융자산	8,318,341	-	-	-	-	-	8,318,341
파생금융상품자산	1,299,123	284,459	85,088	120,409	255,611	50,797	2,075,484
대출차권	19,077,637	23,948,375	30,703,857	48,783,278	45,082,527	48,401,285	211,994,957
매도가능금융자산	21,518,374	-	-	-	-	845,238	22,363,612
만기보유금융자산	128,238	545,928	287,173	975,791	8,183,284	1,079,096	9,157,488
기타금융자산	4,791,485	-	-	-	3,345,138	-	8,136,623
자산 합계	69,532,774	25,508,528	31,470,840	48,188,499	54,882,095	48,376,418	277,958,952
<부채>							
당기손익인식지정금융부채	-	-	-	-	6,478	-	6,478
예수부채	90,800,157	22,009,320	27,033,455	41,581,709	11,221,657	3,652,814	196,099,112
단기대매금융부채	428,938	-	-	-	-	-	428,938
파생금융상품부채	1,230,421	24,644	27,272	58,291	350,109	433,058	2,121,795
차입부채	4,322,011	1,842,747	1,717,988	1,487,282	3,102,383	548,389	13,030,740
사채	344,793	1,445,809	2,195,328	3,898,623	8,396,824	2,173,506	18,454,881
기타금융부채	13,523,535	-	-	-	120,008	-	13,643,541
부채 합계	110,448,853	25,322,520	30,974,021	47,033,885	23,197,437	6,807,787	243,785,483

<제182(전)기>

(단위: 백만원)							
구 분	1월이하	1월~3월	3월~6월	6월~1년	1년~5년	5년초과	합 계
<자산>							
현금및예치금	11,042,109	568,948	489,874	323,294	20,381	-	12,484,584
단기대매금융자산	7,519,785	-	-	-	-	-	7,519,785
파생금융상품자산	1,423,032	308,028	80,241	123,385	888,459	738,877	3,318,000
대출채권	19,895,885	22,801,117	27,932,844	42,578,198	43,359,022	42,459,831	198,624,485
매도가능금융자산	22,589,081	-	-	-	-	1,524,005	24,093,086
만기보유금융자산	152,983	840,028	185,153	1,850,112	5,408,412	258,489	8,493,127
기타금융자산	3,337,429	-	-	-	3,838,710	-	7,028,139
자산 합계	65,740,284	24,338,117	28,687,912	44,872,987	53,140,984	44,978,972	281,539,196
<부채>							
예수부채	79,794,983	20,255,842	25,318,878	42,643,541	10,509,105	2,884,199	181,384,346
단기대매금융부채	398,598	-	-	-	-	-	398,598
파생상품부채	1,289,890	46,717	42,157	84,830	379,475	418,179	2,219,048
차입부채	2,883,188	1,418,140	1,675,192	1,348,509	2,898,970	486,252	10,319,231
사채	591,117	1,533,444	1,788,509	2,587,889	9,524,727	4,842,838	20,848,104
기타금융부채	11,935,298	-	-	-	138,934	-	12,074,232
부채 합계	96,672,852	23,254,143	28,802,534	48,645,549	23,248,211	8,419,288	227,043,557

(주1) 표시된 금액은 금융상품자산 및 금융상품부채의 현금 및 이자 현금흐름을 모두 포함하고 있습니다.

(주2) 확인되지 않은 현금흐름을 기초로 연결실체의 지급의무가 발생하는 가장 빠른 만기일로 분류하였습니다. 즉시 처분가능한 단기대매 금융상품과 처분제한된 자산을 제외한 매도가능금융자산은 1개월 이내 최단기로 분류하였습니다.

(2) 난외항목의 잔존기간

연결실체가 제공한 사채발행, 융자담보 등 금융보증에 해당하는 지급보증, 대출약정 및 기타 신용 공여의 경우 약정 만기가 존재하나, 거래 상대방이 지급을 요청하는 경우 즉시 지급을 이행하여야 합니다.

당기말과 전기말 현재 관련 난외항목의 구성 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
금융보증	3,069,507	2,392,517
대출약정 및 기타 신용관련 부채	73,608,486	74,158,883
합 계	76,677,993	76,551,400

3-4. 금융상품의 공정가치 측정

활성시장에서 거래되는 금융상품의 공정가치는 보고기간종료일 현재 고시되는 시장 가격에 기초하여 산정됩니다. 연결실체가 보유하고 있는 금융자산의 공시되는 시장 가격은 매매중개기관의 공시가격에 기초합니다.

활성시장에서 거래되지 아니하는 금융상품(예: 장외파생상품)의 공정가치는 평가기법을 사용하여 결정하거나, 독립적인 외부전문평가기관의 평가결과를 이용합니다.

연결실체는 다양한 평가기법을 활용하고 있으며 보고기간종료일에 현재 시장상황에 근거하여 합리적인 가정을 수립하고 있습니다.

연결실체가 사용하는 공정가치 평가기법은 합리적인 판단력과 거래의사가 있는 독립된 당사자 사이의 최근 거래를 사용하는 방법, 실질적으로 동일한 다른 금융상품의 현행공정가치를 이용할 수 있다면 이를 참조하는 방법, 추정현금흐름할인방법, 옵션가격결정모형 등이 있습니다. 예를 들어 이자율 스왑의 공정가치는 미래예상현금흐름의 현재가치로 계산되며 외환선도계약의 공정가치는 보고기간말의 고시선도환율을 적용하여 산출합니다.

연결실체는 금융상품의 공정가치를 다음의 3가지 수준으로 분류하여 공시합니다.

- 수준 1: 활성시장에서 공시되는 가격을 공정가치로 측정하는 금융상품의 경우, 동 금융상품의 공정가치는 수준 1로 분류하고 있습니다.
- 수준 2: 평가기법을 사용하여 금융상품의 공정가치를 측정하는 경우, 유의적인 투입변수가 시장에서 관측한 정보에 기초한다면 동 금융상품의 공정가치는 수준 2로 분류하고 있습니다.
- 수준 3: 평가기법을 사용하여 금융상품의 공정가치를 측정하는 경우, 유의적인 투입변수가 시장에서 관측불가능한 정보에 기초한다면 동 금융상품의 공정가치는 수준 3으로 분류하고 있습니다.

(1) 공정가치로 측정하는 금융상품

1) 당기말과 전기말 현재 재무상태표에서 공정가치로 측정하는 금융상품의 공정가치
서열체계의 수준별 내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)					
구 분		수준 1	수준 2	수준 3	합 계
당기매매금융자산	채무증권	428,351	6,651,104	-	7,079,455
	지분증권	61,281	951,049	-	1,012,330
	금융채권	224,556	-	-	224,556
	소 계	714,188	7,602,153	-	8,316,341
파생상품자산	매매목적	-	1,174,220	17,673	1,191,893
	위험회피목적	-	55,930	61,271	117,201
	소 계	-	1,230,150	78,944	1,309,094
매도가능금융자산	채무증권	6,789,894	13,243,404	-	20,033,298
	지분증권	1,083,754	166,579	1,079,981	2,330,314
	소 계	7,873,648	13,409,983	1,079,981	22,363,612
자산 합계		8,587,836	22,242,286	1,158,925	31,989,047
당기손익인식지정금융부채	예수부채	-	-	6,139	6,139
당기매매금융부채	금융부채	428,936	-	-	428,936
파생상품부채	매매목적	-	1,199,547	5,668	1,205,215
	위험회피목적	-	22,460	28,763	51,223
	소 계	-	1,222,007	34,431	1,256,438
부채 합계		428,936	1,222,007	40,570	1,691,513

<제182(전)기>

(단위: 백만원)					
구 분		수준 1	수준 2	수준 3	합 계
단기대매금융자산	채무증권	384,481	6,089,512	-	6,473,993
	지분증권	58,761	910,674	-	969,435
	금융채권	76,337	-	-	76,337
	소 계	519,579	7,000,186	-	7,519,765
파생상품자산	매매목적	10	1,279,799	25,973	1,305,782
	위험회피목적	-	100,615	51,597	152,212
	소 계	10	1,380,414	77,570	1,457,994
매도가능금융자산	채무증권	6,716,965	14,515,788	-	21,232,753
	지분증권	1,661,792	103,697	1,094,844	2,860,333
	소 계	8,378,757	14,619,485	1,094,844	24,093,086
자산 합계		8,898,346	23,000,085	1,172,414	33,070,845
단기대매금융부채	금융수부채	398,596	-	-	398,596
	소 계	398,596	-	-	398,596
파생상품부채	매매목적	-	1,220,070	22,581	1,242,651
	위험회피목적	-	44,183	191,345	235,528
	소 계	-	1,264,253	213,926	1,478,179
부채 합계		398,596	1,264,253	213,926	1,876,775

2) 당기와 전기 중 공정가치로 측정하는 금융상품 중 수준 1과 수준 2 사이의 이동금액은 없습니다.

3) 공정가치 수준 3으로 분류된 금융상품의 내역

당기와 전기 중 공정가치 수준 3에 해당되는 금융상품 증감내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)				
구 분	매도가능금융자산	파생상품자산 (부채)	당기손익인식지정 금융부채	합 계
기초	1,094,844	(136,366)	-	958,488
총손익				
당기손익인식금액(주1)	(115,451)	166,918	32	51,499
기타포괄손익인식금액	112,403	-	-	112,403
매입/발행	168,797	368	(6,623)	162,542
결제	(204,177)	13,635	452	(190,090)
수준 3으로 이동(주2)	27,022	-	-	27,022
수준 3으로부터의 이동(주2)	(3,457)	(52)	-	(3,509)
기말	1,079,991	44,513	(6,139)	1,118,355

<제182(전)기>

(단위: 백만원)				
구 분	매도가능금융자산	파생상품자산 (부채)	당기손익인식지정 금융부채	합 계
기초	1,353,163	21,182	-	1,374,345
총손익				
당기손익인식금액(주1)	(65,150)	(153,246)	-	(218,396)
기타포괄손익인식금액	67,072	-	-	67,072
매입/발행	115,563	(1,729)	-	113,834
결제	(215,177)	(2,563)	-	(217,740)
수준 3으로 이동(주2)	158,450	-	-	158,450
수준 3으로부터의 이동(주2)	(319,077)	-	-	(319,077)
기말	1,094,844	(136,366)	-	958,488

(주1) 당기와 전기 중 공정가치 수준 3으로 분류된 금융상품의 증감내역 중 당기손익으로 인식된 금액과 보고기간 말 현재 보유하고 있는 금융상품 관련 당기손익 인식액은 포괄손익계산서 상 다음과 같은 개별항목으로 표시되고 있습니다.

구분	(단위: 백만원)			
	제183(당)기		제182(전)기	
	당기손익 인식금액	보고기간말 보유 금융상품관련 당기손익 인식액	당기손익 인식금액	보고기간말 보유 금융상품관련 당기손익 인식액
당기매매금융상품관련손익	11,712	11,712	1,916	1,916
당기손익인식지정금융상품관련손익	32	32	-	-
매도가능금융자산처분손익	24,625	-	45,868	-
금융상품자산손실차손	(140,076)	(140,003)	(111,018)	(109,998)
기타영업손익	155,206	155,206	(155,162)	(155,162)
합계	51,499	26,947	(218,396)	(263,244)

(주2) 해당 금융상품에 대한 판측가능한 시장 자료의 이용가능여부가 변경됨에 따라 수준간 이동이 발생하였습니다. 연결실체는 수준 간 이동을 발생시키는 사건이나 상황의 변동이 일어난 보고기간말에 수준의 변동을 인식합니다.

4) 공정가치 평가방법 및 투입변수

① 당기말과 전기말 현재 공정가치 수준 2로 분류된 금융상품의 공정가치 측정시 사용된 평가방법과 투입변수는 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)					
구 분		제183(당)기	제182(전)기	평가방법	투입변수
단기대금결제자산	채무증권	6,661,104	6,089,512	현금흐름할인모형	할인율
	지분증권	961,049	910,674	순자산가치평가	주식, 채권 등 기초자산 가격
	소 계	7,602,153	7,000,186		
파생상품자산	대대목적	1,174,220	1,279,799	옵션모형	할인율, 환율, 변동성,
	위험회피목적	55,930	100,615	현금흐름할인모형	주가 및 상품지수 등
	소 계	1,230,150	1,380,414		
대대금융자산	채무증권	13,243,404	14,515,788	현금흐름할인모형	할인율
	지분증권	166,579	103,697	순자산가치평가	주식, 채권 등 기초자산 가격
	소 계	13,409,983	14,619,485		
자산 합계		22,242,298	23,000,085		
파생상품부채	대대목적	1,199,547	1,220,070	옵션모형	할인율, 환율, 변동성,
	위험회피목적	22,480	44,183	현금흐름할인모형	주가 및 상품지수 등
	소 계	1,222,027	1,264,253		
부채 합계		1,222,027	1,264,253		

② 당기말과 전기말 현재 공정가치 수준 3으로 분류된 금융상품의 공정가치 측정시 사용된 평가기법 및 유의적이지만 관측가능하지 않은 투입변수는 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)					
금융상품	가치평가기법	종류	장부금액	유의적이지만 관측가능하지 않은 투입변수	범위
파생상품자산	옵션모형(주)	주식 및 환율관련	13,819	기초자산의 변동성 상관계수	4.79%~32.73 (0.06%)
	옵션모형(주)	이자율관련	65,125	기초자산의 변동성 회귀계수 상관계수	0.16%~0.64% 0.00%~3.02% 12.16%~41.70%
	소 계		78,944		
매도가능금융자산	할인된 현금흐름	지분증권	1,079,981	할인율 성장률	2.29%~17.84% 0.00%~2.5%
자산 합계			1,158,925		
당기손익인식지정 금융부채	옵션모형(주)	주식관련	6,139	기초자산의 변동성 상관계수	22.08%~28.19% 34.00%
파생상품부채	옵션모형(주)	주식 및 환율관련	1,854	기초자산의 변동성 상관계수	6.48%~35.57% (0.06%)~0.23%
	옵션모형(주)	이자율관련	32,577	기초자산의 변동성 회귀계수 상관계수	0.16%~0.64% 0.00%~3.02% 12.16%~41.70%
	소 계		34,431		
부채 합계			40,570		

(주) 파생상품 공정가치를 측정하기 위해 적용된 옵션모형은 Black-Scholes 모델, Hull-White 모델 등을 포함하고 있으며, 상품 유형에 따라 일부 상품에 대해서는 몬테카를로 시뮬레이션(Monte Carlo simulation) 등의 방법을 적용하고 있습니다.

<제182(전)기>

(단위: 백만원)					
금융상품	가치평가방법	종류	장부금액	유의적이지만 관측가능하지 않은 투입변수	범위
파생상품자산	옵션모형(주)	주식 및 환율관련	9,485	기초자산의 변동성 상관계수	5.63%~24.61% (34.85%) ~ (39.25%)
	옵션모형(주)	이자율관련	68,075	기초자산의 변동성 회귀계수 상관계수	0.44%~0.45% 0.02%~2.05% 61.19%
	소 계		77,570		
매도가능금융자산	할인된 현금흐름 등	자본증권	1,094,844	할인율 성장률	2.86%~26.61% 0.00%
자산 합계			1,172,414		
파생상품부채	옵션모형(주)	주식관련	802	기초자산의 변동성 상관계수	5.63%~24.61% (34.85%) ~ (39.25%)
	옵션모형(주)	이자율관련	213,124	기초자산의 변동성 회귀계수 상관계수	0.22%~0.51% 0.00%~5.12% 27.02%~94.6%
	소 계		213,926		
부채 합계			213,926		

(주) 파생상품 공정가치를 측정하기 위해 적용된 옵션모형은 Black-Scholes 모델, Hull-White 모델 등을 포함하고 있으며, 상품 유형에 따라 일부 상품에 대해서는 몬테카를로 시뮬레이션(Monte Carlo simulation) 등의 방법을 적용하고 있습니다.

5) 관측가능하지 않은 투입변수의 변경에 대한 민감도

당기말과 전기말 현재 수준 3으로 분류된 금융상품의 공정가치 측정시 관측가능하지 않은 투입변수를 합리적으로 대체가능한 다른 투입변수로 변경하는 경우 당기손익 또는 기타포괄손익 등으로 인식되는 변동의 효과는 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)					
금융상품 종류		당기손익		기타포괄손익	
		유리한 변동	불리한 변동	유리한 변동	불리한 변동
파생상품자산(주1)	주식 및 환율관련	430	(329)	-	-
	이자율관련	7,129	(12,929)	-	-
매도가능금융자산(주2)	지분증권	-	-	157,385	(37,118)
자산 합계		7,559	(13,258)	157,385	(37,118)
당기손익인식지정 금융부채(주1)	주식관련	5	(5)	-	-
파생상품부채(주1)	주식 및 환율관련	97	(113)	-	-
	이자율관련	6,863	(6,275)	-	-
부채 합계		6,965	(6,393)	-	-

<제182(전)기>

(단위: 백만원)					
금융상품 종류		당기손익		기타포괄손익	
		유리한 변동	불리한 변동	유리한 변동	불리한 변동
파생상품자산(주1)	주식 및 환율관련	165	(44)	-	-
	이자율관련	1,721	(1,848)	-	-
매도가능금융자산(주2)	지분증권	-	-	125,037	(42,633)
자산 합계		1,886	(1,892)	125,037	(42,633)
파생상품부채(주1)	주식 및 환율관련	44	(165)	-	-
	이자율관련	15,062	(14,377)	-	-
부채 합계		15,106	(14,542)	-	-

- (주1) 주요 관측불가능한 투입변수의 기초자산의 변동성 또는 상관계수 등을 10%포인트를 증가 또는 감소시킴으로써 공정 가치 변동을 산출하고 있습니다.
- (주2) 주요 관측불가능한 투입변수의 성장률(0%~1%)과 할인율(-1%~1%)을 증가 또는 감소시킴으로써 공정가치 변동을 산출하고 있습니다.

(2) 상각후원가로 측정하는 금융상품

1) 상각후원가로 측정하는 금융상품의 공정가치 산출 방법은 다음과 같습니다.

계정과목	공정가치 산출 방법
현금및예치금	현금은 장부금액과 공정가치가 동일하며 예치금은 변동이자율 예치금과, 초단기성인 익일 예치금이 대부분이므로 공정가치의 대용치로 장부금액을 사용하였습니다.
대출채권	대출채권의 공정가치는 수취할 것으로 예상되는 기대 현금흐름을 시장이자율과 차주의 신용위험 등을 고려한 할인율로 할인하여 산출하였습니다.
만기보유금융자산	한국자산평가(주), KS채권평가(주)가 제공하는 최근거래일의 기준단가 중 작은값을 공정가치로 산출하였습니다.
예수부채 및 차입부채	요구불예수부채, 어음관리계좌수탁금, 콜머니는 초단기성 부채로 장부금액을 공정가치로 평가하였으며, 나머지 예수부채와 차입부채는 계약상 현금흐름을 시장이자율에 잔여위험을 고려한 할인율로 할인한 현재가치를 공정가치로 산출하였습니다.
사 채	활성시장 가격을 기초로 하고 있습니다. 활성시장 가격이 유효하지 않는 경우, 계약상 현금흐름을 시장이자율에 잔여위험을 고려한 할인율로 할인한 현재가치를 공정가치로 산출하였습니다.

2) 당기말과 전기말 현재 상각후원가로 측정하는 금융상품의 장부금액과 공정가치는 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

계정 과 목		(단위: 백만원)			
		장부금액			공정가치
		잔액	미상각잔액	충당금	
현금및예치금	현금	2,471,103	-	-	2,471,103
	예치금	13,412,669	-	(23,695)	13,388,974
	소 계	15,883,772	-	(23,695)	15,860,077
대출채권	가계대출	80,221,735	235,085	(209,684)	80,247,136
	기업대출	102,638,114	31,773	(1,347,043)	101,322,844
	공공및기타자금대출	2,092,730	1,361	(11,073)	2,083,018
	은행간자금대출	4,657,991	-	(11,524)	4,646,467
	카드채권	26,347	-	(347)	26,000
	소 계	189,636,917	268,219	(1,579,671)	188,325,465
만기보유금융자산	국공채	5,149,408	-	-	5,149,408
	금융채	501,452	-	-	501,452
	회사채	2,361,257	-	-	2,361,257
	소 계	8,012,117	-	-	8,012,117
기타금융자산		8,136,623	(54,894)	(62,177)	8,019,552
자산 합계		221,669,429	213,325	(1,665,543)	220,217,211
예수부채	요구불예수부채	68,342,432	-	-	68,342,432
	기한불예수부채	114,192,938	-	-	114,192,938
	양도성예금증서	2,145,645	-	-	2,145,645
	발행어음예수부채	3,241,082	-	-	3,241,082
	어음관리계좌수탁금	1,682,610	-	-	1,682,610
	기타	35,165	-	-	35,165
	소 계	189,639,872	-	-	189,639,872
차입부채	클러니	1,782,736	-	-	1,782,736
	매출어음	31,059	-	-	31,059
	환매조건부채권매도	376,709	-	-	376,709
	차입부채	10,536,642	(1,504)	-	10,535,138
	외화수탁금	77,179	-	-	77,179
	소 계	12,804,325	(1,504)	-	12,802,821
사채	원화사채	12,576,406	(26,825)	-	12,549,581
	외화사채	4,044,507	(12,680)	-	4,031,827
	소 계	16,620,913	(39,505)	-	16,581,408
기타금융부채		13,675,982	(2,296)	-	13,673,686
부채 합계		232,741,092	(43,305)	-	232,697,787

<제182(전)기>

(단위: 백만원)						
계정과목		장부금액				공정가치
		잔액	미상각잔액	충당금	합계	
현금및예치금	현금	2,589,117	-	-	2,589,117	2,589,117
	예치금	9,852,490	-	(11,644)	9,840,846	9,840,846
	소계	12,441,607	-	(11,644)	12,429,963	12,429,963
대출채권	가계대출	73,031,842	189,106	(193,242)	73,027,706	72,909,139
	기업대출	94,415,522	62,406	(1,399,472)	93,078,456	94,132,989
	공공및기타자금대출	2,479,154	1,778	(10,304)	2,470,628	2,484,788
	은행간자금대출	6,078,034	-	(4,758)	6,073,276	6,081,699
	카드채권	39,531	-	(253)	39,278	39,531
	소계	176,044,083	253,290	(1,608,029)	174,689,344	175,648,146
만기보유금융자산	국공채	4,259,467	-	-	4,259,467	4,447,334
	금융채	653,277	-	-	653,277	659,748
	회사채	2,520,876	-	-	2,520,876	2,561,070
	소계	7,433,620	-	-	7,433,620	7,668,152
기타금융자산		7,025,813	(66,156)	(58,426)	6,901,231	6,950,939
자산 합계		202,945,123	187,134	(1,678,099)	201,454,158	202,697,200
예수부채	요구불예수부채	58,506,868	-	-	58,506,868	58,506,868
	기한부예수부채	110,265,529	-	-	110,265,529	110,218,994
	양도성예금증서	1,781,684	-	-	1,781,684	1,806,452
	발행어음예수부채	3,132,185	-	-	3,132,185	3,131,971
	어음관리계좌수탁금	1,291,588	-	-	1,291,588	1,291,588
	기타	42,578	-	-	42,578	42,587
	소계	175,020,432	-	-	175,020,432	174,997,460
차입부채	콜머니	318,360	-	-	318,360	318,360
	매출어음	28,631	-	-	28,631	28,524
	환매조건부채권매도	344,632	-	-	344,632	344,632
	차입부채	9,285,395	(1,994)	-	9,283,401	9,291,803
	외화수탁금	94,315	-	-	94,315	94,315
	소계	10,071,333	(1,994)	-	10,069,339	10,077,634
사채	원화사채	13,992,700	(37,752)	-	13,954,948	14,072,870
	외화사채	3,799,788	(15,081)	-	3,784,707	3,858,418
	소계	17,792,488	(52,833)	-	17,739,655	17,931,288
기타금융부채		12,100,640	(2,642)	-	12,097,998	12,068,342
부채 합계		214,984,893	(57,469)	-	214,927,424	215,074,724

3) 당기말과 전기말 현재 재무상태표에서 공정가치로 측정되지는 않으나 공정가치가 공시되는 금융자산부채의 평가수준별 공정가치의 내역은 다음과 같습니다.

<제183(당기)>

(단위: 백만원)					
구 분		수준 1	수준 2	수준 3	합 계
현금및예치금	현금	2,471,103	-	-	2,471,103
	예치금	-	13,388,974	-	13,388,974
	소 계	2,471,103	13,388,974	-	15,860,077
대출채권	가계대출	-	-	81,035,996	81,035,996
	기업대출	-	-	102,401,962	102,401,962
	공공및기타자금대출	-	-	2,095,248	2,095,248
	은행간자금대출	-	2,959,108	1,707,951	4,667,059
	카드채권	-	-	26,000	26,000
	소 계	-	2,959,108	187,267,147	190,226,255
만기보유금융자산	국공채	2,329,136	3,063,538	-	5,392,674
	금융채	120,885	385,590	-	506,475
	회사채	-	2,417,634	-	2,417,634
	소 계	2,450,021	5,866,762	-	8,316,783
기타금융자산		-	5,841,425	2,233,073	8,074,498
자산 합계		4,921,124	28,056,269	189,500,220	222,477,613
예수부채	요구불예수부채	-	68,342,432	-	68,342,432
	기한불예수부채	-	-	114,517,158	114,517,158
	양도성예금증서	-	-	2,153,581	2,153,581
	발행어음예수부채	-	-	3,240,906	3,240,906
	어음관리계좌수탁금	-	1,682,610	-	1,682,610
	기타	-	-	35,173	35,173
	소 계	-	70,025,042	119,946,818	189,971,860
차입부채	물머니	-	1,782,736	-	1,782,736
	대출어음	-	-	30,934	30,934
	환매조건부채권매도	-	-	376,709	376,709
	차입부채	-	-	10,578,970	10,578,970
	외화수탁금	-	-	77,179	77,179
	소 계	-	1,782,736	11,063,792	12,846,528
사채	원화사채	-	10,186,912	2,669,962	12,856,874
	외화사채	-	4,140,691	-	4,140,691
	소 계	-	14,327,603	2,669,962	16,997,565
기타금융부채		-	5,189,080	8,459,436	13,648,516
부채 합계		-	91,324,461	142,140,008	233,464,469

<제182(전)기>

(단위: 백만원)					
구 분		수준 1	수준 2	수준 3	합 계
현금및예치금	현금	2,589,117	-	-	2,589,117
	예치금	-	9,840,846	-	9,840,846
	소 계	2,589,117	9,840,846	-	12,429,963
대출채권	가계대출	-	-	72,909,139	72,909,139
	기업대출	-	-	94,132,989	94,132,989
	공공및기타자금대출	-	-	2,484,788	2,484,788
	은행간자금대출	-	4,843,106	1,238,593	6,081,699
	카드채권	-	-	39,531	39,531
	소 계	-	4,843,106	170,805,040	175,648,146
만기보유금융자산	국공채	2,382,547	2,064,787	-	4,447,334
	금융채	100,166	559,582	-	659,748
	회사채	-	2,561,070	-	2,561,070
	소 계	2,482,713	5,185,439	-	7,668,152
기타금융자산		-	4,571,823	2,379,116	6,950,939
자산 합계		5,071,830	24,441,214	173,184,156	202,697,200
예수부채	요구불예수부채	-	58,506,868	-	58,506,868
	기한불예수부채	-	-	110,218,994	110,218,994
	양도성예금증서	-	-	1,805,452	1,805,452
	발행어음예수부채	-	-	3,131,971	3,131,971
	어음관리계좌수탁금	-	1,291,588	-	1,291,588
	기타	-	-	42,587	42,587
	소 계	-	59,798,456	115,199,004	174,997,460
차입부채	콜머니	-	318,360	-	318,360
	대출어음	-	-	28,524	28,524
	환매조건부채권매도	-	-	344,632	344,632
	차입부채	-	-	9,291,803	9,291,803
	외화수탁금	-	-	94,315	94,315
	소 계	-	318,360	9,759,274	10,077,634
사채	원화사채	-	12,144,888	1,927,982	14,072,870
	외화사채	-	3,858,418	-	3,858,418
	소 계	-	16,003,306	1,927,982	17,931,288
기타금융부채		-	3,159,821	8,908,521	12,068,342
부채 합계		-	79,279,943	135,794,781	215,074,724

4) 당기말과 전기말 현재 공정가치 공시를 위하여 사용된 평가기법 및 투입변수는 다음과 같습니다.

<제183(당기)>

(단위: 백만원)				
공정가치수준	구 분	공정가치(주)	평가모형	투입변수
수준 2	만기보유금융자산	5,866,762	현금흐름 할인모형	할인율
수준 3	대출채권	187,267,147		할인율, 신용스프레드, 조기상환율
	기타금융자산	2,233,073		할인율
자산 합계		185,366,962		
수준 2	사채	14,327,603	현금흐름 할인모형	할인율
수준 3	예수부채(주)	119,386,308		할인율
	차입부채(주)	5,966,820		할인율
	사채	2,669,962		할인율, 회귀계수, 상관계수
	기타금융부채	8,459,436		할인율
부채 합계		150,848,129		

<제182(전기)>

(단위: 백만원)				
공정가치수준	구 분	공정가치(주)	평가모형	투입변수
수준 2	만기보유금융자산	5,185,439	현금흐름 할인모형	할인율
수준 3	대출채권	170,805,040		할인율, 신용스프레드, 조기상환율
	기타금융자산	2,379,116		할인율
자산 합계		178,369,595		
수준 2	사채	16,003,306	현금흐름 할인모형	할인율
수준 3	예수부채(주)	114,674,453		할인율
	차입부채(주)	5,638,607		할인율
	사채	1,927,982		할인율, 회귀계수, 상관계수
	기타금융부채	8,908,521		할인율
부채 합계		147,152,869		

(주) 장부금액을 공정가치의 합리적인 근사치로 보아 장부금액을 공정가치로 공시한 항목과 관련한 평가기법과 투입변수는 공시하지 않습니다.

(3) 당기 중 공정가치로 측정되는 금융상품의 최초 인식 시 발생한 거래일(day1) 손익의 변동내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
기초	이연	상각	기말
-	6	(5)	1

(주) 전기 중 이연하여 인식한 거래일(day1) 손익은 없습니다.

(4) 금융상품의 범주별 분류

금융자산과 금융부채는 공정가치 또는 상각후원가로 측정됩니다. 금융상품 범주별 장부금액의 자세한 측정 방법은 주식 2에서 설명하고 있습니다. 당기말과 전기말 현재 각 금융자산과 금융부채의 범주별 장부금액은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)						
금융자산	단기매매 금융자산	매도가능 금융자산	만기보유 금융자산	대여금 및 수취채권	위험회피 파생자산	합 계
예치금	-	-	-	13,388,974	-	13,388,974
단기매매금융자산	8,316,341	-	-	-	-	8,316,341
파생상품자산	1,191,894	-	-	-	117,200	1,309,094
대출채권	-	-	-	188,325,465	-	188,325,465
매도가능금융자산	-	22,363,612	-	-	-	22,363,612
만기보유금융자산	-	-	8,012,117	-	-	8,012,117
기타금융자산	-	-	-	8,019,552	-	8,019,552
합 계	9,508,235	22,363,612	8,012,117	209,733,991	117,200	249,735,155

(단위: 백만원)					
금융부채	당기손익인식금융부채		상각후원가 측정금융부채	위험회피 파생부채	합 계
	단기매매 금융부채	당기손익인식지정 금융부채			
예수부채	-	-	189,639,872	-	189,639,872
단기매매금융부채	428,936	-	-	-	428,936
당기손익인식지정금융부채	-	6,139	-	-	6,139
파생상품부채	1,205,215	-	-	51,223	1,256,438
차입부채	-	-	12,802,821	-	12,802,821
사채	-	-	16,581,408	-	16,581,408
기타금융부채	-	-	13,673,686	-	13,673,686
합 계	1,634,151	6,139	232,697,787	51,223	234,389,300

<제182(전)기>

(단위: 백만원)						
금융자산	단기매매 금융자산	매도가능 금융자산	만기보유 금융자산	대여금 및 수취채권	위험회피 파생자산	합 계
예치금	-	-	-	9,840,846	-	9,840,846
단기매매금융자산	7,519,765	-	-	-	-	7,519,765
파생상품자산	1,305,782	-	-	-	152,212	1,457,994
대음채권	-	-	-	174,689,344	-	174,689,344
매도가능금융자산	-	24,093,086	-	-	-	24,093,086
만기보유금융자산	-	-	7,433,620	-	-	7,433,620
기타금융자산	-	-	-	6,901,231	-	6,901,231
합 계	8,825,547	24,093,086	7,433,620	191,431,421	152,212	231,935,886

(단위: 백만원)				
금융부채	단기매매 금융부채	상각후원가 측정금융부채	위험회피 파생부채	합 계
예수부채	-	175,020,432	-	175,020,432
단기매매금융부채	398,596	-	-	398,596
파생상품부채	1,242,651	-	235,528	1,478,179
차입부채	-	10,069,339	-	10,069,339
사채	-	17,739,655	-	17,739,655
기타금융부채	-	12,097,998	-	12,097,998
합 계	1,641,247	214,927,424	235,528	216,804,199

(5) 금융수익과 금융원가

당기 및 전기 금융수익과 금융원가의 상세내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)						
구 분	이자수익(비용)	수수료수익(비용)	손실차손	기타	합 계	기타포괄손익
단기대매금융자산	205,994	4,408	-	(33,618)	176,784	-
매도가능금융자산	596,681	-	(220,296)	510,834	887,229	84,183
만기보유금융자산	333,114	-	-	-	333,114	-
대여금 및 수취채권	7,377,527	143,279	(463,724)	26,356	7,083,438	-
단기대매금융부채	-	(10)	-	-	(10)	-
당기손익인식지정금융부채	-	-	-	34	34	-
상각후원가측정금융부채	(4,146,183)	(8)	-	(153,772)	(4,299,963)	20,754
순위형회피파생상품	-	-	-	166,812	166,812	(5,133)
합 계	4,357,133	147,669	(684,010)	516,646	4,347,438	99,804

<제182(전)기>

(단위: 백만원)						
구 분	이자수익(비용)	수수료수익(비용)	손실차손	기타	합 계	기타포괄손익
단기대매금융자산	214,490	5,799	-	(41,508)	178,781	-
매도가능금융자산	756,983	-	(203,584)	122,287	675,686	(401,960)
만기보유금융자산	380,286	-	-	-	380,286	-
대여금 및 수취채권	7,735,614	130,857	(673,744)	56,080	7,248,807	-
단기대매금융부채	-	(88)	-	-	(88)	-
상각후원가측정금융부채	(4,736,825)	(5)	-	264,695	(4,472,135)	70,933
순위형회피파생상품	-	-	-	(263,206)	(263,206)	98
합 계	4,350,548	136,563	(877,328)	138,348	3,748,131	(330,929)

3-5. 자본위험관리

은행에 대한 자기자본 규제제도는 1980년대 금융규제완화에 따른 금융기관의 위험 증가에 따라, 은행의 건전성을 확보하고, 예금자 보호와 국제 금융질서의 안정성을 확보하기 위하여 BIS 회원국가를 중심으로 1988년에 도입되었습니다. 최초의 Basel 협약이 도입된 이후 규제 자기자본 요구량이 은행이 보유한 리스크를 보다 잘 반영할 수 있는 방향으로 발전되어 왔습니다. 바젤위원회(BCBS)는 글로벌 금융위기 이후 은행 시스템의 복원력 강화를 위하여 바젤 III 기준을 마련하여 발표하였고, 우리나라는 은행업감독규정 개정을 통해 2013년 12월 1일부터 기존보다 강화된 자본규제인 바젤 III 를 시행하고 있습니다. 동 기준은 연결실체를 포함한 국내은행이 보통주자본 비율, 기본자본비율, 총자기자본비율에 대해 시행일로부터 단계적으로 각각 일정비율 이상을 유지할 것을 의무화하고 있으며, 연결실체는 국내은행의 감독기구인 금융감독원에 은행 관련 법규에 따른 자기자본비율의 준수 여부를 보고하고 있습니다.

상기의 감독 법규에 따라 연결실체가 관리하는 규제자본은 아래의 두 분류로 구분됩니다.

1) Tier 1 capital (기본자본: 보통주자본+기타기본자본)

- ① 보통주자본: 은행의 손실을 가장 먼저 보전할 수 있으며 은행 청산시 최후순위이고 청산시를 제외하고는 상환되지 않는 자본으로 보통주, 자본잉여금, 이익잉여금(대손준비금 제외), 기타포괄손익누계액, 기타자본잉여금, 자본조정, 은행의 종속기업 비지배주주지분의 일부금액 등을 포함합니다.
- ② 기타기본자본: 영구적 성격의 인정요건을 충족하는 자본증권 및 이와 관련된 자본잉여금, 종속기업이 발행한 기타기본자본의 외부투자자 보유금액 중 일부금액 등을 포함합니다.

2) Tier 2 capital (보완자본)

청산시 은행의 손실을 보전할 수 있는 인정요건을 충족하는 자본증권 및 이와 관련된 자본잉여금, 종속기업이 발행한 보완자본의 외부투자자 보유금액 중 일부금액 등을 포함합니다.

연결실체는 자기자본(상기의 기본자본과 보완자본의 합에서 공제항목을 차감한 금액)을 위험가중자산으로 나누어 자기자본비율을 산출합니다. 위험가중자산(risk weighted assets)은 은행의 실질적인 위험을 반영하기 위해 위험의 노출정도가 높을수록 높은 가중치를 적용하여 산출하며, 신용위험가중자산, 운영위험가중자산 및 시장위험가중자산의 합으로 구성됩니다.

연결실체는 별도 내부기준을 통해 자본적정성을 평가 및 관리하고 있습니다. 자본적정성의 평가는 경제적 자본(최대노출액별로 내재된 리스크에 대비하기 위하여 은행이 보유해야 하는 실질적인 필요자본량으로 은행 내부의 리스크 인식 및 평가 기준에 따라 산출된 리스크량) 대비 가용자본(은행의 실제 손실발생시 손실처리에 충당할 수 있는 자본)의 수준이 적절한가를 은행 내부적으로 평가하는 것을 말합니다. 연결실체는 리스크유형별(신용, 시장, 운영, 금리, 유동성, 편중리스크)로 산출된 리스크의 합산 금액 및 각 유형별 금액을 관리합니다.

연결실체는 위험가중자산에 대한 자기자본비율을 연결재무제표 기준으로 산출, 관리하고 있으며, 당기말과 전기말의 자기자본비율은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
구 분			제183(당)기	제182(전)기
총자기자본	Tier 1	보통주자본	16,999,542	16,130,379
		기타기본자본	1,102,256	1,891,004
		기본자본	18,101,798	18,021,383
	Tier 2	보완자본	2,845,616	3,035,709
	합 계		20,947,414	21,057,092
총 위험가중자산			135,714,810	129,276,682
총자기자본비율	Tier 1	보통주자본비율	12.53%	12.48%
		기본자본비율	13.34%	13.94%
	Tier 2	보완자본비율	2.10%	2.35%
		합 계		15.43%

연결실체는 상기의 표와 같이 자본적정성 기준(총자기자본비율 8% 이상, 기본자본비율 5.5% 이상, 보통주자본비율 4.0% 이상)을 준수하고 있습니다.

3-6. 금융상품 양도거래

(1) 제거조건이 충족되지 않은 금융상품

1) 환매조건부채권매도

당기말과 전기말 현재 환매조건부채권매도 중 연결실체가 보유 유가증권을 확정가격으로 재매입할 것을 조건으로 매각하여 제거조건이 충족되지 않은 금융상품의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제183(당)기	제182(전)기
양도자산	매도가능금융자산	130,333	131,504
	만기보유금융자산	375,396	262,225
	합 계	505,729	393,729
관련부채	환매조건부채권매도	376,709	331,511

2) 유가증권 대차거래

연결실체가 보유한 유가증권을 대여하는 경우 유가증권의 소유권이 이전되나, 대여기간 만료시 해당 유가증권을 반환하여야 하므로, 연결실체는 해당 유가증권의 위험과 보상의 대부분을 보유함에 따라 대여유가증권 전체를 계속하여 인식하고 있습니다. 당기말과 전기말 현재 대여유가증권의 장부금액은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분	제183(당)기	제182(전)기	대여처
국공채	345,020	100,149	한국증권금융, 미쓰이스미토모 등
금융채	140,239	-	한국증권금융
합 계	485,259	100,149	

(2) 제거조건을 충족하나 지속적으로 관여하는 금융상품

당기말과 전기말 현재 제거조건을 충족하나 연결실체가 지속적으로 관여하는 금융상품은 없습니다.

3-7. 금융상품 상계

당기말과 전기말 현재 실행가능한 일괄 상계약정 또는 이와 유사한 약정의 적용을 받는 금융상품의 내역은 다음과 같습니다.

<제183(당기)>

(단위: 백만원)						
금융자산	인식된 금융자산 총액	상계되는 인식된 금융부채 총액	재무상태표에 표시되는 금융자산 순액	재무상태표에서 상계되지 않은 관련 금액		순액
				금융상품	수취한 현금당보	
파생상품자산(주1)	1,307,295	-	1,307,295	4,828,808	21,898	724,582
기타금융자산(주1)	4,087,591	-	4,087,591	-	-	-
환매조건부매도당보 유가증권(주2)	505,729	-	505,729	378,709	-	129,020
환매조건부매수(대출차권)(주2)	2,372,983	-	2,372,983	2,372,983	-	-
대여유가증권(주2)	485,259	-	485,259	485,259	-	-
미회수내국환차권(주3)	24,487,358	22,400,331	2,087,025	-	-	2,087,025
증권미수금 등(주4)	4,649	318	4,333	4,333	-	-
합 계	33,210,882	22,400,647	10,810,215	7,987,892	21,898	2,920,827

(단위: 백만원)						
금융부채	인식된 금융부채 총액	상계되는 인식된 금융자산 총액	재무상태표에 표시되는 금융부채 순액	재무상태표에서 상계되지 않은 관련 금액		순액
				금융상품	제공한 현금당보	
파생상품부채(주1)	1,174,484	-	1,174,484	4,597,194	-	310,820
기타금융부채(주1)	3,733,320	-	3,733,320	-	-	-
환매조건부매도(차입부채)(주2)	378,709	-	378,709	378,709	-	-
미지급내국환차무(주3)	23,630,425	22,400,331	1,430,094	1,430,094	-	-
증권미지급금 등(주4)	552	318	238	238	-	-
합 계	29,115,500	22,400,647	8,714,853	6,404,233	-	310,820

<제182(전)기>

(단위: 백만원)						
금융자산	인식된 금융자산 총액	상계되는 인식된 금융부채 총액	재무상태표에 표시되는 금융자산 순액	재무상태표에서 상계되지 않은 관련 금액		순액
				금융상품	수취한 현금당보	
파생상품자산(주1)	1,458,041	-	1,458,041	2,961,044	22,425	943,389
기타금융자산(주1)	2,470,797	-	2,470,797	-	-	-
환매조건부매도당보 유가증권(주2)	393,729	-	393,729	331,511	-	62,218
환매조건부매수(대출차권)(주2)	2,729,539	-	2,729,539	2,729,539	-	-
대여유가증권(주2)	100,149	-	100,149	100,149	-	-
미회수내국환차권(주3)	23,272,502	20,939,147	2,333,355	-	-	2,333,355
증권미수금(주4)	184	184	-	-	-	-
합 계	30,422,921	20,939,311	9,483,610	6,122,243	22,425	3,338,942

(단위: 백만원)						
금융부채	인식된 금융부채 총액	상계되는 인식된 금융자산 총액	재무상태표에 표시되는 금융부채 순액	재무상태표에서 상계되지 않은 관련 금액		순액
				금융상품	제공한 현금당보	
파생상품부채(주1)	1,410,753	-	1,410,753	2,974,169	-	567,026
기타금융부채(주1)	2,130,442	-	2,130,442	-	-	-
환매조건부매도(차입부채)(주2)	331,511	-	331,511	331,511	-	-
미지급내국환차무(주3)	21,611,894	20,939,147	672,547	672,547	-	-
증권미지급금(주4)	9,181	184	8,997	-	-	8,997
합 계	25,693,581	20,939,311	4,754,250	4,178,227	-	576,023

- (주1) 당행과 각 종속기업의 장외 파생상품 중 일부는 ISDA (International Derivatives Swaps and Dealers Association) 일괄상계약정에 따라 거래가 이루어지고 있습니다. 동 약정에 의하면, 거래상대방의 부도와 같은 신용사건 발생시 해당 거래상대방과의 모든 파생상품 거래는 해지되며, 해지 시점에서 거래 당사자들이 각 거래별로 지급받거나 지급받아야 할 금액을 서로 상계하여 단일의 금액을 일방이 다른 거래상대방에게 지급하게 됩니다.
- (주2) 환매조건부 매매거래 및 유가증권 대차거래 등도 ISDA일괄상계약정과 유사한 상계약정의 적용을 받고 있습니다.
- (주3) 은행간의 내국환거래에 따른 채권 및 채무를 처리하는 계정으로 법적 상계권리를 보유하고 순액으로 결제하고 있으므로 재무상태표에 순액으로 표시하고 있습니다.
- (주4) 장내에서 거래되는 상장주식의 결제에 따른 채권 및 채무를 처리하는 계정으로 법적 상계권리를 보유하고 순액으로 결제하고 있으므로 재무상태표에 순액으로 표시하고 있습니다. 당기말 금액의 경우 중앙청산소 제도에 의한 장외파생상품의 장내 결제에 따른 관련 채권과 채무의 상계금액이 포함되어 있습니다.

4. 유의적인 회계추정 및 판단

연결실체는 연결재무제표를 작성함에 있어 미래에 대한 추정 및 가정에 대한 판단을 하고 있습니다. 이러한 추정 및 판단은 지속적으로 평가되며, 과거 경험 및 현재의 상황에서 합리적으로 예측가능한 미래의 사건과 같은 다른 요소들을 고려하여 이루어 집니다. 이렇게 산출된 회계추정치는 실제 발생 결과와 일치하지 않을 수 있습니다. 보고기간말 현재 계상된 자산과 부채의 장부금액을 중요하게 변동시킬 수 있는 유의 적인 위험을 포함하고 있는 회계추정 및 가정에 대한 판단은 다음과 같습니다.

(1) 법인세

연결실체는 여러 다른 국가 법인세의 적용을 받고 있습니다. 정상적인 영업과정에서 최종 세금금액의 결정을 불확실하게 하는 여러 종류의 거래와 계산방식이 존재합니 다. 연결실체는 보고기간말 현재까지의 영업활동의 결과로 미래에 부담할 것으로 예 상되는 법인세효과를 최선의 추정과정을 거쳐 당기법인세 및 이연법인세로 인식하였 습니다. 하지만 실제 미래 최종 법인세부담은 인식한 관련 자산·부채와 일치하지 않 을 수 있으며, 이러한 차이는 최종 법인세효과가 확정된 시점의 당기법인세 및 이연 법인세 자산·부채에 영향을 줄 수 있습니다.

(2) 금융상품의 공정가치

활성시장에서 거래되지 않는 금융상품(예: 장외파생상품)의 공정가치는 평가기법을 사용하여 결정하고 있습니다. 연결실체는 보고기간 종료일 현재 주요한 시장상황에 기초하여, 다양한 평가기법의 선택 및 가정에 대한 판단을 하고 있습니다. 연결실체 는 정상거래시장에서 거래되지 않는 다양한 금융상품의 공정가치를 결정하기 위해 평가모형을 이용하는 경우 일반적인 가치평가모형부터 발전된 자체 평가모형까지 다 양한 방법을 사용하며 이때 다양한 투입변수와 가정이 적용됩니다.

(3) 대손충당금, 지급보증충당부채 및 미사용약정충당부채

연결실체는 대출채권에 대해서 손상을 평가하여 대손충당금을 설정하고, 지급보증 및 미사용약정 한도에 대해서는 충당부채를 설정합니다. 이러한 신용손실에 대한 충 당금은 개별평가 대손충당금 추정을 위한 차주별 기대현금흐름의 추정과 집합평가 대손충당금 및 지급보증, 미사용약정충당부채 추정을 위해 사용된 모형의 가정과 변 수들에 의해 결정됩니다.

(4) 확정급여부채

확정급여채무의 현재가치는 보험수리적 방식에 의해 결정되는 다양한 요소들에 따라 달라질 수 있습니다. 연금의 순원가(이익)를 결정하는 데 사용되는 가정은 할인율을 포함하고 있으며, 이러한 가정의 변동은 확정급여부채의 장부금액에 영향을 줄 것입니다.

연결실체는 반기별로 적합한 할인율을 결정하고 있습니다. 이러한 할인율은 확정급여부채의 정산 시 발생할 것으로 예상되는 미래의 추정 현금 유출액의 현재가치를 결정할 때 사용되어야 하는 이자율을 나타냅니다. 연결실체는 연금이 지급되는 통화로 표시되고 관련 확정급여부채의 기간과 유사한 만기를 가진 우량회사채 이자율을 고려하여 적절한 할인율을 결정하고 있습니다.

확정급여부채와 관련된 다른 주요한 가정들은 일부 현재의 시장 상황에 근거하고 있습니다.

(5) 매도가능지분증권의 손상

매도가능지분증권의 공정가치가 취득원가 이하로 유의적으로 또는 지속적으로 하락하는 경우는 손상이 발생하였다는 객관적인 증거에 해당합니다. 이에 따라, 연결실체는 취득원가 대비 30% 이상 공정가치의 하락을 "유의적인 하락"으로, 시장성있는 지분증권의 시장가격이 취득원가 이하로 하락한 상태가 6개월 이상 지속되는 경우를 "지속적인 하락"으로 간주하고 있습니다.

5. 사업별 부문정보

(1) 사업별 부문에 대한 일반정보

연결실체는 전략적 영업단위인 4개의 보고부문을 가지고 있습니다. 이러한 부문들은 서로 다른 서비스를 제공하고 있으며, 분리하여 관리하고 있습니다.

사업별 부문	일반 정보
리테일부문	개인, 기관, WM고객에 대한 여신, 수신, 이에 수반되는 업무
기업 및 투자부문	대기업, 중소기업, IB에 대한 여신, 수신, 자금관리, 유가증권투자 및 이에 수반되는 업무
국제부문	해외영업과 이에 수반되는 업무
기타	기타업무와 총괄부문 및 각종 지원업무

(2) 당기와 전기 중 사업별 부문의 경영성과는 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)						
구 분	리테일부문	기업 및 투자 부문	국제부문	기타	연결조정	합 계
순이자손익	2,322,133	891,375	303,760	844,375	5,490	4,367,133
순수수료손익	559,987	258,368	54,670	(58,202)	(11,880)	802,943
기타손익	(2,332,246)	261,178	(226,501)	(1,060,616)	(14,496)	(3,372,680)
영업이익	549,874	1,410,921	131,929	(274,443)	(20,885)	1,797,396
영업외손익	3,424	8,764	(1,529)	56,650	(40,717)	26,592
관계기업이익에대한지분	-	-	-	-	11,808	11,808
법인세차감전순이익	553,298	1,419,685	130,400	(217,793)	(49,794)	1,835,796
법인세비용	(112,752)	(288,840)	(32,398)	40,660	13,187	(380,143)
당기순이익	440,546	1,130,845	98,002	(177,133)	(36,607)	1,455,653
지배기업소유지분	440,546	1,130,845	98,002	(177,133)	(37,036)	1,455,224
비지배지분	-	-	-	-	429	429

<제182(전)기>

(단위: 백만원)						
구 분	리테일부문	기업 및 투자 부문	국제부문	기타	연결조정	합 계
순이자손익	2,263,135	935,884	272,513	965,486	12,530	4,350,548
순수수료손익	548,278	232,673	49,547	(83,585)	1,987	748,900
기타영업손익	(2,376,509)	(181,966)	(199,254)	(553,045)	(68,702)	(3,379,476)
영업이익	434,904	987,591	122,806	228,866	(54,185)	1,719,972
영업외손익	6,837	5,053	(3,266)	(17,913)	(5,118)	(14,407)
관계기업이익에대한지분	-	-	-	-	22,448	22,448
법인세차감전순이익	441,741	992,644	119,540	210,943	(36,855)	1,728,013
법인세비용	(97,740)	(198,408)	(23,893)	(42,163)	7,367	(354,837)
당기순이익	344,001	794,236	95,647	168,780	(29,488)	1,373,176
지배기업소유지분	344,001	794,236	95,647	168,780	(29,647)	1,373,017
비지배지분	-	-	-	-	159	159

(3) 당기와 전기 중 부문별 외부고객으로 부터의 이자손익 및 부문간 이자손익은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)						
구 분	리테일부문	기업및투자 부문	국제부문	기타	연결조정	합 계
외부고객으로부터의 이자손익	2,460,147	1,345,604	307,124	254,258	-	4,367,133
부문간 이자손익	(138,014)	(454,229)	(3,364)	590,117	5,490	-

<제182(전)기>

(단위: 백만원)						
구 분	리테일부문	기업및투자 부문	국제부문	기타	연결조정	합 계
외부고객으로부터의 이자손익	2,129,226	1,604,645	296,584	321,093	-	4,350,548
부문간 이자손익	133,909	(667,761)	(23,071)	544,393	12,530	-

(4) 지역별 부문의 재무정보

1) 당기와 전기 중 외부고객으로부터의 수익 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)						
구 분	영업수익		영업비용		영업이익	
	제183(당)기	제182(전)기	제183(당)기	제182(전)기	제183(당)기	제182(전)기
국내	13,160,486	14,701,712	11,529,609	13,101,686	1,630,877	1,600,027
해외	827,161	753,137	660,642	633,192	166,519	119,945
합 계	13,987,647	15,454,849	12,190,251	13,734,877	1,797,396	1,719,972

2) 당기말과 전기말 현재 비유동자산 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
국내	2,900,648	2,964,970
해외	54,352	58,862
합 계	2,955,000	3,023,832

(주) 비유동자산은 유형자산, 무형자산, 투자부동산으로 구성되어 있습니다.

6. 현금 및 예치금

(1) 현금 및 예치금의 종류별 내역

당기말과 전기말 현재 현금 및 예치금의 종류별 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
현금	2,471,103	2,589,117
원화예치금	지준예치금	3,161,035
	기타금융기관예치금	1,688,503
	소 계	4,849,538
외화예치금	외화타점예치금	2,710,857
	외화정기예치금	1,888,172
	외화기타예치금	403,923
	소 계	5,002,952
대손충당금	(23,695)	(11,644)
합 계	15,860,077	12,429,963

(2) 사용제한 예치금

당기말과 전기말 현재 은행법 및 기타 관계법령 등에 따라 사용이 제한되어 있는 예치금 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
구 분	제183(당)기	제182(전)기	근거 법령 등	
원화예치금	지준예치금	3,161,035	한국은행법 제56조	
	기타금융기관예치금	1,610,611	한국은행법 제28조 및 제70조 등	
	소 계	4,771,646		
외화예치금	외화타점예치금	745,730	한국은행법 등	
	외화정기예치금	11,608	뉴욕주 은행법 등	
	외화기타예치금	3,100	파생상품 관련	
	소 계	760,438		
합 계	9,205,668	5,532,084		

7. 단기매매금융자산

당기말과 전기말 현재 단기매매금융자산의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제183(당)기	제182(전)기
채무증권	국공채	336,669	256,077
	금융채	1,429,183	1,595,176
	회사채	1,212,945	1,040,152
	매입어음	2,893,390	2,539,322
	CMA자산	1,197,304	1,043,266
	기타	9,964	-
	소 계	7,079,455	6,473,993
지분증권	주식	53,880	58,761
	수익증권	958,450	910,674
	소 계	1,012,330	969,435
금예치금		224,556	76,337
합 계		8,316,341	7,519,765

8. 파생상품

(1) 미결제약정 계약금액

당기말과 전기말 현재 보유중인 파생상품의 미결제약정 계약금액 내역은 다음과 같습니다.

			(단위: 백만원)	
구 분			제183(당)기	제182(전)기
외환 파생상품	장외파생상품	통화선도	30,713,560	27,784,868
		통화스왑	14,267,372	14,293,641
		통화옵션	737,258	120,281
		소 계	45,718,190	42,198,790
	장내파생상품	통화선물	87,936	-
합 계		45,806,126	42,198,790	
이자율 파생상품	장외파생상품	이자율스왑	46,015,652	67,212,192
		이자율옵션	1,846,000	3,146,156
		소 계	47,861,652	70,358,348
	장내파생상품	이자율선물	-	203,906
		이자율스왑(주)	3,664,800	-
		소 계	3,664,800	203,906
	합 계		51,526,452	70,562,254
주식관련 파생상품	장외파생상품	주식스왑	6,338	-
		주식옵션	719,064	1,103,702
		소 계	725,402	1,103,702
	장내파생상품	주식선물	6,466	11,821
		주식옵션	-	2,675
		소 계	6,466	14,496
	합 계		731,868	1,118,198
상품관련 파생상품	장외파생상품	상품스왑 및 선도	167,448	399,814
		상품옵션	-	6,064
	합 계		167,448	405,868
위험회피 파생상품	공정가치위험회피	이자율스왑	8,046,680	8,451,250
	순투자위험회피	통화선도	219,840	105,530
	합 계		8,266,520	8,556,780
총 계			106,498,414	122,841,890

(주) 중앙청산소에서 결제되는 파생상품의 미결제약정 금액입니다.

(2) 공정가치

당기말과 전기말 현재 보유중인 파생상품의 공정가치는 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)						
구 분			제183(당)기		제182(전)기	
			자산	부채	자산	부채
외환 파생상품	장외파생상품	통화선도	440,343	479,945	411,267	494,113
		통화스왑	248,298	270,522	428,257	351,547
		통화옵션	3,819	5,048	1,721	1,504
	합 계		692,460	755,515	841,245	847,164
이자율 파생상품	장외파생상품	이자율스왑	481,385	422,738	440,518	357,062
		이자율옵션	9,395	16,615	12,824	16,932
	합 계		490,780	439,353	453,342	373,994
주식관련 파생상품	장외파생상품	주식스왑	-	35	-	-
		주식옵션	6,787	8,212	11,185	11,113
	장내파생상품	주식옵션	-	-	10	-
	합 계		6,787	8,247	11,195	11,113
상품관련 파생상품	장외파생상품	상품스왑 및 선도	1,866	2,100	-	10,380
위험회피 파생상품	공정가치위험회피	이자율스왑	116,854	47,616	152,212	235,387
	순투자위험회피	통화선도	347	3,607	-	141
	합 계		117,201	51,223	152,212	235,528
총 계			1,309,094	1,256,438	1,457,994	1,478,179

(3) 파생상품 평가손익

당기와 전기 중 파생상품의 평가손익은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)						
구 분			제183(당)기		제182(전)기	
			평가이익	평가손실	평가이익	평가손실
외환 파생상품	장외파생상품	통화선도	404,872	441,688	326,769	453,822
		통화스왑	213,101	280,395	233,965	248,272
		통화옵션	3,821	3,259	1,357	855
	합 계		621,794	725,322	562,091	702,949
이자율 파생상품	장외파생상품	이자율스왑	314,967	348,946	250,983	290,400
		이자율옵션	5,368	6,788	6,856	3,313
		합 계	320,335	355,734	257,839	293,713
	주식관련 파생상품	장외파생상품	주식스왑	-	25	-
주식옵션			4,129	5,308	8,222	13,557
합 계			4,129	5,333	8,222	13,557
상품관련 파생상품		장외파생상품	상품스왑 및 선도	1,866	2,100	-
	상품옵션		-	-	103	90
	합 계		1,866	2,100	103	10,470
	위험회피 파생상품	공정가치 위험회피	이자율스왑	210,564	59,630	25,699
순투자 위험회피		통화선도	1,873	-	-	239
합 계		212,437	59,630	25,699	279,639	
총 계		1,160,561	1,148,119	853,954	1,300,328	

(4) 위험회피목적 관련 손익

당기와 전기 중 공정가치 위험회피목적 관련 손익은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
위험회피대상	(158,222)	257,544
위험회피수단	166,812	(263,204)
합 계	8,590	(5,660)

(5) 해외사업장 순투자의 위험회피

해외사업장순투자 중 일부에 대해 위험회피회계를 적용하였으며, 당기와 전기 중 위험회피수단별 해외사업환산손익에 반영된 금액은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
외화차입부채	(2,066)	65,567
외화사채	22,820	5,366
통화선도	(5,133)	98
합 계	15,621	71,031

9. 대출채권

(1) 당기말과 전기말 현재 대출금의 고객별 구성내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
과 목	제183(당)기	제182(전)기
가계대출	80,221,735	73,031,842
기업대출	102,638,114	94,415,522
공공 및 기타자금대출	2,092,730	2,479,154
은행간 자금 대출	4,657,991	6,078,034
카드채권	26,347	39,531
대출채권 총계	189,636,917	176,044,083
이연대출부대비용	268,219	253,290
총당금 차감전 대출채권 총계	189,905,136	176,297,373
대손충당금	(1,579,671)	(1,608,029)
총당금 차감후 대출채권 총계	188,325,465	174,689,344

(2) 대손충당금 증감내역

당기와 전기 중 예치금과 대출채권 및 기타자산에 대한 대손충당금 변동내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)						
과 목	예치금	대출채권			기타자산	합 계
		가계대출	기업대출	기타		
기 초	11,644	193,242	1,399,472	15,315	58,426	1,678,099
전입(환입)액	12,051	146,527	297,917	(2,924)	10,153	463,724
상각액	-	(141,364)	(381,759)	(206)	(6,476)	(529,805)
할인차금 상각	-	-	(34,702)	-	-	(34,702)
대출채권 매각	-	(5,181)	(28,179)	(4)	-	(33,364)
상각채권 회수	-	16,460	158,694	10,763	344	186,261
기타(주)	-	-	(64,400)	-	(270)	(64,670)
기 말	23,695	209,684	1,347,043	22,944	62,177	1,665,543

(주) 기타 변동액은 채권조정, 출자전환, 환율변동 등으로 인한 금액입니다.

<제182(전)기>

(단위: 백만원)						
과 목	예치금	대출채권			기타자산	합 계
		가계대출	기업대출	기타		
기 초	4,455	267,176	1,468,188	25,168	61,944	1,826,931
전입(환입)액	7,189	136,515	536,185	(9,853)	3,708	673,744
상각액	-	(182,012)	(582,502)	-	(735)	(765,249)
할인차금 상각	-	-	(45,023)	-	-	(45,023)
대출채권 매각	-	(53,731)	(63,255)	-	-	(116,986)
상각채권 회수	-	25,294	127,668	-	132	153,094
기타(주)	-	-	(41,789)	-	(6,623)	(48,412)
기 말	11,644	193,242	1,399,472	15,315	58,426	1,678,099

(주) 기타 변동액은 채권조정, 출자전환, 환율변동 등으로 인한 금액입니다.

(3) 이연대출부대비용

당기와 전기 중 이연대출부대비용 변동내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
기초	253,290	235,483
신규발생	201,114	180,698
상각액	(186,185)	(162,891)
기말	268,219	253,290

10. 매도가능금융자산과 만기보유금융자산

(1) 매도가능금융자산과 만기보유금융자산 현황

당기말과 전기말 현재 매도가능금융자산 및 만기보유금융자산의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제183(당)기	제182(전)기
매도가능금융자산			
채무증권	국공채	2,843,952	2,828,023
	금융채	9,907,702	10,983,739
	회사채	7,251,975	7,420,991
	기타	29,669	-
	소 계	20,033,298	21,232,753
지분증권(주)	주식	1,459,978	2,156,523
	출자금	396,677	385,708
	수익증권	385,344	192,767
	기타	88,315	125,335
	소 계	2,330,314	2,860,333
매도가능금융자산 합계		22,363,612	24,093,086
만기보유금융자산			
채무증권	국공채	5,149,408	4,259,467
	금융채	501,452	653,277
	회사채	2,361,257	2,520,876
만기보유금융자산 합계		8,012,117	7,433,620

(주) 활성시장에서 공시되는 시장가격이 없고 공정가치를 신뢰성있게 측정할 수 없어 원가로 측정한 지분증권의 장부금액은 당기말과 전기말 현재 각각 28,281백만원, 27,606백만원입니다.

(2) 매도가능금융자산 처분손익

당기와 전기 중 매도가능금융자산 처분으로 인한 손익은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
매도가능금융자산처분이익	447,496	551,362
매도가능금융자산처분손실	19,504	65,529
합 계	427,992	485,833

11. 유형자산

(1) 당기말과 전기말 현재 유형자산의 내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)				
구 분	취득가액	감가상각누계액	손상차손누계액	장부금액
토지	1,155,856	-	-	1,155,856
건물	789,246	(137,775)	-	651,471
기타의유형자산	1,358,267	(1,129,475)	-	228,792
합 계	3,303,369	(1,267,250)	-	2,036,119

<제182(전)기>

(단위: 백만원)				
구 분	취득가액	감가상각누계액	손상차손누계액	장부금액
토지	1,262,137	-	-	1,262,137
건물	806,523	(110,996)	-	695,527
기타의유형자산	1,417,580	(1,174,126)	(85)	243,369
합 계	3,486,240	(1,285,122)	(85)	2,201,033

(2) 당기와 전기 중 유형자산의 장부금액의 변동내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)				
구 분	토지	건물	기타의유형자산	합 계
기 초	1,262,137	695,527	243,369	2,201,033
취득(주1,2)	57	26,605	109,568	136,230
처분(주1,3)	(48)	(2,553)	(21,493)	(24,094)
감가상각비	-	(30,605)	(102,000)	(132,605)
투자부동산으로 대체	(109,199)	(38,615)	-	(147,814)
매각예정비유동자산으로부터 대체	2,890	306	-	3,196
환율변동	19	806	(652)	173
기 말	1,155,856	651,471	228,792	2,036,119

(주1) 건설중인자산에서 본계정으로 대체된 금액 4,054백만원이 포함되어 있습니다.

(주2) 신규 취득자산의 복구충당부채 전입액 3,897백만원이 포함되어 있습니다.

(주3) 제각손실 1,520백만원이 발생하였습니다.

<제182(전)기>

(단위: 백만원)				
구 분	토지	건물	기타의유형자산	합 계
기 초	1,267,928	646,712	300,408	2,215,048
취득(주1,2)	368	144,434	184,753	329,555
처분(주3,4)	(2,672)	(2,127)	(138,923)	(143,722)
손상	-	-	(85)	(85)
감가상각비	-	(30,047)	(106,883)	(136,930)
투자부동산(으로)부터 대체	456	(59,827)	-	(59,371)
매각예정비유동으로 대체	(3,752)	(2,526)	-	(6,278)
환율변동	(191)	(1,092)	4,099	2,816
기 말	1,262,137	695,527	243,369	2,201,033

(주1) 건설중인자산에서 본계정으로 대체된 금액 131,541백만원이 포함되어 있습니다.

(주2) 신규 취득자산의 복구충당부채 전입액 2,075백만원이 포함되어 있습니다.

(주3) 제각손실 489백만원이 발생하였습니다.

(주4) 건설중인자산으로부터 본계정 및 무형자산으로 대체되어 감소한 금액 132,758백만원이 포함되어 있습니다.

(3) 보험가입 내역

당기말 현재 현금, 유형자산, 투자부동산 및 매각예정비유동자산에 대한 보험가입내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
보험종류	부보자산	부보액	부보처
금융기관종합보험	현금	20,000	삼성화재 외 7개사
재산종합보험	업무용동산, 부동산 등	1,096,689	삼성화재 외 5개사
도난보험	현금 및 유가증권	55,000	삼성화재 외 8개사
임원배상책임보험	-	50,000	삼성화재 외 7개사
가스사고배상책임보험	-	500	메리츠화재 외 2개사
합 계		1,222,189	

(주) 상기 보험 외에 차량보험, 임직원에 대한 의료보험, 자산재해보험 및 종업원재해 보장보험 등에 가입하고 있습니다

12. 무형자산

당기와 전기 중 무형자산의 증감내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)					
구 분	소프트웨어	개발비	회원권	기타의무형자산	합 계
기 초	45,714	22,922	47,363	109,846	225,845
취득	12,185	1,430	3,936	9,977	27,528
처분	-	-	(2,861)	-	(2,861)
손상(주)	-	-	(547)	-	(547)
상각	(16,073)	(10,980)	-	(43,292)	(70,345)
환율변동	622	-	23	2	647
기 말	42,448	13,372	47,914	76,533	180,267

(주) 회원권은 골프 및 콘도 회원권으로 내용연수를 특정기간으로 한정할 수 없는 무형자산으로, 보고 기간말 현재 거래소 시가가 장부금액보다 낮은 경우 손상차손을 인식하였습니다.

<제182(전)기>

(단위: 백만원)					
구 분	소프트웨어	개발비	회원권	기타의무형자산	합 계
기 초	41,087	38,071	45,585	55,820	180,563
취득(주1)	21,164	222	4,875	89,687	115,948
처분 및 제각(주2)	(600)	-	(1,417)	(8)	(2,025)
손상(주3)	-	-	(1,648)	-	(1,648)
상각	(15,629)	(15,371)	-	(35,657)	(66,657)
환율변동	(308)	-	(32)	4	(336)
기 말	45,714	22,922	47,363	109,846	225,845

(주1) 건설중인자산에서 본계정으로 대체된 금액 1,217백만원이 포함되어 있습니다.

(주2) 제각손실이 2백만원 발생하였습니다.

(주3) 회원권은 골프 및 콘도 회원권으로 모두 내용연수를 특정기간으로 한정할 수 없는 무형자산으로, 보고기간말 현재 거래소 시가가 장부금액보다 낮은 경우 손상차손을 인식하였습니다.

13. 관계기업에 대한 투자자산

(1) 당기말과 전기말 현재 관계기업에 대한 투자자산의 현황은 다음과 같습니다.

피투자회사	소재지	재무제표 기준월	지분율(%)	
			제183(당)기	제182(전)기
아주캐피탈(주1,2,5)	대한민국	9월말	12.85	12.85
카디프생명(주1,3)	대한민국	9월말	14.99	14.99
연합자산관리	대한민국	12월말	17.50	17.50
포항테크노파크2PFV(주2)	대한민국	12월말	14.90	14.90
대원토스(주1,4)	대한민국	9월말	36.33	36.33
인회(주1,4)	대한민국	9월말	15.36	15.36
대기전설 (주1,4)	대한민국	9월말	27.45	-
극동건설 (주1,2,4)	대한민국	9월말	14.30	-

- (주1) 12월말 결산 재무제표를 입수할 수 없어 2014년 9월 30일 기준으로 작성한 재무제표를 사용하여 지분율을 적용하였으며 관계기업의 보고기간 종료일과 투자회사의 보고기간 종료일 사이에 발생한 유의적인 거래나 사건은 적절히 반영하였습니다.
- (주2) 아주캐피탈, 포항테크노파크2PFV와 극동건설의 지분율은 15% 이하이나 연결실체가 피투자회사의 재무정책과 영업정책에 관한 의사결정에 참여할 수 있는 임원의 선임에 유의적인 영향력을 행사할 수 있으므로 지분율을 적용하였습니다.
- (주3) 카디프생명의 지분율은 15% 이하이나, 중요한 영업상의 거래를 통하여 유의적인 영향력을 행사할 수 있으므로 관계기업에 대한 투자자산으로 계상하였습니다.
- (주4) 대원토스, 인회, 대기전설 및 극동건설은 회생절차 과정에서 출자전환을 통해 주식을 취득하였으며, 회생절차 중에는 의결권을 행사할 수 없으므로 매도가능금융자산으로 분류하고 공정가치로 평가하였습니다. 당기 이전 및 당기 중 회생절차가 종료됨에 따라 정상적인 의결권 행사가 가능하여, 매도가능금융자산에서 관계기업투자자산으로 재분류하였습니다.
- (주5) 당기말 현재 보유한 시장성 있는 관계기업 투자주식의 시장가치는 47,624백만원이며 이는 한국증권거래소의 2014년 12월 30일자 종가 6,440원, 총 보유주식수 7,395,000주를 기준으로 산출하였습니다.

(2) 당기말과 전기말 현재 관계기업에 대한 투자자산의 내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)							
피투자회사	취득원가	기초	취득(처분)	자분법손익	(부의)자분법 자본변동	배당	당기말
아주캐피탈	36,971	28,228	-	3,438	(131)	(1,109)	30,426
카디프생명	35,279	51,634	-	953	4,394	(84)	56,897
연합자산관리	85,060	139,269	-	10,066	(56)	(35,041)	114,238
포항테크노파크2PPV	4,470	2,847	-	(870)	-	-	1,977
대원토스	-	-	-	-	-	-	-
인희	-	362	-	170	-	-	532
대기전설	-	-	-	41	3	-	44
극동건설	9,092	-	9,092	(1,990)	56	-	7,158
합 계	170,862	222,340	9,092	11,808	4,266	(36,234)	211,272

<제182(전)기>

(단위: 백만원)							
피투자회사	취득원가	기초	취득(처분)	자분법손익	(부의)자분법 자본변동	배당	전기말
아주캐피탈	36,971	29,654	-	568	(149)	(1,845)	28,228
카디프생명	35,279	43,625	8,999	3,294	(4,284)	-	51,634
연합자산관리	85,060	120,915	-	18,373	(19)	-	139,269
신한제7호기업 구조조정조합	-	13	(13)	-	-	-	-
포항테크노파크2PPV	4,470	2,895	-	(48)	-	-	2,847
대원토스	-	122	-	(122)	-	-	-
인희	-	-	-	383	(21)	-	362
합 계	161,770	197,224	8,986	22,448	(4,473)	(1,845)	222,340

(3) 당기말과 전기말 현재 및 보고기간 중 주요 관계기업의 요약 재무정보는 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)						
피투자회사	관계기업의 요약재무정보					
	자산	부채	영업수익	당기순이익	기타포괄손익	총포괄손익
아주캐피탈	6,428,736	5,714,874	781,957	26,756	(1,016)	25,740
카디프생명	3,890,674	3,510,712	483,911	5,852	29,293	35,145
연합자산관리	4,357,490	3,688,589	548,990	57,519	(319)	57,200
포항테크노파크2PPV	14,668	1,401	-	(5,839)	-	(5,839)
대원토스	6,139	7,344	10,954	(2)	-	(2)
인회	16,284	12,826	5,041	1,105	-	1,105
대기전설	1,278	1,119	286	148	-	148
극동건설	368,308	337,159	57,654	(13,917)	348	(13,569)
합 계	15,083,577	13,274,024	1,888,793	71,622	28,306	99,928

<제182(전)기>

(단위: 백만원)						
피투자회사	관계기업의 요약재무정보					
	자산	부채	영업수익	당기순이익	기타포괄손익	총포괄손익
아주캐피탈	6,044,214	5,349,045	790,073	2,232	1,324	3,556
카디프생명	3,466,657	3,184,257	682,100	18,295	(28,557)	(10,262)
연합자산관리	4,365,097	3,567,972	708,035	105,013	(107)	104,906
포항테크노파크2PPV	20,783	1,676	-	(322)	-	(322)
대원토스	6,536	7,740	17,313	(873)	-	(873)
인회	16,481	14,127	5,866	662	(18,156)	(17,494)
합 계	13,919,768	12,124,817	2,203,387	125,007	(45,496)	79,511

(4) 당기말과 전기말 현재 관계기업의 재무정보금액을 관계기업에 대한 지분의 장부금액으로 조정 한 내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)						
피투자회사	당기말 순자산 (a)	연결실체 지분율 (b)	순자산지분금액 (a) x (b)	미실현손익	기타	장부금액
아주캐피탈(주1)	668,171	12.85%	86,860	-	(56,434)	30,426
카디프생명	379,962	14.99%	56,992	(95)	-	56,897
연합자산관리(주2)	652,801	17.50%	114,238	-	-	114,238
포항테크노파크2PPV	13,267	14.90%	1,977	-	-	1,977
대원토스(주3)	(1,205)	36.33%	(438)	-	438	-
인화	3,458	15.36%	532	-	-	532
대기전설	159	27.45%	44	-	-	44
극동건설(주4)	33,318	14.30%	4,763	-	2,395	7,158
합 계	1,749,932		263,968	(95)	(52,601)	211,272

(주1) 당기말 순자산은 비지배지분을 제외한 잔액이며, 기타는 당기말까지 인식한 누적 손실차손을 포함하고 있습니다.

(주2) 당기말 순자산은 비지배지분을 제외한 잔액입니다.

(주3) 기타는 당기 결산 누적으로 투자계정 잔액이 '0'이 되어 지분법 인식을 중지함으로 인해 인식하지 못한 누적손실 금액입니다.

(주4) 기타는 당기 취득시 발생한 영업권 금액입니다.

<제182(전)기>

(단위: 백만원)						
피투자회사	전기말 순자산 (a)	연결실체 지분율 (b)	순자산지분금액 (a) x (b)	미실현손익	기타	장부금액
아주캐피탈(주1)	651,747	12.85%	83,751	-	(56,523)	28,228
카디프생명(주2)	282,400	14.99%	42,332	(171)	9,473	51,634
연합자산관리(주3)	766,823	17.50%	139,269	-	-	139,269
포항테크노파크2PPV	19,107	14.90%	2,847	-	-	2,847
대원토스(주4)	(1,204)	36.33%	(437)	-	437	-
인화	2,354	15.36%	362	-	-	362
합 계	1,750,227		268,124	(171)	(45,613)	222,340

(주1) 전기말 순자산은 비지배지분을 제외한 잔액이며, 기타는 전기말까지 인식한 누적 손실차손을 포함하고 있습니다.

(주2) 기타는 관계기업의 보고기간 종료일과 투자회사의 보고기간 종료일 사이에 발생한 유상증자로 인한 순자산증가 효과를 고려한 금액입니다.

(주3) 전기말 순자산은 비지배지분을 제외한 잔액입니다.

(주4) 기타는 전기 결산 누적으로 투자계정 잔액이 '0'이 되어 지분법 인식을 중지함으로 인해 인식하지 못한 누적손실 금액입니다.

(5) 지분법 적용의 중지로 인하여 인식하지 못한 당기 및 전기 누적 미반영 지분법 손실 금액은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)		
피투자회사	미반영 당기 지분법 이익	미반영 누적 지분법 손실
대원토스	(1)	(438)

<제182(전)기>

(단위: 백만원)		
피투자회사	미반영 전기 지분법 손실	미반영 누적 지분법 손실
대원토스	(437)	(437)

14. 투자부동산

(1) 당기말과 전기말 현재 투자부동산의 내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)			
구 분	취득가액	감가상각누계액	장부금액
토지	546,086	-	546,086
건물	224,836	(32,308)	192,528
합 계	770,922	(32,308)	738,614

<제182(전)기>

(단위: 백만원)			
구 분	취득가액	감가상각누계액	장부금액
토지	436,046	-	436,046
건물	181,884	(20,976)	160,908
합 계	617,930	(20,976)	596,954

(2) 투자부동산 공정가치

당기말과 전기말 현재 투자부동산의 공정가치 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
투자부동산	792,716	633,516

(주) 투자부동산의 공정가치 평가는 독립적인 제3자와의 거래조건에 따른 최근 시장거래가 격과 시장에서 관측가능하지 않은 유의한 투입변수가 반영되므로 공정가치 서열수준에 있어 수준3에 해당합니다.

(3) 당기와 전기 중 투자부동산의 과목별 장부금액의 증감내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)			
구 분	토지	건물	합 계
기 초	436,046	160,908	596,954
감가상각비	-	(7,999)	(7,999)
유형자산으로부터 대체	109,199	38,615	147,814
매각예정비유형자산으로부터 대체	841	1,000	1,841
환율조정효과	-	4	4
기 말	546,086	192,528	738,614

<제182(전)기>

(단위: 백만원)			
구 분	토지	건물	합 계
기 초	437,301	108,131	545,432
처분	(799)	(638)	(1,437)
감가상각비	-	(6,416)	(6,416)
유형자산(으로)부터 대체	(456)	59,827	59,371
환율조정효과	-	4	4
기 말	436,046	160,908	596,954

(4) 투자부동산으로부터 발생한 손익

당기와 전기 중 투자부동산과 관련하여 포괄손익계산서에 계상된 관련 손익의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
투자부동산에서 발생한 임대수익	25,162	21,462
임대수익이 발생한 투자부동산과 직접 관련된 영업비용	5,989	5,957
투자부동산 처분으로 인한 이익	-	248

15. 기타자산

당기말과 전기말 현재 기타자산의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
미수금	3,987,769	2,413,770
미회수내국환채권	2,067,025	2,361,995
예치보증금	1,177,578	1,220,377
미수수익	803,708	923,332
선급비용	95,545	74,614
가지급금	67,554	68,015
잡자산	107,818	169,739
기타	345	235
현재가치할인차금	(54,894)	(66,156)
대손충당금	(62,177)	(58,426)
합 계	8,190,271	7,107,495

16. 담보제공자산 및 담보로 제공받은 자산

(1) 당기말과 전기말 현재 담보로 제공한 자산의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
구 분		제183(당)기	제182(전)기	담보제공사유
대출채권		73,773	115,927	차입부채
유가증권(주1)	매도가능금융자산	574,334	1,178,428	차입부채, 한은결제이행담보, 차입유가증권 등
	만기보유금융자산	5,216,661	4,858,521	차입부채, 한은결제이행담보, 대고객RP 등
	소 계	5,790,995	6,036,949	
유형자산(주2)		4,762	6,488	근저당권 설정 등
합 계		5,869,530	6,159,364	

(주1) 제3자가 연결실체의 채무불이행과 무관하게 매도 및 재담보 제공 가능한 담보의 장부금액은 당기말과 전기말 현재 각각 493,104백만원, 483,371백만원입니다.

(주2) 근저당권 설정 등 관련 채권최고액 기준입니다.

(2) 채무불이행과 무관하게 매도 및 재담보 제공 가능한 담보 보유물

당기말과 전기말 현재 채무불이행과 무관하게 매도 및 재담보 제공 가능한 담보의 공정가치는 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
구 분	제183(당)기		제182(전)기	
	담보물의 공정가치	매도하거나 담보로 다시 제공한 담보물의 공정가치	담보물의 공정가치	매도하거나 담보로 다시 제공한 담보물의 공정가치
유가증권	2,432,109	-	2,759,192	-

17. 당기손익인식지정금융부채

(1) 당기말과 전기말 현재 당기손익인식지정금융부채의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분(주1)	제183(당)기	제182(전)기
예수부채(주2,3)	6,139	-

(주1) 당행은 내재파생상품이 포함된 복합금융상품 중 기업회계기준서 제1039호 '금융상품: 인식과 측정'에 따라 당기손익인식금융부채의 지정이 허용되는 복합계약을 당기손익인식금융부채로 지정하였습니다.

(주2) 당기손익인식지정금융부채의 장부금액은 당행이 채택한 옵션평가모형에 근거하여 산정하였습니다.

(주3) 당기 중 당행의 신용위험 변동으로 인하여 손익으로 인식된 금액은 없습니다.

(2) 당기말 현재 당기손익인식지정금융부채의 계약조건에 따른 원금에 대한 만기상환금액과 장부금액은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)			
구 분	계약상 만기상환금액	장부금액	차이금액
예수부채	6,171	6,139	32

(3) 당기 중 당기손익인식지정금융부채 관련순손익(이자수익 및 이자비용 제외)의 내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)			
구 분	평가손익	매매손익	합 계
예수부채	32	2	34

18. 예수부채

당기말과 전기말 현재 예수부채의 종류별 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
과 목		제183(당)기	제182(전)기
요구불예수부채	원화예수부채	62,007,754	52,499,442
	외화예수부채	6,334,678	6,007,426
	소 계	68,342,432	58,506,868
기한부예수부채	원화예수부채	104,749,605	101,137,384
	외화예수부채	9,427,981	9,230,994
	공정가치위험회피손익	15,352	(102,849)
	소 계	114,192,938	110,265,529
양도성예금증서		2,145,645	1,781,684
발행어음예수부채		3,241,082	3,132,185
어음관리계좌수탁금		1,682,610	1,291,588
기타		35,165	42,578
합 계		189,639,872	175,020,432

19. 단기매매금융부채

당기말과 전기말 현재 단기매매금융부채의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
과 목	제183(당)기		제182(전)기	
	이자율(%)	금액	이자율(%)	금액
금예수부채	-	428,936	-	398,596

20. 차입부채

당기말과 전기말 현재 차입부채의 종류별 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)							
과 목		제183(당)기			제182(전)기		
		이자율(%)		금 액	이자율(%)		금 액
		최고	최저		최고	최저	
콜머니	원화	1.98	1.83	1,436,900	2.32	2.32	3,700
	외화	9.00	0.10	345,836	5.08	0.10	314,660
	소 계			1,782,736			318,360
매출어음		2.50	1.40	31,059	2.93	1.50	28,631
환매조건부 채권매도	원화	1.62	1.62	7,921	2.55	2.27	13,121
	외화	5.82	0.50	368,788	3.34	0.66	331,511
	소 계			376,709			344,632
원화차입부채	한은차입부채	1.00	0.50	1,366,192	1.00	0.50	1,269,610
	기타차입부채	5.05	0.00	3,315,403	5.05	0.00	3,307,945
	소 계			4,681,595			4,577,555
외화차입부채	외화타점차	0.67	0.55	337,194	0.78	0.73	225,689
	은행차입부채	8.85	0.28	2,783,837	1.83	0.05	2,640,072
	전대차입부채	0.79	0.25	995,522	-	-	-
	기타차입부채	0.68	0.48	1,738,494	1.85	0.55	1,842,079
	소 계			5,855,047			4,707,840
외화수탁금		0.10	0.10	77,179	0.10	0.10	94,315
이연부대비용				(1,504)			(1,994)
합 계				12,802,821			10,069,339

21. 사채

당기말과 전기말 현재 사채의 종류별 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)							
과 목		제183(당)기			제182(전)기		
		이자율(%)		금액	이자율(%)		금액
		최고	최저		최고	최저	
원화사채	일반사채	8.91	0.00	9,640,890	8.36	0.00	8,956,923
	후순위사채	5.10	3.41	2,901,239	7.70	3.41	5,060,630
	공정가액위험회피이익			34,277			(24,853)
	할인발행차금			(26,825)			(37,752)
	소 계			12,549,581			13,954,948
외화사채	일반사채	4.50	0.32	3,997,657	8.13	0.74	3,729,625
	공정가액위험회피손실			46,850			70,163
	할인발행차금			(12,680)			(15,081)
	소 계			4,031,827			3,784,707
합 계				16,581,408			17,739,655

22. 확정급여부채

연결실체는 종업원의 용역제공기간을 기초로 확정급여연금제도를 운영하고 있습니다. 또한, 연결실체는 사외적립자산을 신탁사, 펀드사 및 기타 유사기업에 신탁하고 있습니다.

(1) 확정급여제도 자산 및 부채

당기말과 전기말 현재 확정급여제도하의 자산 및 부채의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당기)	제182(전기)
확정급여채무의 현재가치	999,623	737,773
사외적립자산의 공정가치	(753,648)	(670,335)
재무상태표 계상 부채	245,975	67,438

(2) 당기와 전기 중 확정급여채무의 증감내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당기)	제182(전기)
기 초	737,773	748,324
당기근무원가	99,879	105,065
이자비용	35,250	31,998
재측정요소(주1)	158,265	(24,976)
과거근무원가(주2)	-	(96,779)
환율차이	63	(92)
급여지급액	(33,979)	(27,942)
기타	2,372	2,175
기 말	999,623	737,773

(주1) 당기말 현재 재측정요소는 인구통계적가정 변동에 따른 보험수리적이익 3,580백만원과 재무적가정 변동에 따른 보험수리적손실 163,383백만원, 그리고 경험조정으로 인한 이익 1,538백만원으로 구성되어 있습니다.

(주2) 전기 중 제도의 축소에 해당하는 퇴직급여제도의 변경이 있었으며, 그 결과 연결실체의 확정급여채무는 96,779백만원 감소하였고 부의 과거근무원가가 전기손익으로 인식되었습니다.

(3) 당기와 전기 중 사외적립자산의 증감내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
기 초	670,335	583,657
이자수익	33,383	26,117
재측정요소	(15,755)	(7,566)
사용자의 기여금	93,000	90,000
급여지급액	(27,315)	(21,873)
기 말	753,648	670,335

(4) 사외적립자산 구성내역

당기말과 전기말 현재 사외적립자산의 구성내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
정기예금	713,045	646,711
기타	40,603	23,624
합 계	753,648	670,335

(5) 보험수리적 가정

당기말과 전기말 현재 보험수리적 가정의 내역은 다음과 같습니다.

구 분	제183(당)기	제182(전)기	비 고
할인율(기대수익률)	4.02%	4.98%	AAO 회사채 수익률
미래익금상승률	2.84%+승급률	2.44%+승급률	과거 5개년의 평균

(주) 보험수리적 가정은 국내 지점의 평가에 한하여 적용되었습니다.

(6) 민감도 분석

당기말과 전기말 현재 주요 가정의 변동에 따른 확정급여채무의 현재가치는 다음과 같습니다.

1) 할인율

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
적용된 가정에 따른 현재가치	999,623	737,773
1%Point 증가	877,225	652,611
1%Point 감소	1,146,496	839,290

2) 임금인상률

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
적용된 가정에 따른 현재가치	999,623	737,773
1%Point 증가	1,146,869	840,998
1%Point 감소	874,776	649,864

(7) 당기말과 전기말 평가 시 적용한 확정급여채무의 가중평균 만기는 각각 16.33년과 16.11년입니다.

23. 충당부채

(1) 당기와 전기 중 충당부채 증감내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)						
구 분	복구충당부채	소송	미사용한도	지급보증	기타	합 계
기 초	25,364	94,735	91,415	92,561	59,941	364,016
전입(환입)액	1,056	(26,178)	(7,023)	10,487	14,182	(7,476)
사용액	(1,221)	(46,766)	-	-	(20,136)	(68,123)
환출변동	-	439	1,299	11,604	772	14,114
기타(주)	3,897	-	-	(7,700)	-	(3,803)
기 말	29,096	22,230	85,691	106,952	54,759	298,728

<제182(전)기>

(단위: 백만원)						
구 분	복구충당부채	소송	미사용한도	지급보증	기타	합 계
기 초	23,023	97,041	85,930	76,891	48,742	331,627
전입(환입)액	545	(2,149)	4,344	21,909	39,776	64,425
사용액	(189)	-	-	-	(25,569)	(25,758)
환출변동	-	(157)	1,141	2,240	(41)	3,183
기타(주)	1,985	-	-	(8,479)	(2,967)	(9,461)
기 말	25,364	94,735	91,415	92,561	59,941	364,016

(주) 최초 공정가치로 평가하는 금융보증계약의 신규 발생과 만기 도래에 따른 변동 및 할인율 변동에 따른 효과 등입니다.

(2) 복구충당부채

복구충당부채는 보고기간말 현재 임차점포의 미래 예상 복구비용의 최선의 추정치를 적절한 할인율로 할인한 현재가치입니다. 동 복구비용의 지출은 개별 임차점포의 임차계약 종료시점에 발생할 예정이며, 이를 합리적으로 추정하기 위하여 과거 10개년간 임차계약이 종료된 임차점포의 평균존속기간을 이용하였습니다. 또한 예상 복구비용을 추정하기 위하여 과거 3개년간 복구공사가 발생한 점포의 실제 복구공사비용의 평균값 및 3개년간 평균 인플레이션율을 사용하였습니다.

24. 기타부채

당기말과 전기말 현재 기타부채의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
과 목	제183(당)기	제182(전)기
미지급금	3,907,195	2,360,850
신탁계정미지급금	2,017,810	2,298,642
미지급비용	2,616,317	2,714,427
미지급내국환채무	1,430,094	945,959
대리점	2,226,742	2,338,951
대행업무수입금	641,269	581,158
수입보증금	373,298	351,733
미지급외국환채무	226,079	206,341
가수금	85,837	70,374
선수수익	73,250	75,613
제세예수금	93,037	107,316
잔부채	25,509	145,933
미지급배당금	14,937	18,545
현재가치할인차금	(2,296)	(2,642)
합 계	13,729,078	12,213,200

25. 자본

(1) 당기말과 전기말 현재 자본 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
과 목		제183(당)기	제182(전)기
자본금	보통주자본금	7,928,078	7,928,078
신종자본증권		1,100,250	2,099,350
자본잉여금	주식발행초과금	398,080	398,080
	기타자본잉여금	5,084	5,084
	소 계	403,164	403,164
자본조정	주식선택권	(22)	25
	기타자본조정	(820)	-
	소 계	(842)	25
기타포괄손익누계액	매도가능금융자산평가손익	627,834	564,023
	관계기업의 기타포괄손익에대한지분	7,738	3,441
	해외사업환산손익	(152,433)	(157,229)
	확정급여제도의 재측정요소	(245,740)	(113,833)
	소 계	237,399	296,402
이익잉여금	법정적립금(주1)	1,232,400	1,098,257
	임의적립금(주2)	7,989,920	7,159,989
	기타준비금(주3)	62,496	51,400
	미처분이익잉여금(주4)	1,520,758	1,496,698
	소 계	10,805,574	9,806,344
비지배지분		3,277	2,718
합 계		20,476,900	20,536,081

(주1) 은행법 제40조 규정에 의하여 자본금의 총액에 달할 때까지 결산순이익금을 배당할 때마다 그 순이익금의 10% 이상을 매 결산기에 적립한 이익준비금으로, 결손보전과 자본전입의 경우를 제외하고는 이를 사용할 수 없습니다.

(주2) 당기말 1,885,516백만원의 별도재무제표 기준 대손준비금과 355,888백만원의 재평가적립금이 포함되어 있으며, 전기말 1,693,225백만원의 별도재무제표 기준 대손준비금과 355,888백만원의 재평가적립금이 포함되어 있습니다.

(주3) 해외자점에서 현지 법규에 의하여 적립한 준비금으로 현지 소재지점의 결손보전을 위해서만 사용할 수 있습니다.

(주4) 당기말 별도재무제표 기준 대손준비금 전입예정액 42,733백만원과 연결재무제표 기준 대손준비금 적립액 차이의 16,889백만원과 대손준비금 전입예정액 25,844백만원이 포함되어 있습니다.

(2) 당기말과 전기말 현재 자본금 내역은 다음과 같습니다.

과 목	제183(당)기	제182(전)기
발행할 주식의 총수	2,000,000,000 주	2,000,000,000 주
1주의 금액	5,000 원	5,000 원
발행한 주식의 수	1,585,615,506 주	1,585,615,506 주

(3) 신종자본증권

당기말과 전기말 현재 자본으로 분류한 신종자본증권은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)					
구 분	발행일	만기일	금 액		이자율(%)
			제183(당)기	제182(전)기	
외화신종 자본증권	2005-03-02	2035-03-02	298,951	298,951	5.66
	2006-09-20	2036-09-20	94,761	94,761	6.82
	2006-09-20	2036-09-20	237,144	237,144	6.82
원화신종 자본증권	2008-03-21	2038-03-21	119,878	119,878	7.30
	2008-03-25	2038-03-25	49,948	49,948	7.30
	2009-06-05	2039-06-05	-	699,370	5.95
	2009-06-29	2039-06-29	-	299,730	5.95
	2013-06-07	2043-06-07	299,568	299,568	4.63
합 계			1,100,250	2,099,350	
신종자본증권 배당금			96,293	133,290	
가중평균이자율(%)			6.24	6.35	

상기 신종자본증권은 발행일이후 5년 또는 10년이 지난 후 연결실체가 조기상환할 수 있으며, 만기일에 동일한 조건으로 만기를 연장할 수 있습니다. 또한, 보통주에 대한 배당을 지급하지 않기로 결의한 경우 약정이자를 지급하지 아니합니다.

(4) 기타포괄손익누계액

당기와 전기 중 기타포괄손익누계액의 재분류조정을 포함한 증감내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)					
구 분	매도가능금융자산 평가손익	관계기업의 기타포괄손익에 대한지분	해외사업 환산손익	확정급여제도 재측정요소	합 계
기초	564,023	3,441	(157,229)	(113,833)	296,402
당기 발생 차익:					
공정가치평가로 인한 증감	396,065	-	-	-	396,065
지분법평가로 인한 증감	-	4,266	-	-	4,266
당기손익에 포함된 차익의 재분류조정:					
자산손상으로 인한 증감	(17,714)	-	-	-	(17,714)
처분으로 인한 증감	(297,540)	-	-	-	(297,540)
위험회피회계적응효과	2,181	-	15,621	-	17,802
환율차이로 인한 효과	1,191	-	(6,502)	-	(5,311)
확정급여제도의 재측정	-	-	-	(174,020)	(174,020)
법인세효과	(20,372)	31	(4,323)	42,113	17,449
기말	627,834	7,738	(152,433)	(245,740)	237,399

<제182(전)기>

(단위: 백만원)					
구 분	매도가능금융자산 평가손익	관계기업의 기타포괄손익에 대한지분	해외사업 환산손익	확정급여제도 재측정요소	합 계
기초	868,708	7,868	(94,943)	(127,030)	654,603
당기 발생 차익(차손):					
공정가치평가로 인한 증감	56,366	-	-	-	56,366
지분법평가로 인한 증감	-	(4,473)	-	-	(4,473)
당기손익에 포함된 차익의 재분류조정:					
자산손상으로 인한 증감	10,832	-	-	-	10,832
처분으로 인한 증감	(472,352)	-	-	-	(472,352)
위험회피회계적응효과	4,170	-	71,031	-	75,201
환율차이로 인한 효과	(976)	-	(122,512)	-	(123,488)
확정급여제도의 재측정	-	-	-	17,410	17,410
법인세효과	97,275	46	(10,805)	(4,213)	82,303
기말	564,023	3,441	(157,229)	(113,833)	296,402

(5) 이익잉여금처분계산서

당기와 전기의 이익잉여금처분계산서는 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
내 용(주)	제183(당)기	제182(전)기
	처분예정일: 2015년 3월 18일	처분확정일: 2014년 3월 25일
I. 미처분이익잉여금	1,337,017	1,335,171
1. 전기이월미처분이익잉여금	-	-
2. 회계정책변경효과	-	127,030
3. 신종자본증권이자	(96,293)	(133,290)
4. 당기순이익	1,433,310	1,341,431
II. 임의적립금등의이입액	5,659,656	4,832,017
1. 임의적립금	5,659,656	4,832,017
합 계	6,996,673	6,167,188
III. 이익잉여금처분액	6,996,673	6,167,188
1. 이익준비금	143,331	134,143
2. 대손준비금	42,733	2,291
3. 기타준비금	12,720	11,098
4. 임의적립금	6,346,989	5,659,656
5. 신종자본증권상환손실	900	-
6. 배당금 보통주 현금배당 주당: 당기 283.80원(5.68%) 전기 227.04원(4.54%)	450,000	360,000
IV. 차기이월미처분이익잉여금	-	-

(주) 상기 이익잉여금처분계산서는 당행의 별도재무제표에 근거하여 작성되었습니다.

(6) 배당금

당기와 전기의 보통주 배당금 계산내역은 다음과 같습니다.

(단위: 주, 원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
배당받을 주식수	1,585,615,506	1,585,615,506
주당액면금액	5,000	5,000
액면배당률	5.68%	4.54%
주당배당금액	283.80	227.04

(7) 배당성향

당기와 전기 보통주에 대한 배당성향의 계산내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
보통주 배당금	450,000	360,000
당기순이익(주)	1,455,224	1,373,017
배당성향 (당기순이익 기준)	30.92%	26.22%
대손준비금 반영후 조정이익(주)	1,429,380	1,373,084
배당성향 (대손준비금 반영후 조정이익 기준)	31.48%	26.22%

(주) 당기순이익과 대손준비금 반영 후 조정이익은 지배회사 소유지분 기준 금액입니다.

26. 대손준비금

대손준비금은 은행업감독규정 제29조 제1항 및 제2항에 따라 산출 및 공시되는 사항입니다.

(1) 대손준비금 잔액

당기말과 전기말 현재 대손준비금 잔액은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
대손준비금 적립액	1,718,248	1,718,315
대손준비금 전입(환입)예정액	25,844	(67)
대손준비금 잔액	1,744,092	1,718,248

(2) 대손준비금 전입액 및 대손준비금 반영 후 조정이익 등

당기와 전기 중 대손준비금 전입액 및 대손준비금 반영후 조정이익 등은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
대손준비금 전입(환입) 필요액	25,844	(67)
대손준비금 반영후 조정이익	1,429,809	1,373,243
대손준비금 반영후 주당 조정이익(원)	841	782

27. 순이자수익

(1) 당기와 전기 중 이자수익의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
현금및예치금이자	124,682	92,416
단기매매금융자산이자	205,994	214,490
매도가능금융자산이자	596,681	756,983
만기보유금융자산이자	333,114	380,286
대출채권이자	7,158,168	7,530,975
기타이자	94,677	112,223
합 계	8,513,316	9,087,373
손상된 금융자산에서 발생한 이자수익	34,702	45,023

(2) 당기와 전기 중 이자비용의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
예수부채이자	3,369,225	3,816,612
차입부채이자	191,762	207,298
사채이자	524,078	658,004
기타이자	61,118	54,911
합 계	4,146,183	4,736,825

28. 순수수수료수익

당기와 전기 중 수수료 수익·비용의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제183(당)기	제182(전)기
수수료수익	여신취급수수료	56,853	56,620
	전자금융수수료	134,496	130,982
	증개수수료	105,920	118,318
	업무대행수수료	328,266	318,223
	투자금융수수료	45,761	38,335
	외환수입수수료	137,516	132,422
	신탁보수수수료	49,741	42,241
	수입보증료	55,009	55,512
	기타수수료	57,922	52,450
	합 계	971,484	945,103
수수료비용	여신관련수수료	28,776	29,781
	브랜드사용수수료	50,655	83,599
	서비스관련수수료	14,493	14,962
	매매및증개관련수수료	4,107	5,251
	외환지급수수료	21,285	20,046
	기타수수료	49,225	42,564
	합 계	168,541	196,203

29. 배당수익

당기와 전기 중 배당수익의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
단기매매금융자산	6,186	1,733
매도가능금융자산	87,292	63,909
합 계	93,478	65,642

30. 단기매매금융상품 관련 손익

당기와 전기 중 단기매매금융상품 관련 손익의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
구 분			제183(당)기	제182(전)기
단기매매 금융상품	채무증권	평가이익	15,810	1,736
		처분이익	10,195	7,953
		평가손실	(4,248)	(17,262)
		처분손실	(4,971)	(12,085)
		소 계	16,786	(19,658)
	지분증권	평가이익	3,897	9,396
		처분이익	29,033	32,868
		평가손실	(7,088)	(1,559)
		처분손실	(10,486)	(16,198)
		소 계	15,356	24,507
	금관련	평가이익	-	157,548
		처분이익	1,499	2,941
		평가손실	(19,403)	(91,523)
		처분손실	(203)	(586)
		소 계	(18,107)	68,380
	합 계		14,035	73,229
매매목적 파생금융상품	외환관련	평가 및 거래이익	1,917,601	2,267,773
		평가 및 거래손실	(1,953,554)	(2,350,531)
		소 계	(35,953)	(82,758)
	이자율관련	평가 및 거래이익	615,343	626,287
		평가 및 거래손실	(631,345)	(630,083)
		소 계	(16,002)	(3,796)
	주식관련	평가 및 거래이익	15,327	21,454
		평가 및 거래손실	(15,025)	(23,402)
		소 계	302	(1,948)
	상품관련	평가 및 거래이익	25,574	4,348
		평가 및 거래손실	(27,760)	(32,317)
		소 계	(2,186)	(27,969)
	합 계		(53,839)	(116,471)
총 계			(39,804)	(43,242)

31. 금융상품자산 손상차손

당기와 전기 중 금융상품자산 손상차손의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제183(당)기	제182(전)기
금융상품 손상차손	대출채권 및 기타금융자산	463,724	673,744
	매도가능금융자산	220,286	203,584
합 계		684,010	877,328

32. 일반관리비

당기와 전기 중 일반관리비의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제183(당)기	제182(전)기
종업원급여	장·단기 종업원급여	1,526,950	1,438,523
	확정급여형 퇴직급여	101,746	14,167
	해고급여	106,226	56,184
	소 계	1,734,922	1,508,874
감가상각비및 기타상각비	감가상각비	132,605	136,930
	무형자산상각비	70,345	66,657
	소 계	202,950	203,587
기타일반관리비	복리후생비	122,265	113,234
	임차료	258,737	253,990
	용역비	224,462	243,294
	제세공과금	82,229	83,193
	광고선전비	59,057	51,912
	전산운용비	63,441	62,739
	기타의 관리비	169,948	172,059
	소 계	980,139	980,421
합 계		2,918,011	2,692,882

33. 주식기준보상

(1) 당기말 현재 주식기준보상약정은 다음과 같습니다.

구 분	4차발행분	5차발행분	7차발행분
① 권리부여일	2005.3.30	2006.03.21	2008.03.19
② 행사가격	28,006원	38,829원	49,053원
③ 부여수량	1,871,400주	2,143,800주	314,700주
④ 행사가능기간	권리부여일로부터 3년이후 4년간(주1)	권리부여일로부터 3년이후 4년간(주1)	권리부여일로부터 3년이후 4년간
⑤ 수량증감내역			
기초	93,426	101,963	247,873
행사된 수	-	-	(35,294)
당기말	93,426	101,963	212,579
당기말 행사가능	93,426	101,963	212,579
⑥ 부채평가방법	공정가치	공정가치	공정가치
평가모형	Black-Scholes Model	Black-Scholes Model	Black-Scholes Model
주가	44,450원	44,450원	44,450원
기대주가 변동성	-	-	16.90%
만기(년)	-	-	0.11
기대배당율	-	-	1.58%
무위험이자율	-	-	2.06%
⑦ 공정가치	16,444원	5,621원	39원

(주1) 당기말 현재 4차와 5차 부여분의 잔여 수량은 행사가 보류되어 있습니다.

(주2) 당기말 현재 주식매수선택권은 모두 가득되었으며, 잔여수량 407,968개의 가중평균행사가격은 41,678원입니다.

(2) 주식결제형 주식기준보상약정

① 당기말 현재 성과연동형 주식기준보상 내용은 다음과 같습니다.

구 분	내용
유형	주식결제형
부여기간(약정응역기간)	2013년까지 부여분: 2010년 4월 1일 이후 선임 및 승진시(부여일로부터 3년간) 2014년부터 부여분: 2014년 1월 1일 이후 선임 및 승진시(부여일로부터 1년간)
성과조건	2013년 까지 상대주가연동(33.4%) 및 4년간 경영지표연동(66.6%), 2014년 부터 상대주가연동(20.0%) 및 4년간 경영지표연동(80.0%)

② 부여 수량 및 부여시점의 공정가치는 다음과 같습니다.

부여일	부여수량	공정가치(주1)	추정수량(주2)
2010-04-01	306,400	45,150	15,747
2010-07-21	3,800	46,800	39
2010-08-30	12,400	46,500	1,023
2010-11-04	3,800	44,000	268
2010-12-30	42,800	52,900	4,712
2011-01-11	65,200	51,500	42,674
2011-01-28	49,500	50,700	43,096
2011-02-10	3,300	49,700	2,053
2011-04-18	15,400	46,800	11,946
2012-01-26	49,200	44,300	30,972
2012-02-08	30,900	46,650	19,474
2012-03-27	4,100	44,550	2,362
2012-08-24	10,800	36,150	4,830
2012-10-15	4,100	37,200	2,714
2013-01-01	183,100	40,050	101,261
2013-03-21	4,400	37,750	1,149
2013-05-27	14,500	40,250	7,736
2013-08-01	4,400	41,250	2,080
2014-01-01	109,800	47,300	101,016
2014-02-08	5,400	44,300	4,449
2014-04-01	4,800	47,000	3,324
2014-10-15	2,400	47,150	470
합 계	930,500		403,395

(주1) 부여시점의 신한금융지주 주식 종가를 단위당 공정가치로 산정하였습니다.

(주2) 최초 부여 시점의 부여수량에 약정유역기간 중 재임일수에 해당하는 기준수량을 기준으로 상대주가 상승률에 따른 부여수량을 조정하고(2013년까지 33.4% 2014년부터 20.0%), 경영성과달성률에 따른 부여수량을 조정하여(2013년까지 66.6% 2014년부터 80.0%) 운영기간 종료 후 획득수량을 확정합니다.

(주3) 지급약정에 따라 연결실체가 신한금융지주회사에 지급해야할 금액을 자본에 직접 차감하여 부채로 인식하였습니다. 당기말 현재 신한금융지주회사가 평가한 공정가치는 44,450원입니다.

(3) 당기와 전기 중 발생한 보상원가의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
당기 인식한 총보상원가	6,127	7,946

(4) 당기말과 전기말 현재 주식기준보상 관련 미지급비용과 잔여보상원가의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
당기 이후 인식할 잔여보상원가	5,417	7,704
미지급비용	20,494	21,427

34. 기타영업손익

당기와 전기 중 기타영업손익의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제183(당)기	제182(전)기
기타영업수익			
자산처분관련	대출채권처분이익	16,932	8,348
	상각채권처분이익	9,572	76,713
	소 계	26,504	85,061
기타영업수익	위험회피대상관련이익	77,801	285,995
	위험회피수단관련이익	235,653	28,610
	지급보증충당금환입액	5,403	-
	기타부채성충당금환입액	35,792	-
	기타	25,282	17,481
	소 계	379,931	332,086
기타영업수익 합계		406,435	417,147
기타영업비용			
자산처분관련	대출채권처분손실	148	28,982
기타영업비용	위험회피대상관련손실	236,023	28,451
	위험회피수단관련손실	68,841	291,814
	지급보증충당금전입액	15,890	21,909
	기타부채성충당금전입액	17,829	42,516
	기금출연금	244,914	244,521
	예금보험료	240,513	239,257
	기타	87,395	92,640
	소 계	911,405	961,108
기타영업비용 합계		911,553	990,090
기타영업손익		(505,118)	(572,943)

35. 영업외손익

당기와 전기 중 영업외손익의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제183(당)기	제182(전)기
영업외수익			
자산처분관련	유형자산처분이익	476	1,036
	무형자산처분이익	460	179
	투자부동산처분이익	-	248
	소 계	936	1,463
관계기업 투자자산관련	처분이익	-	57
기타영업외수익	투자부동산임대수익	25,162	21,462
	기타	53,729	43,739
	소 계	78,891	65,201
영업외수익 합계		79,827	66,721
영업외비용			
자산처분관련	유형자산처분손실	1,153	306
	무형자산처분손실	68	71
	소 계	1,221	377
기타영업외비용	투자부동산감가상각비	7,999	6,416
	기부금	12,717	35,745
	유형자산손상차손	1	85
	무형자산손상차손	547	1,649
	기타	30,750	36,856
	소 계	52,014	80,751
영업외비용 합계		53,235	81,128
영업외손익		26,592	(14,407)

36. 법인세비용 및 이연법인세

(1) 법인세비용 구성내역

당기와 전기 중 법인세비용 산출내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
당기 법인세 부담액	405,064	390,972
일시적차이로 인한 이연법인세 변동액	(42,359)	(119,072)
자본에 직접 반영된 이연법인세	17,438	82,937
법인세비용	380,143	354,837

(2) 법인세비용 차이내역

당기와 전기 중 법인세비용차감전순이익과 법인세비용간의 관계는 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
법인세비용차감전순이익	1,835,796	1,728,013
적용세율	24.20%	24.20%
적용세율에 따른 법인세	443,801	417,717
비과세수익	(28,480)	(34,915)
비공제비용	3,776	8,947
연결납세	(33,880)	(30,333)
기타	(5,074)	(6,579)
법인세비용	380,143	354,837
유효세율	20.71%	20.53%

(3) 일시적차이와 이연법인세

당기와 전기 중 일시적차이 및 이연법인세자산(부채)의 증감내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)					
구 분	기초잔액	감소	증가	기말잔액	이연법인세자산 (부채)(주1)
미수수익	(441,833)	(441,833)	(347,483)	(347,483)	(84,091)
미수금	(8,133)	(8,133)	(58,567)	(58,567)	(14,173)
자기대매금융자산	(67,935)	(118,756)	(135,567)	(84,746)	(20,509)
매도가능금융자산	1,730,484	919,944	361,189	1,171,729	283,568
관계기업등에대한투자자산(주2)	(59,147)	(102,508)	-	43,362	10,494
이연대출부대수익	(46,552)	(87,737)	(304,481)	(263,296)	(63,718)
유형자산평가 및 상각 등	(446,441)	6,473	3,100	(449,814)	(108,855)
파생상품자산(부채)	(970)	55,193	(15,607)	(71,770)	(17,368)
예수부채	105,159	119,482	134,019	120,696	29,208
미지급비용	200,644	201,669	331,497	330,472	79,974
확정급여부채	602,296	27,316	293,053	868,023	210,062
사외적립자산	(602,296)	(27,315)	(178,677)	(753,648)	(182,383)
기타충당부채	299,765	299,765	191,776	191,776	46,410
지급보증충당부채	92,561	92,561	106,952	106,952	25,882
압축기장충당부채	(180,945)	-	(86)	(181,031)	(43,810)
일시상각충당부채	(2,850)	(232)	-	(2,618)	(634)
간주배당	5,513	-	-	5,513	1,334
매도가능금융자산평가손익	(744,094)	(744,094)	(828,276)	(828,276)	(200,443)
미지급기부금	50,306	50,306	49,300	49,300	11,931
대손충당금 및 대손금	159,419	159,419	192,503	192,503	50,117
주식보상비용 관련 조정액	3,299	3,221	2,118	2,196	531
의제배당	3,966	57	-	3,909	946
기타	(518,441)	(718,795)	64,045	264,399	63,986
소 계	134,775	(313,998)	(139,192)	309,581	78,449
<이연법인세자산 및 부채로 인식하지 않은 일시적 차이>					
관계기업등에대한투자자산(주2)	(10,356)	(76,500)	(77,676)	(11,532)	(2,791)
합 계	145,131	(237,498)	(61,516)	321,113	81,240

(주1) 환율변동효과로 해외종속회사의 이연법인세자산 19백만원이 증가하였습니다.

(주2) 지분법평가로 인한 법인세 효과는 관계기업 피투자회사별로 이연법인세의 적용가능금액 및 실현가능성을 고려하여 합리적으로 추정하고 있습니다.

<제182(전)기>

(단위: 백만원)					
구 분	기초잔액	감소	증가	기말잔액	이연법인세자산 (부채)(주1)
미수수익	(508,335)	(508,335)	(441,833)	(441,833)	(106,923)
미수금	(53,882)	(80,536)	(34,787)	(8,133)	(1,968)
단기매대금융자산	(14,401)	(3,871)	(57,405)	(67,935)	(16,440)
매도가능금융자산	1,295,094	559,161	994,551	1,730,484	418,777
관계기업등에대한투자자산(주2)	(42,909)	-	(16,238)	(59,147)	(14,313)
이연대출부대수익(비용)	(33,253)	(44,110)	(57,399)	(46,552)	(11,266)
유형자산평가 및 하락 등	(438,627)	11,747	3,933	(446,441)	(108,039)
파생상품자산(부채)	(98,600)	(156,551)	(58,921)	(970)	(234)
예수부채	132,232	167,214	141,141	106,159	25,690
미지급비용	182,339	183,053	201,368	200,644	48,566
확정급여부채	711,245	21,872	(87,087)	602,286	145,753
사외적립자산	(472,230)	(21,873)	(151,929)	(602,286)	(145,753)
기타충당부채	254,688	254,688	299,765	299,765	72,543
지급보증충당부채	76,891	76,891	92,561	92,561	22,400
압축기장충당부채	(181,096)	(151)	-	(180,945)	(43,789)
일시상각충당부채	(3,082)	(232)	-	(2,850)	(690)
간주배당	5,513	-	-	5,513	1,334
매도가능금융자산평가손익	(1,146,055)	(1,146,055)	(744,094)	(744,094)	(180,071)
미지급기부금	54,925	54,925	50,306	50,306	12,174
대손충당금 및 대손금	152,851	152,851	159,419	159,419	42,321
주식보상비용 관련 조정액	2,740	2,652	3,221	3,299	798
의제배당	3,953	9	22	3,966	960
기타	(245,310)	294,195	21,054	(518,441)	(125,464)
소 계	(365,319)	(182,436)	317,658	134,775	36,356
<이연법인세자산 및 부채로 인식하지 않은 일시적 차이>					
관계기업등에대한투자자산(주2)	(11,346)	-	990	(10,356)	(2,506)
합 계	(353,973)	(182,436)	316,668	145,131	38,862

(주1) 환율변동효과로 해외총속기업의 이연법인세자산 65백만원이 감소하였습니다.

(주2) 지분법평가로 인한 법인세 효과는 관계기업 피투자회사별로 이연법인세의 적용가능금액 및 실현가능성을 고려하여 합리적으로 추정하고 있습니다.

(4) 자본에 직접 가감하는 항목과 관련된 이연법인세

당기와 전기 중 자본에 직접 부가되거나 차감된 법인세 내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)					
구 분	기말		기초		법인세효과 증감
	세전 금액	법인세효과	세전 금액	법인세효과	
매도가능금융자산평가손익	828,277	(200,443)	744,094	(180,071)	(20,372)
관계기업의기타포괄손익에대한지분	7,656	82	3,390	51	31
해외사업환산손익	(126,901)	(25,531)	(136,021)	(21,208)	(4,323)
재측정요소	(324,196)	78,456	(150,176)	36,343	42,113
기타자본조정	77	(19)	33	(8)	(11)
합 계	384,913	(147,455)	461,320	(164,893)	17,438

<제182(전)기>

(단위: 백만원)					
구 분	기말		기초		법인세효과 증감
	세전 금액	법인세효과	세전 금액	법인세효과	
매도가능금융자산평가손익	744,094	(180,071)	1,146,054	(277,346)	97,275
관계기업의기타포괄손익에대한지분	3,390	51	7,863	5	46
해외사업환산손익	(136,021)	(21,208)	(84,540)	(10,403)	(10,805)
재측정요소	(150,176)	36,343	(167,586)	40,556	(4,213)
기타자본조정	33	(8)	2,653	(642)	634
합 계	461,320	(164,893)	904,444	(247,830)	82,837

(5) 당기법인세자산 및 당기법인세부채

당기말과 전기말 현재 당기법인세자산 및 부채의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제183(당)기	제182(전)기
당기법인세부채	선급법인세	7,033	5,224
	법인세미지급금 (연결납세부담액)	168,652	134,344
	미지급법인세	2,047	13,941
	합 계	170,699	148,285

(6) 총액 기준 법인세 내역

당기말과 전기말 현재 상계전 총액기준에 의한 이연법인세자산과 이연법인세부채 및 당기법인세자산과 당기법인세부채의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
이연법인세자산	1,194,441	1,167,231
이연법인세부채	1,113,201	1,128,369
당기법인세자산	267,071	255,123
당기법인세부채	430,737	398,184

37. 주당순이익

당기와 전기의 주당순이익의 계산내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
지배회사순이익	1,455,224	1,373,017
신종자본증권 배당	(96,293)	(133,290)
보통주에 귀속되는 이익	1,358,931	1,239,727
가중평균보통유통주식수(주)	1,585,615,506	1,585,615,506
기본 및 희석주당순이익(원)	857	782

연결실체는 희석성 잠재적 보통주를 보유하고 있지 아니하고 주식선택권은 희석효과가 없으므로, 당기와 전기의 희석주당순이익은 기본주당순이익과 일치합니다.

38. 우발 및 약정사항

(1) 당기말과 전기말 현재 지급보증 및 약정의 종류별 금액은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제183(당)기	제182(전)기
지급보증	확정지급보증	10,775,530	10,499,522
	미확정지급보증	4,334,310	5,052,394
	합 계	15,109,840	15,551,916
약정	원화대출약정	52,196,405	52,863,179
	외화대출약정	20,194,874	20,119,314
	ABS 및 ABCP 매입약정	1,986,308	1,415,531
	기타	1,215,108	1,174,291
	합 계	75,592,695	75,572,315
배서어음	담보배서어음	51,043	54,460
	무담보배서어음	10,914,587	11,327,272
	합 계	10,965,630	11,381,732
환매권부대출채권매각	원화	2,099	2,099

(2) 지급보증충당부채

당기말과 전기말 현재 지급보증충당부채 설정 대상 및 지급보증충당부채 설정비율은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
확정지급보증	10,775,530	10,499,522
미확정지급보증	4,334,310	5,052,394
ABS 및 ABCP 매입약정	1,986,308	1,415,531
담보배서어음	51,043	54,460
설정대상지급보증총액	17,147,191	17,021,907
지급보증충당부채	106,952	92,561
충당부채 설정비율(%)	0.62	0.54

(3) 계류중인 소송사건

당기말 현재 연결실체와 관련하여 계류중인 피소사건은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
사건명	건수	소가	사건내용	소송 현황
물품대금 청구의 소	1	43,761	취조 지급보증서를 바탕으로 물품을 납입하였고, 물품대금을 수령하지 못하자 해당 지급보증서를 바 탕으로 미회수 물품대금에 대해 당행에게 지급보증 책임의 이행을 청구함.	1심 일부 패소금액에 대해 전액 지급하였으며, 2심 진행중임.
손해배상	1	47,200	원고는 당행이 상호저지 주식을 매입하면서, 이러 한 매각이 기업구조조정조합원의 의사에 반하여 불 법적으로 주식 매각을 한다는 사실을 사전에 알았 음에도 불구하고, 이를 인수하여 타 주주의 경영권 행사에 영향을 주어 손해가 발생하였으므로 이에 대해 배상을 청구함.	1심 및 2심 일부 패소금액에 대 해 전액 지급하였으며, 3심 진 행중임.
근저당권 설정비 반환	1	218	원고들은 당행으로부터 담보대출을 받으면서 근저 당권 설정비용을 부담한 고객으로서, 설정비 부담 에 관한 약정은 불공정한 약관에 해당하여 무효이 므로 이를 반환하여야 한다는 부당이득금 반환 소를 제기함.	1심 진행중임.
계약무효확인 및 부당이득반환 등	6	43,406	통화옵션 선물한 무효, 취소 등 주장	2심 및 3심이 진행중이며 손실 예상금액을충당부채로 인식함.
기 타	125	165,254	손해배상 등 다수	
합 계	134	299,839		

연결실체는 당기말 현재 1심에서 패소가 결정된 소송건 등에 대해 22,230백만원을
소송충당부채로 계상하였으며, 충당부채로 계상된 소송 이외의 잔여 소송결과는 재
무제표에 중대한 영향을 미치지 않을 것으로 예측되고 있으나, 향후 소송의 결과에
따라 추가적인 손실이 발생할 수도 있습니다.

(4) 삼성전자 관련 약정금 등 청구의 소송에 대한 채권단 승소로 인한 우발자산
연결실체를 포함한 삼성전자(주) 채권단은 1999년 9월 삼성전자(주) 처리와 관련
하여 삼성계열사들과 합의서를 작성하였습니다. 동 합의서에 의하면, 삼성전자(주)
의 회사정리 신청과 관련하여 삼성전자(주)의 채권금융기관들에게 출연된 삼성생
명보험(주) 주식 350만주를 2000년 12월 31일까지 처분하고 그 처분가액이 2조 4,50
0억원에 부족하게 될 경우 삼성그룹 계열사들이 채권금융기관들에게 자본출자 또는
후순위채권매입방법 등으로 그 부족액을 부담하되, 불이행시 연체이율에 의한 지연
이자 상당액을 지급하기로 되어 있습니다.

상기의 합의서와 관련하여 2005년 12월 9일자로 연결실체와 삼성자동차(주) 채권단은 이견회 회장 및 삼성그룹 계열사들을 상대로 약정금 등 청구의 소송을 제기하였으며, 2015년 1월 29일 대법원으로부터 승소판결을 받았습니다.

(5) 운용리스 만기구조

당기말과 전기말 현재 해지불능리스계약에 따라 지급해야 할 미래 최소리스료 약정 금액은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)				
구 분	1년 이내	1년 초과 5년 이내	5년 초과	합 계
최소리스료	118,988	168,214	5,309	292,511

<제182(전)기>

(단위: 백만원)				
구 분	1년 이내	1년 초과 5년 이내	5년 초과	합 계
최소리스료	96,395	134,224	14,755	245,374

39. 현금흐름표에 대한 주석

(1) 당기말과 전기말 현재 현금 및 현금성자산의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
현금	2,471,103	2,589,117
지준예치금	5,668,726	3,161,035
기타예치금	7,720,248	6,679,811
재무상태표상 현금및예치금	15,860,077	12,429,963
사용제한예치금	(9,181,973)	(5,520,439)
취득 당시 만기일이 3개월 초과 예치금	(2,141,900)	(1,918,163)
합 계	4,536,204	4,991,361

(2) 당기와 전기 중 현금의 유입과 유출이 없는 거래의 주요 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
신종자본증권 미지급배당금	14,937	18,545
대출채권 출자전환	57,335	158,754
무형자산취득 미지급금	9,450	36,260

40. 특수관계자 거래

(1) 특수관계자 채권·채무

당기말과 전기말 현재 특수관계자 간의 중요한 채권·채무의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제183(당)기	제182(전)기
1) 연결실체의 지배기업			
신한금융지주	예수부채	120,813	385
	당기법인세부채	168,652	134,344
	기타부채	34,213	34,997
2) 동일지배기업			
신한카드	파생상품자산	12,269	2,820
	기타자산	1,793	1,575
	예수부채	97,333	21,081
	파생상품부채	60	1,849
	총당부채	19	19
	기타부채	19,027	32,500
신한금융투자	현금및예치금	-	8
	파생상품자산	5,898	2,001
	대출채권	9,655	9,801
	대손충당금	(61)	(71)
	기타자산	17,760	18,771
	예수부채	193,038	56,429
	파생상품부채	4,411	3,540
	총당부채	54	39
	기타부채	29,448	34,543
신한생명	파생상품자산	12,657	25
	기타자산	8	5
	예수부채	6,862	33,310
	파생상품부채	1,601	7,326
	총당부채	2	2
	기타부채	38,748	41,652
신한캐피탈	기타자산	1	-
	예수부채	15,071	18,166
	총당부채	4	4

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제183(당기)	제182(전기)
제주은행	기타부채	1,319	1,403
	대출채권	4,964	9,797
	대손충당금	(3)	(2)
	기타자산	27	56
	예수부채	1,567	1,368
	기타부채	1,140	1,140
신한신용정보	예수부채	10,511	11,119
	기타부채	1,452	1,455
신한프라이빗에쿼티	대출채권	3,500	1,701
	대손충당금	(19)	(36)
	기타자산	-	3
	예수부채	168	36
	충당부채	5	9
	기타부채	-	1
신한비엔피파리바자산운용	예수부채	119,522	109,561
	기타부채	2,034	1,265
에스에이치씨매니지먼트	예수부채	100	100
	기타부채	3	3
신한데이터시스템	예수부채	2,481	843
	기타부채	4,458	4,114
신한저축은행	기타부채	-	90
신한아이타스	기타자산	6	-
	예수부채	10,255	10,171
	기타부채	100	183
KREDIT사모부동산투자신탁1호	예수부채	-	1,701
	기타부채	-	25
3) 관계기업 및 동일지배기업의 관계기업			
아주캐피탈	단기매매금융자산	50,000	60,000
	대출채권	200,000	50,000
	대손충당금	(614)	(275)
	예수부채	1,184	470
	충당부채	78	280
연합자산관리	예수부채	28,801	1,719
	충당부채	50	50
	예수부채	194	262

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제183(당)기	제182(전)기
카디프생명	총당부채	1	1
포항테크노파크2PPV	예수부채	14,666	14,689
극동건설	예수부채	6,986	-
비엔피파리바카디프손해보험	예수부채	7	-
공평오피스	예수부채	32,002	-
미래에셋증권기업투자조합3호	예수부채	1,777	158
케이디비대우루비 사모투자전문회사	예수부채	2,025	-
드림하이 투자조합3호	예수부채	301	-
메디치2호투자조합	예수부채	-	62
케이디비대우증권플래티넘 사모투자전문회사	예수부채	-	652
웨미리식품	총당부채	-	5
4) 주요경영진			
대출채권		2,718	799
대손충당금		(1)	(1)

(2) 특수관계자 수익·비용

당기와 전기 중 특수관계자 간의 중요한 거래내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제183(당)기	제182(전)기
1) 연결실체의 지배기업			
신한금융지주	기타영업수익	1,941	1,967
	이자비용	(1,201)	(2,892)
	수수료비용	(46,050)	(76,000)
2) 동일지배기업			
신한카드	이자수익	214	533
	수수료수익	174,433	168,824
	파생상품관련이익	15,430	3,262
	기타영업수익	1,217	1,087
	이자비용	(703)	(814)
	수수료비용	(431)	(513)
	파생상품관련손실	(892)	(3,630)
	기타영업비용	(41)	(40)
신한금융투자	이자수익	1,082	1,018
	수수료수익	3,413	3,164
	파생상품관련이익	10,808	4,714
	기타영업수익	2,654	2,538
	이자비용	(1,531)	(2,925)
	대손상각비	10	13
	파생상품관련손실	(8,764)	(5,177)
	기타영업비용	(649)	(576)
신한생명	이자수익	56	58
	수수료수익	15,769	13,151
	파생상품관련이익	15,725	388
	기타영업수익	1,761	2,180
	이자비용	(1,107)	(1,192)
	수수료비용	(50)	(60)
	파생상품관련손실	(2,905)	(7,684)
	기타영업비용	(707)	(681)
신한캐피탈	이자수익	1	2
	기타영업수익	641	850

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제183(당)기	제182(전)기
	이자비용	(368)	(346)
제주은행	이자수익	84	125
	기타영업수익	218	42
	이자비용	(30)	(30)
	대손상각비	(1)	-
	기타영업비용	(2)	-
신한신용정보	수수료수익	2	2
	기타영업수익	200	142
	이자비용	(298)	(331)
	수수료비용	(5,315)	(5,389)
	파생상품관련손실	(6)	-
신한프라이빗에쿼티	이자수익	45	43
	기타영업수익	4	1
	이자비용	-	(21)
	대손상각비	17	12,386
신한비엔피파리바자산운용	이자수익	3	-
	수수료수익	43	30
	기타영업수익	27	19
	이자비용	(2,723)	(2,871)
	수수료비용	(1,991)	(1,881)
신한데이터시스템	기타영업수익	288	303
	이자비용	(141)	(36)
	기타영업비용	(30,035)	(33,946)
에스에이치씨매니지먼트	이자비용	(3)	(3)
신한저축은행	기타영업수익	76	209
	이자비용	(1)	(277)
신한아이타스	수수료수익	25	26
	기타영업수익	28	11
	이자비용	(287)	(324)
	수수료비용	-	(40)
3) 관계기업 및 동일지배기업의 관계기업			
아주캐피탈	이자수익	5,638	2,185
	수수료수익	260	546
	기타영업수익	202	-
	이자비용	(1)	(24)

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제183(당)기	제182(전)기
	대손상각비	(330)	(21)
연합자산관리	이자수익	40	115
	수수료수익	7	5
	이자비용	(1)	(1)
	수수료수익	30	16
카드프생영	수수료수익	30	16
포항테크노파크2PFV	이자비용	(15)	(15)
인회	수수료수익	-	1
극동건설	수수료수익	15	-
	이자비용	(40)	-
	수수료비용	(4)	-
비엔피파리바카디프손해보험	수수료수익	1	-
공평오피스	이자비용	(1,274)	-
미래에셋증권기업투자조합3호	이자비용	(1)	(2)
드림하이 투자조합3호	이자비용	(6)	-
웨이리식품	기타영업수익	5	-
4) 주요경영진			
이자수익		96	40

(3) 특수관계자에 대한 급여

당기와 전기 중 특수관계자에 대한 급여 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
계정과목	제183(당)기	제182(전)기
장단기종업원급여	8,413	9,034
퇴직급여	236	191
주식기준보상	3,374	2,270
합계	12,023	11,495

(4) 특수관계자 지급보증내역

당기말과 전기말 현재 특수관계자 간의 주요 지급보증 및 미사용한도 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
제공자	제공받은자	보증금액		보증내역
		제183(당)기	제182(전)기	
신한은행	신한금융투자	9,893	9,498	이행보증(지급보증서발식)
		181,000	181,000	미사용대출한도
	신한카드	500,000	500,000	미사용대출한도
	신한생명	50,000	50,000	미사용대출한도
	신한캐피탈	-	4,982	외화수입물품선취보증
		-	295	수입신용장발행
		60,000	60,000	미사용대출한도
	신한비엔피파리바자선운용	192,849	-	증권인수약정
	신한프라이빗에쿼티	4,248	8,214	미사용대출한도
	에스에이치씨매니지먼트	94	94	이행보증(지급보증서발식)
	코에프씨신한프런티어뱅크2010 의4호 사무투자전문회사	26,834	26,995	증권인수약정
	카디프생명	10,000	10,000	미사용대출한도
	아주캐피탈	50,000	100,000	미사용대출한도
		50,000	40,000	증권인수약정
	연합자산관리	112,200	112,200	미사용대출한도
		179,900	179,900	증권인수약정
	웨이리식품	-	3,000	미사용대출한도
합계		1,427,018	1,286,178	

(5) 특수관계자 담보제공내역

1) 당기말과 전기말 현재 특수관계자에게 제공하고 있는 담보는 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)						
제공자	회사명	담보제공자산	제183(당)기		제182(전)기	
			장부금액	담보설정액	장부금액	담보설정액
동일지배기업	신한금융투자	유가증권	155,303	34,041	171,345	42,372
	신한생명		10,385	10,385	-	-
합 계			165,688	44,426	171,345	42,372

2) 당기말과 전기말 현재 특수관계자로부터 제공받고 있는 담보는 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
제공자	회사명	담보제공자산	담보설정액	
			제183(당)기	제182(전)기
동일지배기업	신한금융투자	예금	22,000	22,000
		부동산	91,974	91,974
	에스에이치씨매니지먼트	예금	100	100
	신한캐피탈	예금	11,200	16,032
		국채	-	1,928
	제주은행	국채	20,000	20,000
	신한생명	국채	7,446	6,894
관계기업	카디프생명	국공채	12,770	2,958
합 계			165,490	161,886

41. 종속기업 재무제표의 요약

(1) 당기말과 전기말 현재 지배기업인 신한은행(별도) 및 연결대상 종속기업의 요약 재무상태표는 다음과 같습니다.

회사명	(단위: 백만원)					
	제183(당)기			제182(전)기		
	자산총계	부채총계	자본총계	자산총계	부채총계	자본총계
신한은행	242,075,889	221,704,012	20,371,857	225,735,681	205,283,519	20,472,162
신한아주금융유한공사	309,478	128,229	183,249	244,278	90,275	154,003
아메리카신한은행	1,057,143	908,082	151,081	1,037,819	898,449	139,370
유럽신한은행	358,019	277,810	78,409	427,915	348,418	81,497
신한크메르은행	142,350	109,738	32,612	151,343	124,319	27,024
신한카자흐스탄은행	172,109	102,887	69,422	119,531	42,982	76,589
캐나다신한은행	377,086	335,884	41,222	383,228	341,875	41,553
신한은행중국유한공사	3,977,209	3,599,289	377,920	3,251,418	2,897,126	354,292
SB은행	4,828,433	4,542,653	285,780	5,589,999	5,272,990	297,009
신한베트남은행	2,010,873	1,825,083	385,910	1,488,915	1,118,708	351,212
구조화기업	5,132,803	5,301,309	(168,506)	5,352,358	5,535,315	(182,957)

(2) 당기 및 전기 중 지배기업인 신한은행(별도) 및 연결대상 종속기업의 요약포괄손익계산서는 다음과 같습니다.

회사명	(단위: 백만원)					
	제183(당)기			제182(전)기		
	영업수익	당기순손익	총포괄손익	영업수익	당기순손익	총포괄손익
신한은행	13,255,328	1,433,310	1,355,956	14,882,357	1,341,431	1,031,659
신한아주금융유한공사	9,021	3,582	19,246	11,623	4,172	1,401
아메리카신한은행	47,024	4,511	11,711	50,123	40,881	33,612
유럽신한은행	12,927	3,793	(3,088)	12,748	3,057	5,227
신한크메르은행	9,372	4,293	5,588	7,864	1,595	891
신한카자흐스탄은행	9,382	2,519	(7,147)	7,408	3,542	1,640
캐나다신한은행	12,835	1,432	(332)	12,044	111	(3,541)
신한은행중국유한공사	159,623	16,888	23,628	125,810	(8,805)	(3,482)
SB은행	216,354	14,176	(11,231)	193,614	12,755	(64,131)
신한베트남은행	110,029	23,688	34,598	93,980	31,730	19,458
구조화기업	194,415	(15,933)	(15,091)	203,687	(30,024)	(29,018)

42. 비연결구조화기업에 대한 지분

(1) 비연결구조화기업에 대한 지분의 성격과 범위

연결실체는 자산유동화증권, 구조화금융, 투자펀드 등의 투자를 통해 구조화기업에 관여하고 있으며 동 구조화기업의 주요 특성은 다음과 같습니다.

구 분	주요 특성
자산유동화증권	자산유동화회사는 자산 보유자로부터 자산을 매입하여 이를 토대로 자산유동화증권을 발행하는 당사자로서, 기업의 자금조달을 원활하게 하여 재무구조의 건전성을 높이기 위하여 설립된 유한회사입니다. 연결실체는 구조화기업이 매출채권 등을 기초자산으로 하여 발행한 유동화증권을 매입하거나 동 구조화기업에 대하여 신용공여 및 유동화증권 매입약정 등을 제공하고 있습니다.
구조화금융	구조화금융을 위한 구조화기업은 기업 인수 합병, 민간 투자 방식의 건설 프로젝트 혹은 선박 투자를 위한 프로젝트 금융 등의 목적을 위해 설립되었으며 조달한 자금은 동 목적의 수행을 위해 사용됩니다. 연결실체는 구조화금융을 위한 구조화기업에 대출, 지분투자 등의 형태로 자금을 제공하거나 필요에 따라 다양한 형태의 신용공여를 제공하고 있습니다.
투자펀드	투자펀드는 투자자에게 수익(출자)증권 등을 발행하여 자금을 조달하고 주식이나 채권 등에 투자하여 그 수익을 투자자에게 배분하는 투자신탁, 사모투자전문회사 및 조합 등입니다. 연결실체는 투자펀드 지분에 투자하거나 집합투자업자, 업무집행사원(조합원) 등으로서 기타 투자자들을 대신하여 자산을 운용 및 관리하고 있습니다.

1) 당기말과 전기말 현재 비연결구조화기업의 규모는 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)				
구 분	자산유동화증권	구조화금융	투자펀드	합 계
자산총계	18,405,975	31,290,465	7,739,222	57,435,662

<제182(전)기>

(단위: 백만원)				
구 분	자산유동화증권	구조화금융	투자펀드	합 계
자산총계	16,901,389	38,920,533	7,498,036	63,319,958

2) 당기와 전기 중 비연결구조화기업에서 발생한 손익은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)					
구 분		자산유동화증권	구조화금융	투자펀드	합 계
이익	이자수익	16,573	126,391	-	142,964
	수수료수익	11,501	9,767	-	21,268
	배당수익	13	-	27,162	27,175
	기타	308	129	349	786
	소 계	28,395	136,287	27,511	192,193
손실		818	-	30,436	31,254

<제182(전)기>

(단위: 백만원)					
구 분		자산유동화증권	구조화금융	투자펀드	합 계
이익	이자수익	15,163	149,215	-	164,378
	수수료수익	7,597	6,857	-	14,454
	배당수익	-	7,075	3,827	10,902
	기타	967	92,069	6,701	99,737
	소 계	23,727	255,216	10,528	289,471
손실		-	-	360	360

3) 당기와 전기 중 연결실체가 비연결구조화기업으로 이전한 자산의 장부금액은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)	
구 분	제183(당)기
주택금융공사MBS2014-17	67,800
합 계	67,800

<제182(전)기>

(단위: 백만원)	
구 분	제182(전)기
주택금융공사 MBS 2013-05	210,300
주택금융공사 MBS 2013-09	65,800
주택금융공사 MBS 2013-15	42,900
주택금융공사 MBS 2013-19	18,100
주택금융공사 MBS 2013-29	268,000
국민행복기금	250
합 계	605,350

(2) 비연결구조화기업에 대한 지분과 관련된 위험의 성격

- 1) 당기말과 전기말 현재 비연결구조화기업의 지분에 관하여 연결실체가 재무제표에 인식한 자산과 부채의 장부가액은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)				
구 분	자산유동화증권	구조화금융	투자펀드	합 계
재무상대표상 자산				
대출채권	368,112	2,497,972	3,589	2,869,673
단기매매금융자산	573,919	48,877	-	622,796
파생상품자산	42	-	-	42
매도가능금융자산	330,807	224,342	622,859	1,178,008
합 계	1,272,880	2,771,191	626,448	4,670,519
재무상대표상 부채				
기타부채	1,200	-	-	1,200
합 계	1,200	-	-	1,200

<제182(전)기>

(단위: 백만원)				
구 분	자산유동화증권	구조화금융	투자펀드	합 계
재무상태표상 자산				
대출채권	140,575	2,962,626	-	3,103,201
단기매매금융자산	230,729	-	-	230,729
파생상품자산	884	1,075	-	1,959
매도가능금융자산	719,755	84,291	538,623	1,342,669
합 계	1,091,943	3,047,992	538,623	4,678,558

(주) 전기말 현재 비연결구조화기업의 지분에 관하여 연결실체가 재무제표에 인식하고 있는 부채는 없습니다.

2) 당기말과 전기말 현재 연결실체의 비연결구조화기업에 대한 최대위험노출은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)				
구 분	자산유동화증권	구조화금융	투자펀드	합 계
보유자산	1,272,880	2,771,191	626,448	4,670,519
매입약정	325,195	30,000	103,702	458,897
미실행신용공여	1,631,113	110,224	-	1,741,337
지급보증	-	28,888	-	28,888
합 계	3,229,188	2,940,303	730,150	6,899,641

<제182(전)기>

(단위: 백만원)				
구 분	자산유동화증권	구조화금융	투자펀드	합 계
보유자산	1,091,943	3,047,992	538,623	4,678,558
매입약정	157,000	-	18,913	175,913
미실행신용공여	1,258,531	168,520	-	1,427,051
지급보증	-	5,410	-	5,410
합 계	2,507,474	3,221,922	557,536	6,286,932

43. 신탁부문 경영성과

(1) 신탁계정의 당기말과 전기말 현재 자산총계, 당기와 전기 중 영업수익은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
구 분	제183(당)기		제182(전)기	
	자산총계	영업수익	자산총계	영업수익
연결대상	3,882,632	149,686	3,667,084	143,885
연결비대상	27,103,450	502,429	22,674,439	581,492
합 계	30,986,082	652,115	26,341,523	725,377

(2) 당기말과 전기말 신탁부문의 주요 채권·채무 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
신탁계정미지급금	2,017,811	2,298,642
신탁보수미수수익	16,227	15,206
미지급이자	526	665

(3) 당기와 전기 중 신탁부문의 주요 수익·비용 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
신탁업무운용수익	49,741	42,241
신탁계정미지급금이자비용	44,891	50,043

(2) 個別財務書類

財務状態表

第183（当）期末 2014年12月31日現在

第182（前）期末 2013年12月31日現在

株式会社新韓銀行

(単位：百万ウォン)

科目	注記	第183（当）期末		第182（前）期末	
資産					
1. 現金預け金	3,5,8,39,40	12,527,254		9,206,541	
2. 売買目的金融資産	3,6,40	5,912,990		5,602,158	
3. デリバティブ資産	3,7,40	1,310,109		1,457,641	
4. 貸付債権	3,8,40	179,892,271		167,259,759	
5. 売却可能金融資産	3,9,15	21,937,911		23,590,690	
6. 満期保有金融資産	3,9,15	7,747,368		7,051,164	
7. 有形資産	10,15	2,003,584		2,165,104	
8. 無形資産	11	160,712		205,113	
9. 関係企業等に対する投資資産	12	1,743,611		1,734,519	
10. 投資不動産	13	738,407		596,744	
11. 当期法人税資産	36	9		1,779	
12. 繰延税金資産	36	46,357		9,751	
13. その他資産	3,8,14,40,41	8,051,227		6,844,776	
14. 売却予定資産		4,059		9,942	
資産合計			242,075,869		225,735,681
負債					
1. 当期損益認識指定金融負債	3,16	6,139		-	
2. 預金	3,17,40	176,589,262		163,153,755	
3. 売買目的金融負債	3,18	428,936		398,596	
4. デリバティブ負債	3,7,40	1,182,730		1,423,137	
5. 借入負債	3,19,40	12,894,846		10,441,286	
6. 社債	3,20	16,571,408		17,485,768	
7. 確定給付債務	21	244,719		66,350	
8. 引当負債	22,38,40	310,736		371,779	
9. 当期法人税負債	36,40	168,652		139,608	
10. その他負債	3,23,40,41	13,306,584		11,783,240	

負債合計			221,704,012		205,263,519
資本					
1. 資本金	24	7,928,078		7,928,078	
2. 新種資本証券	24	1,100,250		2,099,350	
3. 資本剰余金	24	398,080		398,080	
4. 資本調整	24,36	(843)		25	
5. その他包括損益累計額	24,36	324,458		401,812	
6. 利益剰余金	24,25	10,621,834		9,644,817	
(貸倒準備金積立額)		(1,695,516)		(1,693,225)	
(貸倒準備金繰入必要額)		(42,733)		(2,291)	
(貸倒準備金繰入予定額)		(42,733)		(2,291)	
資本合計			20,371,857		20,472,162
負債及び資本合計			242,075,869		225,735,681

(単位：百万円)

科目	注記	第183（当）期末		第182（前）期末	
資産					
1. 現金預け金	3,5,8,39,40	1,365,471		1,003,513	
2. 売買目的金融資産	3,6,40	644,516		610,635	
3. デリバティブ資産	3,7,40	142,802		158,883	
4. 貸付債権	3,8,40	19,608,258		18,231,314	
5. 売却可能金融資産	3,9,15	2,391,232		2,571,385	
6. 満期保有金融資産	3,9,15	844,463		768,577	
7. 有形資産	10,15	218,391		235,996	
8. 無形資産	11	17,518		22,357	
9. 関係企業等に対する投資資産	12	190,054		189,063	
10. 投資不動産	13	80,486		65,045	
11. 当期法人税資産	36	1		194	
12. 繰延税金資産	36	5,053		1,063	
13. その他資産	3,8,14,40,41	877,584		746,081	
14. 売却予定資産		441		1,083	
資産合計			26,386,270		24,605,189
負債					
1. 当期損益認識指定金融負債	3,16	669		-	
2. 預金	3,17,40	19,248,230		17,783,759	
3. 売買目的金融負債	3,18	46,754		43,447	
4. デリバティブ負債	3,7,40	128,918		155,122	
5. 借入負債	3,19,40	1,405,538		1,138,100	
6. 社債	3,20	1,806,283		1,905,949	
7. 確定給付債務	21	26,674		7,232	
8. 引当負債	22,38,40	33,870		40,524	
9. 当期法人税負債	36,40	18,383		15,217	
10. その他負債	3,23,40,41	1,450,418		1,284,372	
負債合計			24,165,737		22,373,722
資本					
1. 資本金	24	864,161		864,161	

2. 新種資本証券	24	119,927		228,829	
3. 資本剰余金	24	43,391		43,391	
4. 資本調整	24,36	(92)		3	
5. その他包括損益累計額	24,36	35,366		43,798	
6. 利益剰余金	24,25	1,157,780		1,051,285	
(貸倒準備金積立額)		(184,811)		(184,562)	
(貸倒準備金繰入必要額)		(4,658)		(250)	
(貸倒準備金繰入予定額)		(4,658)		(250)	
資本合計			2,220,533		2,231,467
負債及び資本合計			26,386,270		24,605,189

“ 添付の注記は本財務諸表の一部である ”

包括損益計算書

=====

第183（当）期 自2014年1月1日 至2014年12月31日

第182（前）期 自2013年1月1日 至2013年12月31日

株式会社新韓銀行

（単位：百万ウォン）

科目	注記	第183（当）期		第182（前）期	
I. 営業利益			1,734,077		1,710,061
(1) 純利息損益	3,26,40		4,096,668		4,059,865
1. 受取利息	35	8,021,281		8,595,492	
2. 支払利息		3,924,613		4,535,627	
(2) 純手数料損益	3,27,40		793,695		736,916
1. 受取手数料	35	949,641		924,450	
2. 支払手数料		155,946		187,534	
(3) 受取配当	28,35		98,726		74,685
(4) 売買目的金融商品関連損益	29,35,40		21,190		21,715
(5) 外国為替取引損益	35		185,945		276,001
(6) 当期損益認識指定金融商品関連損益	16		34		-
(7) 売却可能金融資産処分損益	9,35		433,569		487,678
(8) 金融商品資産減損損失	3,8,30,40		640,219		848,752
1. 貸倒償却費		419,933		645,168	
2. その他金融商品減損損失		220,286		203,584	
(9) 一般管理費	31,40		2,749,491		2,525,626
(10) その他営業損益	33,35,40		(506,040)		(572,421)
II. 営業外損益	34		66,083		(10,712)
III. 税引前純利益			1,800,160		1,699,349
IV. 法人税費用	36		366,850		357,918
V. 当期純利益 (貸倒準備金反映後の調整利益 当期: 1,390,577百万ウォン 前期: 1,339,140百万ウォン)	25		1,433,310		1,341,431
VI. その他包括損益	3,24,36		(77,354)		(309,762)
(1) 後続的に当期損益として再分類される項目			54,553		(322,959)
1. 海外事業損益		3,584		(19,999)	
2. 売却可能金融資産評価損益		50,969		(302,960)	
(2) 後続的に当期損益として再分類されない項目			(131,907)		13,197
1. 確定給付型制度の再測定要素		(131,907)		13,197	

VII. 総包括利益			1,355,956		1,031,669
VIII. 1株当たり利益	37				
(1) 基本的1株当たり純利益			843ウォン		762ウォン
(2) 希薄化後1株当たり純利益			843ウォン		762ウォン

(単位：百万円)

科目	注記	第183（当）期		第182（前）期	
I. 営業利益			189,014		186,397
(1) 純利息損益	3,26,40		446,537		442,525
1. 受取利息	35	874,320		936,909	
2. 支払利息		427,783		494,384	
(2) 純手数料損益	3,27,40		86,513		80,324
1. 受取手数料	35	103,511		100,765	
2. 支払手数料		16,998		20,441	
(1) 受取配当	28,35		10,761		8,141
(2) 売買目的金融商品関連損益	29,35,40		2,310		2,367
(3) 外国為替取引損益	35		20,268		30,084
(4) 当期損益認識指定金融商品関連損益	16		4		-
(5) 売却可能金融資産処分損益	9,35		47,259		53,157
(6) 金融商品資産減損損失	3,8,30,40		69,784		92,514
1. 貸倒償却費		45,773		70,323	
2. その他金融商品減損損失		24,011		22,191	
(7) 一般管理費	31,40		299,695		275,293
(8) その他営業損益	33,35,40		(55,159)		(62,394)
II. 営業外損益	34		7,203		(1,168)
III. 税引前純利益			196,217		185,229
IV. 法人税費用	36		39,986		39,013
V. 当期純利益 (貸倒準備金反映後の調整利益 当期：151,573百万円 前期：145,966百万円)	25		156,231		146,216
VI. その他包括損益	3,24,36		(8,432)		(33,764)
(1) 後続的に当期損益として再分類される項目			5,946		(35,202)
1. 海外事業損益		390		(2,179)	
2. 売却可能金融資産評価損益		5,556		(33,023)	
(2) 後続的に当期損益として再分類されない項目			(14,378)		1,438
1. 確定給付型制度の再測定要素		(14,378)		1,438	
VII. 総包括利益			147,799		112,452

VIII. 1株当たり利益	37				
(1) 基本的1株当たり純利益			92円		83円
(2) 希薄化後1株当たり純利益			92円		83円

“ 添付の注記は本財務諸表の一部である ”

資本変動表

第183（当）期 自2014年1月1日 至2014年12月31日
第182（前）期 自2013年1月1日 至2013年12月31日

株式会社新韓銀行

(単位：百万ウォン)

科目	資本金	新種資本証券	資本剰余金	資本調整	その他包括 損益累計額	利益剰余金	合計
I. 2013年1月1日（前期首）	7,928,078	2,329,760	398,080	2,011	711,574	8,886,676	20,256,179
総包括損益：	-	-	-	-	(309,762)	1,341,431	1,031,669
(1) 当期純利益	-	-	-	-	-	1,341,431	1,341,431
(2) その他包括損益	-	-	-	-	(309,762)	-	(309,762)
1. 海外事業損益	-	-	-	-	(19,999)	-	(19,999)
2. 売却可能金融資産評価損益	-	-	-	-	(302,960)	-	(302,960)
3. 確定給付型制度の再測定要素	-	-	-	-	13,197	-	13,197
所有者との取引等：	-	(230,410)	-	(1,986)	-	(583,290)	(815,686)
(1) 年次配当	-	-	-	-	-	(450,000)	(450,000)
(2) 新種資本証券の配当	-	-	-	-	-	(133,290)	(133,290)
(3) 新種資本証券の発行	-	299,568	-	-	-	-	299,568
(4) 新種資本証券の償還	-	(529,978)	-	-	-	-	(529,978)
(5) 株式報酬費用	-	-	-	(1,986)	-	-	(1,986)
II. 2013年12月31日（前期末）	7,928,078	2,099,350	398,080	25	401,812	9,644,817	20,472,162
III. 2014年1月1日（当期首）	7,928,078	2,099,350	398,080	25	401,812	9,644,817	20,472,162
総包括損益：	-	-	-	-	(77,354)	1,433,310	1,355,956
(1) 当期純利益	-	-	-	-	-	1,433,310	1,433,310
(2) その他包括損益	-	-	-	-	(77,354)	-	(77,354)
1. 海外事業損益	-	-	-	-	3,584	-	3,584
2. 売却可能金融資産評価損益	-	-	-	-	50,969	-	50,969
3. 確定給付型制度の再測定要素	-	-	-	-	(131,907)	-	(131,907)
所有者との取引等：	-	(999,100)	-	(868)	-	(456,293)	(1,456,261)
(1) 年次配当	-	-	-	-	-	(360,000)	(360,000)
(2) 新種資本証券の配当	-	-	-	-	-	(96,293)	(96,293)
(3) 新種資本証券の償還	-	(999,100)	-	(900)	-	-	(1,000,000)
(4) 株式報酬費用	-	-	-	32	-	-	32
IV. 2014年12月31日（当期末）	7,928,078	1,100,250	398,080	(843)	324,458	10,621,834	20,371,857

(単位：百万円)

科目	資本金	新種資本証券	資本剰余金	資本調整	その他包括 損益累計額	利益剰余金	合計
I. 2013年1月1日（前期首）	864,161	253,944	43,391	219	77,562	968,648	2,207,925
総包括損益：	-	-	-	-	(33,764)	146,216	112,452
(1) 当期純利益	-	-	-	-	-	146,216	146,216
(2) その他包括損益	-	-	-	-	(33,764)	-	(33,764)
1. 海外事業損益	-	-	-	-	(2,179)	-	(2,179)
2. 売却可能金融資産評価損益	-	-	-	-	(33,023)	-	(33,023)
3. 確定給付型制度の再測定要素	-	-	-	-	1,438	-	1,438
所有者との取引等：	-	(25,115)	-	(216)	-	(63,579)	(88,910)
(1) 年次配当	-	-	-	-	-	(49,050)	(49,050)
(2) 新種資本証券の配当	-	-	-	-	-	(14,529)	(14,529)
(3) 新種資本証券の発行	-	32,653	-	-	-	-	32,653
(4) 新種資本証券の償還	-	(57,768)	-	-	-	-	(57,768)
(5) 株式報酬費用	-	-	-	(216)	-	-	(216)
II. 2013年12月31日（前期末）	864,161	228,829	43,391	3	43,798	1,051,285	2,231,467
III. 2014年1月1日（当期首）	864,161	228,829	43,391	3	43,798	1,051,285	2,231,467
総包括損益：	-	-	-	-	(8,432)	156,231	147,799
(1) 当期純利益	-	-	-	-	-	156,231	156,231
(2) その他包括損益	-	-	-	-	(8,432)	-	(8,432)
1. 海外事業損益	-	-	-	-	390	-	390
2. 売却可能金融資産評価損益	-	-	-	-	5,556	-	5,556
3. 確定給付型制度の再測定要素	-	-	-	-	(14,378)	-	(14,378)
所有者との取引等：	-	(108,902)	-	(95)	-	(49,736)	(158,733)
(1) 年次配当	-	-	-	-	-	(39,240)	(39,240)
(2) 新種資本証券の配当	-	-	-	-	-	(10,496)	(10,496)
(3) 新種資本証券の償還	-	(108,902)	-	(98)	-	-	(109,000)
(4) 株式報酬費用	-	-	-	3	-	-	3
IV. 2014年12月31日（当期末）	864,161	119,927	43,391	(92)	35,366	1,157,780	2,220,533

“ 添付の注記は本財務諸表の一部である ”

キャッシュ・フロー計算書

第183（当）期 自2014年1月1日 至2014年12月31日

第182（前）期 自2013年1月1日 至2013年12月31日

株式会社新韓銀行

（単位：百万ウォン）

科目	第183（当）期		第182（前）期	
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー		(1,517,992)		(3,224,591)
(1) 税引前純利益	1,800,160		1,699,349	
(2) 損益調整項目	(4,231,629)		(4,136,395)	
1. 受取利息	(8,021,281)		(8,595,492)	
2. 支払利息	3,924,613		4,535,627	
3. 受取配当	(134,961)		(76,530)	
(3) 現金の流出入のない損益項目	546,254		591,690	
1. 当期損益認識指定金融商品関連損益	(34)		-	
2. 売買目的金融商品関連損益	90,255		68,737	
3. 外国為替取引損益	(25,552)		(176,644)	
4. 売却可能金融資産処分損益	(433,569)		(487,678)	
5. 貸倒償却費	419,933		645,168	
6. その他金融商品減損損失	220,286		203,584	
7. 従業員給与	109,426		26,222	
8. 減価償却費及びその他償却費	190,887		189,366	
9. その他営業損益	(34,654)		115,174	
10. 営業外損益	9,276		7,761	
(4) 資産・負債の増減	(3,574,256)		(5,016,009)	
1. 預け金	(3,655,287)		(1,690,117)	
2. 売買目的金融資産	(316,135)		245,281	
3. デリバティブ資産	1,306,102		1,240,891	
4. 貸付債権	(13,004,092)		(5,401,317)	
5. その他資産	(1,417,021)		610,117	
6. 当期損益認識指定金融負債	6,171		-	
7. 預金	13,210,820		3,923,469	
8. 売買目的金融負債	12,838		73,883	
9. デリバティブ負債	(1,315,044)		(1,297,286)	
10. 確定給付債務	(97,073)		(93,676)	

11. 引当負債	(67,684)		(25,432)	
12. その他負債	1,762,149		(2,601,822)	
(5) 法人税の納付	(347,956)		(368,806)	
(6) 利息の受取	8,145,939		8,685,588	
(7) 利息の支払	(3,991,464)		(4,756,538)	
(8) 配当金の受取	134,960		76,530	
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー		1,246,605		6,003,577
1. 売却可能金融資産の減少	22,327,438		23,702,992	
2. 売却可能金融資産の取得	(20,353,114)		(19,199,999)	
3. 満期保有金融資産の減少	2,273,159		2,084,692	
4. 満期保有金融資産の取得	(2,944,797)		(319,229)	
5. 有形資産の処分	16,357		10,861	
6. 有形資産の取得	(119,894)		(192,427)	
7. 無形資産の処分	3,253		1,524	
8. 無形資産の取得	(16,840)		(76,673)	
9. 関係企業等に対する投資資産の処分	-		93	
10. 関係企業等に対する投資資産の取得	-		(9,022)	
11. 投資不動産の処分	-		1,685	
12. 売却予定資産の処分	918		-	
13. その他資産の減少	433,103		161,164	
14. その他資産の増加	(372,978)		(162,084)	
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー		(73,485)		(2,221,032)
1. 借入負債の増加	21,323,183		14,413,734	
2. 借入負債の減少	(18,957,073)		(15,326,729)	
3. 社債の発行	4,786,801		5,178,478	
4. 社債の償還	(5,747,567)		(5,668,894)	
5. 配当金の支払	(459,901)		(582,876)	
6. 新種資本証券の発行	-		299,568	
7. 新種資本証券の償還	(1,000,000)		(529,978)	
8. その他負債の増加	10,045		12,942	
9. その他負債の減少	(28,973)		(17,277)	
IV. 外貨表示現金及び現金性資産に対する為替レート変動効果		990		7,490

V. 現金及び現金性資産の増加（減少）		(343,882)		565,444
VI. 現金及び現金性資産の期首残高（注39）		3,845,354		3,279,910
VII. 現金及び現金性資産の期末残高（注39）		3,501,472		3,845,354

(単位：百万円)

科目	第183（当）期		第182（前）期	
I．営業活動によるキャッシュ・フロー		(165,461)		(351,481)
(1) 税引前純利益	196,217		185,229	
(2) 損益調整項目	(461,248)		(450,867)	
1. 受取利息	(874,320)		(936,909)	
2. 支払利息	427,783		494,384	
3. 受取配当	(14,711)		(8,342)	
(3) 現金の流出入のない損益項目	59,542		64,494	
1. 当期損益認識指定金融商品関連損益	(4)		-	
2. 売買目的金融商品関連損益	9,838		7,492	
3. 外国為替取引損益	(2,785)		(19,254)	
4. 売却可能金融資産処分損益	(47,259)		(53,157)	
5. 貸倒償却費	45,773		70,323	
6. その他金融商品減損損失	24,011		22,191	
7. 従業員給与	11,927		2,858	
8. 減価償却費及びその他償却費	20,807		20,641	
9. その他営業損益	(3,777)		12,554	
10. 営業外損益	1,011		846	
(4) 資産・負債の増減	(389,594)		(546,745)	
1. 預け金	(398,426)		(184,223)	
2. 売買目的金融資産	(34,459)		26,736	
3. デリバティブ資産	142,365		135,257	
4. 貸付債権	(1,417,446)		(588,744)	
5. その他資産	(154,455)		66,503	
6. 当期損益認識指定金融負債	673		-	
7. 預金	1,439,979		427,658	
8. 売買目的金融負債	1,399		8,053	
9. デリバティブ負債	(143,340)		(141,404)	
10. 確定給付債務	(10,581)		(10,211)	
11. 引当負債	(7,378)		(2,772)	
12. その他負債	192,075		(283,598)	

(5) 法人税の納付	(37,927)		(40,200)	
(6) 利息の受取	887,907		946,729	
(7) 利息の支払	(435,070)		(518,463)	
(8) 配当金の受取	14,712		8,342	
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー		135,880		654,390
1. 売却可能金融資産の減少	2,433,691		2,583,626	
2. 売却可能金融資産の取得	(2,218,489)		(2,092,800)	
3. 満期保有金融資産の減少	247,774		227,231	
4. 満期保有金融資産の取得	(320,983)		(34,796)	
5. 有形資産の処分	1,783		1,184	
6. 有形資産の取得	(13,068)		(20,975)	
7. 無形資産の処分	355		166	
8. 無形資産の取得	(1,836)		(8,357)	
9. 関係企業等に対する投資資産の処分	-		10	
10. 関係企業等に対する投資資産の取得	-		(983)	
11. 投資不動産の処分	-		(ア)	
12. 売却予定資産の処分	100		-	
13. その他資産の減少	47,208		17,567	
14. その他資産の増加	(40,655)		(17,667)	
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー		(8,010)		(242,092)
1. 借入負債の増加	2,324,227		1,571,097	
2. 借入負債の減少	(2,066,321)		(1,670,613)	
3. 社債の発行	521,761		564,454	
4. 社債の償還	(626,485)		(617,909)	
5. 配当金の支払	(50,129)		(63,533)	
6. 新種資本証券の発行	-		32,653	
7. 新種資本証券の償還	(109,000)		(57,768)	
8. その他負債の増加	1,095		1,411	
9. その他負債の減少	(3,158)		(1,884)	
IV. 外貨表示現金及び現金性資産に対する 為替レート変動効果		108		816
V. 現金及び現金性資産の増加(減少)		(37,483)		61,633
VI. 現金及び現金性資産の期首残高 (注39)		419,144		357,510

VII. 現金及び現金性資産の期末残高（注39）		381,661		419,143

“ 添付の注記は本財務諸表の一部である ”

注記

=====

2014年12月31日現在
2013年12月31日現在

株式会社新韓銀行

1. 銀行の概要

株式会社新韓銀行（以下、“当行”）は金融業を主な目的として1897年2月19日に設立された漢城銀行と1906年8月8日に設立された東一銀行の新設合併（1943年10月1日、銀行名：株式会社朝興銀行）により設立され、ソウル特別市中区世宗大路9道20（訳注：ソウル特別市中区太平路2街120と同じ。）に本店を置いています。

当行は1999年に忠北銀行及び江原銀行を吸収合併し、2006年4月1日には旧新韓銀行を吸収合併して銀行の社名を株式会社新韓銀行に変更しました。当期末現在、当行の資本金は7,928,078百万ウォン、発行株式数は1,585,615,506株であり、当行の株式は新韓金融持株会社が100%保有しています。当期末現在、当行は国内支店797ヶ所、国内出張所103ヶ所、営業所24ヶ所、海外支店8ヶ所を運営しています。

2. 重要な会計処理方針

当行が採択している重要な会計方針は以下の通りです。

（1） 財務諸表の作成基準

当行は株式会社の外部監査に関する法律第13条第1項第1号で規定している国際会計基準審議会の国際会計基準を採択して定めた会計処理基準である韓国採択国際会計基準に基づいて財務諸表を作成しました。

当行の財務諸表は企業会計基準書第1027号“別途財務諸表”による別途財務諸表で、支配企業、関係企業の投資者または共同企業の参加者が、投資資産を被投資者の報告された成果及び純資産に基づかず、直接的な持分投資に基づいた会計処理により表示した財務諸表です。

当期及び比較表示された前期の財務諸表は以下に記述される会計方針に従って作成しました。

(2) 測定基準

財務諸表は以下に挙げる財務状態表の主要項目を除いては、取得原価を基準に作成されています。

- 公正価値で測定されるデリバティブ
- 公正価値で測定される当期損益認識金融商品
- 公正価値で測定される売却可能金融商品
- 公正価値で測定される株式基準報酬
- 公正価値リスクヘッジ会計のリスクヘッジ対象項目として指定され、ヘッジ対象リスクによる公正価値の変動を当期損益として認識する金融資産及び金融負債
- 確定給付債務の現在価値から社外積立資産の公正価値を減算した確定給付債務

(3) 機能通貨及び表示通貨

当行は財務諸表に含まれる項目を営業活動が行われる主な経済環境の通貨（機能通貨）で表示しています。これは機能通貨であり、かつ財務諸表の作成のための表示通貨である“ウォン”で表示しています。

(4) 見積と判断

韓国採択国際会計基準では半期財務諸表を作成するに当たって会計方針の適用や、報告期間末現在の資産、負債及び収益、費用の報告金額に影響を及ぼす事項に対し、経営陣の最善の判断に基づいた見積値及び仮定の使用を要求しています。報告期間末現在における経営陣の最善の判断に基づいた見積値及び仮定が実際の環境とは異なる場合、実際の結果はこのような見積値とは異なることがあります。

見積値と見積に対する基本仮定は継続的に検討されており、会計見積の変更は見積が変更された期間と将来に影響を受ける期間にわたって認識されています。より複雑な判断が必要な部分または仮定と見積が財務諸表に重要な部分は注記4に開示されています。

(5) 会計方針の変更

以下で説明している2014年1月1日から初めて適用される制定・改正基準書の適用を除いて、当行は当期及び比較表示された前期の財務諸表に同一な会計方針を適用しています。

1) 企業会計基準書第1032号“金融商品：表示”改正

2014年1月1日以降に開始する会計年度から、当行は企業会計基準書第1032号“金融商品：表示”の改正事項を適用しています。同基準書は当行が認識した資産及び負債に対して法的に執行可能な相殺権利を現在保有しており、純額で決済するか、資産を実現すると同時に負債を決済する意図を持っている場合にのみ金融資産と金融負債を相殺して、財務状態表に純額で表示するように要求しています。同改正事項の適用により、半期財務諸表に及ぼす影響は重要ではありません。

2) 企業会計基準解釈書第2121号“負担金”制定

2014年1月1日以降に開始する会計年度から、当行は企業会計基準解釈書第2121号“負担金”の制定事項を適用しています。同基準書は負担金負債を認識するようにする義務発生事象を法規に明示された負担金納付を発生させる活動として定義しました。義務発生事象が一定期間にわたって発生すれば負担金負債を漸進的に認識し、最低限の閾値に達するものが義務発生事象である場合、対応する負債はそのような最低限の閾値に達した時に認識します。一方、負担金を前払いしたか、或いはその負担金を納付しなければならない現在義務がなければ資産を認識します。同解釈書の適用により半期財務諸表に及ぼす影響は重要ではありません。

(6) 財務諸表の発行承認日

当行の財務諸表は2015年2月3日の取締役会で承認されました。

(7) 従属企業、関係企業及びジョイントベンチャー投資持分

当行は従属企業、関係企業及びジョイントベンチャー投資持分に対する投資資産に対し、企業会計基準書第1027号“別途財務諸表”による原価法を選択して会計処理しました。但し、従属企業、関係企業及びジョイントベンチャー投資持分に対しては、企業会計基準書第1101号“韓国採択国際会計基準の当初採択”を適用し、韓国採択国際会計基準転換日の過去会計基準による帳簿価額をみなし原価として使用し、測定しました。一方、従属企業、関係企業及びジョイントベンチャー投資持分から受け取る配当金は、配当を受け取る権利が確定される時点で当期損益として認識しています。

(8) 外貨換算

1) 外貨取引

財務諸表の作成において、当行の機能通貨以外の通貨（外貨）で行われた取引は取引日の為替レートを適用して記録しています。報告期間末毎に貨幣性外貨項目は報告期間末の為替レートの終値で換算しています。公正価値で測定する非貨幣性外貨項目は公正価値が決定された日の為替レートで換算し、取得原価で測定する非貨幣性項目は取引日の為替レートで換算しています。

海外事業損益とキャッシュ・フローリスクヘッジ及び純投資のリスクヘッジ手段として指定された金融負債で発生した換算差額を除いた貨幣性項目の換算により発生した為替差異及び貨幣性項目の決済時点に生じる為替差異は、全て当期損益として認識しています。非貨幣性項目で発生した損益をその他包括損益として認識する場合には、その損益に含まれた為替レート変動効果もその他包括損益として認識し、当期損益として認識する場合には為替レート変動効果も当期損益として認識しています。

2) 在外営業活動体

在外営業活動体の機能通貨が当行の表示通貨とは異なる場合には、経営成績と財務状態を以下の方法で表示通貨に換算しています。

在外営業活動体の機能通貨が超インフレーション経済の通貨ではない場合、財務状態表（比較表示する財務状態表を含む）の資産及び負債は当該報告期間末の為替レートの終値で換算し、包括損益計算書（比較表示する包括損益計算書を含む）の収益と費用は当該取引日の為替レートで換算し、換算によって生じる為替差異はその他包括損益として認識します。

在外営業活動体の取得により生じるのれんと資産・負債の帳簿価額に対する公正価値調整額は在外営業活動体の資産・負債とみなして在外営業活動体の機能通貨で表示し、在外営業活動体の他の資産・負債と共に為替レートの終値を適用してウォン貨に換算しています。

在外営業活動体を処分する場合には、独立の資本項目としてその他包括損益において認識した在外営業活動体に関連する為替差異の累計額は在外営業活動体の処分損益を認識する時点でその他包括損益から当期損益に再分類します。

3) 在外営業活動体に対する純投資の換算

在外営業活動体から受け取るか、或いは在外営業活動体に支払う貨幣性項目のうち、予測できる将来に決済する計画がなく、決済される可能性が低い項目はその在外営業活動体に対する純投資の一部とみなして財務諸表で為替差異をその他包括損益として認識し、関連純投資の処分時点で当期損益に再分類します。

(9) 現金及び現金性資産

当行は保有現金と要求払預金、流動性が極めて高く、確定された金額の現金への転換が容易で、価値変動のリスクが軽微な短期投資資産を現金及び現金性資産に分類しています。持分商品は現金性資産から除外していますが、償還日が定められており、取得日から償還日までの期間が短い優先株のような実質的な現金性資産の場合には、現金性資産に含めています。但し、外貨他店借入は借入負債勘定に含めます。

(10) 非デリバティブ資産

金融資産は認識及び測定のために当期損益認識金融資産、満期保有金融資産、貸付金及び受取債権、売却可能金融資産の4つのカテゴリーに区分し、契約の当事者となる時点で財務状態表に認識しています。また、定型化された買入または売渡取引（即ち、関連市場の規定或いは慣行により一般的に設定された期間内に当該金融商品を引き渡す契約条件により金融資産を買い入れるか或いは売り渡す場合）の場合は売買日に認識しています。

金融資産は当初認識時点で公正価値で測定し、当期損益認識金融資産ではない場合、金融資産の取得と直接関連する取引原価は当初認識時点で公正価値に加算しています。

1) 当期損益認識金融資産

売買目的金融資産、または当初認識時点で当期損益認識金融資産に指定した金融資産を当期損益認識金融資産に分類しています。当期損益認識金融資産は当初認識後、公正価値で測定し、公正価値の変動は当期損益として認識しています。一方、当初認識時点で取得と関連して発生した取引費用は、発生時点で直ちに当期損益として認識しています。

2) 満期保有金融資産

満期が固定しており、支払金額が確定しているか、或いは決定可能な非デリバティブ資産として当行が満期まで保有する積極的な意図と能力がある場合、満期保有金融資産に分類しています。当初認識後には実効利率法を適用して償却後原価で測定しています。

3) 貸付金及び受取債権

支払金額が確定しているか、或いは決定可能で、活発な市場で取引価格が開示されていない非デリバティブ資産は貸付金及び受取債権に分類しています。当初認識後には実効利率法を適用して償却後原価で測定しています。

4) 売却可能金融資産

売却可能項目として指定されるか、或いは当期損益認識金融資産、満期保有金融資産、または貸付金及び受取債権に分類されない非デリバティブ資産は売却可能金融資産に分類しています。当初認識後には公正価値で測定し、公正価値の変動はその他包括損益として認識しています。但し、活発な市場で開示される市場価格がなく、公正価値を信頼性をもって測定できない持分商品及びこのような持分商品と連係しており、その持分商品の引渡によって決済されるべきデリバティブは原価で測定しています。

5) 金融資産の認識の中止

金融資産のキャッシュ・フローに対する契約上の権利が消滅するか、或いは金融資産のキャッシュ・フローに対する権利を譲渡して金融資産の所有によるリスクと経済価値の大部分を移転する場合、金融資産の認識を中止しています。仮に金融資産の所有によるリスクと経済価値の大部分を保有しておらず、移転もしていない場合、当行が金融資産を統制していなければ金融資産の認識を中止し、金融資産を継続して統制している場合は、その譲渡資産に対して引き続き関与する程度まで継続して認識し、関連負債を共に認識しています。

仮に金融資産のキャッシュ・フローに対する権利を譲渡したものの、金融資産の所有によるリスクと経済価値の大部分を当行が保有している場合には、当該金融資産を継続して認識し、受け取った売却金額は負債として認識しています。

6) 金融資産と負債の相殺

金融資産と負債は当行が資産と負債を相殺できる法的権利があり、純額で決済するか、或いは資産を実現すると同時に負債を決済する意図がある場合に限り相殺して財務状態表に純額で表示しています。

(11) 金融資産の減損

当行は当期損益認識金融資産を除外した金融資産の減損発生に対する客観的な証拠があるかどうかを報告期間末毎に評価しています。当初認識以降に発生した一つまたはそれ以上の事象の結果により金融資産の見積将来キャッシュ・フローに影響を受けた場合、金融資産が減損されたと判断します。しかし、将来事象の結果として予想される減損損失は認識しません。

減損発生の客観的な証拠がある場合、金融資産のカテゴリー別に以下のように減損損失を測定して当期損益として認識します。

1) 貸付債権

償却後原価で測定される貸付債権の減損損失は当該資産の帳簿価額と当初の実効利子率で割り引いた見積将来キャッシュ・フロー（発生していない将来の貸倒は除外）の現在価値の差異で測定します。

そのために当行は、個別的に重要な金融資産に対して、優先的に減損発生の客観的な証拠があるかどうか個別に検討します。

個別的に重要ではない金融資産の場合、個別的または集合的に検討します。個別的な検討結果、減損発生の客観的な証拠がなければ、その金融資産は類似する信用リスクの特性を有する金融資産の集合に含めて集合的に減損如何を検討します。

減損損失は貸倒引当金勘定を使用して減算し、同金融資産の回収が不可能であると判断される場合、当該金融資産と共に償却処理します。既に貸倒償却した貸付債権が後続的に回収された場合、貸倒引当金を増加させ、その変動は当期損益として認識します。

① 個別評価貸倒引当金

個別評価貸倒引当金は評価対象債権から回収されると期待されるキャッシュ・フローの現在価値に対する経営陣の最善の見積に基づきます。このようなキャッシュ・フローを見積る時、当行は関連する相手の営業キャッシュ・フロー等の財務的な状況、関連する担保物の正味実現可能価額等、利用可能な全ての情報を利用して判断します。

② 集合評価貸倒引当金

集合評価貸倒引当金はポートフォリオに内在された発生損失の測定のために過去の経験損失率に基づいた見積モデルを利用します。同モデルは商品及び借主の種類、信用格付、ポートフォリオの規模、減損発現期間、回収期間等、様々な要因を考慮して各資産（または資産集合）の発生デフォルト率（PD：Probability of Default）と担保及び与信科目別の名目回収率、デフォルト時の発生損失率（LGD：Loss Given Default）を適用します。また、内在された損失の測定をモデル化し、過去の経験及び現状に基づいた入力変数の決定のために一定の仮定を適用します。同モデルの方法論及び仮定は貸倒引当金見積値と実際の損失との差異を減少させるために定期的に検討されます。

2) 売却可能金融資産

公正価値減少額をその他包括損益として認識する売却可能金融資産は公正価値が取得原価に達しない金額から以前の期間に既に当期損益として認識した当該金融資産の減損損失を減算した金額をその他包括損益から当期損益に再分類します。

後続期間に売却可能金融資産の公正価値が増加し、その増加が減損損失認識後に発生した事象と客観的に関連する場合、売却可能債務商品は当期損益に戻し入れ、売却可能持分商品はその他包括損益として認識します。

3) 満期保有金融資産

償却後原価で測定される満期保有金融資産は帳簿価額と当初の実効利率で割り引いた見積将来キャッシュ・フローの現在価値の差異で減損損失を測定し、帳簿価額から直接減算します。

後続期間中、減損損失の金額が減少し、その減少が減損の認識後に発生した事象と客観的に関連する場合には、既に認識した減損損失は回復後の帳簿価額が当初減損を認識していなければ回復日現在に認識したであろう償却後原価を超過しない限度内で当期損益に直接戻し入れます。

(12) デリバティブ

デリバティブは当初認識時に契約日の公正価値で見積り、後続的に報告期間末毎の公正価値で見積っています。デリバティブの公正価値の変動による評価損益はそれぞれ以下のように認識しています。

1) リスクヘッジ会計

当行は金利リスクと為替レートリスクをヘッジするために通貨先渡、金利スワップ、通貨スワップ等のデリバティブ契約を締結しています。ヘッジ対象リスクによる資産または負債、確定契約の公正価値の変動（公正価値リスクヘッジ）、発生可能性が極めて高い予想取引または確定取引の為替レート変動（キャッシュ・フローリスクヘッジ）、在外営業活動体純投資の為替レート変動リスク（純投資のリスクヘッジ）をヘッジするために一部のデリバティブ及び非デリバティブをリスクヘッジ手段として指定しています。

当行はリスクヘッジ関係の開始時点にリスクヘッジ関係、リスク管理目的及びリスクヘッジ戦略を公式的に指定して文書化を行っています。また、この文書にはリスクヘッジ手段、リスクヘッジ対象項目及びリスクヘッジ関係の開始時点及びその後続期間にヘッジ対象リスクによるリスクヘッジ対象項目の公正価値またはキャッシュ・フローの変動をリスクヘッジ手段が相殺する効果を評価する方法等を含んでいます。

① 公正価値リスクヘッジ

リスクヘッジ手段として指定され、公正価値リスクヘッジ会計の適用要件を満たすデリバティブの公正価値変動は当期損益として認識し、ヘッジ対象リスクによるリスクヘッジ対象項目の公正価値変動も当期損益として認識しています。リスクヘッジ手段の公正価値変動とヘッジ対象リスクによるリスクヘッジ対象項目の公正価値変動はリスクヘッジ対象項目に関連する包括損益計算書の同一項目に認識されます。公正価値リスクヘッジ会計は当行がこれ以上リスクヘッジ関係を指定しないか、リスクヘッジ手段が消滅、売却、清算または行使されるか公正価値リスクヘッジ会計の適用要件をこれ以上満たさなくなった場合に中断されます。ヘッジ対象リスクによるリスクヘッジ対象項目の帳簿価額調整額はリスクヘッジ会計が中断された日から償却して当期損益として認識しています。

② キャッシュ・フローリスクヘッジ

リスクヘッジ手段として指定され、キャッシュ・フローリスクヘッジ会計の適用要件を満たすデリバティブの公正価値変動分のうち、リスクヘッジに効果的な部分はその他包括損益として処理し、リスクヘッジに効果的でない部分は当期損益として認識しています。キャッシュ・フローリスクヘッジ会計は当行がこれ以上リスクヘッジ関係を指定しないかリスクヘッジ手段が消滅、売却、清算、行使されるか、キャッシュ・フローリスクヘッジ会計の適用要件をこれ以上満たさなくなった場合に中断されます。

③ 純投資リスクヘッジ

リスクヘッジ手段として指定され、在外営業活動体純投資のリスクヘッジ会計の適用要件を満たした金融商品の公正価値の変動のうち、リスクヘッジに効果的な部分はその他包括損益として認識し、効果的ではない部分は当期損益として認識しています。リスクヘッジに効果的であるため、その他包括損益として認識した部分は、今後その在外営業活動体を処分するか、或いはその在外営業活動体の一部を処分する時点で企業会計基準書第1021号“為替レート変動効果”による再分類調整により、その他包括損益から当期損益に再分類します。

2) 組込デリバティブ

組込デリバティブは主契約の経済的な特性及びリスクの程度と密接な関連性がなく、組込デリバティブと同一条件の別途の商品がデリバティブの定義を充足する場合、複合金融商品が当期損益認識項目として指定されていない時には組込デリバティブを主契約と分離して別途会計処理しています。主契約と分離した組込デリバティブの公正価値変動は当期損益として認識しています。

3) その他デリバティブ

リスクヘッジ手段として指定されていないデリバティブの公正価値変動は直ちに損益として認識しています。

(13) 有形資産

有形資産は当初に原価で測定して認識しています。有形資産の原価には経営陣の意図する方式で資産を稼動するに当たって必要な場所と状態とするために直接関連する原価及び資産の解体、除去や敷地を復旧するために所要されると見積もられる原価が含まれています。

有形資産は当初認識後に原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を減算した金額を帳簿価額としています。但し、有形資産のうち土地及び建物については企業会計基準書第1101号“韓国採択国際会計基準の当初採択”を適用して韓国採択国際会計基準転換日現在の公正価値で測定し、これをその時点のみなし原価として使用しました。公正価値の評価結果として発生した有形資産再評価利益は取締役会の決議によって配当が制限されます。

有形資産の一部を取り替える時に発生する原価は、当該資産から発生する将来の経済的便益が当行に流入する可能性が高く、その原価を信頼性をもって測定できる場合に、資産の帳簿価額に含めるか、或いは適切な場合は別途の資産として認識しています。この際、取り替えられた部分の帳簿価額は除去しています。それ以外の日常的な修繕・維持と関連して発生する原価は発生時点で当期損益として認識しています。

有形資産のうち、土地は減価償却をせず、それ以外の有形資産は資産の取得原価から残存価値を差し引いた金額に対して以下に提示する経済的耐用年数にわたって定額法で償却しています。

当期及び前期の推定耐用年数は以下の通りです。

区分	耐用年数

建物	40年
その他有形資産	4年～5年

有形資産の除去により発生する損益は純売却価額と帳簿価額の差異で決定され、その差額は当期損益として認識しています。

当行は報告期間末毎に資産の残存価値、耐用年数及び減価償却方法を再検討し、その結果、見積値が従来のものと異なる場合は、その差異を会計見積の変更として処理しています。

(14) 無形資産

無形資産は当初認識する時に原価で測定し、当初認識後に原価から償却累計額と減損損失累計額を減算した金額を帳簿価額として認識しています。のれん及び会員権を除いた無形資産は使用可能な時点から残存価値をゼロ（0）として以下の耐用年数にわたり定額法で償却しています。関連する償却費は一般管理費として認識されます。

区分	耐用年数
ソフトウェア	5年
開発費	5年
その他無形資産	5年または契約期間

耐用年数を確定できる無形資産の償却期間と償却方法は会計年度末毎に再検討し、耐用年数を確定できない無形資産に対しては、その資産の耐用年数を確定できないという評価が引き続き正当であるかどうかを報告期間毎に再検討し、これを変更することが適切であると判断される場合は会計見積の変更として処理しています。

研究または内部プロジェクトの研究段階に対する支出は発生時点で費用として認識しています。開発段階の支出は資産を完成することができる技術的な実現可能性、資産を完成して使用するか、販売しようとする企業の意図、能力及び必要な資源の入手可能性、無形資産の将来の経済的便益を全て提示することができ、関連支出を信頼性をもって測定することができる場合に無形資産として認識しており、その他開発関連支出は発生時点で費用として認識しています。

(15) 投資不動産

賃貸収益、資本増価を獲得するために保有する不動産は投資不動産に分類しています。投資不動産は当初認識時点で取引費用を含めて原価で測定し、原価モデルを適用しています。当初認識後には、原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を減算した金額を帳簿価額として認識しており、当期及び前期の耐用年数及び減価償却方法は以下の通りです。

区分	耐用年数	減価償却方法
建物	40年	定額法

後続原価は、資産から発生する将来の経済的便益が流入する可能性が高く、その原価を信頼性をもって測定できる場合に限り資産の帳簿価額に含めるか、或いは適切な場合は別途の資産として認識しており、後続支出により振り替えられた部分の帳簿価額は認識を中止しています。一方、日常的な修繕・維持に関連して発生する費用は発生時点で当期損益として認識しています。

投資不動産の減価償却方法、残存価値及び耐用年数は報告期間末毎に再検討し、これを変更することが適切であると判断される場合は会計見積りの変更として処理しています。

(16) リース

当行はリース資産の所有によるリスクと経済価値の大部分がリース利用者に移転される場合にはファイナンスリースに分類し、リスクと経済価値の大部分を移転しないリースはオペレーティングリースに分類しています。

1) ファイナンスリース

当行はリース約定日に測定された最低リース料の現在価値とリース資産の公正価値のうち、いずれか低い金額をリース期間開始日にファイナンスリース資産とファイナンスリース負債としてそれぞれ認識しています。

リース開設直接原価はファイナンスリース資産に含まれています。

最低リース料は金融費用とリース負債の償還額に分けて認識しており、金融費用は負債残額に対して一定の期間利子率が算出されるようリース期間の各報告期間にわたって配分しています。調整リース料は発生した期間に費用として処理しています。

ファイナンスリース資産の減価償却は当行が所有する他の減価償却対象資産と一貫した体系的な基準で償却しており、リース期間終了時点まで資産の所有権を獲得することが確実にない場合には、リース期間とリース資産の耐用年数のうち短い期間にわたって減価償却しています。また、当行はファイナンスリース資産に対して減損如何を検討しています。

2) オペレーティングリース

オペレーティングリースのリース料はリース期間にわたって定額法で費用を認識しています。

(17) 売却予定資産

資産または処分資産集団の帳簿価額が、継続使用ではなく売却取引を通じて主に回収されることが予想される場合は、売却予定資産に分類しています。このような条件は当該資産（または処分資産集団）が現在の状態で直ちに売却可能でなければならず、売却される可能性が非常に高い場合にのみ充足されたとみなしています。資産（または処分資産集団）を売却予定として当初に分類する直前に当該資産（または資産と負債）の帳簿価額と純公正価値のうち、いずれか低い金額で測定しています。資産の純公正価値が下落すると、減損損失を直ちに当期損益として認識し、純公正価値が増加すると、過去に認識していた減損損失累計額を限度として利益として認識しています。

資産が売却予定に分類されるか、売却予定に分類された処分資産集団の一部である場合は、その資産は償却しません。

(18) 非金融資産の減損

従業員給与で発生した資産、繰延税金資産及び売却予定に分類される資産を除いた全ての非金融資産に対しては、報告期間末毎に資産減損を示唆する兆候があるかどうかを検討し、仮にそうした兆候があれば、当該資産の回収可能価額を見積もっています。但し、企業結合により取得したのれん及び耐用年数を確定できない無形資産、まだ使用できない無形資産については、資産減損を示唆する兆候と関係なく、毎年回収可能価額と帳簿価額を比較して減損テストを行っています。

回収可能価額は個別資産別に、または個別資産の回収可能価額を見積もることができなければ、その資産が属する現金創出単位別に回収可能価額を見積もっています。回収可能価額は使用価値と純公正価値のうち大きい金額で決定しています。使用価値は資産や現金創出単位から創出されると期待される将来キャッシュ・フローを貨幣の時間価値及び将来キャッシュ・フローを見積もる際に調整されない資産の特有リスクに対する現行の市場評価を反映した適切な割引率で割り引いて見積もります。

資産や現金創出単位の回収可能価額が帳簿価額に満たない場合、資産の帳簿価額を減少させて直ちに当期損益として認識しています。

企業結合により取得したのれんは企業結合によるシナジー効果の恩恵を受けると期待される各現金創出単位に配分します。現金創出単位に対する減損損失はまず、現金創出単位に配分されたのれんの帳簿価額を減少させ、その後、現金創出単位に属する他の資産それぞれの帳簿価額に比例して資産の帳簿価額を減少させています。のれんに対して認識した減損損失は後続期間に戻し入れることができません。報告期間末毎にのれんを除いた資産に対して過去期間に認識した減損損失がこれ以上存在しないか減少したことを示唆する兆候があるかどうかを検討し、直前減損損失の認識時点以後に回収可能価額を決定するに当たって使用された見積値に変化がある場合にのみ戻し入れます。減損損失戻入により増加した帳簿価額は、過去に減損損失を認識する前の帳簿価額の減価償却または償却後残高を超過することはできません。

(19) 非デリバティブ負債

当行は契約上の内容の実質と金融負債の定義によって金融負債を当期損益認識金融負債とその他金融負債に分類し、契約の当事者となる時に財務状態表に認識しています。

1) 当期損益認識金融負債

当期損益認識金融負債は売買目的金融負債、或いは当初認識時点で当期損益認識金融負債に指定した金融負債を含めています。当期損益認識金融負債は当初認識後、公正価値で測定し、公正価値の変動は当期損益として認識しています。一方、当初認識時点に発行と関連して発生した取引費用は発生時点で直ちに当期損益として認識しています。

2) その他金融負債

当期損益認識金融負債に分類されていない非デリバティブ負債はその他金融負債に分類し、これには預金、借入負債、社債等が含まれます。その他金融負債は当初認識時の発行と直接関連する取引原価を減算した公正価値で測定しています。後続的にその他金融負債は実効利子率法を使用して償却後原価で測定し、支払利息は実効利子率法を使用して認識しています。

金融負債は消滅した場合、即ち、契約上の義務が履行、取消または満了した場合に限り、財務状態表から除去しています。

(20) 払込資本

1) 持分証券

普通株は資本に分類し、資本取引に直接関連して発生する追加費用は税金効果を反映した純額を資本から減算しています。

2) 新種資本証券

当行は商品の契約条件の実質によって資本証券を金融負債または持分商品に分類します。当行が契約上の義務を決済するための現金等金融資産の引渡を回避できる無条件的な権利を有している新種資本証券の場合、持分商品に分類して資本の一部として表示しています。

(21) 従業員給与

1) 短期従業員給与

従業員が関連勤務役務を提供した報告期間末から12ヶ月以内に決済される短期従業員給与は勤務役務と交換して支給が予想される金額を、勤務役務が提供される際に当期損益として認識しています。短期従業員給与は割引しない金額で測定しています。

2) その他長期従業員給与

従業員が関連勤務役務を提供した報告期間の末日から12ヶ月以内に支給されないその他長期従業員給与（退職給与、解雇給与は除外）は当期及び過去期間に提供した勤務役務の対価として獲得した将来の給与額を現在価値に割り引いています。再測定による変動は発生した期間に当期損益として認識しています。

3) 退職給付制度：確定給付型制度

報告期間末現在、確定給付型制度に関連する退職給付に係る負債は確定給付債務の現在価値から社外積立資産の公正価値を減算して認識しています。確定給付債務は毎年独立した計理士による予測単位積立方式で計算されています。確定給付債務の現在価値は確定給付型制度で支給される将来キャッシュ・フローを関連退職給付費用の満期と類似する満期を有する退職金が支給される通貨で表示された優良社債の利息率を使用して見積

来キャッシュ・フローを割り引いた後、決定されています。確定給付の費用のうち、勤務費用及び純確定給付債務（資産）の純利子は当期損益として認識し、純確定給付債務（資産）の再測定要素はその他包括損益として認識しています。

4) 解雇給与

当行は解雇給与の提案をこれ以上撤回できなくなった時と解雇給与の支給を伴う構造調整に対する費用を認識する時のうち、いずれか早い日に解雇給与に対する費用を認識します。

解雇給与は支給日が12ヶ月過ぎた後に到来する場合には、現在価値に割り引いています。

(22) 株式基準報酬

当行は提供を受ける財貨または役務の対価として従業員に株式またはストックオプションを付与する株式決済型株式報酬取引に対して、提供を受ける財貨や役務の公正価値、または提供を受ける財貨、或いは役務の公正価値を信頼性をもって測定することができない場合は付与した持分商品の公正価値に基づいて財貨や役務の公正価値を間接的に測定し、その金額を稼得期間にわたって従業員給与費用及び資本として認識しています。ストックオプションの稼得条件が役務提供条件または市場条件ではない稼得条件である場合は最終的に稼得されるストックオプションの実際の数量に基づいて決定されるように認識された従業員費用を調整しています。

提供を受ける財貨や役務の対価として現金を支払う現金決済型株式基準報酬取引の場合は提供を受ける財貨、役務とその対価で負担する負債を公正価値で測定し、稼得期間にわたって従業員給与費用及び負債として認識しています。また、負債が決済されるまで毎報告期間末と最終決済日に負債の公正価値を再測定し、公正価値の変動額は給与として認識しています。

当行の役員・職員には親会社である新韓金融持株会社の株式に基づいた株式基準報酬が付与されており、当行は新韓金融持株会社との償還支払約定により株式基準報酬取引の報酬原価を現金で負担することとなっています。当行は当該株式報酬費用を約定役務提供期間に按分し、期間費用及び未払費用としてそれぞれ計上しています。約定役務提供期間中に役員・職員等の死亡、退職または解雇等により契約義務を履行しないために付与された権利が行使されず消滅する場合には、既に認識した未払費用を報酬費用から減算します。一方、新韓金融持株会社との償還支払約定に関係なく、当行が株式基準報酬取引を決済する義務がない連結実体内の企業間の株式基準報酬取引は、株式決済型株式基準報酬取引で測定しています。

(23) 引当負債

過去事象の結果、現在の法的義務またはみなし義務が存在し、当該義務を履行するために経済的便益を有する資源が流出する可能性が高く、当該義務の履行に所要される金額を信頼性をもって見積もることができる場合に、引当負債を認識しています。

引当負債に認識する金額は、関連事象と状況に対する避けられないリスクと不確実性を考慮して現在義務を報告期間末に履行するために所要される支出に対する最善の見積値です。貨幣の時間価値効果が重要な場合、引当負債は義務の履行のために予想される支出額の現在価値で評価しています。

報告期間末毎に引当負債の残高を検討し、報告期間末現在の最善の見積値を反映して調整しています。義務履行のために経済的便益を有する資源が流出される可能性がこれ以上高くない場合には、関連引当負債を戻し入れています。引当負債は当初認識に関連する支出にのみ使用しています。

(24) 金融保証契約

金融保証契約は債務商品の当初契約条件または変更された契約条件により支払期日に特定債務者が支払うことができないことから、保有者が受けた損失を補償するために、発行者が特定金額を支払わなければならない契約です。

金融保証契約は当初認識時に公正価値で測定して支払保証引当負債に含め、公正価値は当該金融保証契約の期間にわたって償却されます。

当初認識後には以下の金額のうち、いずれか高い金額で測定されます。

- 企業会計基準書第1037号“引当負債、偶発債務及び偶発資産”により決定された金額（当該金融保証契約から期待される支払金額の現在価値）
- 当初認識金額から企業会計基準書第1018号“収益”により認識した償却累計額を減算した金額

(25) 収益・費用の認識

1) 受取利息と支払利息

受取利息と支払利息は実効利子率法を適用して包括損益計算書に認識します。実効利子率法は金融資産、金融負債の償却後原価を計算し、関連する期間にわたって受取利息や支払利息を配分する方法です。

実効利子率の計算時、当該金融商品の全ての契約条件を考慮して将来キャッシュ・フローを見積るものの、将来の信用リスクによる損失は考慮しません。また、契約当事者間で支払うか、受け取る手数料、取引費用及びその他の割増額、割引額等を反映します。金融商品に対するキャッシュ・フローまたは期待存続期間を信頼性をもって見積ることができない例外的な場合には、全体契約期間にわたって契約上のキャッシュ・フローを使用して実効利子率を算定します。

金融資産、類似する金融資産の集合が減損損失により減額されると、その後の受取利息は減損損失を見積る目的で将来キャッシュ・フローを割り引くために使用した利子率を使用して認識します。

2) 受取手数料

当行は金融役務手数料をその手数料の賦課目的と関連金融商品の会計処理基準により以下のように区分して処理します。

① 金融商品の有効収益を構成する手数料

金融商品の実効利子率の一部を構成する手数料の場合、一般的に実効利子率に対する調整項目として処理します。このような手数料には借入者の財務状態、保証、担保、その他保障約定に関連する評価及び事務処理、関連書類の準備及び作成等の活動に対する補償、金融負債の発行時に受け取った開設手数料等が含まれます。しかし、金融商品が当期損益認識金融商品に該当する場合、手数料は商品の当初認識時点で収益として認識します。

② 役務の提供により稼得される手数料

資産管理手数料、業務受託手数料、保証役務手数料等、一定期間にわたって役務の提供対価として賦課される手数料はその役務の提供時に収益として認識します。また、特定の貸付約定が締結される可能性が低く、その貸付約定が企業会計基準書第1039号“金融商品：認識及び測定”の適用範囲に該当しない場合は、当該約定手数料は約定期間にわたって期間に比例して収益として認識します。

③ 重要な行為の遂行により稼得される手数料

株式またはその他証券売買、事業譲渡・譲受けの斡旋のように第三者のための取引の交渉または交渉参加の対価として受け取る手数料及び販売手数料等、重要な行為を遂行することにより稼得される手数料は重要な行為を完了した時点で収益として認識します。

3) 受取配当

受取配当は株主として配当を受ける権利が確定される時点で収益を認識しています。

(26) 法人税

法人税費用は当期法人税と繰延税金で構成されており、その他包括損益や資本に直接認識される取引や事象または企業結合から発生する税額を除いては、当期損益として認識しています。

当行の親会社である新韓金融持株会社は当行を含めた国内完全子会社を一つの納税単位とみなして所得金額を通算して法人税を申告・納付し、当行は新韓金融持株会社に連結法人税負担税額の個別帰属額を支払う義務のみが存在するため、当該金額を当期法人税負債に含まれる未払金として計上しました。資産・負債の帳簿価額と税務価額の差異である一時差異と繰越控除が可能な税務上欠損金及び税額控除等に対して将来負担する法人税負担額と将来軽減される法人税負担額のうち、当行に直接帰属される項目に対してそれぞれ繰延税金負債及び資産として認識しています。繰延税金は一時差異等の実現が予想される会計年度に適用される法人税率を使用して見積っています。

従属企業、関係企業及び共同企業に対する投資資産に関連する将来加算一時差異に対して当行が解消時点を統制することができ、予測可能な将来に一時差異が解消しない可能性が高い場合を除いては、繰延税金負債を認識しています。また、将来減算一時差異により発生する繰延税金資産は一時差異が予測可能な将来に解消する可能性が高く、一時差異が使用され得る課税所得が発生する可能性が高い場合に認識しています。

繰延税金資産及び負債は報告期間末に制定されたか、実質的に制定された税法に基づいて当該資産が実現されるか、負債が支払われる報告期間に適用されると期待される税率を使用して測定しています。繰延税金資産及び負債の測定時には報告期間末現在、連結実体に関連する資産、負債の帳簿価額を回収するか、決済すると予想される方式により税効果を反映しました。

繰延税金資産の帳簿価額は毎報告期間末に検討し、繰延税金資産による恩恵が使用されるに十分な課税所得が発生する可能性がこれ以上高くない場合、繰延税金資産の帳簿価額を減少させています。

繰延税金資産及び負債は同一課税当局が賦課する法人税であり、連結実体が認識された金額を相殺できる法的権限を保有しており、当期の法人税負債及び資産を純額で決済する意図がある場合のみに相殺しています。

(27) 信託関連会計処理

当行は資本市場と金融投資業に関する法律第114条により信託財産を固有財産と区分して会計処理しています。これに関連して信託勘定に貸し付けた資金を信託勘定貸付金、信託勘定から借り入れた資金を他会計勘定借入（信託勘定未払金）として計上しており、金融投資業規定によって信託財産の運用、管理及び処分に関連して信託報酬を取得し、これを信託業務運用収益として計上しています。

(28) 1株当たり利益

当行は普通株の基本的1株当たり利益と希薄化後1株当たり利益を継続事業損益と当期純損益に対して計算し、包括損益計算書に表示しています。基本的1株当たり利益は普通株に帰属する当期純損益を報告期間に流通される普通株式数を加重平均した株式数で除して計算しています。希薄化後1株当たり利益は従業員に付与した株式基準報酬等、全ての希薄化効果のある潜在的普通株の影響を考慮して普通株に帰属する当期純損益及び加重平均流通普通株式数を調整して計算しています。

(29) 未適用制定・改正基準書

制定・公表されたものの、2014年1月1日以降に開始する会計年度に施行日が到来していない制定・改正基準書及び解釈書は以下の通りです。当行は財務諸表の作成時に、以下の制定・改正基準書及び解釈書を早期適用していません。

以下の制定・改正基準書及び解釈書の適用時、財務諸表に及ぼす影響は報告期間末現在、見積もることができません。

1) 企業会計基準書第1102号“株式基準報酬”

株式基準報酬で規定する特定条件が成果条件を構成することができるかどうか、成果条件の達成期間が役務提供期間より長いかどうか等が明確ではなかったものを、改正基準では役務提供、成果条件に対する定義を明確にしました。同基準書は2014年7月1日以降開始する会計年度から適用が義務付けられます。

2) 企業会計基準書第1103号“企業結合”

改正基準では、条件付対価が金融商品である場合は企業会計基準書第1032号により負債または資本に分類し、資産や負債に分類される条件付対価は後続期間に公正価値で測定し、公正価値の変動は当期損益に反映するように規定しました。また、全ての形態の共同約定、即ち、共同企業及び共同営業の構成を企業会計基準書第1103号の適用範囲から除外するように改正しました。同基準書は2014年7月1日以降開始する会計年度から適用が義務付けられます。

3) 企業会計基準書第1113号“公正価値の測定”

明示された利率のない短期受取債権及び短期支払債務は割引効果が重要ではない場合は送状の元本金額で測定することができるようにしました。また、金融資産や金融負債の定義を充足しなくても企業会計基準書第1039号の適用範囲に含まれる場合はポートフォリオ例外条項を適用するようにしました。同基準書は2014年7月1日以降開始する会計年度から適用が義務付けられます。

4) 企業会計基準書第1024号“特殊関係者の開示”

直接または間接に主な経営人員役務を提供する企業（管理企業）を特殊関係者の定義に含めました。主な経営陣のサービスが企業に提供される場合、管理会社から提供を受ける役務に対して費用として認識した金額及び他の取引を開示しなければなりません。同基準書は2014年7月1日以降開始する会計年度から適用が義務付けられます。

5) 企業会計基準書第1019号“従業員給与”

決められた要件を充足する拠出金を従業員か、第三者が納付する場合、企業は関連する勤務役務が提供される期間の勤務原価から拠出金を減算する方法を会計方針として選択できます。勤務役務に連携している拠出金は純当期勤務原価及び確定給付債務の計算時に含めなければならず、同拠出金は制度の拠出金の算定時、または定額基準で勤務期間に配分しなければなりません。同基準書は2014年7月1日以降開始する会計年度から適用が義務付けられます。

6) 企業会計基準書第1111号“共同約定”

事業の定義を充足する共同営業の持分を取得する時に企業会計基準書第1103号による会計処理を適用します。また、共同営業者が共同営業の持分を追加で取得するか、或いは共同支配力を維持する場合、追加取得する持分は一般的に公正価値で測定されるものの、以前の保有持分は再測定しないように定めました。同基準書は2016年1月1日以降開始する会計年度から適用が義務付けられます。

7) 企業会計基準書第1027号“別途財務諸表”

別途財務諸表上、従属企業、関係企業、共同企業投資に対して原価法または企業会計基準書第1039号による会計処理だけでなく、持分法を選択して会計処理することができるように基準書を改正しました。同基準書は2016年1月1日以降開始する会計年度から適用が義務付けられます。

3. 金融商品のリスク管理

3-1. 信用リスク

当行は一定水準の信用リスクにさらされています。これは取引相手の義務不履行により当行が財務的損失を被るリスクを意味します。信用リスクは会社の営業活動において最も重要に管理されなければならないリスクに分類され、経営陣は信用リスクエクスポージャーを注意深く管理しています。信用リスクへのエクスポージャーは主に預け金と貸付債権に関連する貸付過程及び債務証券に対する投資活動及びグループ資産ポートフォリオの為替手形等で発生し、貸付約定等の財務諸表のオフバランス勘定に関連する信用リスクが存在します。

(1) 信用リスク管理

当行の信用リスク管理に対する基本政策はリスク政策委員会で決定されます。リスク政策委員会はCRO（Chief Risk Officer）を委員長に、CCO（Chief Credit Officer）と事業グループ担当グループ長及びリスク総括部長により構成され、銀行全般の信用リスク管理案と与信政策の方向を意思決定しています。リスク政策委員会と別途で与信審議委員会を設置して巨額与信及び限度承認等の与信審査を分離しており、CCOを委員長に、CROと与信関連事業グループ担当副行長、与信企画部長及び選任審査役で構成され、与信の健全性を引き上げ、運用収益性を向上する方向で与信審査を行っています。

信用リスク対象資産を保有及び管理する全ての営業単位で1次的に当該資産に対するリスク管理を行い、リスク総括部及び与信企画部等の信用リスク管理部署では2次的に銀行全体の信用リスク管理を担当します。リスク総括部はリスク政策委員会で設定された信用リスク限度及び同一借主別、系列別、業種別、国家別の信用エクスポージャー限度を管理する等、信用ポートフォリオ管理を行っています。また、信用評価システム、担保管理システムの運用を通じたPD、LGD、EAD（Exposure At Default）等の信用リスク算出要素（Risk Component）を測定及び管理しています。与信意思決定の支援及び牽制組織として与信企画部は銀行全体の与信政策及び制度を管理しており、与信審査部では独立的な信用評価の遂行及び与信意思決定を行っています。また、与信監理部では巨額与信等に対する個別与信監理を行っています。

全ての与信顧客（個人及び企業）に対して信用格付が付与されて管理されますが、個人は身上情報、銀行内部実績情報、外部信用情報を合算して算出され、企業の場合は財務項目と産業リスク、営業リスク、経営リスク

等の非財務項目等を総合的に考慮して信用評価システムで算出されます。算出された信用格付は与信承認、限度管理、価格決定、貸倒引当金の積立等に活用される等、信用リスク管理の基本となります。

当行の信用評価システムはBasel II要件を反映して個人評価システム（ACE：Automatic Credit Evaluation）、エクスポージャー額3億ウォン以下の小売SOHO信用評価システム、企業信用評価システム（AIRS：Advanced Internal Rating System）を運営しています。

企業与信に対する審査は集団意思決定体制を取ることによって客観的かつ慎重な意思決定を行っています。一般的な与信の場合は営業店のRM（リレーションシップ・マネジャー）と各セグメントの本部審査役の合意の下で与信承認が行われ、規模が大きいか或いは重要な与信の場合は審査協議体等で与信承認が行われます。特に、専決限度を超過する巨額与信等の重要な与信に対しては、与信最高意思決定機構である与信審議委員会で審査を行っています。個人与信は個人与信審査部で客観的な統計方法及び銀行の信用政策に基づく自動化された個人与信評価システム(CSS: Credit Scoring System)によって審査が行われています。

個別与信に対する常時管理のために常時モニタリングシステムを稼働しています。企業与信取引先のうち、不良予想企業を自動検索して審査役とRMによって貸付査定が行われるようにしており、事業グループと独立した与信管理部では貸付査定結果の適正性を判断し、必要に応じて当該企業の信用格付調整を要請します。このような手続に従って不良予想企業を早期警報企業、観察企業及び正常企業に分類した後、リスク段階別の管理指針によって差別管理することで与信の不良化を早期に遮断しています。専門信用評価機関と提携した財務分析支援システムは与信審査及び管理を支援しており、FSB研究所の産業情報チームで産業格付を算出・管理し、産業動向及び企業情報を分析・提供しています。

（2） リスク限度管理及びリスク軽減政策

信用リスクを適正水準に統制するために、以下のような限度管理体系を樹立・運用しています。

- 信用リスク限度は信用VaR及びエクスポージャーを基準として事業セグメント別、顧客別、商品別、業種別等、各セグメント別に設定して管理する。
- リスク総括部では信用VaR及びエクスポージャー基準の限度設定と管理業務を行い、与信企画部と与信審査部でも信用リスク管理のために設定されたエクスポージャー限度管理業務を行う。
- リスク総括部は毎年1回以上、銀行全体の信用リスク限度運営計画を樹立してリスク政策委員会に付議する。
- 各セグメントはセグメント別に割り当てられた信用リスク限度をモニタリングして遵守する。
- 識別された信用リスクに対して個人顧客及び企業顧客、産業と国籍別限度を指定及び管理する。
- 個別借主または借主集団、地理的産業別セグメントに対して受容できるリスクの限度を設定する。
- 当該リスクは年間基準もしくは必要であると判断される場合、期間内に再検討され、商品別、産業別、国家別リスクの限度は四半期別に取り締役会の承認を得る。

- 機関を含めた借主別エクスポージャーは財務諸表上の勘定とオフバランス勘定に対して個別設定された下位水準の限度により管理され、外貨先渡取引等の商品取引に関連する日別の取引に対してもリスクの限度を決定する。
- 限度対比の実際エクスポージャーは日別に管理する。
- 信用リスクエクスポージャーは借主に対する利子と元金償還能力を分析する過程でも管理され、必要な場合はこの過程で貸付限度を変更する。

その他のリスク管理案は以下の通りです。

1) 担保

当行は信用リスクを緩和するための政策と手続を導入しています。信用リスクに関しては一般的に担保が使用され、当行は特定種類の資産に対する質権設定に関する政策を導入しており、主な担保形態は以下の通りです。

- 住宅担保
- 不動産、棚卸資産及び売上債権等
- 債務証券及び持分証券等の金融商品

相対的に長期貸付債権は、通常、担保が設定されています。一方、リボルビング個人信用貸付は無担保である場合が一般的です。また、信用リスクによる損失を最小化するために、当行は資産減損の兆候がある場合、取引相手に追加担保を設定しています。

貸付債権以外の金融資産に対する担保は商品の特性によって差異があります。

金融商品ポートフォリオ等の担保設定されたABS等の特殊な場合を除くと、債務証券では無担保が一般的です。

2) デリバティブ

当行は購入後から処分契約の間のデリバティブに対して金額と期間に関する限度を維持して管理しています。

3) 一括相殺契約

当行は相当な規模の取引を行うにあたって、取引相手と一括相殺契約を締結することにより信用損失に対するエクスポージャーを制限しています。

取引は通常、総額基準で設定されていることから、一括相殺契約は一般的に財務状態表上、資産と負債を相殺した結果としては表示されません。しかし、取引相手に対する全ての金額が純額基準で設定される時に損失が発生する場合は、利益の生じている契約に関連する信用リスクはその範囲内で一括相殺契約により減少します。

一括相殺契約に属している信用リスクに対するグループの全体的なエクスポージャーは約定に属する各取引に影響を受けるため、短期間内に実質的に変動することもあります。

4) 信用関連約定

保証と信用供与は与信のような信用リスクを有しています。信用状（特定期間と状況の下で要求される金額に対し、当行で第三者に手形を発行して顧客に代わり信用を保証）はこれらに関連する基礎的な商品の船積により担保が設定されているため、与信よりも更に低いリスクが伴います。信用補強に対する約定は与信、保証或いは信用状の形態で信用を補強する限度の未使用比率を表します。信用を補強する約定に対する信用リスクに関連して、当行は総未使用約定と同一の金額に対して潜在的にさらされています。長期約定は一般的に短期約定よりも信用リスクの程度が大きいため、当行は信用約定の満期に対してモニタリングしています。

(3) 信用リスクエクスポージャー額

当期末及び前期末現在において保有している金融商品の信用リスクエクスポージャー額の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分			第183（当）期	第182（前）期
預け金及び 貸付債権 （注1,2）	銀行		6,787,406	7,775,689
	個人	住居用不動産担保貸付	43,071,816	40,786,301
		その他	42,944,178	38,021,224
		小計	86,015,994	78,807,525
	政府/公共機関/中央銀行		11,123,448	8,641,823
	企業	大企業	27,878,443	26,248,091
		中小企業	54,368,231	48,164,396
		特殊金融	3,827,243	4,295,886
		その他	1,075	849
		小計	86,074,992	78,709,222
	合計		190,001,840	173,934,259
売買目的金融資産	債務証券		4,732,760	4,596,323
	金預け金		224,556	76,337
	合計		4,957,316	4,672,660
デリバティブ資産			1,310,109	1,457,641
売却可能金融資産	債務証券		19,214,287	20,379,459
満期保有金融資産	債務証券		7,747,368	7,051,164
その他金融資産（注1,3）			7,887,366	6,645,005
オフバランス勘定	金融保証		4,421,949	3,674,928
	貸付約定及びその他信用関連負債		71,177,412	72,013,978
	合計		75,599,361	75,688,906
合計			306,717,647	289,829,094

(注1) 預け金及び貸付債権、その他金融資産のエクスポージャー額は、未償却残高及び貸倒引当金を減算した純帳簿価額です。

(注2) 新BIS規制（Basel III）の自己資本比率（BIS比率）の算出上、類似する信用リスク集団に分類しました。

(注3) 未収金、未収収益、預け保証金、未回収内国為替債権、仮払金等で構成されています。

(4) 預け金と貸付債権の減損情報

1) 当期末及び前期末現在における預け金及び貸付債権の減損如何に関する内訳は以下の通りです。

<第183 (当) 期>

(単位：百万ウォン)

区分	銀行	個人		政府 公共機関 中央銀行	企業				合計
		住居用 不動産 担保貸付	その他		大企業	中小企業	特殊金融	その他	
延滞及び減損されて いない預け金及び 貸付債権	6,794,374	42,792,143	42,867,410	11,124,643	27,877,781	54,309,650	3,713,010	1,101	189,480,112
延滞されたが減損 されていない貸付債 権	-	218,945	141,706	-	40,460	107,368	12,290	-	520,769
減損された貸付債権	-	80,012	168,745	-	528,944	417,290	179,596	10	1,374,597
小計	6,794,374	43,091,100	43,177,861	11,124,643	28,447,185	54,834,308	3,904,896	1,111	191,375,478
貸倒引当金	(6,968)	(19,284)	(233,683)	(1,195)	(568,742)	(466,077)	(77,653)	(36)	(1,373,638)
合計	6,787,406	43,071,816	42,944,178	11,123,448	27,878,443	54,368,231	3,827,243	1,075	190,001,840

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

区分	銀行	個人		政府 公共機関 中央銀行	企業				合計
		住居用 不動産 担保貸付	その他		大企業	中小企業	特殊金融	その他	
延滞及び減損されて いない預け金及び 貸付債権	7,783,615	40,482,816	37,921,023	8,642,788	26,121,149	47,849,398	4,183,366	881	172,985,036
延滞されたが減損 されていない貸付債 権	-	257,904	140,241	-	18,533	315,937	1,252	-	733,867
減損された貸付債権	-	62,971	175,692	-	708,250	467,714	243,998	-	1,658,625
小計	7,783,615	40,803,691	38,236,956	8,642,788	26,847,932	48,633,049	4,428,616	881	175,377,528
貸倒引当金	(7,926)	(17,390)	(215,732)	(965)	(599,841)	(468,653)	(132,730)	(32)	(1,443,269)
合計	7,775,689	40,786,301	38,021,224	8,641,823	26,248,091	48,164,396	4,295,886	849	173,934,259

- 2) 当期末及び前期末現在、延滞及び減損されていない預け金及び貸付債権の信用健全性別の構成内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

区分	銀行	個人		政府 公共機関 中央銀行	企業				合計
		住居用 不動産 担保貸付	その他		大企業	中小企業	特殊金融	その他	
レベル：1.優良	6,794,374	40,497,586	40,533,174	11,124,643	21,165,753	31,444,017	3,460,327	-	155,019,874
レベル：2.普通	-	2,294,557	2,334,236	-	6,712,028	22,865,633	252,683	1,101	34,460,238
小計	6,794,374	42,792,143	42,867,410	11,124,643	27,877,781	54,309,650	3,713,010	1,101	189,480,112
貸倒引当金	(6,968)	(11,893)	(117,062)	(1,195)	(284,050)	(325,152)	(25,436)	(28)	(771,784)
合計	6,787,406	42,780,250	42,750,348	11,123,448	27,593,731	53,984,498	3,687,574	1,073	188,708,328
担保による信用リス ク 軽減効果	134	41,927,960	16,571,823	-	7,134,945	37,782,136	519,211	-	103,936,209

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

区分	銀行	個人		政府 公共機関 中央銀行	企業				合計
		住居用 不動産 担保貸付	その他		大企業	中小企業	特殊金融	その他	
レベル：1.優良	7,783,615	38,285,905	35,664,036	8,642,788	19,574,666	25,815,114	3,880,792	-	139,646,916
レベル：2.普通	-	2,196,911	2,256,987	-	6,546,483	22,034,284	302,574	881	33,338,120
小計	7,783,615	40,482,816	37,921,023	8,642,788	26,121,149	47,849,398	4,183,366	881	172,985,036
貸倒引当金	(7,926)	(10,913)	(106,918)	(965)	(210,126)	(285,183)	(27,203)	(32)	(649,266)
合計	7,775,689	40,471,903	37,814,105	8,641,823	25,911,023	47,564,215	4,156,163	849	172,335,770
担保による信用リスク 軽減効果	152	39,769,991	14,613,326	-	6,938,728	35,145,326	983,829	-	97,451,352

- 3) 当期末及び前期末現在、延滞されたものの減損されていない預け金及び貸付債権の延滞期間別の構成内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

区分	個人		企業			合計
	住居用 不動産 担保貸付	その他	大企業	中小企業	特殊金融	
30日以内延滞	172,933	96,029	18,074	48,834	12,290	348,160
30日～60日延滞	32,448	26,456	-	21,125	-	80,029
60日～90日延滞	13,564	12,240	22,341	22,079	-	70,224
90日以上延滞	-	6,981	45	15,330	-	22,356
小計	218,945	141,706	40,460	107,368	12,290	520,769
貸倒引当金	(2,168)	(27,018)	(587)	(7,381)	(8,344)	(45,498)
合計	216,777	114,688	39,873	99,987	3,946	475,271
担保による 信用リスク軽減効果	215,073	67,803	2,914	75,236	-	361,026

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

区分	個人		企業			合計
	住居用 不動産 担保貸付	その他	大企業	中小企業	特殊金融	
30日以内延滞	223,603	107,439	18,474	278,913	1,252	629,681
30日～60日延滞	21,752	18,304	-	27,235	-	67,291
60日～90日延滞	11,644	14,345	10	9,504	-	35,503
90日以上延滞	905	153	49	285	-	1,392
小計	257,904	140,241	18,533	315,937	1,252	733,867
貸倒引当金	(1,980)	(19,805)	(190)	(7,143)	(1)	(29,119)
合計	255,924	120,436	18,343	308,794	1,251	704,748
担保による 信用リスク軽減効果	252,771	66,459	11,530	249,454	-	580,214

- 4) 当期末及び前期末現在、減損された預け金及び貸付債権の種類別の担保による信用リスク軽減効果の内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

区分	個人		企業				合計
	住居用不動産 担保貸付	その他	大企業	中小企業	特殊金融	その他	
減損された貸付債権	80,012	168,745	528,944	417,290	179,596	10	1,374,597
貸倒引当金	(5,223)	(89,603)	(284,105)	(133,544)	(43,873)	(8)	(556,356)
合計	74,789	79,142	244,839	283,746	135,723	2	818,241
担保による 信用リスク軽減効果	78,052	49,657	117,306	279,995	-	-	525,010

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

区分	個人		企業				合計
	住居用不動産 担保貸付	その他	大企業	中小企業	特殊金融	その他	
減損された貸付債権	62,971	175,692	708,250	467,714	243,998	-	1,658,625
貸倒引当金	(4,497)	(89,009)	(389,525)	(176,327)	(105,526)	-	(764,884)
合計	58,474	86,683	318,725	291,387	138,472	-	893,741

担保による 信用リスク軽減効果	61,136	36,141	165,593	326,800	-	-	589,670

(5) 債務証券の信用格付別の構成内訳

1) 当期末及び前期末現在における債務証券の信用格付別構成内訳は以下の通りです。

<第183（当）半期>

(単位：百万ウォン)

区分	売買目的金融資産	売却可能金融資産	満期保有金融資産	合計
AAA	336,858	12,840,449	6,990,682	20,167,989
AA-からAA+	496,005	2,563,272	636,118	3,695,395
A-からA+	2,351,779	2,226,752	120,568	4,699,099
BBB-からBBB+	539,477	1,095,902	-	1,635,379
BBB-未満	210,643	80,950	-	291,593
未格付	797,998	406,962	-	1,204,960
合計	4,732,760	19,214,287	7,747,368	31,694,415

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

区分	売買目的金融資産	売却可能金融資産	満期保有金融資産	合計
AAA	289,026	13,512,588	6,315,025	20,116,639
AA-からAA+	485,301	3,753,037	685,880	4,924,218
A-からA+	1,972,002	1,705,606	50,259	3,727,867
BBB-からBBB+	771,205	894,125	-	1,665,330
BBB-未満	264,861	90,528	-	355,389
未格付	813,928	423,575	-	1,237,503
合計	4,596,323	20,379,459	7,051,164	32,026,946

2) 外部評価機関の信用格付による有価証券の信用健全性基準は以下の通りです。

区分	韓国信用評価	韓国企業評価	S&P	Fitch	Moody's
AAA	-	-	AAA	AAA	Aaa
AA-からAA+	AAA	AAA	AA-からAA+	AA-からAA+	Aa3からAa1

A-からA+	AA-からAA+	AA-からAA+	A-からA+	A-からA+	A3からA1
BBB-からBBB+	BBB-からA	BBB-からA	BBB-からBBB+	BBB-からBBB+	Baa3からBaa1
BBB-未満	BBB-未満	BBB-未満	BBB-未満	BBB-未満	Baa3未満
未格付	未格付	未格付	未格付	未格付	未格付

3) 当期末及び前期末現在における債務証券の信用健全性の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183 (当) 期	第182 (前) 期
延滞及び減損されていない有価証券	31,694,415	32,026,946
減損された有価証券	-	-
合計	31,694,415	32,026,946

(6) 当期末及び前期末現在において、担保の実行により取得した資産はありません。

(7) 地域別の構成内訳

当期末及び前期末現在において保有している金融商品の地域別構成内訳は以下の通りです。

<第183 (当) 期>

(単位：百万ウォン)

区分	韓国	アメリカ	イギリス	日本	ドイツ	ベトナム	中国	その他	合計
<預け金>									
銀行	212,091	586,600	393,092	16	1,926	48	1,152	36,315	1,231,240
政府/公共機関/中央銀行	8,768,083	70,399	821	4,282	-	-	-	34,744	8,878,329
預け金小計	8,980,174	656,999	393,913	4,298	1,926	48	1,152	71,059	10,109,569
<貸付債権>									
銀行	1,983,095	49,991	-	511,609	290,444	68,168	1,240,920	1,411,939	5,556,166
個人	85,679,914	179,274	1,157	5,173	2,598	124	28,877	118,877	86,015,994
住居用不動産担保貸付	43,059,453	9,034	-	640	33	-	448	2,208	43,071,816
その他	42,620,461	170,240	1,157	4,533	2,565	124	28,429	116,669	42,944,178
政府/公共機関/中央銀行	2,245,119	-	-	-	-	-	-	-	2,245,119
企業	82,093,220	589,034	91,917	792	89,410	330,031	709,459	2,171,129	86,074,992
大企業	26,884,187	25,222	91,493	-	89,206	56,214	222,525	509,596	27,878,443
中小企業	51,993,357	519,961	424	792	173	273,817	486,934	1,092,773	54,368,231
特殊金融	3,214,781	43,841	-	-	-	-	-	568,621	3,827,243

その他	895	10	-	-	31	-	-	139	1,075
貸付債権小計	172,001,348	818,299	93,074	517,574	382,452	398,323	1,979,256	3,701,945	179,892,271
<売買目的金融資産>									
債務証券	4,723,293	-	-	-	-	-	9,467	-	4,732,760
金預け金	-	-	224,556	-	-	-	-	-	224,556
売買目的金融資産小計	4,723,293	-	224,556	-	-	-	9,467	-	4,957,316
<売却可能金融資産>									
債務証券	19,022,891	74,354	-	-	-	-	-	117,042	19,214,287
<満期保有金融資産>									
債務証券	7,747,368	-	-	-	-	-	-	-	7,747,368
合計	212,475,074	1,549,652	711,543	521,872	384,378	398,371	1,989,875	3,890,046	221,920,811

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

区分	韓国	アメリカ	イギリス	日本	ドイツ	ベトナム	中国	その他	合計
<預け金>									
銀行	8,749	859,497	485,255	567	11,520	-	2,313	31,452	1,399,353
政府/公共機関/中央銀行	5,121,535	119,890	2,568	-	-	-	-	31,154	5,275,147
預け金小計	5,130,284	979,387	487,823	567	11,520	-	2,313	62,606	6,674,500
<貸付債権>									
銀行	2,567,714	220,387	13,197	272,719	221,053	68,969	1,501,301	1,510,996	6,376,336
個人	78,514,041	163,585	1,399	5,811	2,519	177	14,384	105,609	78,807,525
住居用不動産担保貸付	40,773,026	8,680	42	717	33	-	800	3,003	40,786,301
その他	37,741,015	154,905	1,357	5,094	2,486	177	13,584	102,606	38,021,224
政府/公共機関/中央銀行	3,366,676	-	-	-	-	-	-	-	3,366,676
企業	75,720,275	644,020	74,982	454	76,439	236,368	236,734	1,719,950	78,709,222
大企業	25,536,953	67,369	50,770	-	76,256	55,462	72,073	389,208	26,248,091
中小企業	46,499,044	542,337	24,212	454	171	157,364	164,661	776,153	48,164,396
特殊金融	3,683,469	34,312	-	-	-	23,542	-	554,563	4,295,886
その他	809	2	-	-	12	-	-	26	849
貸付債権小計	160,168,706	1,027,992	89,578	278,984	300,011	305,514	1,752,419	3,336,555	167,259,759
<売買目的金融資産>									
債務証券	4,596,323	-	-	-	-	-	-	-	4,596,323
金預け金	-	-	76,337	-	-	-	-	-	76,337
売買目的金融資産小計	4,596,323	-	76,337	-	-	-	-	-	4,672,660

<売却可能金融資産>									
債務証券	20,125,476	152,078	-	-	-	-	-	101,905	20,379,459
<満期保有金融資産>									
債務証券	7,051,164	-	-	-	-	-	-	-	7,051,164
合計	197,071,953	2,159,457	653,738	279,551	311,531	305,514	1,754,732	3,501,066	206,037,542

(注) 地域別の構成内訳は未償却残高及び貸倒引当金を減算した純帳簿価額です。

(8) 産業別の構成内訳

当期末及び前期末現在において保有している金融商品の産業別構成内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

区分	金融及び 保険業	製造業	卸売及び 小売業	不動産賃貸 及び事業 サービス業	建設業	宿泊及び飲食 店業	その他	個人顧客	合計
<預け金>									
銀行	1,221,742	-	-	-	-	-	9,498	-	1,231,240
政府/公共機関/中央 銀行	8,745,699	-	-	-	-	-	132,630	-	8,878,329
預け金小計	9,967,441	-	-	-	-	-	142,128	-	10,109,569
<貸付債権>									
銀行	4,833,712	2,246	-	187,727	-	-	532,481	-	5,556,166
個人	-	-	-	-	-	-	-	86,015,994	86,015,994
住居用不動産担保貸 付	-	-	-	-	-	-	-	43,071,816	43,071,816
その他	-	-	-	-	-	-	-	42,944,178	42,944,178
政府/公共機関/中央 銀行	2,245,119	-	-	-	-	-	-	-	2,245,119
企業	2,117,871	33,341,384	11,902,841	16,091,411	2,619,362	4,343,416	15,658,707	-	86,074,992
大企業	1,072,891	16,733,484	3,658,366	823,715	941,228	271,617	4,377,142	-	27,878,443
中小企業	486,000	16,596,876	8,238,059	14,237,977	1,293,335	4,030,598	9,485,386	-	54,368,231
特殊金融	558,979	10,460	6,346	1,029,708	384,799	41,199	1,795,752	-	3,827,243
その他	1	564	70	11	-	2	427	-	1,075
貸付債権小計	9,196,702	33,343,630	11,902,841	16,279,138	2,619,362	4,343,416	16,191,188	86,015,994	179,892,271
<売買目的金融資産 >									
債務証券	2,470,240	391,102	390,551	362,937	-	19,871	1,098,059	-	4,732,760
金預け金	224,556	-	-	-	-	-	-	-	224,556
売買目的金融資産小 計	2,694,796	391,102	390,551	362,937	-	19,871	1,098,059	-	4,957,316
<売却可能金融資産 >									
債務証券	14,014,886	768,100	102,049	618,774	201,711	-	3,508,767	-	19,214,287

<満期保有金融資産 >									
債務証券	1,824,910	-	-	92,226	124,932	-	5,705,300	-	7,747,368
合計	37,698,735	34,502,832	12,395,441	17,353,075	2,946,005	4,363,287	26,645,442	86,015,994	221,920,811

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

区分	金融及び 保険業	製造業	卸売及び 小売業	不動産賃貸 及び事業 サービス業	建設業	宿泊及び飲 食店業	その他	個人顧客	合計
<預け金>									
銀行	1,393,303	-	-	-	-	-	6,050	-	1,399,353
政府/公共機関/中央銀行	5,229,586	-	-	-	-	-	45,561	-	5,275,147
預け金小計	6,622,889	-	-	-	-	-	51,611	-	6,674,500
<貸付債権>									
銀行	5,702,457	-	-	114,037	-	-	559,842	-	6,376,336
個人	-	-	-	-	-	-	-	78,807,525	78,807,525
住居用不動産担保貸付	-	-	-	-	-	-	-	40,786,301	40,786,301
その他	-	-	-	-	-	-	-	38,021,224	38,021,224
政府/公共機関/中央銀行	3,349,287	-	-	-	-	-	17,389	-	3,366,676
企業	1,835,093	29,613,563	11,222,133	14,304,243	2,726,251	4,008,278	14,999,661	-	78,709,222
大企業	875,849	15,707,971	3,593,433	634,388	1,118,658	209,497	4,108,295	-	26,248,091
中小企業	526,955	13,896,220	7,628,536	12,442,857	1,245,456	3,771,417	8,652,955	-	48,164,396
特殊金融	432,289	9,034	-	1,226,964	362,137	27,361	2,238,101	-	4,295,886
その他	-	338	164	34	-	3	310	-	849
貸付債権小計	10,886,837	29,613,563	11,222,133	14,418,280	2,726,251	4,008,278	15,576,892	78,807,525	167,259,759
<売買目的金融資産>									
債務証券	2,167,021	665,561	218,070	375,145	-	9,662	1,160,864	-	4,596,323
金預け金	76,337	-	-	-	-	-	-	-	76,337
売買目的金融資産小計	2,243,358	665,561	218,070	375,145	-	9,662	1,160,864	-	4,672,660
<売却可能金融資産>									
債務証券	14,759,887	705,995	110,571	640,818	225,948	20,124	3,916,116	-	20,379,459
<満期保有金融資産>									
債務証券	1,995,846	-	-	168,702	164,978	-	4,721,638	-	7,051,164
合計	36,508,817	30,985,119	11,550,774	15,602,945	3,117,177	4,038,064	25,427,121	78,807,525	206,037,542

（注） 産業別の構成内訳は未償却残高及び貸倒引当金を減算した純帳簿価額です。

3-2. 市場リスク

市場リスクは金利、株価、為替レート等のような市場価格の変動により発生する可能性のある損失リスクを意味します。当行は短期売買差益の獲得を目的として保有する有価証券、外国為替ポジション、デリバティブ等をトレーディングポジションとして管理し、与信、預け金及び短期売買差益の獲得目的を除いた債務証券等で構成された金利敏感資産及び受信、借入金、社債等で構成された金利敏感負債、金利リスクヘッジのためにリスクヘッジ手段として使用する金利敏感デリバティブを非トレーディングポジションとして管理しています。

当行はリスク政策委員会で市場リスク管理に関する政策樹立、限度設定等の意思決定機能を行い、リスク総括部は銀行全体の運用部署及びデスクに対する総合的な市場リスク管理を行い、リスク工学部は市場リスクシステム管理及びミドル・オフィス機能を果たしています。

市場リスク管理の基本は市場リスクによる最大損失可能額を一定水準以内に維持するための限度管理です。リスク政策委員会は運用部署及びデスク別VaR限度、損失限度、敏感度限度、投資限度及びポジション限度、ストレス損失限度等を設定して運営しており、リスク総括部及びリスク工学部は運用部署とは独立して運営状況をモニタリングし、リスク政策委員会及びリスク管理委員会に定期的に報告しています。また、公正価額評価協議会及びリスク総括部は各事業セグメントの新商品（または取引）が施行される以前に公正価額評価方法に対する検討及びリスク評価等を遂行し、デリバティブ及び仕組商品リスクレビュー協議会でリスク要因に対する点検、投資規模制限を検討する等、合理的な意思決定を支援して事前にリスク要因に対する客観的な分析、検討が行われるようにしています。

(1) トレーディングポジションの市場リスク管理

トレーディングポジション測定対象である外国為替、株式、債券、デリバティブ取引データは、フロントシステムに取引を入力して管理し、市場リスク管理システム（RiskWatch）により自動インターフェースを行って日別にリスク測定及び限度管理を実施しています。また、統計的方法によるリスク測定を補完し、経済環境の急激な変化による影響度及び損失規模の管理のために定期的にストレステストを並行して実施しており、これにより当行の危機状況時に損失規模が一定範囲以内で管理されるようにしています。

1) トレーディングポジションから発生する市場リスクの測定方法

当行はトレーディングポジションにさらされている金利、株価、為替レート等の各リスクに対し、歴史的なシミュレーションVaR (Value at Risk) 方法論を適用して99.9%信頼区間で市場リスクを算出します。VaRは反対の市場状況から現在のポジションに対する潜在的な損失の統計学的な評価に基づいています。これは99.9%の信頼レベルで当行にて発生可能な最大損失金額を表現しています。そのため、実際の損失がVaRの測定値より大きいという統計学的な可能性（0.1%）が存在します。

VaRモデルは、測定時点の日別ポジションが維持されると同時に各測定時点から過去10日間の市場の動向が今後も継続するとの仮定に従って予想損失を測定しています。

過去の動向に対する当行の評価は過去5年間のデータに基づいており、現在ポジションで金利、株価、為替レート、オプション変動性の歴史的な変化を直接的に適用する歴史的シミュレーション方法を使用しています。また、VaR計算上で使用される仮定と媒介変数の有効性テストを定期的にモニタリングしており、同方法の適用は各パラメーターの想定を超える大規模な市場変動によるリスクを防ぐものではありません。

当行のVaR限度は毎年、リスク管理委員会により設定されており、この限度に対する実際のエクスポージャー額は毎日検討されています。また、VaRモデルの品質はVaR結果に対する事後検証により継続してモニタリングしており、全ての事後検証の結果を取締役会に報告します。

2) トレーディングポジションのVaR

当行は連結財務諸表基準でトレーディングポートフォリオに対するVaRを管理しています。当行が保有しているトレーディングポジションに対する報告期間中の最低、最大、平均VaR及び報告期間末のVaRの内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

区分	平均	最大	最低	当期末
金利リスク	17,302	25,863	8,721	13,414
株価リスク	4,333	7,362	2,493	3,442
為替レートリスク（注）	43,872	54,355	34,928	49,372
オプション変動性リスク	161	259	66	66
分散効果	(18,668)	(32,344)	(5,246)	(13,268)
VaR合計	47,000	55,495	40,962	53,026

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

区分	平均	最大	最低	前期末

金利リスク	21,604	28,670	14,413	25,136
株価リスク	5,677	13,250	2,737	7,341
為替レートリスク（注）	45,176	50,933	41,554	43,993
オプション変動性リスク	278	350	198	208
分散効果	(25,837)	(40,931)	(18,457)	(27,001)
VaR合計	46,898	52,272	40,445	49,677

（注） トレーディングポジション及び非トレーディングポジションを含む金額です。

（2） 非トレーディングポジションの市場リスク管理

非トレーディングポジションから発生する最も主要な市場リスクは金利リスクです。そのため、非トレーディングポジションの市場リスクは市場金利の変動により純資産価値及び純受取利息が変動するリスクで測定されます。

当行はリスク政策委員会で金利リスク管理に関する政策樹立、詳細限度設定等の意思決定機能を行い、同原則及び限度内で国外店舗を始めとした子会社及び資金部、信託部、総合金融市場部等、勘定別管理部署は1次的に金利リスクを認識して管理します。リスク総括部及びリスク工学部はリスク政策委員会の金利リスク関連意思決定を支援し、金利リスクの許容限度超過如何をモニタリングし、会社全体の金利リスクを評価して管理します。

当行はALMシステム（OFSA）を通じて金利ギャップ、デュレーションギャップ、シナリオ別NII（Net Interest Income）シミュレーション等、様々な分析方法を利用して金利リスクを測定及び管理しており、金利VaR、金利EaR、金利ギャップ比率に対しては限度を設定して月別にモニタリングしています。また、ストレステストを通じて様々な危機状況で金利リスクに及ぼす影響を評価しています。

1) 非トレーディングポジションから発生する市場リスクの測定方法

当行は歴史的な金利シナリオにより発生する純資産価値の変動分布を把握して今後1年間の最大損失予想額である金利VaR (Value at Risk) を確率論的に評価・管理します。また、資金量シナリオに基づいて過去の基準金利と年平均金利との変動性を活用した歴史的な金利シナリオにより発生する純利子利益の変動分布を把握して今後1年間の最大純利子利益の減少予想額である金利EaR (Earning at Risk) を確率論的に評価・管理します。

また、国際決済銀行（BIS）が提示した標準方法論により、満期区間別の標準修正デュレーション及び金利変動性を利用して金利VaRを算出し、満期区間別の金利変動により影響を受ける期間及び金利変動性を利用して金利EaRを算出しています。

2) 非トレーディングポジションの金利VaR及び金利EaR

当期末及び前期末現在においてBISが提示した標準方法論に従って算出された非トレーディングポジションに対する金利VaR及び金利EaRの内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
金利VaR	388,076	315,016
金利EaR	279,560	310,186

(3) 外国為替リスク

当行は国外支店等の現物、先物外国為替ポジションを全て含めた総合ポジションに基づいて為替リスクを管理しています。リスク政策委員会は市場リスク限度に基づいて部署別、デスク別の外国為替ポジション限度等を設定して各営業単位別にトレーディング及び非トレーディング活動での為替リスクを管理・監督しています。当行の金融工学センターで銀行全体の為替ポジションを集中して管理しています。同部署のデスク及びディーラーは設定された市場リスク及び外国為替ポジション限度内で現物為替と通貨デリバティブ取引を通じて総合ポジションを管理します。主に米ドル（USD）、日本円（JPY）、ユーロ（EUR）、人民元（CNY）で取引されており、その他の外国為替は制限的に運用します。

当期末及び前期末現在における外貨建資産・負債の通貨別構成内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

区分	米ドル	日本円	ユーロ	人民元	その他	合計
<資産>						
現金預け金	1,471,480	91,370	80,902	18,436	115,308	1,777,496
売買目的金融資産	-	-	-	-	224,556	224,556
デリバティブ資産	126,925	100	5,205	-	158	132,388
貸付債権	14,062,041	994,184	637,476	637	836,039	16,530,377
売却可能金融資産	675,575	-	122	-	105,979	781,676
満期保有金融資産	-	-	-	-	5,020	5,020
その他金融資産	1,786,838	191,826	32,905	246,799	60,671	2,319,039
資産合計	18,122,859	1,277,480	756,610	265,872	1,347,731	21,770,552
<負債>						
預金	6,354,773	879,702	191,564	30,480	512,172	7,968,691
売買目的金融負債	-	-	-	-	428,936	428,936
デリバティブ負債	68,522	202	-	-	77	68,801
借入負債	6,119,708	166,020	433,668	131	86,843	6,806,370
社債	3,069,650	585,209	-	-	389,648	4,044,507
その他金融負債	1,903,925	83,951	102,793	228,712	120,476	2,439,857
負債合計	17,516,578	1,715,084	728,025	259,323	1,538,152	21,757,162
相殺後外貨資産	606,281	(437,604)	28,585	6,549	(190,421)	13,390
オフバランス・ デリバティブ エクスポージャー額	(418,456)	209,612	(41,588)	(117,850)	136,402	(231,880)
外貨純 エクスポージャー額	187,825	(227,992)	(13,003)	(111,301)	(54,019)	(218,490)

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

区分	米ドル	日本円	ユーロ	人民元	その他	合計
<資産>						
現金預け金	1,990,282	110,546	97,399	21,192	118,235	2,337,654
売買目的金融資産	-	-	-	-	76,337	76,337
デリバティブ資産	188,557	-	7,404	9	1,871	197,841
貸付債権	11,399,188	1,233,492	737,866	-	857,630	14,228,176
売却可能金融資産	659,569	-	132	-	126,997	786,698
満期保有金融資産	-	-	-	-	4,946	4,946
その他金融資産	1,298,961	171,726	104,630	6,345	49,113	1,630,775
資産合計	15,536,557	1,515,764	947,431	27,546	1,235,129	19,262,427
<負債>						
預金	5,438,161	1,362,573	159,530	21,606	568,132	7,550,002
売買目的金融負債	-	-	-	-	398,596	398,596
デリバティブ負債	130,605	20	-	9	1,862	132,496
借入負債	5,013,288	450,429	373,505	1,335	47,411	5,885,968
社債	2,486,800	653,029	-	104,292	507,813	3,751,934
その他金融負債	1,101,084	101,586	374,465	6,988	241,616	1,825,739
負債合計	14,169,938	2,567,637	907,500	134,230	1,765,430	19,544,735
相殺後外貨資産	1,366,619	(1,051,873)	39,931	(106,684)	(530,301)	(282,308)
オフバランス・ デリバティブ エクスポージャー額	(1,216,997)	802,818	(87,811)	55,433	302,090	(144,467)
外貨純 エクスポージャー額	149,622	(249,055)	(47,880)	(51,251)	(228,211)	(426,775)

3-3. 流動性リスク

当行はリスク政策委員会で流動性リスク管理に関する政策樹立、詳細限度設定等の意思決定機能を行い、同原則及び限度内で国外店舗を始めとした子会社と資金部、信託部、総合金融市場部等、勘定別管理部署が1次的に流動性リスクを認識して管理します。リスク総括部及びリスク工学部はリスク政策委員会の流動性リスクに関連する意思決定を支援し、流動性リスク許容限度をモニタリングし、銀行全体の流動性リスクを評価して管理します。

当行は以下の基本原則に基づいて流動性リスクを管理しています。

- 1) 充分な量の資金を必要な時点で、適切な水準の調達費用で調達
- 2) 許容限度及び早期警報指標の管理を通じてリスクを適正水準に維持し、関連リスク要因を事前に管理
- 3) 資金の調達源泉と満期を効果的に分散させる資金調達戦略を樹立して損失を最小化し、安定的に収益確保
- 4) 正常な状況及び危機状況で適時に支払決済債務を履行することができるように毎日日中流動性ポジション及びリスクを管理
- 5) 流動性危機発生に備えて危機状況分析を定期的に実施し、危機発生時に措置できる非常調達計画を樹立
- 6) 流動性関連費用、便益及びリスクは商品価格決定、成果評価及び新商品の承認手続に反映

当行はALMシステムを通じて流動性ギャップ、流動性比率、預貸率、顧客行動モデルを反映した実質流動性ギャップ等、様々な分析方法を利用する一方、リスク限度、早期警報指標、モニタリング指標等、様々な管理指標を通じてウォン貨及び外貨流動性リスクを管理しています。資産及び負債の満期構造分析時、要求払預金の場合は顧客の支払要請時には常時引出が可能で最短期に分類することができますが、通常は一定比率の平均残高を維持する顧客の行動を勘案して非核心預金を最短期に区分して流動性リスクを管理します。

(1) 金融商品の残存期間

当期末及び前期末現在における金融商品資産及び金融商品負債の残存期間別の構成内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

区分	1ヶ月以下	1～3ヶ月	3～6ヶ月	6ヶ月～1年	1～5年	5年超過	合計
<資産>							
現金預け金	12,320,995	107,311	106,591	-	159	-	12,535,056
売買目的金融資産	5,912,990	-	-	-	-	-	5,912,990
デリバティブ資産	1,300,485	264,459	85,066	120,408	255,611	50,797	2,076,826
貸付債権	18,208,616	22,669,763	29,057,489	45,136,786	42,753,265	44,137,797	201,963,716
売却可能金融資産	21,096,577	-	-	-	-	841,334	21,937,911
満期保有金融資産	117,365	538,969	259,439	903,656	6,010,430	1,024,843	8,854,702
その他金融資産	4,676,497	-	-	-	3,333,839	-	8,010,336
資産合計	63,633,525	23,580,502	29,508,585	46,160,850	52,353,304	46,054,771	261,291,537
<負債>							
当期損益認識指定金融負債	-	-	-	-	6,478	-	6,478
預金	86,298,656	20,904,172	25,483,994	39,107,795	7,893,842	1,701,252	181,389,711
売買目的金融負債	428,936	-	-	-	-	-	428,936
デリバティブ負債	1,160,320	24,644	27,272	56,291	350,109	433,058	2,051,694
借入負債	4,054,912	2,031,139	1,832,984	1,551,724	3,102,558	548,389	13,121,706
社債	205,707	874,544	2,180,305	4,613,216	8,396,824	2,173,506	18,444,102
その他金融負債	13,163,176	-	-	-	120,006	-	13,283,182
負債合計	105,311,707	23,834,499	29,524,555	45,329,026	19,869,817	4,856,205	228,725,809

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

区分	1ヶ月以下	1～3ヶ月	3～6ヶ月	6ヶ月～1年	1～5年	5年超過	合計
<資産>							
現金預け金	9,202,715	4,757	-	-	148	-	9,207,620
売買目的金融資産	5,602,158	-	-	-	-	-	5,602,158
デリバティブ資産	1,422,679	308,026	60,241	123,365	666,459	736,877	3,317,647
貸付債権	19,048,953	21,281,567	26,095,001	41,203,147	41,481,379	41,091,665	190,201,712
売却可能金融資産	22,070,991	-	-	-	-	1,519,699	23,590,690
満期保有金融資産	144,315	803,998	150,711	1,530,440	5,252,826	203,083	8,085,373
その他金融資産	3,099,970	-	-	-	3,675,836	-	6,775,806
資産合計	60,591,781	22,398,348	26,305,953	42,856,952	51,076,648	43,551,324	246,781,006
<負債>							
預金	76,434,655	19,273,315	24,312,813	40,566,601	6,644,088	1,161,196	168,392,668
売買目的金融負債	398,596	-	-	-	-	-	398,596
デリバティブ負債	1,214,648	46,717	42,157	64,830	379,475	416,179	2,164,006
借入負債	2,519,245	1,734,477	1,898,259	1,344,545	2,697,224	496,252	10,690,002
社債	249,418	931,538	1,760,072	3,444,447	9,555,881	4,219,942	20,161,298
その他金融負債	11,566,250	-	-	-	138,934	-	11,705,184
負債合計	92,382,812	21,986,047	28,013,301	45,420,423	19,415,602	6,293,569	213,511,754

（注1） 表示された金額は金融商品資産及び金融商品負債の元金及び利息のキャッシュ・フローを全て含めています。

（注2） 割引されていないキャッシュ・フローに基づき当行の支払義務が発生する最も早い満期日に分類しました。また、直ちに処分可能な売買目的金融商品及び処分制限された資産を除いた売却可能金融資産は1ヶ月以内の最短期に分類しました。

（2） オフバランス項目の残存期間

当行が提供した社債発行、融資担保等、金融保証に該当する支払保証、貸付約定及びその他信用供与の場合、約定満期が存在するものの、取引相手が支払を要請する場合には直ちに支払を履行しなければなりません。

当期末及び前期末現在における関連オフバランス項目の構成内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
金融保証	4,421,949	3,674,928
貸付約定及びその他信用関連負債	71,177,412	72,013,978
合計	75,599,361	75,688,906

3-4. 金融商品の公正価値測定

活発な市場で取引される金融商品の公正価値は、報告期間終了日現在において告示される市場価格に基づき算定されます。当行が保有している金融資産の開示される市場価格は、売買仲介機関の開示価格に基づいています。

活発な市場で取引されない金融商品（例：店頭デリバティブ）の公正価値は、評価手法を使用して決定するか、或いは独立した外部専門評価機関の評価結果を利用します。

当行は多様な評価手法を活用しており、報告期間終了日現在における市場状況に基づき合理的な仮定を樹立しています。

当行が使用する公正価値の評価手法には、合理的な判断力及び取引意思がある独立した当事者の間の最近取引を使用する方法、実質的に同一な他の金融商品の現行公正価値を利用することができればこれを参照する方法、見積キャッシュ・フロー割引方法、オプション価格決定モデル等があります。例えば、金利スワップの公正価値は将来予想キャッシュ・フローの現在価値で計算され、外国為替先渡契約の公正価値は報告期間末の告示先渡為替レートを適用して算出されます。

当行は、金融商品の公正価値を以下の3つのレベルに分類して開示します。

- レベル1：活発な市場で開示される価格を公正価値として測定する金融商品の場合、同金融商品の公正価値はレベル1に分類しています。
- レベル2：評価手法を使用して金融商品の公正価値を測定する場合、重要な投入変数が市場で観測した情報に基づいていれば、同金融商品の公正価値はレベル2に分類しています。
- レベル3：評価手法を使用して金融商品の公正価値を測定する場合、重要な投入変数が市場で観測不可能な情報に基づいていれば、同金融商品の公正価値はレベル3に分類しています。

(1) 公正価値で測定する金融商品

- 1) 当期末及び前期末現在、財務状態表にて公正価値で測定する金融商品の公正価値序列体系のレベル別の内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

区分		レベル1	レベル2	レベル3	合計
売買目的金融資産	債務証券	-	4,732,760	-	4,732,760
	持分証券	4,625	951,049	-	955,674
	金預け金	224,556	-	-	224,556
	小計	229,181	5,683,809	-	5,912,990
デリバティブ資産	売買目的	-	1,175,582	17,673	1,193,255
	リスクヘッジ目的	-	55,583	61,271	116,854
	小計	-	1,231,165	78,944	1,310,109
売却可能金融資産	債務証券	6,697,057	12,517,230	-	19,214,287
	持分証券	1,030,409	653,949	1,039,266	2,723,624
	小計	7,727,466	13,171,179	1,039,266	21,937,911
資産合計		7,956,647	20,086,153	1,118,210	29,161,010
当期損益認識 指定金融負債	預金	-	-	6,139	6,139
売買目的金融負債	金預金	428,936	-	-	428,936
デリバティブ負債	売買目的	-	1,129,446	5,668	1,135,114
	リスクヘッジ目的	-	18,853	28,763	47,616
	小計	-	1,148,299	34,431	1,182,730
負債合計		428,936	1,148,299	40,570	1,617,805

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

区分		レベル1	レベル2	レベル3	合計
売買目的金融資産	債務証券	19,657	4,576,666	-	4,596,323
	持分証券	25,211	904,287	-	929,498
	金預け金	76,337	-	-	76,337
	小計	121,205	5,480,953	-	5,602,158
デリバティブ資産	売買目的	10	1,279,446	25,973	1,305,429
	リスクヘッジ目的	-	100,615	51,597	152,212
	小計	10	1,380,061	77,570	1,457,641
売却可能金融資産	債務証券	6,636,624	13,742,835	-	20,379,459
	持分証券	1,601,738	545,815	1,063,678	3,211,231
	小計	8,238,362	14,288,650	1,063,678	23,590,690
資産合計		8,359,577	21,149,664	1,141,248	30,650,489
売買目的金融負債	金預金	398,596	-	-	398,596
デリバティブ負債	売買目的	-	1,165,169	22,581	1,187,750
	リスクヘッジ目的	-	44,042	191,345	235,387
	小計	-	1,209,211	213,926	1,423,137
負債合計		398,596	1,209,211	213,926	1,821,733

2) 当期において公正価値で測定する金融商品のうちレベル1とレベル2の間の移動金額はありません。

3) 公正価値レベル3に分類された金融商品の内訳

当期及び前期において公正価値レベル3に該当する金融商品の増減内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

区分	売却可能金融資産	デリバティブ資産 (負債)	当期損益認識 指定金融負債	合計
期首金額	1,063,678	(136,356)	-	927,322
総損益				
当期損益認識金額（注1）	(115,451)	166,918	32	51,499
その他包括損益認識金額	102,428	-	-	102,428
購入/発行	167,038	368	(6,623)	160,783
決済	(201,992)	13,635	452	(187,905)
レベル3からの移動（注2）	(3,457)	(52)	-	(3,509)
レベル3への移動（注2）	27,022	-	-	27,022
期末	1,039,266	44,513	(6,139)	1,077,640

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

区分	売却可能金融資産	デリバティブ資産 (負債)	当期損益 認識指定金融負債	合計
期首金額	1,337,534	21,182	-	1,358,716
総損益				
当期損益認識金額（注1）	(65,150)	(153,246)	-	(218,396)
その他包括損益認識金額	65,471	-	-	65,471
購入/発行	115,563	(1,729)	-	113,834
決済	(213,647)	(2,563)	-	(216,210)
レベル3からの移動（注2）	(319,077)	-	-	(319,077)
レベル3への移動（注2）	142,984	-	-	142,984
期末	1,063,678	(136,356)	-	927,322

（注1） 当期及び前期に公正価値レベル3に分類された金融商品の増減内訳のうち、当期損益として認識された金額及び報告期間末現在、保有している金融商品に関連する当期損益認識額は包括損益計算書上、以下のような個別項目で表示されています。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期		第182（前）期	
	当期損益 認識金額	報告期間末 保有金融商品 に関連する 当期損益認識額	当期損益 認識金額	報告期間末 保有金融商品 に関連する 当期損益認識額
売買目的金融商品関連損益	11,712	11,712	1,916	1,916
当期損益認識指定金融商品関連損益	32	32	-	-
売却可能金融資産処分損益	24,625	-	45,868	-
金融商品資産減損損失	(140,076)	(140,003)	(111,018)	(109,998)
その他営業損益	155,206	155,206	(155,162)	(155,162)
合計	51,499	26,947	(218,396)	(263,244)

(注2) 当該金融商品に対する観測可能な市場資料の利用可能如何が変更されたことによりレベル間の移動が発生しました。当行はレベル間移動が発生させる事象や状況の変動が発生した報告期間末にレベルの変動を認識します。

4) 公正価値の評価手法及び投入変数

- ① 当期末及び前期末現在、公正価値レベル2に分類された金融商品の公正価値の測定時に使用された評価手法及び重要であるものの、観測不可能な投入変数は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）期	第182（前）期	評価方法	投入変数
売買目的 金融資産	債務証券	4,732,760	4,576,666	キャッシュ・フロー 割引モデル	割引率
	持分証券	951,049	904,287	純資産価値評価	株式、債券等の期首資産の価格
	小計	5,683,809	5,480,953		
デリバティブ 資産	売買目的	1,175,582	1,279,446	オプションモデル キャッシュ・フロー 割引モデル	割引率、為替レート、 変動性、株価及び商品 指数等
	リスクヘッジ目的	55,583	100,615		
	小計	1,231,165	1,380,061		
売却可能 金融資産	債務証券	12,517,230	13,742,835	キャッシュ・フロー 割引モデル	割引率
	持分証券	653,949	545,815	純資産価値評価	株式、債券等の期首資産の価格
	小計	13,171,179	14,288,650		

資産合計		20,086,153	21,149,664		
デリバティブ 負債	売買目的	1,129,446	1,165,169	オプションモデル キャッシュ・フロー 割引モデル	割引率、為替レート、 変動性、株価及び商品 指数等
	リスクヘッジ目的	18,853	44,042		
	小計	1,148,299	1,209,211		
負債合計		1,148,299	1,209,211		

- ② 当期末及び前期末現在において公正価値レベル3に分類された金融商品の公正価値測定時に使用された評価手法及び重要であるが観測不可能な投入変数は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

金融商品 種類	価値評価手法	種類	帳簿価額	重要であるが、観測 できない投入変数	範囲
デリバティブ 資産	オプションモデル (注)	株式及び 為替レート 関連	13,819	期首資産の変動性 相関係数	4.79%～32.73% (0.06%)
	オプションモデル (注)	利率関連	65,125	期首資産の変動性 回帰係数 相関係数	0.16%～0.64% 0.00%～3.02% 12.16%~41.70%
	小計		78,944		
売却可能 金融資産	割引された キャッシュ・フロー	持分証券	1,039,266	割引率 成長率	2.29%～17.84% 0.00%~2.50%
資産合計			1,118,210		
当期損益認識 指定金融負債	オプションモデル (注)	株式関連	6,139	期首資産の変動性 相関係数	22.08%～28.19% 34.00%
デリバティブ 負債	オプションモデル (注)	株式及び 為替レート 関連	1,854	期首資産の変動性 相関係数	6.48%～35.57% (0.06%)～0.23%
	オプションモデル (注)	利率関連	32,577	期首資産の変動性 回帰係数 相関係数	0.16%～0.64% 0.00%～3.02% 12.16%～41.70%
	小計		34,431		
負債合計			40,570		

（注） デリバティブ公正価値を測定するために適用されたオプションモデルはブラックショールズモデル、ハルホワイトモデル等を含めており、商品類型によって一部商品に対してはモンテカルロシミュレーション（Monte Carlo simulation）等の方法を適用しています。

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

金融商品 種類	価値評価手法	種類	帳簿価額	重要であるが、観測 できない投入変数	範囲
デリバティブ 資産	オプションモデル （注）	株式及び 為替レート 関連	9,495	期首資産の変動性 相関係数	5.63%～24.61% (34.85%)～(39.25%)
	オプションモデル （注）	利率関連	68,075	期首資産の変動性 回帰係数 相関係数	0.44%～0.45% 0.02%～2.05% 61.19%
	小計		77,570		
売却可能 金融資産	割引された キャッシュ・フロー	持分証券	1,063,678	割引率 成長率	2.70%～22.48% 0.00%
資産合計			1,141,248		
デリバティブ 負債	オプションモデル （注）	株式関連	802	期首資産の変動性 相関係数	5.63%～24.61% (34.85%)～(39.25%)
	オプションモデル （注）	利率関連	213,124	期首資産の変動性 回帰係数 相関係数	0.22%～0.51% 0.00%～5.12% 27.02%～94.60%
負債合計			213,926		

（注） デリバティブ公正価値を測定するために適用されたオプションモデルはブラックショールズモデル、ハルホワイトモデル等を含めており、商品類型によって一部商品に対してはモンテカルロシミュレーション（Monte Carlo simulation）等の方法を適用しています。

5) 観測不可能な投入変数の変更に対する敏感度

当期末及び前期末現在、レベル3に分類された金融商品の公正価値の測定時に観測不可能な投入変数を合理的に代替可能な他の投入変数に変更する場合、当期損益またはその他包括損益等として認識される変動の効果は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

金融商品		当期損益		その他包括損益	
		有利な変動	不利な変動	有利な変動	不利な変動
デリバティブ資産（注1）	株式及び為替レート関連	430	(329)	-	-
	利率関連	7,129	(12,929)	-	-
売却可能金融資産（注2）	持分証券	-	-	157,385	(37,118)
資産合計		7,559	(13,258)	157,385	(37,118)
当期損益認識指定金融負債（注1）	株式関連	5	(5)	-	-
デリバティブ負債（注1）	株式及び為替レート関連	97	(113)	-	-
	利率関連	6,853	(6,275)	-	-
負債合計		6,955	(6,393)	-	-

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

金融商品		当期損益		その他包括損益	
		有利な変動	不利な変動	有利な変動	不利な変動
デリバティブ資産（注1）	株式及び為替レート関連	165	(44)	-	-
	利率関連	1,721	(1,848)	-	-
売却可能金融資産（注2）	持分証券	-	-	125,037	(42,633)
資産合計		1,886	(1,892)	125,037	(42,633)
デリバティブ負債（注1）	株式関連	44	(165)	-	-
	利率関連	15,062	(14,377)	-	-
負債合計		15,106	(14,542)	-	-

(注1) 主な観測不可能な投入変数の期首資産の変動性または相関係数等を10%増加または減少させることにより、公正価値の変動を算出しています。

(注2) 主な観測不可能な投入変数の成長率（0%～1%）及び割引率（-1%～1%）を増加または減少させることにより、公正価値の変動を算出しています。

(2) 償却後原価で測定する金融商品

1) 償却後原価で測定する金融商品の公正価値算出方法は以下の通りです。

勘定科目	公正価値算出方法
現金預け金	現金は帳簿価額及び公正価値が同一で、預け金は変動利率預け金及び超短期性である翌日預け金がその大部分であるため、公正価値の代用値として帳簿価額を使用しました。
貸付債権	貸付債権の公正価値は受け取るものと予想される期待キャッシュ・フローを市場利子率及び借主の信用リスク等を考慮した割引率で割り引いて算出しました。
満期保有 金融資産	韓国資産評価(株)、KIS債権評価(株)が提供する最近取引日の基準単価のうち、いずれか低い金額を公正価値として算出しました。
預金及び 借入負債	要求払預金、手形管理口座受託金、コールマネーは超短期性負債として、帳簿価額を公正価値として評価しています。残りの預金及び借入負債は、契約上のキャッシュ・フローを市場利子率に残余リスクを考慮した割引率で割り引いた現在価値を公正価値として算出しました。
社債	活発な市場価格に基づいています。活発な市場価格が有効ではない場合は、契約上のキャッシュ・フローを市場利子率に残余リスクを考慮した割引率で割り引いた現在価値を公正価値として算出しました。

2) 当期末及び前期末現在、償却後原価で測定する金融商品の帳簿価額及び公正価値は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

勘定科目		帳簿価額				公正価値
		残高	未償却残高	引当金	合計	
現金 預け金	現金	2,417,685	-	-	2,417,685	2,417,685
	預け金	10,110,603	-	(1,034)	10,109,569	10,109,569
	小計	12,528,288	-	(1,034)	12,527,254	12,527,254
貸付債権	家計貸付	78,578,683	235,883	(208,821)	78,605,745	79,369,240
	企業貸付	95,794,793	31,880	(1,148,045)	94,678,628	95,664,871
	公共及びその他資金貸付	2,092,730	1,365	(11,073)	2,083,022	2,095,248
	銀行間資金貸付	4,529,541	-	(4,665)	4,524,876	4,544,381
	小計	180,995,747	269,128	(1,372,604)	179,892,271	181,673,740
満期保有金 融資産	国公債	5,092,893	-	-	5,092,893	5,336,159
	金融債	410,323	-	-	410,323	415,345
	社債	2,244,152	-	-	2,244,152	2,300,530
	小計	7,747,368	-	-	7,747,368	8,052,034
その他金融資産		8,010,336	(61,451)	(61,519)	7,887,366	7,949,020
資産合計		209,281,739	207,677	(1,435,157)	208,054,259	210,202,048
預金	要求払預金	65,800,092	-	-	65,800,092	65,800,092
	期限付預金	103,957,463	-	-	103,957,463	104,238,665
	譲渡性預金証書	1,872,852	-	-	1,872,852	1,880,082
	発行手形預金	3,241,082	-	-	3,241,082	3,240,906
	手形管理口座受託金	1,682,610	-	-	1,682,610	1,682,610
	その他	35,163	-	-	35,163	35,173
	小計	176,589,262	-	-	176,589,262	176,877,528
借入負債	コールマネー	1,625,328	-	-	1,625,328	1,625,328
	売渡手形	31,059	-	-	31,059	30,934
	買戻条件付売渡債券	346,726	-	-	346,726	346,725
	借入負債	10,816,058	(1,504)	-	10,814,554	10,853,710
	外貨受託金	77,179	-	-	77,179	77,179
	小計	12,896,350	(1,504)	-	12,894,846	12,933,876

社債	ウォン貸社債	12,566,406	(26,825)	-	12,539,581	12,846,874
	外貨社債	4,044,507	(12,680)	-	4,031,827	4,140,691
	小計	16,610,913	(39,505)	-	16,571,408	16,987,565
その他金融負債		13,339,973	(2,296)	-	13,337,677	13,313,083
負債合計		219,436,498	(43,305)	-	219,393,193	220,112,052

＜第182（前）期＞

（単位：百万ウォン）

勘定科目		帳簿価額				公正価値
		残高	未償却残高	引当金	合計	
現金 預け金	現金	2,532,041	-	-	2,532,041	2,532,041
	預け金	6,675,529	-	(1,029)	6,674,500	6,674,500
	小計	9,207,570	-	(1,029)	9,206,541	9,206,541
貸付債権	家計貸付	71,847,246	189,339	(192,302)	71,844,283	71,733,785
	企業貸付	88,017,204	62,483	(1,234,772)	86,844,915	87,874,276
	公共及びその他資金貸付	2,479,154	1,780	(10,304)	2,470,630	2,484,788
	銀行間資金貸付	6,104,793	-	(4,862)	6,099,931	6,104,828
	小計	168,448,397	253,602	(1,442,240)	167,259,759	168,197,677
満期保有金 融資産	国公債	4,129,145	-	-	4,129,145	4,316,996
	金融債	510,113	-	-	510,113	516,584
	社債	2,411,906	-	-	2,411,906	2,452,100
	小計	7,051,164	-	-	7,051,164	7,285,680
その他金融資産		6,775,806	(71,945)	(58,856)	6,645,005	6,701,548
資産合計		191,482,937	181,657	(1,502,125)	190,162,469	191,391,446
預金	要求払預金	56,619,719	-	-	56,619,719	56,619,719
	期限付預金	100,592,064	-	-	100,592,064	100,495,146
	譲渡性預金証書	1,475,621	-	-	1,475,621	1,497,810
	発行手形預金	3,132,185	-	-	3,132,185	3,131,971
	手形管理口座受託金	1,291,588	-	-	1,291,588	1,291,588
	その他	42,578	-	-	42,578	42,587
	小計	163,153,755	-	-	163,153,755	163,078,821

借入負債	コールマネー	191,409	-	-	191,409	191,409
	売渡手形	28,631	-	-	28,631	28,524
	買戻条件付売渡債券	344,632	-	-	344,632	344,632
	借入負債	9,784,294	(1,995)	-	9,782,299	9,790,750
	外貨受託金	94,315	-	-	94,315	94,315
	小計	10,443,281	(1,995)	-	10,441,286	10,449,630
社債	ウォン貸社債	13,786,667	(37,751)	-	13,748,916	13,866,837
	外貨社債	3,751,934	(15,082)	-	3,736,852	3,810,564
	小計	17,538,601	(52,833)	-	17,485,768	17,677,401
その他金融負債		11,749,295	(2,642)	-	11,746,653	11,742,915
負債合計		202,884,932	(57,470)	-	202,827,462	202,948,767

- 3) 当期末及び前期末現在において財務状態表で公正価値で測定されないが、公正価値で開示される金融資産負債の評価レベル別公正価値の内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

区分		レベル1	レベル2	レベル3	合計
現金預け金	現金	2,417,685	-	-	2,417,685
	預け金	-	10,109,569	-	10,109,569
	小計	2,417,685	10,109,569	-	12,527,254
貸付債権	家計貸付	-	-	79,369,240	79,369,240
	企業貸付	-	-	95,664,871	95,664,871
	公共及びその他資金貸付	-	-	2,095,248	2,095,248
	銀行間資金貸付	-	2,686,359	1,858,022	4,544,381
	小計	-	2,686,359	178,987,381	181,673,740
満期保有 金融資産	国公債	2,305,999	3,030,160	-	5,336,159
	金融債	120,885	294,460	-	415,345
	社債	-	2,300,530	-	2,300,530
	小計	2,426,884	5,625,150	-	8,052,034
その他金融資産		-	5,824,395	2,124,625	7,949,020
資産合計		4,844,569	24,245,473	181,112,006	210,202,048

預金	要求払預金	-	65,800,092	-	65,800,092
	期限付預金	-	-	104,238,665	104,238,665
	譲渡性預金証書	-	-	1,880,082	1,880,082
	発行手形預金	-	-	3,240,906	3,240,906
	手形管理口座受託金	-	1,682,610	-	1,682,610
	その他	-	-	35,173	35,173
	小計	-	67,482,702	109,394,826	176,877,528
借入負債	コールマネー	-	1,625,328	-	1,625,328
	売渡手形	-	-	30,934	30,934
	買戻条件付売渡債券	-	-	346,725	346,725
	借入負債	-	-	10,853,710	10,853,710
	外貨受託金	-	-	77,179	77,179
	小計	-	1,625,328	11,308,548	12,933,876
社債	ウォン貨社債	-	10,176,912	2,669,962	12,846,874
	外貨社債	-	4,140,691	-	4,140,691
	小計	-	14,317,603	2,669,962	16,987,565
その他金融負債		-	5,152,210	8,160,873	13,313,083
負債合計		-	88,577,843	131,534,209	220,112,052

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

区分		レベル1	レベル2	レベル3	合計
現金預け金	現金	2,532,041	-	-	2,532,041
	預け金	-	6,674,500	-	6,674,500
	小計	2,532,041	6,674,500	-	9,206,541
貸付債権	家計貸付	-	-	71,733,785	71,733,785
	企業貸付	-	-	87,874,276	87,874,276
	公共及びその他資金貸付	-	-	2,484,788	2,484,788
	銀行間資金貸付	-	4,706,274	1,398,554	6,104,828
	小計	-	4,706,274	163,491,403	168,197,677

満期保有 金融資産	国公債	2,382,547	1,934,449	-	4,316,996
	金融債	100,166	416,418	-	516,584
	社債	-	2,452,100	-	2,452,100
	小計	2,482,713	4,802,967	-	7,285,680
その他金融資産		-	4,423,376	2,278,172	6,701,548
資産合計		5,014,754	20,607,117	165,769,575	191,391,446
預金	要求払預金	-	56,619,719	-	56,619,719
	期限付預金	-	-	100,495,146	100,495,146
	譲渡性預金証書	-	-	1,497,810	1,497,810
	発行手形預金	-	-	3,131,971	3,131,971
	手形管理口座受託金	-	1,291,588	-	1,291,588
	その他	-	-	42,587	42,587
	小計	-	57,911,307	105,167,514	163,078,821
借入負債	コールマネー	-	191,409	-	191,409
	売渡手形	-	-	28,524	28,524
	買戻条件付売渡債券	-	-	344,632	344,632
	借入負債	-	-	9,790,750	9,790,750
	外貨受託金	-	-	94,315	94,315
	小計	-	191,409	10,258,221	10,449,630
社債	ウォン貨社債	-	11,938,854	1,927,983	13,866,837
	外貨社債	-	3,810,564	-	3,810,564
	小計	-	15,749,418	1,927,983	17,677,401
その他金融負債		-	3,009,615	8,733,300	11,742,915
負債合計		-	76,861,749	126,087,018	202,948,767

4) 当期末及び前期末現在、公正価値の開示のために使用された評価手法及び投入変数は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

公正価値レベル	区分	公正価値（注）	評価モデル	投入変数

レベル2	満期保有金融資産	5,625,150	キャッシュ・フロー 割引モデル	割引率
レベル3	貸付債権	178,987,381		割引率、信用スプレッド、 早期償還率
	その他金融資産	2,124,625		割引率
資産合計		186,737,156		
レベル2	社債	14,317,603	キャッシュ・フロー 割引モデル	割引率
レベル3	預金	109,262,091		割引率
	借入負債	6,269,087		割引率
	社債	2,669,962		割引率、回帰係数、 相関係数
	その他金融負債	8,160,873		割引率
負債合計		140,679,616		

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

公正価値レベル	区分	公正価値（注）	評価モデル	投入変数
レベル2	満期保有金融資産	4,802,967	キャッシュ・フロー 割引モデル	割引率
レベル3	貸付債権	163,491,403		割引率、信用スプレッド、 早期償還率
	その他金融資産	2,278,172		割引率
資産合計		170,572,542		
レベル2	社債	15,749,418	キャッシュ・フロー 割引モデル	割引率
レベル3	預金(注)	105,136,450		割引率
	借入負債(注)	5,143,044		割引率
	社債	1,927,983		割引率、回帰係数、 相関係数
	その他金融負債	8,733,300		割引率
負債合計		136,690,195		

（注） 帳簿価額を公正価値の合理的な近似値とみなして帳簿価額を公正価値として開示した項目に関連する評価手法及び投入変数は開示していません。

（3） 当期において公正価値で測定される金融商品の当初認識時に発生した取引日（day1）損益の変動内訳は以下の通りです。

（単位：百万ウォン）

期首	繰延	償却	期末
-	6	(5)	1

（注） 前期において認識を繰り延べた取引当日（day1）損益はありません。

(4) 金融商品のカテゴリー別分類

金融資産及び金融負債は公正価値または償却後原価で測定されます。金融商品のカテゴリー別帳簿価額の詳細な測定方法は注記2で説明しています。当期末及び前期末現在における各金融資産及び金融負債のカテゴリー別帳簿価額は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

金融資産	売買目的 金融資産	売却可能 金融資産	満期保有 金融資産	貸付金及び 受取債権	リスクヘッジ デリバティブ資産	合計
預け金	-	-	-	10,109,569	-	10,109,569
売買目的金融資産	5,912,990	-	-	-	-	5,912,990
デリバティブ資産	1,193,255	-	-	-	116,854	1,310,109
貸付債権	-	-	-	179,892,271	-	179,892,271
売却可能金融資産	-	21,937,911	-	-	-	21,937,911
満期保有金融資産	-	-	7,747,368	-	-	7,747,368
その他金融資産	-	-	-	7,887,366	-	7,887,366
資産合計	7,106,245	21,937,911	7,747,368	197,889,206	116,854	234,797,584

(単位：百万ウォン)

金融負債	当期損益認識 金融負債		償却後原価 測定金融負債	リスクヘッジ デリバティブ負債	合計
	売買目的金融負債	当期損益認識 金融負債			
預金	-	-	176,589,262	-	176,589,262
売買目的金融負債	428,936	-	-	-	428,936
当期損益認識 金融負債	-	6,139	-	-	6,139
デリバティブ負債	1,135,114	-	-	47,616	1,182,730
借入負債	-	-	12,894,846	-	12,894,846
社債	-	-	16,571,408	-	16,571,408
その他金融負債	-	-	13,337,677	-	13,337,677
負債合計	1,564,050	6,139	219,393,193	47,616	221,010,998

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

金融資産	売買目的 金融資産	売却可能 金融資産	満期保有 金融資産	貸付金及び 受取債権	リスクヘッジ デリバティブ資 産	合計
預け金	-	-	-	6,674,500	-	6,674,500
売買目的金融資産	5,602,158	-	-	-	-	5,602,158
デリバティブ資産	1,305,429	-	-	-	152,212	1,457,641
貸付債権	-	-	-	167,259,759	-	167,259,759
売却可能金融資産	-	23,590,690	-	-	-	23,590,690
満期保有金融資産	-	-	7,051,164	-	-	7,051,164
その他金融資産	-	-	-	6,645,005	-	6,645,005
資産合計	6,907,587	23,590,690	7,051,164	180,579,264	152,212	218,280,917

(単位：百万ウォン)

金融負債	売買目的 金融負債	償却後原価 測定金融負債	リスクヘッジ デリバティブ負債	合計
預金	-	163,153,755	-	163,153,755
売買目的金融負債	398,596	-	-	398,596
デリバティブ負債	1,187,750	-	235,387	1,423,137
借入負債	-	10,441,286	-	10,441,286
社債	-	17,485,768	-	17,485,768
その他金融負債	-	11,746,653	-	11,746,653
負債合計	1,586,346	202,827,462	235,387	204,649,195

(5) 金融収益及び金融費用

当期及び前期における金融収益及び金融費用の詳細内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

区分	受取利息 (支払利息)	受取手数料 (支払手数料)	減損損失	その他	合計	その他 包括損益
売買目的金融資産	122,692	4,408	-	26,636	153,736	-
売却可能金融資産	554,441	-	(220,286)	522,398	856,553	67,241
満期保有金融資産	324,820	-	-	-	324,820	-
貸付金及び受取債権	7,019,328	123,833	(419,933)	26,356	6,749,584	-
売買目的金融負債	-	(10)	-	-	(10)	-
当期損益認識金融負債	-	-	-	34	34	-
償却後原価測定金融負債	(3,924,613)	(8)	-	(153,772)	(4,078,393)	-
純リスクヘッジデリバティブ	-	-	-	164,939	164,939	-
合計	4,096,668	128,223	(640,219)	586,591	4,171,263	67,241

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

区分	受取利息 (支払利息)	受取手数料 (支払手数料)	減損損失	その他	合計	その他 包括損益
売買目的金融資産	124,271	5,649	-	23,001	152,921	-
売却可能金融資産	721,871	-	(203,584)	573,807	1,092,094	(399,683)
満期保有金融資産	371,623	-	-	-	371,623	-
貸付金及び受取債権	7,377,727	121,513	(645,168)	53,495	6,907,567	-
売買目的金融負債	-	(88)	-	-	(88)	-
償却後原価測定金融負債	(4,535,627)	(5)	-	264,695	(4,270,937)	-
純リスクヘッジデリバティブ	-	-	-	(263,250)	(263,250)	-
合計	4,059,865	127,069	(848,752)	651,748	3,989,930	(399,683)

3-5. 資本リスク管理

銀行に対する自己資本規制制度は、1980年代の金融規制緩和による金融機関のリスク増加により、銀行の健全性を確保し、預金者保護及び国際金融秩序の安定性を確保するために、BIS加盟国を中心に1988年に導入されました。当初のBasel規制の導入以降、規制自己資本の要求量が銀行の保有リスクをより効率的に反映できる方向に発展してきました。Basel委員会（BCBS）はグローバル金融危機以降、銀行システムの復元力強化のためにBasel III基準を設けて発表し、韓国は銀行業監督規定の改正を通じて2013年12月1日から従来よりも強化した資本規制であるBasel IIIを施行しています。同基準は当行を含めた国内銀行が普通株資本比率、基本資本比率、総自己資本比率に対して施行日から段階的にそれぞれ一定比率以上を維持することを義務付けており、当行は国内銀行の監督機構である金融監督院に銀行に関連する法規による自己資本比率の遵守如何を報告しています。

上記の監督法規により、当行が管理する規制資本は以下の2つに分類されます。

1) Tier 1 capital（基本資本：普通株資本＋その他基本資本）

- ① 普通株資本：銀行の損失を最も先に補填することができ、銀行清算時の最劣後で、清算時を除いては償還されない資本である。普通株、資本剰余金、利益剰余金（貸倒準備金を除く）、その他包括損益累計額、その他資本剰余金、資本調整、銀行の従属企業の非支配株主持分の一部金額等を含みます。
- ② その他基本資本：永久的な性格の認定要件を満たす資本証券及びこれに関連する資本剰余金、従属企業が発行したその他基本資本の外部投資家の保有金額のうち一部金額等を含みます。

2) Tier 2 capital（補完資本）

清算時に銀行の損失を補填することができる認定要件を満たす資本証券及びこれに関連する資本剰余金、従属企業が発行した補完資本の外部投資家の保有金額のうち一部金額等を含みます。

自己資本比率は自己資本（上記の基本資本と補完資本の合計から控除項目を減算した金額）をリスク加重資産で除して算出します。リスク加重資産（risk weighted assets）は、銀行の実質的なリスクを反映するために、リスクにさらされている程度が高いほどに、高い加重値を適用して算出し、信用リスク加重資産、運営リスク加重資産及び市場リスク加重資産の合計で構成されます。

当行は、別途の内部基準を通じて資本適正性を評価及び管理しています。資本適正性の評価は、経済的資本（エクスポージャー別に内在されたリスクに備えるために銀行が保有すべき実質的な必要資本量として、銀行内部のリスク認識及び評価基準により算出されたリスク量）に比べて可用資本（銀行の実際の損失発生時に損失処理に引き当てられる資本）の水準が適切であるかどうかを銀行内部的に評価することを意味します。経済

的資本はリスクの類型別（信用、市場、運営、金利、流動性、偏重リスク）に算出されたリスクを、相関関係を考慮して合算します。

当行は、リスク加重資産に対する自己資本比率を連結財務諸表に基づき算出、管理しており、当期末及び前期末における自己資本比率は以下の通りです。

（単位：百万ウォン）

区分			第183（当）期	第182（前）期
総自己資本	Tier 1	普通株資本	16,999,542	16,130,379
		その他基本資本	1,102,256	1,891,004
		基本資本	18,101,798	18,021,383
	Tier 2	補完資本	2,845,616	3,035,709
	合計		20,947,414	21,057,092
総リスク加重資産			135,714,810	129,276,682
自己資本比率	Tier 1	普通株資本比率	12.53%	12.48%
		基本資本比率	13.34%	13.94%
	Tier 2	補完資本比率	2.10%	2.35%
	合計		15.43%	16.29%

当行は上表のように、資本適正性基準（総自己資本比率8%以上、基本資本比率5.5%以上、普通株資本比率4.0%以上）を遵守しています。

3-6. 金融商品の譲渡取引

(1) 除去条件が充足されていない金融商品

1) 買戻条件付売渡債券

当期末及び前期末現在において買戻条件付売渡債券のうち当行が保有有価証券を確定価格で再買入することを条件として売却し、除去条件が充足されていない金融商品の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）期	第182（前）期
譲渡資産	売却可能金融資産	128,333	131,504
	満期保有金融資産	347,181	262,225
	小計	475,514	393,729
関連負債	買戻条件付売渡債券	346,726	331,511

2) 有価証券貸借取引

当行が保有している有価証券を貸し付ける場合、有価証券の所有権は移転されるものの、貸付期間満了時に当該有価証券を返還しなければならないため、当行は当該有価証券のリスク及び経済価値の大部分を保有することによって貸付有価証券の全体を継続して認識しています。当半期末及び前期末現在における貸付有価証券の帳簿価額は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期	貸付先
国公債	345,020	100,149	韓国証券金融、三井住友等
金融債	140,239	-	韓国証券金融
合計	485,259	100,149	

(2) 認識の中止条件を充足するが、継続的に関与する金融商品

当行は構造化企業に貸付債権を譲渡し、劣後貸付債権を引き受けました。同資産の譲渡は韓国採択国際会計基準による認識の中止要件を満たしてはいないものの、韓国採択国際会計基準転換日以前に発生した取引であり、遡及適用の例外事項に該当するため、財務諸表から除去しました。

前期末現在、当行は認識が中止された金融資産に対する信用リスクを継続して保有しており、その内訳は以下の通りです。

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

取引相手	継続的な 関与の類型	継続的な関与の 帳簿価額	継続的な関与の 公正価値	減損にさらされ ている 最大金額	認識が中止された金融 資産を再購入するため の現金流出額
新韓モーゲージ第2次 流動化専門（有）	後順位貸付債権	136,060	136,060	136,060	-

3-7. 金融商品の相殺

当期末及び前期末現在において実行可能な一括相殺約定またはこれに類似する約定の適用を受ける金融商品の内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

金融資産	認識された 金融資産 総額	相殺される 認識された 金融負債総額	財務状態表に表 示される 金融資産純額	財務状態表で 相殺されていない関連金額		純額
				金融商品	受け取った 現金担保	
デリバティブ資産（注1）	1,309,728	-	1,309,728	4,628,608	21,696	727,015
その他金融資産（注1）	4,067,591	-	4,067,591			
買戻条件付売渡担保 有価証券（注2）	475,514	-	475,514	346,726	-	128,788
売戻条件付買入 （貸付債権）（注2）	2,329,132	-	2,329,132	2,329,132	-	-
貸付有価証券（注2）	485,259	-	485,259	485,259	-	-
未回収内国為替債権（注 3）	24,467,356	22,400,331	2,067,025	-	-	2,067,025
証券未収金等（注4）	4,649	316	4,333	4,333	-	-
合計	33,139,229	22,400,647	10,738,582	7,794,058	21,696	2,922,828

(単位：百万ウォン)

金融負債	認識された 金融負債 総額	相殺される 認識された 金融資産総額	財務状態表に表 示される 金融負債純額	財務状態表で 相殺されていない関連金額		純額
				金融商品	提供した 現金担保	
デリバティブ負債（注1）	1,174,494	-	1,174,494	4,597,194	-	310,620
その他金融負債（注1）	3,733,320	-	3,733,320			
買戻条件付売渡 （借入負債）（注2）	346,726	-	346,726	346,726	-	-
未払内国為替債務（注3）	23,830,081	22,400,331	1,429,750	1,429,750	-	-
証券未払金等（注4）	552	316	236	236	-	-
合計	29,085,173	22,400,647	6,684,526	6,373,906	-	310,620

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

金融資産	認識された 金融資産 総額	相殺される 認識された 金融負債総額	財務状態表に 表示される 金融資産純額	財務状態表で 相殺されていない関連金額		純額
				金融商品	受け取った 現金担保	
デリバティブ資産（注1）	1,456,041	-	1,456,041	2,961,044	22,425	943,369
その他金融資産（注1）	2,470,797	-	2,470,797			
買戻条件付売渡担保 有価証券（注2）	393,729	-	393,729	331,511	-	62,218
売戻条件付買入 （貸付債権）（注2）	2,729,539	-	2,729,539	2,729,539	-	-
貸付有価証券（注2）	100,149	-	100,149	100,149	-	-
未回収内国為替債権（注 3）	23,272,502	20,939,147	2,333,355	-	-	2,333,355
証券未収金（注4）	164	164	-	-	-	-
合計	30,422,921	20,939,311	9,483,610	6,122,243	22,425	3,338,942

（単位：百万ウォン）

金融負債	認識された 金融負債 総額	相殺される 認識された 金融資産総額	財務状態表に 表示される 金融負債純額	財務状態表で 相殺されていない関連金額		純額
				金融商品	提供した 現金担保	
デリバティブ負債（注1）	1,410,753	-	1,410,753	2,974,169	-	567,026
その他金融負債（注1）	2,130,442	-	2,130,442			
買戻条件付売渡 （借入負債）（注2）	331,511	-	331,511	331,511	-	-
未払内国為替債務（注3）	21,811,694	20,939,147	872,547	872,547	-	-
証券未払金（注4）	9,161	164	8,997	-	-	8,997
合計	25,693,561	20,939,311	4,754,250	4,178,227	-	576,023

（注1） 当行の店頭デリバティブの一部はISDA（International Derivatives Swaps and Dealers

Association）一括相殺約定によって取引が行われています。同約定によると、取引相手の不渡のような信用事件発生時に当該取引相手との全てのデリバティブ取引が解約され、解約時点で取引当事者が各取引別に支払われるか、或いは支払われるべき金額を互いに相殺して単一金額を一方が他の取引相手に支払うこととなります。

（注2） 買戻条件付売買取引及び有価証券貸借取引等もISDA一括相殺約定と類似する相殺約定の適用を受けています。

（注3） 銀行間の内国為替取引による債権及び債務を処理する勘定で法的相殺権利を保有して純額で決済しているため、財務状態表に純額で表示しています。

- (注4) 市場内で取引される上場株式の決済による債権及び債務を処理する勘定で法的相殺権利を保有して純額で決済しているため、財務状態表に純額で表示しています。当半期末の金額の場合には、中央清算所制度による店頭デリバティブの市場内決済による関連債権と債務の相殺金額が含まれています。

[次へ](#)

4. 重要な会計見積及び判断

当行は財務諸表を作成するにあたって将来に対する見積及び仮定に対する判断を行っています。このような見積及び判断は継続的に評価され、過去の経験及び現在の状況で合理的に予測可能な将来の事象のような他の要素を考慮して行われます。このように算出された会計見積値は実際の発生結果と一致しないこともあります。報告期間末現在、計上された資産及び負債の帳簿価額を重要に変動させる重要なリスクを含む会計見積及び仮定に対する判断は以下の通りです。

(1) 法人税

通常の営業過程で最終税金価額の決定を不確定とするいくつかの種類の取引及び計算方式が存在します。当行は報告期間末現在までの営業活動の結果として将来に負担すると予想される税効果を、最善の見積過程を経て当期法人税及び繰延税金として認識しました。しかし、実際の将来の最終法人税負担額は認識した関連資産・負債と一致しないこともあり、このような差異は最終の税効果が確定された時点の当期法人税及び繰延税金資産・負債に影響を与えることもあります。

(2) 金融商品の公正価値

活発な市場で取引されない金融商品（例：店頭デリバティブ）の公正価値は評価手法を使用して決定しています。当行は報告期間終了日現在に主要市場状況に基づいて様々な評価手法の選択及び仮定に対する判断を行っています。当行は正常取引市場で取引されない様々な金融商品の公正価値を決定するために評価モデルを利用する場合、一般的な価値評価モデルから発展させた独自の評価モデルまで様々な方法を使用しますが、この際、様々な投入変数及び仮定が適用されます。

(3) 貸倒引当金、支払保証引当負債及び未使用約定引当負債

当行は貸付債権に対して減損を評価して貸倒引当金を設定し、支払保証及び未使用約定限度に対しては引当負債を設定します。このような信用損失に対する引当金は、個別評価貸倒引当金の見積のための借主別期待キャッシュ・フローの見積、集合評価貸倒引当金及び支払保証、未使用約定引当負債の見積のために使用されたモデルの仮定及び変数により決定されます。

(4) 確定給付債務

確定給付債務の現在価値は保険数理的方式により決定される様々な要素によって異なることになります。年金の純費用（利益）を決定するにあたり使用される仮定は割引率を含んでおり、このような仮定の変動は確定給付債務の帳簿価額に影響を与えます。

当行は半期別に適合する割引率を決定しています。このような割引率は確定給付債務の精算時に発生が予想される将来の見積現金流出額の現在価値を決定する際に使用されなければならない利子率を表します。当行は、年金が支給される通貨で表示され、関連確定給付債務の期間と類似する満期を有する優良社債の利子率を考慮

して、適切な割引率を決定しています。確定給付債務に関連する他の主な仮定は一部、現在の市場状況に基づいています。

(5) 売却可能持分証券の減損

売却可能持分証券の公正価値が取得原価以下に著しくまたは継続的に下落する場合は、減損が発生したという客観的な証拠に該当します。これに従い、当行は取得原価対比で30%以上の公正価値の下落を“著しい下落”、市場性のある持分証券の市場価格が取得原価以下に下落した状態が6ヶ月以上継続する場合を“継続的な下落”とみなしました。

5. 現金預け金

(1) 現金預け金の種類別の内訳

当期末及び前期末現在における現金預け金の種類別の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）期	第182（前）期
現金		2,417,685	2,532,041
ウォン貨預け金	支払準備預け金	5,668,726	3,161,035
	その他金融機関預け金	2,990,408	1,520,394
	小計	8,659,134	4,681,429
外貨預け金	外貨他店預け金	1,432,948	1,594,919
	外貨定期預け金	16,488	9,497
	外貨その他預け金	2,033	389,684
	小計	1,451,469	1,994,100
貸倒引当金		(1,034)	(1,029)
合計		12,527,254	9,206,541

(2) 使用制限預け金

当期末及び前期末現在において銀行法及びその他関係法令等により使用が制限されている預け金の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）期	第182（前）期	根拠法令等
ウォン貨預け金	支払準備預け金	5,668,726	3,161,035	韓国銀行法第56条
	その他金融機関預け金	2,790,251	1,520,273	韓国銀行法 第28条及び第70条
	小計	8,458,977	4,681,308	
外貨預け金	外貨他店預け金	350,121	668,310	韓国銀行法等
	外貨定期預け金	16,488	9,497	ニューヨーク州銀行法等
	外貨その他預け金	1,230	3,101	デリバティブ関連
	小計	367,839	680,908	
合計		8,826,816	5,362,216	

6. 売買目的金融資産

当期末及び前期末現在における売買目的金融資産の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）期	第182（前）期
債務証券	国公債	-	19,657
	金融債	-	40,018
	社債	-	30,212
	買入手形	3,257,984	3,432,257
	CMA資産	1,474,776	1,074,179
	小計	4,732,760	4,596,323
持分証券	株式	4,625	25,211
	受益証券	951,049	904,287
	小計	955,674	929,498
金預け金		224,556	76,337
合計		5,912,990	5,602,158

7. デリバティブ

(1) 未決済約定契約金額

当期末及び前期末現在に保有しているデリバティブの未決済約定契約金額の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分			第183（当）期	第182（前）期
外国為替デリバティブ	店頭デリバティブ	通貨先渡	29,425,029	26,503,408
		通貨スワップ	14,267,372	14,245,786
		通貨オプション	737,258	120,281
		小計	44,429,659	40,869,475
	上場デリバティブ	通貨先物	87,936	-
	合計		44,517,595	40,869,475
金利デリバティブ	店頭デリバティブ	金利スワップ	46,394,752	67,533,392
		金利オプション	1,846,000	3,146,156
		小計	48,240,752	70,679,548
	上場デリバティブ	金利先物	-	203,906
		金利スワップ（注）	3,664,800	-
		小計	3,664,800	203,906
	合計		51,905,552	70,883,454
株式関連デリバティブ	店頭デリバティブ	株式スワップ	6,338	-
		株式オプション	719,064	1,103,212
		小計	725,402	1,103,212
	上場デリバティブ	株式先物	6,466	11,821
		株式オプション	-	2,675
		小計	6,466	14,496
	合計		731,868	1,117,708
商品関連デリバティブ	店頭デリバティブ	商品スワップ及び先渡	167,448	194,718
		商品オプション	-	6,054
	合計		167,448	200,772
リスクヘッジデリバティブ	公正価値リスクヘッジ	金利スワップ	8,046,680	8,451,250
合計			105,369,143	121,522,659

(注) 中央清算取引所で決済されるデリバティブ未決済約定金額です。

(2) 公正価値

当期末及び前期末現在に保有しているデリバティブの公正価値は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分			第183（当）期		第182（前）期	
			資産	負債	資産	負債
外国為替 デリバティブ	店頭デリバティブ	通貨先渡	439,272	409,844	410,743	445,484
		通貨スワップ	248,298	270,522	428,257	345,278
		通貨オプション	3,819	5,048	1,721	1,504
	合計		691,389	685,414	840,721	792,266
金利 デリバティブ	店頭デリバティブ	金利スワップ	483,818	422,738	440,691	357,062
		金利オプション	9,395	16,615	12,824	16,932
	合計		493,213	439,353	453,515	373,994
株式関連 デリバティブ	店頭デリバティブ	株式スワップ	-	35	-	-
		株式オプション	6,787	8,212	11,183	11,109
	上場デリバティブ	株式オプション	-	-	10	-
	合計		6,787	8,247	11,193	11,109
商品関連 デリバティブ	店頭デリバティブ	商品スワップ及び先渡	1,866	2,100	-	10,381
リスクヘッジ デリバティブ	公正価値 リスクヘッジ	金利スワップ	116,854	47,616	152,212	235,387
合計			1,310,109	1,182,730	1,457,641	1,423,137

(3) デリバティブ評価損益

当期及び前期におけるデリバティブの評価損益は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分			第183（当）期		第182（前）期	
			評価益	評価損	評価益	評価損
外国為替 デリバティブ	店頭デリバティブ	通貨先渡	402,290	366,507	326,447	399,571
		通貨スワップ	213,101	281,936	233,965	248,946
		通貨オプション	3,821	3,259	1,357	855
	合計		619,212	651,702	561,769	649,372
金利 デリバティブ	店頭デリバティブ	金利スワップ	317,216	348,893	251,156	290,400
		金利オプション	5,368	6,788	6,856	3,313
	合計		322,584	355,681	258,012	293,713
株式関連 デリバティブ	店頭デリバティブ	株式スワップ	-	25	-	-
		株式オプション	4,129	5,308	8,226	13,557
	合計		4,129	5,333	8,226	13,557
商品関連 デリバティブ	店頭デリバティブ	商品スワップ及び先渡	1,866	2,100	-	10,381
		商品オプション	-	-	103	90
	合計		1,866	2,100	103	10,471
リスクヘッジ デリバティブ	公正価値 リスクヘッジ	金利スワップ	210,564	59,630	25,699	279,400
合計			1,158,355	1,074,446	853,809	1,246,513

(4) リスクヘッジ目的に関連する損益

当期及び前期における公正価値リスクヘッジ目的に関連する損益は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
ヘッジ対象	(158,222)	257,544
ヘッジ手段	164,939	(263,250)
合計	6,717	(5,706)

8. 貸付債権

(1) 貸付債権の顧客別構成内訳

当期末及び前期末現在における貸付金の顧客別の構成内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

科目	第183 (当) 期	第182 (前) 期
家計貸付	78,578,683	71,847,246
企業貸付	95,794,793	88,017,204
公共及びその他資金貸付	2,092,730	2,479,154
銀行間資金貸付	4,529,541	6,104,793
貸付債権合計	180,995,747	168,448,397
繰延貸付付帯費用	269,128	253,602
引当金減算前貸付債権合計	181,264,875	168,701,999
引当金	(1,372,604)	(1,442,240)
引当金減算後貸付債権合計	179,892,271	167,259,759

(2) 貸倒引当金の増減内訳

当期及び前期における預け金と貸付債権及びその他資産に対する貸倒引当金の変動内訳は以下の通りです。

<第183 (当) 期>

(単位：百万ウォン)

科目	預け金	貸付債権			その他資産	合計
		家計貸付	企業貸付	その他		
期首	1,029	192,302	1,234,772	15,166	58,856	1,502,125
繰入 (戻入) 額	5	144,817	276,010	(9,981)	9,082	419,933
償却額	-	(139,468)	(373,121)	(206)	(6,476)	(519,271)
割引差金償却	-	-	(34,702)	-	-	(34,702)
貸付債権売却	-	(4,987)	(25,884)	(4)	-	(30,875)
償却債権回収	-	16,157	148,650	10,763	344	175,914
その他 (注)	-	-	(77,680)	-	(287)	(77,967)
期末	1,034	208,821	1,148,045	15,738	61,519	1,435,157

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

科目	預け金	貸付債権			その他資産	合計
		家計貸付	企業貸付	その他		
期首	1,235	265,961	1,302,292	20,177	60,170	1,649,835
繰入（戻入）額	(206)	135,683	510,561	(5,011)	4,141	645,168
償却額	-	(180,952)	(569,116)	-	(734)	(750,802)
割引差金償却	-	-	(45,023)	-	-	(45,023)
貸付債権売却	-	(53,240)	(59,005)	-	-	(112,245)
償却債権回収	-	24,850	126,311	-	132	151,293
その他（注）	-	-	(31,248)	-	(4,853)	(36,101)
期末	1,029	192,302	1,234,772	15,166	58,856	1,502,125

（注） その他変動額は債権調整、出資転換、為替レート変動等による金額です。

（3） 繰延貸付付帯費用

当期及び前期における繰延貸付付帯費用の変動内訳は以下の通りです。

（単位：百万ウォン）

区分	第183（当）期	第182（前）期
期首残高	253,602	236,226
増加	201,114	180,698
減少	(185,588)	(163,322)
期末残高	269,128	253,602

9. 売却可能金融資産及び満期保有金融資産

(1) 売却可能金融資産及び満期保有金融資産の状況

当期末及び前期末現在、売却可能金融資産及び満期保有金融資産の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）期	第182（前）期
売却可能金融資産			
債務証券	国公債	2,287,224	2,305,850
	金融債	9,798,305	10,847,916
	社債	7,128,758	7,225,693
	小計	19,214,287	20,379,459
持分証券（注）	株式	1,402,614	2,091,628
	出資金	376,540	374,849
	受益証券	872,713	634,884
	その他	71,757	109,870
	小計	2,723,624	3,211,231
売却可能金融資産合計		21,937,911	23,590,690
満期保有金融資産			
債務証券	国公債	5,092,893	4,129,145
	金融債	410,323	510,113
	社債	2,244,152	2,411,906
満期保有金融資産合計		7,747,368	7,051,164

(注) 活発な市場で開示される市場価格がなく、公正価値を信頼性をもって測定することができないため、原価で測定した持分証券の帳簿価額は当期末及び前期末現在、それぞれ22,732百万ウォン、19,462百万ウォンです。

(2) 売却可能金融資産の処分損益

当期及び前期における売却可能金融資産の処分による損益は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
売却可能金融資産処分益	441,587	546,510
売却可能金融資産処分損	8,018	58,832
合計	433,569	487,678

10. 有形資産

(1) 当期末及び前期末現在における有形資産の内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

区分	取得価額	減価償却累計額	帳簿価額
土地	1,154,431	-	1,154,431
建物	781,880	(137,098)	644,782
その他有形資産	1,282,338	(1,077,967)	204,371
合計	3,218,649	(1,215,065)	2,003,584

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

区分	取得価額	減価償却累計額	帳簿価額
土地	1,260,731	-	1,260,731
建物	797,818	(110,362)	687,456
その他有形資産	1,346,346	(1,129,429)	216,917
合計	3,404,895	(1,239,791)	2,165,104

(2) 当期及び前期における有形資産の科目別帳簿価額の変動内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

区分	土地	建物	その他有形資産	合計
期首	1,260,731	687,456	216,917	2,165,104
取得（注1,2）	57	25,907	101,881	127,845
処分（注1,3）	(48)	-	(21,493)	(21,541)
減価償却費	-	(30,272)	(93,331)	(123,603)
投資不動産への振替	(109,199)	(38,615)	-	(147,814)
売却予定非流動資産への振替	2,890	306	-	3,196
為替レート変動	-	-	397	397
期末	1,154,431	644,782	204,371	2,003,584

(注1) 建設仮勘定から本勘定に振り替えられた金額4,054百万ウォンが含まれています。

(注2) 新規取得資産の復旧引当負債繰入額3,897百万ウォンが含まれています。

(注3) 除却損失1,520百万ウォンが含まれています。

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

区分	土地	建物	その他有形資産	合計
期首	1,266,324	638,616	268,541	2,173,481
取得（注1,2）	367	143,044	182,632	326,043
処分（注3,4）	(2,664)	(2,127)	(138,334)	(143,125)
減価償却費	-	(29,617)	(96,224)	(125,841)
投資不動産への振替	456	(59,827)	-	(59,371)
売却予定非流動資産への振替	(3,752)	(2,633)	-	(6,385)
為替レート変動	-	-	302	302
期末	1,260,731	687,456	216,917	2,165,104

(注1) 建設仮勘定から本勘定に振り替えられた金額131,541百万ウォンが含まれています。

(注2) 新規取得資産の復旧引当負債繰入額2,075百万ウォンが含まれています。

(注3) 建設仮勘定から本勘定及び無形資産に振り替えられて減少した金額132,758百万ウォンが含まれています。

(注4) 除却損失489百万ウォンが含まれています。

(3) 保険加入内訳

当期末現在において現金、有形資産、投資不動産及び売却予定資産に対する保険加入内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

保険種類	付保資産	付保金額	保険会社名
金融機関総合保険	現金	20,000	三星火災他7社
財産総合保険	業務用動産、不動産等	1,096,689	三星火災他5社
盗難保険	現金及び有価証券	55,000	三星火災他8社
役員賠償責任保険	-	50,000	三星火災他7社
ガス事故賠償責任保険	-	500	メリッツ火災他2社
合計		1,222,189	

(注) 上記保険以外に車両保険、役員・職員に対する医療保険、資産災害保険及び従業員災害保障保険等に加入しています。

11. 無形資産

当期及び前期における無形資産の増減内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

区分	ソフトウェア	開発費	会員権	その他無形資産	合計
期首	40,698	22,922	46,113	95,380	205,113
取得	10,954	1,430	3,936	9,970	26,290
処分	-	-	(2,861)	-	(2,861)
損傷(注)	-	-	(547)	-	(547)
償却	(14,675)	(10,980)	-	(41,629)	(67,284)
為替レート変動	-	-	1	-	1
期末	36,977	13,372	46,642	63,721	160,712

（注）会員権はゴルフ及びコンドミニアムの会員権で、耐用年数を特定期間に限定できない無形資産です。前期末現在、取引所の時価が帳簿価額より低い場合、減損損失を認識しました。

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

区分	ソフトウェア	開発費	会員権	その他無形資産	合計
期首	35,678	38,071	44,298	39,503	157,550
取得（注1）	19,369	222	4,875	89,684	114,150
処分及び除却（注2）	-	-	(1,395)	(2)	(1,397)
減損（注3）	-	-	(1,649)	-	(1,649)
償却	(14,349)	(15,371)	-	(33,805)	(63,525)
為替レート変動	-	-	(16)	-	(16)
期末	40,698	22,922	46,113	95,380	205,113

（注1） 建設仮勘定からその他無形資産に振り替えられた金額1,217百万ウォンが含まれています。

（注2） 除却損失2百万ウォンが含まれています。

（注3） 会員権はゴルフ及びコンドミニアムの会員権で、耐用年数を特定期間に限定できない無形資産です。前期末現在、取引所の時価が帳簿価額より低い場合、減損損失を認識しました。

12. 関係企業等に対する投資資産

(1) 当期末及び前期末現在、関係企業及び従属企業に対する投資資産の現況は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

被投資会社	所在地	決算月	業種	持分率 (%)		帳簿価額	
				第183 (当) 期	第182 (前) 期	第183 (当) 期	第182 (前) 期
新韓アジュ金融有限公司	香港	12月末	卸売金融	99.99	99.99	161,293	161,293
アメリカ新韓銀行	米国	12月末	銀行業	100.00	100.00	136,419	136,419
ヨーロッパ新韓銀行	ドイツ	12月末	銀行業	100.00	100.00	78,606	78,606
新韓クメール銀行	カンボジア	12月末	銀行業	90.00	90.00	22,212	22,212
新韓カザフスタン銀行	カザフスタン	12月末	銀行業	100.00	100.00	77,913	77,913
カナダ新韓銀行	カナダ	12月末	銀行業	100.00	100.00	52,701	52,701
新韓銀行中国有限公司	中国	12月末	銀行業	100.00	100.00	355,443	355,443
SBJ銀行	日本	3月末	銀行業	100.00	100.00	359,745	359,745
新韓バンク・ベトナム	ベトナム	12月末	銀行業	100.00	100.00	330,654	330,654
アジュキャピタル (注2)	大韓民国	12月末	割賦金融業等	12.85	12.85	29,654	29,654
カーディフ生命 (注3)	大韓民国	12月末	保険業	14.99	14.99	42,203	42,203
連合資産管理 (注1)	大韓民国	12月末	その他	17.50	17.50	84,792	84,792
浦項テクノパーク2PFV (注2)	大韓民国	12月末	その他	14.90	14.90	2,884	2,884
デウォントス (注4)	大韓民国	12月末	その他	36.33	36.33	-	-
インヒ (注4)	大韓民国	12月末	卸売業	15.36	15.36	-	-
デギ電設 (注4)	大韓民国	12月末	建設業	27.45	-	-	-
極東建設 (注2,4)	大韓民国	12月末	建設業	14.30	-	9,092	-
合計						1,743,611	1,734,519

(注1) 連合資産管理は持分率15%を超過して銀行法上子会社として分類され、重要な影響力があると判断しました。

(注2) アジュキャピタルと浦項テクノパーク2PFV、極東建設の持分率は15%以下ですが、被投資会社の財務政策、営業方針に関する意思決定に参加できる役員の選任に重要な影響力を行使することができるため、関係企業に対する投資資産として計上しました。

(注3) カーディフ生命の持分率は15%以下ですが、重要な営業上の取引を通じて重要な影響力を行使することができるため、関係企業に対する投資資産として計上しました。

(注4) デウォントス、インヒ、デギ電設及び極東建設は更生手続の過程で出資転換により株式を取得しました。更生手続中には議決権を行使することができないため、売却可能金融資産に分類して公正価値で評価していましたが、当期以前及び当期の更生手続が終了することにより正常な議決権の行使が可能となったため、売却可能金融資産から関係企業投資資産に再分類しました。

13. 投資不動産

(1) 当期末及び前期末現在の投資不動産の内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

区分	取得価額	減価償却累計額	帳簿価額
土地	546,086	-	546,086
建物	224,510	(32,189)	192,321
合計	770,596	(32,189)	738,407

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

区分	取得価額	減価償却累計額	帳簿価額
土地	436,046	-	436,046
建物	181,564	(20,866)	160,698
合計	617,610	(20,866)	596,744

(2) 投資不動産の公正価値

当期末及び前期末現在における投資不動産の公正価値の内訳は以下の通りです。

（単位：百万ウォン）

区分	第183（当）期	第182（前）期
投資不動産	792,510	633,516

（注）投資不動産の公正価値評価は独立した第三者との取引条件による最近の市場取引価格及び市場で観測不可能な重要な投入変数が反映されるため、公正価値序列水準においてレベル3に該当します。

(3) 当期及び前期における投資不動産の科目別の帳簿価額の増減内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

区分	土地	建物	合計
期首	436,046	160,698	596,744
処分	-	-	-
減価償却費	-	(7,992)	(7,992)
有形資産からの振替	109,199	38,615	147,814
売却予定非流動資産からの振替	841	1,000	1,841
期末	546,086	192,321	738,407

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

区分	土地	建物	合計
期首	437,301	107,917	545,218
処分	(799)	(638)	(1,437)
減価償却費	-	(6,408)	(6,408)
有形資産（への）からの振替	(456)	59,827	59,371
期末	436,046	160,698	596,744

(4) 投資不動産から発生した損益

当期及び前期中に、投資不動産に関連して包括損益計算書に計上された関連損益の内訳は以下の通りです。

（単位：百万ウォン）

区分	第183（当）期	第182（前）期
投資不動産から発生した賃貸収益	25,149	21,449
賃貸収益が発生した投資不動産に 直接関連する営業費用	5,989	5,957
投資不動産の処分による利益	-	248

14. その他資産

当期末及び前期末現在のその他資産の内訳は以下の通りです。

（単位：百万ウォン）

区分	第183（当）期	第182（前）期
未収金	3,970,383	2,262,977
未回収内国為替債権	2,067,025	2,361,983
預け保証金	1,170,140	1,211,108
未収収益	706,105	836,992
前払費用	90,629	69,653
仮払金	64,385	64,735
雑資産	105,498	168,097
その他	32	32
現在価値割引調整	(61,451)	(71,945)
貸倒引当金	(61,519)	(58,856)
合計	8,051,227	6,844,776

15. 担保提供資産及び担保として提供を受けた資産

(1) 当期末及び前期末現在、担保提供された資産の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）期	第182（前）期	担保提供事由
有価証券（注1）	売却可能金融資産	597,093	1,206,014	借入金、韓国銀行決済履行担保、 借入有価証券等
	満期保有金融資産	5,188,372	4,858,412	借入金、韓国銀行決済履行担保、 対顧客リパーチェスアグリーメント等
	小計	5,785,465	6,064,426	
有形資産（注2）		4,762	6,488	根抵当権の設定等
合計		5,790,227	6,070,914	

(注1) 第三者が当行の債務不履行と関係なく売渡及び再担保の提供が可能な担保の帳簿価額は、当期末及び前期末現在、それぞれ493,104百万ウォン、483,371百万ウォンです。

(注2) 根抵当権の設定等に関連する債権最高額基準です。

(2) 債務不履行と関係なく売渡及び再担保の提供が可能な担保保有物

当期末及び前期末現在、債務不履行と関係なく売渡及び再担保の提供が可能な担保の公正価値は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期		第182（前）期	
	担保物の公正価値	売渡すか、或いは担保として再度提供した担保物の公正価値	担保物の公正価値	売渡すか、或いは担保として再度提供した担保物の公正価値
有価証券	2,432,109	-	2,759,192	-

16. 当期損益認識指定金融負債

(1) 当半期末及び前期末現在における当期損益認識指定金融負債の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分（注1）	第183（当）期	第182（前）期
預金（注2,3）	6,139	-

(注1) 当行は内在デリバティブが含まれた複合金融商品のうち、企業会計基準書第1039号“金融商品：認識及び測定”によって当期損益認識金融負債の指定が許容される複合契約を当期損益認識金融負債として指定しました。

(注2) 当期損益認識指定金融負債の帳簿価額は、当行が採択したオプション評価モデルに基づいて算定しました。

(注3) 当期において当行の信用リスク変動により損益として認識された金額はありません。

(2) 当期末現在、当期損益認識指定金融負債の契約条件に従う元金に対する満期償還金額及び帳簿価額、並びに両金額の差異は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

区分	契約上の満期償還金額	帳簿価額	差異金額
預金	6,171	6,139	32

(3) 当期中に当期損益認識指定金融負債の関連純損益（受取利息及び支払利息は除外）の内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

区分	評価損益	売買損益	合計
預金	32	2	34

17. 預金

当期末及び前期末現在における預金の種類別の内訳は以下の通りです。

（単位：百万ウォン）

科目		第183（当）期	第182（前）期
要求払預金	ウォン貨預金	62,012,907	52,697,003
	外貨預金	3,787,185	3,922,716
	小計	65,800,092	56,619,719
期限付預金	ウォン貨預金	101,259,139	97,809,278
	外貨預金	2,682,972	2,885,635
	公正価額リスクヘッジ損益	15,352	(102,849)
	小計	103,957,463	100,592,064
譲渡性預金証書		1,872,852	1,475,621
発行手形預金		3,241,082	3,132,185
手形管理口座受託金		1,682,610	1,291,588
その他		35,163	42,578
合計		176,589,262	163,153,755

18. 売買目的金融負債

当期末及び前期末現在における売買目的金融負債の内訳は以下の通りです。

（単位：百万ウォン）

科目	第183（当）期		第182（前）期	
	利率（％）	金額	利率（％）	金額

金預金	-	428,936	-	398,596

19. 借入負債

当期末及び前期末現在、借入負債の種類別の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

科目		第183（当）期			第182（前）期		
		利率（％）		金額	利率（％）		金額
		最高	最低		最高	最低	
コールマネー	ウォン貨	1.98	1.83	1,436,900	2.32	2.32	3,700
	外貨	9.00	0.10	188,428	0.51	0.10	187,709
	小計			1,625,328			191,409
売渡手形		2.50	1.40	31,059	2.93	1.50	28,631
買戻条件付 売渡債券	ウォン貨	1.62	1.62	6,121	2.55	2.27	13,121
	外貨	3.28	0.50	340,605	3.34	0.66	331,511
	小計			346,726			344,632
ウォン貨 借入負債	韓国銀行借入負債	1.00	0.50	1,366,192	1.00	0.50	1,269,610
	その他借入負債	5.05	0.00	3,249,709	5.05	0.00	3,242,251
	小計			4,615,901			4,511,861
外貨 借入負債	外貨他店借入	0.67	0.55	342,548	0.78	0.73	228,178
	銀行借入負債	8.85	0.44	2,601,308	1.83	0.40	2,493,401
	転貸借入負債	0.79	0.25	995,522	-	-	-
	その他借入負債	0.68	0.48	2,260,779	0.68	0.55	2,550,854
	小計			6,200,157			5,272,433
外貨受託金		0.10	0.10	77,179	0.10	0.10	94,315
繰延付帯費用				(1,504)			(1,995)
合計				12,894,846			10,441,286

20. 社債

当期末及び前期末現在、社債の種類別の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）半期			第182（前）期		
		利率（％）		金額	利率（％）		金額
		最高	最低		最高	最低	
ウォン貨 社債	一般社債	8.91	0.00	9,630,890	8.36	0.00	8,750,890
	劣後社債	5.10	3.41	2,901,239	7.70	3.41	5,060,630
	公正価額リスクヘッジ損益			34,277			(24,853)
	割引発行差金			(26,825)			(37,751)
	小計			12,539,581			13,748,916
外貨 社債	一般社債	4.50	0.32	3,997,657	8.13	0.74	3,681,771
	公正価額リスクヘッジ損失			46,850			70,163
	割引発行差金			(12,680)			(15,082)
	小計			4,031,827			3,736,852
合計				16,571,408			17,485,768

2 1. 確定給付債務

当行は、従業員の役務提供期間に基づき、確定給付型年金制度を運営しています。また、当行は社外積立資産を信託会社、ファンド会社及びその他類似企業に信託しています。

(1) 確定給付型年金制度の資産及び負債

当期末及び前期末現在、確定給付型における資産及び負債の内訳は以下の通りです。

（単位：百万ウォン）

区分	第183（当）期	第182（前）期
確定給付債務の現在価値	998,367	736,685
社外積立資産の公正価値	(753,648)	(670,335)
財務状態表計上負債	244,719	66,350

(2) 当期及び前期における確定給付債務の増減内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
期首	736,685	747,236
当期勤務費用	99,555	104,754
支払利息	35,250	31,998
再測定要素（注1）	158,265	(24,976)
過去勤務費用（注2）	-	(96,779)
給与支給額	(33,760)	(27,724)
その他	2,372	2,176
期末	998,367	736,685

(注1) 当期末現在、再測定要素は人口統計的仮定の変動による保険数理的利益3,580百万ウォン及び財務的仮定の変動による保険数理的損失163,383百万ウォン、そして経験調整による利益 1,538百万ウォンで構成されています。

(注2) 前期中に制度の縮小に該当する退職給付制度の改正がありました。その結果、当行の確定給付債務は96,779百万ウォン減少し、負の過去勤務費用が前期損益として認識されました。

(3) 確定給付制度資産の増減内訳

当期及び前期における社外積立資産の増減内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
期首	670,335	583,657
受取利息	33,383	26,117
再測定要素	(15,755)	(7,566)
使用者の拠出金	93,000	90,000
給与支給額	(27,315)	(21,873)
期末	753,648	670,335

(4) 社外積立資産の構成内訳

当期末及び前期末現在、社外積立資産の構成内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
定期預金	713,045	646,711
その他	40,603	23,624
合計	753,648	670,335

(5) 保険数理的仮定

当期末及び前期末現在における主な保険数理的仮定の内訳は以下の通りです。

区分	第183（当）期	第182（前）期	備考
割引率（期待収益率）	4.02%	4.98%	AA0社債収益率
将来賃金上昇率	2.84%＋昇給率	2.44%＋昇給率	過去5ヶ年の平均

(6) 敏感度分析

当期末及び前期末現在における主な仮定の変動による確定給付債務の現在価値は以下の通りです。

1) 割引率

（単位：百万ウォン）

区分	第183（当）期	第182（前）期
適用された仮定による現在価値	998,367	736,685
1% ポイント増加	875,969	651,523
1% ポイント減少	1,145,240	838,202

2) 賃金上昇率

（単位：百万ウォン）

区分	第183（当）期	第182（前）期
適用された仮定による現在価値	998,367	736,685
1% ポイント増加	1,145,613	839,910
1% ポイント減少	873,520	648,776

(7) 当期末及び前期末の評価時に適用した確定給付債務の加重平均満期はそれぞれ16.33年及び16.11年です。

2.2. 引当負債

(1) 当期及び前期における引当負債の増減内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

(単位：百万ウォン)

区分	復旧引当負債	訴訟	未使用信用枠	支払保証	その他	合計
期首	25,364	94,735	80,312	111,475	59,893	371,779
繰入（戻入）額	1,056	(26,178)	(9,404)	10,195	13,743	(10,588)
使用額	(1,221)	(46,766)	-	-	(19,697)	(67,684)
為替レート変動	-	439	980	2,077	773	4,269
その他（注）	3,897	-	-	9,063	-	12,960
期末	29,096	22,230	71,888	132,810	54,712	310,736

<第182（前）期>

(単位：百万ウォン)

区分	復旧引当負債	訴訟	未使用信用枠	支払保証	その他	合計
期首	23,023	97,041	78,109	112,824	48,693	359,690
繰入（戻入）額	545	(2,149)	1,628	26,722	39,257	66,003
使用額	(189)	-	-	-	(25,243)	(25,432)
為替レート変動	-	(157)	575	(1,011)	152	(441)
その他（注）	1,985	-	-	(27,060)	(2,966)	(28,041)
期末	25,364	94,735	80,312	111,475	59,893	371,779

（注） 最初公正価値で評価する金融保証契約の新規発生と満期到来による変動及び割引率変動による効果等です。

（2） 復旧引当負債

復旧引当負債は報告期間末現在、賃借店舗の将来予想復旧費用の最善の見積値を適切な割引率で割り引いた現在価値です。同復旧費用の支出は個別賃借店舗の賃借契約終了時点で発生する予定であり、これを合理的に見積るために過去10年間、賃借契約が終了した賃借店舗の平均存続期間を利用しました。また、予想復旧費用を見積るために、過去3年間復旧工事が発生した店舗の実際の復旧工事費用の平均値及び3年間の平均インフレーション率を使用しました。

23. その他負債

当期末及び前期末現在におけるその他負債の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

科目	第183（当）期	第182（前）期

未払金	3,848,890	2,196,437
信託勘定未払金	2,306,260	2,605,055
未払費用	2,196,255	2,355,511
代理店	2,226,742	2,356,703
未払内国為替債務	1,429,750	945,684
代行業務収入金	641,269	581,158
受取保証金	205,422	210,013
未払外国為替債務	223,390	195,569
仮受金	51,335	35,359
前受収益	52,602	54,418
諸税預り金	91,204	105,753
未払配当金	14,937	18,545
雑負債	20,824	125,677
現在価値割引調整	(2,296)	(2,642)
合計	13,306,584	11,783,240

24. 資本

(1) 資本内訳

当期末及び前期末現在における資本の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

科目		第183（当）期	第182（前）期
資本金	普通株資本金	7,928,078	7,928,078
新種資本証券		1,100,250	2,099,350
資本剰余金	株式発行超過金	398,080	398,080
資本調整	ストックオプション	(22)	25
	その他資本調整	(821)	-
	小計	(843)	25
その他包括損益累計額	売却可能金融資産評価損益	613,564	562,595
	海外事業損益	(43,366)	(46,950)
	再測定要素	(245,740)	(113,833)
	小計	324,458	401,812
利益剰余金	法定積立金（注1）	1,232,400	1,098,257
	任意積立金（注2）	7,989,921	7,159,989
	その他準備金（注3）	62,496	51,400
	未処分利益剰余金（注4）	1,337,017	1,335,171
	小計	10,621,834	9,644,817
合計		20,371,857	20,472,162

(注1) 銀行法第40条の規定により資本金の総額に達するまで、決算純利益金の配当時毎にその純利益金の10%以上を決算期毎に積み立てた利益準備金で、欠損補填及び資本繰入の場合を除いてはこれを使用できません。

(注2) 当期末における1,695,516百万ウォンの貸倒準備金及び355,898百万ウォンの再評価積立金が含まれており、前期末における1,693,225百万ウォンの貸倒準備金及び355,898百万ウォンの再評価積立金が含まれています。

(注3) 海外支店で現地の法規により積み立てた準備金で、現地所在支店の欠損補填に対してのみ使用することができます。

(注4) 当期末の貸倒準備金繰入予定額42,733百万ウォン及び前期末の貸倒準備金繰入予定額2,291百万ウォンが含まれています。

(2) 当期末及び前期末現在における資本金の内訳は以下の通りです。

科目	第183（当）期	第182（前）期
発行する株式総数	2,000,000,000株	2,000,000,000株
1株当たり金額	5,000ウォン	5,000ウォン
発行済株式数	1,585,615,506株	1,585,615,506株

(3) 新種資本証券

当期末及び前期末現在、資本に分類された新種資本証券は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	発行日	満期日	金額		利率（％）
			第183（当）期	第182（前）期	
外貨新種 資本証券	2005-03-02	2035-03-02	298,951	298,951	5.66
	2006-09-20	2036-09-20	94,761	94,761	6.82
	2006-09-20	2036-09-20	237,144	237,144	6.82
ウォン貨新種 資本証券	2008-03-21	2038-03-21	119,878	119,878	7.30
	2008-03-25	2038-03-25	49,948	49,948	7.30
	2009-06-05	2039-06-05	-	699,370	5.95
	2009-06-29	2039-06-29	-	299,730	5.95
	2013-06-07	2043-06-07	299,568	299,568	4.63
合計			1,100,250	2,099,350	
新種資本証券配当金			96,293	133,290	
加重平均利率（％）			6.24	6.35	

上記の新種資本証券は、発行日以降5年または10年が経過した後、当行が早期償還することができ、満期日に同一の条件で満期を延長することができます。また、普通株に対する配当を支払わないことと決議した場合、約定利息を支払いません。

(4) その他包括損益累計額

当期及び前期におけるその他包括損益累計額の再分類調整を含めた増減内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

区分	売却可能金融資産 評価損益	海外事業損益	確定給付型制度 再測定要素	合計
期首金額	562,595	(46,950)	(113,833)	401,812
当期発生差益（差損）：				
公正価値評価による増減	379,123	-	-	379,123
当期損益に含まれた差益の再分類調整：				
資産減損による増減	(17,714)	-	-	(17,714)
処分による増減	(297,540)	-	-	(297,540)
リスクヘッジ会計適用効果	2,181	-	-	2,181
為替レート差異による効果	1,191	4,729	-	5,920
確定給付型制度の再測定	-	-	(174,020)	(174,020)
税効果	(16,272)	(1,145)	42,113	24,696
期末金額	613,564	(43,366)	(245,740)	324,458

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

区分	売却可能金融資産 評価損益	海外事業損益	確定給付型制度 再測定要素	合計
期首金額	865,555	(26,951)	(127,030)	711,574
当期発生差益（差損）：				
公正価値評価による増減	58,645	-	-	58,645
当期損益に含まれた差益の再分類調整：				
資産減損による増減	10,832	-	-	10,832
処分による増減	(472,352)	-	-	(472,352)
リスクヘッジ会計適用効果	4,170	-	-	4,170
為替レート差異による効果	(978)	(26,384)	-	(27,362)
確定給付型制度の再測定	-	-	17,410	17,410
税効果	96,723	6,385	(4,213)	98,895
期末金額	562,595	(46,950)	(113,833)	401,812

(5) 利益剰余金処分計算書

当期及び前期におけるの利益剰余金処分計算書は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

内容	第183（当）期	第182（前）期
	処分予定日： 2015年3月18日	処分確定日： 2014年3月25日
I. 未処分利益剰余金	1,337,017	1,335,171
1. 前期繰越未処分利益剰余金	-	-
2. 会計方針変更効果	-	127,030
3. 新種資本証券利息	(96,293)	(133,290)
4. 当期純利益	1,433,310	1,341,431
II. 任意積立金等の取崩額	5,659,656	4,832,017
1. 任意積立金	5,659,656	4,832,017
合計	6,996,673	6,167,188
III. 利益剰余金処分額	6,996,673	6,167,188
1. 利益準備金	143,331	134,143
2. 貸倒準備金	42,733	2,291
3. その他準備金	12,720	11,098
4. 任意積立金	6,346,989	5,659,656
5. 新種資本証券償還損失	900	-
6. 配当金	450,000	360,000
：普通株現金配当 1株当り：当期283.80ウォン（5.68%） 前期227.04ウォン（4.54%）		
IV. 次期繰越未処分利益剰余金	-	-

(6) 配当金

当期及び前期における普通株の配当金計算内訳は以下の通りです。

(単位：株、ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
配当対象株式数	1,585,615,506	1,585,615,506
1株当り額面金額	5,000	5,000
額面配当率	5.68%	4.54%
1株当り配当金額	283.80	227.04

(7) 配当性向

当期及び前期の普通株に対する配当性向の計算内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
普通株配当金	450,000	360,000
当期純利益	1,433,310	1,341,431
配当性向（当期純利益基準）	31.40%	26.84%
貸倒準備金反映後の調整利益	1,390,577	1,339,140
配当性向（貸倒準備金反映後の調整利益基準）	32.36%	26.88%

25. 貸倒準備金

貸倒準備金は銀行業監督規定第29条第1項及び第2項により算出及び開示される事項です。

(1) 貸倒準備金の残高

当期末及び前期末現在における貸倒準備金の残高は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
貸倒準備金積立額	1,695,516	1,693,225
貸倒準備金繰入予定額	42,733	2,291
貸倒準備金残高	1,738,249	1,695,516

(2) 貸倒準備金繰入額及び貸倒準備金反映後の調整利益等

当期及び前期の貸倒準備金繰入額及び貸倒準備金反映後の調整利益等は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）半期
貸倒準備金繰入額	42,733	2,291
貸倒準備金反映後の調整利益	1,390,577	1,339,140
貸倒準備金反映後の1株当たり調整利益（ウォン）	816	760

26. 純受取利息

(1) 当期及び前期における受取利息の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
現金預け金利息	79,210	50,797
売買目的金融資産利息	122,692	124,271
売却可能金融資産利息	554,441	721,871
満期保有金融資産利息	324,820	371,623
貸付債権利息	6,846,017	7,215,523
その他利息	94,101	111,407
合計	8,021,281	8,595,492
減損された金融資産から発生した受取利息	34,702	45,023

(2) 当期及び前期における支払利息の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
預金利息	3,169,146	3,638,016
借入負債利息	175,913	191,930
社債利息	523,337	641,009
その他利息	56,217	64,672
合計	3,924,613	4,535,627

27. 純受取手数料

当期及び前期における手数料の受取・支払の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期

受取手数料	与信取扱手数料	56,823	56,588
	電子金融手数料	134,410	130,916
	仲介手数料	105,923	118,324
	業務代行手数料	328,456	318,382
	投資金融手数料	49,419	45,430
	外国為替受取手数料	87,444	89,907
	信託報酬手数料	67,239	60,388
	受取保証料	54,098	54,646
	その他手数料	65,829	49,869
	合計	949,641	924,450
支払手数料	与信関連手数料	28,408	29,271
	ブランド使用手数料	50,655	83,599
	サービス関連手数料	14,493	14,962
	売買及び仲介関連手数料	4,046	5,184
	外国為替支払手数料	16,572	16,492
	その他手数料	41,772	38,026
	合計	155,946	187,534

28. 受取配当

当期及び前期における受取配当の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
売買目的金融資産	5,446	1,286
売却可能金融資産	93,280	73,399
合計	98,726	74,685

29. 売買目的金融商品関連損益

当期及び前期における売買目的金融商品関連損益の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分			第183（当）期	第182（前）期
売買目的 金融商品	債務証券	評価利益	352	463
		処分利益	2,893	5,071
		評価損失	(282)	(436)
		処分損失	(945)	(4,002)
		小計	2,018	1,096
	持分証券	評価利益	1,110	4,704
		処分利益	26,785	31,230
		評価損失	(5,007)	(491)
		処分損失	(4,156)	(7,624)
		小計	18,732	27,819
	金関連	評価利益	-	157,548
		処分利益	1,499	2,941
		評価損失	(19,403)	(91,522)
		処分損失	(203)	(586)
		小計	(18,107)	68,381
	合計		2,643	97,296
売買目的 デリバティブ	外国為替関連	評価及び取引利益	1,909,343	2,255,224
		評価及び取引損失	(1,876,210)	(2,297,528)
		小計	33,133	(42,304)
	金利関連	評価及び取引利益	618,396	626,705
		評価及び取引損失	(631,098)	(630,068)
		小計	(12,702)	(3,363)
	株式関連	評価及び取引利益	15,323	21,457
		評価及び取引損失	(15,021)	(23,402)
		小計	302	(1,945)
	商品関連	評価及び取引利益	25,574	4,348
		評価及び取引損失	(27,760)	(32,317)
		小計	(2,186)	(27,969)
	合計		18,547	(75,581)

合計	21,190	21,715

30. 金融商品資産減損損失

当期及び前期における金融商品資産の減損損失及び減損損失戻入の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）期	第182（前）期
金融商品 減損損失	貸付債権及びその他金融資産	419,933	645,168
	売却可能金融資産	220,286	203,584
合計		640,219	848,752

31. 一般管理費

当期及び前期における一般管理費の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）期	第182（前）期
従業員給与	長・短期従業員給与	1,452,558	1,363,484
	確定給付型退職給付費用	101,422	13,856
	解雇給与	106,226	56,184
	小計	1,660,206	1,433,524
減価償却費及び その他償却費	減価償却費	123,603	125,841
	無形資産償却費	67,284	63,525
	小計	190,887	189,366
その他 一般管理費	福利厚生費	110,473	101,813
	賃借料	231,920	226,874
	役務費	217,403	235,319
	租税公課	71,805	74,860
	広告宣伝費	55,958	49,379
	電算運用費	61,167	61,088
	その他管理費	149,672	153,403
	小計	898,398	902,736
合計		2,749,491	2,525,626

3 2. 株式基準報酬

(1) 当期末現在におけるストック・オプションは以下の通りです。

区分	4次発行分	5次発行分	7次発行分
① 権利付与日	2005.3.30	2006.03.21	2008.03.19
② 行使価格	28,006ウォン	38,829ウォン	49,053ウォン
③ 付与数量	1,871,400株	2,143,800株	314,700株
④ 行使可能期間（注1）	権利付与日から 3年以降4年間	権利付与日から 3年以降4年間	権利付与日から 3年以降4年間
⑤ 数量増減内訳			
期首	93,426	101,963	247,873
行使された数	-	-	(35,294)
当半期末	93,426	101,963	212,579
当半期末行使可能	93,426	101,963	212,579
⑥ 負債評価方法	公正価値	公正価値	公正価値
評価モデル	ブラックショールズモデル	ブラックショールズモデル	ブラックショールズモデル
株価	44,450	44,450	44,450
期待株価変動性	-	-	16.90%
満期（年）	-	-	0.11
期待配当率	-	-	1.58%
無リスク利率	-	-	2.05%
⑦ 公正価値	16,444ウォン	5,621ウォン	39ウォン

(注1) 当期末現在、4次及び5次付与分の一部数量は行使が保留されています。

(注2) 当期末現在においてストックオプションは全て稼得されており、残余数量407,968株の加重平均行使価格は41,678ウォンです。

(1) 株式決済型株式基準報酬約定

① 当期末現在における成果連動型株式基準報酬の内容は以下の通りです。

区分	内容
類型	株式決済型
付与期間（約定役務期間）	2013年までの付与分：2010年4月1日以降の選任及び昇進時 （付与日から3年間） 2014年からの付与分：2014年1月1日以降の選任及び昇進時 （付与日から1年間）
成果条件	2013年まで相対株価連動（33.4%）及び4年間の経営指標連動（66.6%） 2014年から相対株価連動（20.0%）及び4年間の経営指標連動（80.0%）

② 付与数量及び付与時点の公正価値は以下の通りです。

付与日	付与数量	公正価値（注1）	見積数量（注2）
2010-04-01	306,400	45,150	15,747
2010-07-21	3,800	46,800	39
2010-08-30	12,400	46,500	1,023
2010-11-04	3,800	44,000	268
2010-12-30	42,800	52,900	4,712
2011-01-11	65,200	51,500	42,674
2011-01-28	49,500	50,700	43,096
2011-02-10	3,300	49,700	2,053
2011-04-18	15,400	46,800	11,946
2012-01-26	49,200	44,300	30,972
2012-02-08	30,900	46,650	19,474
2012-03-27	4,100	44,550	2,362
2012-08-24	10,800	36,150	4,830
2012-10-15	4,100	37,200	2,714
2013-01-01	183,100	40,050	101,261
2013-03-21	4,400	37,750	1,149
2013-05-27	14,500	40,250	7,736
2013-08-01	4,400	41,250	2,080

2014-01-01	109,800	47,300	101,016
2014-02-08	5,400	44,300	4,449
2014-04-01	4,800	47,000	3,324
2014-10-15	2,400	47,150	470
合計	930,500		403,395

- (注1) 付与時点の新韓金融持株会社の株式終値を単位当り公正価値として算定しました。
- (注2) 当初付与時点の付与数量に、約定役務期間中の在任日数に該当する基準数量に基づき相対株価上昇率による付与数量を調整し（2013年まで33.4%、2014年から20.0%）、経営成績達成率による付与数量を調整し（2013年まで66.6%、2014年から80.0%）、運営期間終了後に獲得数量を確定します。
- (注3) 支払約定により当行が新韓金融持株会社に支払うべき金額を資本から直接減算して負債として認識しました。当期末現在、新韓金融持株会社が評価した公正価値は44,450ウォンです。

- (3) 当期及び前期に発生した報酬費用の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
当期に認識した総報酬費用	6,127	7,964

- (4) 当期末及び前期末現在、株式基準報酬に関連する未払費用及び残余報酬費用の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
当期以降に認識する残余報酬費用	5,417	7,704
未払費用	20,494	21,427

3 3. その他営業損益

当期及び前期におけるその他営業損益の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）期	第182（前）期
その他営業収益			
資産処分 関連	貸付債権処分益	16,932	8,348
	償却債権処分益	9,572	71,836
	小計	26,504	80,184
その他 営業収益	リスクヘッジ対象関連利益	77,801	285,995
	リスクヘッジ手段関連利益	233,780	28,565
	支払保証引当金戻入額	5,257	-
	その他負債性引当金戻入額	35,792	-
	その他	12,233	12,942
	小計	364,863	327,502
その他営業収益合計		391,367	407,686
その他営業費用			
資産処分 関連	貸付債権処分損	148	26,689
その他 営業費用	リスクヘッジ対象関連損失	236,023	28,451
	リスクヘッジ手段関連損失	68,841	291,815
	支払保証引当金繰入額	15,452	26,722
	その他負債性引当金繰入額	15,009	39,281
	基金出捐金	244,911	244,518
	預金保険料	231,058	230,200
	その他	85,965	92,431
	小計	897,259	953,418
その他営業費用合計		897,407	980,107
その他営業損益		(506,040)	(572,421)

3 4. 営業外損益

当期及び前期におけるその他営業外損益の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）期	第182（前）期
営業外収益			
資産処分関連	有形資産処分益	470	1,014
	無形資産処分益	460	179
	投資不動産処分益	-	248
	小計	930	1,441
関係企業に対する 投資資産関連	受取配当	36,235	1,845
	処分益	-	57
	小計	36,235	1,902
その他 営業外収益	投資不動産賃貸収益	25,149	21,449
	その他	53,552	41,761
	小計	78,701	63,210
営業外収益合計		115,866	66,553
営業外費用			
資産処分関連	有形資産処分損	80	31
	無形資産処分損	68	50
	小計	148	81
関係企業に対する 投資資産関連	減損損失	-	11
その他 営業外費用	投資不動産減価償却費	7,992	6,408
	寄付金	12,533	35,627
	無形資産減損損失	547	1,649
	その他	28,563	33,489
	小計	49,635	77,173
営業外費用合計		49,783	77,265
営業外損益		66,083	(10,712)

35. 営業収益

当期及び前期中の営業収益の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
受取利息	8,021,281	8,595,492
受取手数料	949,641	924,450
受取配当	98,726	74,685
売買目的金融商品関連利益	2,601,275	3,109,691
当期損益認識指定金融商品関連利益	34	-
外国為替取引利益	791,417	1,223,843
売却可能金融資産処分益	441,587	546,510
その他営業収益	391,367	407,686
合計	13,295,328	14,882,357

3 6. 法人税費用及び繰延税金

(1) 法人税費用の構成内訳

当期及び前期における法人税費用の算出内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
当期法人税負担額	378,771	365,740
一時差異による繰延税金変動額	(36,606)	(107,351)
資本に直接反映された繰延税金	24,685	99,529
法人税費用	366,850	357,918

(2) 法人税費用の差異内訳

当期及び前期における税引前純利益と法人税費用間の関係は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
税引前純利益	1,800,160	1,699,349
適用税率	24.20%	24.20%
適用税率による法人税	435,176	410,780
非課税収益	(28,480)	(35,153)
非控除費用	3,776	8,929
連結納税	(33,880)	(30,333)
その他	(9,742)	3,695
法人税費用	366,850	357,918
実効税率	20.38%	21.06%

(3) 一時差異及び繰延税金

当期及び前期における一時差異及び繰延税金資産（負債）の増減内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

区分	期首残高	減少	増加	期末残高	繰延税金資産 （負債）
未収収益	(397,307)	(396,358)	(300,706)	(301,655)	(73,000)
未収金	(8,133)	(8,133)	(58,567)	(58,567)	(14,173)
売買目的金融資産	(70,265)	(121,086)	(136,065)	(85,244)	(20,629)
売却可能金融資産	1,744,683	934,144	340,644	1,151,183	278,586
関係企業等に対する投資資産	(22,370)	(83,006)	-	60,636	14,674
繰延貸付付帯収益（費用）	(44,110)	(85,295)	(304,481)	(263,296)	(63,718)
有形資産評価及び償却等	(446,441)	6,473	3,100	(449,814)	(108,855)
デリバティブ資産（負債）	(1,506)	54,657	(23,805)	(79,968)	(19,352)
預金	106,159	119,482	134,019	120,696	29,208
未払費用	143,587	144,613	280,179	279,153	67,555
確定給付債務	602,286	27,316	293,053	868,023	210,062
社外積立資産	(602,286)	(27,315)	(178,677)	(753,648)	(182,383)
その他引当負債	260,304	260,369	177,991	177,926	43,058
支払保証引当負債	117,340	117,340	132,810	132,810	32,140
圧縮記帳引当負債	(180,945)	-	(86)	(181,031)	(46,363)
一時償却引当負債	(2,850)	(232)	-	(2,618)	(634)
みなし配当	5,513	-	-	5,513	1,334
売却可能金融資産評価損益	(742,210)	(742,210)	(809,451)	(809,451)	(195,887)
未払寄付金	50,306	50,306	49,300	49,300	11,931
貸倒引当金及び貸倒金	160,374	2,646	25,873	183,601	44,432
株式報酬費用関連調整額	3,299	3,221	2,118	2,196	531
みなし配当	3,966	57	-	3,909	946
その他	(666,050)	(702,913)	97,164	134,027	31,517
小計	13,344	(445,924)	(275,587)	183,681	40,980
<繰延税金資産及び負債として認識しなかった一時差異>					
関係企業等に対する投資資産	(26,953)	(4,734)	-	(22,219)	(5,377)
合計	40,297	(441,190)	(275,587)	205,900	46,357

＜第182（前）期＞

（単位：百万ウォン）

区分	期首残高	減少	増加	期末残高	繰延税金資産 （負債）
未収収益	(422,252)	(426,211)	(401,266)	(397,307)	(96,148)
未収金	(53,882)	(80,536)	(34,787)	(8,133)	(1,968)
売買目的金融資産	(17,914)	(7,384)	(59,735)	(70,265)	(17,004)
売却可能金融資産	1,241,095	505,162	1,008,750	1,744,683	422,213
関係企業等に対する投資資産	(22,392)	-	22	(22,370)	(5,414)
繰延貸付付帯収益（費用）	(30,821)	(44,110)	(57,399)	(44,110)	(10,675)
有形資産評価及び償却等	(438,627)	11,747	3,933	(446,441)	(108,039)
デリバティブ資産（負債）	(102,731)	(160,682)	(59,457)	(1,506)	(364)
預金	132,232	167,214	141,141	106,159	25,690
未払費用	80,966	81,690	144,311	143,587	34,748
確定給付債務	711,246	21,873	(87,087)	602,286	145,753
社外積立資産	(472,230)	(21,873)	(151,929)	(602,286)	(145,753)
その他引当負債	246,866	246,866	260,304	260,304	62,994
支払保証引当負債	112,824	112,824	117,340	117,340	28,396
圧縮記帳引当負債	(181,096)	(151)	-	(180,945)	(43,789)
一時償却引当負債	(3,082)	(232)	-	(2,850)	(690)
みなし配当	5,513	-	-	5,513	1,334
売却可能金融資産評価損益	(1,141,894)	(1,141,894)	(742,210)	(742,210)	(179,615)
未払寄付金	54,925	54,925	50,306	50,306	12,174
貸倒引当金及び貸倒金	175,347	72	(14,901)	160,374	38,811
株式報酬費用関連調整額	2,740	2,662	3,221	3,299	798
みなし配当	3,953	9	22	3,966	960
その他	(310,847)	438,803	83,600	(666,050)	(161,184)
小計	(430,061)	(239,226)	204,179	13,344	3,228
＜繰延税金資産及び負債として認識しなかった一時差異＞					
関係企業等に対する投資資産	(26,953)	-	-	(26,953)	(6,523)
合計	(403,108)	(239,226)	204,179	40,297	9,751

(4) 資本に直接加減する項目に関連する法人税

当期及び前期中に資本に直接付加されるか、或いは減算された法人税の内訳は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

区分	期末		期首		税効果の増減
	税前金額	税効果	税前金額	税効果	
売却可能金融資産評価損益	809,451	(195,887)	742,210	(179,615)	(16,272)
海外事業損益	(57,210)	13,844	(61,939)	14,989	(1,145)
確定給付型制度の再測定要素	(324,196)	78,456	(150,176)	36,343	42,113
その他資本調整	77	(19)	33	(8)	(11)
合計	428,122	(103,606)	530,128	(128,291)	24,685

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

区分	期末		期首		税効果の増減
	税前金額	税効果	税前金額	税効果	
売却可能金融資産評価損益	742,210	(179,615)	1,141,894	(276,338)	96,723
海外事業損益	(61,939)	14,989	(35,555)	8,604	6,385
確定給付型制度の再測定要素	(150,176)	36,343	(167,587)	40,556	(4,213)
その他資本調整	33	(8)	2,653	(642)	634
合計	530,128	(128,291)	941,405	(227,820)	99,529

(5) 当期法人税資産及び負債

当期末及び前期末現在における当期法人税資産及び負債の内訳は以下の通りです。

（単位：百万ウォン）

区分		第183（当）期	第182（前）期
当期法人税資産	前払法人税	9	1,779
当期法人税負債	法人税未払金 (連結納税負担額)	168,652	134,344
	未払法人税	-	5,264
	合計	168,652	139,608

(6) 総額基準法人税内訳

当期末及び前期末現在、相殺前総額基準による繰延税金資産及び繰延税金負債、当期法人税資産及び当期法人税負債の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
繰延税金資産	1,150,223	1,136,722
繰延税金負債	1,103,866	1,126,971
当期法人税資産	260,047	251,678
当期法人税負債	428,690	389,507

37. 1株当たり純利益

当期及び前期における1株当たり純利益の計算内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
支配企業純利益	1,433,310	1,341,431
新種資本証券配当	(96,293)	(133,290)
普通株に帰属される利益	1,337,017	1,208,141
加重平均流通普通株式数（株）	1,585,615,506	1,585,615,506
基本的及び希薄化後1株当たり純利益（ウォン）	843	762

当行は希薄化後潜在的普通株を保有しておらず、ストックオプションは希薄化効果がないため、当期及び前期の希薄化後1株当たり純利益は基本的1株当たり純利益と一致します。

38. 偶発及び約定事項

(1) 当期末及び前期末現在、支払保証及び約定の種類別の金額は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）期	第182（前）期
支払保証	確定支払保証	11,390,274	10,708,396
	未確定支払保証	4,186,967	4,960,858
	合計	15,577,241	15,669,254
約定	ウォン貸付約定	52,013,175	52,677,413
	外貨貸付約定	17,954,207	18,167,457
	ABS及びABCP買入約定	2,652,032	2,370,881
	その他	1,208,643	1,167,721
	合計	73,828,057	74,383,472
裏書手形	担保裏書手形	51,043	54,460
	無担保裏書手形	10,914,587	11,327,272
	合計	10,965,630	11,381,732
買戻権付貸付債権売却	ウォン貸	1,387	1,387

(2) 支払保証引当負債

当期末及び前期末現在、支払保証引当負債の設定対象及び支払保証引当負債の設定比率は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
確定支払保証	11,390,274	10,708,396
未確定支払保証	4,186,967	4,960,858
ABS及びABCP買入約定	2,652,032	2,370,881
裏書手形	51,043	54,460
設定対象支払保証総額	18,280,316	18,094,595
支払保証引当負債	132,810	111,475
引当負債設定比率（％）	0.73	0.62

(3) 係争中の訴訟事件

当期末現在、当行に関連して係争中の被訴事件は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

事件名	件数	訴価	事件内容	訴訟現況
物品代金	1	43,761	偽造の支払保証書に基づいて物品を納品し、物品代金を受け取れなくなり、当該支払保証書に基づいて未回収の物品代金に対して当行に支払保証責任履行を請求した。	1審の一部の敗訴金額に対して全額支払っており、2審が進行中である。
損害賠償	1	47,200	原告は当行がシンホ製紙株式の買収時、このような売却が企業構造調整組合員の意思に反して不法な株式売却を行うことを事前に把握していたにもかかわらず、これを引き受けて他の株主の経営権行使に影響を与え損害が発生したため、これに対して賠償を請求した。	1 審及び2審の一部の敗訴金額に対して全額支払っており、3審が進行中である。
根抵当権 設定費返還	1	218	原告は当行から担保貸付を受けることにより根抵当権設定費用を負担した顧客で、設定費負担に関する約定は不公正な約款に該当して無効であるため、これを返還しなければならないという不当利得金返還の訴を提起した。	1審進行中である。
契約無効確認及び 不当利得返還等	6	43,406	通貨オプション先物為替の無効、取消等を主張	2審及び3審が進行中であり、損失予想金額を引当負債として認識する。
その他	116	154,444	損害賠償等多数	
合計	125	289,029		

当行は当期末現在、1審で敗訴が決定された訴訟案件等に関して22,230百万ウォンを訴訟引当負債として計上しており、引当負債として計上された訴訟以外の残余訴訟結果は財務諸表に重大な影響を及ぼさないと予測されているものの、今後の訴訟結果により追加的な損失が発生する可能性もあります。

(4) 三星自動車に関連する約定金等の請求訴訟に対する債権団の勝訴による偶発資産

当行を含めた三星自動車(株)の債権団は1999年9月、三星自動車(株)の処理に関連して三星の系列会社と合意書を作成しました。同合意書によると、三星自動車(株)の会社整理申請に関連して三星自動車(株)の債権金融機関に抛出された三星生命保険(株)の株式350万株を2000年12月31日までに処分し、同処分価額が2兆4,500億ウォンに達しない場合、三星グループの系列会社が債権金融機関に資本出資或いは後順位債権買入方法等によりその不足額を負担するものの、履行しない場合は銀行の延滞利率による遅延利息相当額を支払うことになっています。

上記の合意書に関連して2005年12月9日付で銀行と三星自動車(株)の債権団は(株)健熙会長及び三星グループの系列会社を相手取り約定金等の請求訴訟を提起し、2015年1月29日、最高裁判所から勝訴判決を受けました。

(5) 元本または利益補填信託

当期末及び前期末現在、元金補填及び元利金補填約定がある信託の帳簿価額は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分		第183（当）期	第182（前）期
元金補填約定	時価評価型	2,145,636	1,946,848
	帳簿価額評価型	1,638,494	1,626,688
	小計	3,784,130	3,573,536
元利金補填約定	帳簿価額評価型	1,665	1,696
合計		3,785,795	3,575,232
金銭信託元本		3,468,946	3,298,266
未払信託利益		316,849	276,966

当期以降、約定信託の運用結果により損失が追加で発生する可能性があります。当期末及び前期末現在、約定信託の運用結果により追加で負担すべき金額はありません。

(6) オペレーティングリースの満期構造

当期末及び前期末現在、解約不可能リース契約により支払わなければならない将来最低リース料約定金額は以下の通りです。

<第183（当）期>

（単位：百万ウォン）

区分	1年以内	1年超過5年以内	5年超過	合計
最低リース料	101,128	132,953	2,632	236,713

<第182（前）期>

（単位：百万ウォン）

区分	1年以内	1年超過5年以内	5年超過	合計
最低リース料	80,009	96,515	5,706	182,230

39. キャッシュ・フロー計算書に対する注記

(1) 当期末及び前期末現在、キャッシュ・フロー計算書上の現金及び現金性資産の内訳は以下の通りです。

（単位：百万ウォン）

区分	第183（当）期	第182（前）期
現金	2,417,685	2,532,041
支払準備預け金	5,668,726	3,161,035
その他預け金	4,440,843	3,513,465
財務状態表上の現金預け金	12,527,254	9,206,541
使用制限預け金	(8,825,782)	(5,361,187)
取得当時に満期日が 3ヶ月を超過した預け金	(200,000)	-
合計	3,501,472	3,845,354

(2) 当期及び前期中に、現金の流入及び流出を伴わない取引の主な内容は以下の通りです。

（単位：百万ウォン）

区分	第183（当）期	第182（前）期
新種資本証券未払配当金	14,937	18,545
貸付債権出資転換	57,335	158,754
無形資産取得未払金	9,450	36,260

40. 特殊関係者取引

(1) 特殊関係者債権・債務

当期末及び前期末現在、特殊関係者間の重要な債権・債務の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

特殊関係者	勘定科目	第183（当）期	第182（前）期
1) 連結対象従属企業			
新韓アジュ金融有限公司	現金預け金	172	170
	貸付債権	95,630	70,705
	貸倒引当金	(41)	(30)
	その他資産	33	36
ヨーロッパ新韓銀行	現金預け金	1,703	11,520
	貸付債権	109,920	147,742
	貸倒引当金	(337)	(454)
	その他資産	67	119
	預金	23	165
	デリバティブ負債	-	228
	借入負債	63,772	145,870
新韓クメール銀行	現金預け金	86	85
	貸付債権	10,992	10,553
	貸倒引当金	(16)	(15)
	その他資産	16	18
新韓カザフスタン銀行	現金預け金	116	193
	貸付債権	5,427	7,387
	貸倒引当金	(8)	(11)
	その他資産	9	8
	預金	6	6
カナダ新韓銀行	現金預け金	69	465
	貸付債権	21,984	-
	貸倒引当金	(67)	-
	その他資産	38	-
	預金	109	181
	借入負債	36,266	42,397

新韓銀行中国有限公司	現金預け金	208	2,199
	貸付債権	214,154	121,056
	貸倒引当金	(584)	(373)
	その他資産	118	55
	預金	2,602	392
	デリバティブ負債	-	9
	借入負債	4,889	19,625
	引当負債	760	267
SBJ銀行	現金預け金	-	21
	貸付債権	154,123	94,315
	貸倒引当金	(122)	(75)
	その他資産	137	34
	預金	556,104	1,000,931
	借入負債	414,198	503,739
	引当負債	15	16
	その他負債	10,801	52,729
新韓バンク・ベトナム	現金預け金	48	-
	デリバティブ資産	-	128
	貸付債権	61,604	69,001
	貸倒引当金	(54)	(100)
	その他資産	94	90
	預金	13	4
	引当負債	247	1
信託	その他資産	1,747	2,100
	その他負債	288,450	306,413
構造化企業	売買目的金融資産	415,108	979,648
	デリバティブ資産	2,433	173
	貸付債権	285,422	155,749
	貸倒引当金	(63)	(14,809)
	その他資産	21,732	24,108
	預金	5,208	198,713
	引当負債	22,208	17,635
	その他負債	14	-

受益証券	その他資産	2	2
2) 当行の支配企業			
新韓金融持株会社	預金	120,813	385
	当期法人税負債	168,652	134,344
	その他負債	34,213	34,997
3) 同一支配企業			
新韓カード	デリバティブ資産	12,269	2,820
	その他資産	1,793	1,575
	預金	97,333	21,081
	デリバティブ負債	60	1,849
	引当負債	19	19
	その他負債	19,027	32,500
新韓金融投資	現金預け金	-	8
	デリバティブ資産	5,898	2,001
	貸付債権	9,655	9,801
	貸倒引当金	(61)	(71)
	その他資産	17,760	18,771
	預金	193,038	56,429
	デリバティブ負債	4,411	3,540
	引当負債	54	39
	その他負債	29,448	34,543
新韓生命	デリバティブ資産	12,657	25
	その他資産	8	5
	預金	6,862	33,310
	デリバティブ負債	1,601	7,326
	引当負債	2	2
	その他負債	38,748	41,652
新韓キャピタル	その他資産	1	-
	預金	15,071	18,166
	引当負債	4	4
	その他負債	1,319	1,403

済州銀行	貸付債権	4,964	9,797
	貸倒引当金	(3)	(2)
	その他資産	27	56
	預金	1,567	1,368
	その他負債	1,140	1,140
新韓信用情報	預金	10,511	11,119
	その他負債	1,452	1,455
新韓プライベートエクイティ	貸付債権	3,500	1,701
	貸倒引当金	(19)	(36)
	その他資産	-	3
	預金	168	36
	引当負債	5	9
	その他負債	-	1
新韓BNPパリバ資産運用	預金	119,522	109,561
	その他負債	2,034	1,265
SHCマネージメント	預金	100	100
	その他負債	3	3
新韓データシステム	預金	2,481	843
	その他負債	4,458	4,114
新韓貯蓄銀行	その他負債	-	90
新韓アイタス	その他資産	6	-
	預金	10,255	10,171
	その他負債	100	183
KREDIT私募不動産 投資信託1号	預金	-	1,701
	その他負債	-	25
4) 関係企業及び同一支配企業の関係企業			
アジュキャピタル	売買目的金融資産	50,000	60,000
	貸付債権	200,000	50,000
	貸倒引当金	(614)	(275)
	預金	1,184	470
	引当負債	78	280
連合資産管理	預金	28,801	1,719
	引当負債	50	50

カーディフ生命	預金	194	262
	引当負債	1	1
浦項テクノパーク2PFV	預金	14,666	14,689
極東建設	預金	6,986	-
BNPパリバカーディフ損害保険	預金	7	-
ゴンビョンオフィス	預金	32,002	-
未来アセット ジョウン企業投資組合3号	預金	1,777	158
KDB大宇ルビー 私募投資専門会社	預金	2,025	-
ドリームハイ投資組合3号	預金	301	-
メディチ2号投資組合	預金	-	62
KDB大宇証券プラチナム 私募投資専門会社	預金	-	652
ファミリー食品	引当負債	-	5
5) 主な経営陣			
貸付債権		2,718	799
貸倒引当金		(1)	(1)

(2) 特殊関係者収益・費用

当期及び前期における特殊関係者間の重要な取引内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

特殊関係者	勘定科目	第183（当）期	第182（前）期
1) 連結対象従属企業			
新韓アジュ金融有限公司	受取利息	654	623
	貸倒償却費	(11)	(9)
ヨーロッパ新韓銀行	受取利息	1,017	1,817
	デリバティブ関連利益	270	2
	貸倒償却費	117	(391)
	デリバティブ関連損失	(389)	(1,691)
新韓クメール銀行	受取利息	150	18
	貸倒償却費	(1)	(15)
新韓カザフスタン銀行	受取利息	19	28
	貸倒償却費	3	(11)

カナダ新韓銀行	受取利息	121	53
	支払利息	(1)	-
	貸倒償却費	(67)	-
新韓銀行中国有限公司	受取利息	1,447	442
	デリバティブ関連利益	9	4
	支払利息	(3)	(8)
	貸倒償却費	(211)	(360)
	その他営業費用	(493)	-
SBJ銀行	受取利息	1,210	309
	デリバティブ関連利益	73	721
	その他営業収益	1	-
	支払利息	(18,438)	(28,421)
	貸倒償却費	(47)	(39)
	その他営業費用	-	(16)
新韓バンク・ベトナム	受取利息	501	519
	デリバティブ関連利益	-	570
	その他営業収益	1	-
	貸倒償却費	46	(36)
	デリバティブ関連損失	(93)	(84)
	その他営業費用	(246)	-
信託	受取手数料	17,498	18,106
	支払利息	(5,558)	(7,735)
構造化企業	受取利息	18,370	14,653
	受取手数料	15,420	7,455
	デリバティブ関連利益	3,071	313
	その他営業収益	5,659	162
	支払利息	(68)	(194)
	貸倒償却費	(5,809)	(247)
	デリバティブ関連損失	(10)	(1,968)
	その他営業費用	(173)	(1,876)
受益証券	受取手数料	19	3
2) 当行の支配企業			

新韓金融持株会社	その他営業収益	1,941	1,967
	支払利息	(1,201)	(2,892)
	支払手数料	(46,050)	(76,000)
3) 同一支配企業			
新韓カード	受取利息	214	533
	受取手数料	174,433	168,824
	デリバティブ関連利益	15,430	3,262
	その他営業収益	1,217	1,087
	支払利息	(703)	(814)
	支払手数料	(431)	(513)
	デリバティブ関連損失	(892)	(3,630)
	その他営業費用	(41)	(40)
新韓金融投資	受取利息	1,082	1,018
	受取手数料	3,413	3,164
	デリバティブ関連利益	10,808	4,714
	その他営業収益	2,654	2,538
	支払利息	(1,531)	(2,925)
	貸倒償却費	10	13
	デリバティブ関連損失	(8,764)	(5,177)
	その他営業費用	(649)	(576)
新韓生命	受取利息	56	58
	受取手数料	15,769	13,151
	デリバティブ関連利益	15,725	388
	その他営業収益	1,761	2,180
	支払利息	(1,107)	(1,192)
	支払手数料	(50)	(60)
	デリバティブ関連損失	(2,905)	(7,684)
	その他営業費用	(707)	(681)
新韓キャピタル	受取利息	1	2
	その他営業収益	641	850
	支払利息	(368)	(346)

済州銀行	受取利息	84	125
	その他営業収益	218	42
	支払利息	(30)	(30)
	貸倒償却費	(1)	-
	その他営業費用	(2)	-
新韓信用情報	受取手数料	2	2
	その他営業収益	200	142
	支払利息	(298)	(331)
	支払手数料	(5,315)	(5,399)
	デリバティブ関連損失	(6)	-
新韓 プライベートエクイティ	受取利息	45	43
	その他営業収益	4	1
	支払利息	-	(21)
	貸倒償却費	17	12,386
新韓BNPパリバ資産運用	受取利息	3	-
	受取手数料	43	30
	その他営業収益	27	19
	支払利息	(2,723)	(2,871)
	支払手数料	(1,991)	(1,881)
新韓データシステム	その他営業収益	288	303
	支払利息	(141)	(36)
	その他営業費用	(30,035)	(33,946)
SHCマネージメント	支払利息	(3)	(3)
新韓貯蓄銀行	その他営業収益	76	209
	支払利息	(1)	(277)
新韓アイタス	受取手数料	25	26
	その他営業収益	28	11
	支払利息	(287)	(324)
	支払手数料	-	(40)
4) 関係企業及び同一支配企業の関係企業			

アジュキャピタル	受取利息	5,638	2,185
	受取手数料	260	546
	その他営業収益	202	-
	支払利息	(1)	(24)
	貸倒償却費	(339)	(21)
連合資産管理	受取利息	40	115
	受取手数料	7	5
	支払利息	(1)	(1)
カーディフ生命	受取手数料	30	16
浦項テクノパーク2PFV	支払利息	(15)	(15)
インヒ	受取手数料	-	1
極東建設	受取手数料	15	-
	支払利息	(40)	-
	支払手数料	(4)	-
BNPパリバカーディフ損害保険	受取手数料	1	-
ゴンビョンオフィス	支払利息	(1,274)	-
未来アセットジョウン 企業投資組合3号	支払利息	(1)	(2)
ドリームハイ 投資組合3号	支払利息	(6)	-
ファミリー食品	その他営業収益	5	-
5) 主な経営陣			
受取利息		96	40

(3) 特殊関係者に対する給与

当期及び前期における特殊関係者に対する給与の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

勘定科目	第183（当）期	第182（前）期
長・短期従業員給与	8,413	9,034
退職給付	236	191
株式基準報酬	3,374	2,270
合計	12,023	11,495

(4) 特殊関係者の支払保証及び未使用限度の内訳

当期及び前期末における特殊関係者間の主な支払保証の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

提供者	提供を受けている者	保証金額		保証内訳
		第183（当）期	第182（前）期	
新韓銀行	新韓金融投資	9,893	9,498	履行保証（支払保証書方式）
		181,000	181,000	未使用貸付限度
	新韓カード	500,000	500,000	未使用貸付限度
	新韓生命	50,000	50,000	未使用貸付限度
	新韓キャピタル	-	4,982	外貨輸入物品先取保証
		-	295	輸入信用状発行
		60,000	60,000	未使用貸付限度
	新韓BNPパリバ資産運用	192,849	-	証券引受約定
	新韓プライベートエクイティ	4,248	8,214	未使用貸付限度
	SHCマネージメント	94	94	履行保証（支払保証書方式）
	KoFC新韓フロンティア チャンプ2010の4号 私募投資専門会社	26,834	26,995	証券引受約定
	カーディフ生命	10,000	10,000	未使用貸付限度
	アジュキャピタル	50,000	100,000	未使用貸付限度
		50,000	40,000	証券引受約定
	連合資産管理	112,200	112,200	未使用貸付限度
		179,900	179,900	証券引受約定
	ファミリー食品	-	3,000	未使用貸付限度
	新韓銀行中国有限公司	247,534	173,820	履行保証（支払保証書方式）
	新韓バンク・ベトナム	258,767	1,688	履行保証（支払保証書方式）
		109,920	-	未使用貸付限度
	SBJ銀行	18,403	20,093	金融保証（支払保証書方式）
	構造化企業（注）	665,724	1,040,247	ABCP買入約定
		6,656	7,353	未使用貸付限度
合計		2,734,022	2,529,379	

（注） 構造化企業に対するABCP買入約定保証金額はABCP買入約定金額の総額から報告期間末現在既に関与しているABCP残高を減算した残高です。

（5） 特殊関係者への担保提供内訳

1) 当期末及び前期末現在、特殊関係者に提供している担保は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

提供者	会社名	担保提供資産	第183（当）期		第182（前）期	
			帳簿価額	担保設定額	帳簿価額	担保設定額
連結対象従属企業	新韓クメール銀行	有価証券	28,136	28,136	27,587	27,587
同一支配企業	新韓金融投資		155,303	34,041	171,345	42,372
	新韓生命		10,385	10,385	-	-
合計			193,824	72,562	198,932	69,959

2) 当期末及び前期末現在、特殊関係者から提供を受けている担保は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

提供者	会社名	担保提供資産	担保設定額	
			第183（当）期	第182（前）期
連結対象従属企業	エイタスドライブ第一次（有）	担保信託	8,400	8,400
同一支配企業	新韓金融投資	預金	22,000	22,000
		不動産	91,974	91,974
	SHCマネージメント	預金	100	100
	新韓キャピタル	預金	11,200	16,032
		国公債	-	1,928
	済州銀行	国公債	20,000	20,000
	新韓生命	国公債	7,446	6,894
関係企業	カーディフ生命	国公債	12,770	2,958
合計			173,890	170,286

4.1. 信託セグメント経営成績

(1) 信託勘定の当期末及び前期末現在における資産合計、当期及び前期のうち、営業収益は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期		第182（前）期	
	資産合計	営業収益	資産合計	営業収益
連結対象	3,882,632	149,686	3,667,084	143,885
連結非対象	27,103,450	502,429	22,674,439	581,492

合計	30,986,082	652,115	26,341,523	725,377

(2) 当期末及び前期末における信託セグメントの主な債権・債務の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
信託勘定未払金	2,306,260	2,605,055
信託報酬未収収益	17,975	17,305
未払利息	526	665

(3) 当期及び前期における信託セグメントの主な収益・費用の内訳は以下の通りです。

(単位：百万ウォン)

区分	第183（当）期	第182（前）期
信託業務運用収益	67,239	60,388
信託勘定未払金支払利息	50,449	57,778

[次へ](#)

재무상태표

제183(당)기 기말 2014년 12월 31일 현재

제182(전)기 기말 2013년 12월 31일 현재

주식회사 신한은행

(단위: 백만원)

과목	주석	제183(당)기 기말	제182(전)기 기말
자 산			
1. 현금및예치금	3,5,8,39,40	12,527,254	9,206,541
2. 단기대금용자산	3,6,40	5,912,990	5,602,158
3. 파생상품자산	3,7,40	1,310,109	1,457,641
4. 대출채권	3,8,40	179,892,271	167,259,759
5. 매도가능용자산	3,9,15	21,937,911	23,590,690
6. 만기보유용자산	3,9,15	7,747,368	7,051,164
7. 유형자산	10,15	2,003,584	2,165,104
8. 무형자산	11	160,712	205,113
9. 관계기업등에대한투자자산	12	1,743,611	1,734,519
10. 투자부동산	13	738,407	596,744
11. 당기법인세자산	36	9	1,779
12. 이연법인세자산	36	46,357	9,751
13. 기타자산	3,8,14,40,41	8,051,227	6,844,776
14. 매각예정자산		4,059	9,942
자 산 총 계		242,075,869	225,735,681
부 채			
1. 당기손익인식자경용부채	3,16	6,139	-
2. 예수부채	3,17,40	176,589,262	163,153,755
3. 단기대금용부채	3,18	428,936	398,596
4. 파생상품부채	3,7,40	1,182,730	1,423,137
5. 차입부채	3,19,40	12,894,846	10,441,286
6. 사채	3,20	16,571,408	17,485,768
7. 확정급여부채	21	244,719	66,350
8. 충당부채	22,38,40	310,736	371,779
9. 당기법인세부채	36,40	168,652	139,608
10. 기타부채	3,23,40,41	13,306,584	11,783,240
부 채 총 계		221,704,012	205,263,519
자 본			
1. 자본금	24	7,928,078	7,928,078
2. 신탁자본증권	24	1,100,250	2,099,350
3. 자본잉여금	24	398,080	398,080
4. 자본조정	24,36	(843)	25
5. 기타포괄손익누계액	24,36	324,458	401,812
6. 이익잉여금 (대손준비를 적립액) (대손준비를 전입 필요액)	24,25	10,621,834 (1,695,516) (42,733)	9,644,817 (1,693,225) (2,291)

과목	주요	제183(당)기 기말		제182(전)기 기말	
(대손준비금 전입 예정액)		(42,733)		(2,291)	
자 본 총 계			20,371,857		20,472,162
부채와자본총계			242,075,889		225,735,681

"첨가된 주석은 본 재무제표의 일부입니다."

포괄손익계산서

제183(당)기 2014년 1월 1일부터 2014년 12월 31일까지

제182(전)기 2013년 1월 1일부터 2013년 12월 31일까지

주식회사 신한은행

(단위: 백만원)

과목	주석	제183(당)기	제182(전)기
I. 영업이익		1,734,077	1,710,061
(1) 순이자손익	3,26,40	4,096,668	4,059,865
1. 이자수익	35	8,021,281	8,595,492
2. 이자비용		3,924,613	4,535,627
(2) 순수수료손익	3,27,40	793,695	736,916
1. 수수료수익	35	949,641	924,450
2. 수수료비용		155,946	187,534
(3) 배당수익	28,35	98,725	74,685
(4) 단기매매금융상품관련손익	28,35,40	21,190	21,715
(5) 외환거래손익	35	185,945	276,001
(6) 당기손익인식지정금융상품관련손익	16	34	-
(7) 매도가능금융자산처분손익	9,35	433,569	487,678
(8) 금융상품자산손상차손	3,8,30,40	640,219	848,752
1. 대손상각비		419,933	645,168
2. 기타금융상품손상차손		220,286	203,584
(9) 일반관리비	31,40	2,748,491	2,525,626
(10) 기타영업손익	33,35,40	(506,040)	(572,421)
II. 영업외손익	34	66,083	(10,712)
III. 법인세비용차감전순이익		1,800,160	1,699,349
IV. 법인세비용	36	366,850	357,918
V. 당기순이익 (대손준비금 반영후 조정이익 당기: 1,390,577백만원, 전기: 1,339,140백만원)	25	1,433,310	1,341,431
VI. 기타포괄손익	3,24,36	(77,354)	(309,762)
(1) 후속적으로 당기손익으로 재분류되는 항목		54,553	(322,959)
1. 해외사업환산손익		3,584	(19,999)
2. 매도가능금융자산평가손익		50,969	(302,960)
(2) 후속적으로 당기손익으로 재분류되지 않는 항목		(131,907)	13,197
1. 확정급여제도의 재측정요소		(131,907)	13,197
VII. 총포괄이익		1,355,956	1,031,669
VIII. 주당이익	37		
1. 기본주당순이익		843원	762원
2. 희석주당순이익		843원	762원

"첨부분 주석은 본 재무제표의 일부입니다."

자 본 변 동 표

제183(당)기 2014년 1월 1일부터 2014년 12월 31일까지

제182(전)기 2013년 1월 1일부터 2013년 12월 31일까지

주식회사 신한은행

(단위: 백만원)

과 목	자본금	신종 자본증권	자본잉여금	자본조정	기타포괄 손익누계액	이익잉여금	합 계
I. 2013년 1월 1일 (전기초)	7,928,078	2,329,760	398,080	2,011	711,574	8,886,676	20,255,179
총포괄손익:	-	-	-	-	(309,762)	1,341,431	1,031,669
(1) 당기순이익	-	-	-	-	-	1,341,431	1,341,431
(2) 기타포괄손익	-	-	-	-	(309,762)	-	(309,762)
1. 해외사업환산손익	-	-	-	-	(19,999)	-	(19,999)
2. 매도가능금융자산평가손익	-	-	-	-	(302,960)	-	(302,960)
3. 확정급여제도의 재측정요소	-	-	-	-	13,197	-	13,197
소유주와의 거래 등:	-	(230,410)	-	(1,986)	-	(583,290)	(815,686)
(1) 연차배당	-	-	-	-	-	(450,000)	(450,000)
(2) 신종자본증권 배당	-	-	-	-	-	(133,290)	(133,290)
(3) 신종자본증권 발행	-	299,568	-	-	-	-	299,568
(4) 신종자본증권 상환	-	(529,978)	-	-	-	-	(529,978)
(5) 주식보상비용	-	-	-	(1,986)	-	-	(1,986)
II. 2013년 12월 31일 (전기말)	7,928,078	2,099,350	398,080	25	401,812	9,644,817	20,472,162
III. 2014년 1월 1일 (당기초)	7,928,078	2,099,350	398,080	25	401,812	9,644,817	20,472,162
총포괄손익:	-	-	-	-	(77,354)	1,433,310	1,355,956
(1) 당기순이익	-	-	-	-	-	1,433,310	1,433,310
(2) 기타포괄손익	-	-	-	-	(77,354)	-	(77,354)
1. 해외사업환산손익	-	-	-	-	3,584	-	3,584
2. 매도가능금융자산평가손익	-	-	-	-	50,969	-	50,969
3. 확정급여제도의 재측정요소	-	-	-	-	(131,907)	-	(131,907)
소유주와의 거래 등:	-	(999,100)	-	(868)	-	(456,293)	(1,456,261)
(1) 연차배당	-	-	-	-	-	(360,000)	(360,000)
(2) 신종자본증권 배당	-	-	-	-	-	(96,293)	(96,293)
(3) 신종자본증권 상환	-	(999,100)	-	(900)	-	-	(1,000,000)
(4) 주식보상비용	-	-	-	32	-	-	32
IV. 2014년 12월 31일 (당기말)	7,928,078	1,100,250	398,080	(843)	324,458	10,621,834	20,371,857

"첨부된 주석은 본 재무제표의 일부입니다."

현금흐름표

제183(당)기 2014년 1월 1일부터 2014년 12월 31일까지

제182(전)기 2013년 1월 1일부터 2013년 12월 31일까지

주식회사 신한은행

(단위: 백만원)

과목	제183(당)기	제182(전)기
I. 영업활동으로 인한 현금흐름	(1,517,992)	(3,224,591)
(1) 법인세비용차감전순이익	1,800,160	1,699,349
(2) 손익조정사항	(4,231,629)	(4,136,395)
1. 이자수익	(8,021,281)	(8,595,492)
2. 이자비용	3,924,613	4,535,627
3. 배당수익	(134,961)	(76,530)
(3) 현금유출입이없는손익항목	546,254	591,690
1. 당기손익지정금융상품관련손익	(34)	-
2. 단기매매금융상품관련손익	90,255	68,737
3. 외환거래손익	(25,552)	(176,644)
4. 매도가능금융자산처분손익	(433,599)	(487,678)
5. 대손상각비	418,933	645,168
6. 기타금융상품손상차손	220,286	203,584
7. 종업원급여	109,426	26,222
8. 감가상각비및기타상각비	190,887	189,366
9. 기타영업손익	(34,654)	115,174
10. 영업외손익	9,276	7,761
(4) 자산·부채의증감	(3,574,256)	(5,016,009)
1. 예치금	(3,655,287)	(1,690,117)
2. 단기매매금융자산	(316,135)	245,281
3. 파생상품자산	1,306,102	1,240,891
4. 대출채권	(13,004,092)	(5,401,317)
5. 기타자산	(1,417,021)	610,117
6. 당기손익지정금융상품부채	6,171	-
7. 예수부채	13,210,820	3,923,499
8. 단기매매금융부채	12,838	73,883
9. 파생상품부채	(1,315,044)	(1,297,296)
10. 확정급여부채	(97,073)	(93,676)
11. 종당부채	(67,684)	(25,432)
12. 기타부채	1,762,149	(2,601,822)
(5) 법인세의납부	(347,966)	(368,806)
(6) 이자의수취	8,145,939	8,685,588
(7) 이자의지급	(3,991,464)	(4,756,538)
(8) 배당금의수취	134,960	76,530
II. 투자활동으로 인한 현금흐름	1,246,605	6,003,577
1. 매도가능금융자산의감소	22,327,438	23,702,992
2. 매도가능금융자산의취득	(20,363,114)	(19,199,999)

과목	제183(당)기	제182(전)기
3. 만기보유금융자산의 감소	2,273,159	2,084,692
4. 만기보유금융자산의 취득	(2,944,797)	(319,229)
5. 유형자산의 처분	16,357	10,861
6. 유형자산의 취득	(119,894)	(192,427)
7. 무형자산의 처분	3,253	1,524
8. 무형자산의 취득	(16,840)	(76,673)
9. 관계기업등에대한투자자산의 처분	-	93
10. 관계기업등에대한투자자산의 취득	-	(9,022)
11. 투자부동산의 처분	-	1,686
12. 매각예정자산의 처분	918	-
13. 기타자산의 감소	433,103	161,164
14. 기타자산의 증가	(372,978)	(162,084)
III. 재무활동으로 인한 현금흐름	(73,485)	(2,221,032)
1. 차입부채의 증가	21,323,183	14,413,734
2. 차입부채의 감소	(18,957,073)	(15,326,729)
3. 사채의 발행	4,786,801	5,178,478
4. 사채의 상환	(5,747,567)	(5,668,894)
5. 배당금의 지급	(459,901)	(562,876)
6. 신종자본증권의발행	-	299,568
7. 신종자본증권의상환	(1,000,000)	(529,978)
8. 기타부채의 증가	10,045	12,942
9. 기타부채의 감소	(28,973)	(17,277)
IV. 외화표시 현금 및 현금성자산에 대한 환율변동효과	990	7,490
V. 현금 및 현금성자산의 증가(감소)	(343,882)	565,444
VI. 기초의 현금 및 현금성자산(주석 39)	3,845,354	3,279,910
VII. 기말의 현금 및 현금성자산(주석 39)	3,501,472	3,845,354

첨가된 주석은 본 재무제표의 일부입니다.

주식

2014년 12월 31일 현재

2013년 12월 31일 현재

주식회사 신한은행

1. 은행의 개요

주식회사 신한은행(이하 "당행"이라 함)은 금융업을 주목적사업으로 하여 1897년 2월 19일 설립된 한성은행과 1906년 8월 8일 설립된 동일은행의 신설합병(1943년 10월 1일, 은행명: 주식회사 조흥은행)으로 설립되었으며 서울특별시 중구 세종대로 9길 20에 본점을 두고 있습니다.

당행은 1999년에 충북은행과 강원은행을 흡수합병하였고, 2006년 4월 1일에는 구 신한은행을 흡수합병하였으며, 은행의 사명을 주식회사 신한은행으로 변경하였습니다. 당기말 현재 당행의 자본금은 7,928,078백만원, 발행주식수는 1,585,615,506주이며, 당행의 주식은 신한금융지주회사가 100% 보유하고 있습니다. 당기말 현재 당행은 국내지점 797개, 국내출장소 103개, 영업장 24개, 해외지점 8개를 운영하고 있습니다.

2. 유의적인 회계정책

당행이 채택하고 있는 유의적인 회계정책은 다음과 같습니다.

(1) 재무제표 작성기준

당행은 주식회사의 외부감사에 관한 법률 제13조 1항 1호에서 규정하고 있는 국제회계기준위원회(국제회계기준)의 국제회계기준을 채택하여 정한 회계처리기준인 한국채택국제회계기준에 따라 재무제표를 작성하였습니다.

당행의 재무제표는 기업회계기준서 제1027호 '별도재무제표'에 따른 별도재무제표로서 지배기업, 관계기업의 투자자 또는 공동기업의 참여자가 투자자산을 피투자자의 보고된 성과와 순자산에 근거하지 않고 직접적인 지분 투자에 근거한 회계처리로 표시한 재무제표입니다.

당기 및 비교 표시된 전기의 재무제표는 아래에 기술되는 회계정책에 따라 작성되었습니다.

(2) 측정기준

재무제표는 아래에서 열거하고 있는 재무상태표의 주요항목을 제외하고는 역사적원가를 기준으로 작성되었습니다.

- 공정가치로 측정되는 파생상품
- 공정가치로 측정되는 당기손익인식금융상품
- 공정가치로 측정되는 매도가능금융상품
- 공정가치로 측정되는 주식기준보상
- 공정가치위험회피회계 위험회피대상항목으로 지정되어 회피대상위험으로 인한 공정가치 변동을 당기손익으로 인식하는 금융자산 및 금융부채
- 확정급여채무의 현재가치에서 사외적립자산의 공정가치를 차감한 확정급여부채

(3) 기능통화와 표시통화

당행은 재무제표에 포함되는 항목들을 영업활동이 이루어지는 주된 경제환경의 통화(기능통화)로 표시하고 있습니다. 당행의 재무제표는 기능통화 및 표시통화인 '원'으로 표시하고 있습니다.

(4) 추정과 판단

한국채택국제회계기준에서는 재무제표를 작성함에 있어서 회계정책의 적용이나, 보고기간말 현재 자산, 부채 및 수익, 비용의 보고금액에 영향을 미치는 사항에 대하여 경영진의 최선의 판단을 기준으로 한 추정치와 가정의 사용을 요구하고 있습니다. 보고기간말 현재 경영진의 최선의 판단을 기준으로 한 추정치와 가정이 실제 환경과 다를 경우 이러한 추정치와 실제 결과는 다를 수 있습니다.

추정치와 추정에 대한 기본 가정은 지속적으로 검토되고 있으며, 회계추정의 변경은 추정이 변경된 기간과 미래 영향을 받을 기간 동안 인식되고 있습니다. 보다 높은 정도의 판단과 복잡성이 필요한 부분 또는 가정과 추정이 재무제표에 유의적인 부분은 주석 4에 공시되어 있습니다.

(5) 회계정책의 변경

아래에서 설명하고 있는 2014년 1월 1일로부터 최초로 적용되는 제·개정 기준서의 적용을 제외하고 당행은 당기 및 비교 표시된 전기 재무제표에 동일한 회계정책을 적용하고 있습니다.

1) 기업회계기준서 제1032호 '금융상품: 표시' 개정

2014년 1월 1일 이후 개시하는 회계연도부터 당행은 기업회계기준서 제1032호 '금융상품: 표시'의 개정사항을 적용하고 있습니다. 동 기준서는 당행이 인식한 자산과 부채에 대해 법적으로 집행가능한 상계권리를 현재 보유하고 있고, 순액으로 결제하거나 자산을 실현하는 동시에 부채를 결제할 의도를 가지고 있는 경우에만 금융자산과 금융부채를 상계하고 재무상태표에 순액으로 표시하도록 요구하고 있습니다. 동 개정사항 적용으로 인하여 재무제표에 미치는 영향은 유의적이지 않습니다.

2) 기업회계기준 해석서 제2121호 '부담금' 제정

2014년 1월 1일 이후 개시하는 회계연도부터 당행은 기업회계기준해석서 제2121호 '부담금'의 제정사항을 적용하고 있습니다. 동 기준서는 부담금부채를 인식하게 하는 의무발생사건을 법규에 명시된 부담금납부를 유발하는 활동으로 정의하였습니다. 의무발생사건이 일정 기간에 걸쳐 발생한다면 부담금부채를 점진적으로 인식하고, 최소 활동 임계치에 이르는 것이 의무발생사건이라면 대응하는 부채는 그러한 최소 활동 임계치에 이르렀을 때 인식합니다. 한편, 부담금을 선납하였으나 그 부담금을 납부해야 하는 현재 의무가 없다면 자산을 인식합니다. 동 해석서의 적용으로 인하여 재무제표에 미치는 영향은 유의적이지 않습니다.

(6) 재무제표의 발행승인일

당행의 재무제표는 2015년 2월 3일 이사회에서 승인되었습니다.

(7) 종속기업, 공동기업 및 관계기업 투자지분

당행은 종속기업, 공동기업 및 관계기업 투자지분에 대한 투자자산에 대해서 기업회계기준서 제1027호 '별도재무제표'에 따른 원가법을 선택하여 회계처리하였습니다. 다만, 종속기업, 공동기업 및 관계기업 투자지분에 대해서는 기업회계기준서 제1101호 '한국채택국제회계기준의 최초채택'을 적용하여 한국채택국제회계기준 전환일의 과거회계기준에 따른 장부금액을 간주원가로 사용하여 측정하였습니다. 한편, 종속

기업, 공동기업 및 관계기업 투자지분으로부터 수취하는 배당금은 배당을 받을 권리가 확정되는 시점에 당기손익으로 인식하고 있습니다.

(8) 외화환산

1) 외화거래

재무제표 작성에 있어서 당행의 기능통화 외의 통화(외화)로 이루어진 거래는 거래일의 환율로 적용하여 기록하고 있습니다. 대 보고기간말에 화폐성 외화항목은 보고기간 말의 마감환율로 환산하고 있습니다. 공정가치로 측정하는 비화폐성 외화항목은 공정가치가 결정된 날의 환율로 환산하고, 역사적원가로 측정하는 비화폐성항목은 거래일의 환율로 환산하고 있습니다.

해외사업장순투자 환산차이와 현금흐름위험회피 및 순투자의 위험회피 수단으로 지정된 금융부채에서 발생한 환산차이를 제외하고 화폐성항목의 환산으로 인해 발생한 외환차이와 화폐성항목의 결제시점에 생기는 외환차이는 모두 당기손익으로 인식하고 있습니다. 비화폐성항목에서 발생한 손익을 기타포괄손익으로 인식하는 경우에는 그 손익에 포함된 환율변동효과도 기타포괄손익으로 인식하고, 당기손익으로 인식하는 경우에는 환율변동효과도 당기손익으로 인식하고 있습니다.

2) 해외사업장

해외사업장의 기능통화가 당행의 표시통화와 다른 경우에는 경영성과와 재무상태를 다음의 방법으로 표시통화로 환산하고 있습니다.

해외사업장의 기능통화가 초인플레이션 경제의 통화가 아닌 경우 재무상태표(비교표시하는 재무상태표 포함)의 자산과 부채는 해당 보고기간말의 마감환율로 환산하고, 포괄손익계산서(비교표시하는 포괄손익계산서 포함)의 수익과 비용은 해당 거래일의 환율로 환산하고, 환산에서 생기는 외환차이는 기타포괄손익으로 인식합니다.

해외사업장의 취득으로 생기는 영업권과 자산·부채의 장부금액에 대한 공정가치 조정액은 해외사업장의 자산·부채로 보아 해외사업장의 기능통화로 표시하고, 해외사업장의 다른 자산·부채와 함께 마감환율을 적용하여 원화로 환산하고 있습니다.

해외사업장을 처분하는 경우에는 기타포괄손익과 별도의 자본항목으로 인식한 해외사업장관련 외환차이의 누계액은 해외사업장의 처분손익을 인식하는 시점에 기타포

관손익에서 당기손익으로 재분류합니다.

3) 해외사업장에 대한 순투자의 환산

해외사업장으로부터 수취하거나 해외사업장에 지급할 화폐성항목 중에서 예측할 수 있는 미래에 결제할 계획이 없고 결제될 가능성이 낮은 항목은 그 해외사업장에 대한 순투자의 일부로 보아 재무제표에서 외환차이를 기타포괄손익으로 인식하고 관련 순투자의 처분 시점에 당기손익으로 재분류하고 있습니다.

(9) 현금 및 현금성자산

당행은 보유현금과 요구불예금, 유동성이 매우 높고 확정된 금액의 현금으로 전환이 용이하고 가치변동의 위험이 경미한 단기 투자자산을 현금 및 현금성자산으로 분류하고 있습니다. 지분상품은 현금성자산에서 제외하고 있으며 다만, 상환일이 정해져 있고 취득일로부터 상환일까지의 기간이 단기인 우선주와 같이 실질적인 현금성자산인 경우에는 현금성자산에 포함하고 있습니다. 단, 외화타점차는 차입부채 계정에 포함됩니다.

(10) 비파생금융자산

금융자산은 인식 및 측정을 위하여 당기손익인식금융자산, 만기보유금융자산, 대여금 및 수취채권, 매도가능금융자산의 네가지 범주로 구분하고 계약의 당사자가 되는 때에 재무상태표에 인식하고 있습니다. 또한, 정형화된 매입이나 매도거래(즉, 관련 시장의 규정이나 관행에 의하여 일반적으로 설정된 기간 내에 당해 금융상품을 인도하는 계약조건에 따라 금융자산을 매입하거나 매도하는 경우)의 경우에는 매매일에 인식하고 있습니다.

금융자산은 최초인식시점에 공정가치로 측정하며, 당기손익인식금융자산이 아닌 경우 금융자산의 취득과 직접 관련되는 거래원가는 최초 인식시점에 공정가치에 가산하고 있습니다.

1) 당기손익인식금융자산

단기매매금융자산이나 최초 인식시점에 당기손익인식금융자산으로 지정한 금융자산을 당기손익인식금융자산으로 분류하고 있습니다. 당기손익인식금융자산은 최초 인식 후 공정가치로 측정하며, 공정가치의 변동은 당기손익으로 인식하고 있습니다. 한편, 최초 인식시점에 취득과 관련하여 발생한 거래비용은 발생 즉시 당기손익으로 인식하고 있습니다.

2) 만기보유금융자산

만기가 고정되어 있고 지급금액이 확정되었거나 결정 가능한 비파생금융자산으로 당행이 만기까지 보유할 적극적인 의도와 능력이 있는 경우 만기보유금융자산으로 분류하고 있습니다. 최초 인식 후에는 유효이자율법을 적용하여 상각후원가로 측정하고 있습니다.

3) 대여금 및 수취채권

지급금액이 확정되었거나 결정 가능하고, 활성시장에서 거래가격이 공시되지 않는 비파생금융자산은 대여금 및 수취채권으로 분류하고 있습니다. 최초인식 후에는 유효이자율법을 적용하여 상각후원가로 측정하고 있습니다.

4) 매도가능금융자산

매도가능항목으로 지정되거나 당기손익인식금융자산, 만기보유금융자산 및 대여금 및 수취채권으로 분류되지 않은 비파생금융자산을 매도가능금융자산으로 분류하고 있습니다. 최초인식 후에는 공정가치로 측정하며 공정가치의 변동은 기타포괄손익으로 인식되고 있습니다. 단, 활성시장에서 공시되는 시장가격이 없고 공정가치를 신뢰성 있게 측정할 수 없는 지분상품과 이러한 지분상품과 연계되어 있으며 그 지분상품의 인도로 결제되어야 하는 파생상품을 원가로 측정하고 있습니다.

5) 금융자산의 제거

금융자산의 현금흐름에 대한 계약상 권리가 소멸하거나, 금융자산의 현금흐름에 대한 권리를 양도하고 금융자산의 소유에 따른 위험과 보상의 대부분을 이전할 때 금융자산을 제거하고 있습니다. 만약, 금융자산의 소유에 따른 위험과 보상의 대부분을 보유하지도 않고 이전하지도 아니한 경우, 당행이 금융자산을 통제하고 있지도 않다면 금융자산을 제거하고, 금융자산을 계속 통제하고 있다면 그 양도자산에 대하여 지속적으로 관여하는 정도까지 계속하여 인식하고, 관련부채를 함께 인식하고 있습니다.

만약, 금융자산의 현금흐름에 대한 권리를 양도하였으나 금융자산의 소유에 따른 위험과 보상의 대부분을 당행이 보유하고 있는 경우에는 당해 금융자산을 계속 인식하고, 수취한 매각금액은 부채로 인식하고 있습니다.

6) 금융자산과 부채의 상계

금융자산과 부채는 당행이 자산과 부채를 상계할 수 있는 법적인 권리가 있고 순액으로 결제하거나, 자산을 실현하는 동시에 부채를 결제할 의도가 있는 경우에만 상계하여 재무상태표에 순액으로 표시하고 있습니다.

(11) 금융자산의 손상

당행은 당기손익인식금융자산을 제외한 금융자산의 손상 발생에 대한 객관적인 증거가 있는지를 매 보고기간말에 평가하고 있습니다. 최초 인식 이후에 발생한 하나 또는 그 이상의 사건의 결과로 금융자산의 추정미래현금흐름이 영향을 받았을 경우 금융자산이 손상되었다고 판단합니다. 그러나, 미래 사건의 결과로 예상되는 손상차손은 인식하지 아니합니다.

손상발생의 객관적인 증거가 있는 경우 금융자산 범주별로 다음과 같이 손상차손을 측정하여 당기손익으로 인식합니다.

1) 대출채권

상각후원가로 측정되는 대출채권의 손상차손은 당해 자산의 장부금액과 최초의 유효이자율로 할인한 추정미래현금흐름(아직 발생하지 아니한 미래의 대손은 제외)의 현재가치의 차이로 측정합니다.

이를 위하여 당사는 개별적으로 유의적인 금융자산에 대해 우선적으로 손상발생의 객관적인 증거가 있는지를 개별적으로 검토합니다.

개별적으로 유의적이지 않은 금융자산의 경우 개별적으로 또는 집합적으로 검토합니다. 개별적인 검토결과 손상발생의 객관적인 증거가 없다면, 그 금융자산은 유사한 신용위험의 특성을 가진 금융자산의 집합에 포함하여 집합적으로 손상여부를 검토합니다.

손상차손은 대손충당금계정을 사용하여 차감하고, 동 금융자산이 회수 불가능하다고 판단되는 경우 해당 금융자산과 같이 상각처리합니다. 기존에 대손상각하였던 대출 채권이 후속적으로 회수된 경우 대손충당금을 증가시키며, 대손충당금의 변동은 당기손익으로 인식합니다.

① 개별평가 대손충당금

개별평가 대손충당금은 평가대상 채권으로부터 회수될 것으로 기대되는 현금흐름의 현재가치에 대한 경영진의 최선의 추정에 근거합니다. 이러한 현금흐름을 추정할 때, 당사는 관련 상대방의 영업현금흐름 등의 재무적인 상황과 관련 담보물의 순실현가능가치 등 모든 이용가능한 정보를 이용하여 판단합니다.

② 집합평가 대손충당금

집합평가 대손충당금은 포트폴리오에 내재된 발생손실을 측정하기 위하여 과거 경험 손실률에 근거한 추정모형을 이용합니다. 동 모형은 상품 및 차주의 유형, 신용등급, 포트폴리오 크기, 손상발현기간, 회수기간 등 다양한 요인을 고려하여 각 자산(또는 자산집합)의 발생부도율(PD: Probability of Default)과 담보 및 여신과목별 명목회수율, 부도시 발생손실율(LGD: Loss Given Default)을 적용합니다. 또한, 내재된 손실의 측정을 모형화하고 과거의 경험과 현재의 상황에 기초한 입력변수를 결정하기 위해서 일정한 가정을 적용합니다. 동 모형의 방법론과 가정은 대손충당금 추정치와 실제 손실과의 차이를 감소시키기 위하여 정기적으로 검토됩니다.

2) 매도가능금융자산

공정가치 감소액을 기타포괄손익으로 인식하는 매도가능금융자산은 공정가치가 취득원가에 미달하는 금액에서 이전 기간에 이미 당기손익으로 인식한 당해 금융자산의 손상차손을 차감한 금액을 기타포괄손익에서 당기손익으로 재분류합니다.

후속기간에 매도가능금융자산의 공정가치가 증가하고 그 증가가 손상차손을 인식한 후에 발생한 사건과 객관적으로 관련된 경우, 매도가능채무상품은 당기손익으로 환입하고 매도가능지분상품은 기타포괄손익으로 인식합니다.

3) 만기보유금융자산

상각후원가로 측정되는 만기보유금융자산은 장부금액과 최초의 유효이자율로 할인한 추정미래현금흐름의 현재가치의 차이로 손상차손을 측정하며, 손상차손은 장부금액에서 직접 차감합니다.

후속기간 중 손상차손의 금액이 감소하고, 그 감소가 손상을 인식한 후에 발생한 사건과 객관적으로 관련된 경우에는 이미 인식한 손상차손은 회복 후 장부금액이 당초 손상을 인식하지 않았다면 회복일 현재 인식하였을 상각후 원가를 초과하지 않는 한도 내에서 당기손익으로 직접 환입합니다.

(12) 파생금융상품

파생상품은 최초 인식시 계약일의 공정가치로 측정하며, 후속적으로 매 보고기간 말의 공정가치로 측정하고 있습니다. 파생상품의 공정가치 변동으로 인한 평가손익은 각각 아래와 같이 인식하고 있습니다.

1) 위험회피회계

당행은 이자율위험과 환율위험을 회피하기 위하여 통화선도, 이자율스왑, 통화스왑 등의 파생금융상품계약을 체결하고 있습니다. 회피대상 위험으로 인한 자산 또는 부채, 확정계약의 공정가치의 변동(공정가치위험회피), 발생가능성이 매우 높은 예상거래 또는 확정거래의 환율변동(현금흐름위험회피), 해외사업장 순투자의 환율변동위험(순투자의 위험회피)을 회피하기 위하여 일부 파생상품 및 비파생금융상품을 위험회피수단으로 지정하고 있습니다.

당행은 위험회피관계의 개시시점에 위험회피관계, 위험관리목적과 위험회피전략을 공식적으로 지정하고 문서화를 수행하고 있습니다. 또한 이 문서에는 위험회피수단, 위험회피대상항목 및 위험회피관계의 개시시점과 그 후속기간에 회피대상위험으로 인한 위험회피대상항목의 공정가치 또는 현금흐름의 변동을 위험회피수단이 상쇄하는 효과를 평가하는 방법 등을 포함하고 있습니다.

① 공정가치위험회피

위험회피수단으로 지정되고 공정가치위험회피회계의 적용요건을 충족한 파생상품의 공정가치 변동은 당기손익으로 인식하고 있으며, 회피대상위험으로 인한 위험회피대상항목의 공정가치변동도 당기손익으로 인식하고 있습니다. 위험회피수단의 공정가치변동과 회피대상위험으로 인한 위험회피대상항목의 공정가치변동은 위험회피거래와 관련된 포괄손익계산서의 같은 항목에 인식됩니다. 공정가치위험회피회계는 당행이 더 이상 위험회피관계를 지정하지 않거나 위험회피수단이 소멸, 매각, 청산 또는 행사되거나 공정가치 위험회피회계의 적용요건을 더 이상 충족하지 않을 경우 중단됩니다. 회피대상위험으로 인한 위험회피대상항목의 장부금액조정액은 위험회피회계가 중단된 날부터 상각하여 당기손익으로 인식하고 있습니다.

② 현금흐름위험회피

위험회피수단으로 지정되고 현금흐름위험회피회계의 적용요건을 충족한 파생상품의 공정가치변동분 중 위험회피에 효과적인 부분은 기타포괄손익으로 처리하며, 위험회피에 비효과적인 부분은 당기손익으로 인식하고 있습니다. 현금흐름위험회피회계는 당행이 더 이상 위험회피관계를 지정하지 않거나 위험회피수단이 소멸, 매각, 청산, 행사되거나, 현금흐름위험회피회계의 적용요건을 더 이상 충족하지 않을 경우 중단됩니다.

③ 순투자의 위험회피

위험회피수단으로 지정되고 해외사업장순투자의 위험회피회계의 적용요건을 충족한 금융상품의 공정가치 변동 중 위험회피에 효과적인 부분은 기타포괄손익으로 인식하며, 위험회피에 비효과적인 부분은 당기손익으로 인식하고 있습니다. 위험회피에 효과적이어서 기타포괄손익으로 인식한 부분은 향후 그 해외사업장을 처분하거나 그 해외사업장의 일부를 처분하는 시점에 기업회계기준서 제1021호 '환율변동효과'에 따라 재분류조정으로 기타포괄손익에서 당기손익으로 재분류합니다.

2) 내재파생상품

내재파생상품은 주계약의 경제적 특성 및 위험도와 밀접한 관련성이 없고 내재파생상품과 동일한 조건의 별도의 상품이 파생상품의 정의를 충족하는 경우, 복합금융상품이 당기손익인식항목으로 지정되지 않았다면 내재파생상품을 주계약과 분리하여 별도로 회계처리하고 있습니다. 주계약과 분리한 내재파생상품의 공정가치 변동은 당기손익으로 인식하고 있습니다.

3) 기타 파생상품

위험회피수단으로 지정되지 않은 파생상품의 공정가치 변동은 즉시 당기손익으로 인식합니다.

(13) 유형자산

유형자산은 최초에 원가로 측정하여 인식하고 있습니다. 유형자산의 원가에는 경영진이 의도하는 방식으로 자산을 가동하는데 필요한 장소와 상태에 이르게 하는데 직접 관련되는 원가 및 자산을 해체, 제거하거나 부지를 복구하는데 소요될 것으로 추정되는 원가가 포함됩니다.

유형자산은 최초 인식 후에 원가에서 감가상각누계액과 손상차손누계액을 차감한 금액을 장부금액으로 하고 있습니다. 다만, 유형자산 중 일부 토지 및 건물에 대해서는 기업회계기준서 제1101호 '한국채택국제회계기준의 최초채택'을 적용하여 한국채택국제회계기준 전환일 현재의 공정가치로 측정하고 이를 그 시점의 간주원가로 사용하였습니다. 공정가치 평가결과 발생한 유형자산재평가이익은 이사회 결의에 따라 배당이 제한됩니다.

유형자산의 일부를 대체할 때 발생하는 원가는 해당 자산으로부터 발생하는 미래 경제적 효익이 당행에 유입될 가능성이 높으며 그 원가를 신뢰성 있게 측정할 수 있는 경우에 자산의 장부금액에 포함하거나 적절한 경우 별도의 자산으로 인식하고 있습니다. 이 때 대체된 부분의 장부금액은 제거하고 있습니다. 그 외의 일상적인 수선·유지와 관련하여 발생하는 원가는 발생시점에 당기손익으로 인식하고 있습니다.

유형자산 중 토지는 감가상각을 하지 않으며, 그 외 유형자산은 자산의 취득원가에서 잔존가치를 차감한 금액에 대하여 아래에 제시된 경제적 내용연수에 걸쳐 정액법으로 상각하고 있습니다.

당기와 전기의 추정 내용연수는 다음과 같습니다.

구 분	내용연수
건 물	40년
기타의 유형자산	4년 ~ 5년

유형자산의 제거로 인하여 발생하는 손익은 순매각금액과 장부금액의 차이로 결정되고 그 차액은 당기손익으로 인식하고 있습니다.

당행은 매 보고기간말에 자산의 잔존가치와 내용연수 및 감가상각방법을 재검토하고 재검토 결과 추정치가 종전 추정치와 다르다면 그 차이는 회계추정의 변경으로 처리하고 있습니다.

(14) 무형자산

무형자산은 최초 인식할 때 원가로 측정하며, 최초 인식 후에는 원가에서 상각누계액과 손상차손누계액을 차감한 금액을 장부금액으로 인식하고 있습니다. 영업권과 회원권을 제외한 무형자산은 사용가능한 시점부터 잔존가치를 영(0)으로 하여 아래의 내용연수 동안 정액법으로 상각하고 있습니다. 관련 상각비는 일반관리비로 인식됩니다.

구 분	내용연수
소프트웨어	5년
개발비	5년
기타의 무형자산	5년 또는 계약기간

내용연수가 유한한 무형자산의 상각기간과 상각방법은 매 회계연도말에 재검토하고 내용연수가 비한정인 무형자산에 대해서는 그 자산의 내용연수가 비한정이라는 평가가 계속하여 정당한 지를 매 보고기간에 재검토하며, 이를 변경하는 것이 적절하다고 판단되는 경우 회계추정의 변경으로 처리하고 있습니다.

연구 또는 내부프로젝트의 연구단계에 대한 지출은 발생시점에 비용으로 인식하고 있습니다. 개발단계의 지출은 자산을 완성할 수 있는 기술적 실현가능성, 자산을 완성하여 사용하거나 판매하려는 기업의 의도와 능력 및 필요한 자원의 입수가능성, 무형자산의 미래 경제적 효익을 모두 제시할 수 있고, 관련 지출을 신뢰성 있게 측정할 수 있는 경우에 무형자산으로 인식하고 있으며, 기타 개발관련 지출은 발생시점에 비용으로 인식하고 있습니다.

(15) 투자부동산

임대수익이나 시세차익을 얻기 위하여 보유하는 부동산은 투자부동산으로 분류하고 있습니다. 투자부동산은 최초 인식시점에 거래원가를 포함하여 원가로 측정하고, 원가모형을 적용하고 있습니다. 최초 인식 후에는 원가에서 감가상각누계액과 손상차손누계액을 차감한 금액을 장부금액으로 인식하고 있으며, 당기와 전기의 추정내용연수와 감가상각방법은 다음과 같습니다.

구 분	내용연수	감가상각방법
건 물	40년	정액법

후속원가는 자산으로부터 발생하는 미래 경제적 효익이 유입될 가능성이 높으며, 그 원가를 신뢰성 있게 측정할 수 있는 경우에 한하여 자산의 장부금액에 포함하거나 적절한 경우 별도의 자산으로 인식하고 있으며, 후속지출에 의해 대체된 부분의 장부금액은 제거하고 있습니다. 한편, 일상적인 수선·유지와 관련하여 발생하는 원가는 발생시점에 당기손익으로 인식하고 있습니다.

투자부동산의 감가상각방법, 잔존가치 및 내용연수는 매 보고기간말에 재검토하고 이를 변경하는 것이 적절하다고 판단되는 경우 회계추정의 변경으로 회계처리하고 있습니다.

(16) 리스

당행은 리스자산의 소유에 따른 위험과 보상의 대부분이 리스이용자에게 이전되는 경우에는 금융리스로 분류하고, 위험과 보상의 대부분을 이전하지 않는 리스는 운용리스로 분류하고 있습니다.

1) 금융리스

당행은 리스약정일에 측정된 최소리스료의 현재가치와 리스자산의 공정가치 중 작은 금액을 리스기간개시일에 금융리스자산과 금융리스부채로 각각 인식하고 있습니다. 리스개설직접원가는 금융리스자산에 포함하고 있습니다.

최소리스료는 금융원가와 리스부채의 상환액으로 나누어서 인식하고 있으며, 금융원가는 부채잔액에 대하여 일정한 기간이자율이 산출되도록 리스기간의 각 보고기간동안 배분하고 있습니다. 조정리스료는 발생한 기간에 비용으로 처리하고 있습니다.

금융리스자산의 감가상각은 당행이 소유한 다른 감가상각대상자산과 일관된 체계적인 기준으로 상각하고 있으며, 리스기간 종료시점까지 자산의 소유권을 획득할 것이 확실하지 않은 경우에는 리스기간과 리스자산의 내용연수 중 짧은 기간에 걸쳐 감가상각하고 있습니다. 또한, 당행은 금융리스자산에 대해서 손상여부를 검토하고 있습니다.

2) 운용리스

운용리스하의 리스료는 리스기간에 걸쳐 정액기준으로 비용을 인식하고 있습니다.

(17) 매각예정비유동자산

자산 또는 처분자산집단의 장부금액이 계속 사용이 아닌 매각거래를 통하여 주로 회수될 것으로 예상된다면 이를 매각예정비유동자산으로 분류하고 있습니다. 이러한 조건은 당해 자산(또는 처분자산집단)이 현재의 상태로 즉시 매각가능하여야 하며 매각될 가능성이 매우 높을 때에만 충족된 것으로 간주하고 있습니다. 자산(또는 처분자산집단)을 매각예정으로 최초 분류하기 직전에 해당 자산(또는 자산과 부채)의 장부금액과 순공정가치 중 작은 금액으로 측정하고 있습니다. 자산의 순공정가치가 하락하면 손상차손을 즉시 당기손익으로 인식하고, 순공정가치가 증가하면 과거에 인식하였던 손상차손누계액을 한도로 하여 이익으로 인식하고 있습니다.

자산이 매각예정으로 분류되거나 매각예정으로 분류된 처분자산집단의 일부인 경우에는 그 자산은 상각하지 않습니다.

(18) 비금융자산의 손상

종업원급여에서 발생한 자산, 이연법인세자산 및 매각예정으로 분류되는 자산을 제외한 모든 비금융자산에 대해서는 매 보고기간말마다 자산손상을 시사하는 징후가 있는지를 검토하며, 만약 그러한 징후가 있다면 당해 자산의 회수가능액을 추정하고 있습니다. 단, 사업결합으로 취득한 영업권 및 내용연수가 비한정인 무형자산, 아직 사용할 수 없는 무형자산에 대해서는 자산손상을 시사하는 징후와 관계없이 매년 회수가능액과 장부금액을 비교하여 손상검사를 하고 있습니다.

회수가능액은 개별 자산별로, 또는 개별 자산의 회수가능액을 추정할 수 없다면 그 자산이 속하는 현금창출단위별로 회수가능액을 추정하고 있습니다. 회수가능액은 사용가치와 순공정가치 중 큰 금액으로 결정하고 있습니다. 사용가치는 자산이나 현금창출단위에서 창출될 것으로 기대되는 미래현금흐름을 화폐의 시간가치 및 미래현금흐름을 추정할 때 조정되지 아니한 자산의 특유위험에 대한 현행 시장의 평가를 반영한 적절한 할인율로 할인하여 추정합니다.

자산이나 현금창출단위의 회수가능액이 장부금액에 미달하는 경우 자산의 장부금액을 감소시키며 즉시 당기손익으로 인식하고 있습니다.

사업결합으로 취득한 영업권은 사업결합으로 인한 시너지효과의 혜택을 받게 될 것으로 기대되는 각 현금창출단위에 배분합니다. 현금창출단위에 대한 손상차손은 우선, 현금창출단위에 배분된 영업권의 장부금액을 감소시키고, 그 다음 현금창출단위에 속하는 다른 자산 각각의 장부금액에 비례하여 자산의 장부금액을 감소시키고 있습니다. 영업권에 대해 인식한 손상차손은 후속기간에 환입할 수 없습니다. 매 보고기간말에 영업권을 제외한 자산에 대해 과거기간에 인식한 손상차손이 더 이상 존재하지 않거나 감소된 것을 시사하는 징후가 있는지를 검토하고 직전 손상차손의 인식시점 이후 회수가능액을 결정하는 데 사용된 추정치에 변화가 있는 경우에만 환입합니다. 손상차손환입으로 증가된 장부금액은 과거에 손상차손을 인식하기 전 장부금액의 감가상각 또는 상각 후 잔액을 초과할 수 없습니다.

(19) 비파생금융부채

당행은 계약상 내용의 실질과 금융부채의 정의에 따라 금융부채를 당기손익인식금융부채와 기타금융부채로 분류하고 계약의 당사자가 되는 때에 재무상태표에 인식하고 있습니다.

1) 당기손익인식금융부채

당기손익인식금융부채는 단기매매금융부채나 최초 인식시점에 당기손익인식금융부채로 지정한 금융부채를 포함하고 있습니다. 당기손익인식금융부채는 최초인식 후 공정가치로 측정하며, 공정가치의 변동은 당기손익으로 인식하고 있습니다. 한편, 최초 인식시점에 발행과 관련하여 발생한 거래비용은 발생 즉시 당기손익으로 인식하고 있습니다.

2) 기타금융부채

당기손익인식금융부채로 분류되지 않은 비파생금융부채는 기타금융부채로 분류하며, 기타금융부채에는 예수부채, 차입부채, 사채 등을 포함합니다. 기타금융부채는 최초 인식시 발행과 직접 관련되는 거래원가를 차감한 공정가치로 측정하고 있습니다. 후속적으로 기타금융부채는 유효이자율법을 사용하여 상각후원가로 측정되며, 이자비용은 유효이자율법을 적용하여 인식합니다.

금융부채는 소멸한 경우 즉, 계약상 의무가 이행, 취소 또는 만료된 경우에만 재무상태표에서 제거하고 있습니다.

(20) 납입자본

1) 지분상품

보통주는 자본으로 분류하며 자본거래에 직접 관련되어 발생하는 증분원가는 세금효과를 반영한 순액을 자본에서 차감하고 있습니다.

2) 신종자본증권

당행이 상품의 계약조건의 실질에 따라 자본증권을 금융부채 또는 지분상품으로 분류합니다. 당행이 계약상 의무를 결제하기 위한 현금 등 금융자산의 인도를 회피할 수 있는 무조건적인 권리를 가지고 있는 신종자본증권의 경우 지분상품으로 분류하여 자본의 일부로 표시하고 있습니다.

(21) 종업원급여

1) 단기종업원급여

종업원이 관련 근무용역을 제공한 보고기간의 말부터 12개월 이내에 결제될 단기종업원급여는 근무용역과 교환하여 지급이 예상되는 금액을, 근무용역이 제공된 때에 당기손익으로 인식하고 있습니다. 단기종업원급여는 할인하지 않은 금액으로 측정하고 있습니다.

2) 기타장기종업원급여

종업원이 관련 근무용역을 제공한 보고기간의 말일부터 12개월 이내에 지급되지 않을 기타장기종업원급여(퇴직급여와 해고급여 제외)는 당기와 과거기간에 제공한 근무용역의 대가로 획득한 미래의 급여액을 현재가치로 할인하고 있습니다. 재측정에 따른 변동은 발생한 기간에 당기손익으로 인식하고 있습니다.

3) 퇴직급여: 확정급여제도

보고기간 말 현재 확정급여제도와 관련된 확정급여부채는 확정급여채무의 현재가치에서 사외적립자산의 공정가치를 차감하여 인식하고 있습니다. 확정급여부채는 매년 독립적인 계리사에 의해 예측단위적립방식으로 계산되고 있습니다. 확정급여채무의 현재가치는 확정급여제도에서 지급될 미래 현금흐름을 관련 퇴직급여의 만기와 유사한 만기를 가지는 퇴직금이 지급되는 통화로 표시된 우량회사채의 이자율을 사용하여 추정 미래 현금흐름을 할인한 후 결정되고 있습니다. 확정급여 원가 중 근무원가와 순확정급여부채(자산)의 순이자자는 당기손익으로 인식하며, 순확정급여부채(자산)의 재측정요소는 기타포괄손익으로 인식하고 있습니다.

4) 해고급여

당행은 해고급여의 제안을 더 이상 철회할 수 없을 때와 해고급여 지급을 수반하는 구조조정에 대한 원가를 인식할 때 중 이른 날에 해고급여에 대한 비용을 인식합니다.

해고급여는 지급일이 12개월이 지난 후에 도래하는 경우에는 현재가치로 할인하고 있습니다.

(22) 주식기준보상

당행은 제공받는 재화나 용역의 대가로 종업원에게 주식이나 주식선택권을 부여하는 주식결제형 주식보상거래에 대하여, 제공받는 재화나 용역의 공정가치 또는 제공받는 재화나 용역의 공정가치를 신뢰성있게 측정할 수 없다면 부여한 지분상품의 공정가치에 기초하여 재화나 용역의 공정가치를 간접측정하고 그 금액을 가득기간 동안에 종업원급여비용과 자본으로 인식하고 있습니다. 주식선택권의 가득조건이 용역제공조건 또는 시장조건이 아닌 가득조건인 경우에는 적극적으로 가득되는 주식선택권의 실제수량에 기초하여 결정되도록 인식된 종업원비용을 조정하고 있습니다.

제공받는 재화나 용역의 대가로 현금을 지급하는 현금결제형 주식기준보상거래의 경우에는 제공받는 재화나 용역과 그 대가로 부담하는 부채를 공정가치로 측정하고 가득기간동안 종업원급여비용과 부채로 인식하고 있습니다. 또한 부채가 결제될 때까지 매 보고기간 말과 최종결제일에 부채의 공정가치를 재측정하고, 공정가치의 변동액은 급여로 인식하고 있습니다.

당행의 임직원에게는 모회사인 신한금융지주회사의 주식에 근거한 주식기준보상이 부여되어 있으며, 당행은 신한금융지주회사와의 상환지급약정에 따라 주식기준보상거래의 보상원가를 현금으로 부담하게 되어 있습니다. 당행은 해당 주식보상비용을 약정용역제공기간에 안분하여 기간비용 및 미지급비용으로 각각 계상하고 있습니다. 약정용역제공기간동안 임직원 등의 사망, 퇴직 또는 해고 등으로 계약의무를 이행하지 못하여 부여된 권리가 행사되지 않고 소멸하는 경우에는 기 인식한 미지급비용을 보상비용에서 차감합니다. 한편, 신한금융지주회사와의 상환지급약정에 관계없이 당행이 주식기준보상거래를 결제할 의무가 없는 연결실체 내 기업간의 주식기준보상거래는 주식결제형 주식기준보상거래로 측정하고 있습니다.

(23) 충당부채

과거사건의 결과, 현재의 법적의무 또는 의제의무가 존재하고, 당해 의무를 이행하기 위하여 경제적효익을 갖는 자원이 유출될 가능성이 높으며, 당해 의무의 이행에 소요되는 금액을 신뢰성 있게 추정할 수 있는 경우에 충당부채를 인식하고 있습니다.

충당부채로 인식하는 금액은 관련된 사건과 상황에 대한 불가피한 위험과 불확실성을 고려하여 현재의무를 보고기간말에 이행하기 위하여 소요되는 지출에 대한 최선의 추정치입니다. 화폐의 시간가치 효과가 중요한 경우 충당부채는 의무를 이행하기 위하여 예상되는 지출액의 현재가치로 평가하고 있습니다.

매 보고기간 말마다 충당부채의 잔액을 검토하고, 보고기간 말 현재 최선의 추정치를 반영하여 조정하고 있습니다. 의무이행을 위하여 경제적 효익을 갖는 자원이 유출될 가능성이 더 이상 높지 않은 경우에는 관련 충당부채를 환입하고 있습니다. 충당부채는 최초 인식과 관련 있는 지출에만 사용하고 있습니다.

(24) 금융보증계약

금융보증계약은 채무상품의 최초 계약조건이나 변경된 계약조건에 따라 지급기일에 특정 채무자가 지급하지 못하여 보유자가 입은 손실을 보상하기 위해 발행자가 특정 금액을 지급하여야 하는 계약입니다.

금융보증계약은 최초 인식시 공정가치로 측정하여 지급보증충당부채에 포함되며, 공정가치는 당해 금융보증계약의 기간 동안 상각됩니다.

최초 인식 이후에는 다음 중 큰 금액으로 측정됩니다.

- 기업회계기준서 제1037호 '충당부채, 우발부채 및 우발자산'에 따라 결정된 금액 (당해 금융보증계약으로부터 기대되는 지급 금액의 현재가치)
- 최초인식금액에서 기업회계기준서 제1018호 '수익'에 따라 인식한 상각누계액을 차감한 금액

(25) 수익 · 비용의 인식

1) 이자수익과 이자비용

이자수익과 이자비용은 유효이자율법을 적용하여 포괄손익계산서에 인식합니다. 유효이자율법은 금융자산이나 금융부채의 상각후원가를 계산하고 관련 기간에 걸쳐 이자수익이나 이자비용을 배분하는 방법입니다.

유효이자율을 계산할 때 당해 금융상품의 모든 계약조건을 고려하여 미래현금흐름을 추정하나, 미래 신용위험에 따른 손실은 고려하지 않습니다. 또한, 계약 당사자 사이에서 지급하거나 수취하는 수수료, 거래원가 및 기타의 할증액과 할인액 등을 반영합니다. 금융상품에 대한 현금흐름 또는 기대존속기간을 신뢰성 있게 추정할 수 없는 예외적인 경우에는 전체 계약기간 동안 계약상 현금흐름을 사용하여 유효이자율을 구합니다.

금융자산이나 유사한 금융자산의 집합이 손상차손으로 감액되면, 그 후의 이자수익은 손상차손을 측정할 목적으로 미래현금흐름을 할인하는 데 사용한 이자율을 사용하여 인식합니다.

2) 수수료수익

당행은 금융용역수수료를 그 수수료의 부과목적과 관련 금융상품의 회계처리 기준에 따라 다음과 같이 구분하여 처리합니다.

① 금융상품의 유효수익을 구성하는 수수료

금융상품의 유효이자율의 일부를 구성하는 수수료의 경우 일반적으로 유효이자율에 대한 조정항목으로 처리합니다. 이러한 수수료에는 차입자의 재무상태, 보증, 담보와 기타 보장약정과 관련된 평가 및 사무처리, 관련 서류의 준비 및 작성 등의 활동에 대한 보상, 금융부채 발행시 수취된 개설수수료 등이 포함됩니다. 그러나, 금융상품이 당기손익인식금융상품에 해당하는 경우 수수료는 상품의 최초 인식시점에 수익으로 인식합니다.

② 용역을 제공함으로써 가득되는 수수료

자산관리수수료, 업무수탁수수료, 보증용역수수료 등 일정기간 동안 용역의 제공대가로 부과되는 수수료는 그 용역을 제공하는 때에 수익으로 인식합니다. 또한, 특정

한 대출약정이 체결될 가능성이 낮고, 그 대출약정이 기업회계기준서 제1039호 '금융상품: 인식과 측정'의 적용범위에 해당하지 않는다면, 해당 약정수수료는 약정기간에 걸쳐 기간에 비례하여 수익으로 인식합니다.

③ 유의적인 행위를 수행함으로써 가득되는 수수료

주식 또는 기타증권 매매, 사업양수도의 주선과 같이 제3자를 위한 거래의 협상 또는 협상 참여의 대가로 수취하는 수수료 및 판매수수료 등 유의적인 행위를 수행함으로써 가득되는 수수료는 유의적인 행위를 완료한 시점에 수익으로 인식합니다.

3) 배당수익

배당수익은 주주로서 배당을 받을 권리가 확정되는 시점에 수익을 인식하고 있습니다.

(26) 법인세

법인세비용은 당기법인세와 이연법인세로 구성되어 있으며, 기타포괄손익이나 자본에 직접 인식되는 거래나 사건 또는 사업결합에서 발생하는 세액을 제외하고는 당기손익으로 인식하고 있습니다.

당행의 모회사인 신한금융지주회사는 당행을 포함한 국내완전자회사를 하나의 납세단위로 보아 소득금액을 통산하여 법인세를 신고·납부하고, 당행은 신한금융지주회사에 연결법인세 부담세액 개별귀속액을 지급할 의무만 존재하므로, 해당 금액을 당기법인세부채에 포함된 미지급금으로 계상하였습니다. 자산·부채의 장부금액과 세무가액의 차이인 일시적차이와 이월공제가 가능한 세무상결손금과 세액공제 등에 대하여 미래에 부담하게 될 법인세부담액과 미래에 경감될 법인세부담액 중 당행에 직접 귀속되는 항목에 대하여 각각 이연법인세부채 및 자산으로 인식하고 있습니다. 이연법인세는 일시적차이 등의 실현이 예상되는 회계연도에 적용되는 법인세율을 사용하여 측정하고 있습니다.

종속기업, 관계기업 및 공동기업 투자지분에 관한 가산할 일시적차이에 대해서는 당행이 일시적차이의 소멸시점을 통제할 수 있으며, 예측가능한 미래에 일시적차이가 소멸하지 않을 가능성이 높은 경우를 제외하고는 모두 이연법인세부채를 인식하고 있습니다. 또한, 차감할 일시적차이로 인하여 발생하는 이연법인세자산은 일시적차

이가 예측가능한 미래에 소멸 가능할 가능성이 높고, 일시적차이가 사용될 수 있는 과세소득이 발생할 가능성이 높은 경우에 인식하고 있습니다.

이연법인세자산과 부채는 보고기간말 제정되었거나 실질적으로 제정된 세법에 근거하여 당해 자산이 실현되거나 부채가 지급될 보고기간에 적용될 것으로 기대되는 세율을 사용하여 측정하고 있습니다. 이연법인세자산과 이연법인세부채를 측정할 때에는 보고기간말 현재 연결실체가 관련 자산과 부채의 장부금액을 회수하거나 결제할 것으로 예상되는 방식에 따라 법인세효과를 반영하였습니다.

이연법인세자산의 장부금액은 매 보고기간말에 검토하고, 이연법인세자산으로 인한 혜택이 사용되기에 충분한 과세소득이 발생할 가능성이 더 이상 높지 않은 경우 이연법인세자산의 장부금액을 감소시키고 있습니다.

이연법인세자산과 부채는 동일 과세당국이 부과하는 법인세이고, 연결실체가 인식된 금액을 상계할 수 있는 법적 권한을 가지고 있으며 당기 법인세부채와 자산을 순액으로 결제할 의도가 있는 경우에만 상계하고 있습니다.

(27) 신탁관련 회계처리

당행은 자본시장과 금융투자업에 관한 법률 제114조에 따라 신탁재산을 고유재산과 구분하여 회계처리하고 있습니다. 이와 관련하여 신탁계정에 대여한 자금을 신탁계정대여금, 신탁계정으로부터 차입한 자금을 신탁계정미지급금으로 계상하고 있으며 금융투자업규정에 따라 신탁재산의 운용, 관리 및 처분과 관련하여 신탁보수를 취득하고 이를 신탁업무운용수익으로 계상하고 있습니다.

(28) 주당이익

당행은 보통주 기본주당이익과 희석주당이익을 계속영업손익과 당기순손익에 대하여 계산하고 포괄손익계산서에 표시하고 있습니다. 기본주당이익은 보통주에 귀속되는 당기순손익을 보고기간 동안에 유통된 보통주식수를 가중평균한 주식수로 나누어 계산하고 있습니다. 희석주당이익은 종업원에게 부여한 주식기준보상 등 모든 희석효과가 있는 잠재적 보통주의 영향을 고려하여 보통주에 귀속되는 당기순손익 및 가중평균유통보통주식수를 조정하여 계산하고 있습니다.

(29) 미적용 제·개정 기준서

제정·공표되었으나 2014년 1월 1일 이후 시작하는 회계연도에 시행일이 도래하지 아니한 제·개정 기준서 및 해석서는 다음과 같습니다. 당행은 재무제표 작성시 다음의 제·개정 기준서 및 해석서를 조기적용하지 아니하였습니다.

다음의 제·개정 기준서 및 해석서 적용시 재무제표에 미치는 영향은 보고기간말 현재로 추정할 수 없습니다.

1) 기업회계기준서 제1102호 '주식기준보상'

주식기준보상에서 규정하는 특정조건이 성과조건을 구성할 수 있는지 여부, 성과조건 달성 기간이 용역제공기간보다 길 수 있는지 여부 등이 명확치 않았으나, 개정기준에서는 용역제공, 성과조건에 대한 정의를 명확히 하였습니다. 동 기준서는 2014년 7월 1일 이후 개시하는 회계연도부터 의무적용됩니다.

2) 기업회계기준서 제1103호 '사업결합'

개정기준에서는 조건부대가가 금융상품이라면, 기업회계기준서 제1032호에 따라 부채 또는 자본으로 분류하고, 자산이나 부채로 분류되는 조건부대가는 후속기간에 공정가치로 측정하며, 공정가치 변동은 당기손익으로 반영하도록 규정하였습니다. 또한, 모든 형태의 공동약정 즉, 공동기업과 공동영업의 구성을 기업회계기준서 제1103호의 적용범위에서 제외하도록 개정하였습니다. 동 기준서는 2014년 7월 1일 이후 개시하는 회계연도부터 의무적용됩니다.

3) 기업회계기준서 제1113호 '공정가치 측정'

명시된 이자율이 없는 단기수취채권과 단기지급채무는 할인효과가 중요하지 않다면 송장의 원본금액으로 측정할 수 있도록 하였습니다. 또한, 금융자산이나 금융부채의 정의를 충족하지 않더라도 기업회계기준서 제1039호의 적용범위에 포함된다면 포드폴리오 예외조항을 적용하도록 하였습니다. 동 기준서는 2014년 7월 1일 이후 개시하는 회계연도부터 의무적용됩니다.

4) 기업회계기준서 제1024호 '특수관계자 공시'

직접 또는 간접으로 주요경영인력용역을 제공하는 기업(관리기업)을 특수관계자의 정의에 포함하였습니다. 주요경영진서비스가 기업에 제공되는 경우, 관리회사로부터

제공받는 용역에 대하여 비용으로 인식한 금액 및 다른 거래들을 공시하여야 합니다. 동 기준서는 2014년 7월 1일 이후 개시하는 회계연도부터 의무적용됩니다.

5) 기업회계기준서 제1019호 '종업원급여'

정해진 요건을 충족하는 기여금을 종업원이나 제3자가 납부하는 경우, 기업은 관련된 근무용역이 제공되는 기간의 근무원가에서 기여금을 차감하는 방법을 회계정책으로 선택가능합니다. 근무용역에 연계되어 있는 기여금은 순당기근무원가와 확정급여채무의 계산 시 포함되어야 하며, 이 기여금은 제도의 기여금 산정시 또는 정액기준으로 근무기간에 배분해야 합니다. 동 기준서는 2014년 7월 1일 이후 개시하는 회계연도부터 의무적용됩니다.

6) 기업회계기준서 제1111호 '공동약정'

사업의 정의를 충족하는 공동영업의 지분을 취득할 때 기업회계기준서 제1103호에 따른 회계처리를 적용합니다. 또한, 공동영업자가 공동영업의 지분을 추가 취득하거나 공동지배력을 유지하는 경우, 추가 취득하는 지분은 일반적으로 공정가치로 측정되나 이전 보유지분은 재측정하지 않도록 하였습니다. 동 기준서는 2016년 1월 1일 이후 개시하는 회계연도부터 의무적용됩니다.

7) 기업회계기준서 제1027호 '별도채무제표'

별도채무제표 상 종속기업, 관계기업, 공동기업 투자에 대하여 원가법 또는 기업회계기준서 제1039호에 따른 회계처리뿐만 아니라 지분법을 선택하여 회계처리할 수 있도록 기준서를 개정하였습니다. 동 기준서는 2016년 1월 1일 이후 개시하는 회계연도부터 의무적용됩니다.

3. 금융상품 위험관리

3-1. 신용위험

당행은 일정 수준의 신용위험에 노출되어 있으며, 이는 거래상대방의 의무불이행으로 인해 당행이 재무적 손실을 입을 위험을 의미합니다. 신용위험은 회사의 영업활동에 있어 가장 중요하게 관리되어야 할 위험으로 분류되며, 경영진은 신용위험 최대노출액을 주의 깊게 관리하고 있습니다. 신용노출은 주로 예치금과 대출채권과 관련된 대출 과정 및 채무증권에 대한 투자활동과 그룹 자산 포트폴리오의 환어음 등에서 발생하며, 대출 약정 등의 재무제표의 난외 계정과 관련한 신용위험이 존재합니다.

(1) 신용위험 관리

당행의 신용리스크 관리에 대한 기본 정책은 리스크정책위원회에서 결정됩니다. 리스크정책위원회는 CRO(Chief Risk Officer)를 위원장으로, CCO(Chief Credit Officer)와 사업그룹 담당 그룹장 및 리스크총괄부장으로 구성되어, 은행 전반의 신용위험 관리 방안과 여신정책 방향을 의사결정하고 있습니다. 리스크정책위원회와 별도로 여신심의위원회를 설치하여 거액여신 및 한도승인 등의 여신 심사를 분리하고 있으며, CCO를 위원장으로, CRO와 여신관련 사업그룹 담당 부행장, 여신기획부장 및 선임심사역으로 구성되어 여신의 건전성을 제고하고 운용 수익성을 제고하는 방향으로 여신 심사를 하고 있습니다.

신용리스크 대상자산을 보유 및 관리하는 모든 영업단위에서 1차적으로 해당자산에 대한 리스크관리를 수행하고, 리스크총괄부 및 여신기획부 등 신용리스크 관리 부서에서는 2차적으로 은행 전체의 신용리스크 관리를 담당합니다. 리스크총괄부, 리스크공학부는 리스크정책위원회에서 설정된 신용리스크 한도 및 동일 차주별, 계열별, 업종별, 국가별 신용 최대노출액 한도를 관리하는 등 신용포트폴리오 관리를 수행하고 있습니다. 또한 신용평가시스템, 담보관리시스템 운용을 통한 PD, LGD, EAD 등 신용리스크 산출요소(Risk Component)를 측정 및 관리하고 있습니다. 여신의사결정 지원 및 견제 조직으로서 여신기획부는 은행 전체의 여신정책 및 제도를 관리하고 있으며, 여신심사부에서는 독립적인 신용평가 수행 및 여신 의사결정을 수행하고 있습니다. 또한 여신감리부에서는 거액 여신 등에 대한 개별 여신감리를 수행하고 있습니다.

모든 여신고객(개인 및 기업)에 대하여 신용등급이 부여되어 관리되는데, 개인은 신상정보, 은행내부실적정보, 외부신용정보를 합산하여 산출되고, 기업의 경우 재무항목과 산업위험, 영업위험, 경영위험 등의 비재무항목 등을 종합적으로 고려하여 신용평가시스템에서 산출됩니다. 산출된 신용등급은 여신승인, 한도관리, 가격결정, 대손충당금 적립 등에 활용되는 등 신용리스크 관리의 기본이 됩니다.

당행의 신용평가시스템은 Basel II 요건을 반영하여 개인평가시스템(ACE: Automatic Credit Evaluation), 최대노출액 3억이하 소매SOHO신용평가시스템, 기업신용평가시스템(AIRS: Advanced Internal Rating System)을 운영하고 있습니다.

기업여신에 대한 심사는 집단 의사결정체제를 취함으로써 객관적이고 신중한 의사 결정을 하고 있습니다. 일반적인 여신의 경우 영업점의 RM(Relationship Manager)과 각 사업부문 본부 심사역의 합의 하에 여신 승인이 이루어지며, 규모가 크거나 중요한 여신의 경우는 심사협의체 등에서 여신 승인이 이루어집니다. 특히, 전결한도를 초과하는 거액 여신 등 중요 여신에 대하여는 여신 최고 의사결정기구인 여신심의위원회에서 심사를 하고 있습니다. 개인여신은 개인여신심사부에서 객관적인 통계방법과 은행의 신용정책에 기초한 자동화된 개인여신평가시스템(CSS: Credit Scoring System)에 의하여 심사가 이루어지고 있습니다.

개별 여신에 대한 상시 관리를 위하여 상시모니터링시스템을 가동하고 있습니다. 기업여신 거래처 중 부실예상기업을 자동 검색하여 심사역과 RM으로 하여금 Loan Review를 하도록 하고 있으며, 사업그룹과 독립된 여신감리부에서는 Loan Review 결과의 적정성을 판단하고 필요에 따라 해당 기업의 신용등급 조정을 요청합니다. 이러한 절차에 따라 부실예상기업을 조기경보기업, 관찰기업 및 정상기업으로 분류한 위험단계별 관리지침에 따라 차별 관리함으로써 여신의 부실화를 조기에 차단하고 있습니다. 전문 신용평가기관과 제휴한 재무분석지원시스템은 여신심사 및 관리를 지원하고 있으며, 여신기획부의 산업정보팀에서 산업등급을 산출·관리하고, 산업동향 및 기업정보를 분석·제공하고 있습니다.

(2) 위험한도관리 및 위험경감 정책

신용리스크를 적정 수준으로 통제하기 위하여 아래와 같은 한도관리 체계를 수립·운용하고 있습니다.

- 신용리스크 한도는 신용VaR 및 최대노출액을 기준으로 사업부문별, 고객별, 상품별, 업종별 등 각 부문별로 설정하여 관리함
- 리스크총괄부에서는 신용VaR 및 최대노출액 기준의 한도 설정과 관리업무를 수행하고, 여신기획부와 여신심사부에서도 신용리스크 관리를 위해 설정된 최대노출액 한도관리 업무를 실행함
- 리스크총괄부는 매년 1회 이상 은행 전체의 신용리스크 한도 운영계획을 수립하여 신용정책위원회에 부의함
- 각 사업부문은 사업부문별로 할당된 신용리스크 한도를 모니터링하고 준수함
- 식별된 신용위험에 대해 개인고객 및 기업고객, 산업과 국적별 한도를 지정 및 관리함
- 개별 차주 혹은 차주 집단, 지리적 산업별 부문에 대해 수용할 수 있는 위험의 한도를 설정함
- 해당 위험은 연간 기준 혹은 필요하다고 판단되는 경우 기간 내에 재검토되며, 상품별, 산업별, 국가별 위험의 한도는 분기별로 이사회외 승인을 득함
- 기관을 포함한 차주별 최대노출액은 재무제표상의 계정과 난외계정에 대해 개별 설정된 하위 수준의 한도에 의해 관리되며, 외화선도 거래 등 상품 거래와 관련된 일별 거래에 대해서도 위험의 한도를 결정함
- 한도에 대비한 실제 최대노출액은 일별로 관리함
- 신용위험 최대노출액은 차주에 대한 이자와 원금 상환능력을 분석하는 과정에서도 관리되며, 필요한 경우 이 과정에서 대출한도를 변경함

기타 위험관리 방안은 다음과 같습니다.

1) 담보

당행은 신용위험을 완화하기 위한 정책과 절차들을 도입하고 있습니다. 신용위험과 관련하여 일반적으로 담보채가 사용되며, 당행은 특정 종류의 자산에 대한 질권설정에 대한 정책을 도입하고 있으며, 주요 담보 형태는 다음과 같습니다.

- 주택 담보
- 부동산, 재고자산 및 대출채권 등
- 채무증권 및 지분증권 등 금융상품

상대적으로 장기 대출채권은 일반적으로 담보가 설정되어 있습니다. 반면, 리볼빙 개인 신용대출은 무담보인 경우가 일반적입니다. 또한, 신용위험으로 인한 손실을 최소화하기 위해 당행은 자산 손상의 징후가 있는 경우 거래상대방에 추가 담보를 설정하고 있습니다.

대출채권 외의 금융자산에 대한 담보는 상품의 성격에 따라 차이가 있습니다. 금융상품 포트폴리오 등의 담보 설정된 ABS 등 특수한 경우를 제외하면, 채무증권의 경우 무담보가 일반적입니다.

2) 파생금융상품

당행은 매입 이후 처분 계약 사이에 있는 파생금융상품에 대해 금액과 기간에 대한 한도를 유지하여 관리하고 있습니다.

3) 일괄상계약정

당행은 상당한 규모의 거래를 수행하는 데 있어 거래상대방과 일괄상계약정을 체결함에 따라 신용 손실에 대한 최대노출액을 제한하고 있습니다.

거래는 보통 총액 기준으로 설정되어 있음에 따라 일괄상계약정은 일반적으로 재무상태표상 자산과 부채를 상계한 결과로 나타나지 않습니다. 하지만, 거래상대방에 대한 모든 금액이 순액 기준으로 설정될 때, 손실이 발생한다면 favourable 계약과 관련된 신용 위험은 범위 내에서 일괄상계약정에 의해 줄어듭니다.

일괄상계계약에 속해 있는 신용 위험에 대한 그룹의 전체적인 최대노출액은 약정에 속해 있는 각 거래에 영향을 받기 때문에 짧은 기간 내에 실질적으로 변동할 수 있습니다.

4) 신용 관련 약정

보증과 신용공여는 여신과 같은 신용 위험을 가지고 있습니다. 신용장(특정 기간과 상황 아래 요구된 금액에 대하여 당행에서 제3자에 어음을 발행하여 고객을 대신하여 신용을 보증)은 그들과 관련된 기초적인 상품의 선적에 의해 담보가 설정되어 있으므로 여신보다 더 적은 위험을 수반합니다. 신용 보강에 대한 약정들은 여신, 보증 혹은 신용장의 형태에서 신용을 보강시키는 한도의 미사용 비율을 나타냅니다. 신용을 보강시키는 약정에 대한 신용위험과 관련하여, 당행은 총 미사용약정과 동일한 금액에 대하여 잠재적으로 노출되어 있습니다. 장기 약정은 일반적으로 단기 약정보다 신용위험의 정도가 크기 때문에 당행은 신용약정의 만기에 대하여 모니터링하고 있습니다.

(3) 신용위험에 대한 최대노출액

당기말과 전기말 현재 보유 금융상품의 신용위험에 대한 최대노출액의 내역은 다음과 같습니다.

			(단위: 백만원)	
구 분		제183(당)기	제182(전)기	
예치금 및 대출채권(주1,2)	은행	6,787,406	7,775,689	
	개인	주거용부동산담보대출	43,071,816	40,786,301
		기타	42,944,178	38,021,224
		소 계	86,015,994	78,807,525
	정부/공공기관/중앙은행		11,123,448	8,641,823
	기업	대기업	27,878,443	26,248,091
		중소기업	54,368,231	48,164,396
		특수금융	3,827,243	4,265,886
		기타	1,075	849
		소 계	86,074,992	78,709,222
	합 계		190,001,840	173,934,259
단기매매금융자산	채무증권		4,732,760	4,595,323
	금융채권		224,556	76,337
	합 계		4,957,316	4,672,660
파생상품자산		1,310,109	1,457,641	
매도가능금융자산	채무증권		19,214,287	20,379,459
만기보유금융자산	채무증권		7,747,368	7,051,164
기타금융자산(주1,3)		7,887,366	6,645,005	
난외계정	금융보증		4,421,949	3,674,928
	대출약정 및 기타 신용관련 부채		71,177,412	72,013,978
	합 계		75,599,361	75,688,906
총 계		306,717,647	289,829,094	

(주1) 예치금 및 대출채권, 기타금융자산의 최대 노출액은 대손충당금을 차감한 순장부금액입니다.

(주2) 신BIS협약(Basel III)의 자기자본비율(BIS 비율) 산출상 유사한 신용위험집단으로 분류하였습니다.

(주3) 미수금, 미수수익, 보증금, 미회수내국환채권, 가자금금 등으로 구성되어 있습니다.

(4) 예치금과 대출채권의 손상정보

1) 당기말과 전기말 현재 예치금과 대출채권의 손상 여부에 대한 내역은 다음과 같습니다.

<제183(당기)>

(단위: 백만원)									
구 분	은행	개인		정부 공공기관 중앙은행	기업				합 계
		주거용부동산 담보대출	기타		대기업	중소기업	특수금융	기타	
연체 및 손상되지 않은 예치금과 대출채권	6,794,374	42,792,143	42,887,410	11,124,643	27,877,781	54,309,650	3,713,010	1,101	189,480,112
연체되었으나 손상되 지 않은 대출채권	-	218,945	141,708	-	40,480	107,388	12,290	-	520,789
손상된 대출채권	-	80,012	168,745	-	528,944	417,290	179,598	10	1,374,597
소 계	6,794,374	43,091,100	43,177,861	11,124,643	28,447,185	54,834,308	3,904,898	1,111	191,375,478
대손충당금	(8,988)	(19,284)	(233,683)	(1,195)	(568,742)	(488,077)	(77,653)	(38)	(1,373,638)
합 계	6,785,386	43,071,816	42,944,178	11,123,448	27,878,443	54,388,231	3,827,243	1,073	190,001,840

<제182(전기)>

(단위: 백만원)									
구 분	은행	개인		정부 공공기관 중앙은행	기업				합 계
		주거용부동산 담보대출	기타		대기업	중소기업	특수금융	기타	
연체 및 손상되지 않은 예치금과 대출채권	7,783,615	40,482,816	37,921,023	8,642,788	28,121,149	47,848,398	4,183,368	881	172,985,038
연체되었으나 손상되 지 않은 대출채권	-	257,904	140,241	-	18,533	315,937	1,252	-	733,887
손상된 대출채권	-	62,971	175,892	-	708,250	487,714	243,998	-	1,658,825
소 계	7,783,615	40,803,691	38,236,956	8,642,788	28,847,932	48,633,049	4,428,618	881	175,377,528
대손충당금	(7,988)	(17,390)	(215,732)	(965)	(599,841)	(488,653)	(132,730)	(32)	(1,443,289)
합 계	7,775,627	40,786,301	38,021,224	8,641,823	28,248,091	48,184,396	4,295,888	849	173,934,239

2) 당기말과 전기말 현재 연체 및 손상되지 않은 예치금과 대출채권의 신용건전성별 구성내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)									
구 분	은행	개인		정부 공공기관 중앙은행	기업				합 계
		주거용부동산 담보대출	기타		대기업	중소기업	특수금융	기타	
등급 : 1. 우량	6,794,374	40,497,598	40,533,174	11,124,643	21,165,753	31,444,017	3,460,327	-	155,019,874
등급 : 2. 보통	-	2,294,557	2,334,238	-	6,712,028	22,965,633	252,663	1,101	34,460,238
소 계	6,794,374	42,792,143	42,867,410	11,124,643	27,877,781	54,309,650	3,713,010	1,101	189,480,112
대손충당금	(6,968)	(11,893)	(117,062)	(1,195)	(284,050)	(325,152)	(25,438)	(28)	(771,784)
합 계	6,787,406	42,780,250	42,750,348	11,123,448	27,593,731	53,984,498	3,687,574	1,073	188,708,328
당보에 의한 신용위험 경감효과	134	41,927,960	16,571,623	-	7,134,945	37,782,138	519,211	-	103,936,209

<제182(전)기>

(단위: 백만원)									
구 분	은행	개인		정부 공공기관 중앙은행	기업				합 계
		주거용부동산 담보대출	기타		대기업	중소기업	특수금융	기타	
등급 : 1. 우량	7,783,615	38,285,905	35,664,036	8,642,788	19,574,666	25,815,114	3,660,792	-	139,646,916
등급 : 2. 보통	-	2,196,911	2,256,967	-	6,546,463	22,034,264	302,574	661	33,336,120
소 계	7,783,615	40,482,816	37,921,023	8,642,788	26,121,149	47,849,399	4,163,366	661	172,983,036
대손충당금	(7,926)	(10,913)	(106,916)	(965)	(210,126)	(265,183)	(27,203)	(32)	(649,266)
합 계	7,775,689	40,471,903	37,814,105	8,641,823	25,911,023	47,584,215	4,136,163	629	172,333,770
당보에 의한 신용위험 경감효과	152	39,789,991	14,613,326	-	6,938,726	35,145,326	963,629	-	97,451,352

3) 당기말과 전기말 현재 연체되었으나 손상되지 않은 예치금과 대출채권의 연체기간별 구성내역은 다음과 같습니다.

<제183(당기)>

(단위: 백만원)						
구 분	개인		기업			합 계
	주거용부동산 담보대출	기타	대기업	중소기업	특수금융	
30일 이내 연체	172,933	96,029	18,074	48,834	12,290	348,160
30일~60일 연체	32,448	26,456	-	21,125	-	80,029
60일~90일 연체	13,564	12,240	22,341	22,079	-	70,224
90일 이상 연체	-	6,981	45	15,330	-	22,356
소 계	218,945	141,706	40,460	107,368	12,290	520,769
대손충당금	(2,168)	(27,018)	(587)	(7,381)	(8,344)	(45,498)
합 계	216,777	114,688	39,873	99,987	3,946	475,271
담보에 의한 신용위험 경감효과	215,073	67,803	2,914	75,236	-	361,026

<제182(전기)>

(단위: 백만원)						
구 분	개인		기업			합 계
	주거용부동산 담보대출	기타	대기업	중소기업	특수금융	
30일 이내 연체	223,603	107,439	18,474	278,913	1,252	629,681
30일~60일 연체	21,752	18,304	-	27,235	-	67,291
60일~90일 연체	11,644	14,345	10	9,504	-	35,503
90일 이상 연체	906	153	49	285	-	1,392
소 계	257,904	140,241	18,533	315,937	1,252	733,867
대손충당금	(1,980)	(19,805)	(190)	(7,143)	(1)	(29,119)
합 계	255,924	120,436	18,343	308,794	1,251	704,748
담보에 의한 신용위험 경감효과	252,771	66,459	11,530	249,454	-	580,214

4) 당기말과 전기말 현재 손상된 예치금과 대출채권 종류별 담보에 의한 신용위험 경감효과의 내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)							
구 분	개인		기업				합 계
	주거용부동산 담보대출	기타	대기업	중소기업	특수금융	기타	
손상된 대출채권	80,012	168,745	528,944	417,290	179,598	10	1,374,597
대손충당금	(5,223)	(89,603)	(284,105)	(133,544)	(43,873)	(8)	(568,356)
합 계	74,789	79,142	244,839	283,746	135,723	2	818,241
담보에 의한 신용위험 경감효과	78,052	48,657	117,306	279,995	-	-	525,010

<제182(전)기>

(단위: 백만원)							
구 분	개인		기업				합 계
	주거용부동산 담보대출	기타	대기업	중소기업	특수금융	기타	
손상된 대출채권	62,971	175,892	708,250	487,714	243,968	-	1,858,625
대손충당금	(4,487)	(89,009)	(369,525)	(178,327)	(105,528)	-	(784,894)
합 계	58,474	88,883	318,725	291,387	138,472	-	893,741
담보에 의한 신용위험 경감효과	61,138	38,141	185,593	326,800	-	-	589,670

(5) 채무증권의 신용등급별 구성 내역

1) 당기말과 전기말 현재 채무증권의 신용등급별 구성내역은 다음과 같습니다.

<제183(당기)>

(단위: 백만원)				
구 분	단기매매금융자산	매도가능금융자산	만기보유금융자산	합 계
AAA	336,858	12,840,449	6,990,682	20,167,989
AA- to AA+	496,005	2,563,272	636,118	3,695,395
A- to A+	2,351,779	2,226,752	120,568	4,699,099
BBB- to BBB+	539,477	1,095,902	-	1,635,379
Lower than BBB-	210,643	80,950	-	291,593
Unrated	797,998	406,962	-	1,204,960
합 계	4,732,760	19,214,287	7,747,368	31,694,415

<제182(전기)>

(단위: 백만원)				
구 분	단기매매금융자산	매도가능금융자산	만기보유금융자산	합 계
AAA	289,026	13,512,588	6,315,025	20,116,639
AA- to AA+	485,301	3,753,037	685,880	4,924,218
A- to A+	1,972,002	1,705,606	50,259	3,727,867
BBB- to BBB+	771,205	894,125	-	1,665,330
Lower than BBB-	264,861	90,528	-	355,389
Unrated	813,928	423,575	-	1,237,503
합 계	4,596,323	20,379,459	7,051,164	32,026,946

2) 외부평가기관 신용등급에 따른 유가증권의 신용건전성 기준은 다음과 같습니다.

구 분	한신평	한기평	S&P	Fitch	Moody's
AAA	-	-	AAA	AAA	Aaa
AA- to AA+	AAA	AAA	AA- to AA+	AA- to AA+	Aa3 to Aa1
A- to A+	AA- to AA+	AA- to AA+	A- to A+	A- to A+	A3 to A1
BBB- to BBB+	BBB- to A	BBB- to A	BBB- to BBB+	BBB- to BBB+	Baa3 to Baa1
Lower than BBB-	Lower than BBB-	Lower than BBB-	Lower than BBB-	Lower than BBB-	Lower than Baa3
Unrated	Unrated	Unrated	Unrated	Unrated	Unrated

3) 당기말과 전기말 현재 채무증권의 신용건전성 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당기)	제182(전기)
연체 및 손상되지 않은 유가증권	31,694,415	32,026,946
손상된 유가증권	-	-
합 계	31,694,415	32,026,946

(6) 당기말과 전기말 현재 담보 실행으로 취득한 자산은 없습니다.

(7) 지역별 구성내역

당기말과 전기말 현재 금융상품의 지역별 구성내역은 다음과 같습니다.

<제183(당기)>

(단위: 백만원)									
구 분	한국	미국	영국	일본	독일	버트남	중국	기타	합 계
<예치금>									
은행	212,091	588,800	393,092	18	1,928	48	1,152	38,315	1,231,240
정부/공공기관/중앙은행	8,788,083	70,399	821	4,282	-	-	-	34,744	8,873,329
예치금 소계	8,990,174	658,999	393,913	4,299	1,928	48	1,152	71,059	10,109,589
<대출자산>									
은행	1,983,095	49,991	-	511,809	290,444	68,168	1,240,920	1,411,939	5,558,186
개인	85,879,914	179,274	1,157	5,173	2,598	124	28,877	118,877	88,015,984
주거용부동산담보대출	43,059,453	9,034	-	840	33	-	448	2,208	43,071,816
기타	42,820,461	170,240	1,157	4,533	2,565	124	28,429	116,669	42,944,178
정부/공공기관/중앙은행	2,245,119	-	-	-	-	-	-	-	2,245,119
기업	82,093,220	589,034	91,917	792	89,410	330,031	709,459	2,171,129	88,074,992
대기업	28,884,187	25,222	91,433	-	89,208	58,214	222,525	509,588	27,878,443
중소기업	51,993,357	519,961	424	792	173	273,817	486,934	1,092,773	54,389,231
특수금융	3,214,781	43,841	-	-	-	-	-	568,621	3,827,243
기타	895	10	-	-	31	-	-	139	1,075
대출차권 소계	172,001,348	818,299	93,074	517,574	382,452	398,323	1,979,258	3,701,945	179,892,271
<당기매대금융자산>									
채무증권	4,723,293	-	-	-	-	-	9,487	-	4,732,780
금융채권	-	-	224,558	-	-	-	-	-	224,558
당기매대금융자산 소계	4,723,293	-	224,558	-	-	-	9,487	-	4,957,316
<매도가능금융자산>									
채무증권	19,022,891	74,354	-	-	-	-	-	117,042	19,214,287
<만기보유금융자산>									
채무증권	7,747,388	-	-	-	-	-	-	-	7,747,388
합 계	212,475,074	1,549,652	711,543	521,872	384,378	398,371	1,989,875	3,890,048	221,920,811

<제182(전)기>

(단위: 백만원)									
구 분	한국	미국	영국	일본	독일	버트남	중국	기타	합 계
<예치금>									
은행	8,749	859,497	485,255	567	11,520	-	2,313	31,452	1,399,353
정부/공공기관/중앙은행	5,121,535	119,890	2,588	-	-	-	-	31,154	5,275,147
예치금 소계	5,130,284	979,387	487,823	567	11,520	-	2,313	62,606	6,674,500
<대출차권>									
은행	2,587,714	220,387	13,197	272,719	221,053	68,969	1,501,301	1,510,998	6,378,336
개인	78,514,041	183,585	1,399	5,811	2,519	177	14,384	105,609	78,607,525
주거용부동산담보대출	40,773,028	8,680	42	717	33	-	800	3,003	40,786,301
기타	37,741,015	154,905	1,357	5,094	2,486	177	13,584	102,606	38,021,224
정부/공공기관/중앙은행	3,388,678	-	-	-	-	-	-	-	3,388,678
기업	75,720,275	644,020	74,982	454	78,439	238,368	238,734	1,719,950	78,709,222
대기업	25,538,953	67,389	50,770	-	78,258	55,462	72,073	389,208	26,248,091
중소기업	48,499,044	542,337	24,212	454	171	157,364	164,661	778,153	48,164,396
특수금융	3,883,489	34,312	-	-	-	23,542	-	554,583	4,295,896
기타	609	2	-	-	12	-	-	28	849
대출차권 소계	180,168,708	1,027,992	89,578	279,984	300,011	305,514	1,752,419	3,338,555	187,259,759
<단기대매금융자산>									
채무증권	4,596,323	-	-	-	-	-	-	-	4,596,323
금융채권	-	-	78,337	-	-	-	-	-	78,337
단기대매금융자산 소계	4,596,323	-	78,337	-	-	-	-	-	4,672,660
<대도가능금융자산>									
채무증권	20,125,478	152,078	-	-	-	-	-	101,905	20,379,459
<만기보유금융자산>									
채무증권	7,051,184	-	-	-	-	-	-	-	7,051,184
합 계	197,071,953	2,159,457	653,738	279,551	311,531	305,514	1,754,732	3,501,068	208,037,542

(주) 지역별 구성내역은 미상각잔액과 대손충당금을 차감한 순장부금액입니다.

(8) 산업별 구성내역

당기말과 전기말 현재 금융상품의 산업별 구성내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)									
구분	금융 및 보험업	제조업	도매 및 소매업	부동산임대 및 사업 서비스업	건설업	숙박 및 음식점업	기타	개입고려	합계
<예치금>									
은행	1,221,742	-	-	-	-	-	9,488	-	1,231,240
정부/공공기관/중앙은행	8,745,699	-	-	-	-	-	132,630	-	8,878,329
예치금 소계	9,967,441	-	-	-	-	-	142,128	-	10,109,569
<대출차관>									
은행	4,633,712	2,248	-	187,727	-	-	532,481	-	5,558,168
개인	-	-	-	-	-	-	-	88,015,994	88,015,994
주거용부동산 담보대출	-	-	-	-	-	-	-	43,071,818	43,071,818
기타	-	-	-	-	-	-	-	42,944,178	42,944,178
정부/공공기관/중앙은행	2,245,119	-	-	-	-	-	-	-	2,245,119
기업	2,117,871	33,341,384	11,902,841	16,091,411	2,619,362	4,343,416	15,658,707	-	66,074,992
대기업	1,072,891	16,733,484	3,658,366	823,715	941,226	271,617	4,377,142	-	27,678,443
중소기업	486,000	16,598,878	8,238,059	14,237,977	1,293,335	4,030,598	9,485,388	-	54,388,231
특수금융	558,979	10,480	6,348	1,029,708	384,799	41,199	1,795,752	-	3,627,243
기타	1	564	70	11	-	2	427	-	1,075
대출차관 소계	9,196,702	33,343,830	11,902,841	16,279,138	2,619,362	4,343,416	16,191,188	88,015,994	179,892,271
<단기매매금융자산>									
채무증권	2,470,240	391,102	390,551	382,937	-	19,871	1,096,059	-	4,732,760
금융채권	224,556	-	-	-	-	-	-	-	224,556
단기매매금융자산 소계	2,694,796	391,102	390,551	382,937	-	19,871	1,096,059	-	4,957,316
<매도가능금융자산>									
채무증권	14,014,888	788,100	102,049	618,774	201,711	-	3,508,787	-	19,214,297
<만기보유금융자산>									
채무증권	1,624,910	-	-	92,226	124,932	-	5,705,300	-	7,747,368
합계	37,696,735	34,502,832	12,395,441	17,353,075	2,946,005	4,383,287	26,645,442	88,015,994	221,920,811

<제182(전)기>

(단위: 백만원)									
구분	금융 및 보험업	제조업	도매 및 소매업	부동산임대 및 사업 서비스업	건설업	숙박 및 음식점업	기타	개인고객	합계
<예치금>									
은행	1,393,303	-	-	-	-	-	6,050	-	1,399,353
정부/공공기관/중앙은행	5,229,588	-	-	-	-	-	45,581	-	5,275,147
예치금 소계	6,622,891	-	-	-	-	-	51,631	-	6,674,500
<대출차권>									
은행	5,702,457	-	-	114,037	-	-	559,842	-	6,376,336
개인	-	-	-	-	-	-	-	78,807,525	78,807,525
주거용부동산 담보대출	-	-	-	-	-	-	-	40,788,301	40,788,301
기타	-	-	-	-	-	-	-	38,021,224	38,021,224
정부/공공기관/중앙은행	3,349,287	-	-	-	-	-	17,389	-	3,366,676
기업	1,835,093	29,613,583	11,222,133	14,304,243	2,728,251	4,008,279	14,999,681	-	78,703,222
대기업	875,849	15,707,971	3,593,433	834,388	1,118,658	209,497	4,108,295	-	26,248,091
중소기업	528,955	13,898,220	7,628,538	12,442,857	1,245,458	3,771,417	8,652,955	-	48,184,396
특수금융	432,289	9,034	-	1,226,984	382,137	27,381	2,238,101	-	4,295,898
기타	-	338	184	34	-	3	310	-	849
대출차권 소계	10,886,837	29,613,583	11,222,133	14,418,280	2,728,251	4,008,279	15,578,892	78,807,525	167,259,759
<단기대금융자자산>									
차무융권	2,187,021	685,581	218,070	375,145	-	9,682	1,180,884	-	4,596,323
금융채권	78,337	-	-	-	-	-	-	-	78,337
단기대금융자자산 소계	2,243,358	685,581	218,070	375,145	-	9,682	1,180,884	-	4,674,660
<대도가금융자산>									
차무융권	14,759,887	705,995	110,571	640,818	225,948	20,124	3,918,118	-	20,379,459
<만기보유금융자산>									
차무융권	1,995,848	-	-	188,702	184,978	-	4,721,638	-	7,051,164
합계	38,508,817	30,985,119	11,550,774	15,802,945	3,117,177	4,038,084	25,427,121	78,807,525	208,037,542

(주) 산업별 구성내역은 미상각잔액과 대손충당금을 차감한 순장부금액입니다.

3-2. 시장위험

시장위험은 금리, 주가, 환율 등과 같은 시장가격의 변동으로 인해 발생할 수 있는 손실 위험을 의미합니다. 당행은 단기매매차익 획득을 목적으로 보유하는 유가증권, 외환포지션, 파생금융상품 등을 트레이딩포지션으로 관리하고 여신, 예치금 및 단기매매차익 획득 목적을 제외한 채무증권 등으로 구성된 금리민감 자산과 수신, 차입금, 사채 등으로 구성된 금리민감 부채, 금리 위험을 회피하고자 위험회피수단으로 사용하는 금리민감 파생상품을 비트레이딩 포지션으로 관리하고 있습니다.

당행은 리스크정책위원회에서 시장위험 관리에 관한 정책수립과 한도설정 등 의사결정 기능을 수행하며, 리스크총괄부는 전행의 운용부서 및 데스크에 대한 종합적인 시장위험관리를 수행하고 리스크공학부는 시장리스크시스템관리 및 Middle Office 기능을 수행하고 있습니다.

시장위험 관리의 기본은 시장위험으로 인한 최대손실가능액을 일정수준 이내로 유지하기 위한 한도관리입니다. 리스크정책위원회는 운용 부서 및 데스크별 VaR한도, 손실한도, 민감도한도, 투자한도 및 포지션한도, 스트레스손실한도 등을 설정하여 운영하고 있으며, 리스크총괄부 및 리스크공학부는 운용부서와는 독립적으로 운영상황을 모니터링하며, 리스크정책위원회 및 리스크관리위원회에 정기적으로 보고하고 있습니다. 또한 공정가액평가협의회 및 리스크총괄부는 각 사업부문의 신상품(또는 거래)이 시행되기 전에 공정가액 평가방법에 대한 검토 및 리스크 평가 등을 수행하고, 파생상품 및 구조화상품 리스크리뷰협의회에서는 리스크요인에 대한 점검, 투자규모 제한을 검토하는 등 합리적 의사결정을 지원하여 사전에 리스크요인에 대한 객관적인 분석 및 검토가 이루어지도록 하고 있습니다.

(1) 트레이딩 포지션의 시장위험 관리

트레이딩 포지션의 시장위험 측정대상인 외환, 주식, 채권, 파생상품 거래데이터는 프론트시스템에 거래를 입력하여 관리하고, 시장리스크관리시스템(RiskWatch)으로 자동 인터페이스하여 일별 리스크측정 및 한도관리를 수행하고 있습니다. 또한 통계적 방법에 의한 리스크 측정을 보완하고, 경제환경의 급격한 변화에서의 영향도 및 손실규모를 관리하기 위하여 정기적으로 Stress testing을 병행하여 실시하고 있으며, 이를 통해 당행의 위기상황시 손실규모가 일정범위 이내로 관리되도록 하고 있습니다.

1) 트레이딩 포지션에서 발생하는 시장위험의 측정방법

당행은 트레이딩 포지션에 노출된 금리, 주가, 환율 등의 각 위험에 대하여 역사적 시뮬레이션 VaR(Value at Risk) 방법론을 적용하여 99.9% 신뢰구간에서 시장위험을 산출합니다. VaR는 반대의 시장 상황으로부터 현재 포지션에 대한 잠재적인 손실의 통계적 평가를 기초로 하고 있습니다. 이는 99.9%의 확신의 수준에서 당행이 발생가능한 최대손실금액을 표현하고 있습니다. 그러므로 실제 손실이 VaR의 측정치보다 더 클수 있는 통계적인 가능성(0.1%)이 존재합니다.

VaR 모델은 측정시점의 일별 포지션은 유지가 됨과 동시에 각 측정시점으로부터 과거 10일간의 시장 움직임이 향후에도 지속될 것이라는 가정에 따라 예상손실을 측정하고 있습니다.

과거 움직임에 대한 당행의 평가는 과거 5년간의 데이터를 기초로 하고 있고, 현재 포지션에서 금리, 주가, 환율, 옵션변동성의 역사적 변화를 직접적으로 적용하는 역사적인 시뮬레이션 방법을 사용하고 있습니다. 또한 VaR 계산상에서 사용되는 가정과 매개변수의 유효성을 테스트하는 것을 정기적으로 모니터링하고 있으며, 이 방법의 적용은 더 큰 시장 움직임에 대한 현상의 한계의 범위를 넘어서는 손실을 예방하지는 않습니다.

당행의 VaR 한도는 매년 리스크관리위원회에서 설정하며, 이 한도에 대한 실제 최대 노출액은 매일 검토합니다. VaR 모델의 품질은 VaR 결과에 대한 사후 검증에 의하여 계속적으로 모니터링하고 있고, 모든 사후검증 결과를 이사회에 보고합니다.

2) 트레이딩 포지션의 VaR

당행은 연결재무제표 기준으로 트레이딩 포트폴리오에 대한 VaR를 관리하고 있습니다. 당행이 보유중인 트레이딩 포지션에 대한 보고기간 중 최소, 최대, 평균 VaR 및 보고기간 말의 VaR의 내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)				
구 분	평균	최대	최소	당기말
금리위험	17,302	25,863	8,721	13,414
주가위험	4,333	7,362	2,493	3,442
환율위험(주)	43,872	54,355	34,928	49,372
옵션변동성위험	161	259	66	66
분산효과	(18,668)	(32,344)	(5,246)	(13,268)
Total VaR	47,000	55,495	40,962	53,026

<제182(전)기>

(단위: 백만원)				
구 분	평균	최대	최소	전기말
금리위험	21,604	28,670	14,413	25,136
주가위험	5,677	13,250	2,737	7,341
환율위험(주)	45,176	50,933	41,554	43,993
옵션변동성위험	278	350	198	208
분산효과	(25,837)	(40,931)	(18,457)	(27,001)
Total VaR	46,898	52,272	40,445	49,677

(주) 트레이딩 포지션 및 비트레이딩 포지션을 포함한 금액입니다.

(2) 비드레이딩 포지션의 시장위험 관리

비드레이딩 포지션에서 발생하는 가장 주요한 시장위험은 금리위험입니다. 그러므로 비드레이딩 포지션의 시장위험은 시장금리의 변동으로 인해 순자산 가치 및 순이자 이익이 변동하는 위험으로 측정됩니다.

당행은 리스크정책위원회에서 금리위험관리에 관한 정책수립과 세부한도설정 등 의사결정기능을 수행하며, 동 원칙 및 한도내에서 국외점포를 비롯한 자회사 및 자금부, 신탁부, 종금시장부 등 계정별 관리부서는 1차적으로 금리위험을 인식하고 관리합니다. 리스크총괄부 및 리스크공학부는 리스크정책위원회의 금리위험관련 의사결정을 지원하고 금리위험 허용한도 초과여부를 모니터링하며 회사 전체의 금리위험을 평가하고 관리합니다.

당행은 ALM시스템(OPSA)을 통해 금리갭, 듀레이션갭, 시나리오별 NII(Net Interest Income)시뮬레이션 등 다양한 분석방법을 이용하여 금리리스크를 측정 및 관리하고 있으며, 금리VaR, 금리EaR, 금리갭비율에 대해서는 한도를 설정하여 월별로 모니터링하고 있습니다. 또한 Stress testing을 통하여 다양한 위기상황에서 금리리스크에 미치는 영향을 평가하고 있습니다.

1) 비드레이딩 포지션에서 발생하는 시장위험의 측정방법

당행은 역사적인 금리시나리오에 의하여 발생하는 순자산가치의 변동분포를 파악하여 향후 1년간의 최대손실 예상액인 금리 VaR(Value at Risk)를 확률론적으로 평가·관리합니다. 또한, 자금량 시나리오를 바탕으로 하여, 과거 기준금리와 연평균금리와의 변동성을 활용한 역사적인 금리시나리오에 의해 발생하는 순이자이익의 변동분포를 파악하여 향후 1년간의 최대 순이자이익 감소 예상액인 금리 EaR(Earnings at Risk)을 확률론적으로 평가·관리합니다.

또한 국제결제은행(Bank for International Settlements, BIS)에서 제시한 표준방법론에 따라, 만기구간별 표준 수정듀레이션 및 금리변동성을 이용하여 금리 VaR를 산출하고, 만기구간별 충격기간 및 금리변동성을 이용하여 금리 EaR을 산출하고 있습니다.

2) 비드레이딩 포지션의 금리VaR 및 금리EaR

당기말과 전기말 현재 BIS에서 제시한 표준방법론에 따라 산출된 비드레이딩 포지션에 대한 금리VaR 및 금리EaR 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
금리VaR	388,076	315,016
금리EaR	279,560	310,186

(3) 외환위험

당행은 국외지점 등의 현물, 선물 외환포지션을 모두 포함한 종합포지션에 기반하여 외환위험을 관리하고 있습니다. 리스크정책위원회는 시장리스크 한도를 기반으로 부서별, 데스크별 외환포지션한도 등을 설정하여, 각 영업단위별로 트레이딩 및 비드레이딩 활동에서의 환위험을 관리 및 감독하고 있습니다. 당행 금융공학센터에서 전행의 환포지션을 집중하여 관리하고 있습니다. 동 부서의 데스크 및 딜러들은 설정된 시장리스크 및 외환포지션 한도 내에서 현물환과 통화파생상품 거래를 통하여 종합포지션을 관리합니다. 주로 미국 달러(USD), 일본 엔화(JPY), 중국 위안화(CNY), 유로화(EUR) 위주로 거래되고 있으며, 기타 외환은 제한적으로 운용합니다.

당기말과 전기말 현재 외화자산·부채의 통화별 구성내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)						
구분	USD	JPY	EUR	CNY	기타	합계
<자 산>						
현금및예치금	1,471,480	91,370	80,902	18,436	115,308	1,777,496
단기매금융자산	-	-	-	-	224,556	224,556
파생상품자산	126,925	100	5,205	-	158	132,388
대출채권	14,062,041	994,184	637,476	637	836,039	16,530,377
매도가능금융자산	675,575	-	122	-	105,979	781,676
만기보유금융자산	-	-	-	-	5,020	5,020
기타금융자산	1,786,838	191,826	32,905	246,799	60,671	2,319,039
자산 합계	18,122,859	1,277,480	756,610	265,872	1,347,731	21,770,552
<부 채>						
예수부채	6,354,773	879,702	191,564	30,480	512,172	7,968,691
단기매금융부채	-	-	-	-	428,936	428,936
파생상품부채	68,522	202	-	-	77	68,801
차입부채	6,119,708	166,020	433,668	131	96,843	6,806,370
사채	3,069,650	585,209	-	-	389,648	4,044,507
기타금융부채	1,903,925	83,951	102,793	228,712	120,476	2,439,857
부채 합계	17,516,578	1,715,084	728,025	259,323	1,538,152	21,757,162
순자산계정	606,281	(437,604)	28,585	6,549	(190,421)	13,390
난외 파생상품 노출액	(418,456)	209,612	(41,588)	(117,850)	136,402	(231,880)
외화 순 노출액	187,825	(227,992)	(13,003)	(111,301)	(54,019)	(218,480)

<제182(전)기>

(단위: 백만원)						
구분	USD	JPY	EUR	CNY	기타	합계
<자산>						
현금및예치금	1,990,282	110,546	97,399	21,192	118,235	2,337,654
단기매매금융자산	-	-	-	-	76,337	76,337
파생상품자산	188,557	-	7,404	9	1,871	197,841
대출채권	11,399,188	1,233,492	737,966	-	857,630	14,228,176
매도가능금융자산	659,569	-	132	-	126,997	786,698
만기보유금융자산	-	-	-	-	4,946	4,946
기타금융자산	1,298,961	171,726	104,630	6,345	49,113	1,630,775
자산 합계	15,536,557	1,515,764	947,431	27,546	1,235,129	19,262,427
<부채>						
예수부채	5,438,161	1,362,573	159,530	21,606	568,132	7,550,002
단기매매금융부채	-	-	-	-	398,596	398,596
파생상품부채	130,605	20	-	9	1,862	132,496
차입부채	5,013,288	450,429	373,505	1,335	47,411	5,885,968
사채	2,486,800	653,029	-	104,292	507,813	3,751,934
기타금융부채	1,101,084	101,586	374,465	6,988	241,616	1,825,739
부채 합계	14,169,938	2,567,637	907,500	134,230	1,765,430	19,544,735
순자산계정	1,366,619	(1,051,873)	39,931	(106,684)	(530,301)	(282,308)
내외 파생상품 노출액	(1,216,997)	802,818	(87,811)	55,433	302,090	(144,467)
외화 순 노출액	149,622	(249,055)	(47,880)	(51,251)	(228,211)	(426,775)

3-3. 유동성위험

당행은 리스크정책위원회에서 유동성위험관리에 관한 정책수립과 세부한도설정 등의사결정 기능을 수행하며, 동 원칙과 한도 내에서 국외점포를 비롯한 자회사와 자금부, 신탁부, 중금시장부 등 계정별 관리부서가 1차적으로 유동성위험을 인식하고 관리합니다. 리스크총괄부와 리스크공학부는 리스크정책위원회의 유동성위험 관련 의사결정을 지원하고 유동성위험허용한도를 모니터링하며 은행전체 유동성위험을 평가·관리합니다.

당행은 다음의 기본 원칙에 따라 유동성위험을 관리하고 있습니다.

- 1) 충분한 양의 자금을 필요한 시점에, 적절한 수준의 조달비용으로 조달
- 2) 허용한도 및 조기경보지표 관리를 통하여 위험을 적정수준으로 유지하고, 관련 위험 요인을 사전에 관리
- 3) 자금의 조달원천과 만기를 효과적으로 분산시킬 수 있는 자금조달전략을 수립하여 손실을 최소화하고 안정적으로 수익확보
- 4) 정상적인 상황 및 위기상황 하에서 적시에 지급결제 채무를 이행할 수 있도록 매일 일중 유동성 포지션 및 위험 관리
- 5) 유동성위기 발생에 대비하여 위기상황분석을 정기적으로 실시하고, 위기발생시 조치할 수 있는 비상조달계획을 수립
- 6) 유동성 관련 비용, 편익 및 위험은 상품가격결정, 성과평가 및 신상품 승인절차에 반영

당행은 ALM시스템을 통해 유동성갭, 유동성비율, 예대율, 고객행동모형을 반영한 실질유동성갭 등 다양한 분석방법을 이용하는 한편, 리스크한도, 조기경보지표, 모니터링지표 등 다양한 관리지표를 통하여 원화 및 외화 유동성리스크를 관리하고 있습니다. 자산과 부채의 만기구조 분석시 요구불예금의 경우는 고객의 지급요청시 언제든지 인출이 가능하여 최단기로 분류할 수 있으나, 평상시에는 일정비율의 평잔을 유지하는 고객의 행동을 감안하여 비핵심예금을 최단기로 구분하여 유동성위험을 관리합니다.

(1) 금융상품의 잔존기간

당기말과 전기말 현재 금융상품자산과 금융상품부채의 잔존기간별 구성내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)							
구 분	1월이하	1월~3월	3월~6월	6월~1년	1년~5년	5년초과	합 계
<자산>							
현금및예치금	12,320,995	107,311	108,591	-	159	-	12,535,056
단기대여금융자산	5,912,990	-	-	-	-	-	5,912,990
파생상품자산	1,300,485	264,459	85,088	120,408	255,611	50,797	2,078,828
대출채권	18,208,616	22,669,783	29,057,489	45,138,788	42,753,285	44,137,797	201,963,716
대도가능금융자산	21,098,577	-	-	-	-	-	21,937,911
반기보유금융자산	117,385	538,969	259,439	903,656	6,010,430	1,024,843	8,854,702
기타금융자산	4,676,497	-	-	-	3,333,639	-	8,010,336
자산 합계	63,633,525	23,560,502	29,508,585	48,180,850	52,353,304	46,054,771	261,291,537
<부채>							
당기손익인식지령금융부채	-	-	-	-	6,478	-	6,478
예수부채	88,296,656	20,904,172	25,483,994	39,107,795	7,893,842	1,701,252	181,389,711
단기대여금융부채	428,936	-	-	-	-	-	428,936
파생상품부채	1,160,320	24,644	27,272	58,291	350,109	433,058	2,051,894
차입부채	4,054,912	2,031,139	1,632,984	1,551,724	3,102,558	548,389	13,121,708
사채	205,707	874,544	2,180,305	4,613,218	8,396,624	2,173,508	18,444,102
기타금융부채	13,163,178	-	-	-	120,006	-	13,283,182
부채 합계	105,311,707	23,834,499	29,524,555	45,329,026	19,889,917	4,856,205	228,725,809

<제182(전기)>

(단위: 백만원)							
구 분	1월이하	1월~3월	3월~6월	6월~1년	1년~5년	5년초과	합 계
<자산>							
현금및예치금	9,202,715	4,757	-	-	148	-	9,207,820
단기대매금융자산	5,602,158	-	-	-	-	-	5,602,158
파생상품자산	1,422,679	308,028	60,241	123,385	688,459	738,877	3,317,847
대출차권	19,048,953	21,261,587	28,095,001	41,203,147	41,481,379	41,091,685	190,201,712
매도가능금융자산	22,070,991	-	-	-	-	1,519,899	23,590,890
만기보유금융자산	144,315	803,998	150,711	1,530,440	5,252,828	203,083	8,085,373
기타금융자산	3,099,970	-	-	-	3,875,838	-	6,775,808
자산 합계	60,591,781	22,398,348	28,305,953	42,858,952	51,078,648	43,551,324	248,781,008
<부채>							
예수부채	76,434,655	19,273,315	24,312,813	40,588,601	6,844,088	1,161,196	168,392,668
단기대매금융부채	398,598	-	-	-	-	-	398,598
파생상품부채	1,214,648	48,717	42,157	64,830	379,475	416,179	2,164,008
차입부채	2,519,245	1,734,477	1,698,259	1,344,545	2,697,224	468,252	10,690,002
사채	249,418	931,538	1,760,072	3,444,447	9,555,681	4,219,942	20,161,296
기타금융부채	11,588,250	-	-	-	138,934	-	11,705,184
부채 합계	92,382,812	21,998,047	28,013,301	45,420,423	19,415,602	6,293,599	213,511,754

(주1) 표시된 금액은 금융상품자산 및 금융상품부채의 현금 및 이자 현금흐름을 모두 포함하고 있습니다.

(주2) 확인되지 않은 현금흐름을 기초로 당행의 지급의무가 발생하는 가장 빠른 만기일로 분류하였습니다. 즉시 처분가능한 단기대매금융상품과 처분제한된 자산을 제외한 매도가능금융자산은 1개월 이내 최단기로 분류하였습니다.

(2) 난외항목의 잔존기간

당행이 제공한 사채발행, 융자담보 등 금융보증에 해당하는 지급보증, 대출약정 및 기타 신용 공여의 경우 약정 만기가 존재하나, 거래 상대방이 지급을 요청하는 경우 즉시 지급을 이행하여야 합니다.

당기말과 전기말 현재 관련 난외항목의 구성 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
금융보증	4,421,949	3,674,928
대출약정 및 기타 신용관련 부채	71,177,412	72,013,978
합 계	75,599,361	75,688,906

3-4. 금융상품의 공정가치 측정

활성시장에서 거래되는 금융상품의 공정가치는 보고기간말 현재 고시되는 시장가격에 기초하여 산정됩니다. 당행이 보유하고 있는 금융자산의 공시되는 시장가격은 매매중개기관의 공시가격(dealer price quotations)에 기초합니다.

활성시장에서 거래되지 아니하는 금융상품(예: 장외파생상품)의 공정가치는 평가기법을 사용하여 결정하거나, 독립적인 외부전문평가기관의 평가결과를 이용합니다.

당행은 다양한 평가기법을 활용하고 있으며 보고기간말 현재 시장상황에 근거하여 합리적인 가정을 수립하고 있습니다.

당행이 사용하는 공정가치 평가기법은 합리적인 판단력과 거래의사가 있는 독립된 당사자 사이의 최근 거래를 사용하는 방법, 실질적으로 동일한 다른 금융상품의 현행 공정가치를 이용할 수 있다면 이를 참조하는 방법, 추정현금흐름할인방법, 옵션가격결정모형 등이 있습니다. 예를 들어 이자율 스왑의 공정가치는 미래예상현금흐름의 현재가치로 계산되며 외환선도계약의 공정가치는 보고기간말의 고시선도환율을 적용하여 산출됩니다.

당행은 금융상품의 공정가치를 다음의 3가지 수준으로 분류하여 공시합니다.

- 수준 1: 활성시장에서 공시되는 가격을 공정가치로 측정하는 금융상품의 경우, 동 금융상품의 공정가치는 수준 1로 분류하고 있습니다.
- 수준 2: 평가기법을 사용하여 금융상품의 공정가치를 측정하는 경우, 유의적인 투입변수가 시장에서 관측한 정보에 기초한다면 동 금융상품의 공정가치는 수준 2로 분류하고 있습니다.
- 수준 3: 평가기법을 사용하여 금융상품의 공정가치를 측정하는 경우, 유의적인 투입변수가 시장에서 관측불가능한 정보에 기초한다면 동 금융상품의 공정가치는 수준 3으로 분류하고 있습니다.

(1) 공정가치로 측정하는 금융상품

1) 당기말과 전기말 현재 재무상태표에서 공정가치로 측정하는 금융상품의 공정가치
서열체계의 수준별 내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)					
구 분		수준 1	수준 2	수준 3	합 계
단기매매금융자산	채무증권	-	4,732,760	-	4,732,760
	지분증권	4,625	951,049	-	955,674
	금융채권	224,556	-	-	224,556
	소 계	229,181	5,683,809	-	5,912,990
파생상품자산	매매목적	-	1,175,582	17,673	1,193,255
	위험회피목적	-	55,583	61,271	116,854
	소 계	-	1,231,165	78,944	1,310,109
매도가능금융자산	채무증권	6,697,057	12,517,230	-	19,214,287
	지분증권	1,030,409	653,949	1,039,266	2,723,624
	소 계	7,727,466	13,171,179	1,039,266	21,937,911
자산 합계		7,956,647	20,086,153	1,118,210	29,161,010
당기손익인식지정금융부채	예수부채	-	-	6,139	6,139
단기매매금융부채	금융수부채	428,936	-	-	428,936
파생상품부채	매매목적	-	1,129,446	5,668	1,135,114
	위험회피목적	-	18,853	28,763	47,616
	소 계	-	1,148,299	34,431	1,182,730
부채 합계		428,936	1,148,299	40,570	1,617,805

<제182(전)기>

(단위: 백만원)					
구 분		수준 1	수준 2	수준 3	합 계
단기매대금융자산	채무증권	19,657	4,576,666	-	4,596,323
	지분증권	25,211	904,287	-	929,498
	금융채권	76,337	-	-	76,337
	소 계	121,205	5,480,953	-	5,602,158
파생상품자산	매매목적	10	1,279,446	25,973	1,305,429
	위험회피목적	-	100,615	51,597	152,212
	소 계	10	1,380,061	77,570	1,457,641
매도가능금융자산	채무증권	6,636,624	13,742,835	-	20,379,459
	지분증권	1,601,738	545,815	1,063,678	3,211,231
	소 계	8,238,362	14,288,650	1,063,678	23,590,690
자산 합계		8,359,577	21,149,664	1,141,248	30,650,489
단기매대금융부채	금융채권	398,596	-	-	398,596
파생상품부채	매매목적	-	1,165,169	22,581	1,187,750
	위험회피목적	-	44,042	191,345	235,387
	소 계	-	1,209,211	213,926	1,423,137
부채 합계		398,596	1,209,211	213,926	1,821,733

2) 당기와 전기 중 공정가치로 측정하는 금융상품 중 수준 1과 수준 2 사이의 이동금액은 없습니다.

3) 공정가치 수준 3으로 분류된 금융상품의 내역

당기와 전기 중 공정가치 수준 3에 해당되는 금융상품의 증감내역은 다음과 같습니다.

<제183(당기)>

(단위: 백만원)				
구 분	매도가능금융자산	파생상품자산 (부채)	당기손익인식지정 금융부채	합 계
기초	1,063,678	(136,356)	-	927,322
총손익				
당기손익인식금액(주1)	(115,451)	166,918	32	51,499
기타포괄손익인식금액	102,428	-	-	102,428
매입/발행	167,038	368	(6,623)	160,783
결제	(201,992)	13,635	452	(187,905)
수준 3으로부터 이동(주2)	(3,457)	(52)	-	(3,509)
수준 3으로의 이동(주2)	27,022	-	-	27,022
기말	1,039,266	44,513	(6,139)	1,077,640

<제182(전기)>

(단위: 백만원)				
구 분	매도가능금융자산	파생상품자산 (부채)	당기손익인식지정 금융부채	합 계
기초	1,337,534	21,182	-	1,358,716
총손익				
당기손익인식금액(주1)	(65,150)	(153,246)	-	(218,396)
기타포괄손익인식금액	65,471	-	-	65,471
매입/발행	115,563	(1,729)	-	113,834
결제	(213,647)	(2,563)	-	(216,210)
수준 3으로부터 이동(주2)	(319,077)	-	-	(319,077)
수준 3으로의 이동(주2)	142,984	-	-	142,984
기말	1,063,678	(136,356)	-	927,322

(주1) 당기와 전기 중 공정가치 수준 3으로 분류된 금융상품의 증감내역 중 당기손익으로 인식된 금액과 보고기간 말 현재 보유하고 있는 금융상품 관련 당기손익 인식액은 포괄손익계산서 상 다음과 같은 개별항목으로 표시되고 있습니다.

구 분	(단위: 백만원)			
	제183(당)기		제182(전)기	
	당기손익 인식금액	보고기간말 보유 금융상품관련 당기손익 인식액	당기손익 인식금액	보고기간말 보유 금융상품관련 당기손익 인식액
당기매매금융상품관련손익	11,712	11,712	1,916	1,916
당기손익인식지정금융상품관련손익	32	32	-	-
매도가능금융자산처분손익	24,625	-	45,868	-
금융상품자산손실차손	(140,076)	(140,003)	(111,018)	(109,998)
기타영업손익	155,206	155,206	(155,162)	(155,162)
합 계	51,499	26,947	(218,396)	(263,244)

(주2) 해당 금융상품에 대한 판측가능한 시장 자료의 이용가능여부가 변경됨에 따라 수준간 이동이 발생하였습니다. 당행은 수준 간 이동을 발생시키는 사건이나 상황의 변동이 일어난 보고기간말에 수준의 변동을 인식합니다.

4) 공정가치 평가방법 및 투입변수

① 당기말과 전기말 현재 공정가치 수준 2로 분류된 금융상품의 공정가치 측정시 사용된 평가방법 및 유의적이지만 판측가능하지 않은 투입변수는 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)					
구 분		제183(당)기	제182(전)기	평가방법	투입변수
당기대금융자산	채무증권	4,732,780	4,576,668	현금흐름할인모형	할인율
	지분증권	961,049	904,287	순자산가치평가	주식, 채권 등 기초자산 가격
	소 계	5,693,809	5,480,953		
파생상품자산	매매목적	1,175,582	1,279,448	옵션모형	할인율, 환율, 변동성,
	위험회피목적	55,583	100,615	현금흐름할인모형	주가 및 상환지수 등
	소 계	1,231,165	1,380,061		
대도가능금융자산	채무증권	12,517,230	13,742,635	현금흐름할인모형	할인율
	지분증권	853,949	545,615	순자산가치평가	주식, 채권 등 기초자산 가격
	소 계	13,171,179	14,288,650		
자산 합계		20,068,153	21,149,664		
파생상품부채	매매목적	1,129,448	1,165,189	옵션모형	할인율, 환율, 변동성,
	위험회피목적	18,653	44,042	현금흐름할인모형	주가 및 상환지수 등
	소 계	1,148,299	1,209,211		
부채 합계		1,148,299	1,209,211		

② 당기말과 전기말 현재 공정가치 수준 3으로 분류된 금융상품의 공정가치 측정시 사용된 평가기법 및 유의적이지만 관측가능하지 않은 투입변수는 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)					
금융상품	가치평가기법	종류	장부금액	유의적이지만 관측가능하지 않은 투입변수	범위
파생상품자산	옵션모형(주)	주식 및 환율관련	13,819	기초자산의 변동성 상관계수	4.79%~32.73% (0.06%)
	옵션모형(주)	이자율관련	65,125	기초자산의 변동성 회귀계수 상관계수	0.16%~0.64% 0.00%~3.02% 12.16%~41.70%
	소 계		78,944		
매도가능금융자산	할인된 현금흐름 등	지분증권	1,039,266	할인율 성장률	2.29%~17.84% 0.00%~2.50%
자산 합계			1,118,210		
당기손익인식지정 금융부채	옵션모형(주)	주식 관련	6,139	기초자산의 변동성 상관계수	22.08%~28.19% 34.00%
파생상품부채	옵션모형(주)	주식 및 환율관련	1,854	기초자산의 변동성 상관계수	6.48%~35.57% (0.06%)~0.23%
	옵션모형(주)	이자율관련	32,577	기초자산의 변동성 회귀계수 상관계수	0.16%~0.64% 0.00%~3.02% 12.16%~41.70%
	소 계		34,431		
부채 합계			40,570		

(주) 파생상품 공정가치를 측정하기 위해 적용된 옵션모형은 Black-Scholes 모델, Hull-White 모델 등을 포함하고 있으며, 상품 유형에 따라 일부 상품에 대해서는 몬테카를로 시뮬레이션(Monte Carlo simulation) 등의 방법을 적용하고 있습니다.

<제182(전)기>

(단위: 백만원)					
금융상품	가치평가방법	종류	장부금액	유의적이지만 관측가능하지 않은 투입변수	범위
파생상품자산	옵션모형(주)	주식 및 환율관련	9,485	기초자산의 변동성 상관계수	5.63%~24.61% (34.85%~(39.25%)
	옵션모형(주)	이자율관련	68,075	기초자산의 변동성 회귀계수 상관계수	0.44%~0.45% 0.02%~2.05% 61.19%
	소 계		77,570		
매도가능금융자산	할인된 현금흐름 등	지분증권	1,063,678	할인율 성장률	2.70%~22.48% 0.00%
자산 합계			1,141,248		
파생상품부채	옵션모형(주)	주식관련	802	기초자산의 변동성 상관계수	5.63%~24.61% (34.85%~(39.25%)
	옵션모형(주)	이자율관련	213,124	기초자산의 변동성 회귀계수 상관계수	0.22%~0.51% 0.00%~5.12% 27.02%~94.60%
	부채 합계		213,926		

(주) 파생상품 공정가치를 측정하기 위해 적용된 옵션모형은 Black-Scholes 모델, Hull-White 모델 등을 포함하고 있으며, 상품 유형에 따라 일부 상품에 대해서는 몬테카를로 시뮬레이션(Monte Carlo simulation) 등의 방법을 적용하고 있습니다.

5) 관측가능하지 않은 투입변수의 변경에 대한 민감도

당기말과 전기말 현재 수준 3으로 분류된 금융상품의 공정가치 측정시 관측가능하지 않은 투입변수를 합리적으로 대체가능한 다른 투입변수로 변경하는 경우 당기손익 또는 기타포괄손익 등으로 인식되는 변동의 효과는 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)					
금융상품		당기손익		기타포괄손익	
		유리한 변동	불리한 변동	유리한 변동	불리한 변동
파생상품자산(주1)	주식 및 환율관련	430	(329)	-	-
	이자율관련	7,129	(12,929)	-	-
매도가능금융자산(주2)	지분증권	-	-	157,385	(37,118)
자산 합계		7,559	(13,258)	157,385	(37,118)
당기손익인식지정 금융부채(주1)	주식관련	5	(5)	-	-
	주식 및 환율관련	97	(113)	-	-
파생상품부채(주1)	이자율관련	6,853	(6,275)	-	-
	부채 합계	6,855	(6,383)	-	-

<제182(전)기>

(단위: 백만원)					
금융상품		당기손익		기타포괄손익	
		유리한 변동	불리한 변동	유리한 변동	불리한 변동
파생상품자산(주1)	주식 및 환율관련	165	(44)	-	-
	이자율관련	1,721	(1,848)	-	-
매도가능금융자산(주2)	지분증권	-	-	125,037	(42,633)
자산 합계		1,886	(1,892)	125,037	(42,633)
파생상품부채(주1)	주식관련	44	(165)	-	-
	이자율관련	15,062	(14,377)	-	-
자산 합계		15,106	(14,542)	-	-

- (주1) 주요 관측불가능한 투입변수의 기초자산의 변동성 또는 상관계수 등을 10%만큼 증가 또는 감소시킴으로써 공정가치 변동을 산출하고 있습니다.
- (주2) 주요 관측불가능한 투입변수의 성장률(0%~1%)과 할인율(-1%~1%)을 증가 또는 감소시킴으로써 공정가치 변동을 산출하고 있습니다.

(2) 상각후원가로 측정하는 금융상품

1) 상각후원가로 측정하는 금융상품의 공정가치 산출 방법은 다음과 같습니다.

계정과목	공정가치 산출 방법
현금및예치금	현금은 장부금액과 공정가치가 동일하며 예치금은 변동이자율 예치금과, 초단기성인 익일 예치금이 대부분이므로 공정가치의 대용치로 장부금액을 사용하였습니다.
대출채권	대출채권의 공정가치는 수취할 것으로 예상되는 미래 현금흐름을 시장이자율과 차주의 신용 위험 등을 고려한 할인율로 할인하여 산출하였습니다.
만기보유금융자산	한국자산평가(주), KBS채권평가(주)가 제공하는 최근거래일의 기준단가 중 작은 값을 공정가치로 산출하였습니다.
예수부채 및 차입부채	요구불예수부채, 어음관리계좌수탁금, 콜머니는 초단기성 부채로 장부금액을 공정가치로 평가하였으며, 나머지 예수부채와 차입부채는 계약상 현금흐름을 시장 이자율에 잔여위험을 고려한 할인율로 할인한 현재가치를 공정가치로 산출하였습니다.
사채	활성시장 가격을 기초로 하고 있습니다. 활성시장 가격이 유효하지 않는 경우, 계약상 현금흐름을 시장 이자율에 잔여위험을 고려한 할인율로 할인한 현재가치를 공정가치로 산출하였습니다.

2) 당기말과 전기말 현재 상각후원가로 측정하는 금융상품의 장부금액과 공정가치는 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

계정과목		장부금액				공정가치
		잔액	미실각잔액	충당금	합계	
현금및예치금	현금	2,417,685	-	-	2,417,685	2,417,685
	예치금	10,110,603	-	(1,034)	10,109,569	10,109,569
	소계	12,528,288	-	(1,034)	12,527,254	12,527,254
대출채권	가계대출	78,578,683	235,883	(208,821)	78,605,745	79,369,240
	기업대출	95,794,793	31,880	(1,148,045)	94,678,628	95,654,871
	공공및기타자금대출	2,092,730	1,365	(11,073)	2,083,022	2,085,248
	은행간자금대출	4,529,541	-	(4,665)	4,524,876	4,544,381
	소계	180,995,747	269,128	(1,372,604)	179,892,271	181,673,740
만기보유금융자산	국공채	5,092,893	-	-	5,092,893	5,335,159
	금융채	410,323	-	-	410,323	415,345
	회사채	2,244,152	-	-	2,244,152	2,300,530
	소계	7,747,368	-	-	7,747,368	8,052,034
기타금융자산		8,010,336	(61,451)	(61,519)	7,887,366	7,949,020
자산 합계		209,281,739	207,677	(1,435,157)	208,054,259	210,202,048
예수부채	요구불예수부채	65,800,092	-	-	65,800,092	65,800,092
	기한불예수부채	103,957,463	-	-	103,957,463	104,238,665
	양도성예금증서	1,872,852	-	-	1,872,852	1,880,082
	발행어음예수부채	3,241,082	-	-	3,241,082	3,240,906
	어음관리계좌수탁금	1,682,610	-	-	1,682,610	1,682,610
	기타	35,163	-	-	35,163	35,173
	소계	176,589,262	-	-	176,589,262	176,877,528
차입부채	클러니	1,625,328	-	-	1,625,328	1,625,328
	매출어음	31,059	-	-	31,059	30,934
	환매조건부채권매도	346,726	-	-	346,726	346,725
	차입부채	10,816,058	(1,504)	-	10,814,554	10,853,710
	외화수탁금	77,179	-	-	77,179	77,179
	소계	12,896,350	(1,504)	-	12,894,846	12,933,876
사채	원화사채	12,565,406	(26,825)	-	12,539,581	12,846,874
	외화사채	4,044,507	(12,680)	-	4,031,827	4,140,691
	소계	16,610,913	(39,505)	-	16,571,408	16,987,565
기타금융부채		13,339,973	(2,296)	-	13,337,677	13,313,083
부채 합계		219,436,498	(43,305)	-	219,393,193	220,112,052

<제182(전)기>

(단위: 백만원)						
계 정 과 목		장부금액				공정가치
		잔 액	미상각잔액	충당금	합 계	
현금및예치금	현금	2,532,041	-	-	2,532,041	2,532,041
	예치금	6,675,529	-	(1,029)	6,674,500	6,674,500
	소 계	9,207,570	-	(1,029)	9,206,541	9,206,541
대출채권	가계대출	71,847,246	189,339	(192,302)	71,844,283	71,733,786
	기업대출	88,017,204	62,483	(1,234,772)	86,844,915	87,874,276
	공공및기타자금대출	2,479,154	1,780	(10,304)	2,470,630	2,484,788
	은행간자금대출	6,104,793	-	(4,862)	6,099,931	6,104,828
	소 계	168,448,397	253,602	(1,442,240)	167,259,759	168,197,677
만기보유금융자산	국공채	4,129,145	-	-	4,129,145	4,316,996
	금융채	510,113	-	-	510,113	516,584
	회사채	2,411,906	-	-	2,411,906	2,452,100
	소 계	7,051,164	-	-	7,051,164	7,285,680
기타금융자산		6,775,806	(71,945)	(58,856)	6,645,005	6,701,548
자산 합계		191,482,937	181,657	(1,502,125)	190,162,469	191,391,446
예수부채	요구불예수부채	56,619,719	-	-	56,619,719	56,619,719
	기한부예수부채	100,592,064	-	-	100,592,064	100,486,146
	양도성예금증서	1,475,621	-	-	1,475,621	1,497,810
	발행어음예수부채	3,132,185	-	-	3,132,185	3,131,971
	어음관리계좌수탁금	1,291,588	-	-	1,291,588	1,291,588
	기타	42,578	-	-	42,578	42,587
	소 계	163,153,755	-	-	163,153,755	163,078,821
차입부채	콜머니	191,409	-	-	191,409	191,409
	매출어음	28,631	-	-	28,631	28,524
	환매조건부채권매도	344,632	-	-	344,632	344,632
	차입부채	9,784,294	(1,996)	-	9,782,299	9,790,750
	외화수탁금	94,315	-	-	94,315	94,315
	소 계	10,443,281	(1,996)	-	10,441,286	10,449,630
사채	원회사채	13,786,667	(37,751)	-	13,748,916	13,866,837
	외회사채	3,751,934	(15,082)	-	3,736,852	3,810,564
	소 계	17,538,601	(52,833)	-	17,485,768	17,677,401
기타금융부채		11,749,295	(2,642)	-	11,746,653	11,742,915
부채 합계		202,884,932	(57,470)	-	202,827,462	202,948,767

3) 당기말과 전기말 현재 재무상태표에서 공정가치로 측정되지는 않으나 공정가치가 공시되는 금융자산부채의 평가수준별 공정가치의 내역은 다음과 같습니다.

<제183(당기)>

(단위: 백만원)					
구 분		수준 1	수준 2	수준 3	합 계
현금및예치금	현금	2,417,685	-	-	2,417,685
	예치금	-	10,109,569	-	10,109,569
	소 계	2,417,685	10,109,569	-	12,527,254
대출채권	가계대출	-	-	79,369,240	79,369,240
	기업대출	-	-	95,664,871	95,664,871
	공공및기타자금대출	-	-	2,095,248	2,095,248
	은행간자금대출	-	2,686,359	1,858,022	4,544,381
	소 계	-	2,686,359	178,987,381	181,673,740
만기보유금융자산	국공채	2,305,999	3,030,160	-	5,336,159
	금융채	120,885	294,460	-	415,345
	회사채	-	2,300,530	-	2,300,530
	소 계	2,426,884	5,625,150	-	8,052,034
기타금융자산		-	5,824,395	2,124,625	7,949,020
자산 합계		4,844,569	24,245,473	181,112,006	210,202,048
예수부채	요구불예수부채	-	65,800,092	-	65,800,092
	기한불예수부채	-	-	104,238,665	104,238,665
	양도성예금증서	-	-	1,880,082	1,880,082
	발행어음예수부채	-	-	3,240,906	3,240,906
	어음관리계좌수탁금	-	1,682,610	-	1,682,610
	기타	-	-	35,173	35,173
	소 계	-	67,482,702	109,394,826	176,877,528
차입부채	물머니	-	1,625,328	-	1,625,328
	대출어음	-	-	30,934	30,934
	원매조건부채권매도	-	-	346,725	346,725
	차입부채	-	-	10,853,710	10,853,710
	외화수탁금	-	-	77,179	77,179
	소 계	-	1,625,328	11,308,548	12,933,876
사채	원화사채	-	10,176,912	2,669,962	12,846,874
	외화사채	-	4,140,691	-	4,140,691
	소 계	-	14,317,603	2,669,962	16,987,565
기타금융부채		-	5,152,210	8,160,873	13,313,083
부채 합계		-	88,577,843	131,534,209	220,112,052

<제182(전)기>

(단위: 백만원)					
구 분		수준 1	수준 2	수준 3	합 계
현금및예치금	현금	2,532,041	-	-	2,532,041
	예치금	-	6,674,500	-	6,674,500
	소 계	2,532,041	6,674,500	-	9,206,541
대출채권	가계대출	-	-	71,733,785	71,733,785
	기업대출	-	-	87,874,276	87,874,276
	공공및기타자금대출	-	-	2,484,788	2,484,788
	은행간자금대출	-	4,706,274	1,398,554	6,104,828
	소 계	-	4,706,274	163,491,403	168,197,677
만기보유금융자산	국공채	2,382,547	1,934,449	-	4,316,996
	금융채	100,166	416,418	-	516,584
	회사채	-	2,452,100	-	2,452,100
	소 계	2,482,713	4,802,967	-	7,285,680
기타금융자산		-	4,423,376	2,278,172	6,701,548
자산 합계		5,014,754	20,807,117	165,769,575	191,391,446
예수부채	요구불예수부채	-	56,619,719	-	56,619,719
	기한불예수부채	-	-	100,495,146	100,495,146
	양도성예금증서	-	-	1,497,810	1,497,810
	발행어음예수부채	-	-	3,131,971	3,131,971
	어음관리계좌수탁금	-	1,291,588	-	1,291,588
	기타	-	-	42,587	42,587
	소 계	-	57,911,307	105,167,514	163,078,821
차입부채	물머니	-	191,409	-	191,409
	대출어음	-	-	28,524	28,524
	환매조건부채권매도	-	-	344,632	344,632
	차입부채	-	-	9,790,750	9,790,750
	외화수탁금	-	-	94,315	94,315
	소 계	-	191,409	10,258,221	10,449,630
사채	원회사채	-	11,938,854	1,927,983	13,866,837
	외회사채	-	3,810,564	-	3,810,564
	소 계	-	15,749,418	1,927,983	17,677,401
기타금융부채		-	3,009,615	8,733,300	11,742,915
부채 합계		-	76,861,749	126,087,018	202,948,767

4) 당기말과 전기말 현재 공정가치 공시를 위하여 사용된 평가기법 및 투입변수는 다음과 같습니다.

<제183(당기)>

(단위: 백만원)				
공정가치수준	구 분	공정가치(주)	평가모형	투입변수
수준 2	만기보유금융자산	5,625,150	현금흐름 할인모형	할인율
수준 3	대출채권	178,987,381		할인율, 신용스프레드, 조기상환율
	기타금융자산	2,124,625		할인율
자산 합계		186,737,156		
수준 2	사채	14,317,603	현금흐름 할인모형	할인율
수준 3	예수부채(주)	109,262,081		할인율
	차입부채(주)	6,269,087		할인율
	사채	2,669,962		할인율, 회귀계수, 상관계수
	기타금융부채	8,160,873		할인율
부채 합계		140,679,616		

<제182(전기)>

(단위: 백만원)				
공정가치수준	구 분	공정가치(주)	평가모형	투입변수
수준 2	만기보유금융자산	4,802,967	현금흐름 할인모형	할인율
수준 3	대출채권	163,481,403		할인율, 신용스프레드, 조기상환율
	기타금융자산	2,278,172		할인율
자산 합계		170,572,542		
수준 2	사채	15,749,418	현금흐름 할인모형	할인율
수준 3	예수부채(주)	105,136,450		할인율
	차입부채(주)	5,143,044		할인율
	사채	1,927,983		할인율, 회귀계수, 상관계수
	기타금융부채	8,733,300		할인율
부채 합계		136,690,195		

(주) 장부금액을 공정가치의 합리적인 근사치로 보아 장부금액을 공정가치로 공시한 항목과 관련한 평가기법과 투입변수는 공시하지 않습니다.

(3) 당기 중 공정가치로 측정되는 금융상품의 최초 인식 시 발생한 거래일(day1) 손익의 변동내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
기초	이연	상각	기말
-	6	(5)	1

(주) 전기 중 이연하여 인식한 거래일(day1) 손익은 없습니다.

(4) 금융상품의 범주별 분류

금융자산과 금융부채는 공정가치 또는 상각후원가로 측정됩니다. 금융상품 범주별 장부금액의 자세한 측정 방법은 주식 2에서 설명하고 있습니다. 당기말과 전기말 현재 각 금융자산과 금융부채의 범주별 장부금액은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)						
금융자산	단기매매 금융자산	매도가능 금융자산	만기보유 금융자산	대여금 및 수취채권	위험회피 파생자산	합 계
예치금	-	-	-	10,109,569	-	10,109,569
단기매매금융자산	5,912,990	-	-	-	-	5,912,990
파생상품자산	1,193,255	-	-	-	116,854	1,310,109
대출채권	-	-	-	179,892,271	-	179,892,271
매도가능금융자산	-	21,937,911	-	-	-	21,937,911
만기보유금융자산	-	-	7,747,368	-	-	7,747,368
기타금융자산	-	-	-	7,887,366	-	7,887,366
자산 합계	7,106,245	21,937,911	7,747,368	197,889,206	116,854	234,797,584

(단위: 백만원)					
금융부채	당기손익인식금융부채		상각후원가 측정금융부채	위험회피 파생부채	합 계
	단기매매 금융부채	당기손익인식지정 금융부채			
예수부채	-	-	176,589,262	-	176,589,262
단기매매금융부채	428,936	-	-	-	428,936
당기손익인식지정금융부채	-	6,139	-	-	6,139
파생상품부채	1,135,114	-	-	47,616	1,182,730
차입부채	-	-	12,894,846	-	12,894,846
사채	-	-	16,571,408	-	16,571,408
기타금융부채	-	-	13,337,677	-	13,337,677
부채 합계	1,564,050	6,139	219,383,183	47,616	221,010,988

<제182(전기)>

(단위: 백만원)						
금융자산	단기매매 금융자산	매도가능 금융자산	만기보유 금융자산	대여금 및 수취채권	위험회피 파생자산	합 계
예치금	-	-	-	6,674,500	-	6,674,500
단기매매금융자산	5,602,158	-	-	-	-	5,602,158
파생상품자산	1,305,429	-	-	-	152,212	1,457,641
대출채권	-	-	-	167,259,759	-	167,259,759
매도가능금융자산	-	23,590,690	-	-	-	23,590,690
만기보유금융자산	-	-	7,051,164	-	-	7,051,164
기타금융자산	-	-	-	6,645,005	-	6,645,005
자산 합계	6,907,587	23,590,690	7,051,164	180,579,264	152,212	218,280,917

(단위: 백만원)				
금융부채	단기매매 금융부채	상각후원가 측정금융부채	위험회피 파생부채	합 계
예수부채	-	163,153,755	-	163,153,755
단기매매금융부채	308,506	-	-	308,506
파생상품부채	1,187,750	-	235,387	1,423,137
차입부채	-	10,441,286	-	10,441,286
사채	-	17,485,768	-	17,485,768
기타금융부채	-	11,746,653	-	11,746,653
부채 합계	1,586,346	202,827,462	235,387	204,649,195

(5) 금융수익과 금융원가

당기와 전기 금융수익과 금융원가의 상세내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)						
구 분	이자수익(비용)	수수료수익(비용)	손상차손	기타	합 계	기타포괄손익
단기대매금융자산	122,692	4,408	-	26,636	153,736	-
매도가능금융자산	554,441	-	(220,296)	522,396	856,553	67,241
만기보유금융자산	324,620	-	-	-	324,620	-
대여금 및 수취차권	7,019,328	123,633	(419,933)	26,356	6,749,584	-
단기대매금융부채	-	(10)	-	-	(10)	-
당기손익인식지경금융부채	-	-	-	34	34	-
상각후원가측정금융부채	(3,924,613)	(8)	-	(153,772)	(4,078,393)	-
순위형회피파생상품	-	-	-	164,939	164,939	-
합 계	4,096,668	128,223	(640,219)	596,591	4,171,263	67,241

<제182(전)기>

(단위: 백만원)						
구 분	이자수익(비용)	수수료수익(비용)	손상차손	기타	합 계	기타포괄손익
단기대매금융자산	124,271	5,649	-	23,001	152,921	-
매도가능금융자산	721,671	-	(203,564)	573,807	1,092,094	(399,663)
만기보유금융자산	371,623	-	-	-	371,623	-
대여금 및 수취차권	7,377,727	121,513	(645,166)	53,466	6,907,567	-
단기대매금융부채	-	(89)	-	-	(89)	-
상각후원가측정금융부채	(4,535,627)	(5)	-	264,695	(4,270,937)	-
순위형회피파생상품	-	-	-	(263,250)	(263,250)	-
합 계	4,059,665	127,069	(848,752)	651,748	3,989,930	(399,663)

3-5. 자본위험관리

은행에 대한 자기자본 규제제도는 1980년대 금융규제완화에 따른 금융기관의 위험 증가에 따라, 은행의 건전성을 확보하고, 예금자 보호와 국제 금융질서의 안정성을 확보하기 위하여 BIS 회원국가를 중심으로 1988년에 도입되었습니다. 최초의 Basel 협약이 도입된 이후 규제 자기자본 요구량이 은행이 보유한 리스크를 보다 잘 반영할 수 있는 방향으로 발전되어 왔습니다. 바젤위원회(BCBS)는 글로벌 금융위기 이후 은행 시스템의 복원력 강화를 위하여 바젤 III 기준을 마련하여 발표하였고, 우리나라는 은행업감독규정 개정을 통해 2013년 12월 1일부터 기존보다 강화된 자본규제인 바젤 III 를 시행하고 있습니다. 동 기준은 당행을 포함한 국내은행이 보통주자본비율, 기본자본비율, 총자기자본비율에 대해 시행일로부터 단계적으로 각각 일정비율이 상을 유지할 것을 의무화하고 있으며, 당행은 국내은행의 감독기구인 금융감독원에 은행 관련 법규에 따른 자기자본비율의 준수 여부를 보고하고 있습니다.

상기의 감독 법규에 따라 당행이 관리하는 규제자본은 아래의 두 분류로 구분됩니다.

1) Tier 1 capital (기본자본: 보통주자본+기타기본자본)

- ① 보통주자본: 은행의 손실을 가장 먼저 보전할 수 있으며 은행 청산시 최후순위이고 청산시를 제외하고는 상환되지 않는 자본으로 보통주, 자본잉여금, 이익잉여금(대손준비금 제외), 기타포괄손익누계액, 기타자본잉여금, 자본조정, 은행인 종속회사의 비지배주주지분의 일부금액 등을 포함합니다.
- ② 기타기본자본: 영구적 성격의 인정요건을 충족하는 자본증권 및 이와 관련된 자본잉여금, 종속회사가 발행한 기타기본자본의 외부투자자 보유금액 중 일부금액 등을 포함합니다.

2) Tier 2 capital (보완자본)

청산시 은행의 손실을 보전할 수 있는 인정요건을 충족하는 자본증권 및 이와 관련된 자본잉여금, 종속회사가 발행한 보완자본의 외부투자자 보유금액 중 일부금액 등을 포함합니다.

당행은 자기자본(상기의 기본자본과 보완자본의 합에서 공제항목을 차감한 금액)을 위험가중자산으로 나누어 자기자본비율을 산출합니다. 위험가중자산(risk weighted assets)은 은행의 실질적인 위험을 반영하기 위해 위험의 노출정도가 높을수록 높은 가중치를 적용하여 산출하며, 신용위험가중자산, 운영위험가중자산 및 시장위험가중자산의 합으로 구성됩니다.

당행은 별도 내부기준을 통해 자본적정성을 평가 및 관리하고 있습니다. 자본적정성의 평가는 경제적 자본(최대노출액별로 내재된 리스크에 대비하기 위하여 은행이 보아야 하는 실질적인 필요자본량으로 은행 내부의 리스크 인식 및 평가 기준에 따라 산출된 리스크량) 대비 가용자본(은행의 실제 손실발생시 손실처리에 충당할 수 있는 자본)의 수준이 적절한가를 은행 내부적으로 평가하는 것을 말합니다. 당행은 리스크 유형별(신용, 시장, 운영, 금리, 유동성, 편중리스크)로 산출된 리스크의 합산 금액 및 각 유형별 금액을 관리합니다.

당행은 위험가중자산에 대한 자기자본비율을 연결재무제표 기준으로 산출, 관리하고 있으며, 당기말과 전기말의 자기자본비율은 다음과 같습니다.

			(단위: 백만원)	
구 분			제183(당)기	제182(전)기
총자기자본	Tier 1	보통주자본	16,999,542	16,130,379
		기타기본자본	1,102,256	1,891,004
		기본자본	18,101,798	18,021,383
	Tier 2	보완자본	2,845,616	3,035,709
	합 계		20,947,414	21,057,092
총 위험가중자산			135,714,810	129,276,682
총자기자본비율	Tier 1	보통주자본비율	12.53%	12.48%
		기본자본비율	13.34%	13.94%
	Tier 2	보완자본비율	2.10%	2.35%
	합 계		15.43%	16.29%

당행은 상기의 표와 같이 자본적정성 기준(총자기자본비율 8% 이상, 기본자본비율 5.5% 이상, 보통주자본비율 4.0% 이상)을 준수하고 있습니다.

3-6. 금융상품 양도거래

(1) 제거조건이 충족되지 않은 금융상품

1) 환매조건부채권매도

당기말과 전기말 현재 환매조건부채권매도 중 당행이 보유 유가증권을 확정가격으로 재매입할 것을 조건으로 매각하여 제거조건이 충족되지 않은 금융상품의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제183(당)기	제182(전기)
양도자산	매도가능금융자산	128,333	131,504
	만기보유금융자산	347,181	262,225
	합 계	475,514	393,729
관련부채	환매조건부채권매도	346,726	331,511

2) 유가증권 대차거래

당행이 보유한 유가증권을 대여하는 경우 유가증권의 소유권이 이전되나, 대여 기간 만료시 해당 유가증권을 반환하여야 하므로, 당행은 해당 유가증권의 위험과 보상의 대부분을 보유함에 따라 대여유가증권 전체를 계속하여 인식하고 있습니다. 당기말과 전기말 현재 대여유가증권의 장부금액은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분	제183(당)기	제182(전기)	대여처
국공채	345,020	100,149	한국증권금융, 미쓰이스미토모 등
금융채	140,239	-	한국증권금융
합 계	485,259	100,149	

(2) 제거조건을 충족하나 지속적으로 관여하는 금융상품

당행은 구조화기업에 대출채권을 양도하고 후순위대출채권을 인수하였습니다. 동 자산의 양도는 한국채택국제회계기준에 따른 제거요건을 충족하지는 못하나, 한국채택국제회계기준 전환일 이전에 발생한 거래이며, 소급적용의 예외사항에 해당하므로 재무제표에서 제거하였습니다.

전기말 현재 당행은 제거된 금융자산에 대한 신용위험을 지속적으로 보유하고 있으며 그 내역은 다음과 같습니다.

<제182(전기)>

(단위: 백만원)					
거래상대방	지속적 관여의 유형	지속적 관여의 장부금액	지속적 관여의 공정가치	손실에 대한 최대 노출금액	제거된 금융자산을 재매입하기 위한 현금유출액
신한모기지레이차유통화전문(유)	후순위대출채권	136,060	136,060	136,060	-

3-7. 금융상품 상계

당기말과 전기말 현재 실행가능한 일괄 상계약정 또는 이와 유사한 약정의 적용을 받는 금융상품의 내역은 다음과 같습니다.

<제183(당기)>

(단위: 백만원)						
금융자산	인식된 금융자산 총액	상계되는 인식된 금융부채 총액	재무상태표에 표시되는 금융자산 순액	재무상태표에서 상계되지 않은 관련 금액		순액
				금융상품	수취한 현금당보	
파생상품자산(주1)	1,309,728	-	1,309,728	4,828,808	21,898	727,015
기타금융자산(주1)	4,087,591	-	4,087,591	-	-	-
환매조건부매도당보 유가증권(주2)	475,514	-	475,514	348,728	-	128,788
환매조건부매수(대출차권)(주2)	2,329,132	-	2,329,132	2,329,132	-	-
대여유가증권(주2)	485,259	-	485,259	485,259	-	-
미회수내국환차권(주3)	24,487,358	22,400,331	2,087,025	-	-	2,087,025
증권미수금 등(주4)	4,649	318	4,333	4,333	-	-
합 계	33,139,229	22,400,647	10,738,582	7,794,058	21,898	2,922,828

(단위: 백만원)						
금융부채	인식된 금융부채 총액	상계되는 인식된 금융자산 총액	재무상태표에 표시되는 금융부채 순액	재무상태표에서 상계되지 않은 관련 금액		순액
				금융상품	제공한 현금당보	
파생상품부채(주1)	1,174,484	-	1,174,484	4,597,194	-	310,820
기타금융부채(주1)	3,733,320	-	3,733,320	-	-	-
환매조건부매도(차입부채)(주2)	348,728	-	348,728	348,728	-	-
미지급내국환차무(주3)	23,630,081	22,400,331	1,429,750	1,429,750	-	-
증권미지급금 등(주4)	552	318	238	238	-	-
합 계	29,085,173	22,400,647	8,884,528	8,373,908	-	310,820

<제182(전)기>

(단위: 백만원)						
금융자산	인식된 금융자산 총액	상계되는 인식된 금융부채 총액	재무상태표에 표시되는 금융자산 순액	재무상태표에서 상계되지 않은 관련 금액		순액
				금융상품	수취한 현금당보	
파생상품자산(주1)	1,458,041	-	1,458,041	2,961,044	22,425	943,389
기타금융자산(주1)	2,470,797	-	2,470,797	-	-	-
환매조건부매도당보 유가증권(주2)	393,729	-	393,729	331,511	-	62,218
환매조건부매수(대출차권)(주2)	2,729,539	-	2,729,539	2,729,539	-	-
대여유가증권(주2)	100,149	-	100,149	100,149	-	-
미회수내국환차권(주3)	23,272,502	20,939,147	2,333,355	-	-	2,333,355
증권미수금(주4)	184	184	-	-	-	-
합 계	30,422,921	20,939,311	9,483,610	8,122,243	22,425	3,338,942

(단위: 백만원)						
금융부채	인식된 금융부채 총액	상계되는 인식된 금융자산 총액	재무상태표에 표시되는 금융부채 순액	재무상태표에서 상계되지 않은 관련 금액		순액
				금융상품	제공한 현금당보	
파생상품부채(주1)	1,410,753	-	1,410,753	2,974,169	-	567,026
기타금융부채(주1)	2,130,442	-	2,130,442	-	-	-
환매조건부매도(차입부채)(주2)	331,511	-	331,511	331,511	-	-
미지급내국환차무(주3)	21,611,894	20,939,147	672,547	672,547	-	-
증권미지급금(주4)	9,181	184	8,997	-	-	8,997
합 계	25,693,581	20,939,311	4,754,250	4,178,227	-	576,023

- (주1) 당행의 장외 파생상품 중 일부는 ISDA (International Derivatives Swaps and Dealers Association) 일괄상계약정에 따라 거래가 이루어지고 있습니다. 동 약정에 의하면, 거래상대방의 부도와 같은 신용사건 발생시 해당 거래상대방과의 모든 파생상품 거래는 해지되며, 해지 시점에서 거래 당사자들이 각 거래별로 지급받거나 지급받아야 할 금액을 서로 상계하여 단일의 금액을 일방이 다른 거래상대방에게 지급하게 됩니다.
- (주2) 환매조건부 매매거래 및 유가증권 대차거래 등도 ISDA일괄상계약정과 유사한 상계약정의 적용을 받고 있습니다.
- (주3) 은행간의 내국환거래에 따른 채권 및 채무를 처리하는 계정으로 법적 상계권리를 보유하고 순액으로 결제하고 있으므로 재무상태표에 순액으로 표시하고 있습니다.
- (주4) 장내에서 거래되는 상장주식의 결제에 따른 채권 및 채무를 처리하는 계정으로 법적 상계권리를 보유하고 순액으로 결제하고 있으므로 재무상태표에 순액으로 표시하고 있습니다. 당기말 금액의 경우 중앙청산소 제도에 의한 장외파생상품의 장내 결제에 따른 관련 채권과 채무의 상계금액이 포함되어 있습니다.

4. 유의적인 회계추정 및 판단

당행은 재무제표를 작성함에 있어 미래에 대한 추정 및 가정에 대한 판단을 하고 있습니다. 이러한 추정 및 판단은 지속적으로 평가되며, 과거 경험 및 현재의 상황에서 합리적으로 예측가능한 미래의 사건과 같은 다른 요소들을 고려하여 이루어집니다. 이렇게 산출된 회계추정치는 실제 발생 결과와 일치하지 않을 수 있습니다. 보고기간 말 현재 계상된 자산과 부채의 장부금액을 중요하게 변동시킬 수 있는 유의적인 위험을 포함하고 있는 회계추정 및 가정에 대한 판단은 다음과 같습니다.

(1) 법인세

정상적인 영업과정에서 최종세금가액의 결정을 불확실하게 하는 여러 종류의 거래와 계산방식이 존재합니다. 당행은 보고기간 말 현재까지의 영업활동의 결과로 미래에 부담할 것으로 예상되는 법인세효과를 최선의 추정과정을 거쳐 당기법인세 및 이연법인세로 인식하였습니다. 하지만 실제 미래 최종 법인세부담액은 인식한 관련 자산·부채와 일치하지 않을 수 있으며, 이러한 차이는 최종 법인세효과가 확정된 시점의 당기법인세 및 이연법인세 자산·부채에 영향을 줄 수 있습니다.

(2) 금융상품의 공정가치

활성시장에서 거래되지 않는 금융상품(예: 장외파생상품)의 공정가치는 평가기법을 사용하여 결정하고 있습니다. 당행은 보고기간 종료일 현재 주요한 시장상황에 기초하여, 다양한 평가기법의 선택 및 가정에 대한 판단을 하고 있습니다. 당행은 정상거래시장에서 거래되지 않는 다양한 금융상품의 공정가치를 결정하기 위해 평가모형을 이용하는 경우 일반적인 가치평가모형부터 발전된 자체 평가모형까지 다양한 방법을 사용하며 이때 다양한 투입변수와 가정이 적용됩니다.

(3) 대손충당금, 지급보증충당부채 및 미사용약정충당부채

당행은 대출채권에 대해서 손상을 평가하여 대손충당금을 설정하고, 지급보증 및 미사용약정한도에 대해서는 충당부채를 설정합니다. 이러한 신용손실에 대한 충당금은 개별평가 대손충당금 추정을 위한 차주별 기대현금흐름의 추정과 집합평가 대손충당금 및 지급보증, 미사용약정충당부채 추정을 위해 사용된 모형의 가정과 변수들에 의해 결정됩니다.

(4) 확정급여부채

확정급여부채의 현재가치는 보험수리적 방식에 의해 결정되는 다양한 요소들에 따라 달라질 수 있습니다. 연금의 순원가(이익)를 결정하는 데 사용되는 가정은 할인율을 포함하고 있으며, 이러한 가정의 변동은 확정급여부채의 장부금액에 영향을 줄 것입니다.

당행은 반기별로 적합한 할인율을 결정하고 있습니다. 이러한 할인율은 확정급여부채의 정산 시 발생할 것으로 예상되는 미래의 추정 현금 유출액의 현재가치를 결정할 때 사용되어야 하는 이자율을 나타냅니다. 당행은 연금이 지급되는 통화로 표시되고 관련 연금부채의 기간과 유사한 만기를 가진 우량회사채 이자율을 고려하여 적절한 할인율을 결정하고 있습니다. 확정급여부채와 관련된 다른 주요한 가정들은 일부 현재의 시장 상황에 근거하고 있습니다.

(5) 매도가능지분증권의 손상

매도가능지분증권의 공정가치가 취득원가 이하로 유의적으로 또는 지속적으로 하락하는 경우는 손상이 발생하였다는 객관적인 증거에 해당합니다. 이에 따라, 당행은 취득원가 대비 30% 이상 공정가치의 하락을 "유의적인 하락"으로, 시장성있는 지분증권의 시장가격이 취득원가 이하로 하락한 상태가 6개월 이상 지속되는 경우를 "지속적인 하락"으로 간주하고 있습니다.

5. 현금 및 예치금

(1) 현금 및 예치금의 종류별 내역

당기말과 전기말 현재 현금 및 예치금의 종류별 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
현금	2,417,685	2,532,041
원화예치금	지준예치금	5,668,726
	기타금융기관예치금	2,990,408
	소 계	8,659,134
외화예치금	외화타절예치금	1,432,948
	외화정기예치금	16,488
	외화기타예치금	2,033
	소 계	1,451,469
대손충당금	(1,034)	(1,029)
합 계	12,527,254	9,206,541

(2) 사용제한 예치금

당기말과 전기말 현재 은행법 및 기타 관계법령 등에 따라 사용이 제한되어 있는 예치금 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
구 분	제183(당)기	제182(전)기	근거 법령 등	
원화예치금	지준예치금	5,668,726	3,161,035	한국은행법 제56조
	기타금융기관예치금	2,790,251	1,520,273	한국은행법 제28조 및 제70조
	소 계	8,458,977	4,681,308	
외화예치금	외화타절예치금	350,121	668,310	한국은행법 등
	외화정기예치금	16,488	9,497	뉴욕주 은행법 등
	외화기타예치금	1,230	3,101	파생상품 관련
	소 계	367,839	680,908	
합 계	8,826,816	5,362,216		

6. 단기매매금융자산

당기말과 전기말 현재 단기매매금융자산의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제183(당)기	제182(전)기
채무증권	국공채	-	19,657
	금융채	-	40,018
	회사채	-	30,212
	매입어음	3,257,984	3,432,257
	OMA자산	1,474,776	1,074,179
	소 계	4,732,760	4,596,323
지분증권	주식	4,625	25,211
	수익증권	951,049	904,287
	소 계	955,674	929,498
금예치금		224,556	76,337
합 계		5,912,990	5,602,158

7. 파생상품

(1) 미결제약정 계약금액

당기말과 전기말 현재 보유중인 파생상품의 미결제약정 계약금액 내역은 다음과 같습니다.

			(단위: 백만원)	
구 분			제183(당)기	제182(전)기
외환 파생상품	장외파생상품	통화선도	29,425,029	26,503,408
		통화스왑	14,267,372	14,245,786
		통화옵션	737,258	120,281
		소 계	44,429,659	40,869,475
	장내파생상품	통화선물	87,936	-
	합 계		44,517,595	40,869,475
이자율 파생상품	장외파생상품	이자율스왑	46,394,752	67,533,392
		이자율옵션	1,846,000	3,146,156
		소 계	48,240,752	70,679,548
	장내파생상품	이자율선물	-	203,906
		이자율스왑(주)	3,664,800	-
		소 계	3,664,800	203,906
	합 계		51,905,552	70,883,454
주식관련 파생상품	장외파생상품	주식스왑	6,338	-
		주식옵션	719,064	1,103,212
		소 계	725,402	1,103,212
	장내파생상품	주식선물	6,466	11,821
		주식옵션	-	2,675
		소 계	6,466	14,496
	합 계		731,868	1,117,708
상품관련 파생상품	장외파생상품	상품스왑 및 선도	167,448	194,718
		상품옵션	-	6,054
	합 계		167,448	200,772
위험회피 파생상품	공정가치위험회피	이자율스왑	8,046,680	8,451,250
총 계			105,369,143	121,522,659

(주) 중앙청산소에서 결제되는 파생상품의 미결제약정 금액입니다.

(2) 공정가치

당기말과 전기말 현재 보유중인 파생상품의 공정가치는 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)						
구 분			제183(당)기		제182(전)기	
			자산	부채	자산	부채
외환 파생상품	장외파생상품	통화선도	439,272	409,844	410,743	445,484
		통화스왑	248,298	270,522	428,257	345,278
		통화옵션	3,819	5,048	1,721	1,504
	합 계		691,389	685,414	840,721	792,266
이자율 파생상품	장외파생상품	이자율스왑	483,818	422,738	440,691	357,062
		이자율옵션	9,395	16,615	12,824	16,932
	합 계		493,213	439,353	453,515	373,994
주식관련 파생상품	장외파생상품	주식스왑	-	35	-	-
		주식옵션	6,787	8,212	11,183	11,109
	장내파생상품	주식옵션	-	-	10	-
	합 계		6,787	8,247	11,193	11,109
상품관련 파생상품	장외파생상품	상품스왑 및 선도	1,896	2,100	-	10,381
위험회피 파생상품	공정가치 위험회피	이자율스왑	116,854	47,616	152,212	235,387
총 계			1,310,109	1,182,730	1,457,641	1,423,137

(3) 파생상품 평가손익

당기와 전기 중 파생상품의 평가손익은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)						
구 분			제183(당)기		제182(전)기	
			평가이익	평가손실	평가이익	평가손실
외환 파생상품	장외파생상품	통화선도	402,290	366,507	326,447	399,571
		통화스왑	213,101	281,836	233,965	248,946
		통화옵션	3,821	3,259	1,357	855
	합 계		619,212	651,702	561,769	649,372
이자율 파생상품	장외파생상품	이자율스왑	317,216	348,893	251,156	290,400
		이자율옵션	5,368	6,788	6,856	3,313
	합 계		322,584	355,681	258,012	293,713
주식관련 파생상품	장외파생상품	주식스왑	-	25	-	-
		주식옵션	4,129	5,308	8,226	13,557
	합 계		4,129	5,333	8,226	13,557
상품관련 파생상품	장외파생상품	상품스왑 및 선도	1,866	2,100	-	10,381
		상품옵션	-	-	103	90
	합 계		1,866	2,100	103	10,471
위험회피 파생상품	공정가치 위험회피	이자율스왑	210,564	59,630	25,699	279,400
총 계			1,158,355	1,074,446	863,809	1,246,513

(4) 위험회피목적 관련 손익

당기와 전기 중 공정가치 위험회피목적 관련 손익은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
위험회피대상	(158,222)	257,544
위험회피수단	164,939	(263,250)
합 계	6,717	(5,706)

8. 대출채권

(1) 대출채권의 고객별 구성 내역

당기말과 전기말 현재 대출금의 고객별 구성내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
가계대출	78,578,683	71,847,246
기업대출	95,794,793	88,017,204
공공 및 기타자금대출	2,092,730	2,479,154
은행간 자금 대출	4,529,541	6,104,793
대출채권 총계	180,995,747	168,448,397
이연대출부대비용	269,128	253,602
총당금 차감전 대출채권 총계	181,264,875	168,701,999
총당금	(1,372,604)	(1,442,240)
총당금 차감후 대출채권 총계	179,892,271	167,259,759

(2) 대손충당금 증감내역

당기와 전기 중 예치금과 대출채권 및 기타자산에 대한 대손충당금 변동내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)						
구 분	예치금	대출채권			기타자산	합 계
		가계대출	기업대출	기타		
기 초	1,029	192,302	1,234,772	15,166	58,866	1,502,125
준입(환입)액	5	144,817	276,010	(9,981)	9,082	419,933
상각액	-	(139,468)	(373,121)	(206)	(6,476)	(519,271)
환인차금 상각	-	-	(34,702)	-	-	(34,702)
대출채권 매각	-	(4,987)	(25,884)	(4)	-	(30,875)
상각채권 회수	-	16,157	148,650	10,763	344	175,914
기 타(주)	-	-	(77,680)	-	(287)	(77,967)
기 말	1,034	208,821	1,148,045	15,738	61,519	1,435,157

<제182(전)기>

(단위: 백만원)						
구 분	예치금	대출채권			기타자산	합 계
		가계대출	기업대출	기타		
기 초	1,235	265,961	1,302,292	20,177	60,170	1,649,835
전입(환입)액	(206)	135,683	510,561	(5,011)	4,141	645,168
상각액	-	(180,952)	(569,116)	-	(734)	(750,802)
할인차금 상각	-	-	(45,023)	-	-	(45,023)
대출채권 매각	-	(53,240)	(59,005)	-	-	(112,245)
상각채권 회수	-	24,850	126,311	-	132	151,293
기타(주)	-	-	(31,248)	-	(4,853)	(36,101)
기 말	1,029	192,302	1,234,772	15,166	58,866	1,502,125

(주) 기타 변동액은 채권조정, 출자전환, 환율변동 등으로 인한 금액입니다.

(3) 이연대출부대비용

당기와 전기 중 이연대출부대비용 증감내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
기초잔액	253,602	236,226
증가	201,114	180,698
감소	(185,588)	(163,322)
기말잔액	269,128	253,602

9. 매도가능금융자산과 만기보유금융자산

(1) 매도가능금융자산과 만기보유금융자산 현황

당기말과 전기말 현재 당행이 보유하고 있는 매도가능금융자산 및 만기보유금융자산의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제183(당)기	제182(전)기
매도가능금융자산			
채무증권	국공채	2,287,224	2,305,850
	금융채	9,798,305	10,847,916
	회사채	7,128,758	7,225,693
	소 계	19,214,287	20,379,459
지분증권(주)	주식	1,402,614	2,091,628
	출자금	376,540	374,849
	수익증권	872,713	634,884
	기타	71,757	109,870
	소 계	2,723,624	3,211,231
매도가능금융자산 합계		21,937,911	23,590,690
만기보유금융자산			
채무증권	국공채	5,092,893	4,129,145
	금융채	410,323	510,113
	회사채	2,244,152	2,411,906
만기보유금융자산 합계		7,747,368	7,051,164

(주) 활성시장에서 공시되는 시장가격이 없고 공정가치를 신뢰성있게 측정할 수 없어 원가로 측정한 지분증권의 장부금액은 당기말과 전기말 현재 각각 22,732백만원, 19,462백만원입니다.

(2) 매도가능금융자산 처분손익

당기와 전기 중 매도가능금융자산 처분시 인식한 손익은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
매도가능금융자산처분이익	441,587	546,510
매도가능금융자산처분손실	8,018	58,832
합 계	433,569	487,678

10. 유형자산

(1) 당기말과 전기말 현재 유형자산의 내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)			
구 분	취득가액	감가상각누계액	장부금액
토지	1,154,431	-	1,154,431
건물	781,880	(137,098)	644,782
기타의유형자산	1,282,338	(1,077,967)	204,371
합 계	3,218,649	(1,215,065)	2,003,584

<제182(전)기>

(단위: 백만원)			
구 분	취득가액	감가상각누계액	장부금액
토지	1,260,731	-	1,260,731
건물	797,818	(110,362)	687,456
기타의유형자산	1,346,346	(1,129,429)	216,917
합 계	3,404,895	(1,239,791)	2,165,104

(2) 당기와 전기 중 유형자산의 과목별 장부금액의 증감내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)				
구 분	토지	건물	기타의유형자산	합 계
기 초	1,260,731	687,456	216,917	2,165,104
취득(주1,2)	57	25,907	101,881	127,845
처분(주1,3)	(48)	-	(21,493)	(21,541)
감가상각비	-	(30,272)	(93,331)	(123,603)
투자부동산으로 대체	(109,199)	(38,615)	-	(147,814)
매각예정비유동자산으로부터 대체	2,890	306	-	3,196
환율변동	-	-	397	397
기 말	1,154,431	644,782	204,371	2,003,584

(주1) 건설중인자산에서 본계정으로 대체된 금액 4,054백만원이 포함되어 있습니다.

(주2) 신규 취득자산의 복구충당부채 전입액 3,897백만원이 포함되어 있습니다.

(주3) 제각손실 1,520백만원이 발생하였습니다.

<제182(전)기>

(단위: 백만원)				
구 분	토지	건물	기타의유형자산	합 계
기 초	1,266,324	638,616	268,541	2,173,481
취득(주1,2)	367	143,044	182,632	326,043
처분(주3,4)	(2,664)	(2,127)	(138,334)	(143,125)
감가상각비	-	(29,617)	(96,224)	(125,841)
투자부동산(으로)부터 대체	456	(59,827)	-	(59,371)
매각예정비유동자산으로 대체	(3,752)	(2,633)	-	(6,385)
환율변동	-	-	302	302
기 말	1,260,731	687,456	216,917	2,165,104

(주1) 건설중인자산에서 본계정으로 대체된 금액 131,541백만원이 포함되어 있습니다.

(주2) 신규 취득자산의 복구충당부채 전입액 2,075백만원이 포함되어 있습니다.

(주3) 건설중인자산에서 본계정 및 무형자산으로 대체되어 감소한 금액 132,758백만원이 포함되어 있습니다.

(주4) 제각손실 489백만원이 발생하였습니다.

(3) 보험가입 내역

당기말 현재 현금, 유형자산, 투자부동산 및 매각예정비유동자산에 대한 보험가입내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
보험종류	부보자산	부보액	부보처
금융기관종합보험	현금	20,000	삼성화재 외 7개사
재산종합보험	업무용동산, 부동산 등	1,096,689	삼성화재 외 5개사
도난보험	현금 및 유가증권	55,000	삼성화재 외 8개사
임원배상책임보험	-	50,000	삼성화재 외 7개사
가스사고배상책임보험	-	500	메리츠화재 외 2개사
합 계		1,222,189	

(주) 상기 보험 외에 차량보험, 임직원에 대한 의료보험, 자산재해보험 및 종업원재해 보장보험 등에 가입하고 있습니다

11. 무형자산

당기와 전기 중 무형자산의 증감내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)					
구 분	소프트웨어	개발비	회원권	기타의무형자산	합 계
기 초	40,698	22,922	46,113	95,380	205,113
취 득	10,954	1,430	3,936	9,970	26,290
처 분	-	-	(2,861)	-	(2,861)
손 상(주)	-	-	(547)	-	(547)
상 각	(14,675)	(10,980)	-	(41,629)	(67,284)
환율변동	-	-	1	-	1
기 말	36,977	13,372	46,642	63,721	160,712

(주) 회원권은 골프 및 콘도 회원권으로 내용연수를 특정기간으로 한정할 수 없는 무형자산으로, 보고 기간말 현재 거래소 시가가 장부금액보다 낮은 경우 손상차손을 인식하였습니다.

<제182(전)기>

(단위: 백만원)					
구 분	소프트웨어	개발비	회원권	기타의무형자산	합 계
기 초	35,678	38,071	44,298	39,503	157,550
취 득(주1)	19,369	222	4,875	89,684	114,150
처분 및 제각(주2)	-	-	(1,395)	(2)	(1,397)
손 상(주3)	-	-	(1,649)	-	(1,649)
상 각	(14,349)	(15,371)	-	(33,805)	(63,525)
환율변동	-	-	(16)	-	(16)
기 말	40,698	22,922	46,113	95,380	205,113

(주1) 건설중인 자산에서 기타의 무형자산으로 대체된 1,217백만원이 포함되어 있습니다.

(주2) 제각손실 2백만원이 발생하였습니다.

(주3) 회원권은 골프 및 콘도 회원권으로 내용연수를 특정기간으로 한정할 수 없는 무형자산으로, 보고 기간말 현재 거래소 시가가 장부금액보다 낮은 경우 손상차손을 인식하였습니다.

12. 관계기업 등에 대한 투자자산

당기말과 전기말 현재 관계기업 및 종속기업에 대한 투자자산의 현황은 다음과 같습니다.

피투자회사	소재지	결산월	업종	(단위: 백만원)			
				지분율(%)		장부금액	
				제183(당)기	제182(전)기	제183(당)기	제182(전)기
신한아주금융유한공사	홍콩	12월말	도매금융	99.99	99.99	161,293	161,293
아메리카신한은행	미국	12월말	은행업	100.00	100.00	136,419	136,419
유럽신한은행	독일	12월말	은행업	100.00	100.00	78,606	78,606
신한크메르은행	캄보디아	12월말	은행업	90.00	90.00	22,212	22,212
신한카자흐스탄은행	카자흐스탄	12월말	은행업	100.00	100.00	77,913	77,913
캐나다신한은행	캐나다	12월말	은행업	100.00	100.00	52,701	52,701
신한중국유한공사	중국	12월말	은행업	100.00	100.00	355,443	355,443
GB은행	일본	3월말	은행업	100.00	100.00	359,745	359,745
신한베트남은행	베트남	12월말	은행업	100.00	100.00	330,654	330,654
아주캐피탈(주2)	대한민국	12월말	할부금융업 등	12.85	12.85	29,654	29,654
카디프생명(주3)	대한민국	12월말	보험업	14.99	14.99	42,203	42,203
연합자산관리(주1)	대한민국	12월말	기타	17.50	17.50	84,792	84,792
포항테크노파크2PP(주2)	대한민국	12월말	기타	14.90	14.90	2,884	2,884
대원토스(주4)	대한민국	12월말	기타	38.33	38.33	-	-
인회(주4)	대한민국	12월말	도매업	15.38	15.38	-	-
대기건설(주4)	대한민국	12월말	건설업	27.45	-	-	-
극동건설(주2,4)	대한민국	12월말	건설업	14.30	-	9,092	-
합 계						1,743,611	1,734,519

(주1) 연합자산관리는 지분율 15%를 초과하여 은행법상 자회사로 분류되어 유의적인 영향력이 있는 것으로 판단하였습니다.

(주2) 아주캐피탈, 포항테크노파크2PP와 극동건설의 지분율은 15% 이하이나, 피투자회사의 재무정책과 영업정책에 관한 의사결정에 참여할 수 있는 임원의 선임에 유의적인 영향력을 행사할 수 있으므로 관계기업에 대한 투자자산으로 계상하였습니다.

(주3) 카디프생명의 지분율은 15% 이하이나, 중요한 영업상의 거래를 통하여 유의적인 영향력을 행사할 수 있으므로 관계기업에 대한 투자자산으로 계상하였습니다.

(주4) 대원토스, 인회, 대기건설 및 극동건설은 회생절차 과정에서 출자권환을 통해 주식을 취득하였으며, 회생절차 중에는 의결권을 행사할 수 없으므로 매도가능금융자산으로 분류하고 공정가치로 평가하였지만, 당기 이전 및 당기 중 회생절차가 종료됨에 따라 정상적인 의결권 행사가 가능하여, 매도가능금융자산에서 관계기업투자자산으로 재분류하였습니다.

13. 투자부동산

(1) 당기말과 전기말 현재 투자부동산의 내역은 다음과 같습니다.

<제183(당기)>

(단위: 백만원)			
구 분	취득가액	감가상각누계액	장부금액
토지	546,086	-	546,086
건물	224,510	(32,189)	192,321
합 계	770,596	(32,189)	738,407

<제182(전기)>

(단위: 백만원)			
구 분	취득가액	감가상각누계액	장부금액
토지	436,046	-	436,046
건물	181,564	(20,866)	160,698
합 계	617,610	(20,866)	596,744

(2) 투자부동산 공정가치

당기말과 전기말 현재 투자부동산의 공정가치 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당기)	제182(전기)
투자부동산	792,510	633,516

(주) 투자부동산의 공정가치 평가는 독립적인 제3자와의 거래조건에 따른 최근 시장거래가격과 시장에서 관측가능하지 않은 유의한 투입변수가 반영되므로 공정가치 서열수준에 있어 수준3에 해당합니다.

(3) 당기와 전기 중 투자부동산의 과목별 장부금액의 증감내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)			
구 분	토지	건물	합 계
기 초	436,046	160,698	596,744
처분	-	-	-
감가상각비	-	(7,992)	(7,992)
유형자산으로부터 대체	109,199	38,615	147,814
매각예정비유동자산 으로부터 대체	841	1,000	1,841
기 말	546,086	192,321	738,407

<제182(전)기>

(단위: 백만원)			
구 분	토지	건물	합 계
기 초	437,301	107,917	545,218
처 분	(799)	(638)	(1,437)
감가상각비	-	(6,408)	(6,408)
유형자산(으로)부터 대체	(456)	59,827	59,371
기 말	436,046	160,698	596,744

(4) 투자부동산으로부터 발생한 손익

당기와 전기 중 투자부동산과 관련하여 포괄손익계산서에 계상된 관련 손익의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
투자부동산에서 발생한 임대수익	25,149	21,449
임대수익이 발생한 투자부동산과 직접 관련된 영업비용	5,989	5,957
투자부동산 처분으로 인한 이익	-	248

14. 기타자산

당기말과 전기말 현재 기타자산의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
미수금	3,970,383	2,262,977
미회수내국환채권	2,067,025	2,361,983
예치보증금	1,170,140	1,211,108
미수수익	706,105	836,992
선급비용	90,629	69,653
가지금	64,385	64,735
잡자산	105,498	168,097
기타	32	32
현재가치할인차금	(61,451)	(71,945)
대손충당금	(61,519)	(58,856)
합 계	8,051,227	6,844,776

15. 담보제공자산 및 담보로 제공받은 자산

(1) 당기말과 전기말 현재 담보로 제공한 자산의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
구 분		제183(당)기	제182(전)기	담보제공사유
유가증권(주1)	매도가능금융자산	597,093	1,206,014	차입부채, 한은결제이행담보, 차입유가증권 등
	만기보유금융자산	5,188,372	4,858,412	차입부채, 한은결제이행담보, 대고객RP 등
	소 계	5,785,465	6,064,426	
유형자산(주2)		4,762	6,488	근저당권 설정 등
합 계		5,790,227	6,070,914	

(주1) 제3자가 당행의 채무불이행과 무관하게 매도 및 재담보 제공 가능한 담보의 장부금액은 당기말과 전기말 현재 각각 493,104백만원, 483,371백만원입니다.

(주2) 근저당권 설정 등 관련 채권최고액 기준입니다.

(2) 채무불이행과 무관하게 매도 및 재담보 제공 가능한 담보 보유물

당기말과 전기말 현재 채무불이행과 무관하게 매도 및 재담보 제공 가능한 담보의 공정가치는 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
구 분	제183(당)기		제182(전)기	
	담보물의 공정가치	매도하거나 담보로 다시 제공한 담보물의 공정가치	담보물의 공정가치	매도하거나 담보로 다시 제공한 담보물의 공정가치
유가증권	2,432,109	-	2,759,192	-

16. 당기손익인식지정금융부채

(1) 당기말과 전기말 현재 당기손익인식지정금융부채의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분(주1)	제183(당)기	제182(전)기
예수부채(주2,3)	6,139	-

(주1) 당행은 내재파생상품이 포함된 복합금융상품 중 기업회계기준서 제1039호 '금융상품: 인식과 측정'에 따라 당기손익인식금융부채의 지정이 허용되는 복합계약을 당기손익인식금융부채로 지정하였습니다.

(주2) 당기손익인식지정금융부채의 장부금액은 당행이 채택한 옵션평가모형에 근거하여 산정하였습니다.

(주3) 당기 중 당행의 신용위험 변동으로 인하여 손익으로 인식된 금액은 없습니다.

(2) 당기말 현재 당기손익인식지정금융부채의 계약조건에 따른 원금에 대한 만기상환금액과 장부금액 및 두 금액의 차이는 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)			
구 분	계약상 만기상환금액	장부금액	차이금액
예수부채	6,171	6,139	32

(3) 당기 중 당기손익인식지정금융부채 관련 순손익(이자수익 및 이자비용 제외)의 내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)			
구 분	평가손익	매매손익	합 계
예수부채	32	2	34

17. 예수부채

당기말과 전기말 현재 예수부채의 종류별 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
과 목		제183(당)기	제182(전)기
요구불예수부채	원화예수부채	62,012,907	52,697,003
	외화예수부채	3,787,185	3,922,716
	소 계	65,800,092	56,619,719
기한부예수부채	원화예수부채	101,259,139	97,809,278
	외화예수부채	2,682,972	2,885,635
	공정가치위험회피이익	15,352	(102,849)
	소 계	103,957,463	100,592,064
양도성예금증서		1,872,852	1,475,621
발행어음예수부채		3,241,082	3,132,185
어음관리계좌수탁금		1,682,610	1,291,588
기타		35,163	42,578
합 계		176,589,262	163,153,755

18. 단기매매금융부채

당기말과 전기말 현재 단기매매금융부채의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
과 목	제183(당)기		제182(전)기	
	이자율(%)	금액	이자율(%)	금액
금융예수부채	-	428,936	-	398,596

19. 차입부채

당기말과 전기말 현재 차입부채의 종류별 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)							
과 목		제183(당)기			제182(전)기		
		이자율(%)		금액	이자율(%)		금액
		최고	최저		최고	최저	
콜머니	원화	1.98	1.83	1,436,900	2.32	2.32	3,700
	외화	9.00	0.10	188,428	0.51	0.10	187,709
	소 계			1,625,328			191,409
매출어음		2.50	1.40	31,059	2.93	1.50	28,631
환매조건부 채권매도	원화	1.62	1.62	6,121	2.55	2.27	13,121
	외화	3.28	0.50	340,605	3.34	0.66	331,511
	소 계			346,726			344,632
원화차입부채	한은차입부채	1.00	0.50	1,366,192	1.00	0.50	1,269,610
	기타차입부채	5.05	0.00	3,249,709	5.05	0.00	3,242,251
	소 계			4,615,901			4,511,861
외화차입부채	외화타점차	0.67	0.55	342,548	0.78	0.73	228,178
	은행차입부채	8.85	0.44	2,601,308	1.83	0.40	2,493,401
	전대차입부채	0.79	0.25	995,522	-	-	-
	기타차입부채	0.68	0.48	2,260,779	0.68	0.55	2,550,854
	소 계			6,200,157			5,272,433
외화수탁금		0.10	0.10	77,179	0.10	0.10	94,315
이연부대비용				(1,504)			(1,995)
합 계				12,894,846			10,441,286

20. 사채

당기말과 전기말 현재 사채의 종류별 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)							
구 분		제183(당)기			제182(전)기		
		이자율(%)		금액	이자율(%)		금액
		최고	최저		최고	최저	
원화사채	일반사채	8.91	0.00	9,630,890	8.36	0.00	8,750,890
	후순위사채	5.10	3.41	2,901,239	7.70	3.41	5,060,630
	공정가치위험회피손실			34,277			(24,853)
	할인발행차금			(26,825)			(37,751)
	소 계			12,539,581			13,748,916
외화사채	일반사채	4.50	0.32	3,997,657	8.13	0.74	3,681,771
	공정가치위험회피손실			46,850			70,163
	할인발행차금			(12,680)			(15,082)
	소 계			4,031,827			3,736,852
합 계				16,571,408			17,485,768

21. 확정급여부채

당행은 종업원의 용역제공기간을 기초로 확정급여연금제도를 운영하고 있습니다. 또한, 당행은 사외적립자산을 신탁사, 펀드사 및 기타 유사기업에 신탁하고 있습니다.

(1) 확정급여제도 자산 및 부채

당기말과 전기말 현재 확정급여제도하의 자산 및 부채의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
확정급여채무의 현재가치	998,367	736,685
사외적립자산의 공정가치	(753,648)	(670,335)
재무상태표 계상 부채	244,719	66,350

(2) 당기와 전기 중 확정급여채무의 증감내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
기 초	736,685	747,236
당기근무원가	99,555	104,754
이자비용	35,250	31,998
재측정요소(주1)	158,265	(24,976)
과거근무원가(주2)	-	(96,779)
급여지급액	(33,760)	(27,724)
기타	2,372	2,176
기 말	998,367	736,685

(주1) 당기말 현재 재측정요소는 인구통계적가정 변동에 따른 보험수리적이익 3,580백만원과 재무적가정 변동에 따른 보험수리적손실 163,383백만원, 그리고 경험조정으로 인한 이익 1,538백만원으로 구성되어 있습니다.

(주2) 전기 중 제도의 축소에 해당하는 퇴직급여제도의 변경이 있었으며, 그 결과 당행의 확정급여채무는 96,779백만원 감소하였고 부의 과거근무원가가 전기손익으로 인식되었습니다.

(3) 확정급여제도 자산의 증감내역

당기와 전기 중 사외적립자산의 증감내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
기 초	670,335	583,657
이자수익	33,383	26,117
재측정요소	(15,755)	(7,566)
사용자의 기여금	93,000	90,000
급여지급액	(27,315)	(21,873)
기 말	753,648	670,335

(4) 사외적립자산 구성내역

당기말과 전기말 현재 사외적립자산의 구성내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
정기예금	713,045	646,711
기타	40,603	23,624
합 계	753,648	670,335

(5) 보험수리적 가정

당기말과 전기말 현재 보험수리적 가정의 내역은 다음과 같습니다.

구 분	제183(당)기	제182(전)기	비 고
할인율(기대수익률)	4.02%	4.98%	AAO 회사채 수익률
미래임금상승률	2.84%+승급률	2.44%+ 승급률	과거 5개년의 평균

(6) 린감도 분석

당기말과 전기말 현재 주요 가정의 변동에 따른 확정급여채무의 현재가치는 다음과 같습니다.

1) 할인율

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
적용된 가정에 따른 현재가치	998,367	736,685
1%Point 증가	875,969	651,523
1%Point 감소	1,145,240	838,202

2) 임금인상률

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
적용된 가정에 따른 현재가치	998,367	736,685
1%Point 증가	1,145,613	839,910
1%Point 감소	873,520	648,776

(7) 당기말과 전기말 평가 시 적용한 확정급여채무의 가중평균 만기는 각각 16.33년과 16.11년입니다.

22. 충당부채

(1) 당기와 전기 중 충당부채 증감내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)						
구 분	복구충당부채	소송	미사용한도	지급보증	기타	합 계
기 초	25,364	94,735	80,312	111,475	59,893	371,779
전입(환입)액	1,066	(26,178)	(9,404)	10,196	13,743	(10,588)
사용액	(1,221)	(46,766)	-	-	(19,697)	(67,684)
환출변동	-	439	980	2,077	773	4,269
기타(주)	3,897	-	-	9,063	-	12,960
기 말	29,096	22,230	71,888	132,810	54,712	310,736

<제182(전)기>

(단위: 백만원)						
구 분	복구충당부채	소송	미사용한도	지급보증	기타	합 계
기 초	23,023	97,041	78,109	112,824	48,693	359,690
전입(환입)액	545	(2,149)	1,628	26,722	39,257	66,003
사용액	(189)	-	-	-	(25,243)	(25,432)
환출변동	-	(157)	575	(1,011)	152	(441)
기타(주)	1,985	-	-	(27,060)	(2,966)	(28,041)
기 말	25,364	94,735	80,312	111,475	59,893	371,779

(주) 최초 공정가치로 평가하는 금융보증계약의 신규 발생과 만기 도래에 따른 변동 및 할인을 변동에 따른 효과 등입니다.

(2) 복구충당부채

복구충당부채는 보고기간말 현재 임차점포의 미래 예상 복구비용의 최선의 추정치를 적절한 할인율로 할인한 현재가치입니다. 동 복구비용의 지출은 개별 임차점포의 임차계약 종료시점에 발생할 예정이며, 이를 합리적으로 추정하기 위하여 과거 10개년간 임차계약이 종료된 임차점포의 평균존속기간을 이용하였습니다. 또한 예상 복구비용을 추정하기 위하여 과거 3개년간 복구공사가 발생한 점포의 실제 복구공사비용의 평균값 및 3개년간 평균 인플레이션율을 사용하였습니다.

23. 기타부채

당기말과 전기말 현재 기타부채의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
과 목	제183(당)기	제182(전)기
미지급금	3,848,890	2,196,437
신탁계정미지급금	2,306,260	2,605,055
미지급비용	2,196,255	2,355,511
대리점	2,226,742	2,356,703
미지급내국환채무	1,429,750	945,684
대행업무수입금	641,269	581,158
수입보증금	205,422	210,013
미지급외국환채무	223,390	195,569
가수금	51,335	35,359
선수수익	52,602	54,418
제세예수금	91,204	105,753
미지급배당금	14,937	18,545
잡부채	20,824	125,677
현재가치할인차금	(2,296)	(2,642)
합계	13,306,584	11,783,240

24. 자본

(1) 자본 내역

당기말과 전기말 현재 자본 내역은 다음과 같습니다.

		(단위: 백만원)	
과 목		제183(당)기	제182(전)기
자본금	보통주자본금	7,928,078	7,928,078
신종자본증권		1,100,250	2,099,350
자본잉여금	주식발행초과금	398,080	398,080
자본조정	주식선택권	(22)	25
	기타자본조정	(821)	-
	소 계	(843)	25
기타포괄손익누계액	매도가능금융자산평가손익	613,564	562,595
	해외사업환산손익	(43,366)	(46,950)
	확정급여제도의 재측정요소	(245,740)	(113,833)
	소 계	324,458	401,812
이익잉여금	법정적립금(주1)	1,232,400	1,098,257
	임의적립금(주2)	7,989,921	7,159,989
	기타준비금(주3)	62,496	51,400
	미처분이익잉여금(주4)	1,337,017	1,335,171
	소 계	10,621,834	9,644,817
합 계		20,371,857	20,472,162

- (주1) 은행법 제40조 규정에 의하여 자본금의 총액에 달할 때까지 결산순이익금을 배당할 때마다 그 순이익금의 10% 이상을 매 결산기에 적립한 이익준비금으로, 결손보전과 자본전입의 경우를 제외하고는 이를 사용할 수 없습니다.
- (주2) 당기말 1,695,516백만원의 대손준비금과 355,898백만원의 재평가적립금이 포함되어 있으며, 전기말 1,693,225백만원의 대손준비금과 355,898백만원의 재평가적립금이 포함되어 있습니다.
- (주3) 해외지점에서 현지 법규에 의하여 적립한 준비금으로 현지 소재지점의 결손보전을 위해서만 사용할 수 있습니다.
- (주4) 당기말 대손준비금 전입예정액 42,733백만원과 전기말 대손준비금 전입예정액 2,291백만원이 포함되어 있습니다.

(2) 당기말과 전기말 현재 자본금에 관련된 사항은 다음과 같습니다.

과 목	제183(당)기	제182(전)기
발행할 주식의 총수	2,000,000,000 주	2,000,000,000 주
1주의 금액	5,000 원	5,000 원
발행한 주식의 수	1,585,615,506 주	1,585,615,506 주

(3) 신종자본증권

당기말과 전기말 현재 자본으로 분류한 신종자본증권은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)					
구 분	발행일	만기일	금 액		이자율(%)
			제183(당)기	제182(전)기	
외화신종 자본증권	2005-03-02	2035-03-02	298,951	298,951	5.66
	2006-09-20	2036-09-20	94,761	94,761	6.82
	2006-09-20	2036-09-20	237,144	237,144	6.82
원화신종 자본증권	2008-03-21	2038-03-21	119,878	119,878	7.30
	2008-03-25	2038-03-25	49,948	49,948	7.30
	2009-06-05	2039-06-05	-	699,370	5.95
	2009-06-29	2039-06-29	-	299,730	5.95
	2013-06-07	2043-06-07	299,568	299,568	4.63
합 계			1,100,250	2,099,350	
신종자본증권 배당금			96,293	133,290	
가중평균이자율(%)			6.24	6.35	

상기 신종자본증권은 발행일이후 5년 또는 10년이 지난 후 당행이 조기상환할 수 있으며, 만기일에 동일한 조건으로 만기를 연장할 수 있습니다. 또한, 보통주에 대한 배당을 지급하지 않기로 결의한 경우 약정이자를 지급하지 아니합니다.

(4) 기타포괄손익누계액

당기와 전기 중 기타포괄손익누계액의 재분류조정을 포함한 증감내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)				
구 분	매도가능금융자산 평가손익	해외사업 환산손익	확정급여제도 재측정요소	합 계
기초금액	562,595	(46,960)	(113,833)	401,812
당기 발생 차익:				
공정가치평가로 인한 증감	379,123	-	-	379,123
당기손익에 포함된 차익의 재분류조정:				
자산손상으로 인한 증감	(17,714)	-	-	(17,714)
처분으로 인한 증감	(297,540)	-	-	(297,540)
위험회피회계적용효과	2,181	-	-	2,181
환율차이로 인한 효과	1,191	4,729	-	5,920
확정급여제도의 재측정	-	-	(174,020)	(174,020)
법인세효과	(16,272)	(1,145)	42,113	24,696
기말금액	613,564	(43,366)	(245,740)	324,458

<제182(전)기>

(단위: 백만원)				
구 분	매도가능금융자산 평가손익	해외사업 환산손익	확정급여제도 재측정요소	합 계
기초금액	865,555	(26,961)	(127,030)	711,574
당기 발생 차익:				
공정가치평가로 인한 증감	58,645	-	-	58,645
당기손익에 포함된 차익의 재분류조정:				
자산손상으로 인한 증감	10,832	-	-	10,832
처분으로 인한 증감	(472,352)	-	-	(472,352)
위험회피회계적용효과	4,170	-	-	4,170
환율차이로 인한 효과	(978)	(26,384)	-	(27,362)
확정급여제도의 재측정	-	-	17,410	17,410
법인세효과	96,723	6,385	(4,213)	98,895
기말금액	562,595	(46,960)	(113,833)	401,812

(5) 이익잉여금처분계산서

당기와 전기의 이익잉여금 처분계산서는 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
내 용	제183(당)기	제182(전)기
	처분예정일: 2015년 3월 18일	처분확정일: 2014년 3월 25일
I. 미처분이익잉여금	1,337,017	1,335,171
1. 전기이월미처분이익잉여금	-	-
2. 회계정책변경효과	-	127,030
3. 신종자본증권이자	(96,293)	(133,290)
4. 당기순이익	1,433,310	1,341,431
II. 임의적립금등의이입액	5,659,656	4,832,017
1. 임의적립금	5,659,656	4,832,017
합 계	6,996,673	6,167,188
III. 이익잉여금처분액	6,996,673	6,167,188
1. 이익준비금	143,331	134,143
2. 대손준비금	42,733	2,291
3. 기타준비금	12,720	11,098
4. 임의적립금	6,346,989	5,659,656
5. 신종자본증권상환손실	900	-
6. 배당금	450,000	360,000
보통주 현금배당 주당: 당기 283.80원(5.68%) 전기 227.04원(4.54%)		
IV. 차기이월미처분이익잉여금	-	-

(6) 배당금

당기와 전기의 보통주 배당금 계산내역은 다음과 같습니다.

(단위: 주, 원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
배당받을 주식수	1,585,615,506	1,585,615,506
주당액면금액	5,000	5,000
액면배당률	5.68%	4.54%
주당배당금액	283.80	227.04

(7) 배당성향

당기와 전기의 보통주에 대한 배당성향 계산내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
보통주 배당금	450,000	360,000
당기순이익	1,433,310	1,341,431
배당성향 (당기순이익 기준)	31.40%	26.84%
대손준비금 반영후 조정이익	1,390,577	1,339,140
배당성향 (대손준비금반영후 조정이익 기준)	32.36%	26.88%

25. 대손준비금

대손준비금은 은행업감독규정 제29조 제1항 및 제2항에 따라 산출 및 공시되는 사항입니다.

(1) 대손준비금 잔액

당기말과 전기말 현재 대손준비금 잔액은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
대손준비금 적립액	1,695,516	1,693,225
대손준비금 전입 예정액	42,733	2,291
대손준비금 잔액	1,738,249	1,695,516

(2) 대손준비금 전입액 및 대손준비금 반영 후 조정이익 등

당기와 전기 중 대손준비금 전입액 및 대손준비금 반영후 조정이익 등은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
대손준비금 전입액	42,733	2,291
대손준비금 반영후 조정이익	1,390,577	1,339,140
대손준비금 반영후 주당 조정이익(원)	816	760

26. 순이자수익

(1) 당기와 전기 중 이자수익의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
현금및예치금이자	79,210	50,797
단기매매금융자산이자	122,692	124,271
매도가능금융자산이자	554,441	721,871
만기보유금융자산이자	324,820	371,623
대출채권이자	6,846,017	7,215,523
기타이자	94,101	111,407
합 계	8,021,281	8,595,492
손상된 금융자산에서 발생한 이자수익	34,702	45,023

(2) 당기와 전기 중 이자비용의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
예수부채이자	3,169,146	3,638,016
차입부채이자	175,913	191,930
사채이자	523,337	641,009
기타이자	56,217	64,672
합 계	3,924,613	4,535,627

27. 순수수수료수익

당기와 전기 중 순수료 수익 · 비용의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제183(당)기	제182(전)기
수수료수익	여신취급수수료	56,823	56,588
	전자금융수수료	134,410	130,916
	통개수수료	105,923	118,324
	업무대행수수료	328,456	318,382
	투자금융수수료	49,419	45,430
	외환수입수수료	87,444	89,907
	신탁보수수료	67,239	60,388
	수입보증료	54,098	54,646
	기타수수료	65,829	49,869
	합 계	949,641	924,450
수수료비용	여신관련수수료	28,408	29,271
	브랜드사용수수료	50,655	83,599
	서비스관련수수료	14,493	14,962
	매매및중개관련수수료	4,046	5,184
	외환지급수수료	16,572	16,492
	기타수수료	41,772	38,026
	합 계	155,946	187,534

28. 배당수익

당기와 전기 중 배당수익의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
단기매매금융자산	5,446	1,286
매도가능금융자산	93,280	73,399
합 계	98,726	74,685

29. 단기매매금융상품 관련 손익

당기와 전기 중 단기매매금융상품 관련 손익의 내역은 다음과 같습니다.

				(단위: 백만원)		
구 분			제183(당)기	제182(전)기		
단기매매 금융상품	채무증권	평가이익	352	463		
		처분이익	2,893	5,071		
		평가손실	(282)	(436)		
		처분손실	(945)	(4,002)		
		소 계	2,018	1,096		
	지분증권	평가이익	1,110	4,704		
		처분이익	26,785	31,230		
		평가손실	(5,007)	(491)		
		처분손실	(4,156)	(7,624)		
		소 계	18,732	27,819		
	금관련	평가이익	-	157,548		
		처분이익	1,499	2,941		
		평가손실	(19,403)	(91,522)		
		처분손실	(203)	(586)		
		소 계	(18,107)	68,381		
합 계			2,643	97,296		
매매목적 파생금융상품	외환관련	평가 및 거래이익	1,909,343	2,255,224		
		평가 및 거래손실	(1,876,210)	(2,297,528)		
		소 계	33,133	(42,304)		
	이자율관련	평가 및 거래이익	618,396	626,705		
		평가 및 거래손실	(631,098)	(630,068)		
		소 계	(12,702)	(3,363)		
	주식관련	평가 및 거래이익	15,323	21,457		
		평가 및 거래손실	(15,021)	(23,402)		
		소 계	302	(1,945)		
	상품관련	평가 및 거래이익	25,574	4,348		
		평가 및 거래손실	(27,760)	(32,317)		
		소 계	(2,186)	(27,969)		
	합 계			18,547	(75,581)	
	총 계			21,190	21,715	

30. 금융상품자산 손상차손

당기와 전기 중 금융상품자산 손상차손의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제183(당)기	제182(전)기
금융상품 손상차손	대출채권 및 기타금융자산	419,933	645,168
	매도가능금융자산	220,286	203,584
합 계		640,219	848,752

31. 일반관리비

당기와 전기 중 일반관리비의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제183(당)기	제182(전)기
종업원급여	장·단기 종업원급여	1,452,558	1,363,484
	확정급여형 퇴직급여	101,422	13,856
	해고급여	106,226	56,184
	소 계	1,660,206	1,433,524
감가상각비 및 기타상각비	감가상각비	123,603	125,841
	무형자산상각비	67,284	63,525
	소 계	190,887	189,366
기타일반관리비	복리후생비	110,473	101,813
	임차료	231,920	226,874
	용역비	217,403	235,319
	제세공과금	71,805	74,860
	광고선전비	55,958	49,379
	전산운영비	61,167	61,088
	기타의 관리비	149,672	153,403
	소 계	898,398	902,736
합 계		2,749,491	2,525,626

32. 주식기준보상

(1) 당기말 현재 주식매수선택권은 다음과 같습니다.

구 분	4차발행분	5차발행분	7차발행분
① 권리부여일	2005.3.30	2006.03.21	2008.03.19
② 행사가격	28,006원	38,829원	49,053원
③ 부여수량	1,871,400주	2,143,800주	314,700주
④ 행사가능기간(주1)	권리부여일로부터 3년이후 4년간	권리부여일로부터 3년이후 4년간	권리부여일로부터 3년이후 4년간
⑤ 수량증감내역			
기초	93,426	101,963	247,873
행사 및 소멸	-	-	(35,294)
기말	93,426	101,963	212,579
당기말 행사가능	93,426	101,963	212,579
⑥ 부채평가방법	공정가치	공정가치	공정가치
평가모형	Black-Scholes Model	Black-Scholes Model	Black-Scholes Model
주가	44,450	44,450	44,450
기대주가 변동성	-	-	16.90%
만기(년)	-	-	0.11
기대배당율	-	-	1.58%
무위험이자율	-	-	2.05%
⑦ 공정가치	16,444원	5,621원	39원

(주1) 당기말 현재 4차와 5차 부여분의 잔여 수량은 행사가 보류되어 있습니다.

(주2) 당기말 현재 주식매수선택권은 모두 가득되었으며, 잔여수량 407,988개의 가중평균행사가격은 41,678원입니다.

(2) 주식결제형 주식기준보상약정

① 당기말 현재 성과연동형 주식기준보상 내용은 다음과 같습니다.

구 분	내용
유형	주식결제형
부여기간(약정응역기간)	2013년까지 부여분: 2010년 4월 1일 이후 선임 및 승진시(부여일로부터 3년간) 2014년부터 부여분: 2014년 1월 1일 이후 선임 및 승진시(부여일로부터 1년간)
성과조건	2013년 까지 상대주가연동(33.4%) 및 4년간 경영지표연동(66.6%), 2014년 부터 상대주가연동(20.0%) 및 4년간 경영지표연동(80.0%)

② 부여 수량 및 부여시점의 공정가치는 다음과 같습니다.

부여일	부여수량	공정가치(주1)	추정수량(주2)
2010-04-01	306,400	45,150	15,747
2010-07-21	3,800	46,800	39
2010-08-30	12,400	46,500	1,023
2010-11-04	3,800	44,000	268
2010-12-30	42,800	52,900	4,712
2011-01-11	65,200	51,500	42,674
2011-01-28	49,500	50,700	43,096
2011-02-10	3,300	49,700	2,053
2011-04-18	15,400	46,800	11,946
2012-01-26	49,200	44,300	30,972
2012-02-08	30,900	46,650	19,474
2012-03-27	4,100	44,550	2,362
2012-08-24	10,800	36,150	4,830
2012-10-15	4,100	37,200	2,714
2013-01-01	183,100	40,050	101,261
2013-03-21	4,400	37,750	1,149
2013-05-27	14,500	40,250	7,736
2013-08-01	4,400	41,250	2,080
2014-01-01	109,800	47,300	101,016
2014-02-08	5,400	44,300	4,449
2014-04-01	4,800	47,000	3,324
2014-10-15	2,400	47,150	470
합 계	930,500		403,395

(주1) 부여시점의 신한금융지주 주식 종가를 단위당 공정가치로 산정하였습니다.

(주2) 최초 부여 시점의 부여수량에 약정유역기간 중 재임일수에 해당하는 기준수량을 기준으로 상대주가 상승률에 따른 부여수량을 조정하고(2013년까지 33.4% 2014년부터 20.0%), 경영성과달성률에 따른 부여수량을 조정하여(2013년까지 66.6% 2014년부터 80.0%) 운영기간 종료 후 획득수량을 확정합니다.

(주3) 지급약정에 따라 당행이 신한금융지주회사에 지급해야할 금액을 자본에 직접 차감하여 부채로 인식하였습니다. 당기말 현재 신한금융지주회사가 평가한 공정가치는 44,450원입니다.

(3) 당기와 전기 중 발생한 보상원가의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
당기 인식한 총보상원가	6,127	7,964

(4) 당기말과 전기말 현재 주식기준보상 관련 미지급비용과 잔여보상원가의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
당기 이후 인식할 잔여보상원가	5,417	7,704
미지급비용	20,494	21,427

33. 기타영업손익

당기와 전기 중 기타영업손익의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제183(당)기	제182(전)기
기타영업수익			
자산처분관련	대출채권처분이익	16,932	8,348
	상각채권처분이익	9,572	71,836
	소 계	26,504	80,184
기타영업수익	위험회피대상관련이익	77,801	285,995
	위험회피수단관련이익	233,780	28,565
	지급보증충당부채환입액	5,257	-
	기타부채성충당금환입액	35,792	-
	기타	12,233	12,942
	소 계	364,863	327,502
기타영업수익 합계		391,367	407,686
기타영업비용			
자산처분관련	대출채권처분손실	148	26,689
기타영업비용	위험회피대상관련손실	236,023	28,451
	위험회피수단관련손실	68,841	291,815
	지급보증충당부채전입액	15,452	26,722
	기타부채성충당부채전입액	15,009	39,281
	기금출연금	244,911	244,518
	예금보험료	231,058	230,200
	기타	85,965	92,431
	소 계	897,259	953,418
기타영업비용 합계		897,407	980,107
기타영업손익		(506,040)	(572,421)

34. 영업외손익

당기와 전기 중 영업외손익의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제183(당)기	제182(전)기
영업외수익			
자산처분관련	유형자산처분이익	470	1,014
	무형자산처분이익	460	179
	투자부동산처분이익	-	248
	소 계	930	1,441
관계기업등 투자자산관련	배당수익	36,235	1,845
	처분이익	-	57
	소 계	36,235	1,902
기타영업외수익	투자부동산임대수익	25,149	21,449
	기타	53,552	41,761
	소 계	78,701	63,210
영업외수익 합계		115,866	66,553
영업외비용			
자산처분관련	유형자산처분손실	80	31
	무형자산처분손실	68	50
	소 계	148	81
관계기업등 투자자산관련	손상차손	-	11
기타영업외비용	투자부동산감가상각비	7,992	6,408
	기부금	12,533	35,627
	무형자산손상차손	547	1,649
	기타	28,563	33,489
	소 계	49,635	77,173
영업외비용합계		49,783	77,265
영업외손익		66,083	(10,712)

35. 영업수익

당기와 전기 중 영업수익의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
이자수익	8,021,281	8,595,492
수수료수익	949,641	924,450
배당수익	98,726	74,685
단기매매금융상품관련이익	2,601,275	3,109,691
당기손익인식지정금융상품관련이익	34	-
외환거래이익	791,417	1,223,843
매도가능금융자산처분이익	441,587	546,510
기타영업수익	391,367	407,686
합 계	13,295,328	14,882,357

36. 법인세비용 및 이연법인세

(1) 법인세비용 구성내역

당기와 전기 중 법인세비용 산출내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당기)	제182(전기)
당기 법인세 부담액	378,771	365,740
일시적차이로 인한 이연법인세 변동액	(36,606)	(107,351)
자본에 직접 반영된 법인세	24,685	99,529
법인세 비용	366,850	357,918

(2) 법인세비용 차이내역

당기와 전기 중 법인세비용차감전순이익과 법인세비용간의 관계는 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당기)	제182(전기)
법인세비용차감전순이익	1,800,160	1,699,349
적용세율	24.20%	24.20%
적용세율에 따른 법인세	435,176	410,780
비과세수익	(28,480)	(35,153)
비공제비용	3,776	8,929
연결납세	(33,880)	(30,333)
기타	(9,742)	3,695
법인세비용	366,850	357,918
유효세율	20.38%	21.06%

(3) 일시적차이와 이연법인세

당기와 전기 중 일시적차이 및 이연법인세자산(부채)의 증감내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)					
구 분	기초잔액	감소	증가	기말잔액	이연법인세자산 (부채)
미수수익	(397,307)	(396,358)	(300,706)	(301,655)	(73,000)
미수금	(8,133)	(8,133)	(58,567)	(58,567)	(14,173)
자기대매금융자산	(70,265)	(121,086)	(136,065)	(85,244)	(20,629)
매도가능금융자산	1,744,683	834,144	340,644	1,151,183	278,586
관계기업등에대한투자자산	(22,370)	(83,006)	-	60,636	14,674
이연대출부대수익(비용)	(44,110)	(85,286)	(304,481)	(263,296)	(63,718)
유형자산평가 및 손상 등	(446,441)	6,473	3,100	(449,814)	(108,855)
파생상품자산(부채)	(1,506)	54,657	(23,805)	(79,668)	(19,352)
예수부채	106,159	119,482	134,019	120,696	29,208
미지급비용	143,587	144,613	280,179	279,153	67,555
확정급여부채	602,286	27,316	293,053	868,023	210,062
사외적립자산	(602,286)	(27,315)	(178,677)	(753,648)	(182,383)
기타충당부채	260,304	260,369	177,991	177,926	43,058
지급보증충당부채	117,340	117,340	132,810	132,810	32,140
압축기장충당부채	(180,945)	-	(86)	(181,031)	(46,363)
일시상각충당부채	(2,850)	(232)	-	(2,618)	(634)
간주배당	5,513	-	-	5,513	1,334
매도가능금융자산평가손익	(742,210)	(742,210)	(809,451)	(809,451)	(196,887)
미지급기부금	50,306	50,306	49,300	49,300	11,831
대손충당금 및 대손금	160,374	2,646	25,873	183,601	44,432
주식보상비용 관련 조정액	3,299	3,221	2,118	2,196	531
의제배당	3,966	57	-	3,909	946
기타	(666,050)	(702,913)	97,164	134,027	31,517
소 계	13,344	(445,924)	(275,587)	183,681	40,980
<이연법인세자산 및 부채로 인식하지 않은 일시적 차이>					
관계기업등에대한투자자산	(26,953)	(4,734)	-	(22,219)	(5,377)
합 계	40,297	(441,190)	(275,587)	205,900	46,357

<제182(전)기>

(단위: 백만원)					
구 분	기초잔액	감소	증가	기말잔액	이연법인세자산 (부채)
미수수익	(422,252)	(426,211)	(401,266)	(397,307)	(96,148)
미수금	(53,882)	(80,536)	(34,787)	(8,133)	(1,968)
단기매매금융자산	(17,914)	(7,384)	(59,735)	(70,265)	(17,004)
매도가능금융자산	1,241,095	505,162	1,008,750	1,744,683	422,213
관계기업등에대한투자자산	(22,392)	-	22	(22,370)	(5,414)
이연대출부대수익(비용)	(30,821)	(44,110)	(57,399)	(44,110)	(10,675)
유형자산평가 및 하락 등	(438,627)	11,747	3,933	(446,441)	(108,039)
파생상품자산(부채)	(102,731)	(160,682)	(59,457)	(1,506)	(364)
예수부채	132,232	167,214	141,141	106,159	25,690
미지급비용	80,966	81,690	144,311	143,587	34,748
확정급여부채	711,246	21,873	(87,087)	602,286	145,753
사외적립자산	(472,230)	(21,873)	(151,929)	(602,286)	(145,753)
기타충당부채	246,866	246,866	260,304	260,304	62,994
지급보증충당부채	112,824	112,824	117,340	117,340	28,396
압축기장충당부채	(181,096)	(151)	-	(180,945)	(43,789)
일시상각충당부채	(3,082)	(232)	-	(2,850)	(690)
간주배당	5,513	-	-	5,513	1,334
매도가능금융자산평가손익	(1,141,894)	(1,141,894)	(742,210)	(742,210)	(179,615)
미지급기부금	54,925	54,925	50,306	50,306	12,174
대손충당금 및 대손금	175,347	72	(14,901)	160,374	38,811
주식보상비용 관련 조정액	2,740	2,662	3,221	3,299	798
의제배당	3,953	9	22	3,966	960
기타	(310,847)	438,803	83,600	(666,050)	(161,184)
소 계	(430,051)	(239,225)	204,179	13,344	3,228
<이연법인세자산 및 부채로 인식하지 않은 일시적 차이>					
관계기업등에대한투자자산	(26,953)	-	-	(26,953)	(6,523)
합 계	(403,108)	(239,225)	204,179	40,297	9,751

(4) 자본에 직접 가감하는 항목과 관련된 법인세

당기와 전기 중 자본에 직접 추가되거나 차감된 법인세 내역은 다음과 같습니다.

<제183(당)기>

(단위: 백만원)					
구 분	기말		기초		법인세효과 증감
	세전 금액	법인세효과	세전 금액	법인세효과	
매도가능금융자산평가손익	809,451	(195,887)	742,210	(179,615)	(16,272)
해외사업환산손익	(57,210)	13,844	(61,939)	14,989	(1,145)
확정급여제도재측정요소	(324,196)	78,456	(150,176)	36,343	42,113
기타자본조정	77	(19)	33	(8)	(11)
합 계	428,122	(103,606)	530,128	(128,291)	24,685

<제182(전)기>

(단위: 백만원)					
구 분	기말		기초		법인세효과 증감
	세전 금액	법인세효과	세전 금액	법인세효과	
매도가능금융자산평가손익	742,210	(179,615)	1,141,894	(276,338)	96,723
해외사업환산손익	(61,939)	14,989	(35,555)	8,604	6,385
확정급여제도재측정요소	(150,176)	36,343	(167,587)	40,556	(4,213)
기타자본조정	33	(8)	2,653	(642)	634
합 계	530,128	(128,291)	941,405	(227,820)	99,529

(5) 당기법인세

당기말과 전기말 현재 당기법인세자산 및 당기법인세부채 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제183(당)기	제182(전)기
당기법인세자산	선급법인세	9	1,779
	법인세미지급금 (연결납세부담액)	168,652	134,344
	미지급법인세	-	5,264
	합 계	168,652	139,608

(6) 총액 기준 법인세 내역

당기말과 전기말 현재 상계전 총액 기준에 의한 이연법인세자산과 이연법인세부채 및 당기법인세자산과 당기법인세부채의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
이연법인세자산	1,150,223	1,136,722
이연법인세부채	1,103,866	1,126,971
당기법인세자산	260,047	251,678
당기법인세부채	428,690	389,507

37. 주당순이익

당기와 전기의 주당순이익의 계산내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
지배회사순이익	1,433,310	1,341,431
신종자본증권 배당	(96,293)	(133,290)
보통주에 귀속되는 이익	1,337,017	1,208,141
가중평균보통유통주식수(주)	1,585,615,506	1,585,615,506
기본 및 희석주당순이익(원)	843	762

당행은 희석성 잠재적 보통주를 보유하고 있지 아니하고 주식선택권은 희석효과가 없으므로, 당기 및 전기의 희석주당순이익은 기본주당순이익과 일치합니다.

38. 우발 및 약정사항

(1) 당기말과 전기말 현재 지급보증 및 약정의 종류별 금액은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제183(당)기	제182(전)기
지급보증	확정지급보증	11,390,274	10,708,396
	미확정지급보증	4,186,967	4,960,858
	합 계	15,577,241	15,669,254
약정	원화대출약정	52,013,175	52,677,413
	외화대출약정	17,954,207	18,167,457
	ABS 및 ABCP 매입약정	2,652,032	2,370,881
	기타	1,208,643	1,167,721
	합 계	73,828,057	74,383,472
배서어음	달보배서어음	51,043	54,460
	무달보배서어음	10,914,587	11,327,272
	합 계	10,965,630	11,381,732
환매권부대출채권매각	원화	1,387	1,387

(2) 지급보증충당부채

당기말과 전기말 현재 지급보증충당부채 설정 대상 및 지급보증충당부채 설정비율은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
확정지급보증	11,390,274	10,708,396
미확정지급보증	4,186,967	4,960,858
ABS 및 ABCP 매입약정	2,652,032	2,370,881
배서어음	51,043	54,460
설정대상지급보증총액	18,280,316	18,094,595
지급보증충당부채	132,810	111,475
충당부채 설정비율(%)	0.73	0.62

(3) 계류중인 소송사건

당기말 현재 당행과 관련하여 계류중인 피소사건은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
사건명	건수	소가	사건내용	소송 현황
물품대금	1	43,761	위조 지급보증서를 바탕으로 물품을 납입하였고, 물품대금을 수령하지 못하자 해당 지급보증서를 바탕으로 미회수 물품대금에 대해 당행에게 지급보증 책임의 이행을 청구함.	1심 일부 패소금액에 대해 전액 지급하였으며, 2심 진행중임.
손해배상	1	47,200	원고는 당행이 신한저지 주식을 매입하면서, 이러한 매각이 기업구조조정합원의 의사에 반하여 불법적으로 주식 매각을 한다는 사실을 사전에 알았음에도 불구하고, 이를 인수하여 타 주주의 경영권 행사에 영향을 주어 손해가 발생하였으므로 이에 대해 배상을 청구함.	1심 및 2심 일부 패소금액에 대해 전액 지급하였으며, 3심 진행중임.
근저당권 설정비 반환	1	218	원고들은 당행으로부터 담보대출을 받으면서 근저당권 설정비용을 부담한 고객으로서, 설정비 부담에 관한 약정은 불공정한 약관에 해당하여 무효이므로 이를 반환하여야 한다는 부당이득금 반환 소를 제기함.	1심 진행중임.
계약무효확인 및 부당이득반환 등	6	43,406	통화옵션 선물한 무효, 취소 등 주장	2심 및 3심이 진행중이며 손실에상금액을 총당부채로 인식함.
기타	116	154,444	손해배상 등 다수	
합 계	125	288,029		

당행은 당기말 현재 1심에서 패소가 결정된 소송건 등에 대해 22,230백만원을 소송충당부채로 계상하였으며, 충당부채로 계상된 소송 이외의 잔여 소송결과는 재무제표에 중대한 영향을 미치지 않을 것으로 예측되고 있으나, 향후 소송의 결과에 따라 추가적인 손실이 발생할 수도 있습니다.

(4) 삼성전자 관련 약정금 등 청구의 소송에 대한 채권단 승소로 인한 우발자산
당행을 포함한 삼성전자(주) 채권단은 1999년 9월 삼성전자(주) 처리와 관련하여 삼성계열사들과 합의서를 작성하였습니다. 동 합의서에 의하면, 삼성전자(주)의 회사정리 신청과 관련하여 삼성전자(주)의 채권금융기관들에게 출연된 삼성생명보험(주) 주식 350만주를 2000년 12월 31일까지 처분하고 그 처분가액이 2조 4,500억원에 부족하게 될 경우 삼성그룹 계열사들이 채권금융기관들에게 자본출자 또는 후순위채권매입방법 등으로 그 부족액을 부담하되, 불이행시 은행 연체이율에 의한 지연이자 상당액을 지급하기로 되어 있습니다.

상기의 합의서와 관련하여 2005년 12월 9일자로 은행과 삼성자동차㈜ 채권단은 이
전희 회장 및 삼성그룹 계열사들을 상대로 약정금 등 청구의 소송을 제기하였으며, 2
015년 1월 29일 대법원으로부터 승소판결을 받았습니다.

(5) 원본 또는 이익보전 신탁

당기말과 전기말 현재 원금보전 및 원리금보전약정이 있는 신탁의 장부금액은 다음
과 같습니다.

(단위: 백만원)			
구 분		제183(당기)	제182(전기)
원금보전약정	시가평가형	2,145,636	1,946,848
	장부가평가형	1,638,494	1,626,688
	소 계	3,784,130	3,573,536
원리금보전약정	장부가평가형	1,665	1,696
합 계		3,785,795	3,575,232
금전신탁원본		3,468,946	3,298,266
미지급신탁이익		316,849	276,966

당기 이후 약정신탁의 운용결과에 따라 손실이 추가로 발생할 수 있습니다. 당기말과
전기말 현재 약정신탁의 운용결과에 따라 추가로 부담해야할 금액은 없습니다.

(6) 운용리스 만기구조

당기말과 전기말 현재 해지불능리스계약에 따라 지급해야 할 미래 최소리스료 약정
금액은 다음과 같습니다.

<제183(당기)>

(단위: 백만원)				
구 분	1년이내	1년초과 5년이내	5년초과	합 계
최소리스료	101,128	132,963	2,632	236,713

<제182(전기)>

(단위: 백만원)				
구 분	1년 이내	1년 초과 5년 이내	5년 초과	합 계
최소리스크	80,009	96,515	5,706	182,230

39. 현금흐름표에 대한 주석

(1) 당기말과 전기말 현재 현금 및 현금성자산의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당기)	제182(전기)
현금	2,417,685	2,532,041
지준예치금	5,668,726	3,161,035
기타예치금	4,440,843	3,513,465
재무상태표상 현금및예치금	12,527,254	9,206,541
사용제한예치금	(8,825,782)	(5,361,187)
취득 당시 만기일이 3개월 초과 예치금	(200,000)	-
합 계	3,501,472	3,845,354

(2) 당기와 전기 중 현금의 유입과 유출이 없는 거래의 주요 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당기)	제182(전기)
신종자본증권 미지급배당금	14,937	18,545
대출채권 출자전환	57,335	158,754
무형자산취득 미지급금	9,450	36,260

40. 특수관계자 거래

(1) 특수관계자 채권·채무

당기말과 전기말 현재 특수관계자 간의 중요한 채권·채무의 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제183(당)기	제182(전)기
1) 연결대상종속기업			
신한아주금융유한공사	현금및예치금	172	170
	대출채권	95,630	70,705
	대손충당금	(41)	(30)
	기타자산	33	36
유림신한은행	현금및예치금	1,703	11,520
	대출채권	109,920	147,742
	대손충당금	(337)	(454)
	기타자산	67	119
	예수부채	23	165
	파생상품부채	-	228
	차입부채	63,772	145,870
신한크에르은행	현금및예치금	86	85
	대출채권	10,992	10,553
	대손충당금	(16)	(15)
	기타자산	16	18
신한카자흐스탄은행	현금및예치금	116	193
	대출채권	5,427	7,387
	대손충당금	(8)	(11)
	기타자산	9	8
	예수부채	6	6
캐나다신한은행	현금및예치금	69	465
	대출채권	21,984	-
	대손충당금	(67)	-
	기타자산	38	-
	예수부채	109	181
	차입부채	36,266	42,397
	현금및예치금	208	2,199
	대출채권	214,154	121,056

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제183(당기)	제182(전기)
신한은행중국유한공사	대손충당금	(584)	(373)
	기타자산	118	55
	예수부채	2,602	392
	파생상품부채	-	9
	차입부채	4,889	19,625
	총당부채	760	267
SBJ은행	현금및예치금	-	21
	대출채권	154,123	94,315
	대손충당금	(122)	(75)
	기타자산	137	34
	예수부채	556,104	1,000,931
	차입부채	414,198	503,739
	총당부채	15	16
	기타부채	10,801	52,729
신한베트남은행	현금및예치금	48	-
	파생상품자산	-	128
	대출채권	61,604	69,001
	대손충당금	(54)	(100)
	기타자산	94	90
	예수부채	13	4
	총당부채	247	1
신택	기타자산	1,747	2,100
	기타부채	288,450	306,413
구조화기업	단기매매금융자산	415,108	979,648
	파생상품자산	2,433	173
	대출채권	285,422	155,749
	대손충당금	(63)	(14,809)
	기타자산	21,732	24,108
	예수부채	5,208	198,713
	총당부채	22,208	17,635
	기타부채	14	-
수익증권	기타자산	2	2
2) 당행의 지배기업			
신한금융지주	예수부채	120,813	385
	당기법인세부채	168,652	134,344

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제183(당)기	제182(전)기
	기타부채	34,213	34,997
3) 동일지배기업			
신한카드	파생상품자산	12,269	2,820
	기타자산	1,793	1,575
	예수부채	97,333	21,081
	파생상품부채	60	1,849
	총당부채	19	19
	기타부채	19,027	32,500
신한금융투자	현금및예치금	-	8
	파생상품자산	5,898	2,001
	대출채권	9,655	9,801
	대손충당금	(61)	(71)
	기타자산	17,760	18,771
	예수부채	193,038	56,429
	파생상품부채	4,411	3,540
	총당부채	54	39
	기타부채	29,448	34,543
신한생명	파생상품자산	12,657	25
	기타자산	8	5
	예수부채	6,862	33,310
	파생상품부채	1,601	7,326
	총당부채	2	2
	기타부채	38,748	41,652
신한캐피탈	기타자산	1	-
	예수부채	15,071	18,166
	총당부채	4	4
	기타부채	1,319	1,403
제주은행	대출채권	4,964	9,797
	대손충당금	(3)	(2)
	기타자산	27	56
	예수부채	1,567	1,368
	기타부채	1,140	1,140
신한신용정보	예수부채	10,511	11,119
	기타부채	1,452	1,455
	대출채권	3,500	1,701

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제183(당)기	제182(전)기
신한프라이빗에쿼티	대손충당금	(19)	(36)
	기타자산	-	3
	예수부채	168	36
	총당부채	5	9
	기타부채	-	1
신한비엔피파리바자산운용	예수부채	119,522	109,561
	기타부채	2,034	1,265
에스에이치씨매니지먼트	예수부채	100	100
	기타부채	3	3
신한데이터시스템	예수부채	2,481	843
	기타부채	4,458	4,114
신한저축은행	기타부채	-	90
신한아이타스	기타자산	6	-
	예수부채	10,255	10,171
	기타부채	100	183
KREDIT사모부동산투자신탁1호	예수부채	-	1,701
	기타부채	-	25
4) 관계기업 및 동일지배기업의 관계기업			
아주캐피탈	단기매매금융자산	50,000	60,000
	대출채권	200,000	50,000
	대손충당금	(614)	(275)
	예수부채	1,184	470
	총당부채	78	280
연합자산관리	예수부채	28,801	1,719
	총당부채	50	50
카디프생명	예수부채	194	262
	총당부채	1	1
포항테크노파크2PFV	예수부채	14,666	14,689
극동건설	예수부채	6,986	-
비엔피파리바카드프손해보험	예수부채	7	-
공평오피스	예수부채	32,002	-
미래에셋증권기업투자조합3호	예수부채	1,777	158
케이디비대우루비 사모투자전문회사	예수부채	2,025	-
드림하이 투자조합3호	예수부채	301	-

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제183(당)기	제182(전)기
메디치2호투자조합	예수부채	-	62
케이디비대우증권플래티늄 사모투자전문회사	예수부채	-	652
웨이리식품	총당부채	-	5
5) 주요경영진			
대출채권		2,718	799
대손충당금		(1)	(1)

(2) 특수관계자 수익·비용

당기와 전기 중 특수관계자 간의 중요한 거래내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제183(당)기	제182(전)기
1) 연결대상종속기업			
신한이주금융유한공사	이자수익	654	623
	대손상각비	(11)	(9)
유럽신한은행	이자수익	1,017	1,817
	파생상품관련이익	270	2
	대손상각비	117	(391)
	파생상품관련손실	(389)	(1,691)
신한크메르은행	이자수익	150	18
	대손상각비	(1)	(15)
신한카자흐스탄은행	이자수익	19	28
	대손상각비	3	(11)
캐나다신한은행	이자수익	121	53
	이자비용	(1)	-
	대손상각비	(67)	-
신한은행중국유한공사	이자수익	1,447	442
	파생상품관련이익	9	4
	이자비용	(3)	(8)
	대손상각비	(211)	(360)
	기타영업비용	(493)	-
SBJ은행	이자수익	1,210	309
	파생상품관련이익	73	721
	기타영업수익	1	-
	이자비용	(18,438)	(28,421)
	대손상각비	(47)	(39)
	기타영업비용	-	(16)
신한베트남은행	이자수익	501	519
	파생상품관련이익	-	570
	기타영업수익	1	-
	대손상각비	46	(36)
	파생상품관련손실	(93)	(84)
	기타영업비용	(246)	-

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제183(당)기	제182(전)기
신탁	수수료수익	17,498	18,106
	이자비용	(5,558)	(7,735)
구조화기업	이자수익	18,370	14,653
	수수료수익	15,420	7,455
	파생상품관련이익	3,071	313
	기타영업수익	5,659	162
	이자비용	(68)	(194)
	대손상각비	(5,809)	(247)
	파생상품관련손실	(10)	(1,968)
	기타영업비용	(173)	(1,876)
수익총계	수수료수익	19	3
2) 당행의 지배기업			
신한금융지주	기타영업수익	1,941	1,967
	이자비용	(1,201)	(2,892)
	수수료비용	(46,050)	(76,000)
3) 동일지배기업			
신한카드	이자수익	214	533
	수수료수익	174,433	168,824
	파생상품관련이익	15,430	3,262
	기타영업수익	1,217	1,087
	이자비용	(703)	(814)
	수수료비용	(431)	(513)
	파생상품관련손실	(892)	(3,630)
	기타영업비용	(41)	(40)
신한금융투자	이자수익	1,082	1,018
	수수료수익	3,413	3,164
	파생상품관련이익	10,808	4,714
	기타영업수익	2,654	2,538
	이자비용	(1,531)	(2,925)
	대손상각비	10	13
	파생상품관련손실	(8,764)	(5,177)
	기타영업비용	(649)	(576)
	이자수익	56	58
	수수료수익	15,769	13,151
	파생상품관련이익	15,725	388

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제183(당)기	제182(전)기
신한생명	기타영업수익	1,761	2,180
	이자비용	(1,107)	(1,192)
	수수료비용	(50)	(60)
	파생상품관련손실	(2,905)	(7,684)
	기타영업비용	(707)	(681)
신한캐피탈	이자수익	1	2
	기타영업수익	641	850
	이자비용	(368)	(346)
제주은행	이자수익	84	125
	기타영업수익	218	42
	이자비용	(30)	(30)
	대손상각비	(1)	-
	기타영업비용	(2)	-
신한신용정보	수수료수익	2	2
	기타영업수익	200	142
	이자비용	(298)	(331)
	수수료비용	(5,315)	(5,399)
	파생상품관련손실	(6)	-
신한프라이빗에쿼티	이자수익	45	43
	기타영업수익	4	1
	이자비용	-	(21)
	대손상각비	17	12,386
신한비엔피파리바자산운용	이자수익	3	-
	수수료수익	43	30
	기타영업수익	27	19
	이자비용	(2,723)	(2,871)
	수수료비용	(1,991)	(1,881)
신한데이터시스템	기타영업수익	288	303
	이자비용	(141)	(36)
	기타영업비용	(30,036)	(33,946)
에스에이치씨매니지먼트	이자비용	(3)	(3)
신한저축은행	기타영업수익	76	209
	이자비용	(1)	(277)
	수수료수익	25	26
	기타영업수익	28	11

(단위: 백만원)			
특수관계자	계정과목	제183(당)기	제182(전)기
신한아이타스	이자비용	(287)	(324)
	수수료비용	-	(40)
4) 관계기업 및 동일지배기업의 관계기업			
아주캐피탈	이자수익	5,638	2,185
	수수료수익	260	546
	기타영업수익	202	-
	이자비용	(1)	(24)
	대손상각비	(339)	(21)
연합자산관리	이자수익	40	115
	수수료수익	7	5
	이자비용	(1)	(1)
카디프생명	수수료수익	30	16
포항테크노파크2PPV	이자비용	(15)	(15)
인회	수수료수익	-	1
극동건설	수수료수익	15	-
	이자비용	(40)	-
	수수료비용	(4)	-
비엔피파리바카디프손해보험	수수료수익	1	-
공평오피스	이자비용	(1,274)	-
미래에셋증권기업투자조합3호	이자비용	(1)	(2)
드림하이 투자조합3호	이자비용	(6)	-
웨이리식품	기타영업수익	5	-
5) 주요경영진			
이자수익		96	40

(3) 특수관계자에 대한 급여

당기와 전기 중 특수관계자에 대한 급여 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
계 정 과 목	제183(당)기	제182(전)기
장단기종업원급여	8,413	9,034
퇴직급여	236	191
주식기준보상	3,374	2,270
합 계	12,023	11,495

(4) 특수관계자 지급보증 및 미사용한도 내역

당기말과 전기말 현재 특수관계자 간의 주요 지급보증 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
제공자	제공받은자	보증금액		보증내역
		제183(당)기	제182(전)기	
신한은행	신한금융투자	9,893	9,498	이행보증(지급보증서방식)
		181,000	181,000	미사용대출한도
	신한카드	500,000	500,000	미사용대출한도
	신한생명	50,000	50,000	미사용대출한도
	신한캐피탈	-	4,982	외화수입물품선취보증
		-	295	수입신용장발행
		60,000	60,000	미사용대출한도
	신한비엔피파리바자산업융	192,849	-	증권인수약정
	신한프라이빗에쿼티	4,248	8,214	미사용대출한도
	에스에이치씨매니지먼트	94	94	이행보증(지급보증서방식)
	코에프씨신한프런티어웍프 2010의4호 사모투자전문회사	26,834	26,965	증권인수약정
	카디프생명	10,000	10,000	미사용대출한도
	아주캐피탈	50,000	100,000	미사용대출한도
		50,000	40,000	증권인수약정
	연합자산관리	112,200	112,200	미사용대출한도
		179,900	179,900	증권인수약정
	웨이리식품	-	3,000	미사용대출한도
	신한은행중국유한공사	247,534	173,820	이행보증(지급보증서방식)
	신한베트남은행	258,767	1,688	이행보증(지급보증서방식)
		109,920	-	미사용대출한도
	SBJ은행	18,403	20,093	금융보증(지급보증서방식)

(단위: 백만원)				
제공자	제공받은자	보증금액		보증내역
		제183(당)기	제182(전)기	
	구조화기업주	665,724	1,040,247	ABCP매입약정
		6,656	7,353	미사용대출한도
합 계		2,734,022	2,529,379	

(주) 구조화기업에 대한 ABCP매입약정 보증금액은 총 ABCP매입약정금액에서 보고기간 말 현재 기 매입하여 보유 중인 ABCP잔액을 차감한 잔액입니다.

(5) 특수관계자 담보제공내역

1) 당기말과 전기말 현재 특수관계자에게 제공하고 있는 담보는 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)						
제공자	회사명	담보제공자산	제183(당)기		제182(전)기	
			장부금액	담보설정액	장부금액	담보설정액
연결대상종속기업	신한크레디트은행	유가증권	28,136	28,136	27,587	27,587
동일지배기업	신한금융투자		155,303	34,041	171,345	42,372
	신한생명		10,385	10,385	-	-
합 계			193,824	72,562	198,932	69,959

2) 당기말과 전기말 현재 특수관계자로부터 제공받고 있는 담보는 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
제공자	회사명	담보제공자산	담보설정액	
			제183(당)기	제182(전)기
연결대상종속기업	에이타스드라이브제일차(유)	담보신탁	8,400	8,400
동일지배기업	신한금융투자	예금	22,000	22,000
		부동산	91,974	91,974
	에스에이치씨매니지먼트	예금	100	100
	신한캐피탈	예금	11,200	16,032
		국공채	-	1,928
	제주은행	국공채	20,000	20,000
	신한생명	국공채	7,446	6,894
관계기업	카디프생명	국공채	12,770	2,958
합 계			173,890	170,286

41. 신탁부문 경영성과

(1) 신탁계정의 당기말과 전기말 현재 자산총계, 당기와 전기 중 영업수익은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)				
구 분	제183(당)기		제182(전)기	
	자산총계	영업수익	자산총계	영업수익
연결대상	3,882,632	149,686	3,667,084	143,885
연결비대상	27,103,450	502,429	22,674,439	581,492
합 계	30,986,082	652,115	26,341,523	725,377

(2) 당기말과 전기말 신탁부문과의 주요 채권·채무 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
신탁계정미지급금	2,306,260	2,605,055
신탁보수미수수익	17,975	17,305
미지급이자비용	526	665

(3) 당기와 전기 중 신탁부문의 주요 수익·비용 내역은 다음과 같습니다.

(단위: 백만원)		
구 분	제183(당)기	제182(전)기
신탁보수수료수익	67,239	60,388
신탁계정미지급금이자비용	50,449	57,778

2【主な資産・負債及び収支の内容】

上記「1 財務書類」に掲げる財務書類に対する注記を参照のこと。

3【その他】

訴訟手続

上記「1 財務書類」に掲げる2014年および2013年12月31日に終了した事業年度における連結財務書類に対する注記38および個別財務書類に対する注記38を参照のこと。

4【大韓民国と日本国の会計原則及び会計慣行の主な相違】

韓国の会計基準は取引の認識および測定において日本において一般に認められる会計原則と類似点を有する。しかし、一部の会計処理については両国の会計基準に差異があるので、その差異を以下に要約している。

また、韓国の会計基準が求める財務諸表の形式および内容は日本の会計基準が要求するものと差異がある。本書に含まれる財務情報は韓国の会計基準に準拠して作成されたものである。当行は韓国の会計基準が日本の会計基準と異なることによる影響を定量化していない。また、財務諸表や注記上の数値に影響を与える可能性のある日韓の会計基準における表示事項の差異については、確認をしていない。以下に記載する韓国と日本の会計基準の差異は、両国の会計基準間に存在する全ての差異を記述したものではない。

本項における「韓国IFRS」、「韓国基準」または「韓国の会計基準」とは、2011年1月1日から当行がその財務書類作成のために準拠している、韓国により採択された国際財務報告基準をいう。また「日本GAAP」、「日本基準」または「日本の会計基準」とは、日本において公正妥当と認められる会計原則をいう。

韓国IFRSと日本GAAPの主な相違

(1) 収益認識基準

(a) 韓国基準

イ. 受取利息

韓国IFRSでは実効利率法を適用して受取利息を認識する。実効利率法は金融資産や金融負債の償却原価を計算し、関連期間にわたって受取利息や支払利息を配分する方法である。金融資産や類似の金融資産の集合が減損損失で減額されると、その後の受取利息は減損損失を測定する目的で将来キャッシュ・フローを割引く際に使用した利率を使用して認識する。

ロ. 手数料収益

当行は金融役務手数料をその手数料の賦課目的と関連金融商品の会計処理基準により次のように区分して処理する。

① 金融商品の実効収益を構成する手数料

金融商品の実効利率の一部を構成する手数料の場合、一般的に実効利率に対する調整項目で処理する。しかし、金融商品が当期損益認識金融商品に該当する場合、手数料は商品の当初認識時点で収益として認識する。

② 役務の提供により稼得する手数料

役務の提供により稼得する手数料は関連役務の提供時、一般的に収益として認識する。資産管理手数料、業務受託手数料、保証役務手数料等、一定期間の役務の提供対価として賦課される手数料はその役務の提供時に収益として認識する。また、特定の貸付約定が締結される可能性が低く、その貸付約定が韓国の会計基準である企業会計基準書第1039号の適用範囲に該当しない場合は当該約定手数料は約定期間に按分して収益として認識する。

③ 重要な行為の遂行により稼得される手数料

重要な行為の遂行により稼得される手数料は重要な行為を完了した時点で収益として認識する。株式またはその他証券の売買、事業譲渡・譲受の媒介のように第三者のための取引の仲介または市場参加の対価として受け取る手数料および販売手数料は該当取引の完了時点で収益として認識する。

ハ. 当期損益認識金融商品の純損益

当期損益認識金融商品の純損益は、次の金融商品に関連する利益と損失(公正価値の変動、利息、配当、外貨換算損益を含む。)を含む。

- ① 当期損益認識金融資産と金融負債に関連する利益と損失
- ② 売買目的の金融派生商品に関連する利益と損失(リスク管理目的で保有しているが、リスク・ヘッジ会計の要件を満たせない金融派生商品を含む。)

二. 配当金

配当収益は株主として配当を受ける権利が確定される時点で認識する。配当収益は持分証券の分類により連結包括損益計算書に適正な損益項目で表示される。

(b) 日本基準

日本の会計基準では、金融資産等に対する受取利息は発生主義によって認識する。金融資産の取扱時に発生する手数料は、期間を基準として発生する手数料を除いて、取引を実施した時点で取扱手数料として計上する。ただし、債務者から契約上の利払日を相当期間経過しても利息の支払いを受けていない債権および破産更生債権等については、すでに計上されている未収利息を当期の損失として処理するとともに、それ以後の期間に係る利息を計上することはできず、現金主義によって受取利息を認識することになる。未収利息を不計上とする延滞期間は、延滞の継続により未収利息の回収可能性が損なわれたと判断される期間であり、通常、債務者の状況等に応じて6ヶ月から1年程度である。破産更生債権等とは、経営破綻または実質的に経営破綻に陥っている債務者に対する債権である。経営破綻に陥っている債務者とは、法的、形式的な経営破綻の事実が発生している債務者であり、例えば、破産、清算、会社整理、会社更生、民事再生、手形交換所における取引停止処分等の事由が生じている債務者である。実質的に経営破綻に陥っている債務者とは、法的、形式的な経営破綻の事実が発生していないものの、深刻な経営難の状態にあり、再建の見通しが無い状態にあると認められる債務者である。

(2) 貸倒引当金

(a) 韓国基準

当行は当期損益認識金融資産を除外した金融資産の減損発生に対する客観的な証拠があるかを毎報告期間終了日に評価する。当初認識後に発生した一つまたはそれ以上の事象の結果により金融資産の見積将来キャッシュ・フローが影響を受けた場合、金融資産が減損されたと判断する。しかし、将来事象の結果で予想される減損損失は認識しない。

減損発生の客観的な証拠がある場合、金融資産の区分別に次のように減損損失を測定して当期損益として認識する。

イ. 貸付債権および受取債権

償却原価で測定する貸付債権および受取債権の減損損失は当該資産の帳簿金額と当初の実効利子率で割引した見積将来キャッシュ・フロー(未だ発生していなかった将来の貸倒は除外。)の現在価値の差異で測定する。

このため、当行は個別的に重要な金融資産に対して優先的に減損発生の客観的な証拠があるかを個別的に検討する(個別評価貸倒引当金)。個別的に重要ではない金融資産の場合、個別的にまたは集合的に検討する。個別的な検討結果、減損発生の客観的な証拠がなければ、その金融資産は類似の信用リスクの特性を持っている金融資産の集合に含めて集合的に減損可否を検討する(集合評価貸倒引当金)。

ロ. 売却可能金融資産

公正価値の減少額をその他包括損益で認識する売却可能金融資産は、公正価値が取得原価に達しない金額から前の期間に既に当期損益として認識した当該金融資産の減損損失を差引いた金額をその他包括損益から当期損益に再分類する。

ハ. 満期保有目的金融資産

償却原価で測定する満期保有目的金融資産は帳簿金額と当初の実効利子率で割引した見積将来キャッシュ・フローの現在価値の差異により減損損失を測定する。満期保有目的金融資産の減損損失は帳簿価額から直接これを控除する。

(b) 日本基準

日本の会計基準では、債務者の財政状態および経営成績等に応じて、債権を一般債権(経営状態に重大な問題が生じていない債務者に対する債権)、貸倒懸念債権(経営破綻の状態には至っていないが、債務の弁済に重大な問題が生じているかまたは生じる可能性の高い債務者に対する債権)、破産更生債権等(経営破綻または実質的に経営破綻に陥っている債務者に対する債権)に分類し、一般債権については、債権全体または同種・同類の債権ごとに、債権の状況に応じて求めた過去の貸倒実績率等の合理的な基準により貸倒引当金を計上し、貸倒懸念債権については債権の状況に応じて、財務内容評価法またはキャッシュ・フロー見積法により貸倒引当金を計上し、破産更生債権等については、財務内容評価法により貸倒引当金を計上する。財務内容評価法とは、担保または保証が付されている債権について、債権額から担保の処分見込額および保証による回収見込額を減額し、その残額について債務者の財政状態および経営成績を考慮して貸倒引当金を見積もる方法である。キャッシュ・フロー見積法とは、債権の元本の回収および

利息の受け取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権について、債権の発生または取得当初における将来キャッシュ・フローと債権の帳簿価額との差額が一定率となるような割引率を算出し、債権の元本および利息について、元本の回収および利息の受け取りが見込まれるときから当期末までの期間にわたり、債権の発生または取得当初の割引率で割り引いた現在価値の総額と債権の帳簿価額との差額を貸倒引当金として見積もる方法である。

銀行等金融機関については、日本の銀行法等に基づいて早期是正措置が導入されており、債権を、①正常先債権（業況が良好であり、かつ財務内容にも特段の問題がないと認められる債務者に対する債権）、②要注意先債権（貸出条件に問題のある債務者、履行状況に問題のある債務者、業況が低調ないし不安定な債務者または財務内容に問題がある債務者など今後の管理に注意を要する債務者に対する債権）、③破綻懸念先債権（現状、経営破綻の状況にはないが、経営難の状態にあり、経営改善計画等の進捗状況が芳しくなく、今後、経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に対する債権）、④実質破綻先債権（法的、形式的な経営破綻の事実が発生していないものの、深刻な経営難の状態にあり、再建の見通しがない状況にあると認められるなど、実質的に経営破綻に陥っている債務者に対する債権）、⑤破綻先債権（法的、形式的な経営破綻の事実が発生している債務者、例えば破産、清算等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権）に分類している。①正常先債権については、貸倒実績率または倒産確率に基づき、発生が見込まれる損失率を求め、これに必要な修正を加えて貸倒引当金を計上する。②要注意先債権については、債権を適当なグループに区分し、当該区分ごとに貸倒実績率または倒産確率に基づき、発生が見込まれる損失率を求め、これに必要な修正を加えて貸倒引当金を計上する。要注意先債権のうち債権の元本の回収および利息の受け取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権（貸出条件緩和債権等）については、債権の元本の回収および利息の受け取りに係るキャッシュ・フローを当初の約定利率で割り引いた金額と債権の帳簿価額との差額について貸倒引当金を計上する。③破綻懸念先債権については、債権額から担保の処分可能見込額および保証による回収可能額を差し引いた残額に対する必要額について貸倒引当金を計上する。破綻懸念先債権のうち債権の元本の回収および利息の受け取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当該キャッシュ・フローを当初の約定利率で割り引いた金額と債権の帳簿価額との差額について貸倒引当金を計上する。④実質破綻先債権については、債権額から担保の処分可能見込額および保証による回収可能額を差し引いた残額について、貸倒償却するかまたは貸倒引当金を計上する。⑤破綻先債権については、債権額から担保の処分可能見込額および保証による回収可能額を差し引いた残額について、貸倒償却するかまたは貸倒引当金を計上する。

(3) 有価証券

(a) 韓国基準

当行は財務報告の目的上、金融商品の当初認識時点において金融商品の性格と保有目的により当期損益認識金融資産、満期保有目的金融資産、売却可能金融資産、貸付債権および受取債権で分類している。

金融資産は当初認識時点において公正価値で測定する。ただし、当期損益認識金融資産(当期損益認識金融負債)でない場合、金融資産の取得と直接関連のある取引費用は当初認識時点において公正価値に加算(差引)する。公正価値とは、合理的な判断力と取引意思がある独立当事者間の取引で資産の交換または負債の決済ができる金額と定義され、当初認識時、金融商品の公正価値は一般的に取引価格(提供または受取対価の公正価値)で評価される。金融商品は当初認識時点の分類基準により償却原価や公正価値で評価される。

イ. 当期損益認識金融資産

金融資産を短期売買の目的で保有しているか、当期損益認識金融資産に指定する場合、当期損益認識金融資産として分類される。当期損益認識金融資産は公正価値で測定し、公正価値の変動による評価損益は当期損益で認識する。金融資産から獲得した配当金と受取利息も当期損益で認識する。

ロ. 売却可能金融資産

当期損益認識金融資産、満期保有目的金融資産、貸付債権および受取債権に分類されない非派生金融資産は売却可能金融資産に分類され、当初認識は公正価値で測定される。ただし、活発な市場で提示される市場価格がなく、公正価値を信頼性をもって測定できない持分商品は原価で測定される。公正価値の変動により発生する損益は減損損失と実効利率法による受取利息および損益で直接認識される貨幣性資産に対する為替差異を除き、資本のその他包括損益項目で認識する。売却可能金融資産を処分するか、減損損失を認識する場合、その他包括損益で認識した累積損益は当該期間の当期損益で認識する。

外貨で表示された売却可能金融資産の公正価値は当該外貨で測定され、報告期間終了日現在の為替レートで換算される。公正価値の変動分のうち、償却原価の変動による換算差異から発生した部分は当期損益で認識し、その変動は資本で認識する。

ハ. 満期保有目的金融資産

満期が固定されており支払金額が確定されているか、または決定できる非派生金融資産として、当行が満期まで保有する積極的な意図と能力がある場合には満期保有目的金融資産に分類される。当初認識後は実効利率法を使用した償却原価で測定し、受取利息は実効利率法を使用して認識する。

(b) 日本基準

日本の会計基準では、有価証券は「売買目的有価証券」、「満期保有目的の債券」、「子会社株式または関連会社株式」、「その他有価証券」に区分する。

有価証券の取得価額は購入代価に手数料等の付随費用を加算して算定し、通常、移動平均法を適用して期末取得原価を算定する。

時価の変動により利益を得ることを目的として保有する「売買目的有価証券」は、時価をもって貸借対照表価額とし、評価差額は当期の損益として処理する。「満期保有目的の債券」は、原則として取得原価により評価されるが、取得価額と債券価額の差額がある場合は、差額が金利の調整であると認められる場合には償却原価法を適用する。償却原価法とは取得原価と額面価額との差額を償還日に至るまで每期一定の方法で貸借対照表価額に加減する方法である。「子会社株式または関連会社株式」は原則として取得原価で評価する。「その他有価証券」のうち市場価格のある有価証券は、時価評価して評価差額は原則として純資産の部に計上する。

「満期保有目的の債券」、「子会社株式または関連会社株式」、「その他有価証券」のうち市場価格のあるものは、時価が著しく下落したときに、回復する見込みがあると認められる場合を除いて、時価をもって貸借対照表価額とし、評価差額は当期の損失として計上する（減損処理）。

市場価格のない株式は原則として取得原価により評価されるが、発行会社の財政状態の悪化により、実質価額が著しく低下した時は、相当の減額を行い、その評価差額は当期の損失として処理する。

(4) 有形固定資産

(a) 韓国基準

韓国の会計基準によると、有形固定資産は、原価モデルまたは再評価モデルのいずれかを選択し、有形固定資産分類毎に統一的にこれを適用する。有形固定資産の耐用年数を延長させ、または資産の価値を実質的に増加させる支出は資本的支出として、原状を回復させるかまたは能率維持のための支出は費用的支出として処理する。また、有形固定資産の製作、購入、建設のために調達された借入金に対して当該資産の取得完了時までに発生した支払利息とその他これと類似の金融費用(外貨換算損益を含む。)は当該資産の取得原価に算入することができる。

土地以外の償却対象の有形固定資産は、経済耐用年数（通常は税法基準）に基づき定期的に減価償却費を計上し財務状態価額を算定していく。減価償却方法は、定額法、定率法を基本とし、特定の資産については生産高比例法が認められている。

また、資産の陳腐化、物理的な損傷および市場価値の急激な下落などの原因によって当該資産の回収可能価額が帳簿価額に達せず、その未達額が重要な場合には、これを帳簿価額より直接控除して回収可能価額に調整し、その差額は減損処理をし、当期損失として計上する。その後、減損処理をした資産の回収可能価額が回復した場合には、当該資産の減損前の価額を限度に、減損損失戻入の科目で期間利益として計上する。

(b) 日本基準

日本の会計基準によると、有形固定資産は購入対価または製造原価に取得付随費用を加算した取得原価に基づいて計上される。

ただし、事業用土地については、土地の再評価に関する法律に基づき、一定の要件を充たした会社は再評価を選択適用することが可能であった時期が存在する(2002年4月1日以降は新しく再評価することは認められていない。)。また、多くの場合、有形固定資産の耐用年数を延長させるかまたは、資産の経済的価値を実質的に高める支出は資本的支出として取り扱われるが、原状を回復させるかまたは正常な機能維持のための支出は修繕費として処理される。なお、有形固定資産の取得のために調達された借入金の支払利息は、一部の例外を除き、当該資産の取得原価に含められない。

土地以外の償却対象の有形固定資産は、経済耐用年数（税法基準が用いられる場合も少なくない）に基づき定期的に減価償却費を計上し、貸借対照表価額を算定していく。減価償却方法は、定額法、定率法を基本とし、特定の資産について生産高比例法が認められている。なお、災害・事故等により、固定資産の実体の全部または一部を滅失した場合には、臨時損失として当該部分の簿価を切り下げることになる。

固定資産は、「固定資産の減損に係る会計基準」にしたがって、その収益性の低下により投資額の回収が見込めなくなった場合に、一定の条件のもとで回収可能性を反映させるように帳簿価額が減額される。

(5) 無形固定資産（開発費）

(a) 韓国基準

韓国の会計基準によると、研究開発費のうち、研究段階から発生した支出は発生期間に研究費の科目を使用し、販売費および管理費として費用処理する。開発段階で発生した支出は次の要件を充たす場合、開発費の科目で資産処理し、それ以外の開発費は研究開発費として費用処理する。

- イ. 無形資産を使用または販売するためその資産を完成させる技術的実現可能性を提示することができる。
 - ロ. 無形資産を完成しそれを使用するかまたは販売しようとする企業の意図がある。
 - ハ. 完成した無形資産を使用するかまたは販売できる企業の能力を提示することができる。
 - ニ. 無形資産がどのように将来に経済的便益を創出するかを疎明することができる。例えば、無形資産の産出物、その無形資産に対する市場の存在または無形資産を内部的に使用するものであればその有用性を示さなければならない。
 - ホ. 無形資産の開発を完了し、それを販売または使用するのに必要な技術的、金銭的資源を十分確保しているとの事実を示すことができる。
 - ヘ. 開発段階で発生した無形資産関連支出を信頼性をもって区分して測定することができる。
- ソフトウェアの制作にかかった費用もこの資産計上要件を充たす場合、開発費として資産計上する。

(b) 日本基準

日本の会計基準では、ソフトウェア制作費に占める研究開発費も含めて、研究開発費はすべて発生時に費用として処理しなければならない。処理方法には一般管理費として処理する方法と当期製造費用として処理する方法がある。

ソフトウェアの制作にかかった研究開発費は、市場販売目的のソフトウェアの場合は、最初に製品化された製品マスターの完成までの費用および製品マスターまたは購入したソフトウェアに対する著しい改良に要した費用は研究開発費とし、すべて発生時に費用処理する。これに対して最初に製品化された製品マスターの完成後の費用は、研究開発費およびその他の要費用化部分を除き、資産計上する。自社利用ソフトウェアの場合は、研究開発活動に該当する部分は研究開発費とする。研究開発部分に該当しない部分で、将来の収益獲得または費用削減が不確実な場合これを発生時の費用とする。完成品を購入した場合のように、将来の収益獲得または費用削減が確実な場合においては、資産として計上する。

(6) 金融派生商品

(a) 韓国基準

当行は売買目的または金利リスクおよび為替相場リスク等を管理するため、通貨先渡、利率スワップ、通貨スワップ等、各種の金融派生商品契約を締結する。金融派生商品は当初認識時、契約日の公正価値で測定し、その後は毎報告期間終了日の公正価値で測定される。リスク・ヘッジ手段に指定されてリスク・ヘッジに有効な金融派生商品を除いた全ての金融派生商品は売買目的金融商品に分類して公正価値で測定し、公正価値の変動による評価損益は当期損益で認識される。リスク・ヘッジ手段に指定され、キャッシュ・フロー・リスクに係るヘッジ会計の適用要件を満たす金融派生商品の公正価値変動分のうち、リスク・ヘッジに有効な部分は資本で処理し、リスク・ヘッジに非有効な部分は当期損益で認識される。

(b) 日本基準

日本の会計基準では、デリバティブ（金融派生商品）取引により生じる正味の債権および債務は、原則として時価をもって貸借対照表価額とし、評価差額は、ヘッジに係るものを除いて、当期の損益として処理される。デリバティブ取引がヘッジ会計の適用要件を充たす場合には、原則として、ヘッジ手段に係る損益または評価差額をヘッジ対象に係る損益が認識されるまで純資産の部において繰り延べるヘッジ会計が適用される。

(7) 退職給付引当金

(a) 韓国基準

報告期間終了日現在、確定給付制度に関連する退職給付負債は確定給付債務の現在価値から社外積立資産の公正価値を差し引いて認識される。確定給付債務の現在価値は確定給付制度で支払われる将来キャッシュ・フローに関連年金負債の満期と類似の満期を有する、退職金が支払われる通貨で表示された優良金融債の利率を使用して見積将来キャッシュ・フローを割引いて決定される。

確定給付債務の現在価値から社外積立資産の公正価値を差し引いて算出された純額が資産である場合、これは未認識過去勤務費用累計額として制度から還付されるか制度に対する将来拠出金が節減される方式で利用可能な経済的便益の現在価値を加算した金額を限度として資産で認識している。

(b) 日本基準

日本の多くの企業は、退職一時金や退職年金といった退職給付制度を採用している。日本の会計基準における退職給付債務は、退職以後に従業員に支給されると見込まれる退職給付総額のうち、期末までに発生していると認められる額を期末時点の現在価値に割引いた額として計算される。退職給付引当金はこの退職給付債務に未認識過去勤務債務および未認識数理計算上の差異を調整し、その金額から年金資産を控除した額として計上されている。

なお、原則として従業員300人未満の企業では、退職給付債務について高い信頼性での数理計算が困難な場合や退職給付の重要性が乏しい場合があるため、貸借対照表日時点で全従業員が一度に退職する場合に支払うべき退職金(期末自己都合要支給額)を退職給付債務とする方法等の退職給付債務計算の簡便法が認められている。

また、役員の退職慰労金については、貸借対照表日時点で全役員が一度に退任した場合に支払うべき退職慰労金(ただし、支払いには株主総会の承認が必要)を原則として引当金に計上する。

平成24年5月17日に公表された「退職給付に関する会計基準」の改正により、現基準上オフバランスとされている未認識数理計算上の差異および未認識過去勤務費用が税効果を調整の上で貸借対照表の純資産の部(その他の包括利益累計額)で認識されることとなり、積立状況を示す額がそのまま負債(退職給付に係る負債)または資産(退職給付に係る資産)として計上されることになる(適用時期:平成25年4月1日以後開始する事業年度の年度末に係る連結財務諸表から適用)。また同改正は、退職給付債務および勤務費用の計算方法の見直し(適用時期:平成26年4月1日以後開始する事業年度の期首から適用)等についてもその内容としている。

(8) 繰延税金

(a) 韓国基準

韓国の会計基準によると、法人税計算における税務調整等で発生する一時差異に対する税効果を、繰延税金資産または繰延税金負債の科目で計上する。また、資本に直接調整される会計処理によって発生する一時差異の法人税効果は資本に直接加減する。

(b) 日本基準

日本の会計基準では、貸借対照表に計上されている資産および負債の金額と課税所得計算上の資産および負債の差額を一時差異(資産の評価替えによる評価差額が直接純資産に計上され、かつ課税所得の計算に含まれていない場合を含む)として認識し、繰越欠損金等も含めた一時差異等に係る税金の額を、回収または支払いが見込まれない部分を除いて、繰延税金資産または繰延税金負債として貸借対照表に計上する。

繰延税金資産と繰延税金負債の差額を期首と期末で比較した増減額は、法人税計算で算定された当期に納付すべき法人税等の調整額として損益計算書に計上する。資産の評価替えにより生じた評価差額が直接純資産の部に計上される場合は、その評価差額に係る繰延税金資産または繰延税金負債の金額を当該評価差額から控除して計算する。

(9) 外貨資産および負債の換算

(a) 韓国基準

韓国の会計基準によると、報告期間終了日現在の為替レートによって貨幣性外貨資産と負債を換算しており、これによる外貨換算損益は期間損益として処理する。

(b) 日本基準

日本の会計基準では、外貨建金銭債権債務については、原則として決算時の為替相場により換算し、換算差額は当期の損益として処理する。為替予約等のデリバティブ取引については、原則として時価評価である。なお、ヘッジ会計の要件を充たしている場合には、当分の間、振当処理も認められる。

(10) リース会計

(a) 韓国基準

韓国の会計基準によると、ファイナンス・リースはリース資産の所有におけるリスクと便益が実質的にリース利用者(借手)に移転するとみられるリース取引をいう。以下の条件のうちのいずれか一つに該当すれば、一般的にファイナンス・リースに分類される。

イ. リース期間の終了時またはそれ以前にリース資産の所有権がリース利用者に移転される場合

- ロ. リース実行日現在、リース利用者が割安購入選択権（リース物件を有利な価格で買い取れる権利）を持っており、これを行使することが確実視される場合
 - ハ. リース資産の所有権が移転されない場合も、リース期間がリース資産耐用年数の相当部分を占める場合
 - ニ. リース実行日現在、最少リース料を内部利益率で割引いた現在価値がリース資産公正価値の大部分を占める場合
 - ホ. リース利用者のみが重要な変更なしに使用できる特殊な用途のリース資産である場合
- ファイナンス・リース以外のリース取引はオペレーティング・リースに分類する。

(b) 日本基準

日本の会計基準では、ファイナンス・リース取引をリース契約に基づき、リース期間の中途において当該契約を解除できないリース取引で、借手がリース物件から経済的利益を実質的に享受することができ、かつ、当該リース物件の使用に伴って生じるコストを実質的に負担することとなるリース取引として定めており、これには所有権移転ファイナンス・リース取引と所有権移転外ファイナンス・リース取引がある。平成19年3月30日に「リース取引に関する会計基準」が改正され、従来、所有権移転外ファイナンス・リース取引に認められていた通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理は廃止され、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理（オンバランス取引）に一本化されている。

第7【外国為替相場の推移】

財務書類の表示に用いられた韓国ウォンと日本円との間の為替相場は、日本国内において時事に関する事項を掲載する2以上の日刊新聞紙に最近5年間の事業年度および最近6箇月間において掲載されているため、記載を省略する。

第8【本邦における提出会社の株式事務等の概要】

該当事項なし。

第9【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

該当事項なし

2【その他の参考情報】

最近事業年度の開始日から本書提出日までの間において、当行は下記の書類を提出している。

有価証券報告書および添付書類	平成26年6月27日関東財務局長に提出
訂正発行登録書（募集）	平成26年6月27日関東財務局長に提出
訂正発行登録書（売出し）	平成26年6月27日関東財務局長に提出
半期報告書および添付書類	平成26年9月30日関東財務局長に提出
訂正発行登録書（募集）	平成26年9月30日関東財務局長に提出
訂正発行登録書（売出し）	平成26年9月30日関東財務局長に提出
有価証券報告書の訂正報告書	平成26年11月5日関東財務局長に提出
半期報告書の訂正報告書	平成26年11月5日関東財務局長に提出
訂正発行登録書（募集）	平成26年11月5日関東財務局長に提出
訂正発行登録書（売出し）	平成26年11月5日関東財務局長に提出
発行登録追補書類および添付書類	平成26年11月6日関東財務局長に提出
臨時報告書	平成27年4月15日関東財務局長に提出
訂正発行登録書（募集）	平成27年4月15日関東財務局長に提出
訂正発行登録書（売出し）	平成27年4月15日関東財務局長に提出

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

第1【保証会社情報】

該当事項なし

第2【保証会社以外の会社の情報】

該当事項なし

第3【指数等の情報】

該当事項なし

独立した監査人の監査報告書

韓国語で発行された原本の翻訳文

株式会社新韓銀行及びその従属企業

2015年3月9日

株主及び取締役会 御中

私達は、株式会社新韓銀行及びその従属企業の連結財務諸表の監査を行った。同連結財務諸表は2014年12月31日及び2013年12月31日現在の連結財務状態表並びに同日をもって終了する両報告期間の連結包括損益計算書、連結資本変動表及び連結キャッシュ・フロー計算書、そして重要な会計方針に対する要約及びその他の説明情報で構成されている。

連結財務諸表に対する経営陣の責任

経営陣は韓国採択国際会計基準に従って同連結財務諸表を作成し、公正に表示する責任がある。また、不正または誤謬による重要な虚偽記載がない連結財務諸表を作成するために必要であると決定した内部統制に対しても責任がある。

監査人の責任

私達の責任は同連結財務諸表に対して監査を実施し、これに基づき同連結財務諸表について意見を表明することである。私達は韓国会計監査基準に従い監査を実施した。この基準は、私達が倫理的な要求事項を遵守し、連結財務諸表上の重要な虚偽記載の有無について合理的な保証を得るために監査を計画し、実施することを要求している。

監査は、連結財務諸表上の金額と開示に対する監査証拠を入手するための手続の遂行を含んでいる。手続の選択は、不正または誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽記載リスクに対する評価等、監査人の判断により異なる。監査人はこのようなリスクを評価する時に状況に適合した監査手続を設計するため、企業の連結財務諸表の作成及び公正な表示に関連する内部統制を考慮する。しかし、これは内部統制の有効性に対する意見を表明するためのものではない。また、監査は連結財務諸表の全般的な表示内容について評価することに加え、連結財務諸表作成のために経営陣が適用した会計方針の適合性及び経営陣が導出した会計見積値の合理性に対する評価を含んでいる。

継続：

私達が入手した監査証拠は、監査意見のための根拠として十分かつ適切であると私達は信じている。

監査意見

私達の意見では、会社の連結財務諸表は株式会社新韓銀行及びその従属企業の2014年12月31日及び2013年12月31日現在の財政状態、並びに同日をもって終了する両報告期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を韓国採択国際会計基準に従って、重要性の観点から公正に表示しているものと認める。

その他事項

私達は株式会社新韓銀行の2013年12月31日をもって終了する会計年度の連結財務諸表に対し、従来の会計監査基準に従って監査を行った。

ソウル特別市江南区テヘラン路152（駅三洞、江南ファイナンスセンター10階）

三⁶₇8 会計法人 代表理事 金教台

この監査報告書は監査報告書日（2015年3月9日）現在において有効なものです。従って、監査報告書日からこの報告書を閲覧する時点までの期間に、会社の連結財務諸表に重大な影響を及ぼす事象や状況が発生する可能性があり、それによりこの監査報告書が修正される場合もあります。

独立した監査人の監査報告書

韓国語で発行された原本の翻訳文

株式会社新韓銀行

2015年3月9日

株主及び取締役会 御中

私達は、株式会社新韓銀行の財務諸表の監査を行った。同財務諸表は2014年12月31日及び2013年12月31日現在の財務状態表並びに同日をもって終了する両報告期間の包括損益計算書、資本変動表及びキャッシュ・フロー計算書、そして重要な会計方針に対する要約及びその他の説明情報で構成されている。

財務諸表に対する経営陣の責任

経営陣は韓国採択国際会計基準に従って同財務諸表を作成し、公正に表示する責任がある。また、不正または誤謬による重要な虚偽記載がない財務諸表を作成するために必要であると決定した内部統制に対しても責任がある。

監査人の責任

私達の責任は同財務諸表に対して監査を実施し、これに基づき同財務諸表について意見を表明することである。私達は韓国会計監査基準に従い監査を実施した。この基準は、私達が倫理的な要求事項を遵守し、財務諸表上の重要な虚偽記載の有無について合理的な保証を得るために監査を計画し、実施することを要求している。

監査は、財務諸表上の金額と開示に対する監査証拠を入手するための手続の遂行を含んでいる。手続の選択は、不正または誤謬による財務諸表の重要な虚偽記載リスクに対する評価等、監査人の判断により異なる。監査人はこのようなリスクを評価する時に状況に適合した監査手続を設計するため、企業の財務諸表の作成及び公正な表示に関連する内部統制を考慮する。しかし、これは内部統制の有効性に対する意見を表明するためのものではない。また、監査は財務諸表の全般的な表示内容について評価することに加え、財務諸表作成のために経営陣が適用した会計方針の適合性及び経営陣が導出した会計見積値の合理性に対する評価を含んでいる。

継続：

私達が入手した監査証拠は、監査意見のための根拠として十分かつ適切であると私達は信じている。

監査意見

私達の意見では、会社の財務諸表は株式会社新韓銀行の2014年12月31日及び2013年12月31日現在の財政状態、並びに同日をもって終了する両報告期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を韓国採択国際会計基準に従って、重要性の観点から公正に表示しているものと認める。

その他事項

私達は株式会社新韓銀行の2013年12月31日をもって終了する会計年度の財務諸表に対し、従来の会計監査基準に従って監査を行った。

ソウル特別市江南区テヘラン路152（駅三洞、江南ファイナンスセンター10階）

三⁶⁶₇₈会計法人 代表理事 金教台

この監査報告書は監査報告書日（2015年3月9日）現在において有効なものです。従って、監査報告書日からこの報告書を閲覧する時点までの期間に、会社の財務諸表に重大な影響を及ぼす事象や状況が発生する可能性があり、それによりこの監査報告書が修正される場合もあります。